

学勢調査2014

Student Survey 2014



2015年3月
学勢調査スタッフ一同

学勢調査 2014 提言書

東京工業大学
学勢調査 2014 スタッフ一同



ご挨拶



初夏の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。2005年に設立された学勢調査は、本学独自の全学対象アンケートであります。今回の学勢調査2014は5回目の本格実施ですが、学勢調査が設立されてから、着実に本学は進化してきました。学内セブンイレブン、東工大メールニュース、電子掲示板等の設備設置や、教務WEBシステム、生協ハラルメニュー等のサービスの質の向上も、これまでの学勢調査が大切な役割を果たしました。

学勢調査は、アンケートにより学生の実態・意見を知り、学生・大学の状況と価値観を照らし合わせた上で、大学をよりよくするための解決策を提言としてまとめ、大学へ伝える重要な役割を果たしております。今回の学勢調査では、来年度から始動される教育改革を視野に入れ、本学と学生を繋ぎ、より理想的な教育環境を実現することに焦点を当てました。そこで、先生方のみならず、学生の視野からも提案されることで、教育改革による本学の教育は、より理想像へ近づくと考えました。そのため、学勢調査2014の結果を踏まえ、教育改革の内容を必死に検討し、私たちの全精力を以って提言書を作成致しました。本提言書作成の最中、私たちは幾度も議論を重ね、何度も徹夜続きで作業を行ないました。私たちの今までの行動が、本学をより良くしたいという純粋で熱い思いに基づいていたことを、私は確信しております。本学が世界トップ10のResearch Universityへなっていくために、私たちの努力の証である本提言書が後に必ず活かされると、私たちは信じております。

これらの諸活動は、本学をよりよくするためだけでなく、私たち学生スタッフ自身の成長にも繋がりました。学内の様々な実態を知った上で、問題点を挙げ、仮説を立てて解決策を練ることは、問題解決能力向上、社会問題に対する興味を増幅につながったと確信しております。日頃学校で学べない貴重な経験を、この学勢調査を通して得られたこと、およびこの提言書が本学の発展へ寄与できたことを、誠に嬉しく思います。

最後に、今回の学勢調査2014提言書を作成するにあたって、ご協力して頂いた教職員の皆様、そしてご回答くださった本学学生の皆様に、学勢調査の学生スタッフを代表して、心より深く感謝申し上げます。

学勢調査2014 学生スタッフ
代表 望月 泰英

班長の一言

提言書作成に際して、班を取りまとめ、活躍してくれた各班の班長の一言です。



学習班長 シン ドンチョル

工学部 機械知能システム学科 学部2年

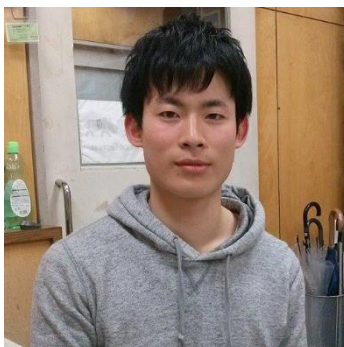
学勢調査 2014 の数多い学生の意見を最大限効率的に伝えるため、全スタッフとともに全身全霊を捧げて提言書作成を致しました。また、全過程を経ながら、本学の良いところが沢山見られ、愛校心が脈打つようになりました。



サービス班長 飯塚 謙太

工学部 電気電子工学科 学部3年

学勢調査 2014 の学生スタッフとなって、サービス班の班長として活動することにより、東京工業大学について改めて知ることができてよかったです。本提言書を通して、今後も継続して大学が良くなれば嬉しい限りです。



施設班長 栗林 純平

工学部 高分子工学科 学部2年

「大変な仕事を負ってしまった。」そう感じたのは、提言書作成が始まってまもなくのことでした。膨大な数の意見をまとめ上げ、現状を調査し、提言につなげる。この作業は僕だけでなく班員の多くが初めてのことでした。それでも、経験者の方々や先生方に支えてもらいながら、なんとか提言書を完成させることができました。本当にありがとうございました。後は提言が実現することを期待するばかりです。この提言書が必ずや未来の東工大への布石となると信じています。



データ班長 植田 聖司

工学部 情報工学科 学部4年

今回の学勢調査ではアンケート結果をこれまでの学勢調査よりも分かりやすく提示することを第一に考え作成を行いました。データの見せ方をどうするのかといった議論を何度も重ね時間をかけてしまいましたが、提言書を何とかまとめることができました。スタッフの皆さんの努力に感謝したいと思います。

目次

1	学勢調査概要	
1.1	学勢調査目的および沿革	9
1.2	調査母体	10
1.3	調査項目の検討	10
1.4	調査時期・調査対象・調査事項	11
1.5	調査方法・分析方法	11
1.6	全体会議の記録	11
1.7	教職員の方の意見の取り入れ	12
1.8	公表および報告	12
2	全体提言	
2.1	提言概要・提言要約	13
2.2	現状分析－教育改革に向けた学生の傾向分析	15
2.3	現状分析－傾向分析結果に基づく教育改革の内容検討	21
2.4	現状分析－学生の意識改革と帰属意識について	26
2.5	具体的提言	32
3	学習関連	
3.1	カリキュラム	38
3.2	授業	45
3.3	国際教育	51
3.4	単位・成績	57
3.5	研究室・大学院	59
4	サービス関連	
4.1	事務	65
4.2	WEBシステム	72
4.3	防災	83
4.4	ハラスメント	93
4.5	その他サービス	99

5	施設関連	
5.1	施設一般	100
5.2	図書館	121
5.3	生協	132
6	調査結果分析	
6.1	生活基盤	140
6.2	学習状況	150
6.3	キャンパスライフ	162
7	調査資料集	
7.1	基本情報	165
7.2	生活基盤	171
7.3	学習状況	182
7.4	キャンパスライフ	197
7.5	設問一覧	211
7.6	設問一覧(英文)	223
8	自由記述一覧	
8.1	学習関連項目	235
8.2	サービス関連項目	241
8.3	施設関連項目	243

謝辞

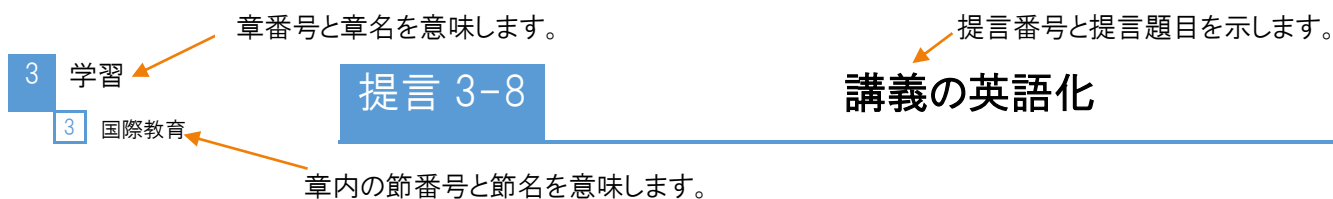
学勢調査 2014 スタッフ

本提言書の見方

本提言書は、全 8 章で構成されています。

- **第 1 章**
学勢調査についての概要説明です。
- **第 2 章**
学勢調査 2014 の回答の傾向から、大学をよりよくするためには、どのようにすると良いかを、学生スタッフで議論した結果、導き出された全学的に重要な提言です。
- **第 3 章～5 章**
調査の結果を分析した学生スタッフによる、項目別の提言です。学習関連、サービス関連、施設関連の 3 項目にわかれています。
- **第 6 章**
学勢調査によって得られた様々なデータを、解析した結果です。
- **第 7 章**
学勢調査によって得られたデータを、まとめた結果です。
- **第 8 章**
学勢調査の自由記述項目にて得られた、学生の生の声を集計した結果です。同意見数が 3 件以上の学生の声を集約させました。

下の図式は、第3章～5章で用いたテンプレートの説明です。



学生の意見

学勢調査のアンケート項目の中で、自由記述項目にて得られた学生の声を、そのまま載せました。同意見数が多い意見、少数意見でも大切な意見に着目し、その意見に関して全体の傾向を現状分析にて行いました。

現状分析

学勢調査のアンケート結果、大学のウェブサイト、本学実施の海外大学現状報告書、本学の様々な部署から頂いた情報等、信憑性のある情報を用いて、学校全体の傾向を分析しました。

以前の調査との比較

今回のアンケート結果について、前回の学勢調査結果と比較するため、比較可能な2012年度以前の学勢調査のアンケート結果を載せました。

提言

現状分析をもとに、学生・大学の双方の状況・価値観を照らし合わせた上で、大学をよりよくするための解決策について学生スタッフ同士で議論し、提言としてまとめました。

1. 学勢調査概要

1.1. 調査目的及び改革

学勢調査は、本学における教育改善や施設設備・整備、学内サービス向上と言った大学の事業に学生の声を取り入れ、本学をより魅力のある大学とすることを目的とした全学対象アンケート調査です。学勢調査は本学独自の取り組みであり、国勢調査になぞらえて、「学勢調査」と名付けられました。学勢調査は、2004年の試行を経て、2005年より本格実施となり、学生が分析と提言を行なうシステムとなりました。今回の学勢調査2014は、このシステムが確立してから5回目となり、過去4回の調査では、いずれも学生の意見を大学側に伝える重要な役割を果たしてきました。

図1.1.1は、初回の学勢調査から本学勢調査までの回答者数とその所属課程を示しています。今回行われた学勢調査（以下、「本学勢調査」と記述します）の回答者数は1793名でした。2010年度の2343名が最多数であり、2012年度以降、回答者数が減少傾向にあります。2012年度と比較しますと、回答者数における学部学生の割合が減少しています。回答者数減少の理由として、広報活動が足りないこと、これまでの学勢調査の提言に基づく大学の対応により、学生の不満が減少したことなど、様々な理由が考えられます

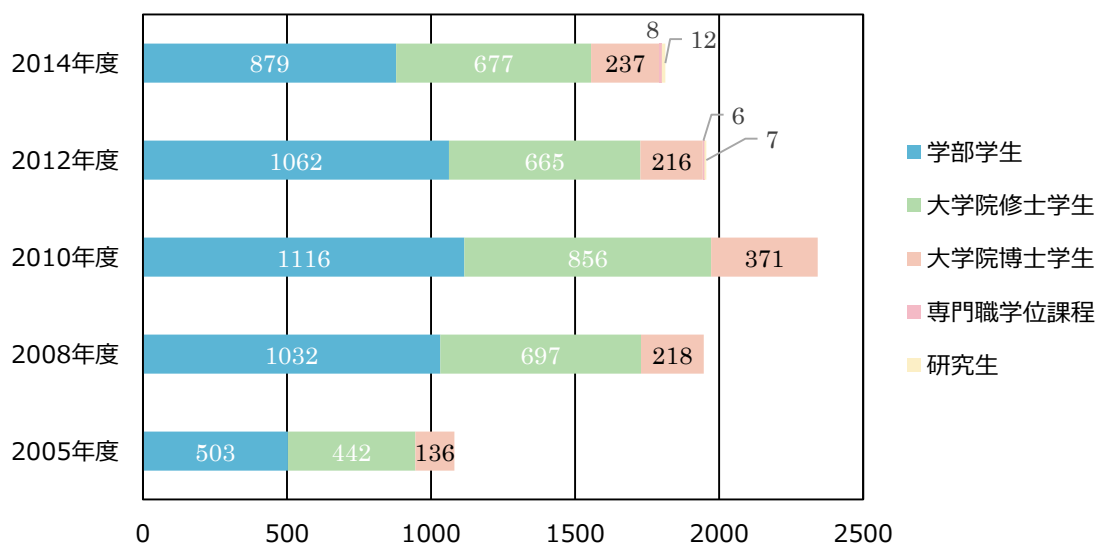


図 1. 1. 1 学勢調査回答者数の推移

一般的な学生生活調査は、主に大学の教職員によって、学生の生活や意見を調査・報告の後、大学事業へ反映されません。この方法では、大学側が学生の意見や動向を正確に把握しないまま、新規のサービスや施設を導入する可能性があるため、大学側の提供するサービスが学生の要望と異なる場合があります。一方、本学の学勢調査では、調査内容設計・調査実施から、具体的な改善案の作成まで学生スタッフが行ないます。一般的な学生生活調査に比べ、学生の視点が入ることにより、調査結果と改善案の関係性が高まり、より正確に大学側が学生の要望に応じたサービスを提供することができます。これまでの具体的な実績として、講義室改修・電子掲示板設置・リフレッシュルーム拡充・学内コンビニエンスストア出店・教務WEBシステム設置等が挙げられます。また、教職員の意識改革も進みつつあり、教職員と学生のすれ違いや不満足を解消する役割を果たしています。

1. 学勢調査概要

図 1.1.2 は、大学・学生・学勢調査の役割関係を示しています。黒色の矢印は、本学と学生とのコミュニケーションの機会は少なく、双方のすれ違いや不満足が起こる実態を示唆します。赤色の矢印は、学勢調査スタッフが調査内容設計・調査実施をすることにより、本学学生の実態・価値観がわかることを示唆します。青色の矢印は、教務課や学生支援課等の様々な部署とミーティング(Campus MTG)をすることにより、本学の実態・価値観がわかることを示唆します。すなわち、本学と学生、双方の実態・価値観を照らし合わせることで、相互理解を促進する場として、学勢調査が機能していることを図で表しています。

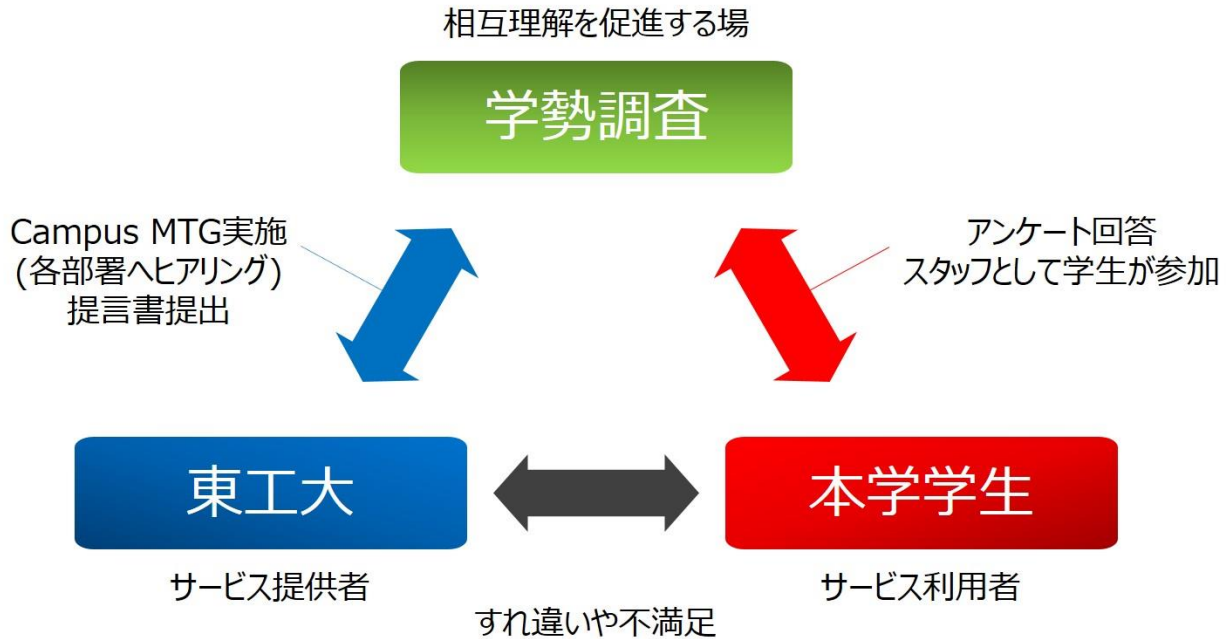


図 1.1.2 大学・学生・学勢調査の役割関係

1.2. 調査母体

学生支援センター自律支援部門に置かれている学勢調査 WG(主査:機械物理工学専攻岩附信行教授)が、学生スタッフの募集をしてアンケート調査を実施致しました。

1.3. 調査項目の検討

前回の学勢調査 2012 スタッフに新たなスタッフを募集し、計 6 回にわたって、調査項目の検討と、新項目の選定および、不必要項目の削除を行ないました。その際には、学内関係部署より新たに追加して欲しい調査項目案を提示していただきました。学勢調査 2014 設問検討会議の記録は以下の通りです。

第 01 回 2014 年 05 月 14 日(水) 学勢調査オリエンテーション

第 02 回 2014 年 05 月 21 日(水) 顔合わせ・方針の確認・役職決め

第 03 回 2014 年 05 月 28 日(水) 項目検討Ⅰ 基本情報 & Ⅱ 生活基盤について

第 04 回 2014 年 06 月 04 日(水) 項目検討ⅠⅢ 大学・学科・専攻 & Ⅳ 学習について

第 05 回 2014 年 06 月 11 日(水) 項目修正検討Ⅰ キャンパスライフ・防災・アルバイト

第 06 回 2014 年 06 月 18 日(水) 学内関係部署からの項目案検討

第 07 回 2014 年 06 月 25 日(水) 新規項目検討・調査実施概要決定

1.4. 調査時期・調査対象・調査事項

本学勢調査は、2014 年 10 月 01 日～同年 10 月 31 日に実施されました。本学勢調査では学勢調査 2012 同様、本学に在籍している学部・修士・博士学生と専門職大学院生、研究生を対象としました。

調査事項については、「7. 調査資料集」に掲載しましたので、そちらをご参照ください。また、本学勢調査でも、本学学生の「生の声」をより広く取り入れるために、自由記述欄を多く設定してあります。本学学生の実態である「生の声」を、本学へ伝えるために、同意見数 3 件以上の自由記述意見が、「8. 自由記述一覧」にまとめてあります。

1.5. 調査方法・分析方法

本学勢調査は、外部業者に委託して、東工大ポータル内に学勢調査専用のページを設置し、実施されました。本学学生のみが回答できるものの、個人は特定できないようにアンケートを集計するシステムに仕上げました。

アンケートによる調査データは、項目ごとに分類し、アンケート調査実施と同時に募集した学生スタッフがデータ分析・問題点発見・現状分析・解決策議論を行ないました。学生スタッフの各班とその担当範囲は以下の通りです。

- 代表 …… 全体の進捗状況管理・方針決定・部署連絡
- 学習班 …… 本学学生の学習状況・生活について
- サービス班 …… 本学の各種サービス(事務・WEB システム・防災・ハラスメント相談)について
- 施設班 …… 本学の各施設・図書館・生協について
- データ班 …… 調査結果整理・解析、提言書仕上げ

1.6. 全体会議の記録

学勢調査 2014 設問検討スタッフに加え、新たなスタッフを募集し、計 11 回にわたって、提言書作成に関して方針決定、議論等を行ないました。学勢調査 2014 提言書作成会議の記録は以下の通りです。さらに、ここに示す全体会議以外にも、必要に応じて各班で集まり、議論を重ねました。

第 01 回 2014 年 11 月 11 日(火) 学勢調査ガイダンス・班員決定

第 02 回 2014 年 11 月 18 日(火) データ解析ソフトの説明・ワークショップ

第 03 回 2014 年 12 月 03 日(水) 学勢調査 2014 新体制紹介・自由記述項目の内容発表

第 04 回 2014 年 12 月 17 日(水) Campus MTG 部署決め・提言完成までの流れ説明

第 05 回 2014 年 12 月 25 日(木) 自由記述の班別仕分け・仕事内容説明

第 06 回 2015 年 01 月 07 日(水) Campus MTG の予定調整・スケジュール変更内容説明

第 07 回 2015 年 01 月 20 日(火) Campus MTG 中間報告・提言書の書き方説明

1. 学勢調査概要

第 08 回 2015 年 02 月 06 日(金) 各班の現状と問題点報告・これからの予定確認

第 09 回 2015 年 04 月 08 日(水) 各班の提言について議論

第 10 回 2015 年 04 月 27 日(月) 全体提言について議論

第 11 回 2015 年 05 月 12 日(火) 提言書最終確認

1.7. 教職員の方の意見の取り入れ

提言案を作成するにあたって、キャンパスミーティングを実施した後、教職員の方々に提言草案を確認いただき、ご意見をいただきました。キャンパスミーティングとは、調査結果ならびにそれも基づいて作成された提言案について、本学の各部署へ質問書を提出したうえで、学勢調査スタッフと教職員の方々との意見交換を行うものです。キャンパスミーティングを行なうことにより、本学と学生との間の情報不足による誤解を避け、双方の実態・価値観を照らし合わせることにより、相互理解を促進させ、より現実的で実効性のある提言案を作成することができます。今回、ご協力いただいた部署ならびに教職員の方は以下の通りです。お忙しい中、キャンパスミーティングにご協力いただきまして誠にありがとうございました。

— 三島良直 学長	…… 教育改革ならびに学生の意識について
— 水本哲弥 教育運営担当副学長	…… 教育改革について
— 外国語研究教育センター	…… 英語教育のレベルとクラスについて
— 学務部 学生支援課	…… 本学学生生活全般について
— 学務部 教務課	…… 本学教育とそのサービスについて
— 学務部 教育改革事務室	…… 現状分析のための教育改革の内容について
— 研究推進部 情報図書館課	…… 図書館について
— 研究推進部 情報基盤課	…… WEB システムについて
— 国際部 留学生交流課	…… 本学学生の留学事情について
— 財務部 主計課	…… 本学の人件費について
— すずかけ台地区事務部 学部課	…… すずかけ台の食事情、施設環境について
— 総務部 広報・社会連携課	…… 本学の公式ホームページについて
— 総務部 人事課	…… 本学の人事選考・TA 報酬について
— 総務部 総務課	…… 銀杏の清掃について
— 東京工業大学生協本部	…… 生協の飲食サービス・飲食施設・売店について

1.8. 公表および報告

本提言書は、本学学長に提出後、インターネットの専用サイトおよび冊子、CD-ROM 形式において公表されます。

※学勢調査専用サイト:<http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/>

2. 全学を通して重要な提言

2.1. 提言概要・提言要約

2016年4月から始まる教育改革に向け、本学は大きく変わりつつあります。教育改革についての検討は2012年10月の三島学長就任直後から始まりました。その議論は、三島学長を中心とした大学改革推進本部を母体に行われており、学生の目線からも考えられている事が多く見受けられました。しかし、理想の教育へより近づかせるためには、学生の状況・価値観を照らし合わせることは必要不可欠ではないでしょうか。学生も本学を構成する重要な一員であり、本学勢調査にて得られたデータをもとに、教育改革について考える必要性があると考えられます。そこで本章では、教育改革および学生の本学への帰属意識について提言します。

本提言書の作成過程を簡略にまとめると、以下の図2.1.1のようになります。学勢調査の調査項目は、選択式質問と自由記述式質問の2種類があります。選択式質問結果から、学生の実態がわかり、自由記述式質問結果から、学生の意見がわかります。その学生の意見をまとめ、問題点を提起した上で仮説を作成します。その仮説を論理基盤として、調査結果を加味して、提起された問題点に対する解決策(理想像)を提案します。その解決策が真に問題解決可能かどうか、様々な情報を収集しつつ学勢調査スタッフ同士や、東工大の部署との打ち合わせ(キャンパスミーティング)をして議論したのち、提言の再検討を経て提言が完成されます。

第2章の全体提言の作成過程は、第3章～第5章の提言とは少々異なり、問題点提起よりも、キャンパスミーティングが先でした。教育改革を視野に入れ、本学と学生を繋ぎ、より理想的な教育環境を実現するため、三島学長や水本副学長(教育運営担当)とキャンパスミーティングを実施した際、教育改革の内容を伺いました。「2.2 現状分析—教育改革に向けた学生の傾向分析」「2.3 現状分析—傾向分析結果に基づく教育改革の内容検討」にて、本学勢調査の結果から、仮説を立てて、教育改革の内容検討をします。「2.4 現状分析—学生の意識改革と帰属意識」「2.5 具体的提言」で、より理想的な教育環境にするためには、どうすべきかをまとめました。

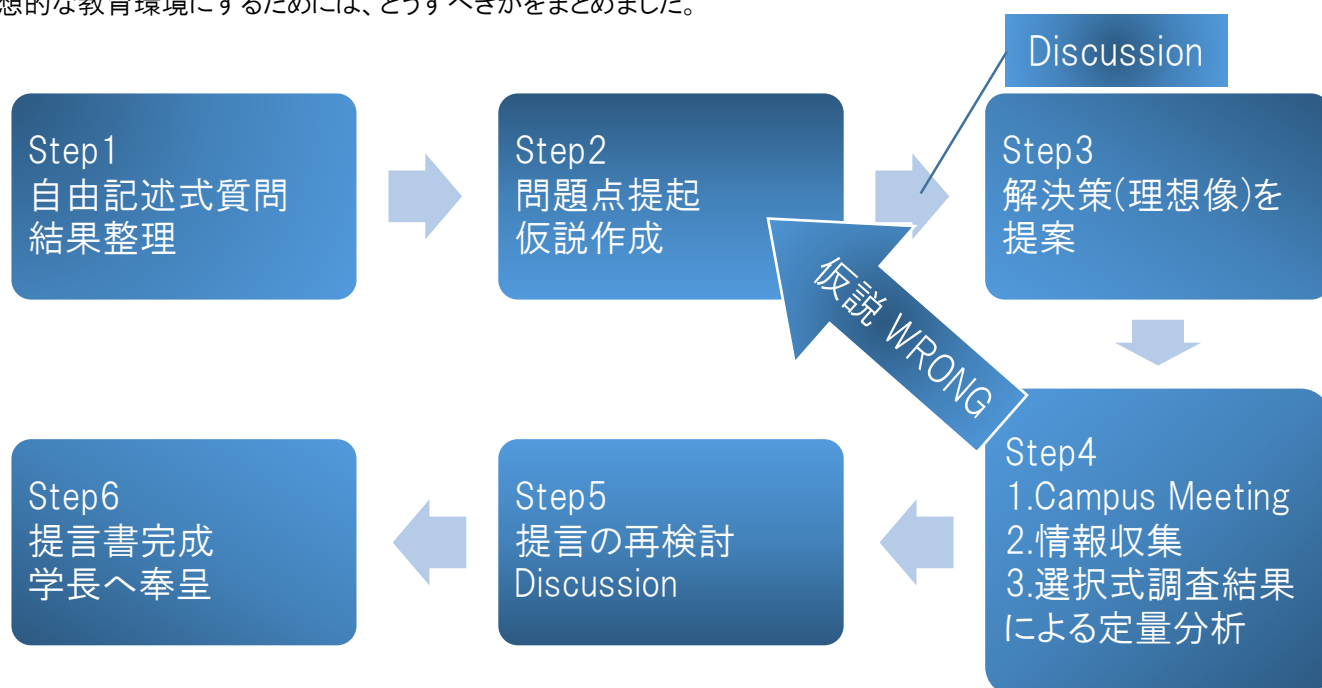


図 2. 1. 1 提言の作成過程

2. 全学を通して重要な提言

本章では、調査結果に基づいて、以下の4つの仮説を立てて、検証しました。

仮説1 本学と学生の意思疎通が上手にとれず、認識の齟齬が生じている。

仮説2 やる気のある学生のさらなる成長、やる気のない学生への向上心付与が望ましい。

仮説3 内側からやる気が出るような教育改革が望ましい。

仮説4 本学への貢献&本学の理念・文化浸透&知名度の向上が帰属意識を高める。

これら4つの仮説&学勢調査結果を論理基盤として、全体提言を作成しました。全体提言とその内容を簡略にまとめると、以下の**表 2. 2. 1** のようになります。仮説 1~3 は、教育改革の内容を更に発展させるため考え抜いたものであり、仮説 4 は、教育改革を成功させるため、本学への興味を増幅させ、と本学の真意を理解してもらうためのものです。

表 2. 1. 1 全体提言の概略

全体提言題目	論理基盤	現状・問題点	解決策
1. 本学と学生の意思疎通を図るシステム作り：学生モニター	仮説 1	学生目線で考案された内容が多いが、万一の不備に備える必要あり。瞬時に学生の意見を収集するシステムが必要。	各学科・専攻の幹事・副幹事任命。各学科・専攻の行事企画が主な業務。学勢調査が中心となって、教育改革等に関する意見をまとめる。
2. Tutor 制度の実現	仮説 2・3	本学の最大の魅力は、最先端研究(図 2.2.4&2.2.5)。研究へのやる気の助長が必要。	研究したい学部 1~3 年生は tutor(大学院生)と共に勉強・研究をする。危険な実験は禁止。
3. 留学したくない学生への対処	仮説 2・3	本学の国際化に伴い、留学必修化が予想される。留学希望学生は 50%弱(図 2.3.3)。その他の学生への対策が必要。	どうしても留学したくない学生は、国際化する本学で留学生と交流させる。交換留学生との Homestay 等。
4. 単位飛び取得制度	仮説 2・3	クォーター制の狙いが“短期集中学習”ならば、やる気のある学生を更に伸ばすため、それを助長する制度が必要。	教員が独学可能な科目と判断した場合、講義開講時に別途「飛び取得試験」を設ける。早期独学予習前提。
5. 学生が教授するゼミ形式授業	仮説 2・3	教育改革後、事前学習は受講の必須条件。学生の自主性確立のため、自ら予習したくなるような制度が必要。	教授する学生が 15 分間講義し、教員のコメント(5 分)後、授業を実施。
6. 学部高学年次の学習意欲向上—レクチャーシアター	仮説 2・3	学部 1 年生より、学部 2~4 年生の目標(≡やる気)がない(図 2.2.3)。学部高学年次の学習意欲向上が必要。	学部高学年次のレクチャーシアターの受講推奨。Tutor 制度の実現により、学習意欲向上が期待できる。
7. 学生の主体性向上のための、学内業務宣伝	仮説 4	学内業務経験者のほうが、帰属意識が高い。自身が東工大の一員として動くためと思われる。	学内業務経験者のインタビュー等を実施し、活発に活動することで得られるものを明示し、鼓舞する。
8. 本学の理念・文化浸透	仮説 4	大学への帰属意識と、大学理念・文化浸透の度合いは、ある程度比例関係にあり。	本学の理念が刻まれた石碑設置。国内で最も国際的であつ、「これが東工大」といった文化を作っていく。
9. 駅名改名&TOKYO-TECH 全面使用による知名度向上	仮説 4	関東地方内に、東京〇〇大学は計 34 校。このような名称が多いため、本学の名称は印象が薄いと思われる。	大岡山駅を東工大前駅に改名。加え、東工大という名称より Tokyo-tech を全面的に使用する。

2.2. 現状分析—教育改革に向けた学生の傾向分析

在学生向けに、教育改革説明会が開かれた期間は、2014年11月中旬から12月初旬でした。また、教育改革に関する学外への発表は2014年6月でした。その内容は、学院の設置や、世界トップ大学との単位互換制度、レクチャーシアター等でした。しかし、詳細内容が決定されていなかったため、内容把握が本学学生にとって困難だったと考えられます。加えて本学勢調査は、2014年10月1日から10月31日の間に実施されたため、ほとんどの本学学生は、教育改革内容について白紙状態であったと考えられます。そのため、教育改革に関する十分な理解がないまま学勢調査に回答したものと考えられます。それでも、自由記述項目にて、教育改革について懐疑的意見が17件寄せられました。一方、教育改革の内容と同様のことを要望する意見も5件寄せられました。

学生の意見

教育改革に懐疑的意見：

- 教育改革でどのように変わるのかはよくわかりませんが、学科間の移動や履修をより流動的になることを期待しています。学部生が大岡山、大学院生がすずかけ台といった隔たりをなくし、より自由にしてほしいと思います。
- 教育改革が声高に唱えられていますが、「適切」な改革にして欲しいと考えております。ただ教育制度を変えても改革になるわけではなく、機能しなければ本当の改革にはならない恐れがあります。
- 本学に入学してから最初に衝撃を受けたことは、東工大生の英語力及び英語の講義内容が、世界大学トップ10を目指すには、本学学生の英語力が思ったより低かったことです。一般入試の合格者中に、数学で高得点を取る代わりに、英語の点数が12点の学生もいたそうです。東工大が欲している学生は、数学や理科だけができる学生ではないはずです。私も彼らから毎日たくさんの刺激を受け、勉学に励んでいます。しかし、それら以外の学力、特に英語力が不十分な学生があまりにも多いと思います。東工大は既に2016年度からの教育改革を発表しており、その中では英語による専門科目の講義の充実・留学経験者の大幅な増加を謳っていますが、東工大は本気でこれらの目標を達成しようとしているのか、甚だ疑問です。

現在の問題点は、「1. 英語力が皆無でも、数学・理科のみで合格できてしまう二次試験の点数配分」「2. 文系科目の勉強が不十分でも合格可能なセンター試験の取り扱い方」であると思います。

私は、2016年度に行われる教育改革に非常に期待しており、三島学長の目指す通り、東工大が世界トップ10の大学になれるようにこれからも東工大生であるという誇りをもって勉学に励んでいく所存です。三島学長の熱い思いを実現するためにも、私の提案をどうかご検討くださいますよう、お願いいたします。

- 教育改革は学長が筆頭になり積極的に進めているものと考えられます。しかし、その方向性に関しては賛否両論です。つまり、比較的研究時間が短い専攻の人にとっては機会が広がるいい政策であるかもしれませんが、実験に多くの時間を取られてしまう化学系の人にとっては研究時間を多く削ってまで講義を受けないといけないなどの負担があります。
- 教育改革がどういうことを達成したいのかよくわかりませんが、入学時点でやる気のある人はどんどん自分から進んでいくものです。そういった学生からみて不満な点はおそらく、施設や制度ではなくお粗末な講義だだと思います。
- 2016年より始まる教育改革は大学全体で改革を行いますが、本来は類ごとに合わせた改革をすべきで、外国の先生の受け入れとカリキュラムの大幅変更は混乱を招き、特定の学科の学生にとって教育・研究環境の悪化につながるのでは

2. 全学を通して重要な提言

はないかと懸念しています。もっと従来の日本型の大学教育と研究レベルに自信を持っていいと思います。

- こういったアンケートでは反映できないと思いますが、講義の準備から講義の内容、授業の仕方など、教員によってはあまりにお粗末です。そういう方々が変わらない限り、教育改革は単なる制度の変更であると思います。
- 無闇なグローバル化を推し進める・学科独自カリキュラムの壁を取り払うといった方針転換は、専門知識の習得に支障が出る可能性があると考えています。

(同意見 17 件)

教育改革内容と同様な要望意見：

- ダブルメジャーができるようになれば、やる気のある学生は多くの事を学ぶ事ができると思います。そのダブルメジャーも、経営学などの文系寄りのものができれば、東工大を卒業した後、理系文系両方の知識を持ち合わせる、真に理系分野で活躍できる人材が育成できると思います。
○教育改革と同様な内容：大学院における広域学修制度(副専門)。
- 数学はとにかく自分で勉強する時間の確保が命だと思えます。あまり必修科目を課すなどして学生を拘束しないほうが、やる気のある学生にとっては勉強できるし、やる気の無い学生にとってもありがたいし、教員も楽だろう。授業にはあまり出席せずに自習に入り浸って昼夜無たくさん数学をすることができた。授業に出席しないことにデメリットが無いとは言わないが、毎日授業に全部出席して決められた範囲内の学習ばかりするよりは遥かに良かった。
○教育改革と同様な内容：出席点の概念がなくなる。
- 一人あたりの教員につく学生が多すぎるため(1学年 5 人)に、学生がまともな指導を受けられない。特にポスドクなどいない研究室は更に悲惨である。この点を何とかしてほしい。全体的に学生は研究に対してやる気を見せていない。授業の点数・成績しか気にしていない。または就職活動のことなど。この点は東大の友人に聞いても同じ意見だったようで、研究を第一に生き生きと頑張れる学生を育て上げれば、東工大としての独自性が確立できると思います。
○教育改革と同様な内容：学修ポートフォリオ & 全学生に指導教員ができる。
- 1 つの授業を複数の教員が担当する授業に関して、多くの教員のやる気が感じられません。集団的無責任のような状況が発生しています。形だけで、分かりやすく教えようという気が感じられない教員が複数います。
○教育改革と同様な内容：FD 研修の充実。

(同意見 5 件)

仮説検証・分析

上記のような意見から、以下のような仮説が立てられます。

仮説1 本学と学生の意思疎通が上手にとれず、認識の齟齬が生じている。

仮説2 やる気のある学生のさらなる成長、やる気のない学生への向上心付与が望ましい。

仮説3 内側からやる気が出るような教育改革が望ましい。

東工大をより良くするために必要なもの

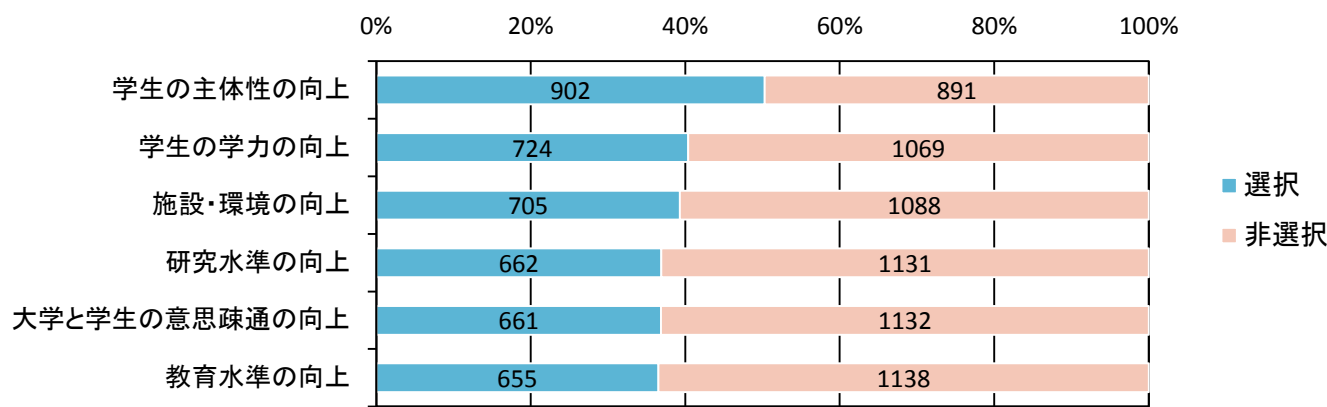


図 2. 2. 1 東工大をより良くするために必要なもの

少数の学生の意見から導かれた上記の仮説が、学生全体の傾向と一致するか否かを示す必要があるため、学勢調査で得られたデータを分析・考察し、論拠を記述します。

教育改革内容に関しては、学勢調査実施前に学外へ発表されましたが、学勢調査実施後に学生向け説明会が開かれたため、教育改革に関する認識の齟齬はどうしても生じてしまったと考えられます。図 2. 2. 1 は、調査項目「東工大をより良くするために必要なもの」の調査結果を示しています。学勢調査に回答した学生のうち 37%が、「大学と学生の意思疎通の向上」が必要と回答しました。学勢調査 2012 では、この設問が複数選択でなかったため、「大学と学生の意思疎通の向上」を選択した学生は 13%でしたが、学勢調査 2014 で複数選択にしたところ、37%まで上昇しました。「大学と学生の意思疎通の向上」が学力向上・研究水準向上・教育水準向上に並ぶほど重要であると認識されていることを示す結果です。これは、本学と学生間の意思疎通がうまく取れていない現れだと考えられます。したがって、仮説 1 に記述されている通り、「本学と学生の意思疎通が上手にとれず、認識の齟齬が生じている」ことが、支持されます。

図 2. 2. 1 において、「東工大をより良くするために必要なもの」として、最多の回答は「学生の主体性の向上」でした。これは、学勢調査 2012 でも同様の結果でした。以下に、ここ数年の学生の主体性について考察します。

図 2. 2. 2 は、設問「東工大をより良くするために必要なもの」に対して、「主体性の向上」「学力の向上」および「研究水準の向上」を選択した学生を、学年別にみたものです。非常に興味深いことに、学力の向上が必要と考える学生の割合は、学年が上がるごとに下がり、主体性向上 & 研究水準向上に関しては、学年が上がるごとに上昇していることがわかります。

東工大をより良くするために必要なもの—学年別

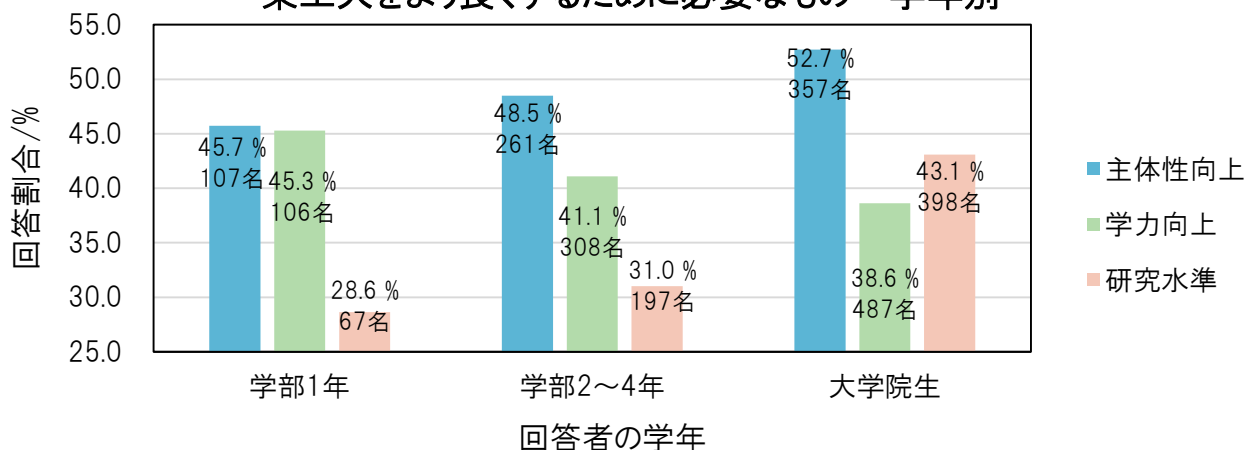


図 2. 2. 2 「主体性向上」「学力向上」「研究水準向上」を選択した学生の学年別割合

2. 全学を通して重要な提言

このことを踏まえ、本学入学後から卒業までの、学生の時間軸を考慮して考察します。学部入学直後は、「高校で一生懸命勉強してきたように、大学でも一生懸命勉強しよう！」と考える学生が多いと思われませんが、学部2、3年生になると「なぜ勉強しているのだろう。専門知識が社会に役立つのだろうか？」と懐疑的になる学生と、「学習内容が専門的で、研究に近くなって面白い！」と感じる学生に分かれると予想されます。

大学入学後に、新たな学習目標を定められない学生は、時間が経つに連れて、学習目標を見失っていきます。しかし、入学後、研究するために勉強する等の「新たな目標」を立ち上げられた学生は、学部2年次以降の勉強を面白いと感じ、学習に励むと考えられます。そのため、上記のような2つのタイプの学生に分かれると論拠づけられます。このように、学部2年次以降に学習目標を見失っていると考えられる学生が増加するため、学部1年生に比べ、学部2～4年生では、「学力の向上」が必要だと考える学生の割合が減少していると考えられます。

学部4年生で研究を始めると、学習より研究水準へ着眼するため、学年が増すにつれて、「研究水準の向上」への回答割合が増えていると考えられます。現状に満足せず、より研究水準を向上すべきと考えた学生が多かったと読み取れます。

「主体性の向上」に関しては、どの学年も回答割合が高いです。学部生にとっての主体性は、学習・課外活動に対する主体性であり、大学院生にとっての主体性は、研究・交流に対する主体性であると考えます。「高校と違い、自由に様々なことができると思った大学生活が、そうでもなかった」と考える学生が多いのではないのでしょうか。部活動等の課外活動や、学習・研究、双方とも閉鎖的で、学生自身の主体性が足りず、自ら行動できていない現状があると考えられます。学部生において、主体性の足りない学生は、目標が定められず、自らやる気をもって行動せず、惰性で大学に通っている可能性があります。大学院生において、主体性の足りない学生は、研究室から外に出ず外部と交流もせず、指導教授の言われた通りのことをする学生であると考えられます。そのような学生が少なくないということを示すデータとも読み取れます。以上のことから、やる気のある学生とやる気のない学生に分割して考える必要があるように思います。

本学学生の目標に着眼します。本学学生の目標に合わせて、教育改革を考える必要があると思われるためです。

入学後の目標損失を論拠づけることとして、**図 2. 2. 3**は、「本学で学ぶべき(やるべき)目標をはっきり持っていますか」という設問に対する学年別回答結果を示します。「とてももっている」もしくは「もっている」と回答した学生は、学部1年生で56.4%であり、学部2～4年生で49.6%であり、大学院生で70.8%でした。

本学へ入学するためには、厳しい受験競争に備え、猛烈に勉強しなければいけません。入試問題の難易度は、国内において最難関と言われており、駿台予備校・河合塾・代々木ゼミナール等の大手塾の出す偏差値がそれを示唆しています。本学への入学を目標に一生懸命頑張ったものの、入学後には目標を見失う学生が少なくないと思われ**図 2. 2. 3**。

前のページで記述したように、学部1年の時は、「高校で一生懸命勉強してきたように、大学でも一生懸命勉強しよう！」と考える学生が多く、一生懸命勉強するという目標を持っていると考えられます。しかし、学部2,3年生になって、「なぜ勉強しているのだろう。専門知識が社会に役立つのだろうか？」と懐疑的に考える学生が少々増えるため、学習目標が薄れる学生が増えたことによって、4(とてももっている)&3(もっている)と回答する学生の割合が減少したと考えられます。学習目標を完全に見失った学生は、「大学で勉強しなくても、必要な単位を取って東工大を卒業したら、東工大卒なのだから何とかなる」と言った考え方があるのではないかと考えられます。

「研究するために入学する」ということの論拠づけとして、**図 2.2.4** & **図 2.2.5** があります。**図 2.2.4** は、「大学へ入学した目標は何ですか」という設問に対する回答結果であり、**図 2.2.5** は、「大学へ入学した目標は何ですか」という設問に「研究するため」と回答した学生の、学年別割合を示しています。大学院生になると、「研究をするために大学院へ入学する」と思うようになるため、4(とてももっている)&3(もっている)と回答する学生の割合が、学部生よりも高くなると考えられます(**図 2.2.5**)。どの学年においても「研究するため」の回答割合が最多であり、大学院生の72%が研究するために入学したと回答していることが読み取れます。この結果から、本学の最大の魅力は、最先端の研究ができるという点であると確信できます。

一方、大学へ入学した目標が、「就職のため」「すぐに社会に出たくなかったから」「なんとなく」と回答した学生の割合はそれぞれ47.0%, 14.2%, 13.7%であったこと(**図 2.2.4**)から、無視することはできません。このように回答した学生の中には、学習目標を定められず、「東工大卒なのだから何とかなる」といった考え方を持っている学生が多い可能性があると考えられます。彼らに対して、どう目標を定めさせるのかは難題ですが、教育改革内容中に、彼らに“刺激”を与えられる事柄を組み入れる必要があるように思います。以上のことから、仮説2:「やる気のある学生のさらなる成長、やる気のない学生への向上心付与が望ましい。」と支持されます。

本学で学ぶべき(やりたい)目標をはっきり持っていますか。

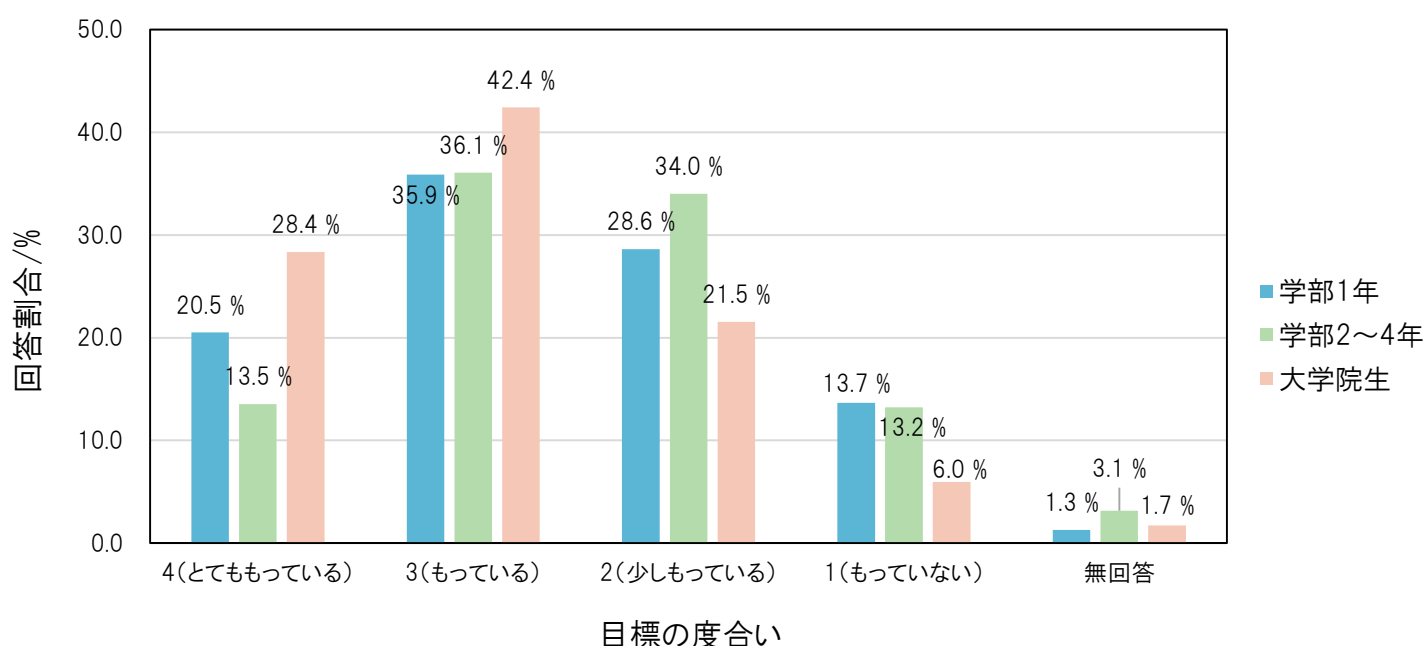


図 2.2.3 学年別—東工大で学ぶべき目標を持っている度合い

2. 全学を通して重要な提言

大学へ入学する目標(複数選択可)

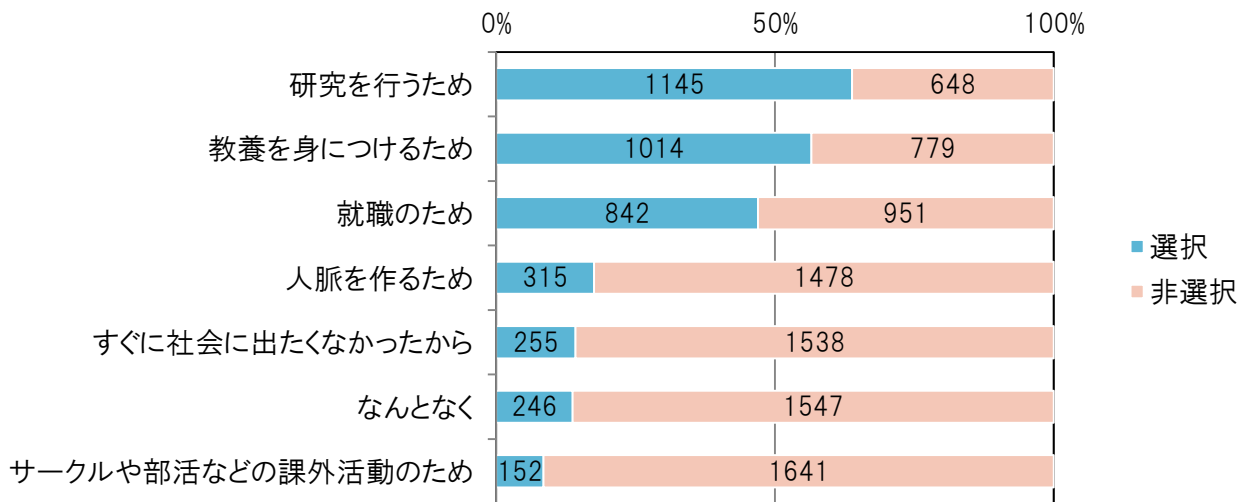


図 2. 2. 4 大学へ入学する目標は何か

「東工大をより良くするために必要なものを選んでください」という調査結果では、「主体性の向上」が、どの学年も最多の結果であった(図 2. 2. 2)ことから、仮説 3:「内側からやる気が出るような教育改革が望ましい。」ということが必要だと考えられます。ここで述べている、「内側からやる気が出る」ということと「主体性」はほぼ同義です。

三島学長、水本副学長(教育運営担当)とのキャンパスミーティングで伺った教育改革の内容は、大きく分類して以下の 6 つの事柄に分けられると思われます。

- | | |
|----------------------|----------------------------------|
| 1. 学院設置 | 学士課程と大学院課程で接続性の高い体系的な教育の実現 |
| 2. 幅広い基礎教育と大括りな教育体系 | 生命科学必修化・大学院生向け教養科目設置・様々な学修が選択可能 |
| 3. 世界トップスクールとの単位互換制度 | 東工大のグローバル化 |
| 4. クォーター制度・達成度評価 | 短期集中学習、達成度に応じて自分のペースで学修可能 |
| 5. 事前学習・双方向授業 | 学生の能動的、主体的な学修双方がコミュニケーションをとる授業体制 |
| 6. レクチャーシアター | 科学の楽しさを体験し、学修動機づけを与える |

上記の 6 つの改革内容が、学生の主体性を大きく向上させる効果があると期待できます。上記の改革内容が、本当に「内側からやる気が出るような改革」であるかどうか、次のページで検討します。

大学へ入学した目標—研究のため

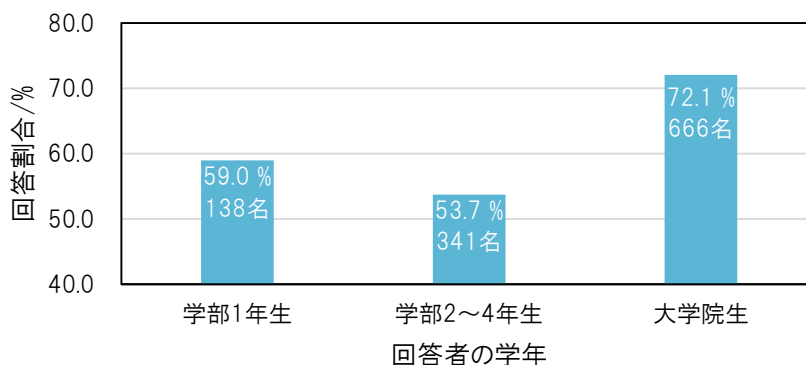


図 2. 2. 5 大学へ入学した目標—「研究のため」を選択した学生の学年別割

2.3. 現状分析－傾向分析結果に基づく教育改革の内容検討

私たち学勢調査スタッフは、三島学長や、水本副学長(教育運営担当)とのキャンパスミーティングにて、教育改革の決定内容について伺うことができました。本学勢調査にて得られた調査結果をもとに、教育改革の内容に関して検討・提言を行ないます。学生が目線からの意見を取り入れていただくことで、より理想的な教育環境を実現できるよう、学長や理事・副学長を含め、教育改革に関わる教職員の方々に是非とも勘案いただけたら幸いです。

※三島学長とのキャンパスミーティングは、2014年10月20日(月)および2014年12月16日(火)に2度実施され、水本副学長(教育運営担当)とのキャンパスミーティングは、2015年02月18日(水)に実施されました。

内容検討

1. 学院制度について

学院設置によって、学部生が大学院研究の早期着手が可能になる予定だと公表されております。従来までは、成績上位5%の学生のみ飛び級・早期卒業資格が得られましたが、教育改革後は、達成度評価が行なわれ、達成度基準を満たせば、どんどん先の授業へ進んでいき、研究の早期着手が可能になる模様です。

この制度に関して、学勢調査の結果をもとに検討します。「1. 教育改革に向けて－学生の傾向分析」で述べたように、本学最大の魅力は、最先端の研究ができるという点です。その論拠は図2.2.4&図2.2.5にあります。早く研究したいという、本学学生のやる気に応える制度は、本学学生にとって有効かつ有意義だと考えられます。早期に研究を開始するため、学問に励み、達成(学習)すべき内容・目標がよくわかる仕組みになるなら、高校までの学習目標とは異なる「新たな目標」を定めやすくなるため、学習意欲も増すと考えられます。

しかしながら、早期に研究を開始するには達成度基準をクリアしなければなりません。つまり、すべての学部1,2年の学生が研究をしたいという意欲に応えられません。一方、学部1,2年生の研究意欲があっても、彼らに研究を自主的にさせては、知識不足・実験事故・指導教員不足等の問題点があります。これらの問題点を解決するためには、研究体験のある意欲のある先輩学生による指導を考える必要があるでしょう。図2.3.1は、「実現・充実してほしい学生生活サービスを選んでください」という調査設問に対する回答結果です。この図に示す学生の様々な要望、例えば授業の不明な点を教わるだけでなく、進路や就職に関する相談や、業務紹介、インターンシップに関する情報などを、先輩学生から得ることができるかもしれません。

2. 全学を通して重要な提言

実現・充実して欲しい学生生活サービス(最大5つまでマーク)

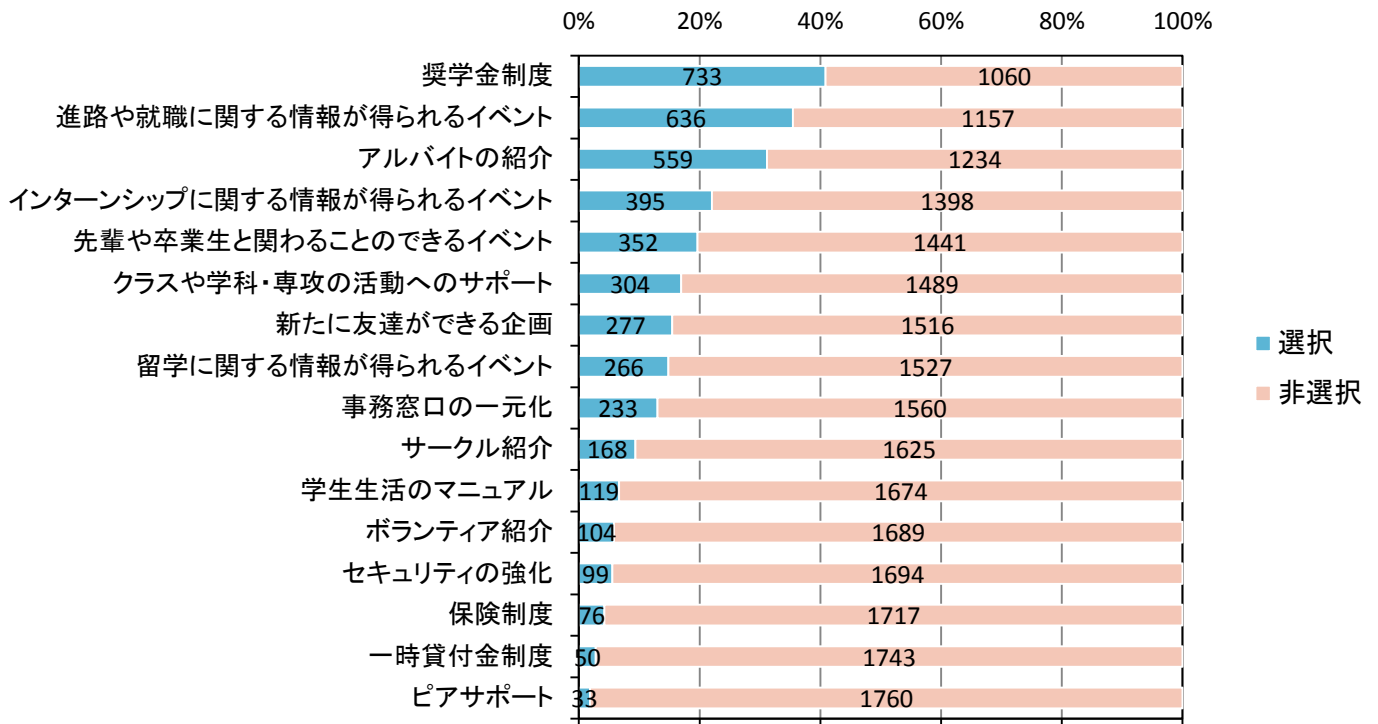


図 2. 3. 1 実現・充実してほしい学生生活サービス

2. 学院の系の設置について:幅広い基礎教育と大括りな教育体系

教育改革後、学院の設置とともに、様々な学科を束ねて「系」というくりになり、従来よりも専門の幅が広がると考えられます。この件に関して、学勢調査の調査結果から、学生の思う「東工大の教育の進むべき方向」と照らし合わせます。

以下の図 2. 3. 2 は、「東工大が進むべき方向性を教えてください」という調査設問に対する回答結果です。どの学年も最多回答数となったのは、「理工系全域の見地を持った人材育成」でした。大学院生は、学部生より理工系全域の知識の必要性を感じているようです。こうした結果から、系の設置による専門の幅の広がり、とても良いと考えられます。しかしながら、従来までの教育の良さを維持するためにも、1つの専門知識を極めたい学生にはその選択も可能にする必要があります。

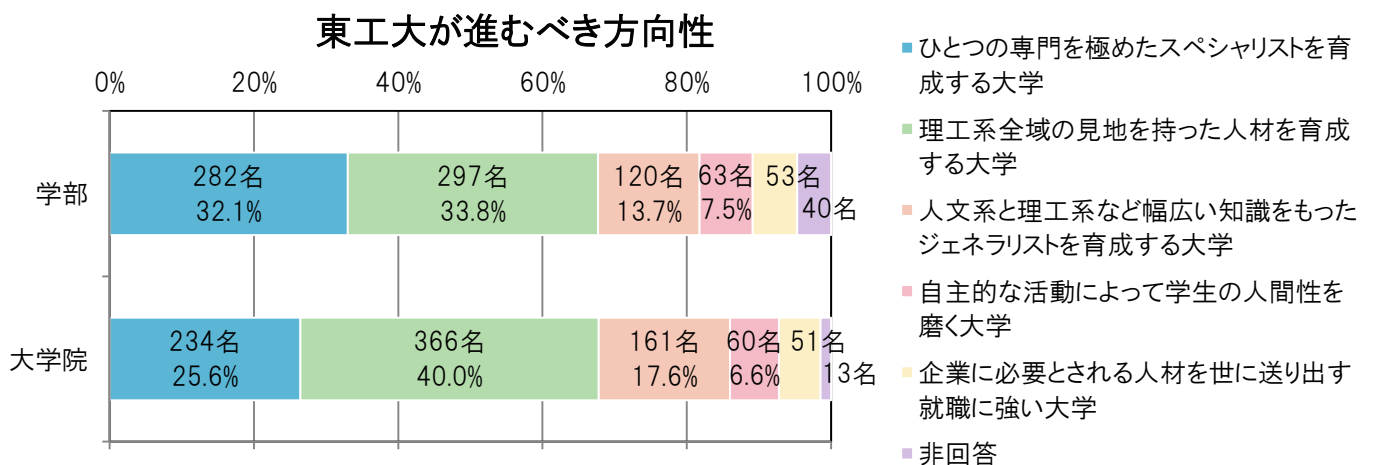


図 2. 3. 2 東工大が進むべき方向性—学部・大学院

3. 世界トップスクールとの単位互換制度&留学必修化

学内限定で公開されている資料、「平成 25 年度 第 11 回 基本構想会議 議事要録」では、本学学生が修士課程修了時まで、留学を必修化させる方針で検討されていると記述されております。以下に、学勢調査結果をもって、留学必修化について検討を行ないます。

図 2.3.3 は、調査設問「留学をしたいと思いますか」の調査結果を示しています。世界トップスクールとの単位互換制度が実現することにより、現状より留学しやすくなり、かつ本学の国際化が進むと期待されます。「大いにしたい」もしくは「機会があればしたい」と回答した学生は、学部 1～4 年生で 52.3%であり、大学院生で 56.3%という結果でした。つまり、留学必修化は、おおよそ半数の学生にとって、非常に有意義な制度になると考えられます。

一方、「したいと思うができない」もしくは「したくない」と回答した学生は、学部 1～4 年生で 30.5%であり、大学院生で 23.1%という結果でした。このような学生を強制的に留学させると、学生の主体性の確立が困難になると思われます。本来の意図：「海外で異文化体験・多様な価値観に触れる」等の効果が得られず、引きこもりやホームシックなどの逆効果が生じる可能性があります。仮説 3：「内側からやる気が出るような教育改革が望ましい。」に記したとおり、留学したくない学生に対しては、対処が必要だと考えられます。

世界トップスクールとの単位互換制度の実施により、本学の国際化が進み、本学で留学を体験できる環境が整うと考えられます。将来、本学のキャンパスでも「異文化体験・多様な価値観に触れる」ことができると予想されます。どうしても留学したくない学生に対しては、本学キャンパスで対応する解決策が考えられます。

留学したいと思いますか

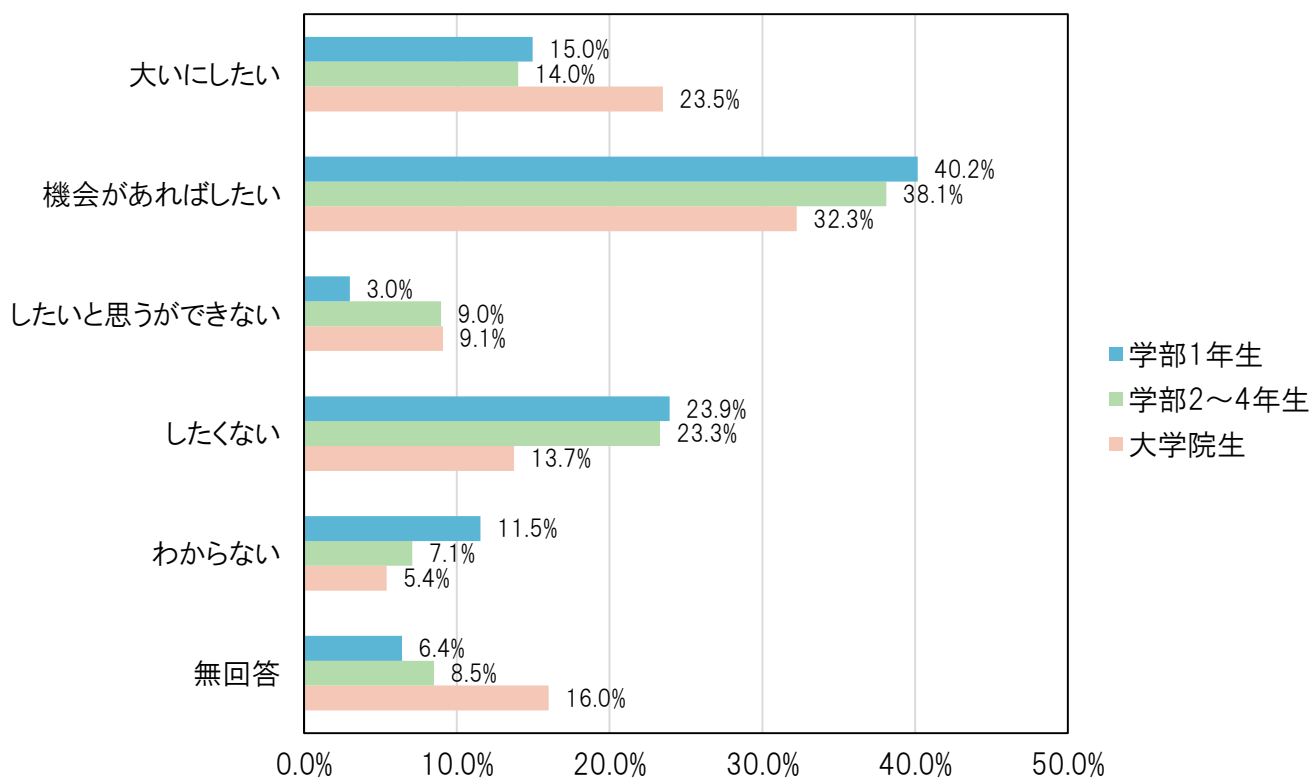


図 2.3.3 留学願望に関する調査結果

2. 全学を通して重要な提言

4. クォーター制と達成度評価について

本学ホームページ上に 2014 年 06 月 27 日に公開された、教育改革の内容紹介資料の 16 ページに、クォーター制により得られる効果として以下の 4 点がありました。

- 効果1： 短期間で集中的に学ぶことで、学修効果を高める。
- 効果2： 履修計画を柔軟に組むことができ、通常の在学期間でも留学やインターンシップをしやすくなる。
- 効果3： 必修科目等の実施回数が増えるため、学生ごとの学びの進行に細やかに対応できる。
- 効果4： 海外から留学生が入学しやすくなる。

本学で学ぶべき目標を「とてももっている」もしくは「もっている」と回答した学生は、学部 1 年生で 56.4%であり、学部 2～4 年生で 49.6%であり、大学院生で 70.8%であり(図 2.2.3)、彼らは学業に励む学生と推測することができます。そのような学生にとって、短期間で集中的に学習できることは、自身の能力を高めることになり、良いと考えられます。先へ進みたい学生は、能力に合わせて進められるような制度であれば、早く研究に着手したい学生は学業に励んで早期研究・早期卒業でき、ゆっくり卒業したい学生は従来通り 4 年で卒業すると思われれます。この体制により、「早く研究したい」という学生の思いから、学習面における主体性が増すと考えられます。このような観点から、クォーター制に変化することによる効果 1～3 は学業に励む学生にとって良いと考えられます。

世界トップスクールとの単位互換制度は、おおよそ半数の本学学生にとって有意義な制度である(図 2.3.3)ことから、その制度をよりスムーズに遂行するため、海外から留学生が留学しやすくなることは必要だと考えられます。そういう観点から、クォーター制により得られる効果 4:「海外から留学生が入学しやすくなる」ことは良いと思われれます。

5. 事前学習と双方向授業について

本学ホームページ上の 2014 年 6 月 27 日に公開された、教育改革の内容が紹介されたパワーポイントの 22 ページに、学生と教員の双方向授業の概要およびその効果が以下のように記述されていました。

“学生と教員の双方向授業は、グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション等を取り入れた能動的な学修参加を促す教授・学習法です。これにより、主体性とコミュニケーション能力、リーダーシップを身につけさせることが目的です。”

このことを踏まえ、水本副学長(教育運営担当)とのキャンパスミーティングでは、教育改革後の授業について以下のように質問を行ない、返答を承ることができました。

Q1. 教育改革後の授業について伺います。レクチャーシアターなど、従来までにない革新的な授業は増えるのでしょうか。本学学生にリーダーシップを求めるなら、議論するような授業が必要だと考えられます。

A1. 主体的な学修を促す工夫が取り入れられます。例えば OCW に事前学習用の講義資料を載せ、学生がこれを予習してくることを前提として組み立てる授業が増えます。また、グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーションを実施し、学生の能動的な参加を促す授業が増えます。

図 2.2.2 から、「東工大をより良くするために必要なもの」に対して「学生の主体性の向上」と回答した学生の割合が最多であったことから、学生の主体性を重視して考えます。その際、「教育改革によって全員予習してこなければならない」という面が、強制的な働きになる可能性があります。強制的な予習ではなく、学生自らが予習したくなるような授業体制改革が必要と考えます。

6. レクチャーシアターについて

本学ホームページ上に2014年6月27日に公開された、教育改革の内容が紹介されたパワーポイントの21ページに、レクチャーシアターの概要説明およびその効果が以下のように記述されていました。

“初年次学生の科学・技術への興味・向上心を「レクチャーシアター」で喚起します。学士課程入学直後の学生は、本学最先端研究者、ノーベル賞級の発見・発明者、創造的製品やサービスの開発者などの声を直接聴き、創造的討論や実験の実演を伴った講演を体験できます。”

図2.3.4は、「学部1年次の学習意欲向上に有効と思われるもの」という調査設問に対する調査結果を示しています。最多の回答は「研究室体験のような授業を増やす」こと、2番目に多かった回答は「専門科目を増やす」こと、3番目に多かった回答は「参加型の授業を増やす」ことでした。このことから、レクチャーシアターが、受講生の前で発表者が実験をし、受講生はそれを実体験できるような講義ならば、「研究体験」・「専門科目」・「参加型授業」である側面をすべて持ち合わせていることから、学生の興味・向上心を上げる効果があると考えられます。

学部1年生の科学技術への興味・向上心を高めることは重要ですが、学習目標をはっきり持っていることと、科学技術への興味・向上心が比例関係にあるならば、学部2～4年生の科学技術への興味・向上心が、学部1年生より少々低いと思われれます。

※「本学で学ぶべき(やるべき)目標をはっきり持っていますか」という調査設問に対して、「とてももっている」もしくは「もっている」と回答した学生は、学部1年生で56.4%であり、学部2～4年生で49.6%でした(図2.2.3)。

したがって、学部1年生のみならず、学部2～4年生にも、レクチャーシアターを利用した授業の受講を推奨することが必要だと考えられます。目標が定められない学生にとって、レクチャーシアターを利用した授業の受講は良い“刺激”になると思われれます。レクチャーシアターのみならず、学部高学年次の学習意欲向上の手立てを考える必要があるように思います。

学部1年次の学習意欲向上に有効と思われるもの(最大3つ選択可)

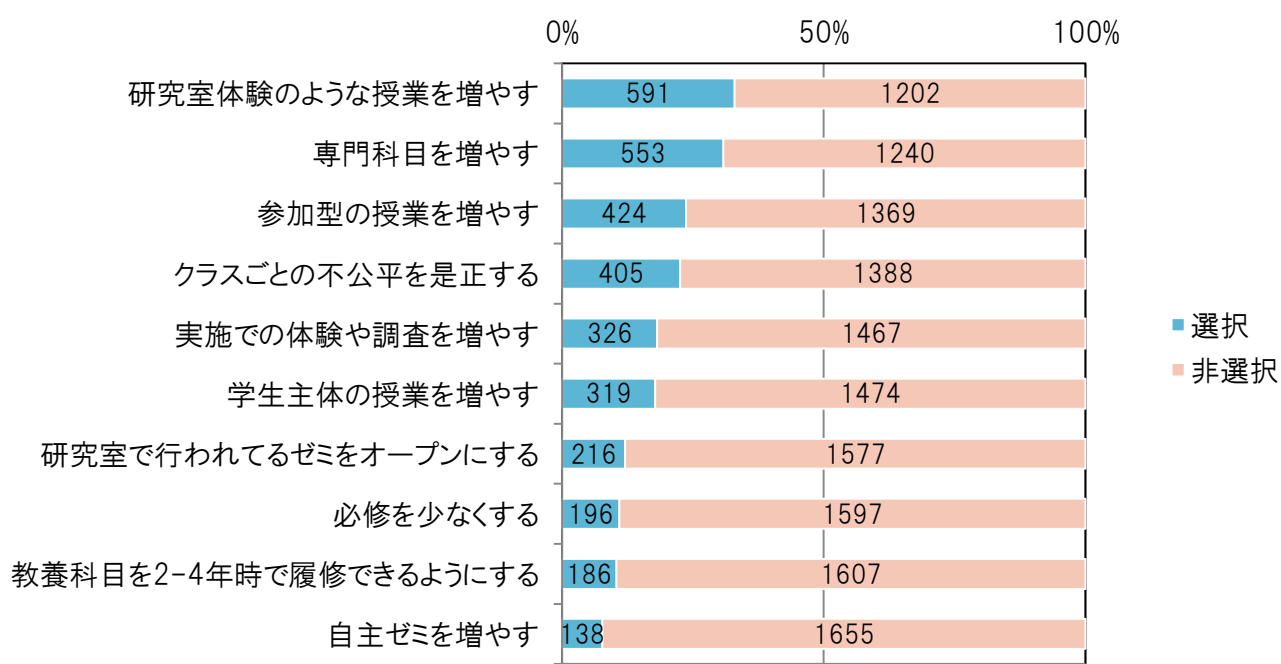


図2.3.4 学部1年次の学習意欲向上に有効と思われるもの

2.4. 現状分析－学生の意識改革と帰属意識について

大学として新たなことを実施する際、一体感や帰属意識は重要ではないでしょうか。カリキュラム改革など、外側が変わることも非常に重要ですが、学生を内側から変える、意識改革もまた重要だと思われます(仮説3)。教育改革によって体制が変わる際、学生がその意図を十分に理解することが、教育改革の成功につながるのではないのでしょうか。

あまり帰属意識のない学生の場合、本学への関心が薄いため、教育改革の内容を誤解する恐れがあります。本学勢調査の自由記述意見にも、「三島学長が何をなされているのか不明」「東工大は本気で世界トップ10のリサーチユニバーシティを目指しているのか疑問」等の意見がありました。そのことから、本学と学生の意思疎通が上手に取れず、認識の齟齬ができている状況(仮説1)だと感じました。学生の大学への帰属意識を高め、教職員と学生が一体となって大学のことを考えるようになる必要があると思います。本学の更なる発展に必要と思われることを以下に記します。

学長との意見交換

2014年10月20日(月)の16:45～17:45に実施されました、1回目の三島学長とのキャンパスミーティングにて、教育改革の動機とその思いを伺うことができました。

Q1. 教育改革を始めようと思ったきっかけをお教えいただけませんかでしょうか。

A1. 本学の卒業生が、東工大に入ってよかったと感謝できる大学にしたいためです。東工大からMITへ交換留学してMITで取得した単位を東工大は認めていましたが、MITから東工大へ交換留学して東工大で取得した単位をMITは認めていませんでした。欧米の名門大学と比較して、本学の教育の質が低いと思われると考えました。教育改革を推進することにより、学生が自主的にディスカッション・勉強会を行なうような、深い専門知識と豊かな教養の溢れる大学になるはずです。

Q2. 個人的な印象ですが、教育改革を推進することにより、研究者育成の色が強くなる代わりに、多彩な人材輩出は難しいかもしれないと思いましたが、どうお考えでしょうか。

A2. そんなことはありません。研究者のみならず、企業経営者、起業家、行政に携わる人、NPO法人で社会貢献する人材などの輩出も考慮しています。

また、三島学長から、私たちへ質問をされました。

Q3. 現東工大生で、本学へ帰属意識の高い学生はどのくらいいると思いますか。(三島学長)

A3. 私たちも本学への帰属意識に関するデータを持ち合わせていないため、何とも申し上げられませんが、学勢調査回答率から言及しますと20%ほどと考えられますが、体感的には10%ほどと感じております。(望月)

仮説検証

三島学長との意見交換を踏まえて、帰属意識に関して以下のような仮説を立てました。次のページで、この仮説検証と分析を行ないます。

仮説4 本学への貢献&本学の理念・文化浸透&知名度の向上が帰属意識を高める。

帰属意識の高い学生は、大学という組織の一員である意識が強いため、大学への興味が強い傾向にあると思われます。そして、帰属意識が高いほど、大学という組織の一員であるプライドも高いと思われます。そのような意味では、プライドと帰属意識は同義と言えると考えられます。

1. 本学への貢献と大学へのプライド

TA・RA やピアサポート、キャンパスガイド等の学内業務経験者に限って、プライドの度合いを分析した結果、**図 2.4.1** のようになりました。「東工大生としてプライドを持っていますか」という設問に対して、4(とても持っている)&3(持っている)と回答した学生は、全体で 54.1%、TA・RA 経験者で 58.4%、ピアサポート経験者で 60.8%、大学行事のサポート経験者で 63.5%、キャンパスガイド経験者で 61.8%、学勢調査スタッフ経験者で 70.0%でした。

全体よりも学内業務経験者のほうが、東工大生としてのプライドが高いことがわかります。これは、学内業務を通じて、本学へ貢献することにより、自身がこの素晴らしい組織に属していることを実感し、帰属意識が高くなるため、プライドが高くなる傾向にあるように思います。したがって、学内業務による、本学への貢献は、帰属意識を高める効果があると思われます。

2. 本学の理念・文化浸透と大学へのプライド

大学校歌を知っていることは、大学への興味が強く、帰属意識が高いと言えるのではないのでしょうか。早稲田大学学生部主催の 2014 年度早稲田大学学生生活調査で「早稲田大学校歌」を、歌詞を見ずに歌えますか」という設問に対する回答結果を参照したところ、「3 番まで見ずに歌える」と「2 番まで見ずに歌える」と「1 番まで見ずに歌える」と「一部分のみ歌詞を見ずに歌える」と回答した学生はそれぞれ、10.4%、2.0%、22.0%、29.9%で、合計して 64.3%でした。

本学勢調査において、大学校歌を、歌詞を見ずに歌えるかどうかの設問はないため、比較はできませんが、自学のプライドの高い早稲田大学(**図 2.4.2**)では、それだけ帰属意識が学生にも浸透していることが言えると思われます。したがって、本学も、校歌など大学独自のものを介して、本学へのプライド(帰属意識)を強める効果がある仮説がある程度支持できると考えられます。

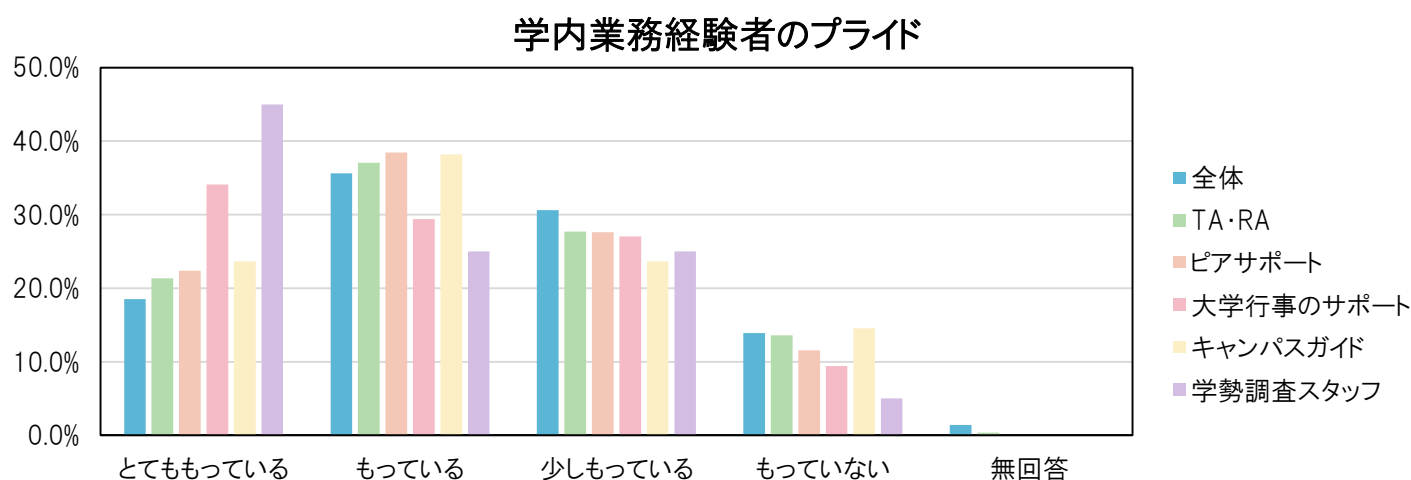


図 2.4.1 学内業務経験者のプライド

2. 全学を通して重要な提言

3. 知名度と大学へのプライド

入学偏差値、社会における本学卒業生の活躍から考えますと、本学は社会的評価が高く、国内最難関大学と言えます。本学の知名度は、その評価に比べて低いといわれています。果たして本当にそうなのか、以下に学外のアンケート調査結果も用いて比較・検証します。

株式会社リクルートマーケティングパートナーズが、関東・東海・関西地方の高校3年生(2015年3月卒業)74,000人を対象に、2014年に実施した調査「高校生に聞いた大学ブランドランキング」によりますと、知名度に関しては以下の表2.4.1のような結果と記載されていました。国立大学は赤字で示しています。ランクインされた大学は、ほとんど私立大学であり、国立大学の知名度は全体的に低いようです。

本学と、知名度が高いとされる早稲田大学とを比較するため、再び早稲田大学学生部主催の2014年度早稲田大学学生生活調査結果を参照します。以下の図2.4.2は、本学勢調査の設問「東工大生としてプライドを持っていますか。」に対する結果と、早稲田大学の学生生活調査の設問「現在の早稲田大学に対して、誇りを感じていますか？」に対する結果を照らし合わせたグラフです。すると、4(とてももっている)&3(もっている)と答えた学生の割合が、本学(54.1%)より早稲田大学(78.9%)のほうが24.8%高いことがわかります。知名度の高さと、プライド(帰属意識)はある程度比例していることが言えるのではないのでしょうか。以上の1~3を以って、仮説4が支持されます。

表 2.4.1 関東地方高校生に聞いた大学知名度ランキング 2014(株式会社リクルートマーケティングパートナーズ)

1. 早稲田大学	6. 立教大学	11. 駒澤大学	16. 東洋大学
2. 明治大学	7. 日本大学	12. 学習院大学	17. 東京理科大学
3. 青山学院大学	8. 法政大学	13. 一橋大学	18. 明治学院大学
4. 東京大学	9. 上智大学	14. お茶の水女子大学	19. 東海大学
5. 慶應義塾大学	10. 中央大学	15. 帝京大学	20. 順天堂大学

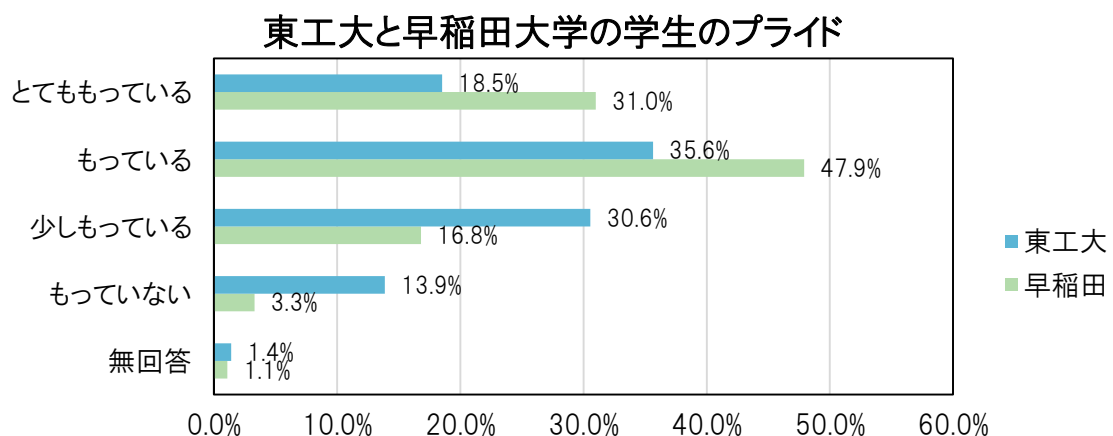


図 2.4.2 本学と早稲田大学の学生のプライド

※参考文献

- 高校生に聞いた大学ブランドランキング 2014
http://www.recruit.jp/news_data/library/pdf/20100728_01.pdf
- 早稲田大学学生生活調査結果 2014
<http://www.waseda.jp/student/research/2014/chosa2014 P21 24.pdf>

分 析

仮説 4 での 3 点「本学への貢献」&「本学の理念・文化の浸透」&「知名度向上」を具体的にどのように進めていくと良いかを考えます。

1. 本学への貢献

本学学生が本学の一員となって取り組む事の 1 つとして、学内業務が考えられます。以下の図 2.4.3 は、本学勢調査の「やったことのある学内業務をマークしてください。」&「やってみたい学内業務をマークしてください。」という設問に対する回答結果です。TA・RA に関しては、経験者数よりも、やってみたいと思う学生数(希望者数)のほうが少ない結果となりました。TA・RA は学科内の学生実験補助のために必要不可欠であることから、主体性が確立されているとは言い切れないという面から、経験者数より、希望者数のほうが少なかったと推測されます。

ところが、TA・RA 以外の学内業務については、経験者数よりも希望者数のほうが多い結果となりました。これは、自ら進んでやってみたいと思う学生がより多かったと読み取れます。このような学内業務の広報強化、そして全体提言 2 に記載されている、主体性の高い“tutor 制度”も良い学内業務と思われる。

学内業務の経験者と希望者

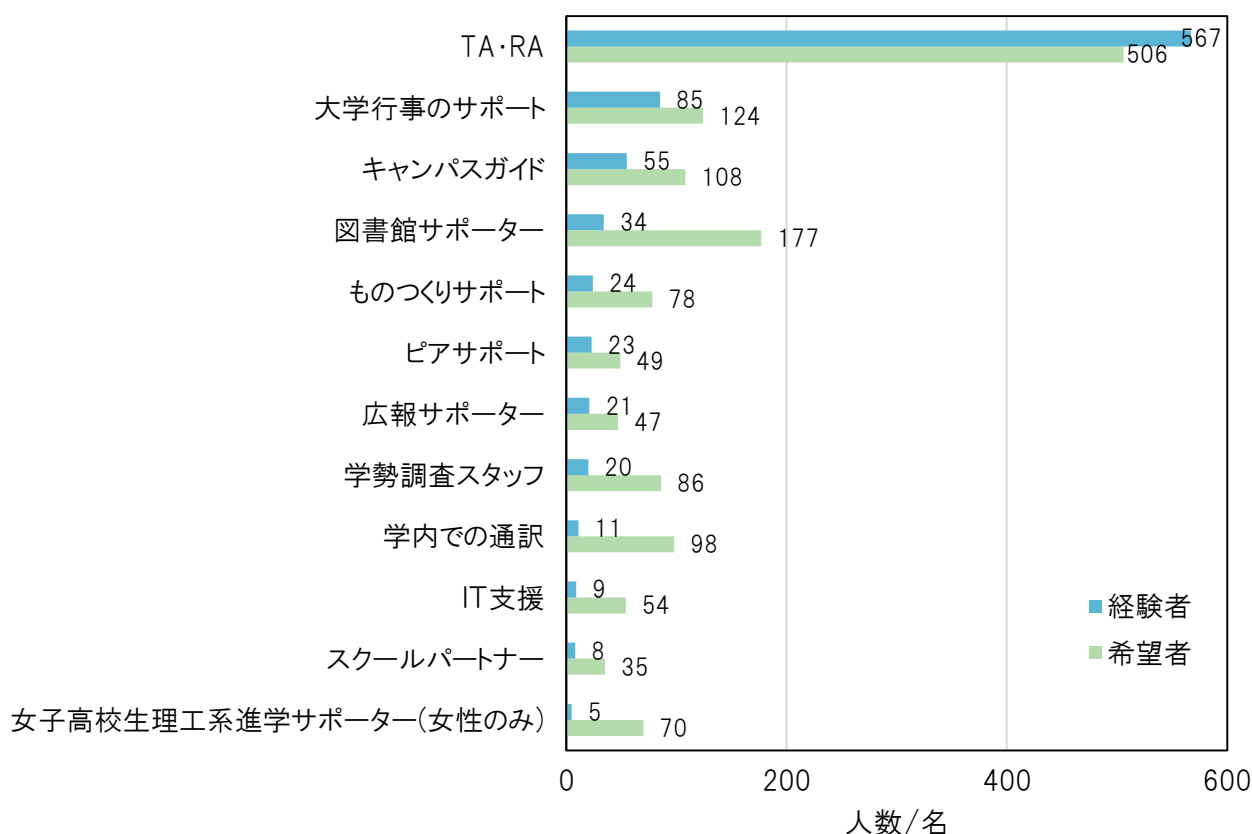


図 2.4.3 学内業務の経験者数と希望者数

2. 全学を通して重要な提言

2. 本学の理念・文化浸透

本学の入学選抜要項に、アドミッションポリシーとして、以下のことが記述されております。

- “創り拓く理系人たれ”
- “理系であることに自信を持っていること”
- “理系であることに誇りを持っていること”

上記の本学の理念を、学生に浸透させ、本学への帰属意識をさらに高める必要があると考えられます。中国の清華大学では、“自強不息厚德載物(自らを高めることに休まず全力を尽くし、大地のような厚い徳をもって万物を包容し築け)”という教訓が、学校ロゴマークに記載されており、入学式や卒業式で、この教訓を伝え、理念を浸透させている現状があります。

「教育改革に関する海外調査出張報告書—平成 25 年度」を参照したところ、世界最高峰の理工系大学である、カリフォルニア工科大学(Caltech)では、会議室の天井に Caltech 出身の偉大な研究者カルマンに因んだカルマン渦がデザインされていることが記述されておりました。このようなキャンパスの建物の特徴によって、見る人に対し、「これぞ理工系」といった強い印象を与える効果があります。本学が誇る卒業生の特徴を因んだ「本学独特の事柄」を、本学へ訪れた人が見られるようにすれば、本学内外へ本学を伝えることができると考えられます。

教育改革を通じて、本学独自の特色を全面に出していくことで、本学独自の文化が確立されるのではないのでしょうか。国内大学で留学生割合が最多(13%)であること、世界トップスクールとの単位互換制度による国際的なキャンパス、教育研究の質の向上等の事柄が、創り拓く理系人たる本学学生にこそ相応しい文化であり、他大学では真似できない教育体制であることを、学内・学外に全面的に押し出し、宣伝することが重要だと思われれます。

以上により、本学の理念・文化浸透によって、本学学生と卒業生は、「東工大に入ってよかった」と思える大学になると期待できます。

3. 知名度向上

知名度向上において、重要と思われることの1つに、“印象に残る大学名称”と思われます。大学名称について、以下に記述します。知名度に関する情報が極めて少なく、定量的なデータが見つからないため、事例を紹介し、知名度向上に効果があると予想したことを以下に挙げます。

表 2.4.1に記載されている、株式会社リクルートマーケティングパートナーズによって実施された大学知名度調査結果を参照しますと、東京理科大学以外は、すべて総合大学および人文系大学であることがわかります。理工系大学の知名度は、本学以外においても低いと思われます。

国内大学の名称について考えます。**表 2.4.1**に記載されている大学に、東京〇〇大学という名称の大学は、東京理科大学のみであることがわかります。東京都内において、東京〇〇大学という名称の大学が多すぎるため、本学がメディア等に出演しても印象が弱いのではないのでしょうか。かつて一橋大学も、東京商科大学という名称でしたが、1949年に学生投票によって、“一橋大学”に改名されました。関東地方内の、東京〇〇大学という名称の大学を調べ、数えた結果、計34校でした。このように、東京〇〇大学という名称をもつ大学が多いため、本学の名称に対する印象が薄いのではないのでしょうか。

※東京〇〇大学という名称の大学

- 国立大学

東京工業大学、東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京海洋大学、東京学芸大学、東京芸術大学、東京農工大学

- 私立大学

東京有明医療大学、東京医科大学、東京医療学院大学、東京医療保健大学、東京音楽大学、東京家政大学、東京家政学院大学、東京経済大学、東京工科大学、東京工芸大学、東京神学大学、東京慈恵会医科大学、東京純心女子大学、東京女学館大学、東京女子大学、東京女子医科大学、東京女子体育大学、東京聖栄大学、東京造形大学、東京電機大学、東京都市大学、東京農業大学、東京福祉大学、東京富士大学、東京未来大学、東京薬科大学、東京理科大学

2.5. 具体的提言

「2. 2 現状分析—教育改革に向けた学生の傾向分析」&「2. 3 現状分析—傾向分析結果に基づく教育改革の内容検討」では、学勢調査の結果に基づいて、分析・検討を行ない、理想の教育へより近づかせるためにはどうすべきかを考察・提案しました。また「2. 4 現状分析—意識改革と帰属意識について」では、本学学生が、教育改革についてより真剣に考え、本学へより興味を持つようにするには、どうすべきかを検討しました。そのまとめを以下に記述します。

提 言

全体提言1. 本学と学生の意思疎通を図るシステム作り: 学生モニター

- 仮説 1:「本学と学生の意思疎通が上手にとれず、認識の齟齬が生じている。」
- 仮説 2:「やる気のある学生のさらなる成長、やる気のない学生への向上心投与が望ましい。」
- 仮説 3:「内側からやる気が出るような教育改革が望ましい。」
- 仮説 4:「本学への貢献&本学の理念・文化浸透&知名度の向上が帰属意識を高める。」

2016年4月から実施される教育改革の内容は、学生の目線からも考えられていることが多く見受けられましたが、予想に反する事象が起こる可能性も否めません。万一の教育改革の不備のための対策・考慮が必要不可欠ではないでしょうか。仮説1のようなことが起きているならば、学生の実態・意見を瞬時に集め、教育改革の内容を再検討する必要があると考えられます。学勢調査は、学生の実態・意見を瞬時に集めるためのシステムにはなっておらず、スタッフ人数が足りません。将来十中八九、学勢調査が教育改革の評価をすと思います。しかし、それでは対策が遅れてしまう上、全学の20%のみの声で「全体」と考えてしまい、実態を把握しきれないことが予想されます。

全学的に学生の実態・意見を収集するため、学勢調査を中心に、学年ごとに各学科・専攻の幹事・副幹事を決めて、全学学生の実態・意見を収集する仕組み: 学生モニターづくりを提言します。学生モニターでは、学勢調査が中心団体となり、各学科・専攻の幹事・副幹事によって構成されることを想定します。各学科・専攻を明るく、活気のある雰囲気づくりを名目に、各学科・専攻の幹事・副幹事は、クラス内の飲み会、後輩学生歓迎会などの学科行事企画が中心業務であります。学勢調査の協力のもと、年に1度の東工大学生実態調査を実施し、学生の実態・意見をより多く収集・議論し、学勢調査が提言書作成することにより、「教育改革への補助」・「全学への宣伝強化」・「本学と学生の齟齬解消」・「本学への貢献による帰属意識強化」・「各学科・専攻行事企画による独自文化確立」・「アンケート回収率向上」等の多数の効果・問題解決が期待されます。

全体提言2. tutor 制度の実現

学院設置により、学部生が早期研究着手可能になりますが、学部 1～3 年生が達成度基準をクリアするためには、短時間で多くのことを学ばねばなりません。すべて自主的に行うことは難しく、指導教員も配置できません。これらの問題点を解決するために、tutor 制度を創立することを提言します。この tutor 制度では、研究室に所属している学部 4 年生・大学院生が指導教員(tutor)となり、研究意欲のある学部 1～3 年生に教育を施し、ともに実験・考察を進めていく制度です。ただし、学部 4 年生と大学院生が tutor になることは強制的ではなく、希望者だけが tutor になります。学部 1～3 年生においても、あくまで推奨であり、強制ではありません。強制的に全員受けさせては、「内側からやる気が出る改革」ではなくなる恐れがあるため、主体性を重視します。

学習意欲のある学部 1～3 年生は、tutor となった先輩学生から、授業でわからないことを教えてもらったり、ともに実験を進めたり、ともに考察したりすることができます。この制度の実施により、設問：「実現・充実してほしい学生生活サービスを選んでください」への回答結果(図 2.3.1)にある多くのサービス要望に応えられると考えられます。学部 1～3 年生は、tutor の先輩学生から教わるだけでなく、進路や就職に関する相談や、業務紹介、インターンシップに関する情報などを、先輩学生から得ることができると思われます。

本学最大の魅力は最先端研究であり、低学年のうちから研究を体験する体制を整え、学生に目標を付与し、やる気を与える効果が期待できます。また、tutor 制度によって、tutor 自身も得られるものが多いと考えられます。自分の研究を補佐する学生ができる、自身の教育能力向上、閉鎖的な研究室の雰囲気が開放的になる、縦のつながりが強くなる等の良い効果が得られると考えられます。研究室に所属する学生が、より進んで tutor になれるよう、一定の給料を支払うことも必要だと考えられます。

全体提言3. 留学したくない学生への対処

本学のおおよそ半数の学生が留学に積極的であるため、世界トップスクールとの単位互換制度 & 留学必修化は半数の学生にとって非常に有意義な制度であると言えます。しかし、留学したくない学生を強制的に留学させると、学生の主体性の確立が困難になると思われます。本来の意図：「海外で異文化体験・多様な価値観に触れる」等の効果が得られず、ホームシック等の逆効果が生じる可能性があります。留学したくない学生に対しては、対処が必要だと考えられます。

世界トップスクールとの単位互換制度の実施により、本学の国際化が進み、本学で留学を体験できる環境が整うと考えられます。どうしても留学したくない学生に対しては、英語能力が十分でない等を証明できるもの(TOEIC 等)を提出させ、海外トップスクールからの留学生向け授業を受けさせる、留学生とのホームステイをさせる、留学生との討論授業の受講等の対応により、留学単位を認定する処置が良いと思われます。また、学生の主体性を重視(図 2.2.2)するために、留学したくない学生に対しても、留学単位認定のための条件(留学生向け授業の受講、留学生とのホームステイ、留学生との討論授業受講等)を選択できるように提言します。

2. 全学を通して重要な提言

全体提言4. 単位の飛び取得制度

総務部総務課のホームページ上に学内限定で公開されている資料、「平成 25 年度 第 8 回 基本構想会 議事要録」では、「基礎的な授業科目は外部試験の成績等で一定のレベルに達していれば、単位を認定することはできないか」と検討されたと記されておりました。例えば、学部 1 年生レベルである数学検定 1 級を取得し、その成績により、1 年生の微分積分、線形代数の計 8 単位を認定し、成績をつけることが案として挙げられます。

別案として、学部生が受講する数学や物理学、化学等の授業は、独学で学習できる内容であると教員が判断した場合、開講前に「飛び取得」のための試験を別途設け、その試験に挑戦し、合格すれば単位取得できる制度はいかがでしょうか。このような制度は、学業が優秀な学生にとって良いと考えられます。ただし、挑戦した場合、飛び取得試験内容と期末試験内容が異なるなどの制約をつければ、きちんと達成度を評価できると思われれます。また、別途試験を設け、受験することは、授業ではないため、学生から受験料を収める必要が生じると思われれます。そして、この「飛び取得」が可能な科目が多くなるほど、個々の学生の能力に合わせられ、より早期に研究着手可能であると期待されます。

現状分析を踏まえ、「短時間で集中的に学ぶことで、学修効果を高める」効果を助長するため、以下のような単位の飛び取得制度を提言します。

1. 学部 1 年生レベルである数学検定 1 級の取得、およびその成績により、学部 1 年生の微分積分、線形代数の計 8 単位を認定し、成績をつける。
2. 開講前に、単位飛び取得のための試験を別途設け、その試験に挑戦し、合格すれば単位取得できる制度。ただし、教員が独学で学習可能と判断した科目に限る。また、飛び取得試験は、期末試験内容は異なるという制約条件をつけ、達成度を評価する。また、飛び取得試験は授業ではないため、学生から受験料を収める。

全体提言5. 学生が教授するゼミ形式授業

約半数の学生が、主体性向上を重視する(図 2. 2. 2)ことから、授業における主体性を向上させれば、学習へのやる気が向上するのではないかと思われれます。主体性の高い授業の案として、学生が学生へ教える授業体制が挙げられます。このような授業を「ゼミ形式授業」と仮称をつけます。

学生の主体性を重視し、学生が学生へ教える授業体制(ゼミ形式授業)を可能にするよう、提言します。学ぶだけでなく他者に教えるとなれば、授業内容を十分に予習してこななければいけません。学生が学生へ教えるという主体性と、教えることによる本人の理解深化ができると期待されます。

調査設問「本学で学ぶべき(やりたい)目標を持っていますか」に対して、「とてももっている」と回答した学生は、学部生で 15.2%であったこと(図 2. 2. 3)から、受講者の約 15%は「ゼミ形式授業」に、教える側にも教わる側にも、自主的かつ積極的に参加すると予想されます。しかし、そうでない学生にとっても、教えるメリットを感じさせ、積極的に参加させる仕組みにするため、ゼミ形式授業での学生プレゼンター(授業で教える学生)になれば、成績に+10 点などのメリットを与えるよう、提言します。学生プレゼンターが 15 分間教えたのち、5 分間先生がコメントし、授業を展開するような、「ゼミ形式授業」の設置を提言します。

全体提言6. 学部高学年次の学習意欲向上—レクチャーシアター・tutor 制度

学部1年生の科学技術への興味・向上心を高めることは重要ですが、学習目標をはっきり持っていることと、科学技術への興味・向上心が比例関係にあるならば、学部2～4年生の科学技術への興味・向上心が、学部1年生より少々低いと思われる。

※「本学で学ぶべき(やるべき)目標をはっきり持っていますか」という調査設問に対して、「とてももっている」もしくは「もっている」と回答した学生は、学部1年生で56.4%であり、学部2～4年生で49.6%でありました(図2.2.3)。

したがって、学部1年生のみならず、学部2～4年生も、レクチャーシアターを受講できるようにすることが必要だと考えられます。学部2～4年生もレクチャーシアターの受講を推奨することが良いと思われます。しかし、レクチャーシアターを学部生全員が受講することは不可能である恐れがあり、別の方法で学習意欲向上を促進させる事柄を考えます。やはり、本学の最大の魅力は研究(図2.2.4)であり、学部高学年次の学習意欲向上は、早期研究着手、すなわちtutor制度の実現と大いに相関関係があると思われます。

全体提言7. 学生の主体性向上のための、学内業務広報

本学学生が、本学の一員となって貢献することで、本学への帰属意識を高め、かつ内側からやる気が出る(主体性)教育改革体制にするためにも、学内業務の広報強化および、学生モニター、tutor制度等の実施は重要だと思われます。これらは、学生が主体的に学習・活動をすることが前提です。

図2.5.1は、設問「学勢調査2014をどこで知りましたか。」の回答結果を示しています。東工大メールニュース、ホームページの宣伝効果が高いことが読み取れます。学勢調査2012までの設問:「学校関連情報の情報源はどれですか。」という回答結果のうち、2008年度・2010年度は「友人」、2012年度は「OCW & 教務WEB」であることから、近年の学内オンラインシステムの充実されていることが言えます。

TA・RAやピアサポート、学勢調査等の学内業務をやって、学んだこと、得られたこと、充実だった理由等をインタビューし、東工大メールニュースや、本学のホームページに載せることで、広報業務の宣伝効果が高いことが予想されます。学内業務経験者へのインタビュー、並びにその記事のホームページ記載を提言します。学生モニター、tutor制度が実現されれば、その宣伝も提言します。学生が活発にかつ主体的に活動することによって、帰属意識が高まり、学生自身の活気が現れると思われる。

学勢調査2014をどこで知ったか

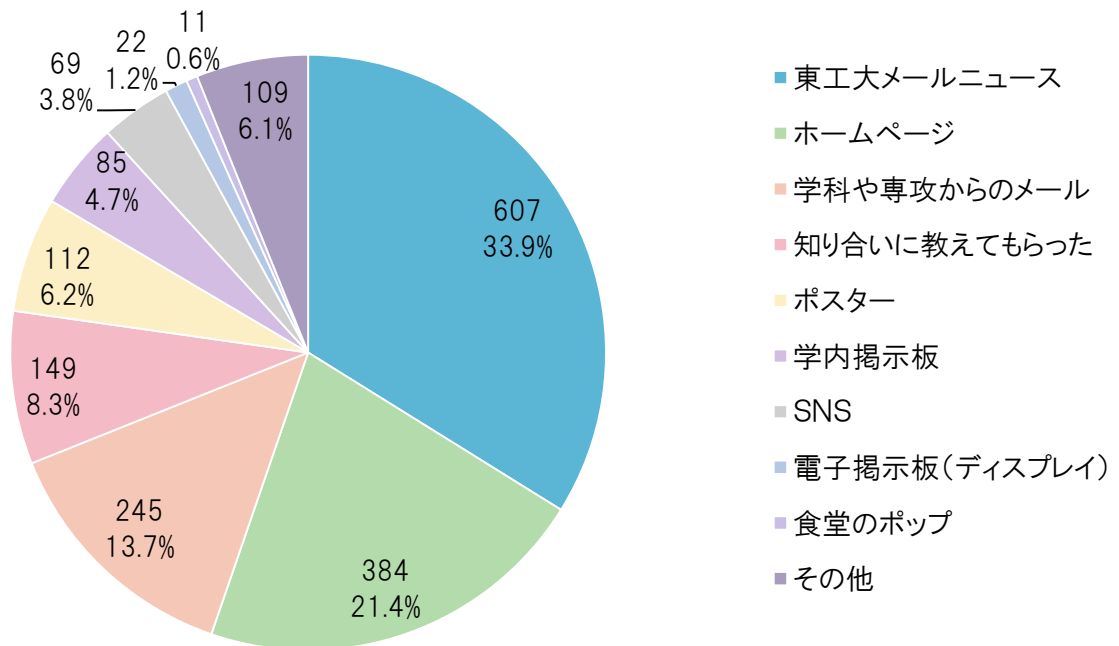


図 2. 5. 1 学勢調査 2014 を知ったきっかけ

全体提言8. 本学の理念・文化浸透

- “創り拓く理系人たれ”
- “理系であることに自信を持っていること”
- “理系であることに誇りを持っていること”

上記の本学の理念を、入学選抜要項に載せるだけでなく、入学式や卒業式においても言及され、正門付近に本学の理念が記述された石碑をキャンパス内に設置すれば、本学の理念が浸透され、本学への帰属意識を高める効果につながると思われます。

また、教育改革を通じて、本学独自の特色を全面に出していくことで、本学独自の文化が確立されるのではないのでしょうか。国内大学で留学生割合が最多(13%)であること、世界トップスクールとの単位互換制度による国際的なキャンパス、学勢調査 2014 に提言された tutor 制度による教育研究の質の向上等の事柄が、創り拓く理系人たる本学学生にこそ相応しい文化であり、他大学では真似できない教育体制であることを、学内・学外に全面的に押し出し、宣伝することが重要だと思われます。

以上により、本学の理念・文化浸透によって、本学学生と卒業生は、「東工大に入ってよかった」と思える大学になると期待できます。

全体提言9. 駅名改名 & Tokyo-tech 全面使用による知名度向上

東京都内で最も使用される交通機関は電車であることから、本学大岡山キャンパスの最寄り駅である、大岡山駅を東工大前駅もしくは工大前に改名することにより、東京都内での知名度はある程度上昇すると思われます。東大前駅、都立大学駅、学芸大学駅はあるため、東工大前駅もしくは工大前があっても不自然ではないと予想されます。近隣住民の反対等によって、大岡山駅の名称を変えられない場合は、大岡山駅(東工大前駅もしくは工大前駅)でも、東京都内への宣伝効果はあると思われます。

駅名に大学名がある首都大学東京と東京学芸大学の名前が、**表 2. 4. 1**に上がっていない理由として、双方とも国公立大学であること、首都大学東京(旧称:東京都立大学)の新名称を広められていないこと、そして東京学芸大学は、東京〇〇大学という名称だからではないかと思われます。

本学のホームページを参照しますと、東工大・Tokyo-tech が本学の正式略称になっています。東工大という略称は、東京工科大学等の他大学と間違われる恐れがあります。一方で Tokyo-tech という略称と似ている大学名はなく、間違われな
いと思われます。つまり、日本語で大学名を表現する際、“東京工業大学”や“東工大”という名称よりも、“Tokyo-tech”を全面に出していくことを提言します。それにより、大学名を聞く人の印象に、より残るのではないのでしょうか。

3. 学習関連

3.1. カリキュラム

3 学習

1 カリキュラム

提言 3-1

学生のコミュニケーション能力の強化

学生の意見

- No friends for discussion, no senpai for discussion.
- 学科の中でしか知り合いができない。学科の中でも知らない人が多い。だから、もっとコミュニケーションを取る授業が必要だと思う。学生vs教授で戦うような、東工大独特の制度とか。みんなで異分野に挑むとか。
- 学生同士の知り合いを増やすことはお互いの学力向上の上でも大切なことです。専門の異なる人と協力して課題に取り組む体制を類や学科の頃から身につけられるカリキュラムの導入を求めます。

(同意見 37 件)

現状分析

学生間の連携強化のためには、学生のコミュニケーション能力の向上が有効だと考えられます。また、教育改革が目指す「卓越した専門性に加えてリーダーシップを備えた理工系人材」の育成にはコミュニケーション能力の向上は不可欠です。調査項目「コミュニケーション能力の向上」について図 3. 1. 1 のように 5 または 4(充実している)と回答した学生は 218 人(12.2%)です。それに対し 896 人(50.0%)の学生が 2 または 1(充実していない)と回答しています。また、学科に所属する学生のうち 22 人(5.2%)が 5(充実している)または 4 と回答し、396 人(62.3%)が 2 または 1(充実していない)と回答しています。このことから、東工大のカリキュラムのうち特に学科において、コミュニケーション能力の向上が必要であると考えられます。

このことを踏まえ、教務課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 講義中にグループワークを行う講義はどのくらいありますか。

A1. 学部におけるグループワーク等を含む講義は、2012 年度の学勢調査では次の表 3. 1. 1 & 表 3. 1. 2 のとおりです。

授業—コミュニケーション能力向上についての印象

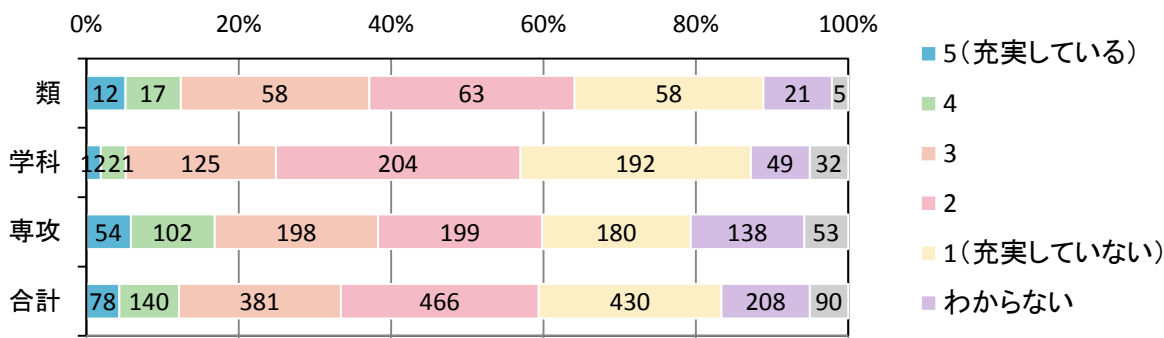


図 3. 1. 1. コミュニケーション能力の向上

表 3. 1. 1. 学部の講義におけるグループワークなどを含む割合

	授業科目数	GW などを含むもの	割合
全学科目	870	403	46.3%
専門科目	727	129	17.7%
合計	1597	532	33.3%

表 3. 1. 2. 大学院の講義におけるグループワークなどを含む割合

対話討論型	PBL/GW 型	フィールド型	実験・実習型
506	207	105	326
22%	9%	5%	14%

学部の講義のうち 33% にグループワークなどが含まれていることが分かりました。しかしながら、例えば期間中 1,2 回ディスカッションを行う講義と、毎回ディスカッションを行う講義とでは効果は異なってきます。学部 3,4 年次において文系科目などを履修する必要性が少ないことが、学科所属後のコミュニケーション能力の向上に対する充実度の低さに影響していると考えられます。実際に半数の東工大生がコミュニケーション能力の養成が「充実していない」と感じていることから、更なるコミュニケーション力の強化が必要であると考えます(図 3. 1. 2)。

以前の調査との比較

前回の調査でも「学生参加型の講義の充実」を提言しました。今回の調査の選択肢 4 と 5 を前回の「充実している」、今回の調査の選択肢 1 と 2 を「充実していない」と読みかえれば、充実していると答えた学生の割合は 6.4% → 12.2% と増加しており、充実していないと答えた学生の割合は 58.0% → 50.0% と減少しています。これは、2012 年にリベラルアーツセンターが設立されたことも一因と考えられますが、学科における充実度は低い状況が続いていると言えます。

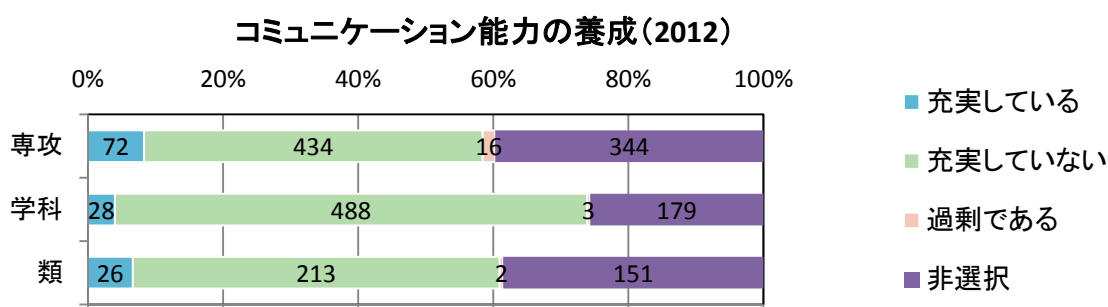


図 3. 1. 2. コミュニケーション力の養成(2012)

3. 学習関連

提言

アクティブ・ラーニング等のコミュニケーション能力の深化に役立つと思われる講義の増強・増設を提言します。受講者同士のグループワーク・ワークショップによって、他学科の学生との連携強化や、学生同士での切磋琢磨などの効果が期待されます。特に学部 2～4 年次における、継続的なコミュニケーション能力の向上が必要とされます。この時、ディスカッションに本質的に抵抗感のあるシャイな学生へのケアも重要です。

また他の学生の交流を持ちたいと思っても、自ら行動を起こすのをためらってしまう学生もいると考えられます。そこで、各学科・専攻内での学生幹事の任命を提言します。研究室間、学科・専攻内の交流イベントなどを行うことによって、一層の連帯感が生まれると考えられます。

学生の意見

- 授業の目的意識を明確にする。
- 教育活動において、学生に「機会」を与えることは重要ではあるものの、目的意識のない講義では役に立たない雑学としてしか、身に付かないのではないかな？
- 一年次の学生に対する教育の方針として、単に知識を提供するだけでなく、各々の科目の意義(実際にその知識がどう使われているか)を教えてくれる先生が増えたらいいなと思います。

(同意見 23 件)

現状分析

図 3. 1. 3 は、全回答者を対象に学部 1 年生の学習意欲向上に有効と思われる事柄を選択させた結果を示しています。「研究室体験関連授業を増やす」「専門科目を増やす」の回答が多いことから、低学年でも研究の最前線の内容を学習したいと考えている学生が多数であることが予想されます。裏を返せば、1 年次で理工系基礎科目を学ぶ意味が明確に学生に伝わっていないことの表れであるとも言えるかもしれません。

学部1年次の学習意欲向上に有効と思われるもの

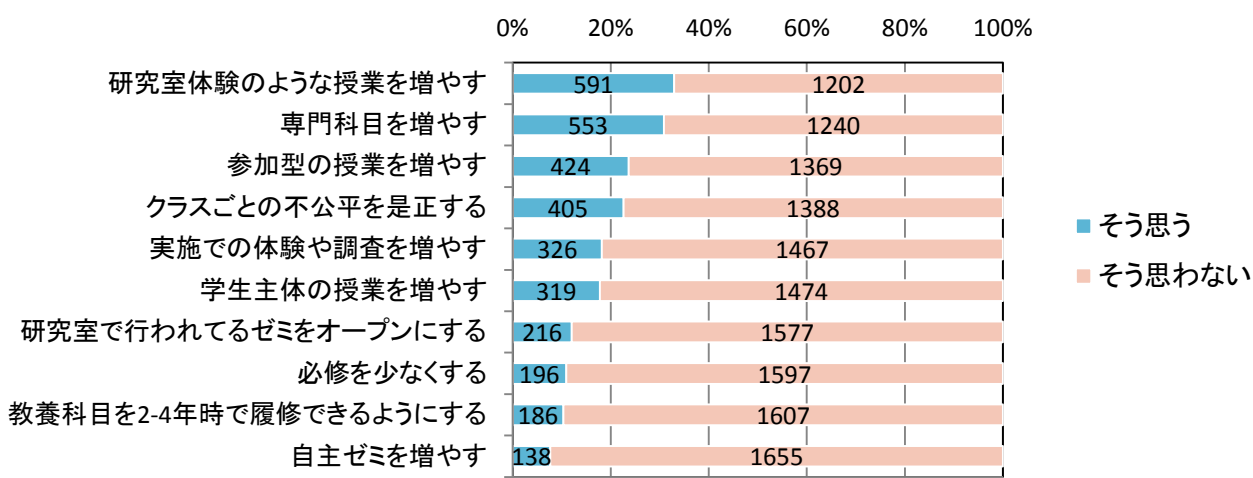


図 3. 1. 3. 学部 1 年次の学習意欲向上に有効と思われるもの

このことを踏まえ、水本副学長と学務部とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行い、回答を頂きました。

Q1. 何を学ぶとどんなことを身につくのかということを知知するために何をされますか。

A1. 2016年後の教育改革後は、シラバスの中に「これを学んだらどう役に立つのか」「どのような力を身につけて欲しいのか」を明示するようになります。また、「身につく力」を分類して講義ごとにシラバスに載せることになります。試験はシラバスに書いてある ことを問うようなものになります。

3. 学習関連

以前の調査との比較

2005年度の学勢調査以降、「学部1年次の学習意欲向上に有効と思われる事柄」を調査しています。過去5回の学勢調査でいずれも「研究室体験のような授業」が最も有効であるという結果が出ています。図3.1.4は「研究室体験を含む授業の学習意欲に対する効果」に対する回答数の推移を示しています。2008年度の調査から「そう思う」と回答した学生の割合は減少していますが、調査項目の選択肢が増えたためとも考えられます。この結果から、学部1年次においては、理工系基礎科目が何の役に立つのかよく理解できない状況が続いていると考えられます。

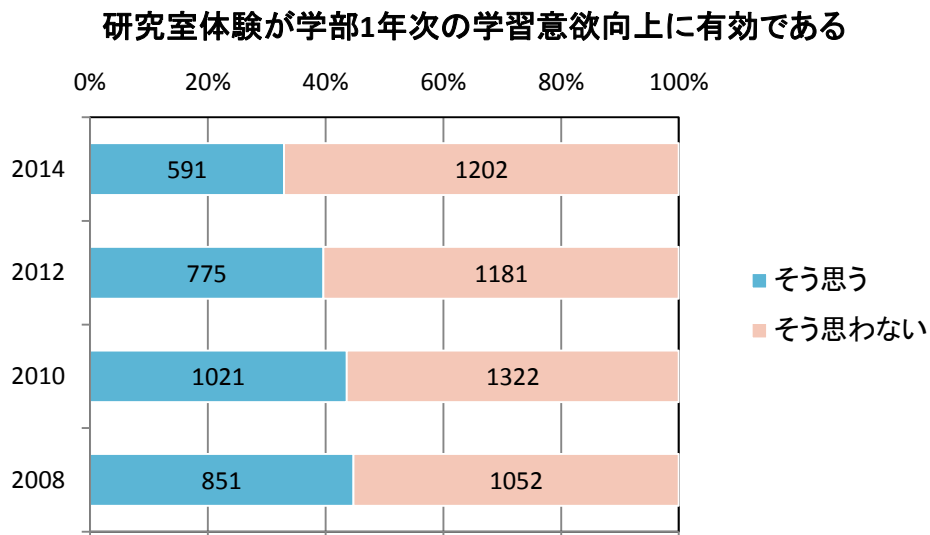


図 3. 1. 4. 研究室体験が学部1年次の学習意欲向上に有効である

提言

1. 理工系基礎科目を学ぶ理由を明確化するために、講義間の関係が簡潔に見えるようなカリキュラム一覧表(学院制度での系ごとに)の作成を提言します。また、講義の目的・その先の研究での応用などを、学部1年生の授業で伝えることを提言します。

参考として、他大学で使用されているカリキュラム表を掲載します。

参考 URL:

<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/math/curriculum.html>(信州大学のカリキュラム)

<http://www.kikaib.t.u-tokyo.ac.jp/komaba/curriculum>(東京大学のカリキュラム)

<http://physics.sc.niigata-u.ac.jp/school/carriculum.html>(新潟大学のカリキュラム)

2. 学士論文研究発表をより大規模に開催し1~3年生を可能な限り招待すること、もしくは、秀逸な研究をした学生を選抜しレクチャーシアターにて下級生向けの発表会を開催することを提言します。これにより、1~3年生にとって今学んでいることがどのように研究に役立つのかが明確になると考えられます。

学生の意見

- 大学院進学に当って奨学金のことやリーディング大学院のことなどを調べたが、挙げられたプログラムは全部知らない。
- もっとわかりやすく、目に触れやすい場所においてほしい
- 情報がなさすぎ もっと周知させるべき
- Tokyo Tech should more advertise their graduate-school programs.
- 新しいプログラムが既存のものとは何が違うのか、できること、できないことはなんなのかという一覧表がほしい。それぞれのパンフレットでは情報が少なく判断しづらい。

(同意見 27 件)

現状分析

さまざまな大学院教育プログラムの認知度を調査しました。図 3. 1. 5 をみると、博士一貫教育プログラムの認知度は 54.9%です。認知度が 20%にも満たないプログラムもあります。一方、学部生対象の教育プログラムである「四大学連合複合領域コース」と「グローバル理工人育成コース」の学部生の認知度はそれぞれ 82.5%と 71.0%であり、大学院対象の教育プログラムよりも認知されています(図 6. 2. 17)。

大学院教育プログラムのうち知っているもの(大学院生)

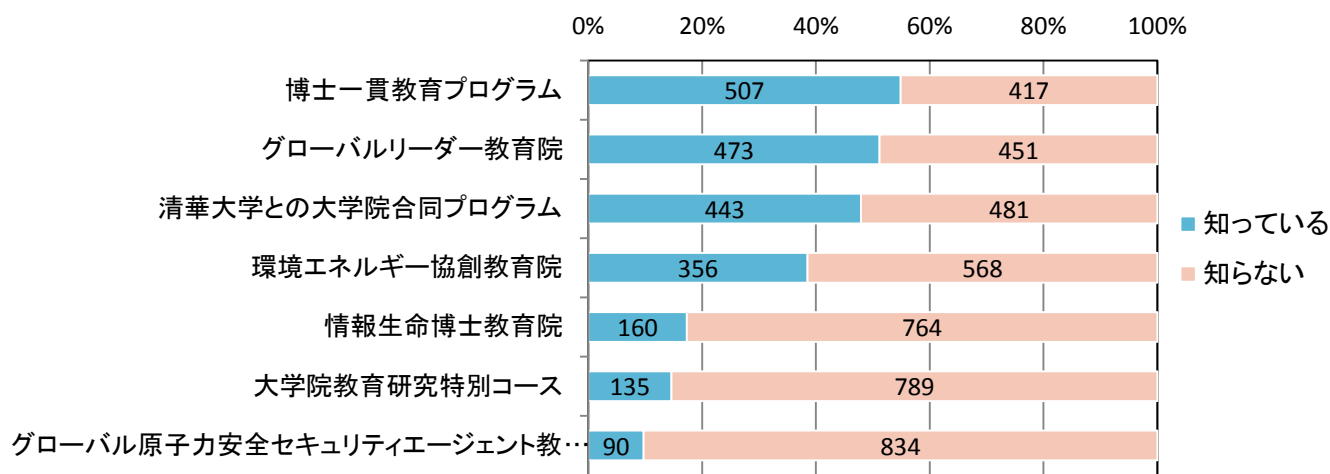


図 3. 1. 5. 大学院教育プログラムのうち知っているもの(大学院生)

教育プログラムについては大学院入学式で配布される「大学院学習案内」に一覧が載っている(図 3. 1. 6)ものの、冊子自体が分厚く内容も複雑であるため、目を通す学生が少ないと考えられます。いくつかの教育プログラムのチラシは配られているものの、個別に配布されているため、全体を俯瞰することが難しいと考えられます。また、東京工業大学 HP にも一覧は載っていますが、教育プログラムの存在を認知していなければたどり着くことは難しいと考えられます。

VI リーディング大学院 学習案内及び教授要目

1. グローバルリーダー教育課程

【教育課程の概要】

科学技術や経済のグローバル化がますます進む 21 世紀において、これらを持続可能な形で発展させていくためには、自らが専門とする分野のみならず、自国の文化や他国の歴史、人々の考え方などにも深い造詣を有し、国や組織を超えて社会を牽引できる国際的なリーダーの存在が不可欠である。

本教育課程では、本学の特長である深い専門能力を背骨としながら、それを他分野の科学技術の発展に波及させるための素養と、我が国と世界の文化や技術マネジメントに関する知識、あるいはコミュニケーションスキルなどの人間力を育み、科学技術のみならず、政治や経済、国際関係を含めた各界のリーダーとして活躍する国際的博士リーダー人材を育成することを目標としている。

この目標を達成するため、本教育課程では、学生が所属する専攻における専門課程の教育に加えて、リーダーシップ基礎科目、道場科目、オフキャンパス教育科目を履修することを求める。特に道場科目では、専門分野の異なる学生のグループワークにより、コミュニケーションやリーダーシップ能力の涵養だけでなく、他者の成果を理解し、自らの専門分野に対する自信を高めることが期待される。さらに、本教育課程の修了に際しては、所属する専攻における専門課程での修了審査に合格することに加えて、グローバルリーダー教育院が実施する「ディフェンス」において様々な分野の教員団に自らの履修成果の社会的意義や将来構想を説明し、国際的リーダー人材として十分な素養を身につけたと評価されることを求める。

このような教育課程を所属専攻における専門課程と両立させるため、本課程では原則として修士・博士一貫型の教育体系を採る。また、本教育課程に所属する学生の授業料は免除する。

【対象】

本学に在籍する修士課程学生。

ただし、本教育課程に所属するためには、

- リーダーシップ基礎科目群から 4 単位以上を修得し、後学期開始前に実施される選抜試験に合格すること
- 所属専攻の指導教員から、本教育課程への所属についての承諾を得ることが必要である。したがって、本課程への所属は修士課程 1 年次後学期以降からである。本課程への所属を希望する学生は、リーダーシップ基礎科目群の履修申告を行い、4 単位以上を修得しておくこと（所属を希望する年度の 9 月末までに修得する見込みの者を含む）。

【選抜方法】

志願者を書類審査の上、合宿形式の選抜試験を実施する。選抜試験においては、提示される課題に対する調査研究とその成果の発表、グループワークによる調査研究と成果の発表を課し、グローバルリーダーとなるための素養と姿勢を評価する。

【修了認定】

在籍する専攻における博士後期課程修了認定に加えて、本教育課程科目から 16 単位以上を修得し、グローバルリーダー教育院が実施するディフェンスに合格することを要件とする。修了要件を満たした場合は、本教育課程の学位記を授与する。授与する学位は所属する専攻の学位に準ずる。

【問い合わせ先】

ご不明な点は下記担当までお問い合わせ下さい。

グローバルリーダー教育院事務室

TEL：03-5734-3116

E-mail：agl.jim@agl.titech.ac.jp

図 3.1.6. 大学院学習案内の 1 頁

以前の調査との比較

なし

提言

大学院教育プログラムの一覧を掲載した冊子を作成し、大学院入学式にて配布することを提言します。各教育プログラムの HP は内容・デザインがとても充実しています。このようなデザインを活かした冊子を配布すれば、より大きな広報効果が得られると考えます。また、学生も教育プログラムの全体像を把握しやすくなると考えられます。また、教育プログラム担当部署の方が募集時期に各研究室を回るなどの広報活動の強化も提言します。

3.2. 授 業

3 学習

2 授業全般

提言 3-4

授業評価アンケートの公開

学生の意見

- 一部の教員の講義は説明不十分で、「自分と黒板との会話」になっていて、もともとなんとなくその科目名の響きだけで面白そうと思っていた科目も興味が湧かなくなり、理解するためには結局自分で勉強するしかない。もちろん全ての教員ではないが、そういう教員がいるというのを反映したいだけです。教員による当たり外れが極端に大きい。教科書に載っている内容をただ板書するだけの講義はあまり受ける意義が感じられないので少なくともそのような講義だけはしないようにしていただきたい。
- Lecturers teach to whiteboards and projector's screens not students.
- もっと授業が interactive になればいいと思う。ノートをただとって、終わりなんて授業はあまり好きではない。もちろん、学生側にも改善の余地が大いにあるが。

(同意見 38 件)

現状分析

図 3.2.1 に見られるように 1793 人中 428 人 (23.9%) が履修申告をしたものの、結果的に授業に出ない主な理由として「講義に魅力がない」と回答しています。現在、大学としても、よりよい授業を行うための FD (Faculty Development) 研修や、先生方が互いに授業をチェックし合う授業参観や授業評価アンケートなどにより、教育の質を高める努力をしています。授業評価アンケートの結果は、教員にフィードバックされ、教員がその結果に対し改善案を提示することで授業の質を高めると期待されています。アンケートの結果は科目別(文系科目・理工系広域科目など)の平均点のみについて公開されています。講義ごとの評価結果は公開されていないので、実際にアンケートの結果がどのように反映されているのかは、学生の目線からは不透明です。

履修申告をした授業に出席しない理由

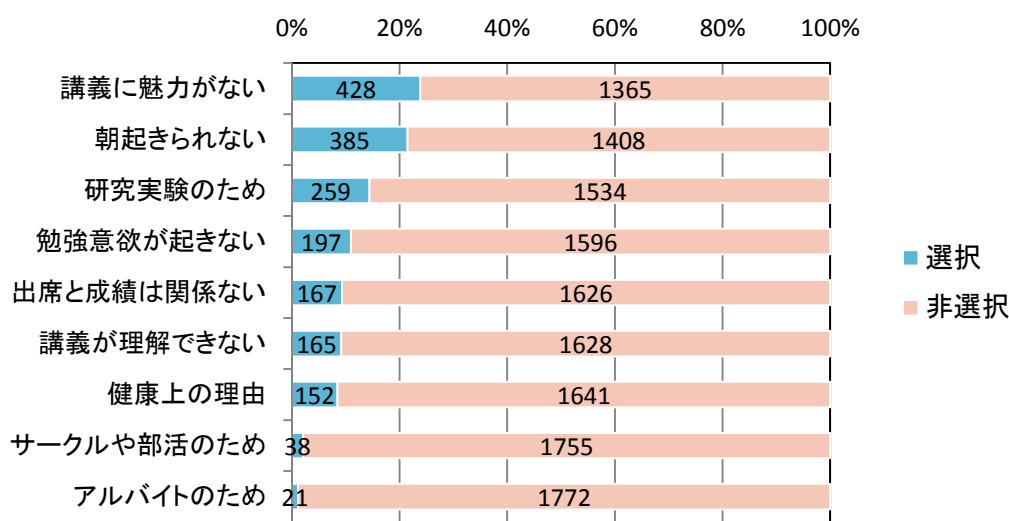


図 3.2.1. 履修申告をした授業に出ない理由

3. 学習関連

これを踏まえて水本副学長・学務部とのキャンパスミーティングを行い、以下のような回答を頂きました。

Q1. 授業評価アンケートの回答率はどのくらいですか。

A1. 紙ベースで取っていたときは平均して 50～60%程度です。出席率に比例します。WEB での回答に切り替えた後は約 20%弱に低下しました。アンケートの質問を改良する必要があります。(教務課)

A1. 平成27年度から評価項目が変わり、答えやすくなるはずです。(水本副学長)

Q2. OCW に授業別に授業評価アンケートの結果を載せることはできませんか。

A2. 現状では難しいです。(教務課)

現在、授業評価アンケートは学生には公開しないという前提で行われています。また、平成27年度から学生の GPA 分布をもとにした教員側への講義のフィードバックが行われる予定です。

以前の調査との比較

学勢調査では 2005 年度から「授業に出ない理由」を問うていましたが、いずれの調査でも「講義に魅力がない」が最多意見でした。図 3. 2. 2 はその経年変化を示しています。2010 年度以降の講義に魅力がないと思う学生の割合の減少は、FD 研修や授業評価アンケートの成果と言えるかもしれません。これからも更なる改善が期待されます。

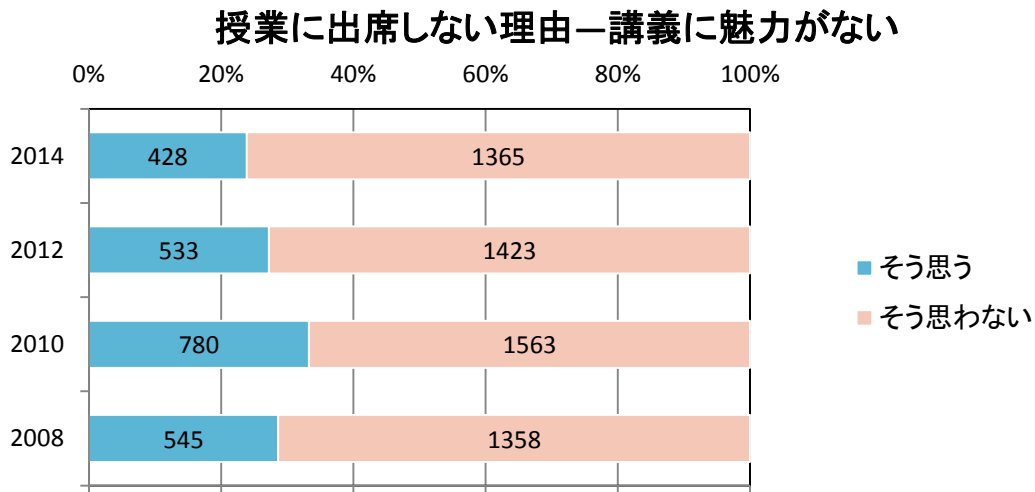


図 3. 2. 2. 講義に魅力がないと思う人の割合(2008～2014)

提言

1. 授業評価アンケートの回答率向上のために、授業最終日にアンケート回答のための時間を設けることを提言します。
2. 授業評価アンケートの結果を個々の授業について OCW の講義シラバスにて公開することを提言します。学生の評価が公開されれば、授業評価アンケートに答える意欲が増し、より信頼性の高い回答が得られると考えられます。また、学生目線での評価を見ることができれば、学生の講義選択の参考にもなります。

3 学習

2 授業全般

提言 3-5

文系科目の改善

学生の意見

- 文系基礎科目の科目設置数が少なすぎる。客員教員をより多く招くことで魅力的な科目を増やし、より学生を分散させるべきであると期待される。
- 卒業に文系の単位が 18 単位も必要なのに、選択肢が少ないので増やしてほしい。

(同意見 14 件)

現状分析

人気の授業に人が偏っており、履修制限のため希望の科目を受講できない状況が頻繁に起こっているという指摘がありました(人気の授業では、先生1人に対し学生 200 人以上など)。

平成26年度、東工大では 147 の文系科目(総合科目などを含む)が開講されました。卒業に必要な文系科目は9科目 18 単位なので約 150 の文系科目から 9 つを選択することになります。

学生からの具体的な開講要望としては、起業ワークショップ(10 名)や歴史(6 名)がありました。

平成 28 年度以後は「リベラルアーツ研究教育院」が学士～博士課程を通して教養系科目を提供する予定です。

※参考:http://www.titech.ac.jp/news/pdf/tokyotech_gakuin_201412.pdf

以前の調査との比較

学勢調査 2010 では「5.6.2 文系科目への要望」において文系科目の充実を提言しました。しかし、**図 3. 2. 3**に見られるように、教養系科目数はむしろ減少しており、大きな改善は見えないようです。

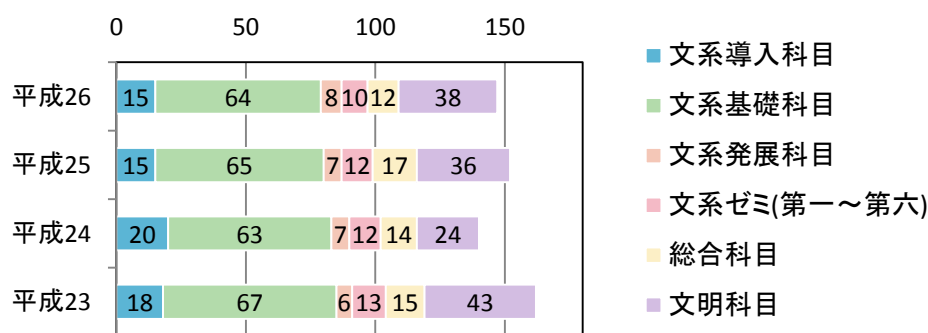


図 3. 2. 3 教養系科目数の推移(休講を除く)―(平成 23 年～26 年)

3. 学習関連

提言

1. 人気のある授業を複数回開講することで、学生の分散を図ることを提言します。学生の過密化は学生のストレスになるだけでなく、講師 1 人あたりの学生数が多くなるため、講義の質にも悪影響があると考えられます。平成 28 年度からクォーター制が導入され、例えば同じ授業を第 1,第 3 クォーターに実施することなどが可能になると考えられます。
2. 平成 28 年度より設立されるリベラルアーツ研究教育院内に、学生からの教養科目新設などの要望を吸い上げる組織を置くことを提言します。
3. 一定数の学生の希望により文系科目を設置できるようなシステム作りを提言します。希望した学生は必ず受講すること、講師は学生が主体的に招聘することなどのルールは必要であると考えられます。
4. 四大学連合の提携大学の先生が互いの大学に出張して授業を行なうことの検討をお願いします。大学として提携している大学の先生に出張していただくことの検討をお願いします。四大学連合があるものの、距離的な制約が他大学での受講の妨げとなっています。

学生の意見

- すずかけ台で受講できる教養科目、文明科目が多くあると嬉しい。 (同意見 6 件)
- すずかけ台での外国語の授業の選択肢が狭すぎる。 (同意見 4 件)
- 大岡山-すずかけ台間の距離が離れているため、興味があっても受けることが困難な科目がある。遠隔講義を増やしてほしい。 (同意見 3 件)

現状分析

教育改革後の 2016 年度より、全ての学部の授業が大岡山キャンパスで行われるようになります。それと同時に、修士・博士課程においても教養系科目の履修が必要になります。2014 年 5 月現在、すずかけ台キャンパスの生命理工学研究科には 433 人、総合理工学研究科には 1612 人の学生が所属しています。すなわち、約 2000 人の学生がすずかけ台キャンパスにて研究を行っていることを踏まえると、依然としてすずかけ台キャンパスにおける教養系科目開講の必要性はあると考えられます。

以前の調査との比較

なし

提言

教育改革以後も、すずかけ台キャンパスの研究室に所属する学生向けの教養系科目・語学科目などを開設することを提言します。また、映像配信や遠隔授業の増強の検討も提言致します。特に文系科目では、人気のある授業をすずかけ台キャンパスで、映像配信等により開講することで、学生の分散にもつながるのではないのでしょうか。

学生の意見

- プレゼンテーション能力が向上できる科目をもっと増やしてほしい。 (同意見 16 件)
- レポートや論文の書き方についての授業がほしい。 (同意見 19 件)

現状分析

「本学のカリキュラムに追加してほしい科目がある場合、具体的に記述してください」という質問に対して、論文の書き方についての授業をしてほしいという意見が 8 件、プレゼン能力の向上のための授業をしてほしいという意見が 8 件ありました。

このことに関して教務課とキャンパスミーティングを行い以下のような回答を頂きました。

Q1. 論文の書き方やプレゼンの方法をきちんと教えている学科はどこでしょうか。

A1. 学部においては、論文の書き方やプレゼンの方法等を行う科目について、シラバスにその旨が記載してあります。(例)物理学コロキウム(物理学科)、有機材料工学コロキウム(有機材料工学科)、無機材料コロキウム(無機材料工学科)、技術者英語、応用化学コロキウム(化学工学科)、技術論文(Lゼミ)(電気電子工学科)、科学技術者実践英語(情報工学科)、土木・環境工学特別演習、土木・環境工学コロキウム(土木・環境工学科)、アカデミック・プレゼンテーション(国際コミュニケーション)等。

Q2. 科学技術者を育成している東工大として科学技術者倫理に関してどのように取り組んでいくのか、またその必修化についてどうお考えでしょうか。

A2. 2014 年 7 月より、剽窃チェックツールを本学で導入し、博士論文に対し指導教員が確認を行うこととしております。予算の関係上、現在は博士論文に対してのみチェックしています。

一部の学科ではプレゼン能力の向上を目指す科目があることが分かりました。一方で、論文・レポート指導についてシラバスで明言されている科目は「技術論文(Lゼミ)(電気電子工学科)」のみでした。また、講義でレポートが課されることは多いですが、提出したレポートが学生に返却されることは少ないです。そのため、レポート執筆技術をどのように向上させるかは自分なりに考えるしかない状況にいる学生が多いと考えられます。

以前の調査との比較

なし

提言

学部 1 年次の文系科目において、レポートの添削、返却を義務化することを提言します。レポートの添削結果を見ることで、学生自らがレポート執筆技術を向上させていく指針が得られると考えられます。一部の学科ではレポート指導がカリキュラムに組み込まれていますが、多くの学科では 4 年次以降の研究室での教員の裁量によるところが大きいと考えられます。2, 3 年次においてもレポートは書くので、方法論を学ぶのなら早い方が良いと言えます。2016 年度創設予定の必修文系科目における指導は最も効果的だと考えられます。

3.3. 国際教育

3 学習

3 国際教育

提言 3-8

講義の英語化

学生の意見

- Increase the number of courses in English.
- Tokyo Tech should be more international, and be more English based.
- 理系こそ英語が必要だ、と叫んでいるわりには英語力を向上させる気が感じられない。必修の授業数、授業内容ともに不満である。また、必修科目の中に英語で開講するものを増やすべきである。(今年から理工系基礎科目が英語で履修できるようになったのは評価している)
- 英語の本で授業を行って欲しい。MIT と CALTECH のようなトップ大学を目指している東工大がグローバル化を目標としているところで、授業で英語を一切使っていないことはそれに矛盾していると思います。

(同意見 12 件)

現状分析

専門科目の授業を英語で行ってほしいなどの意見が 9 件ありました。理工系分野の国際学会では英語が公用語であり、研究では専門用語を主に英語で表現するため、大学院の学生にとって非常に役立ちます。一方、学部教育において、全てを英語化してしまうと、学生側の理解度が下がる恐れがあります。

これらの意見を踏まえ、教務課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 全面英語で行われている専門科目はどれくらいありますか。

A1. 大学院については、現状 900 程度(全体の 40%程度)の英語科目が用意されており、国際大学院プログラムといった英語開講の講義のみで修了可能なコースもあります。また、学部においては、英語で行われている科目は、平成 26 年度は学部では 42 科目(全体の 3%程度)です。今年度、学部では新たに一部の理工系基礎科目で英語クラスを開講しました。

Q2. 学部授業の全面英語化について実現可能性はどの程度あるでしょうか。

A2. シラバスについては、平成 28 年度からの切り替えを目標として、すべてのシラバスの英語化を現在検討しています。

学部の授業に関しては、「基礎専門科目」のような難解な授業をすべて英語化すると、学生の理解度が下がってしまう恐れや専門用語の日本語を身に着けられない可能性があります。しかし学部生の、英語に対するアレルギー現象を緩和するためには、英語で実施される学部授業もある程度必要だと考えられます。

大学院の授業に関しては、「教育改革」により、ほぼ全授業が英語化される予定です。教育改革を展開しつつある本学において、単位互換制度等によって、数年後には現時点より留学生数は増加すると考えられます。また、本学大学院の全授業が英語化することにより、留学生の受け入れは円滑に進むと考えられます。

3. 学習関連

表 3. 3. 1. 授業の英語化の改善点・問題点

	改善点	問題点
学部授業の英語化	・英語へのアレルギー症状を減らす効果(英語で実施される授業をある程度必修化)	・難解な講義の英語化は、理解度を低下させる恐れあり
大学院授業の英語化	・留学生の受け入れが円滑化 ・本学院生の英語表現力向上	・日本人学生が専門用語を日本語で表現できなくなる恐れあり

相当数の東工大学部生は、英語で物事を進めたくないといった雰囲気が存在します。1, 2 年向け英語授業で、英語でプレゼンを行なう LSB を選択する学生の割合は約 10%ほどであることから、全体の約 10%が英語に対して積極的だと考えられます。学部の授業の数パーセントを英語化しても、それを受講する学生は少ないと考えられます。したがって、学部の授業の約 10%を英語化し、英語で実施される授業中ある程度の授業を必修とすれば、学部生は英語と触れ合う時間も増し、英語に対するアレルギー現象が軽減するのではないのでしょうか。

上記の学部・大学院の授業を英語化することの利点と問題点をまとめると、上記の**表 3. 3. 1** のようになります。

以前の調査との比較

なし

提言

世界に通用する人材育成および、グローバル化を推進する東工大において、理学・工学分野の知識を英語で身につけることは重要です。

学部の授業において、シラバスの英語化のみならず、講義資料を日本語と英語のものを両方用意し、専門用語を日本語と英語で教育することを提言します。英語で実施する授業に関しては、3%から 10%ほどに増加させ、その授業中ある程度の授業を必修化させることを提言します。

大学院の授業において、教育改革により、全授業が英語化される予定ですが、日本人学生が専門用語を日本語でも表現できるよう、英語で実施される大学院授業の割合を現時点の 40%から、70%~90%ほどにさせていただくよう提言します。

学生の意見

- 留学はメリットがない。日本でも十分である。

(同意見 7 件)

現状分析

図 3.3.1 にまとめるように、東工大生の「留学をしたくない・できない理由」としては「語学に自信がない」が最も多く、次いで「経済的理由」「興味が無い」、「海外生活に不安がある」が多い結果となりました。

留学したくない・できない理由(2014年)

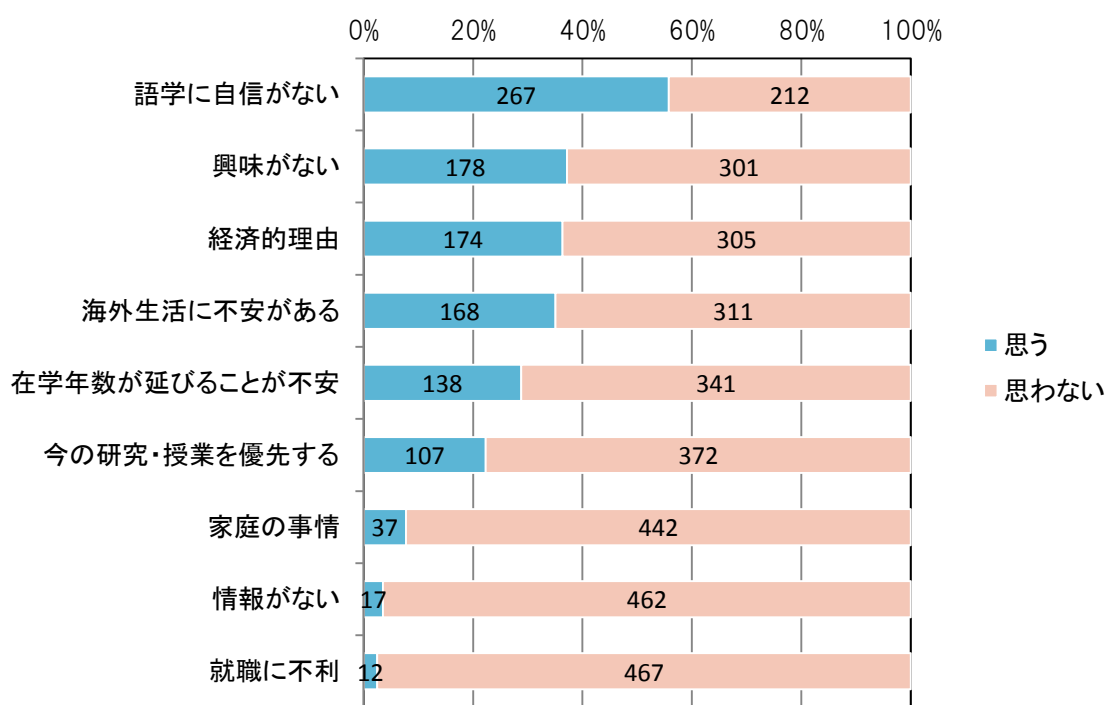


図 3.3.1. 留学したくない・できない理由(2014年)

これらの意見を踏まえ、留学生交流課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 留学に対して、教育改革の後はどうなるでしょうか。

A1. 教育改革後は留学を卒業要件にしようとする動きがあります。ただし、その留学の基準が 10 日程度の短期のものでよいのか、3 ヶ月程度のものでよいのかは未定です。

Q2. スーパーグローバル大学の資金を留学する学生の補助金として出すことは可能でしょうか。

A2. その資金から出すことは不可能です。その資金は年 4 億円程度で、留学への基盤整備には使えるのですが、学生の渡航費に出したり奨学金として給付したりすることはできません。協定を結ぶために教職員が海外に行ったりすることなどに使われます。

3. 学習関連

以上のキャンパスミーティングの結果を見ると、スーパーグローバル大学予算から留学する学生への金銭的支援は難しいようです。よって、できるだけ学生を留学させるためには語学に自身を持たせるカリキュラムを設けることや学生に興味を持たせる方法が考えられます。

以前の調査との比較

2012年度の調査でも同様の質問をしました。図3.3.2と比較すると、引き続き「語学に自信がない」が最大数です。また、「経済的理由」「在学年数が延びることが不安」と回答した人の割合は減少していますが、「興味が無い」と回答した人の割合が増加しています。2012年度の調査では4番目が高かった「興味が無い」項目が、2014年度の調査で2番目として現れています。これは東工大生の留学への興味がだんだん薄れていることを示しているとも考えられます。

留学したくない・できない理由

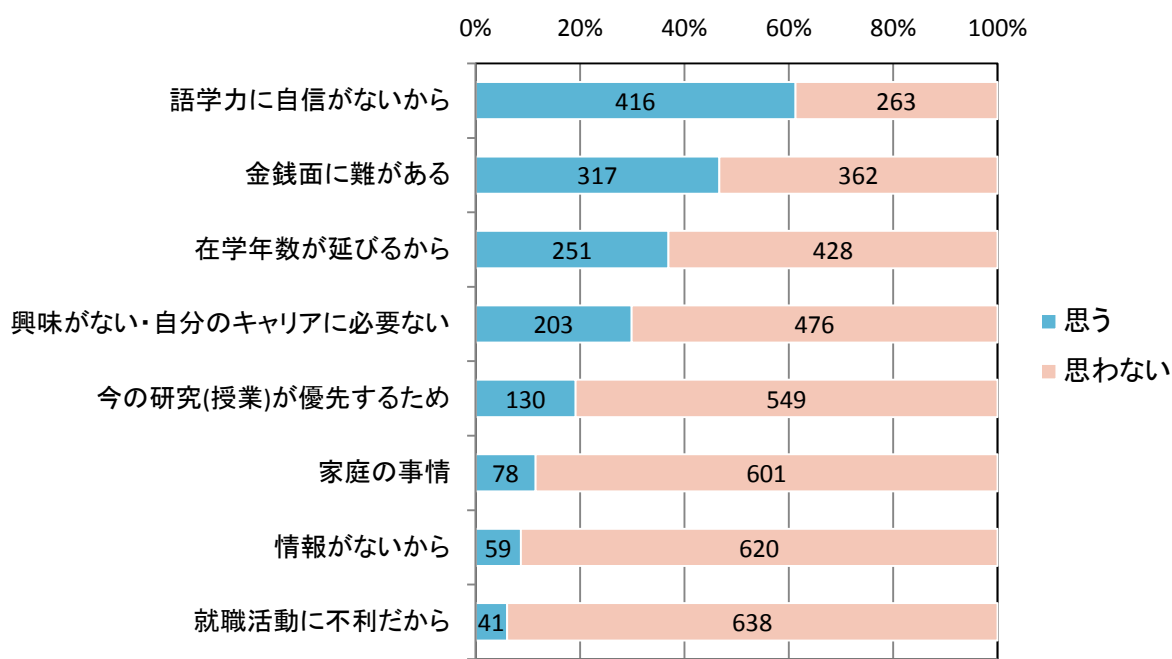


図 3. 3. 2. 留学したくない・できない理由(2012年)

提言

留学生交流課とのキャンパスミーティングによると、現在、検討している東工大の教育改革では、卓越した専門性に加えてリーダーシップを備えた理工系人材を育成するために、全学生を留学させるカリキュラムを計画しているようです。しかし、2012年度の調査との比較を見ると、学生の留学に対する興味が減少していることがわかります。そこで、語学力に対する自信と留学への興味を持たせるために1年次のFゼミ科目または必修科目などで、留学体験談の講演を行なうことを提言します。また、留学の経験を生かして世界で活躍している東工大の先輩に、留学の重要性などについて講演をしてもらうような企画を進めることを提言します。

学生の意見

- 英語の授業が先生によって全く違うので、方針を合わせてほしいです。
- 1年次の英語の講義は教員によって授業内容の差が大きく、入学時の英語能力の差も考慮されていないように感じるので改善して欲しいです。
- 英語クラスは、英語能力に役立つものでないため、英語カリキュラムの改革を行ってほしいです。
- 1学期の英語の授業のレベルが低いです。高校の英語教育の延長戦のように感じられます。学長の目指す、東工大のグローバル化はこれでは実現不可能です。（同意見 30人）
- 会話を中心とした初心者向けの外国語によるコミュニケーションの講義がほしいです。（同意見 8人）

現状分析

学勢調査の結果によると、現在の英語授業では、全ての学生のニーズを満たすことが難しいようです。その理由は、本学の学生の英語のレベルが幅広いからだと考えられます。たとえば、リスニング・スピーキングのLS授業には、リスニングを中心とするLSAとディスカッションを中心としたLSBの二つのクラスがありますが、LSBのほうがレベルの高い授業と位置付けられているにもかかわらず、その授業を簡単と感じている学生が自由記述で数人見られました。つまり、LSBクラスにはTOEICの点数が600点以上の学生が集まるとすると、700点や800点の学生たちには簡単感じられるということです。逆に、口頭表現などの授業では、レベルが高すぎて授業についていけないという学生も数人いました。

図3.3.3の本学の英語教育に対する印象を見ると、充実していないと思う人(1, 2を選んだ人)が44.4%であり、充実していると思う人(4, 5を選んだ人)は19.6%でした。

本学の英語教育に対する印象についてどのような印象を持っていますか。

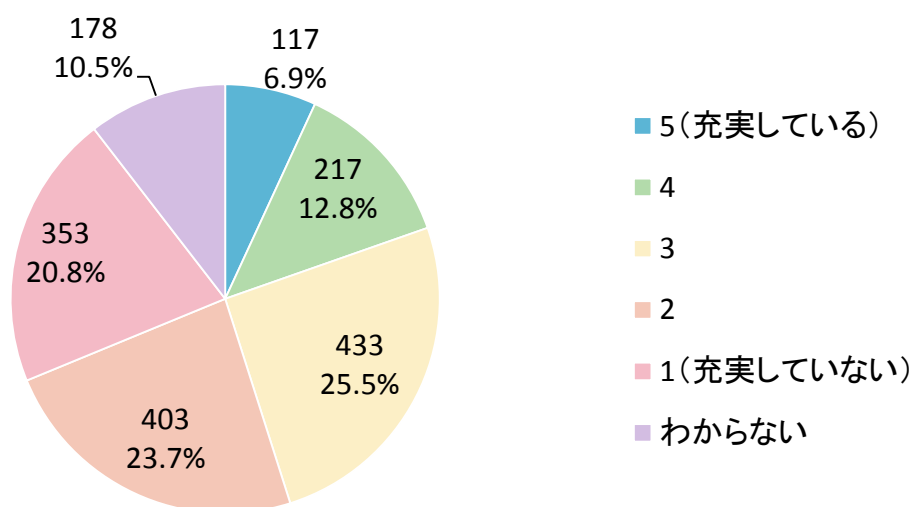


図 3. 3. 3. 本学の英語教育に対する印象

3. 学習関連

これらの意見を踏まえ、外国語研究教育センターとのキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 1年次の英語クラスについてその分け方はどうなっているでしょうか。

A1. 1年次の前期のクラスについては、外国語教育センターではなく、教務課のほうからクラスを分けて外国語研究教育センターに通知されます。おそらく性別の割合、留学生の割合などを調整して分けていると思われます。また、1年次後期においては、RW, LSA, LSBの三つのクラスに対して選択調査を行います。学生自身がどのような教育を受けたいのかを自分で組んでいくようなシステムになっています。

Q2. 上級クラスのTOEICの基準点はどのくらいでしょうか。

A2. 上級クラスは少人数を確保することを目指すため人数で切っており、基準点はその時々で学生の点数によって変わります。LSAの上級クラスが約600点程度、LSBの基準は約700点弱程度となっています。

Q3. 英語授業の成績について、先生によって大きな差があるように感じられますが、どのようなシステムになっているでしょうか。

A3. クラスによって力に差があるので平均点などによって厳密にしばることはしませんが、大きく違わないように優の割合に規定を設けることで、結果的に平均点がおおよそ合うようには工夫しています。

Q4. 同じ方針で行われる授業でも、先生によっては内容が異なる場合があるようですが、その理由は何でしょうか。

A4. 外国語研究教育センターでは、非常勤講師の先生も含め、それぞれ優れた人材確保に努めており、授業展開の方法について狭い枠組をはめるよりも、それぞれが持ち味を出来る限り発揮する方法で展開してもらっています。そのため、授業内容が先生によって少々異なったかもしれません。

以前の調査との比較

2012年度の調査では、英語教育の充実度について22.9%が「充実している」を選択し、73.9%が「充実していない」を選択しました。2014年度の結果と違いはありませんでした。

提言

現在、本学の英語教育には、英語1から4を含め、それ以外にもTOEIC対策科目やアカデミック英語科目などの専門的な選択授業が用意されています。しかし、学生から見た英語に対する印象は「充実していない」のほうに近い状況です。そのような学生からの不満は、1学期の英語1の授業の際、クラス別に異なった授業内容や学生自身にレベルが合っていないことなどから来ていると思われます。よって、英語1の多様性を生かしつつ学生の意見を反映するために、英語1の各クラスの説明会を開き、希望のクラスを選択可能であり、希望者が多い場合に抽選制度によってクラスを決めるシステムを設けることを提言します。

3.4. 単位・成績

3 学習

4 単位・成績

提言 3-11

授業内容・成績評価の公平性

学生の意見

- 国際的になろうとしているのに対し、英語のカリキュラムの内容が先生により差がありすぎるのに対し、学部時代ランダムに割り当てられ、教員間の差があるのを非常に不満に感じた。
- とにかく科目間の格差を是正して欲しい。文系科目、語学に顕著な印象がある。
- 同じ科目を履修していても、クラスによって差がありすぎる。先生を選ぶことができないならば、せめて内容はある程度揃えて欲しい。

現状分析

語学必修科目や1年次の微積分学・線形代数など、複数の教員がクラスを受け持っている科目は教員ごとに方向性や評価方法が異なっており、公平性の観点から改善を求める学生の意見が目立っています。2014年度の学勢調査の図3.4.1に示す「一年生が思う学部1年次の学習意欲向上に有効と思われるもの」によると、「クラスごとの不公平を是正する」という項目が234人の中で92人から選択され、もっとも有効であることを思われていることを示しています。

また、クラス分けが学生にとってはランダムに行われているように感じられ、自らクラスを選ぶことが出来ないのも学生の不満の原因となっているようです。

学部1年生が思う、学部1年時の学習意欲向上に有効なもの

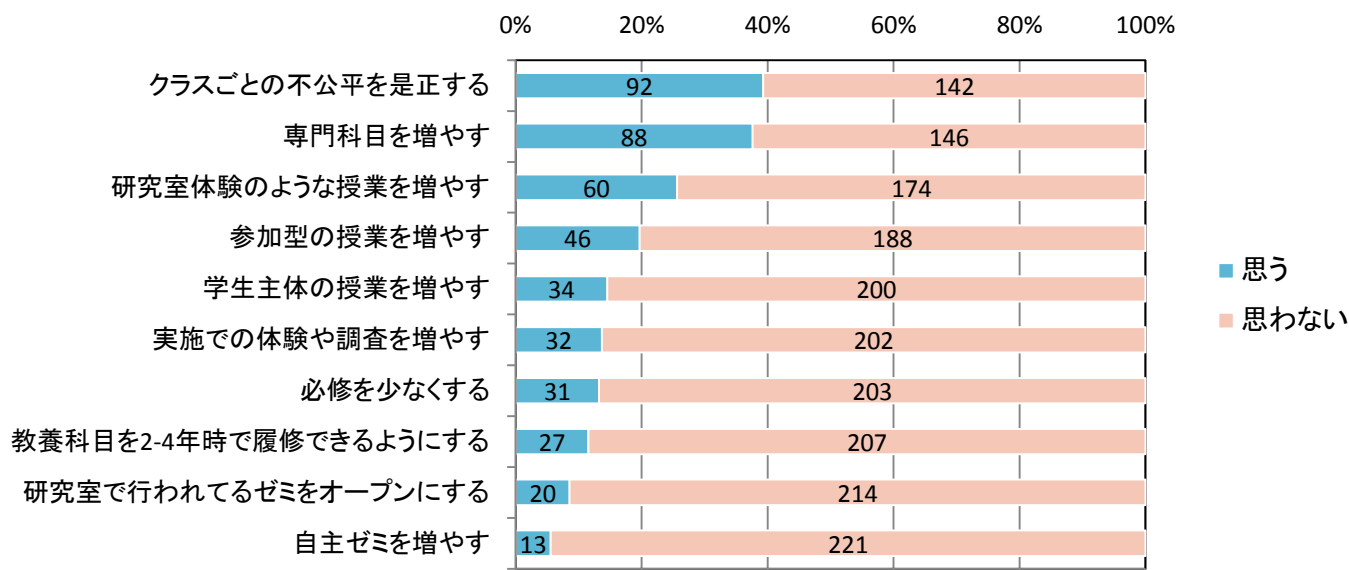


図 3. 4. 1. 一年生が思う学部1年次の学習意欲向上に有効と思われるもの

3. 学習関連

以前の調査との比較

学勢調査 2012 提言書の「5.4 単位・成績」において、具体的な講義についての成績評価基準の見直しについて提言しています。

提言

まず、学生側に授業を選択させるのが難しい科目では、学勢調査 2012 の「5.4.1 成績評価について」の提言と同様に、講義の方向性を合わせるために、各クラス間の中間試験及び期末試験問題を統一することを提言します。

ただし、科目によっては、能力別あるいは目的別クラス制を採用し、クラスごとにシラバスを提示して各教員の授業の方向性や評価方法を明らかにし、様々なレベルや内容の授業を用意して学生が受けたい授業を選択できるようにすることを提案します。たとえば、一年次の「線形代数学」の科目でも、応用・実用性を高めた授業と理論を中心とした授業に分けて、どちらかを選択して受講できるようにすることです。

3.5. 研究室・大学院

3 学習

提言 3-12

研究室間の交流の活性化

5 研究室・大学院

学生の意見

研究室同士や、学生同士の繋がりに関する意見が大学院生から寄せられました。

- 外部との交流、情報交換の機会が少ない。
- 研究室同士の繋がりを重視し、研究室内で思考や方向性が凝り固まらないようにする。
- 研究室レベルで、海外の有力大学との交流があるといい。

(同意見 22 件)

現状分析

研究室に所属すると所属研究室内の活動が多く、他の研究室と交流を行う機会は多くありません。図 3.5.1 は所属課程毎の主な情報源に関するグラフです。学部生に比べ、修士・博士課程学生は友人から情報を得ることが少なくなっていることがわかります。これは学生同士の情報交換が頻繁には行われていないためと考えられます。学生の意見には「様々な分野の人間が在籍しているが、教員・学生共に異分野に関する理解が不足している。」という自由記述もありました。他の研究室と交流する等のイベントがなければ、学生の活動は研究室内のみに完結してしまい価値観や考え方が狭まってしまう恐れがあります。また学士論文、修士論文、博士論文の発表会は研究室外から意見をもらうことのできる貴重な機会ですが、その情報の周知は徹底されているとは言い難い現状にあります。大学関係者以外の人でも学生の研究を見に来られるように情報の公開を積極的に行っていくべきだと考えられます。

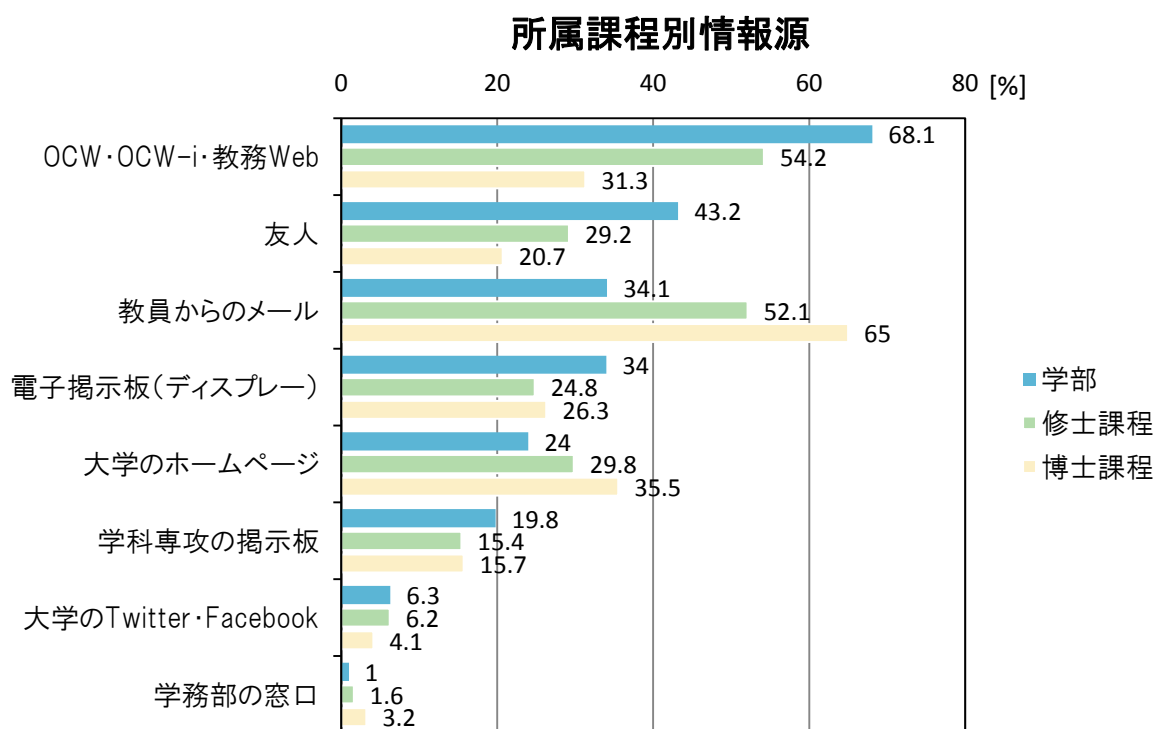


図 3.5.1 所属課程ごとの情報源

3. 学習関連

このような状況を踏まえ、学生支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問に対して、回答を頂きました。

Q1. 学士・修士・博士論文の発表会を外部に公開することはできますか。

A1. 博士論文の発表については、専攻によって、現在、公開されていますが、学士論文や修士論文の発表は、教育指導の一環であり、基本的に、外部に公開するものではありません。

学士論文や修士論文の発表会は教育課程の一部として、基本的に公開しないとのことです。学勢調査スタッフで独自に調査したところ、いくつかの学科や専攻を調査したところ、教育効果も含めて公開しているところもありますが、発表会の運営上、見学する後輩学生の数を制限したり、発表される研究の知的財産権の確保のために、見学者に守秘義務の承諾の署名を求めたりする必要があるとのことです。しかし、研究発表を通してより多くの人から意見をもらうことは学生にとっても学ぶことはあるので、まずは博士課程の発表からより積極的な公開を進めていくのがよいと考えられます。

以前の調査との比較

学勢調査 2010 で同様の提言(提言 5.3.4)を行っています。論文の発表会については各学科・専攻の HP で公開されている場合もあるようですが、情報の周知は十分ではないようです。

提言

研究室所属学生は研究室内で生活が完結してしまうため外部と関わるのが少なくなりますが、多くの人とコミュニケーションをとることで多様な価値観や異分野への理解を得ることは重要です。

他の研究室とも交流を持つために、各研究科で研究分野の近い研究室同士で合同合宿を行ったり、同じ建物内の研究室同士での交流会を企画したりすることを提言します。また、博士課程をはじめとして研究発表の公開を進め、各課程の卒業要件の一部として他専攻の学生と研究内容を発表または議論する機会を設けることを提言します。

学生の意見

科学技術者倫理に関して学生から意見が寄せられました。

- 倫理教育科目がほとんどないのは致命的なのではないかと思います。日本人学生だけでなく、留学生に対しても入学直後に倫理科目を必修化し、徹底させないと、東工大に傷がつくのではないのでしょうか。見つかってからでは遅い問題です。
- 科学倫理に関連する科目を増やして欲しい。

(同意見数6件)

現状分析

2014年には、我が国で研究論文の捏造・不正問題が大きな話題となりました。現在の東工大のカリキュラムの中で科学技術者倫理に関する講義は一部の学科と文系科目のみでしか行われていません。科学技術者は自ら行った研究に対し倫理観を持って取り組んでいくことが求められます。科学技術者を育成する当大学では倫理に関して全学生に教育を行う必要があるのではないのでしょうか。

教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問に対して、回答を頂きました。

Q1. 学生に対して科学技術者倫理の教育を行っていますか。また、どのように行っていますか。

A1. 学部1年生にはFゼミとして1,2コマ科学技術者倫理に関する講義を行っています。ただし、学科内でカリキュラム内に倫理教育を取り入れているところは少なく、大学院では研究室での指導が基本となっているようです。大学全体としてはリーフレットを作成し注意喚起を行っており、また2014年7月から剽窃チェックツールを導入しており、博士論文に関して指導教員が確認することとしています。

本学の学生の多くは、卒業後も科学技術関連の仕事に就くことが多いと思います。東工大卒業生として一流の研究を進めていけるように、科学技術者倫理教育を徹底することを求めます。

以前の調査との比較

なし

提言

科学技術者倫理は当大学の学生全員がしっかりと身に着けるべきものであると考えられます。文系科目ではなく各学科・専攻のカリキュラムに科学技術者倫理の講義を組み込むことを提言します。

学生の意見

- 学生実験 TA の扱いが不当である。実働時間が、契約時間を超える場合がある。(寄せられた意見が 4 件)

現状分析

TA を担当している学生は研究を進め授業を履修する必要があり、アルバイトなどをする時間の余裕は多くありません。実働時間が延びてしまった場合はその時間に見合った報酬を支払うべきであり、そうでない場合は改善が必要です。

人事課及び教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問に対して、回答を頂きました。

Q1. TA の実態を把握していますか。

A1. 人事課は、全員の日々の勤務状況を毎日実際に見ているわけではありません。各学生が作成し教員が確認のうえ提出される勤務報告に基づいて給与の支給を行っています。

Q2. TA の予算や勤務時間はどのように決定されていますか。

A2. TA の報酬は予算額の制約があり、その範囲内で雇用が行われています。TA の労働時間「週に 20 時間まで」の制限は、これ以上の時間を TA として働いてしまうと学業に支障をきたすと考えて設定されています。また、勤務時間や報酬に関しては、あらかじめ決められた時間で勤務を終了する必要があります。もし、それを超えて就労した場合には、実働時間に応じて報酬が支払われる必要があります。一方、実際の業務従事が、計画よりも早く終わった場合では、実際に従事した時間によって報酬が支払われるものです。

いずれの課でも、実働時間と報酬の間にずれが生じているならば、それは是正する必要があるとのことでした。

尚、2015 年 2 月に、副学長より部局長等会議において、TA の実働時間が契約時間を超えないよう、実験授業が超過する場合には TA の勤務を解除し、教員が代わりに務めるべきことが通達されるとともに、教員の TA 制度に関する理解度の調査アンケートが実施されました。

以前の調査との比較

なし

提言

労働に対しては、それに対応する報酬が支払われるべきです。TA・RA の実働時間や制度の理解状況に関して実態調査を行い、予算の範囲内で就労可能な時間数を正しく認識して、実働時間に応じて報酬が支払われるように各専攻が徹底していくことを提言します。

学生の意見

1. 大学院特別教育研究コースの情報発信強化の意見。 (同意見 3 件)
 - どのプログラムも本音と建前が乖離していると感じられる。入ってみたらいくらでも融通がきくのに、入り口のハードルが高く見えて敬遠する学生が多くいると感じられるので、もっと学生を集める工夫をした方がいいと思う。
 - プログラムの詳細について知りたいと思っているが、どこの専攻にどのようなプログラムがあるのかはつきり分らない。
2. コース増設や修士学生を対象にしたコース設置に関する意見。 (同意見 6 件)
 - 修士学生向けのプログラムもほしい。
 - 博士課程まで行くことが前提のコースやプログラムが多く、気軽に参加できない。
 - 参加したいコースがあるが所属する研究科が参加していない。興味がある授業が多いので、認定されなくても履修はしているが、せつくなので参加していない研究科でも修了認定願(医歯工学特別コース)を出せるような工夫をしてほしい。もしくは、研究科にコースに参加してもらうよう打診してほしい。
3. プログラムの内容改善を求める意見。 (同意見 6 件)
 - 研究との両立が難しい。学生の負担が大きい(特にキャンパスがはずかけ台の場合)。また、思ったほどの成果が見られないようである。そもそも、参加している学生のレベルが低い。
 - 何でもかんでもチーム開発はやめて欲しい。せめてチーム分けはランダムじゃなくて知識と技術で分けて欲しい。学生は教員の負担を減らす為に大学院へ行っているわけじゃない。そのせいで研究は勿論、プライベートな時間まで圧迫されている。あまりの負担に、アカデミックハラスメントと変わらない。
 - 学生の負担も考慮に入れたプログラム作り。

現状分析

2014 年度において特別教育研究コースは全部で 14 コース設置されています。学生の意見からは良い評価がある一方で負担が大きかったという意見も見受けられました。研究を行いながら特別教育研究コースのカリキュラムもこなさなければならぬので、コースの内容が過度な負担にならないようにカリキュラムを組む必要があります。専攻によっては特別教育研究コースが設置されていなかったり、選べるコースが少なかったりする専攻もありました。

自由記述意見の中で博士課程進学を前提としたコースが多いという意見がありましたが、修士の学生で所属が可能なコースは 14 コース中 10 コースです。ただし、一つの専攻内から選べるコースが少ないことから修士学生向けのコースは増やす必要があると考えられます。

特別教育研究コースは東工大の他の教育プログラムと比べて著しく知名度が低く、関心も高くないことが図 3.5.2 からわかります。学生の意見の中には他の専攻と意見交換ができてよかったという意見もありました。研究室外での知り合いを増やすために情報開示を積極的に行い、多種多様なコースの設置を行うことが必要だと考えられます。

3. 学習関連

東工大プログラムのうち、知っているもの・参加してみたいもの

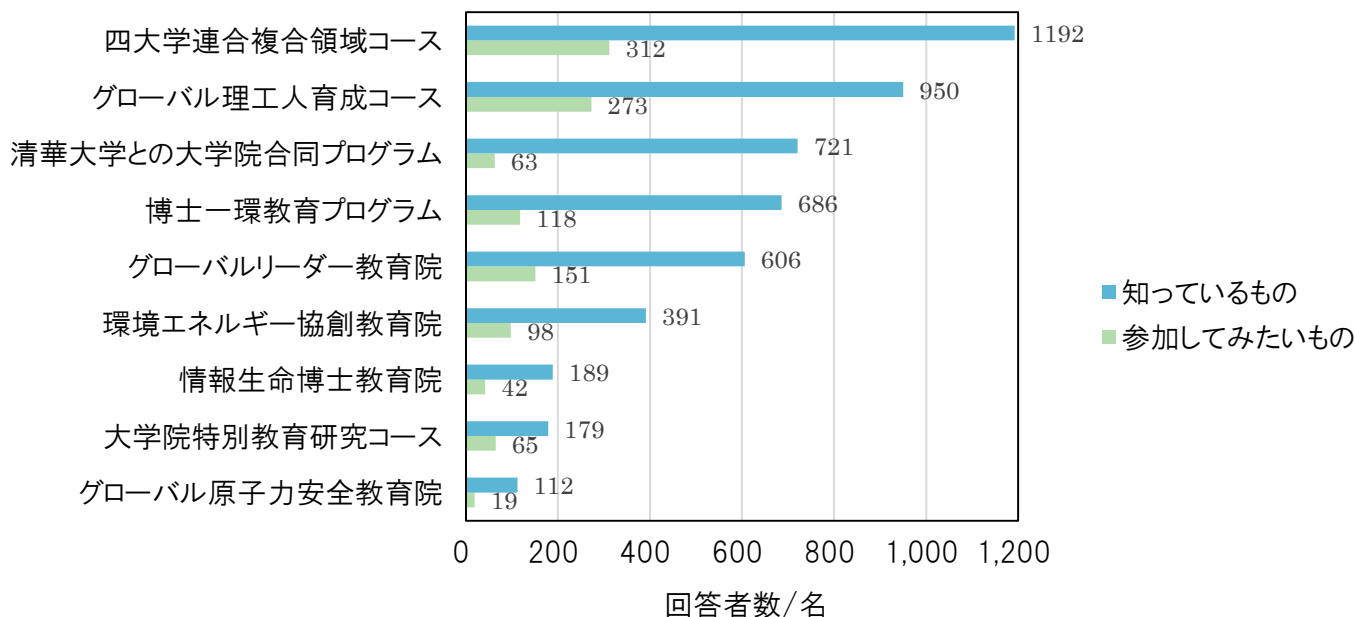


図 3.5.2 東工大プログラムのうち知っているもの・参加してみたいもの

教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問に対して、回答を頂きました。

Q1. 特別教育研究コースの実態を把握していますか。

A1. 特別教育研究コースについては、所定の審議機関の審議を経て設置されています。また、コース運営については、参画している研究科や専攻に委ねられています。

Q2. 特別教育研究コースの設置基準はどうなっていますか。新設することはできますか。

A2. 学内規則を定め、各コースの設置・改廃を行っています。

特別教育研究コースは各専攻が担当していて、大学全体としては把握しにくい状況にあるようです。今後も様々な学習プログラムが設置されることが予想されるので、大学全体でプログラムを把握してよりよくしていく必要があると思われます。

以前の調査との比較

なし

提言

特別教育研究コースの実態は学生から理解されていない状況にあります。現在の各プログラムがどの程度学生の負担になっているのかの調査を行うことと、情報の更なる開示を行うために各コースのHPを整理し、カリキュラムの内容や参加している学生の声を発信していける仕組みづくりを進めていくことを提言します。

また、特別な学習プログラムを大学側でも全体を把握し、プログラム内容の改善や情報発信を行っていくことを提言します。特に、特別教育研究コースという名前はわかりにくいいため他の名前に変えることで学生からの認知度の向上につながることも考えられます。宣伝や名称、専攻のカリキュラムとの兼ね合いについて一度検討するべきであると提言します。

4. サービス関連

4.1. 事務

4 サービス

1 事務

提言 4-1

より円滑なコミュニケーション実現

学生の意見

- 英語でのやりとりがうまくできない。(同意見 6件)
- 対応してくれる職員によって回答が異なる。(類似回答13件)

現状分析

図 4.1.1 をみると教員の対応は、適切であるとする学生が過半数であり、多くの教員がしっかりと対応してくれています。職員の対応は教員よりも適切でないとする学生が多いですが、全体的には、満足していると言っていいでしょう。(図 4.1.2)

しかし、主に留学生など、日本語を全く使用しない学生から、窓口でのコミュニケーションに支障があるという意見があります。また、同じ窓口でも、対応して下さる職員によって回答が異なることがあるという意見もありました。

教員の対応の適切さ

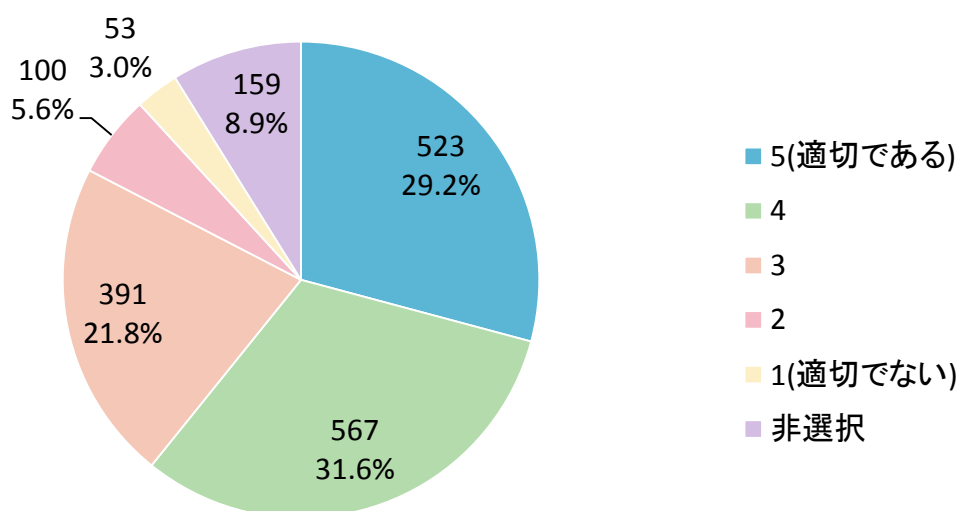


図 4.1.1 教員の対応の適切さ

4. サービス関連

事務職員の対応の適切さ

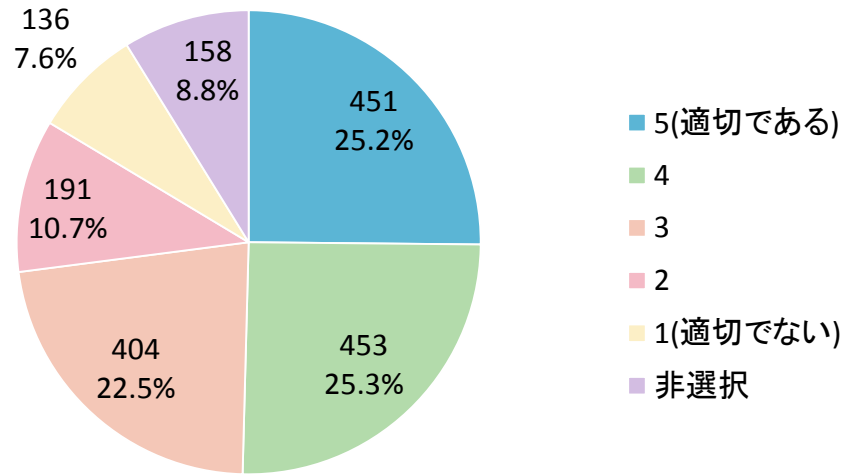


図 4. 1. 2 事務職員の対応の適切さ

これらの意見を踏まえ、教務課及び学生支援課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 窓口の英語力の基準はありますか。

A1. 英語学校などから講師を派遣してもらって研修しています。海外研修などの制度等もあります。現状、窓口担当のグループに1人は英語で英語できる人を配置するようにしています。

Q2. TOEIC の基準などはありますか。

A2. 直接はありませんが、SGU(Super Global University)プロジェクト創成支援事業で10年後までの目標値はあります。

Q3. 外国語対応窓口マニュアルなどはありますか。

A3. 外国語対応窓口マニュアルはありますが、確かな情報に基づいて話す必要があると心がけています。

Q4. 大学地図のように窓口でパッと見せられる外国語で表記された資料はありますか。

A4. 現在はありません。

以前の調査との比較

なし

提言

窓口の職員がすべての国籍、出身の学生の対応をするのは現実的に考えて困難であるので、問い合わせに応じた英文対応マニュアルの用意、タブレット端末などを用いた翻訳機械を設置していただくことを提言いたします。案内の混乱については、各問合せに対するフローチャートを窓口間で共有していただくことを提言いたします。

学生の意見

- 職員の対応が良い。 (同意見21件)
- 対応は個人差が大きい。 (同意見10件)
- 高圧的な対応、学生を見下した対応をされる。 (同意見22件)
- 迷惑そうな対応、やる気がなさそうな対応をされる。 (同意見12件)

現状分析

図 4.1.2 から、事務職員の対応に満足している学生が多くいる一方で、一部の職員に対し不満を抱く学生がいます。これらの意見を踏まえ、教務課及び学生支援課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 大学全体として学生対応マニュアルなどはありますか。

A1. 対応マニュアルは特にありませんが、窓口サービス面の研修などは、企業から講師を招いて行なっています。

以前の調査との比較

なし

提言

窓口対応に一律のルールを設けて、言葉遣い、回答などのパターンを作成していただくことを提言いたします。
学生に対しても各窓口での問い合わせ方法を明示していただくことを提言いたします。

学生の意見

- 問い合わせをした時にたらい回しにされた。(同意見5件)
- 窓口の対応時間が短い、昼休みに訪ねても担当者がいない。(同意見9件)
- 事務の手続きが煩雑。(同意見6件)

現状分析

現状では学生が行ける窓口が複数あり、大学全体についてのインフォメーションセンターがありませんでした。また、TTFにあるインフォメーションセンターの情報は学生向けではないように思われます。

これらの意見を踏まえ、教務課及び学生支援課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 大学全体の総合窓口を作られないのは、問題があるのでしょうか。

A1. 大学内の業務が多岐にわたり複雑化しているため、そのために「全てを分かる人」を配置することは現状では難しいところ です。

Q2. 人事異動などはされていますか。

A2. 部署間の移動の他、他機関への交流人事があります。

Q3. 窓口の組織は誰が決めたのですか。

A3. 教務課や学生支援課が担当するところではありません。

以前の調査との比較

窓口の一元化は2012(提言 3.5)でも提言されていますが、未だ実現していません。また、遺失物の取り扱いは遺失物センターにまとめられましたが、認知度が低いと感じられます。

提言

大学に関する総合窓口を設置することを提言いたします。その際には、学内各所の窓口と対応時間を合わせていただけるよう要望します。

学生の意見

- 事務などからメールが来ることがあるが日本語のみであり、留学生にはまったく伝わっていないことが多い。先日の台風の連絡もそうだったが、事務などからの連絡は必ず英語も併記すべき。
- 英語による情報提供をもっと増やしてほしい。

現状分析

留学生が授業や学校行事についての情報を取得する情報源は図 4.1.3 の通りです。「教員からのメール」が情報源として最も多く利用されています。掲示板及び電子掲示板についても掲載内容によって英語表記があるところとないところがあり、すべての情報が英語表記されていない実態があります。

授業や学内行事などの主な情報源(留学生のみ)

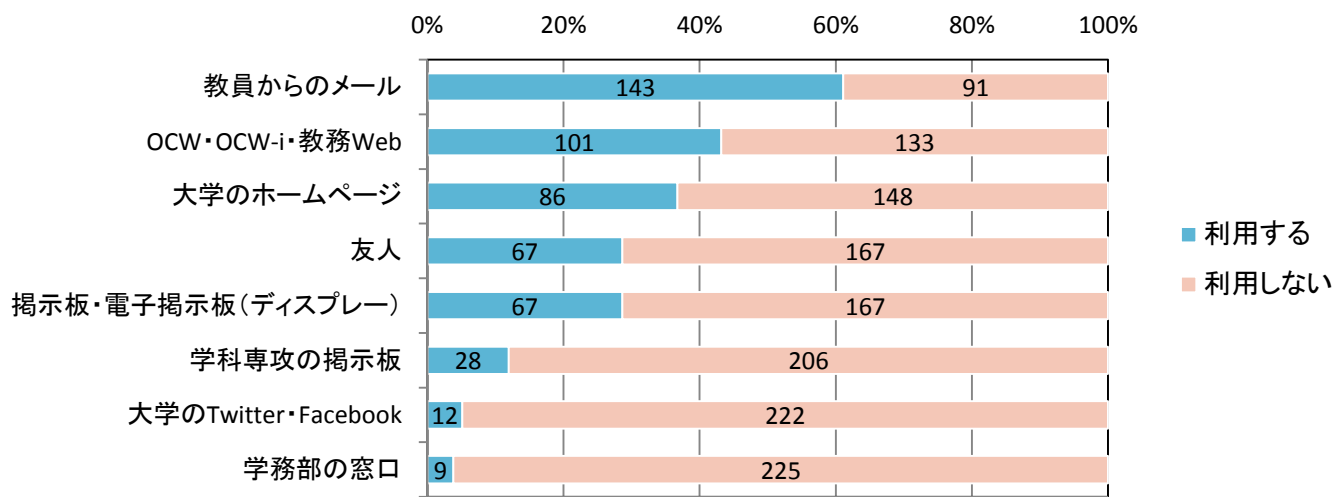


図 4.1.3 利用する授業や学内行事などの主な情報源(留学生のみの回答)

これらの意見を踏まえ、教務課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 英語の記載、どこまで国際部に頼んでいますか。

A1. 即時対応の必要な案件もあり、現在は教務課内で対応が可能なため、ほとんど英訳の依頼は行っていません。

Q2. 学科専攻の掲示物はどこの部署が担当されていますか。

A2. 当該部局または学科専攻が担当しています。

Q3. どの建物をどの部署が担当しているか正確にきめられているのでしょうか。

A3. 決められています。例えば本館、西2、3号館の建物は理学部の管理ですが、講義室は教務課が担当しています。

4. サービス関連

Q4. 台風のメールの時、英語は表記されましたか。

A4. 英語表記は、メール本文の下の方に表記しました。

Q5. 教務課で英語化されていないものはありますか。

A5. アンケートメールのリンク先は、すべては英語化されていません。

上記の通り、告示するまでの時間が短く、英語版を併せて載せられなかった事例があり、緊急な情報ほど英語表記ができず日本語に疎い方が情報を取得できなくなる可能性が示唆されます。

以前の調査との比較

なし

提言

学生にとって必要な情報が全て英語化されないと、一部の学生が大学の情報提供の仕方に不満をもつ可能性があります。しかし、英語表記を大学の方で一元化して管理できるようになるには時間がかかると思われるので、**図 4.1.3**に示されるような、学生がよく利用する情報源から着実に英語表記を実施していくことを提言いたします。英語表記実施方法として、インターネット翻訳ソフトを用いる、または、緊急時用や頻度が多い英語表現に関して日本語と英語の対応リストを作ることが考えられます。

学生の意見

- 事務のサービスの大半をネットからできるようにして欲しい。
- 事務手続きの電子化をもっと進めてほしいです。
- 手続書類の刷新、電子化、問い合わせ内容の把握とデータベース化。

現状分析

休学届等の各種届出は本学 WEB サイトからダウンロードし、各自手書きで記入し窓口に提出する仕組みになっています（一部教務 WEB から届出ができます）。他大学も同じ形式です。ちなみに、「平成25年度 国立大学法人東京工業大学 年度計画」においても、「業務プロセスの見直しを不断に行い事務の効率性を高める」と述べられていました。

これらの意見を踏まえ、教務課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 通常の申告 WEB は上でできるのに、追加申告、申告取り消しが WEB 上で不可な理由は何でしょうか。

A1. 大学院、学部共通で、所定の手続期間から外れたイレギュラーな対応であり、先生に即座に把握してもらうためです。技術的に WEB 上で無理ということではありませんが、対応については未定です。

Q2. 大学の年度計画 52.業務内容計画とはどのようなものでしょうか。

A2. 各部署で、この1年で改善することを計画する。教務課では自転車登録電子化、掲示板の電子化、サークル等の講義室予約の電子化などを提案し、実現しています。

Q3. 大学内の会議の議事録公開はされていますか。

A3. 役員会、教育研究評議会及び経営協議会については、議事要録をホームページにて公開していますが、各部署によっては、学内限定で教授会の議事要録を公開しているところもあります。

Q4. 学生が取り消しを望むのであれば、確実に取り消しが可能でしょうか。

A4. 教務課では先生が承認したものについて手続きを行っています。当該担当教員との相談が先決です。

Q5. 取り消しの制度はなくすことは考えておられますか。

A5. いくつまで取り消しできるとか何人までとかは決まっていません。学生側への配慮として無くならないと思います。数年前は取り消しができる期間がもっと短かったことがあります。

以前の調査との比較

なし

提言

近年の試行 GPA の導入により、学生はより成績を気にかけるようになり、高い点数が取れない科目を受けないといった単位の申告取り消しは増加していると想像されます。それに伴い、教員と学生双方の作業負担が大きくなると思われます。学生が学習により集中できる環境を目指して、単位の「申告取り消し」の手続きを教務 WEB 上で行えるようにしていただくことを提言いたします。

4.2. WEB システム

学生の意見

- メールシステムや OCW-i 閲覧などのよく使われる機能によってはログインの仕方を簡素化してほしい。(同意見 91 件)

現状分析

図 4.2.1 からわかるように現在日常の情報源として OCW、OCW-i、教務 WEB システムを利用している学生は大変多いです。しかし利用者の約 1 割程度の学生からログインに対する不満や改善の声が挙げられていました。

これらの意見を踏まえ、情報基盤課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 東工大ポータルに入る際のマトリックスコードをなくすことはできないのでしょうか。

A1. 東工大の学生の中には東工大ポータルのパスワードに他のサービスで使っているパスワードと同じものを使用する人も少なくない状況です。近年他のパスワード流出事件が少なからず起きており、同じパスワードを使用することでメールなどのアカウント乗っ取り事件も同時に起きていることからパスワード以外の手順が不可欠となっています。マトリックスコードは考えられるうちの最適な方策だといえます。

Q2. 東工大ポータルをひとくりに管理するのではなく、使用頻度の多い OCW-i などのサービスを部分的にパスワードだけにするなど簡易化してもよいのではないのでしょうか。

A2. そういう形にするのは不可能ではないですが難しいと思われます。管理が難しく、問題が起こる可能性の有無が判断しづらいのが現状です。

セキュリティと利便性は相反的で、その二つを取り入れつつ考えられたのが現在のログインシステムとなっております。授業資料を取得する OCW-i などは使用頻度が多く、部分的に簡素化するというのも、どこまでセキュリティをかければよいのかわからない状況です。そこで東工大ポータルセキュリティに関する共通認識を得るための公聴会を開いてもよいのではないのでしょうか。

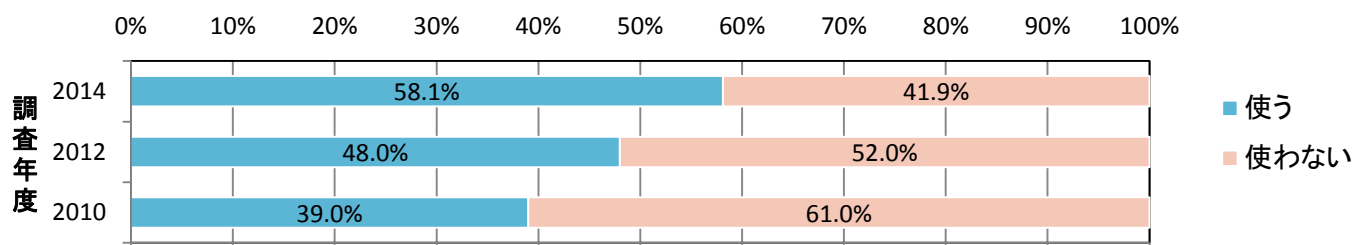


図 4. 2. 1 情報源に OCW・OCW-i・教務 WEB を使っている割合

以前の調査との比較

図 4. 2. 1 から「学勢調査 2012」以前と比べて情報源として利用する人の割合は増えているのもっと快適に使いやすいシステムにすることが求められていると思われます。

提言

東工大ポータルセキュリティに関して、管理する情報基盤課と利用する学生の双方が参加して話し合う場を設け、その場で学生から出された意見を参考にして、東工大ポータルのログインを簡素化するよう提言します。

学生の意見

- 卒業・修了要件に関して単位計算がすぐにわかるようにしてほしい。(同意見 4 件)

現状分析

現時点では、単位ごとの分類に分けられてはいますが要件を満たしているかどうかわかりませんでした。

これらの意見を踏まえ、教務課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。]

Q1. 必要な単位要件を満たしているのかわかるように変更できないですか。

A1. 機能追加や改修は行っていますが、卒業・修了要件の判定は、学科・専攻ごとに細かい条件があり、条件も変動的であるので実現するのは難しいと考えます。

Q2. 各学科向けの卒業要件入力フォームを作り入力してもらうことで、教務課の確認が容易くなると考えられます。フォーム作成によって条件変更への素早い対応が可能になるのではないのでしょうか。

A2. 学科や専攻で細かいルールが微妙に異なるため統一して作るのは難しいです。

学科ごとに卒業条件が異なるため、学科ごとの判定をすることが難しい状況です。ですが大学側が卒業要件を満たしているかを判定していることを考えれば、そのシステムを教務課 web システムに取り入れることはできないでしょうか。

以前の調査との比較

なし

提言

教育改革を起点に教務 web システムに卒業・修了要件を満たしているかを判定する機能を組み込んでいただくことを提言します

学生の意見

- UI, UXを改善してほしい。

現状分析

現在東工大ポータルにログインする際にスマートフォンを利用している方がアンケート回答者の4割以上を占めています(図4.2.2)。そうした学生にとっては、例えば、iPhoneから東工大のメールシステムを見ると図4.2.3のように表示されるためいちいちズームしなければならず、操作性が非常に悪い状況です。

これらの意見を踏まえ、情報基盤課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. スマートフォン向けサイトは作らないのでしょうか。

A1. 市販のメールソフトアプリでみれば解決するのではないのでしょうか。メールのスマホ向けサイトは作っているのですが、アプリを使えば大丈夫だと思っていて、メール転送設定をしている人も多いので、優先順位は低いと考えています。メールをスマホ対応させるよりもポータル自体のスマホ対応を優先しようと考えています。

市販のメールソフトアプリを使えば東工大ポータルを快適に見られることがわかりました。メールに関しては転送する設定にする、もしくはそのようなアプリを入れることでスマートフォンから見やすくなるそうです。

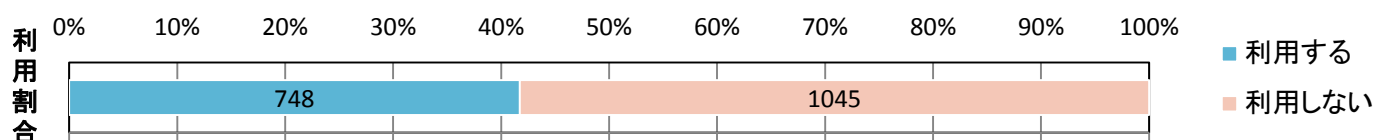


図 4. 2. 2 東工大ポータルにログインする際に スマートフォンを利用する人数



図 4. 2. 3 iPhone からメールシステムを利用した場合の画面(参考)

4. サービス関連

以前の調査との比較

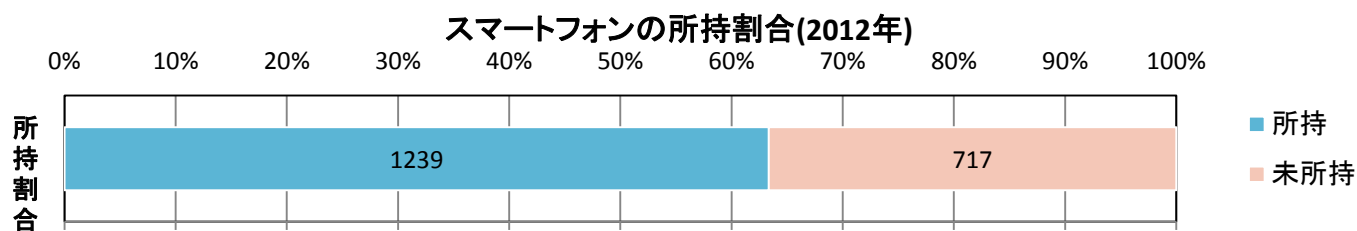


図 4. 2. 4 スマートフォンを持っている割合(2012年)

学勢調査 2012 ではスマートフォンを持っている学生の人数が図のようになりました(図 4. 2. 4)。2014 年現在ではさらにスマートフォンを持っている学生は更に増加していると思込られます。東工大ポータルにログインする際にスマートフォンを利用する学生も年々増加することが見込られます。利用者が快適に使える UI、UX の改善が求められていると思込られます。

提言

東工大ポータルにログインする際に市販のメールソフトアプリを使わない人も少なくないと思込られますので、ズームしなくても操作できるようにしたほうが良いと思込ます。スマートフォンで使える機能を限定しその項目だけを表示することで操作性をよくすることが望ましいと思込ます。

学生の意見

- ポータル内のサイトから他サイトへの移動をできるようにしてほしい。
- ポータルのアプリを開発してほしい。

(同意見 2 件)

現状分析

例えば、教務 WEB システム、図書館サービス、OCW、OCW-i ではログアウト後一度ポータルの選択画面に戻らないと他のシステムに行けない仕組みになっています(図 4.2.5, 図 4.2.6)。近年において、教務 WEB システム、OCW、OCW-i の利用者数を見ると、これらのシステムが多の人に使われていることがわかります(図 4.2.7)。利用者が今より快適に使えるように、これらポータル内のサイトが一元化されるような仕組みが求められています。

これらの意見を踏まえ、情報基盤課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. サイト間の移動をできるようにして欲しいです。

A1. 「新しいタブで開く」を使って同時に開けばいちいち東工大ポータルリソースメニューに戻ることはなくなります。

Q2. リソースメニューの設定を自動で新しいタブを開く設定にすればよいのではないのでしょうか。

A2. 逆に戻してほしいとの意見が出る可能性が高いと思われます。

Q3. メニューを全てのサービスの上部に表示させることができますか。

A3. 可能だとは思いますが、費用の割には効果が得られないのではないかと考えます。

現在のシステムを変えることはできるそうですが、それに伴って元のシステムのほうが良いと感じる人も出てくる可能性があるようです。その場合、無駄な費用だけが掛かることとなります。



図 4.2.5 参考:メールシステムからのログアウト

4. サービス関連

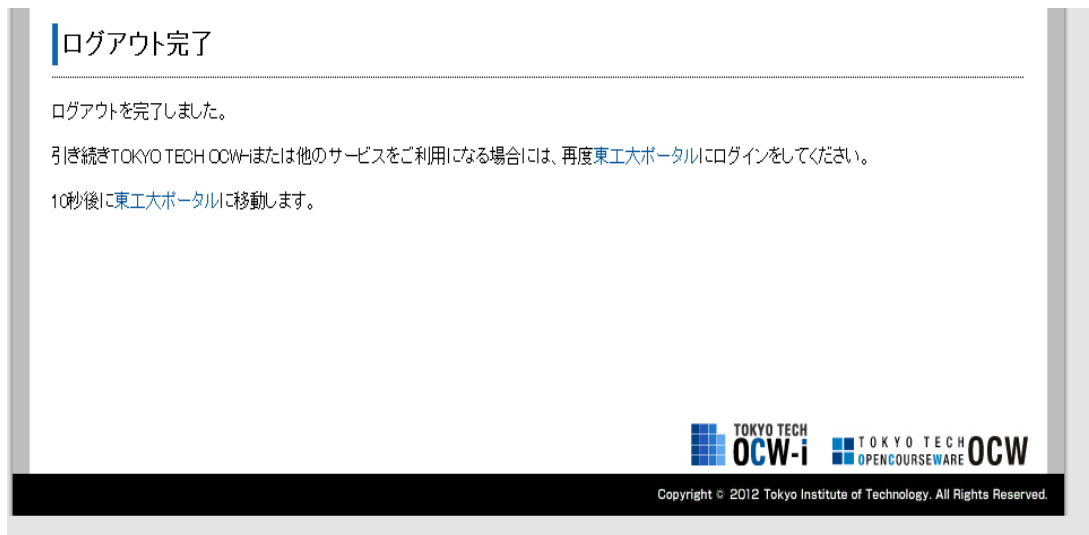


図 4. 2. 6 参考:OCW-i からのログアウト

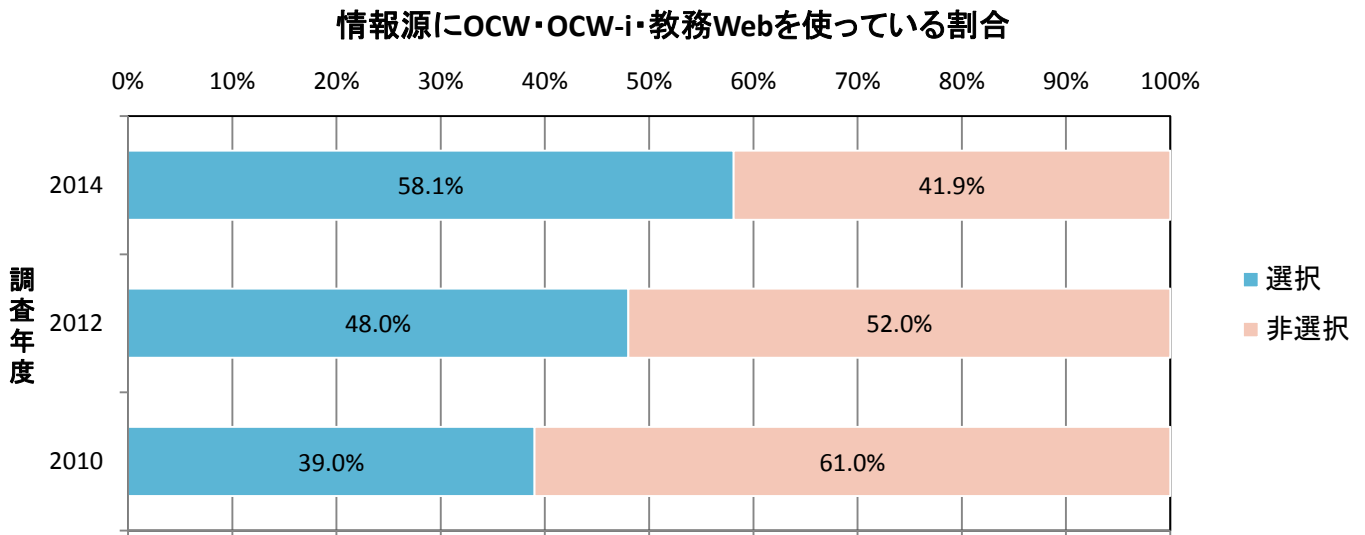


図 4. 2. 7 OCW、OCW-i、教務 Web システムを情報源として利用している学生割合(2010-2014 年(隔年))

以前の調査との比較

図 4. 2. 7 を参照すればわかるように、OCW・OCW-i・教務 WEB を使用している学生の割合が年々増加しています。

提言

東工大ポータル内の移動を自由にカスタマイズできるようにし東工大ポータルに汎用性を持たせるようにすることを提言します。また、定期的にポータル内で学生にアンケートを取ることで、学生側の意見を把握することを提言します。

学生の意見

- 使われていない講義が多いのでより多くの講義で使用されるようにしてほしい。
- 未履修の講義のノートも閲覧できるようにしてほしい
- 検索機能を使用すると過去の講義が出てくるので最新のものが優先されて検索に出るようにしてほしい。

現状分析

図 4.2.7 より、OCW、OCW-i を日常的に利用している学生が多くいることがわかります。また他分野や他専攻の授業に興味を持っている学生もいると思われませんが、OCW、OCW-i を活用している学科・専攻に偏りがあるため(図 4.2.8)、情報源として利用しにくいです。そして、現在の検索機能では、図 4.2.9 のように今年の講義から過去の講義までがばらばらに表示されてしまいます。

学生が学問に興味を持てるきっかけをつくること、意欲のある学生がより多くの学問に触れることが滞りなくできるシステムが OCW、OCW-i に求められていると思います。

これらの意見を踏まえ、教務課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 東工大生なら誰でも講義資料を見られるように仕様を変更できないのでしょうか？

A1. 講義資料をあげる教員の意見も必要ですが、検討してみることになります。

Q2. 講義の情報をもっと公開することによって、講義でわからないことがあっても自分で勉強できるようになるので便利になると思います。

A2. 著作権等の問題や教員との調整があり難しいですが、検討してみることになります。

Q3. 毎年行われる講義の場合、年度が違う講義も混在して表示され、検索しづらいことについてどう思いますか。

A3. 改善を検討してみます。



図 4.2.8 各学部・専攻での講義ノートの公開数

4. サービス関連



図 4.2.9 OCW での「コラムランド」検索結果

講義資料の公開には著作権や教員との調整があるため、講義資料すべてを公開するというのは現実的に難しいことがわかりました。教員が公開しやすくなるよう、大学でサポートする仕組みも必要だと思われます。東京工業大学では教員が各個人で講義資料をあげているのが現状です。著作権の問題の判断はとても難しい状況のようです。

以前の調査との比較

「学勢調査 2012」の提言でも同様に出ているにもかかわらず依然として学生からの声が上がっているため、より多くの人が満足できる改善が求められていると思います。

提言

OCW での講義検索結果を年度ごとにまとめるなどより検索しやすくすることを提言します。

講義資料を公開するための段階的設定を設けることによって、講義を受講している人、東京工業大学に在学している学生、一般、どこまで公開するかを簡易化することを提言します。

教員が OCW を使う際に著作権についてサポートする部署を設置することを提言します。

学生の意見

- 東工大 HP やポータルなどの WEB システム全般において留学生にも使いやすいシステムにしてほしい。または利用ページを増やしてほしい。(同意見 4 件)

現状分析

自由記述で、留学生から「現在の東工大ポータルでは英語の表記があったとしてもそれらがどういうものかすぐにわかるような明記がされていないので、OCW-i などのシステムをだいぶ時間が経ってから知った」というご意見をいただきました。

これらの意見を踏まえ、情報基盤課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 留学生が WEB システムを理解するのに時間がかかってしまうようですが、英語に対応しているのでしょうか。

A1. まだ英語化に完全に対応できていません。

Q2. 英語のマニュアル等はあるのでしょうか。

A2. 教務 WEB システムの英語のマニュアルはあります。

OCW-i を調べたところ、日本語版のマニュアルは確認できましたが、英語版のマニュアルは確認できませんでした。完全には英語に対応しきれていない現状です。留学生が東工大の WEB システムについてわからないことをすぐに相談できる窓口が必要だと考えます。

以前の調査との比較

なし

提言

OCW-i の英語版のマニュアルの作成を提言します。

留学生のための WEB システムに関する説明会を開くことを提言します。

留学生が東工大 WEB システムについてわからないことをすぐに相談できる窓口の設置を提言します。

学生の意見

- 多様な OS やブラウザでの使用を増加させてほしい。(同意見 10 件)

現状分析

ブラウザのアップデートによって仕様が変わり SSL-VPN に不具合が発生することがあります。実際、Google Chrome ではウェブストア以外の拡張機能がすべて削除仕様になったこともあり、その期間 SSL-VPN 機能が制限されたことがありました。

図 4. 2. 10 から半数以上が SSL-VPN を利用したことがあると答えており、多様な環境で対応できることが求められるようになっていきます。

これらの意見を踏まえ、情報基盤課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. OS やブラウザによって不安定だったりすることがあります。

A1. 検証できていない状況です。さまざまな OS やブラウザがあり、Chrome などはアップデートが早いので逐一検証するのは難しいといえます。さらに古いバージョンを使っている学生もある可能性があるのですべてに合わせるのは難しいといえます。具体的な状況を伝えてもらえれば、検証できます。

さまざまな OS、ブラウザがあり、アップデートに合わせそれぞれ検証するのは難しいと思えます。そこで、不具合を発見した学生が逐一報告できるシステムを作ればよいのではないのでしょうか。

SSL-VPN(学内ネットワークアクセス)の利用頻度

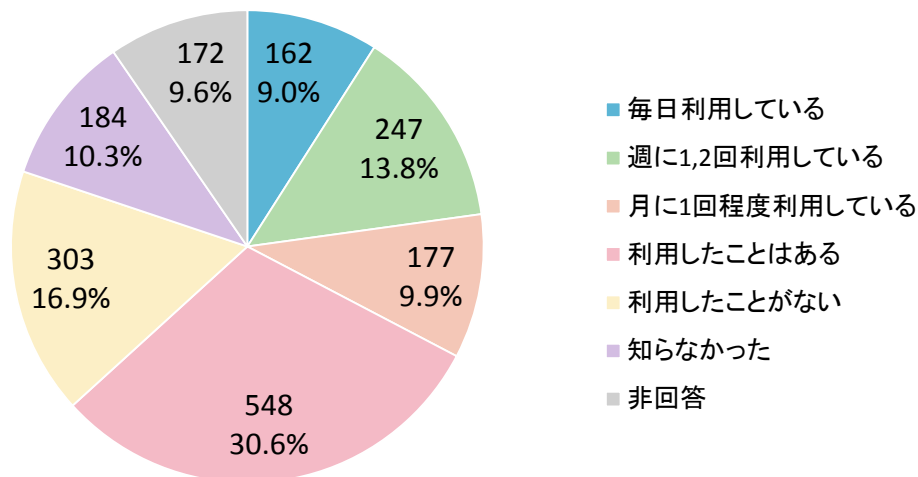


図 4. 2. 10 利用頻度別 SSL-VPN を利用する人数

以前の調査との比較

なし

提言

不具合が生じた状況を特定できるような質問項目を設定し、不具合を発見した学生が報告できるシステムを搭載したトラブルシューティングセンターの設置を提言します。

4.3. 防 災

4 サービス

3 防災

提言 4-13

自然災害による休講の基準の周知

学生の意見

- 自然災害発生時(大雨・台風など)の休講基準を明確化してほしい。例えば、午前8時の時点で東京 23 区に警報が発令されている、もしくは東急電鉄が運休ならば午前は休講、など。その方が学生も教授も判断がしやすいし、混乱が防げらると思う。

(同意見 176 件)

現状分析

災害時、休講情報は身の安全を守ってくれるものですが、休講情報が迅速でないと意味をなしません。そのためには休講情報を迅速かつ確実に伝えることが重要です。**表 4.3.1**のように一橋大学やお茶の水女子大等の大学は警報または交通機関の運休をもとに休講基準を決めています。しかし、東工大ではマニュアルが周知されておらず、休講基準がわからない状況です。

教務課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 警報等の情報をもとに休講基準の設定はできないのでしょうか。

A1. 検討は進めています。2014 年 10 月の関東を直撃した 1 回目の台風のと看、メール配信の時間も含め全学生に連絡し終えるまで 3 時間かかりました。第 2 回目の台風の際には、早めの判断を行い、メール告知を行いました。早い対応が必要だと認識しています。

Q2. 大学の HP に休講情報を出す場合、告知する時間を周知したほうがよいのではないのでしょうか。

A2. 検討してみます。

教務課は現行制度に対して危機感を持っており、マニュアル設定の必要を認識しているようです。災害からの危険を避けるためには混乱のない休講情報の告知が必要だと考えられます。混乱を抑えるために、迅速な対応と決められた時刻までに告知できるようにすることが必要だと考えます。

表 4.3.1 一橋大学の自然災害による休講基準※一橋大学の HP より

(http://www.hit-u.ac.jp/students/lecture_cancellation/)

自然災害による休講の基準

(1) 国立市に大雨・洪水・暴風・大雪・暴風雪のいずれかの警報が発令された場合。

- ① 午前 7 時に警報が発令中の場合は、午前の授業等を休講とする。
- ② 午前 11 時に警報が発令中の場合は、午後の授業等を休講とする。
- ③ 授業開始後に発令された場合は、次の時限以降の授業等を休講とする。

(2) 大規模地震対策特別措置法(大震法)に基づく警戒宣言が発令された場合。

- ① 午前 7 時に警戒宣言が発令中の場合は、午前の授業等を休講とする。
- ② 午前 11 時に警戒宣言が発令中の場合は、午後の授業等を休講とする。
- ③ 授業開始後に発令された場合は、次の時限以降の授業等を休講とする。

(3) 自然災害により JR 中央線及び JR 南武線の国立市域を含む区間(以下この項において「両線の区間」という。)が運休した場合。

- ① 午前 7 時に両線の区間が運休している場合は、午前の授業等を休講とする。
- ② 午前 11 時に両線の区間が運休している場合は、午後の授業等を休講とする。

(4) 上記のほか、副学長(教育・学生担当)が学生の安全確保等のため必要があると判断した場合は、休講等の措置を行うことがある。

以前の調査との比較

なし

提言

自然災害時の休講の判断基準を設定するとともにマニュアルを作成し、周知することを提言します。周知のために、大学 WEB と学習案内に記載することを提言します。もし、休講基準を設定しない、もしくは公開しないのであれば、少なくとも大学の WEB に休講情報を出す時間を周知するようにすることを提言します。

学生の意見

- 避難経路を知らない学生が多い。 (同意見 2 件)
- 各講義において、最初や2回目など早い段階の講義で、講義室の避難経路確認を教員が学生に伝えた方がいいと思います。

現状分析

大災害が起こった時、避難経路や行動チャートを確認することは難しいので、日ごろの防災意識として避難経路や行動チャートを知っておくべきだと思います。避難場所を知っている人は 32.9%ととても低い結果となりました(図 4.3.1)。行動チャートを知っている人は図 4.3.1 のように 16%です。各講義室にそれぞれの避難経路と行動チャートについて説明しているポスターが掲示されていますが、講義室に貼るだけでは避難場所、避難経路、行動チャートに対する周知が足りない状況であることがこの結果から読み取れます。学生が講義室のポスターを見る機会は少ないと思われるので、講義の初回等で避難経路、行動チャートの確認またはポスターの告知することを解決案として考えました。

これらの意見を踏まえ、教務課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 講義の初回の授業で避難経路の説明を行ってみるのはどうでしょうか。

A1. 学内の担当部会(会議)に授業の合間に避難経路の説明を行ってもらうように試みましたが、教員側からの了解という回答が得られませんでした。引き続き、今後も協力をお願いしていきます。

防災訓練当日 3,4 限の授業終了時に防災訓練の告知ができたように、避難経路や行動チャートの周知もできるものだと感じています。教員側と大学側と学生が一体となって防災に取り組むべきであり、それぞれが協力的に防災に対して意識すべきだと思います。

防災について当てはまるもの

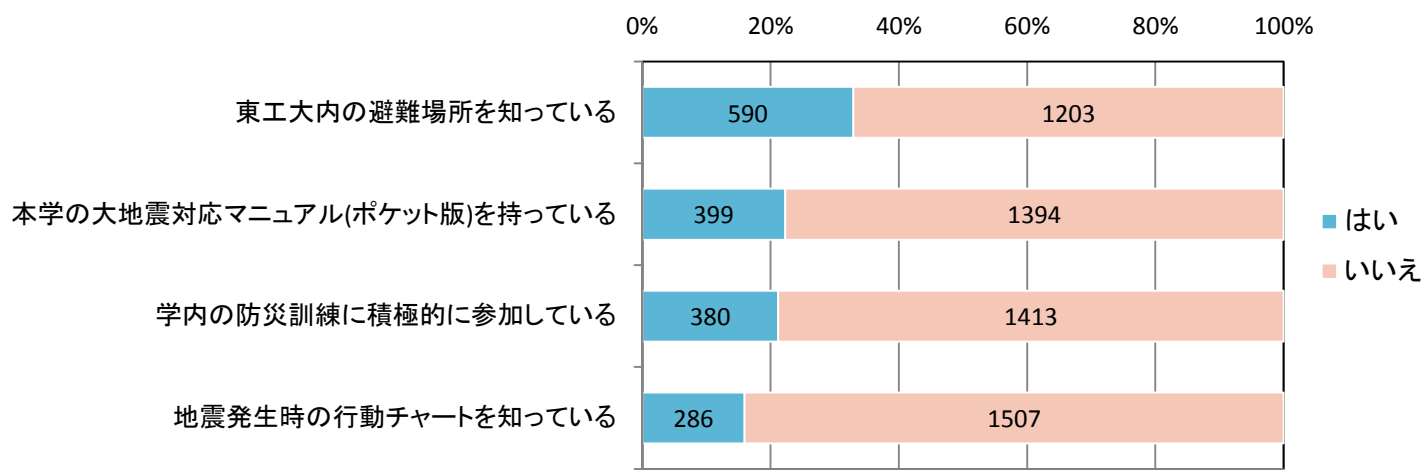


図 4.3.1 防災関連に関する質問の回答

4. サービス関連

以前の調査との比較

2011年3月の東日本大震災の影響により学勢調査2012では、例年より防災意識は高く、多くの防災活動があったと思われるため、学勢調査2014では、学勢調査2012と比較して、避難場所を知っている人、行動チャートを知っている人、大災害マニュアルを持っている人の割合が減少しました(図4.3.2)。

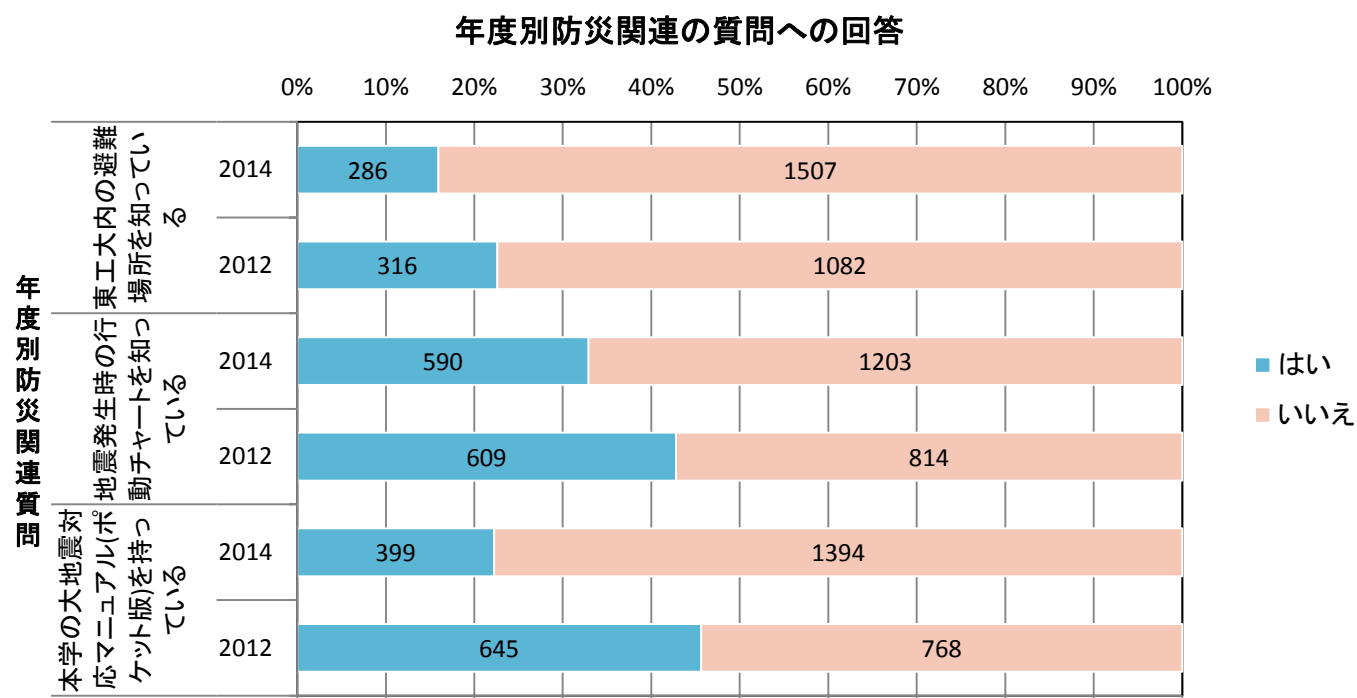


図 4. 3. 2 年度別防災関連質問への回答

提言

講義の初回等で避難経路、行動チャートの確認またはその説明ポスターの告知をすることを大学が一体となって推進していくことを提言します。

学生の意見

- 建物内の避難経路をもっと明確に示してほしい。特に、図書館の中など、どちらに逃げればよいのか分からない。
- 避難場所をどの建物でも目につくところに貼って欲しい。
- 避難場所に看板を設置すると、視覚的に確認しやすくて良い。

(同意見 7 件)

現状分析

建物内は非常口を示す標識がありますが、屋外では標識等の知らせるものではなく避難経路がわからない状況です。

図 4.3.3 のように東工大では危険箇所が多く、避難場所の近くの通路にも危険箇所があります。その危険箇所を知らせる標識もないため、現状では避難の際、危険箇所を通る可能性があり、非常に危ういと思われます。非常時に危険なエリアを大学側は把握していても、学生側は把握していません。

これらの意見を踏まえ、安全企画室とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 危険物に標識を設置することは可能ですか。

A1. 災害状況によって危険な場所が変わってくるため一概に危険であるか否かがわかりません。また工事がよくおこなわれることから危険区域を固定するのも難しいです。

Q2. 危険エリアを大地震対応マニュアルに載せることは可能ですか。

A2. 震災の状況によって、避難経路・危険エリアは変わるため難しいと思われます。

危険区域は変動しやすく災害状況によって避難経路も変わることがわかりました。現在のシステムではスタッフが災害時に避難を誘導することになっています。しかし、災害状況によっては誘導を仕切れない場合も考えられます。そこで、各所に点在する危険要因をリスト化し、どういった状況で危険となりうるのかを防災訓練等で周知する必要があると考えられます。

4. サービス関連



図 4. 3. 3 平成 25 年度大岡山地区避難経路図の概略図

以前の調査との比較

なし

提言

屋外の避難経路を示す簡易標識を設置することを提言します。また各所に点在するであろう危険要因をリスト化し、どういった状況で危険となりうるのかを防災訓練で周知することを提言します。

学生の意見

- 防災に関する情報が少なすぎる。
- 緊急時の対応冊子を年に1回配ってほしい。どこに行けばいいのかなど全く分からない。
- 情報提供をお願いします。

現状分析

学勢調査 2014において、大地震対応マニュアルを所持しているのは 22.3%でした。図 4.3.4 のグラフは所属別に調べた大地震対応マニュアルを持っている人の比率です。類所属生の所持率は 13.2%、学科所属生の所持率は 16.2%とかなり低い結果になりました。このことを考慮して類所属生、学科所属生へ防災関連の冊子を配る機会を増やすべきだと考えます。防災訓練の3・4限の授業の際、防災訓練の告知に加え、大地震対応マニュアルを配る、もしくは英語などの必修の授業に配るという解決策を考えました。

これらの意見を踏まえ、教務課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 防災訓練のときに講義等を利用して全学生に配ることはできないのですか。

A1. 予算との兼ね合いもあり全学生に配ることはできません。

Q2. 入学手続きの書類ではなくてガイダンスの時に配るのはどうでしょうか。

A2. 入学式後のオリエンテーションで配布していますが、沢山の書類の中の一つのため、学生の皆さんの目に止まらないのかも知れません。配布時の方法等、検討します。

Q3. 防災訓練時に大地震対応マニュアルを配るのではなく本館前等に置いて自由に取れるようにすることは可能でしょうか。

A3. 教務課では今年3月に生協さんにお問い合わせし、まずはお試して食堂(一食、二食、すずかけ生協食堂)に大地震対応マニュアル、安否確認票をラックに入れたものを設置させて頂きました。この他、4月以降は本館をはじめとする各講義室の周辺に設置して、学生さんに目立つようにしていきます。

4. サービス関連

予算との兼ね合いで、全学生への配布は困難であり、たとえ配布しても廃棄されてしまつては無駄となつてしまいます。そこで、防災訓練時に大地震対応マニュアルを本館前に、自由にとれるようにおいておくことで、学生側に防災にたいする関心を向けることができると思いました。また入学手続きの書類に大地震対応マニュアルを一緒にしてしまうと、紛れてしまい、捨てられる可能性が高いと考えられるので、ガイダンスの時に大地震対応マニュアルの説明とともに配ると効果的ではないかと考えました。

大地震対応マニュアルを持っていますか。

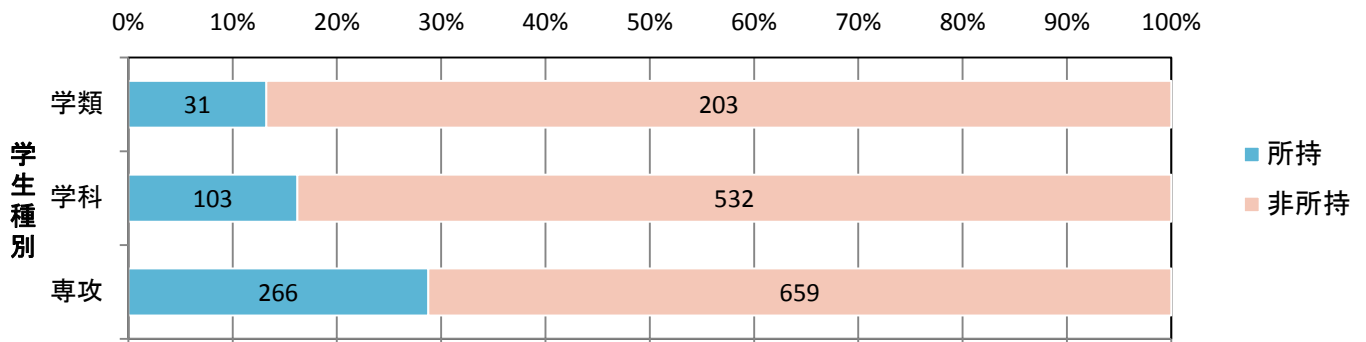


図 4. 3. 4. 本学の大地震対応マニュアル(ポケット版)を持っているかへの回答

以前の調査との比較

なし

提言

防災訓練時、本館前などの学生が触れやすい場所に置いておくことを提言します。また大災害対応マニュアルは入学手続きの時に様々な書類と共にされることから無視されやすいのではないかと考え、入学ガイダンス時に配ることを提言します。

学生の意見

- 防災訓練を祭りのように盛り上げてやっていきたい。今の状況だと実際に震災が起きたときに誰も避難できず悲惨な状況になるのは目に見えている。みなが確実に参加するような防災訓練をすべきではないだろうか。必修の授業にしてはどうだろうか。
- 学部生も参加する避難訓練があるべきでは？
- 避難訓練が回避するものと化している件について対策を講じるべきではないかと思う
- When is the simulation of natural disaster held?
- 行動マニュアルに頼りすぎるのは良くない

現状分析

学内に防災訓練のポスターが各所に貼ってあるところを見かけましたが、メールにおける広報について調べたところ東工大メールニュースでの防災訓練の告知は訓練が行われた 11/12 の 8 日前である 11/4 の第 41 号のメールニュースの第 6 項のみでした。図 4.3.5 でわかるように、掲示板よりメールのほうが情報源として強い傾向にあります。東工大メールニュースでの周知の強化を行ったほうがよいと思います。またポスターについても図 4.3.6 のように文字ばかりでよく内容がわからないという点があります。写真等を使ったより現実味のあるポスターが望まれていると思います。

これらの意見を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. メールニュースで防災訓練は下の方の項目にあるため、周知されていなかったのではないのでしょうか。

A1. 学習関連事項を優先したため下の方の記載になりました。今後検討します。

勉強関連の連絡事項と一緒にになると、連絡の優先順位が下がってしまうことが分かりました。その対策として防災訓練のみのメール連絡をおこないさらに防災訓練前日にもメールで告知すべきであると思います。

利用する授業や学内行事などの主な情報源

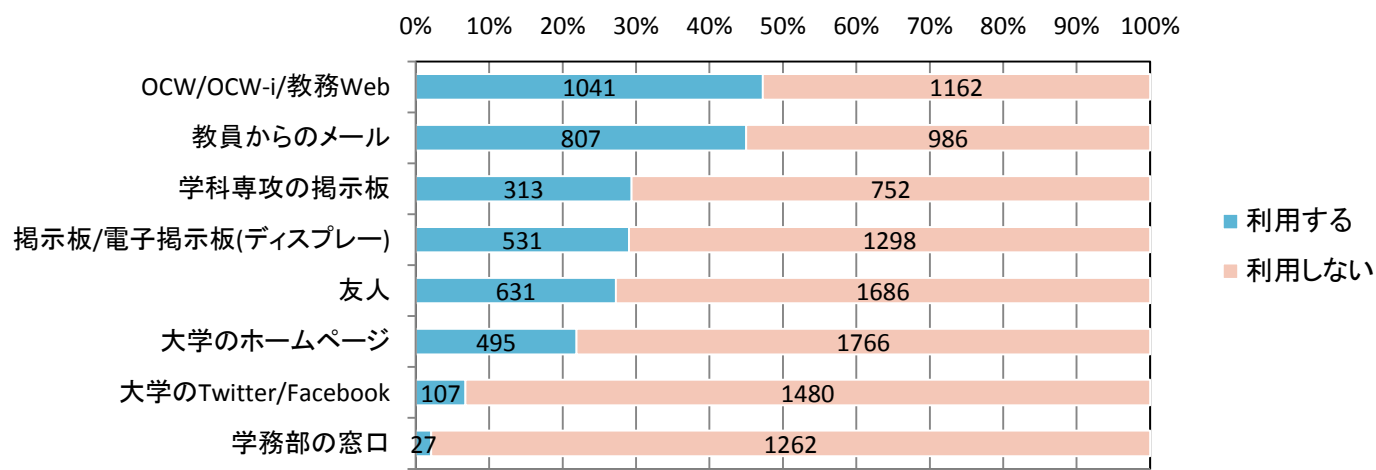


図 4.3.5 授業や学内行事などの情報について主な情報源

防災訓練迫る!!

今年も東工大では防災訓練が行われます。日程は以下の通りです。

①総合訓練
(12:15～13:10)

有事の際の安否確認のための訓練です。
指定の場所に避難したのち、安否確認票を
提出してください。

②個別訓練
(12:45～)

煙体験ハウスや消火器訓練といった
状況別の避難訓練があります。参加して
炊き出しチケットをもらいましょう!!

また各訓練を手伝ってくれる**学生スタッフも募集**しています！
興味のある方は、東工大VG栗林まで！ 栗林: kuribayashi.j.aa@m.titech.ac.jp

2014.11.12.wed 12:15～
@大岡山キャンパス

図 4. 3. 6 文字ばかりのポスターの例

以前の調査との比較

学勢調査 2012 において、避難訓練の告知について言及されており、その結果ポスターによる周知や訓練当日の 3, 4 限授業における告知がなされました。

提言

防災訓練は重要な行事なので、他の連絡とは別の告知にして欲しいです。そこで、号外として防災訓練前日にもメールで連絡することを提言します。また写真を使ったポスターを大学の廊下等に貼ることを提言します。

4.4. ハラスメント

4 サービス

4 ハラスメント

提言 4-18

ハラスメント対応窓口の周知強化

学生の意見

- 大学に相談したら対応してくれた。 (同意見9件)
- 研究室を移動した。 (同意見8件)
- ハラスメントを受けていたが、我慢した。 (同意見12件)
- 学生同士の問題もあるので、大学に相談できなかった。 (同意見9件)
- ハラスメントを大学に相談したが、放置された。 (同意見23件)
- うやむやにしてもみ消された。 (同意見8件)

現状分析

本学のハラスメント対策委員会(<http://www.jinjika.jim.titech.ac.jp/harassment/>)で公開されている相談窓口としては、ハラスメント相談窓口、保健管理センター(カウンセリング)、学生相談室があります。各窓口への相談内容をまとめたものが、**図 4.4.1**となります。**図 4.4.2**のように窓口の存在を認知している人の中でも利用したいと答える学生の割合は低く、特にハラスメント相談窓口を利用してみたい人の割合は1割程度となっています。

これは、大学に相談しても対応してくれないかもしれないという不信感が原因の一つであると考えられます。不信感を取り除くためには大学側がどう対応していくのかを学生に認知させることが必要だと考えられます。また、教職員と学生間のハラスメントへの対応はある程度手段がありますが、学生間の問題、サークル内での問題はなかなか表面化しづらい現状があります。

ハラスメントは身近なものではなく、相談をしたくても我慢してしまうケースもないとは言えない状況です。ハラスメントに対する理解が乏しいと考えられることからハラスメント講習を開き学生がハラスメント問題について理解を深める機会を与えることも重要であると考えます。

学生支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 大学から学生に対して相談窓口に関する案内はどのような形で行われているのでしょうか。

A1. 入学の時に配布した冊子の中に相談窓口に関して記載されていると思います。身近な相談窓口に行ってもらえれば、そこから相談要件あった相談窓口につなげてくれるネットワークができていますので、まず相談窓口を訪ねてください。

Q2. 時間とともに相談窓口の存在を忘れていく可能性が高いと考えられ、学生相談室などは相談相手が教員であることから相談しにくい可能性も考えられます。気軽に相談できるように大学側から宣伝すべきではないでしょうか。

A2. WEBに掲載していますが、メールニュースに定期的に載せる対策はありだと思います。しかし、相談事例は現在増えており(**図 4.4.3**)、保護者からの相談も、先生からの相談もあります。相談の必要性の低いことにも対応すると、業務自体が膨大になり、相談すべきことに対して手を回しづらくなってしまふのことも困ると思います。そこは検討する必要があります。

4. サービス関連

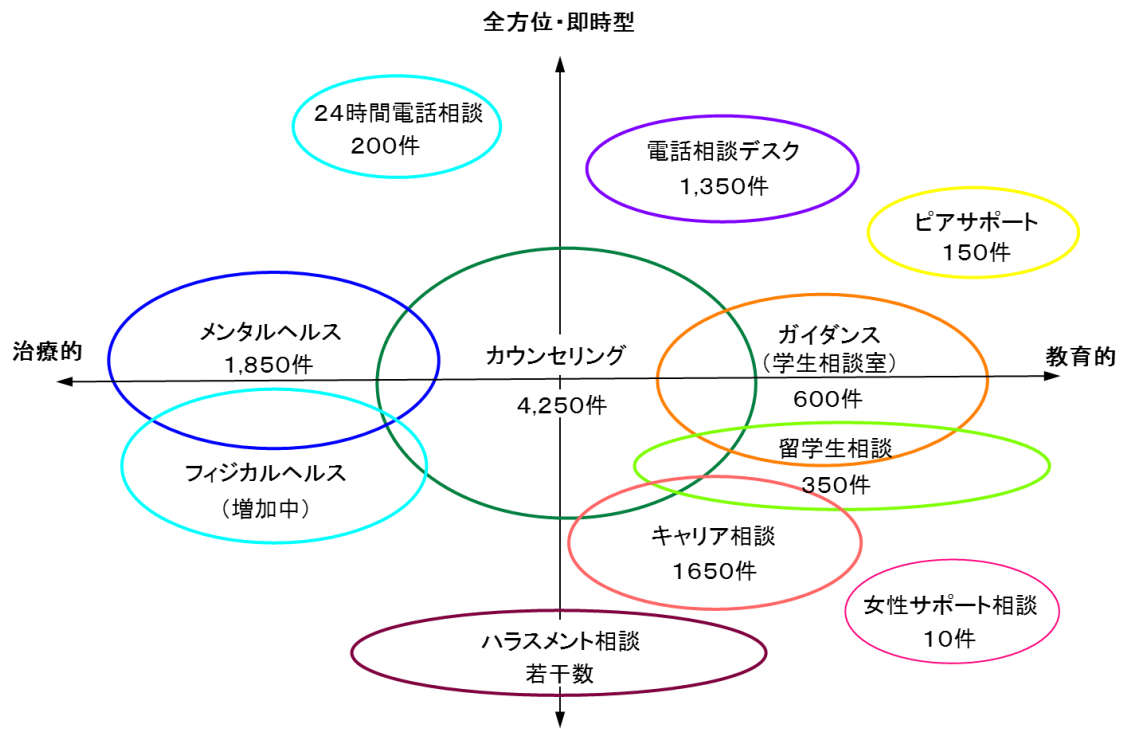


図 4. 4. 1 本学サポートシステムの概念図

Q3. 今は件数が増えているので、あんまり増えすぎても困るのでしょうか。

A3. もちろん必要な人には来て欲しいと思います。自己解決して欲しいような件もあることはありました。増加するハラスメントの相談に対し、様々な対応を行っています。電話相談デスクでは定年退職された教員が対応しています。教員が新しく就任した時に、人権担当副学長がハラスメント研修を行っています。

相談が必要な場合、相談窓口を訪れないと始まらないので相談に訪れることは大事なのですが、相談件数はすでに増加傾向にあり、あまり相談件数が増えすぎても質が下がりがねないのでなんでも相談するというわけにもいきません。相談件数の増加に対して対策を行っていますが、学生自身で解決するためにもハラスメント講習が必要と考えられます。

利用してみたい相談窓口(3つまで複数選択可)

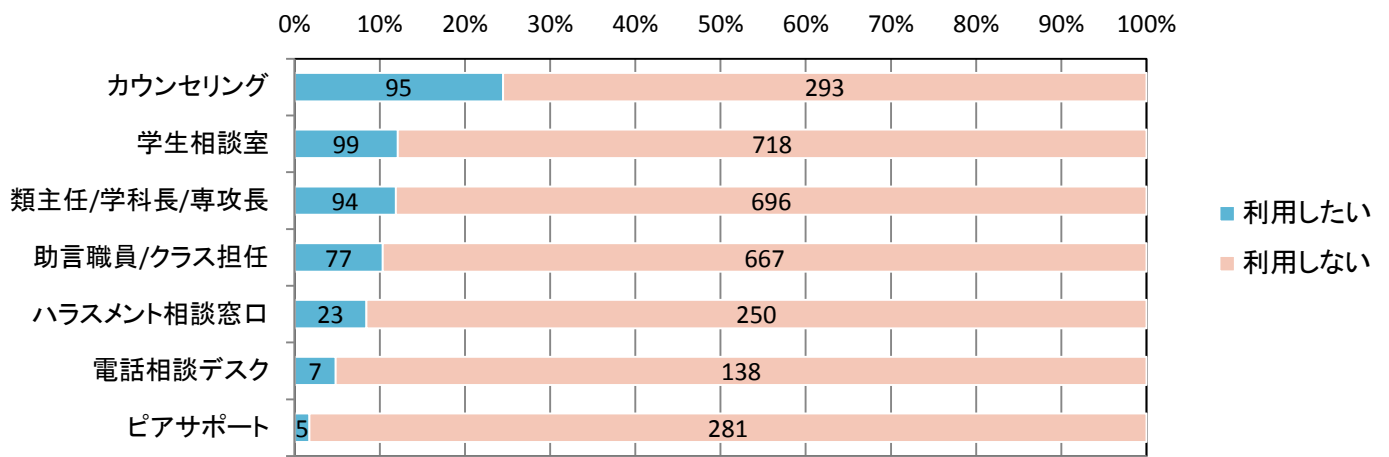


図 4. 4. 2 利用してみたい相談窓口(複数選択式)

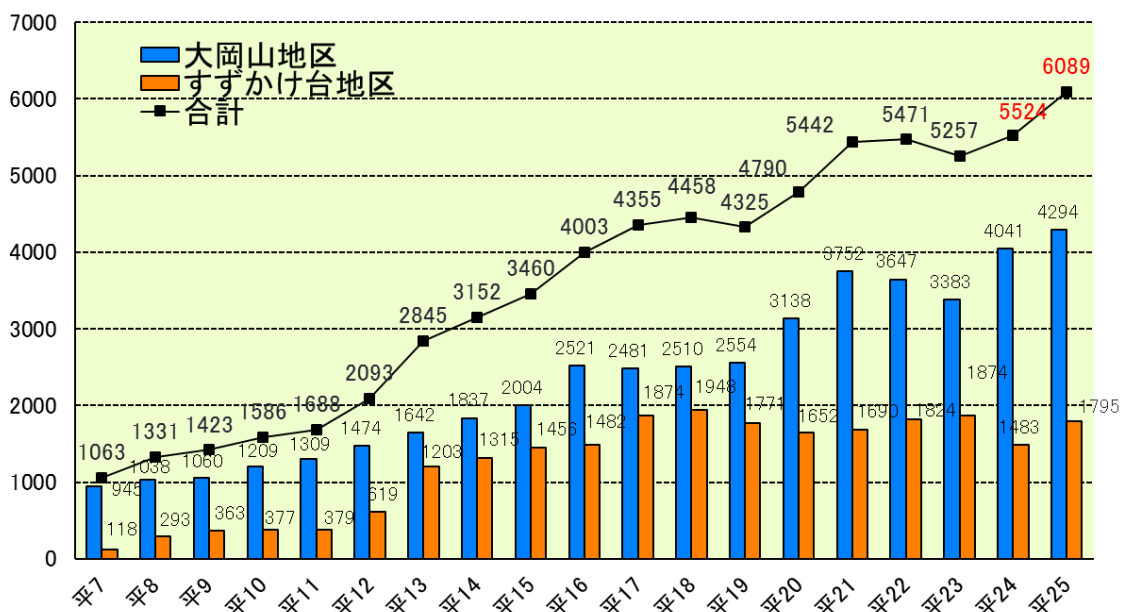


図 4.4.3 保健管理センターのカウンセリングとメンタルヘルス相談の相談件数推移

以前の調査との比較

以前の学勢調査でもその相談窓口を「利用したことがあるか」及び「利用してみたいか」を調査いたしました。その調査においても相談窓口として「類主任/学科長/専攻長」及び「助言教員/クラス担任」の選択した学生が少ないです。

相談窓口を知っている、利用したいと回答した割合はおおよそ同じような結果となりました。

提言

現状では、入学の際にハラスメント対応の冊子が配られますが、実際に問題が発生することが多い研究室所属時には、多くの学生が忘れていて考えられます。ハラスメント問題について関心を持ってもらうためにも研究室所属した学生、学科所属した学生など、節目の年に改めて全学生対象のハラスメント講習を義務付けていただくことを提言いたします。

相談窓口を訪ねやすくするために、大学の相談窓口にはハラスメントの相談をした際、どのように対応され、過去にどのように解決したのかを学生側に知らせることが必要だと思われま。相談の流れや成功事例をパンフレットに載せ、ハラスメント講習で広報することを提言します。

現状で学生に認知されている窓口へ相談をしたい割合がなぜ高くないのか、その原因を調査していただくためのアンケートを実施することを提言します。アンケート内容に「ストレス度チェック」、「ハラスメント相談窓口に行かない理由」、「ハラスメントかどうかを自分で評価できるか」の3点を含めていただくことを提言します。

学生の意見

- 現状以上の対応は困難である。 (同意見4件)
- ハラスメントは気にしなければ良い。 (同意見5件)
- 被害者の努力も必要である。 (同意見4件)
- 教員に対するハラスメントガイダンスを実施してほしい。 (同意見8件)
- 教員の意識改革をしてほしい。 (同意見7件)
- 罰則を強化してほしい。 (同意見11件)
- 大学による管理を強化してほしい。 (同意見9件)
- 第三者機関の活用を推進してほしい。 (同意見7件)
- 学生による評価機会を増やしてほしい。 (同意見6件)

現状分析

大学へのハラスメント対応制度の強化を求める意見があります。一方で、ハラスメントは判断が難しく、安易なハラスメント認定には問題があります。

第三者機関によるハラスメント防止策は、産業医による研究室評価や外部機関による相談があります。

学生支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. ハラスメントと認定された事例の数は公表されているのでしょうか。

A1. 個人情報に関わることなので公表できないということになっています。

Q2. 教員間のハラスメントはどのように対処しているのでしょうか。

A2. 基本的には一般的なハラスメントの対応と同じです。

Q3. 研究室に産業医のアンケートの結果は伝えているのでしょうか。

A3. 研究室を俯瞰して、騒音・悪臭・湿度などを検査しています。悪いところがあれば教員に通知し、その改善の報告書を提出してもらっています。ストレスチェックで気になる人がいた場合、産業医から直接ご本人に連絡することがあります。

Q4. 研究室内は閉鎖的ですが、第三者が外部から見られるようにするのはどうでしょうか。

A4. ハラスメントの人権担当副学長は学外の弁護士であり、第三者に近い存在です。第三者の意見をすべて受け入れるかどうかとも検討しないとはいけません。

Q5. 学生が内部からハラスメントを指摘するためにも、授業評価アンケートのように研究室にも評価アンケートは存在するのでしょうか。

A5. 学生から見た研究室を評価するようなアンケートというのはまだ取ってない状況です。

Q6. 研究室評価アンケートを実施した場合、教員などから反対されるのでしょうか。

A6. 実現できないということはないと思います。

研究室の評価アンケートは現在行なっておらず、実現可能であるので試行的に実施することが求められていると考えられます。

以前の調査との比較

なし

提言

外部から第三者機関によるハラスメントの解決を試みるだけでなく、内部から学生によってハラスメントを解決できるような環境にすることができれば理想的だと思います。そのために学科、専攻に対してハラスメントに関するアンケート、もしくは授業評価アンケートのような研究室評価アンケートを試行的に実施することを提言します。また、研究室に所属している間はあまり問題を抱えたくないという思いで言い出せない可能性があるので卒業時にアンケートを行うことを提言します。

学生の意見

- 研究室をもっとオープンにしてほしい。 (同意見 11 件)
- ハラスメントが発生しにくい環境を整えてほしい。 (同意見 13 件)
- 今の環境を変えてほしい。 (同意見 9 件)

現状分析

研究室は少数の人間が常に同じ部屋で作業をしており、人間関係も閉鎖的となります。そのため、もっとオープンな環境を望む声があります。学部生に訪れてほしいと思う研究室もある中、学部生にとって研究室はとても入りたないように感じていると考えられます。ほとんどの研究室は外側から内部の様子を見ることは難しい状況であるからだと考えます。

学生支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 学部生で研究室を訪ねてみたい学生もいると思いますが、大学が何か行っていることはあるのでしょうか。

A1. 学科所属のときに研究室見学を行なっています。もっと学生側と研究室側が声を掛け合うようにするためにも環境づくりを工夫してもいいかもしれません。

以前の調査との比較

なし

提言

ハラスメントを事前防止するために研究室を透明化することが効果的であると考えられます。研究室という組織の性質上、全てをオープンにするということは難しいと思われます。しかし、学部生に研究室を訪れてほしいという研究室もあることから研究室を開放的にすることを大学が主体となって進めることが望まれていると考えます。

閉鎖的な研究室の環境に対して、大学側が主体となって試行的にでも研究室の扉をオープンにする、またはガラスを多く用いて開放的な研究室設計を進めることを提言します。

4.5. その他サービス

4 サービス

5 その他サービス

提言 4-21

ギンナンの掃除

学生の意見

- ギンナンの掃除を徹底してほしい。
- ギンナン対策をしてほしい。においがすごいのに道幅が狭くてよけられない。

(同意見 6 件)

現状分析

毎年秋になるとギンナンが散乱し潰され、独特のにおいを放っています(図 4.5.1)。イチヨウの落葉が終わるころに一斉に掃除いただいておりますが、ギンナンが落ちる時期のほうが早く、1 か月程度においが漂う状況があります。イチヨウを植える際は雄木か雌木かが判別できません。

各地方自治体においてもあらかじめ実をつけさせないようにすることは難しくこの問題に苦慮しています。「川崎市」では、通りのイチヨウになったギンナンの配布を開始しました。それは管理業者にギンナンの回収を依頼し、食べやすいように下処理をしたうえで、1 袋 120g 入りのギンナンを配布するという対策を行なっています。

学生支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行い、回答を頂きました。

Q1. ギンナンの清掃にどれくらいの金額をかけていますか。

A1. (学生支援課)清掃の範囲によって、金額は変動するため、具体的な金額はお示しできませんが、限られた予算の中で行っているため、今後は、学生ボランティアを活用する等、検討していきたいと思えます。



図 4.5.1 東工大の銀杏の様子

以前の調査との比較

なし

提言

イチヨウの葉が色づく際は学校の景観が良くなりますが、ギンナンが落ちてからはイチヨウの木そのものを邪魔に思う状況は学校の景観をこれからも保っていくうえで損失であります。より学生が心地よく過ごせるキャンパスを実現するために、「現状分析」に記した川崎市のギンナンの対策事例を踏襲し、それを実行していただくことを提言いたします。

5. 施設関連

5.1. 施設一般

5 施設

1 施設一般

提言 5-1

フリースペースの増設

学生の意見

- 講義室以外に学生が気軽に利用できるフリースペースを増やしてほしい。
- リフレッシュルームの開放時間を延長してほしい。
- 深夜でも利用できる自習室がほしい。

(同意見 13)

現状分析

現在フリースペースやリフレッシュルームは主に専攻の管轄となっており、その開放時間は専攻によって異なります。また、学生が課外活動の際にミーティングを開くための部屋はなく、講義室を予約するかフリースペース・リフレッシュルームを利用するしかありません。前者については、当然ながら日中は講義が行われていることが多いことに加え、使用の3日前までに申請書を提出する必要があり、気軽にいつでも利用できるわけではありません。また後者は食事や学習のための利用があるため、いわゆる「早いもの勝ち」の状況が生まれています。最近では、図書館の2階がグループ学習可能なスペースとなりましたが、学習以外の利用は原則として認められていません。また百年記念館もラーニングスペース・情報発信の場としてのリニューアルが予定されています。

他大学と比較してみると、東京大学では集会のための部屋としてホワイトボードとプロジェクターが完備された2つのディスカッションルームを学生支援センターが管理しており9時～20時ならば予約して利用ができます。東京理科大学では、自習室とは別に、各キャンパスに談話スペース・ラウンジが設置されています。

これらの意見を踏まえ、教務課及び学生支援課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 近年、増設されたフリースペース、もしくは増設予定のフリースペースはあるでしょうか。

A1. 図書館の2階を改修しグループワークで利用できるようになり、現在改修中の百年記念館は勉強ができるスペースの設置を検討予定です。大岡山に関してはこれ以上建物を増設することが難しい状況です。すずかけ台については図書館分館の3階をグループ学習ができるスペースにすることを検討しています。※2015年2月試行開始となりました。（学生支援課）

以上から、今すぐにフリースペースを増加するというのは大学の面積的に難しいようです。また設置するスペースがないこと以外に、そのフリースペースが本来の使用目的以外で使われてしまうようなことがないように管理することもフリースペース増設の課題になっているようです。

以前の調査との比較

学勢調査 2012 では「4.2.1 リフレッシュルームの開放」で学生が自由に利用できるスペースの開放が提言されています。それに伴って、学生のニーズを知るための大学・学生間の相互の意見交換の場も提言されています。また学生のフリースペースの使用態度向上の一環として学生による自主的な運営を行う場を設置することも提言されています。

提言

学生がグループ学習や課外活動を行う上でフリースペースは必要不可欠なものです。また、研究室に所属しておらず、大学に「自分の場所」が確保できてない学部生の休憩スペース・憩いの場としてもフリースペースは重要です。

そこで、現在あるリフレッシュルームやフリースペース全ての開放時間の延長を試験的に実施することを提言します。さらに、その時間利用できるが使用されていない講義室を学生がリアルタイムで知れるようなシステムを作ることを提言します。

これにより、フリースペース・リフレッシュルームの数を新たに増設しなくとも、学生のニーズに応えることができると考えます。

学生の意見

- 仮眠できるスペースがほしい。
- 24 時間利用可能な仮眠室があればぜひ利用したい。

現状分析

今回の学勢調査での「充実してほしい施設は？」という設問において、11 人が仮眠室と回答しており、これは礼拝所(20 人)に次いで 2 番目に多い人数です。

大学の方針としては学生の宿泊を認めておらず、宿泊する必要のないカリキュラムとなっています。しかし宿泊の必要はなくとも、課題や課外活動等で睡眠時間が十分でない学生もいると考えられます。実際に、厚生労働省が目安とする睡眠時間は 6～8 時間ですが、睡眠時間が 6 時間未満と答えた学生は 30～40%で、睡眠時間が不足している学生がいることがわかります。このような学生が講義・研究に効率よく取り組むためにも、仮眠室の設置が必要であると考えます。

これらの意見を踏まえ、学生支援課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 現在東工大内に仮眠室はあるのでしょうか。

A1. ありません。

Q2. 大学に泊まっていけない理由は为什么呢。

A2. 大学は宿泊施設ではないためです。

以前の調査との比較

仮眠室についての提言は前回もありましたが、設置されていません。

提言

睡眠は人間が生活するうえで欠かせないものであり、睡眠不足は作業の非効率化につながります。大学として宿泊を必要とするようなカリキュラム設計はしていないというお話もあり、宿泊して睡眠をとるための仮眠室を新設する必要性はないと考えられます。しかしながら、日中に仮眠や昼寝などができるようなスペースは、作業の効率化の観点から必要であると考えます。そこで、10～22 時のみ利用できる仮眠可能なフリースペースを設ける、もしくは現在のある特定のフリースペースのルールとして仮眠可能とすることを提言します。

また、それにとまって机の上でも快適に仮眠がとれるような枕を生協で販売することも提言します。

5 施設

提言 5-3

飲食施設の充実

1 施設一般

学生の意見

- 石川台に食事を買うところがない。 (同意見 2 件)
- すずかけ台キャンパスに飲食店を増やして欲しい。 (同意見 6 件)

現状分析

現在、大岡山には生協食堂やセブンイレブンなど 3 つの飲食店があり、また昼になると弁当が販売されています。しかし、石川台キャンパスでは弁当がお昼に販売されるのみという現状です。すずかけ台には、生協と食堂があるのみです。

すずかけ台では大岡山のようにキャンパスの周りに飲食店が豊富にあるわけではないため、休日などで食堂や生協が営業していない時は非常に不便のようです。

これらの意見を踏まえ、生協とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. すずかけ台の飲食施設について、現状を教えてください。

A1. 最近、生命系の研究室の移動や自炊率の増加によりすずかけ台の生協利用が大きく減りました。そのため、この状況で日曜営業や営業時間の延長をしても採算が取れない。また、シダックスがなくなってから、次の店が決まるまでは、お弁当を販売することになりました。

Q2. 図 5.1.1 のオフィスグリコのように、研究室ごとにお菓子や軽食を置いて各自が食べる時にお金を払うシステムを導入することはできないのでしょうか。

A2. 24時間研究している東工大のニーズにはあっているので、システム

や仲介者など責任者をしっかり決めて、大学側の許可が下りれば実現の方向で検討したいと思います。

以前の調査との比較

学勢調査 2012 では、「8.2.5 すずかけ台の食堂・購買の拡充について」の項目で類似した提言がなされています。

提言

食事は研究・学習を行なうに当たって、必要不可欠なものです。飲食施設を充実させることが、快適な研究・学習環境への第一歩であると思われます。特に石川台やすずかけ台キャンパスは研究室が集まっており、研究施設の側面が大きいので、その重要性も高いです。

石川台及びすずかけ台への飲食店の誘致と研究室へのオフィスグリコシステム(あらかじめ棚に入っている食品をとる際にお金を払う形式のもの)の導入を提言します。



図 5.1.1. オフィスグリコの例

学生の意見

- 学内無線 LAN がつながりにくい（本館:34 人 西 3 号館:25 人 南 5 号館:18 人）
- プロキシ設定がわからない(19 人)
- スマートフォンをつなぐことができない(31 人)

現状分析

図 5.1.2 のように、現在学内のほとんどのところで無線 LAN(titech-pubnet)が利用できるようになっています。しかし、その中には建物の位置関係などの原因によりつながりにくい場所もあるため、改善の声が学生からは挙がっています。また、地上に近い階では繋がっていても高い階ではつながらないという問題もあり、立体的にもケアする必要があると考えます。

また、アクセスエリアの拡張を希望する場合には、その建物あるいは部屋を管理している組織(学科・専攻・事務組織等)に相談することになっていますが、公共エリアや講義室および管理組織が不明な場所での拡張を希望する場合には学生支援課に要望を伝えることになっています。

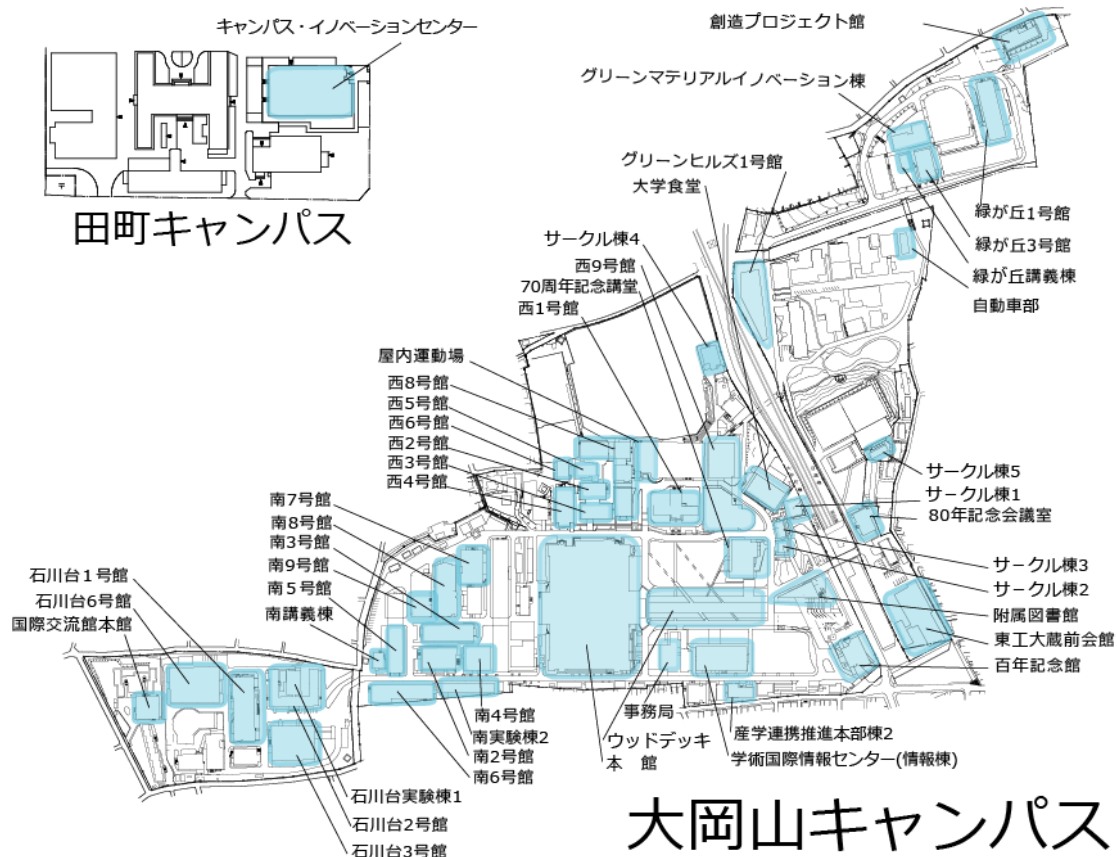


図 5.1.2 大岡山キャンパスにおける無線 LAN の設置状況

以前の調査との比較

学勢調査 2012 では、「4.12.1 無線 LAN、携帯電話の電波について」で、無線 LAN についてサポート体制の改善を提言しています。具体的には無線 LAN の管轄の一元化および、次回システムを切り替える際のプロキシ設定の取り外しを提言しています。

この提言に沿って、プロキシ設定を必要としない次期キャンパス無線 LAN 新サービス(TokyoTech)のテスト運用が2015年4月10日から始まりました。詳細は下記サイトに掲載されています。

※<http://www.noc.titech.ac.jp/info/news/150409.shtml>

提言

本館や西 3 号館といった比較的大きくかつ多くの学生が利用するところにもかかわらず、無線 LAN がつながらないというのは生活面でも学習面でも非常に不便であるので改善を図るためにも、アクセスポイントの増設を提言します。

また、ニーズに合わせたアクセスポイントの増設をするためにも、つながりくい状況の報告を学生がしやすくするような取組が必要です。学内に「繋がらない時は…→URL」のような広告や titech-pubnet に接続する際の WEB ページに『不具合を報告する用のページ』を設けることを提言します。

さらに、プロキシ設定やスマートフォンへの接続設定 WEB ページの URL を講義室などの目に触れる場所に掲示することも提言します。

そして、次期キャンパス無線 LAN 新サービス TokyoTech のテスト運用を経て、早期に正式のサービスを提供することを提言します。

学生の意見

- 大岡山には書店がないのですがどう考えても本学の学生は書店を他の人より利用すると思われるので学内に書店をいれることを検討すべきだと思います。
- 書籍売場を充実させて欲しい。

現状分析

現在、キャンパス内で本を購入できるのは生協のみとなっています。生協では、現在書籍の取り寄せが利用できますが、実際に書籍が置かれているスペースは一般の書店に比べて小さいため、前述のような意見が出ていると考えられます。また、**図 5. 1. 3** からわかるように、大学の付近に大型(チェーン)の書店がないため、大岡山を活動拠点とする学生にとって不便であると言えます。



図 5. 1. 3 大岡山キャンパス周辺の地図

これらの意見を踏まえ、生協とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 季の味ガーデンの場所は来年以降どうなる予定でしょうか。そのスペースに書店を誘致することはできますでしょうか。

A1. 大学から正式に話が来れば、実現の方向で検討します。ただし、建物自体が耐震関係の工事なども今後予定されているようなのでなかなか難しいのではないかと思います。

Q2. 書店について、生協に置く本のセレクトはどうかされているのでしょうか。

A2. 理工系の本については、毎日のように新刊を入荷しています。書籍部も新商品をチェックしていて、スペースのやりくりが大変な現状があります。

以前の調査との比較

以前の学勢調査では書店の誘致に関して単独の提言はなく、「大岡山の購買の充実」という提言で同様の内容が触れられています。

提言

書籍は学問を深める上で不可欠なものです。大学の周りに書店が充実していないからこそ、学内での書籍の充実が求められています。そこでお菓子・食品を食堂に一部移動させそのスペースを縮小し、試験的に生協の書籍スペースを拡大することを提言します。また拡大する書籍の分野としては、図書館であまり取り扱っていないような小説や雑誌の類を提案します。

学生の意見

- 駐輪場は屋根付きの物を増やしてほしい。 (同意見 4 件)
- 駐輪場の数をもっと増やしてほしい。 (同意見 2 件)

現状分析

駐輪スペースは十分かという質問では、**図 5. 1. 4**にあるように、不十分である(1,2)と回答した人は 544 人(30.3%)であり、十分である(4,5)と回答した人よりも多いです。

現在の自転車の収容数は大岡山:2000 台、すずかけ:500 台となっており、登録者に対しては、足りていると言えます。しかしながら、未登録の自転車が多いため、本来優先して使えるべき登録者が使えないという構造になっていると考えられます。

また、学生の出入りが激しい図書館やサークル棟付近に駐輪スペースがないという実情があり、不便である・増設してほしいといった声が寄せられています。

駐輪スペースは十分さ

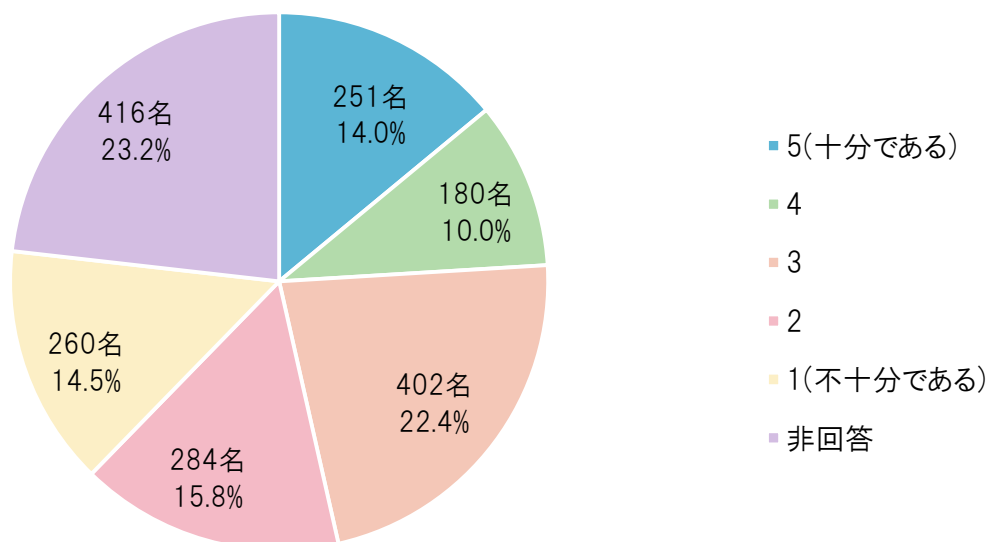


図 5. 1. 4. 駐輪スペースの十分さ

これらの意見を踏まえ、施設安全室および教務課とキャンパスミーティングを実施し、以下のような質問を行ない、回答を頂きました。

Q1. 駐輪場の増設や屋根の設置は可能でしょうか。

A1. 予算的に難しいところです。また屋根付きの駐輪場を作るとそこに自転車が集中するおそれがあります。(安全企画室)

Q2. 駐輪場が不足しているという問題についてどのようにお考えですか。

A2. こちらとしても不足を感じます(安全企画室)。

Q3. 登録システムを簡単にすることはできないのでしょうか。

A3. 以前の紙ベースでの申請と比べて教務 Web での申請を行えるように変更し簡略化されていると思います。防犯登録証を確認したうえで手続きを行っている関係で、これ以上簡略化することはなかなか難しいと考えています。(教務課)

Q4. シールはもっと目立たないものにできないのでしょうか。

A4. なるべく目立たないように、従来から変更しており、工夫をしています。必要な項目は記載し、確認時認識しやすいようにしなければならない等の制約はありますが、どのようなデザインにしたらいいかアイデアがあれば提案して頂きたいと考えます。(教務課)

駐輪スペースに不満をもつ人は一定数いるため、増設または移動は必要であると考えられますが、スペースや予算の都合上いきなりの実施は難しいと考えられます。

以前の調査との比較

学勢調査 2012「4.5.1 駐輪場について」で同様の提言をしていますが、登録数に見合っており、学内移動は徒歩を推奨するという理由で改善は見られていません。

提言

学生に駐輪スペースがどこに欲しいのか、どこにいらぬのかを調査し、駐輪場の移設の改革を図ることを提言します。また、屋根付きの駐輪場を増やすのは現状困難であるため、生協にて自転車カバーを販売することを提言します。

学生の意見

- Tokyo Tech had better provide a prayer room in Suzukakedai and Ookayama Campus.
- I hope titech will open a mosque so that many moslem can pray more comfortably.

(同意見26件)

現状分析

イスラム教の学生は一日に 5～6 回、顔と手足を水で洗います。イスラム教を信仰する学生の言及する「礼拝所」とは、そのようなことができる施設です。これは、シャワー室で代用できると考えられます。

今回の学勢調査の施設に関連する質問において、顕著にみられたのが「礼拝所の設置」です。学勢調査において宗教を問う設問があったわけではないので、イスラム教徒の学生の正確な人数を知ることはできません。しかし、大学からの発表によればイスラム教を国教とするインドネシアとマレーシアの学生の人数は現在合わせて 134 人(2014 年)であり、少なくとも 100 人のイスラム教徒がいると見積もることができます。また、これからの教育改革に伴い留学生数も増加すると考えられ、礼拝所のニーズは高まると予想できます。

今後、教育改革による国際化に伴い、本学内にイスラム教を信仰する学生が在籍することで、今回のような要望が増えてくると考えられます。

以前の調査との比較

なし

提言

イスラム教を信仰する学生の数は今後グローバル化に伴って増加していくと考えられます。現在でも、その数に見合っていないようであるので、トイレ内に(シャワー室のような)顔と手足が洗える礼拝所の設置を提言します。また、慣習的に礼拝のために使用している場所を知らない学生のために、入学時の説明や広報の徹底を提言します。

また、イスラム教に偏った施設整備とならないよう、大学は学生が信仰する宗教を定期的に調査し、人数に応じた施設の見直しをすることを提言します。

学生の意見

大学や講義室における開放時間の延長に関する意見が合計 10 件寄せられました。

- 講義室の開放時間の延長をしてほしい。
- 大学の開放時間の延長をしてほしい。

現状分析

本学の講義室は、20 時以降は基本的に施錠されてしまいます。そのため、20 時以降の使用はできないことになっています。リフレッシュルームや自習スペースが増加すれば、講義室の代わりとしても使えるようになるので、このような意見は減少すると考えられます。授業時間外に、1 年生の使用できる部屋がないことも問題としてあがっています。

このような現状を踏まえ、教務課とキャンパスミーティングを実施し、3 点の質問に回答していただきました。

Q1. 夜間の講義室の利用は可能ですか。

A1. 防犯や省エネの観点から難しいが、公認サークルから申請があれば延長は可能なシステムになっています。

Q2. 夜間勉強する場所がないので、講義室の利用時間の延長は可能ですか。

A2. 図書館やリフレッシュルームの利用をお願いします。

Q3. 非公認サークルに対して施設の利用を認めることはできますか。

A3. 基本的に認めることは難しいです。

以前の調査との比較

前回の学勢調査では、夜間の講義室利用に関して、「専攻ごとに必要な対策が異なり、画一的な改善は難しく、すべての教室を夜間開放することは厳しいと考えられますが、文系科目で使用される大きい教室など一部だけでも改善」することをお願いしています。また、講義室の時間延長に関しては、「防犯や責任上難しく、守衛巡回が 20 時であるため、20 時に施錠されますが、守衛の施錠時間の変更は検討可能だ」ということ回答を前回のキャンパスミーティングで受けています。

提言

公認サークルに対する講義室利用の延長は、今まで通り願い出を出せば可能になる仕組みを続けていただきたいです。また、リフレッシュルームや図書館での勉強スペースが十分に足りるまで、夜間勉強するスペースの 1 つとして、一部の講義室も使うことができるようにすることを提言します。また、サークル活動でなくても願い出を出せば延長できる仕組みにすることも提言します。その際に、図書館のグループ研究室が行っているような、「学生証などを預かるなどして使用者に責任を持ってもらい、部外者が使用することがない」ようなシステムなどの工夫をしていただきたいです。

学生の意見

シャワールームに関する意見が合計 12 件寄せられました。

- トレーニングルームのシャワーを増設してほしい。
- 現在シャワールームがない建物にもシャワールームを作してほしい。

現状分析

トレーニングルームにおけるシャワーに関して、学部 1 年生の体育の授業や生涯スポーツの授業終了後、大変混雑するという意見が出ています。また、一部の建物にはシャワールームがあるのですが、ない建物もあり、不公平だという意見が出ています。また、シャワールームのある専攻の学生にのみ開放されているところもあるという状況です。

学生支援課とキャンパスミーティングを行い、以下のような質疑応答をさせていただきました。

Q1. シャワールームの増設の予定はありますか。

A1. シャワールームはお風呂ではありません。学科によっては必要によって作っているところもあります。なお、来年度から体育の授業が必修ではなくなるので、受講者が減り、授業の際の混雑が減るかもしれません。

Q2. トイレに 1 個だけ簡易的なシャワーを作るのはどうですか。

A2. 安全、防犯の観点から現実的ではないです。

以前の調査との比較

管理状況を含めた現状把握とその情報公開をお願いしています。また、現在設置してあるシャワールームを全学生向けに開放することを提言しています。

提言

シャワーの増設に関しては難しいようですが、2010 年以前から提言されているように需要はあります。そのため、増設が厳しいのならば、学科・専攻のみが使用許可されているシャワーを東工大の職員・学生なら誰でも使えるように開放することを提言します。また、体育の授業が必修ではなくなることによって、トレーニングルームのシャワーの混雑がどの程度緩和されるかを調査し、混雑が続くようであれば、トレーニングルームのシャワー増設の再検討が必要です。

学生の意見

すずかけ台スポーツ施設について、主にテニスコートに対する意見が7件寄せられました。

- すずかけ台キャンパスのテニスコートのナイターで使用したい。
- すずかけ台キャンパスのテニスコートを休日、学部生も使用したい。

現状分析

テニスコートの設備はあるにもかかわらず、学生はナイター使用を禁止されています。また、休日の使用に関しては、すずかけ台キャンパスの研究室所属生に限られているため、学部1年生から3年生の学部生と大岡山キャンパスの研究室所属学生は、使用することができません。

すずかけ台の学務課とのキャンパスミーティングにて5点質問をし、回答していただきました。

Q1. 2012年の学勢調査でのキャンパスミーティングでは「休日について、教職員・研究室学生優先という形で、学部生の利用を可能にしてもいい。」とあるのですが、変更されていないのはなぜですか。

A1. 安全管理上、教職員なしでの利用はできないようになっています。学生のみの場合、事故が起こった際の責任問題につながってしまいます。実際に、蜂に刺された学生がいたり、フットサルで対人事故があったりしています。

Q2. ナイター施設について、開放されていないのはなぜですか。

A2. ナイター照明の器具管理もあり、以前無許可で使用されていたことがあります。また、フットサル施設については、フットサルコートの移設が2年前に行われ、現在のナイター使用率は半分以上となっています。

Q3. 使用者のマナーが悪いことに関しては、取り締まりの強化をなされていると思いますが、その効果はどうですか。

A3. ゴミを捨てたかなどのチェック表を使用後、提出させていますが、一部の使用者の利用の仕方が悪く、ゴミや使い古しのボールをよく置いて帰ってしまっています。随時、見回りはしています。

5. 施設関連

Q4. 数ヶ月、試験的にナイター使用の復活などを行う予定はありますか。

A4. ナイター施設はマナーが悪いためではなく、管理体制・責任者の問題があるため、学生のみでの使用は難しいです。ナイター施設は教職員がその場にいれば、使用することができます。

Q5. 2010年の提言にあるように、インターネット上の予約に関してはどうなっていますか。

A5. 引き続き調整を行っています。しかし、インターネットだと窓口のように顔が見えないので、利用者の確認ができないという問題があります。また、大岡山の窓口ですずかけ台のグラウンドの予約をできるようにするためには、大岡山の学生支援課で体制を構築する必要があります。

このように、テニスコートの使用には管理体制・責任上の問題が大きく関わってきています。

以前の調査との比較

同様の意見が2010年にも提言されています。平日のナイター施設の利用に関しては、教職員・研究室所属生優先の上で、学部生の使用を提言しています。予約システムに関してすずかけ台の窓口まで行かなくてもインターネット上で行えるように検討をお願いしています。また、スポーツ施設利用に関する一般的なマナーやルールを必ず守るよう学生側にも提言しています。

提言

フットサル施設のナイター使用が半分以上であることから、テニスコートのナイター使用も十分需要があると考えられます。フットサルコート同様、テニスコートのナイター利用も可能にすることを提言します。ナイター利用や休日利用における責任に関しては、現在夜間や休日を使用することができるフットサルコート使用の場合と同様に扱うことができると考えられます。管理上の問題も、フットサルコートと同じように管理することができれば、テニスコートのナイター使用の再開することができるので、実現へ向けて検討をお願いします。

学生のマナーの悪さについては、これからも取り締まり、必ず予約をし、使用後はごみをすべて持ち帰ることの徹底をお願いします。学生側には、マナーを守り使用し、ルールを厳守することを提言します。

インターネット上の予約に関しては、引き続き検討をお願いします。利用者の確認については、学生証とPINコードが必要というようなシステムにし、学生証のマトリックスコードの使用を組み込み、学内の人しか使えないような工夫していただきたいです。

学生の意見

コンビニの営業日や営業時間に関する意見が合計 35 件寄せられました。

- 土日・祝日・長期休暇の開店日を増やしてほしい。
- セブンイレブン以外に、他のコンビニを作る。

現状分析

東工大セブンイレブンの土曜日の営業時間は短く、日曜日は終日閉店しています。長期休み期間中も終日閉店していることが多いです。特に、9 月は一カ月全部休みの場合もあるという状況です。学部生のスケジュールにはあっているかもしれませんが、研究室所属している学生(特に石川台地区や南地区で研究をしている学生)にとっては不便です。また、今回は時間の問題というより、終日開いていない日が多いという意見が目立ちました。東京大学では、ローソンが 5 店舗入っており、そのうち 4 店舗は 24 時間営業となっています。

学生支援課とのキャンパスミーティングにて、3 点質問し、回答していただきました。

Q1. 学内の唯一のコンビニであるセブンイレブンの営業利益はどのようになっていますか。

A1. 以前と比べて営業利益は変わっていません。学部生の休み期間中の営業は厳しいです。また、学内のコンビニであるため、学外者はほとんど利用しないという問題もあります。

Q2. 営業日を増やすのは可能ですか。

A2. 営業時間の延長は、以前試験的に 23 時まで行ったことがあります。22 時から 23 時は来店者がごく僅かという結果でした。そのため、営業日を増やすのも難しいと思います。

Q3. セブンイレブンが現在の南地区になったのはなぜですか。

A3. 南 4 号館の建て替えの際に、設置しました。

以前の調査との比較

営業利益上の関係で、営業時間を増やすことは難しいとなっています。また、コンビニの増設に関しては、今のセブンイレブンでさえ、営業時間の短縮が行われている状況なので、新しいコンビニを作ることは難しいです。営業時間の拡大がどうしても難しいということであれば業者の再選定も見据えた検討も必要です。

提言

大岡山南地区のセブンイレブンの営業日の見直しを提言します。営業時間の拡大は利益と見合わないということでしたが、試験的に行ったのが一般営業の平日の夜であったことが原因である可能性があります。閉店時間の早い土曜日や終日閉店している日曜日、長期休みに行ってみることも検討していただきたいです。このような時間帯ならば、東工大生のみならず、一般の方も利用しやすく、利用者数は増える可能性があります。今回の学勢調査では、営業日の増加の要望が大きいため、この点での見直しを希望します。日曜日ならば、研究室所属学生による利用の影響も見ることができるので、試験的に日曜日の営業の検討をお願いします。2012 年の提言に引き続き、セブンイレブンの利益上の問題に関しては、セブンイレブンよりコストが抑えられる他の業者の選定の検討もお願いします。

学生の意見

トレーニングセンターやテニスコートに関する意見が合計 14 件寄せられました。

- 大岡山のテニスコートの開放をしてほしい。(同意見 5 件)
- 体育館の通気性が悪い。(同意見 4 件)
- トレーニングセンターにある器具を修理してほしい。(同意見 3 件)
- トレーニングセンターの開放時間の延長をしてほしい。(同意見 2 件)

現状分析

トレーニングセンターの開放時間の延長は前回から提言されていますが、改善されておられません。また、壊れている器具がそのまま、修理されていないという意見があり、そのような実情があると考えられます。体育館の通気性は悪く、特に夏場はとて湿度が高くなっています。大岡山のテニスコートに関しては、一般学生の使用可能期間が夏休みの 1 週間のみとなっています。現在のトレーニングルームの開放時間は、平日:10 時から 17 時 45 分、土曜日:10 時から 14 時 45 分までとなっています。図 5. 1. 5 からわかるように、大岡山トレーニングルームを使用している人の割合は、今回の調査の結果によると、調査回答者 1793 人中 534 人と 3 割を占めています。

使用したことのあるスポーツ設備

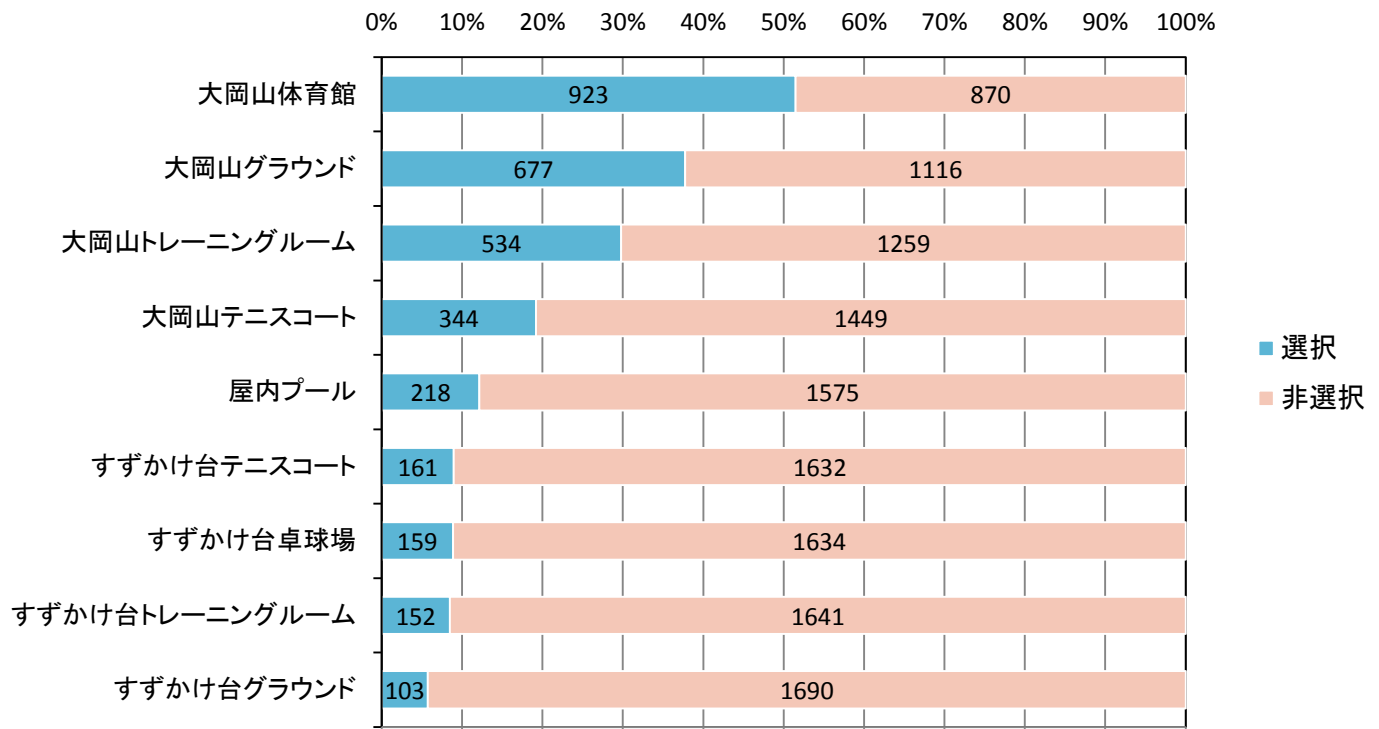


図 5. 1. 5 使用したことのあるスポーツ設備

学生支援課とのキャンパスミーティングにて3点質問をし、回答していただきました。

Q1. 2012年の提言を受けて、実際変更された点はありますか。

A1. 開放時間の延長に関しては、人件費・安全面の点で問題があるので、変更していません。故障しているトレーニング器具に関しては、最近はすぐに修理しています。ただし、中には特注品もあるので、1週間かかることもあります。

Q2. 体育館アリーナの湿度が高いので、通気性を良くしてほしいのですが、可能ですか。

A2. 体育館アリーナにエアコンをつけることはできません。扇風機は置いてあるので、使うことはできます。

Q3. 大岡山のテニスコートの開放について、一般学生が使うことができる機会が少ないのはなぜですか。

A3. テニスコートは、基本的に授業・サークルが優先して利用するためです。夏休みには一般の学生に開放しています。

以前の調査との比較

前回の学勢調査では、「トレーニングセンターの開放時間の延長に関しては、周辺住民や節電への配慮のため難しいです。トレーニングセンターにある壊れた器具に関しては早急に直す必要があり、学生だけでなく、大学側からも積極的な現状把握に努めていただきたいです。大岡山のテニスコートに関して、テニスコートは大学の所有物なので、大学関係者には開放されるべきです。」と報告されています。参考として、東京大学では、学内者は無料(学外者は有料)で、事前予約をすれば使えるという施設もあります。

提言

トレーニングセンターの器具の故障は早急に修理していただいております、引き続きなるべく早い対応を続けていただきたいです。トレーニングセンターの開放時間の延長に関しては、試験的に実施することを提言します。延長時間帯における学生の利用率と人件費を考慮して、通常的に延長するかどうか判断していただくことを希望します。

大岡山のテニスコートに関しては、夏休みに限られた開放であり、その期間も短いので、夏休み以外の休日、長期休みなどコートが空いている時間の開放を提言します。また、夏休みの開放期間の拡大の検討もしていただきたいです。開放期間を拡大する場合は、マナー上の問題もあるのでルールを作った上での開放を提言します。

学生の意見

喫煙スペースに関する意見が自由記述に 30 件寄せられました。内訳は以下のようになっており、喫煙者、非喫煙者の両者の意見が寄せられました。

- 喫煙所の隔離をしてほしい。 (同意見 16 件)
- 喫煙所の撤去をしてほしい。 (同意見 5 件)
- 喫煙所が撤去されすぎている。 (同意見 9 件)

現状分析

学勢調査実施時点では、緑が丘地区のエントランスに喫煙スペースがあったため、このスペースの移動をしてほしいという意見が多かったですが、現在では建物の裏に移動されています。しかし、他の地区でも、人通りが多いところに喫煙スペースがまだ見受けられます。全面禁煙にする方向性もあるようですが、撤去されすぎという意見もあり、分煙をしっかりとしてほしいという意見が今回は強くなっています。喫煙所の重要性に関しては、一般人の 20 代の喫煙者率を見ると「男性は 29%、女性は 10% (JT 全国喫煙者率調査)」、東工大生の喫煙者率は「男性は 6.7%、女性は 0.8% (2014 年 4 月学内調査)」となっており、喫煙者の意見も軽視できない割合となっています。

そこで、安全企画室へのキャンパスミーティングで喫煙スペースについて 3 点の質問を行い、回答していただきました。

Q1. 現状では、全面禁煙する方向性なのでしょうか。それとも一部禁煙する方向性なのですか。

A1. 全面禁煙にする予定はありません。喫煙スペースの場所に関しては、各エリアの安全衛生委員会の協議により決められています。ただ、今後、喫煙スペースが増えることはおそくないでしょう。

Q2. 喫煙所が撤去されつつありますが、その撤去基準は何ですか。

A2. 安全衛生委員会の協議によって決められるので、クレームが来た場合は安全衛生委員会に連絡します。また、内科の学校医の先生が学校を回って受動喫煙が起こりにくいように喫煙スペースを確認しています。

Q3. 喫煙スペースに関する、学生からの意見はどのようにして伝えればいいですか。

A3. 各建物の安全衛生委員会に直接伝えてください。もしくは、教務課か支援課のいずれかに伝えてくだされば、各建物の安全衛生委員会に伝えます。

このように、喫煙スペースに関して、学生が意見を言える手段はあることが、安全企画室へのキャンパスミーティングによって明らかになりました。しかし、喫煙スペースの撤去やより良い場所への移動を希望していても、どこに伝えればいいのか知っている人は少ないのが現状です。

以前の調査との比較

喫煙に関する提言として、マナーの問題や将来的に全面禁煙にする可能性もあるということが報告されていました。また、喫煙スペースについては言及されていませんでした。2012年の学勢調査では、東工大の外部の喫煙者のマナーが悪いという意見が多くありましたが、今回そのような意見はありませんでした。

提言

喫煙者も非喫煙者も心地よく過ごせるように、受動喫煙が起りにくいような喫煙スペースの配置を心がけていくべきです。そのため、内科医の先生に学校内を回っていただき、確認していただくことは続けていくことは重要です。喫煙スペースの移動をしてほしいと考えていても伝え方がわからない人は多いので、教務課や学生支援課に意見を言えるようなシステムを作ること提言します。

また、各建物の安全衛生委員会は、学生にとってあまり知られていないので、安全衛生性委員会に伝えればよいということを知りやすくすることを提言します。具体的には、喫煙スペースに「喫煙スペースについて変更・撤去などの提案がある方は〇〇まで」というようなポスターを貼ることなどが考えられます。

学生の意見

騒音に関する意見が自由記述欄に 6 件寄せられました。

- 図書館や西 9 号館で、吹奏楽が騒がしく集中できない。

現状分析

西9号館で研究をしている学生や図書館で勉強している学生から、吹奏楽の練習の音が騒がしく、集中できないという意見が学勢調査の自由記述で 6 件出ています。70 周年記念講堂内で練習していることもありますが、多くの場合は外で演奏しているという状況です。楽器の練習の音なので、音楽というより騒がしいと感じている学生がいます。

学生支援課とのキャンパスミーティングにて、音楽練習室に関する質問をし、回答いただきました。

Q1. 現在、音を出しても問題がない練習場所はありますか。

A1. 西 9 号館に音楽練習室があります。ただし、上の階に音漏れはしてしまいます。そのため、上の階でイベントなど行う時は、音楽練習室の使用を制限しています。

Q2. 防音室を作るとしたら、費用はどの程度かかるでしょうか。

A2. 防音室を作ると、相当費用がかかってしまいます。

このような回答を頂き、音漏れを防ぐことができる施設はないということがわかりました。また、音楽練習室は 1 か所にしかなく、普段、西 9 号館や図書館付近で練習している人は、その場所が使えない人だと考えられます。

以前の調査との比較

2012 年の学勢調査では提言されていませんでしたが、2008 年の学勢調査では提言されています。2008 年の時点では、新図書館の建設前で、吹奏楽の音が騒がしいと予想されることに関しては、防音室を作るなどの何らかの対策が必要であると提言しています。

提言

静かな図書館で勉強をしに来ている学生や西 9 号館で研究を行っている学生にとって、騒音により、集中できないことは重要な問題です。防音室を作るのには多大な金額がかかってしまいますが、音楽練習室は足りておらず、屋外で練習している方々があります。多少音漏れしても影響が少ない建物や地域に屋内の音楽練習室を増やすことを提言します。防音室とまではいなくても、屋外で練習を行うよりは、屋内で行った方が騒音の迷惑は減ると考えられます。

また、西 9 号館の音楽練習室がイベント時使用制限されているように、多くの人が図書館を使うテスト期間などは屋外での練習を制限するということを提言します。

5.2. 図書館

5 施設

2 図書館

提言 5-15

閉館時間の延長

学生の意見

開館時間の延長に関する意見が合計 62 件寄せられました。以下の 5 件に集約されます。

- 土日の開館時間を長くしてほしい。
- 土日の開館時間を早くしてほしい。
- 自習スペースだけでも開館時間を長くしてほしい。
- 24 時間利用可能にしてほしい。
- 研究室所属の学生は夏休みも来ているのだから、開館時間を講義日程だけで短縮したりしないでほしい。

(同意見 62 件)

現状分析

本学と他大学の附属図書館の開館時間を比較すると以下のようになります。(通常授業期)

東京工業大学	平日 8:45-21:00 12h15m	休日 11:00-17:00 6h
	平日延長開館 8:45-23:00 14h15m	休日延長開館 9:00-20:00 11h

国内大学の図書館開館時間は以下の通りです。

北海道大学	平日 8:00-22:00 14h	休日 9:00-19:00 10h
東北大学	平日 8:00-22:00 14h	休日 10:00-22:00 12h
東京大学	平日 8:30-22:30 14h	休日 9:00-19:00 10h
名古屋大学	平日 8:00-22:00 14h	休日 8:45-22:00 13h15m
京都大学	平日 8:00-22:00 14h	休日 10:00-19:00 9h
大阪大学	平日 8:00-22:00 14h	休日 10:00-19:00 9h
九州大学	平日 8:00-22:00 14h	休日 10:00-18:00 8h
東京医科歯科大学	平日 8:00-22:00 14h	休日 10:00-18:00 8h
一橋大学	平日 8:40-22:00 13h20m	休日 8:40-17:00 8h20m
東京外国語大学	平日 9:00-21:45 12h45m	休日 13:00-18:45 5h45m
千葉大学	平日 8:30-21:45 13h15m	休日 10:30-18:00 7h30m
横浜国立大学	平日 8:40-21:45 13h5m	休日 9:30-16:30 7h
筑波大学	平日 8:30-24:00 15h30m	休日 9:00-20:00 11h
早稲田大学(理工)	平日 9:00-21:00 12h	土曜 9:00-19:00 10h
慶應義塾大学(理工)	平日 8:45-21:30 12h45m	土曜 8:45-20:00 11h15m
東京理科大学	平日 9:00-22:00 13h	土曜 11:00-19:00 8h

5. 施設関連

各大学付属図書館の開館時間(平日)

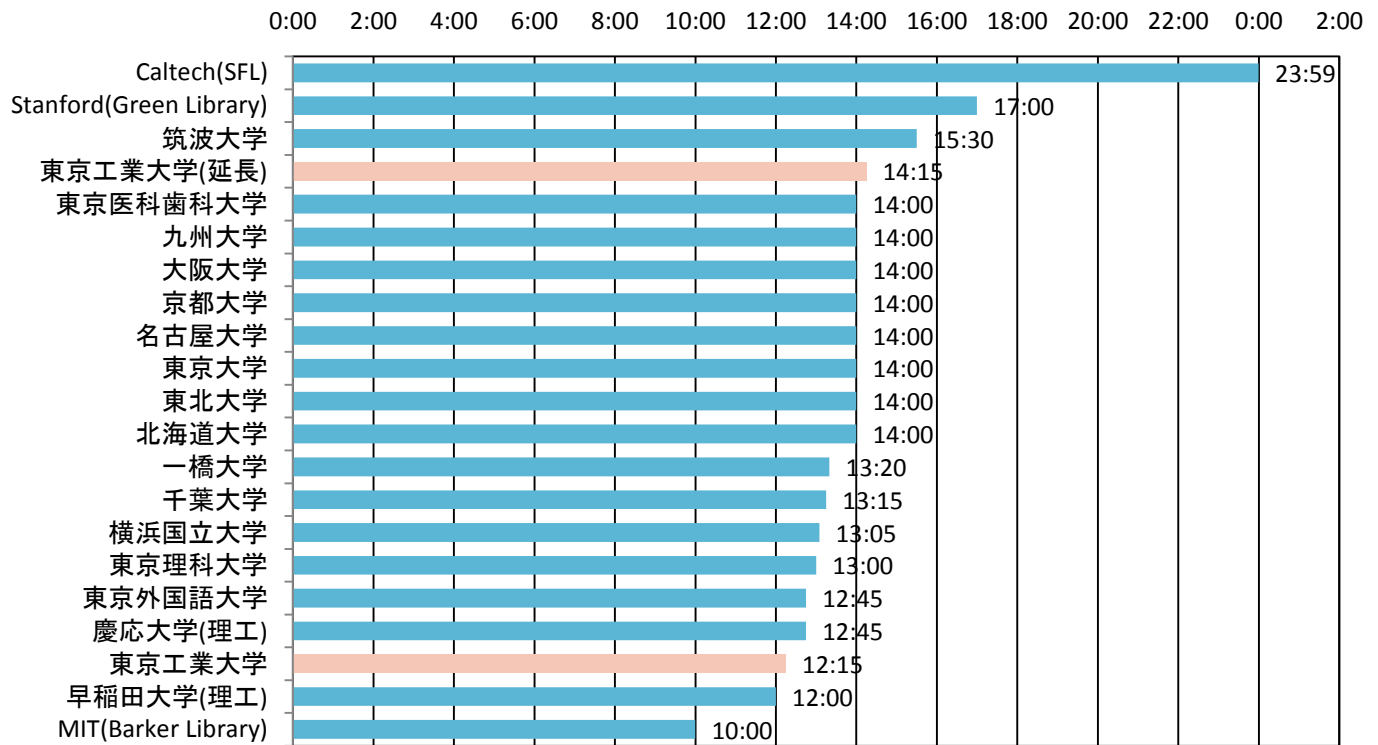


図 5. 2. 1 各大学図書館の開館時間(平日)

一方、海外大学は以下の通りです。

Caltech(SFL)	月一金	0:00-24:00	24h	土日	09:00-24:00	15h
MIT(Barker Library)	平日	9:00-19:00	10h	休日	10:00-18:00	8h

※Barker Library (工学分野専用)の5階フロアは、24時間オープンしています。

Stanford(Green Library)	月一木	08:00-25:00	17h	金	08:00-22:00	14h
	土	10:00-22:00	12h	日	10:00-25:00	15h

図 5. 2. 1 と図 5. 2. 2 は開館時間の長さが長い順に上から並べたものです。以上より本学の附属図書館の開館時間は他大学に比べて、平日は約 1-2 時間、休日は約 2-5 時間短いことが分かります。現在、本学では試験期間およびその前一周間は開館時間の延長が行われています。しかし、試験期間のみではなく、授業期間中や長期休暇中も図書館を利用して学習を行いたいという学生が多くなります。

最後に、情報図書館課の方々とのキャンパスミーティングで、開館時間の延長について伺ったことをまとめます。

Q1. 図書館利用規則の開館時間はどのように決められましたか。

A1. 授業開始の時間を配慮して、15分前から開館しています。開館が早い大学は、委託職員や学生アルバイトを使っています。20年以上前は9時に開館していました。勤務開始が8時30分なので、準備時間15分を考えると45分開館が妥当と考えております。平日の開館時間が9:00開館から8:45開館に変更(延長)したのは平成14(2002)年10月からです。

各大学付属図書館の開館時間(休日)

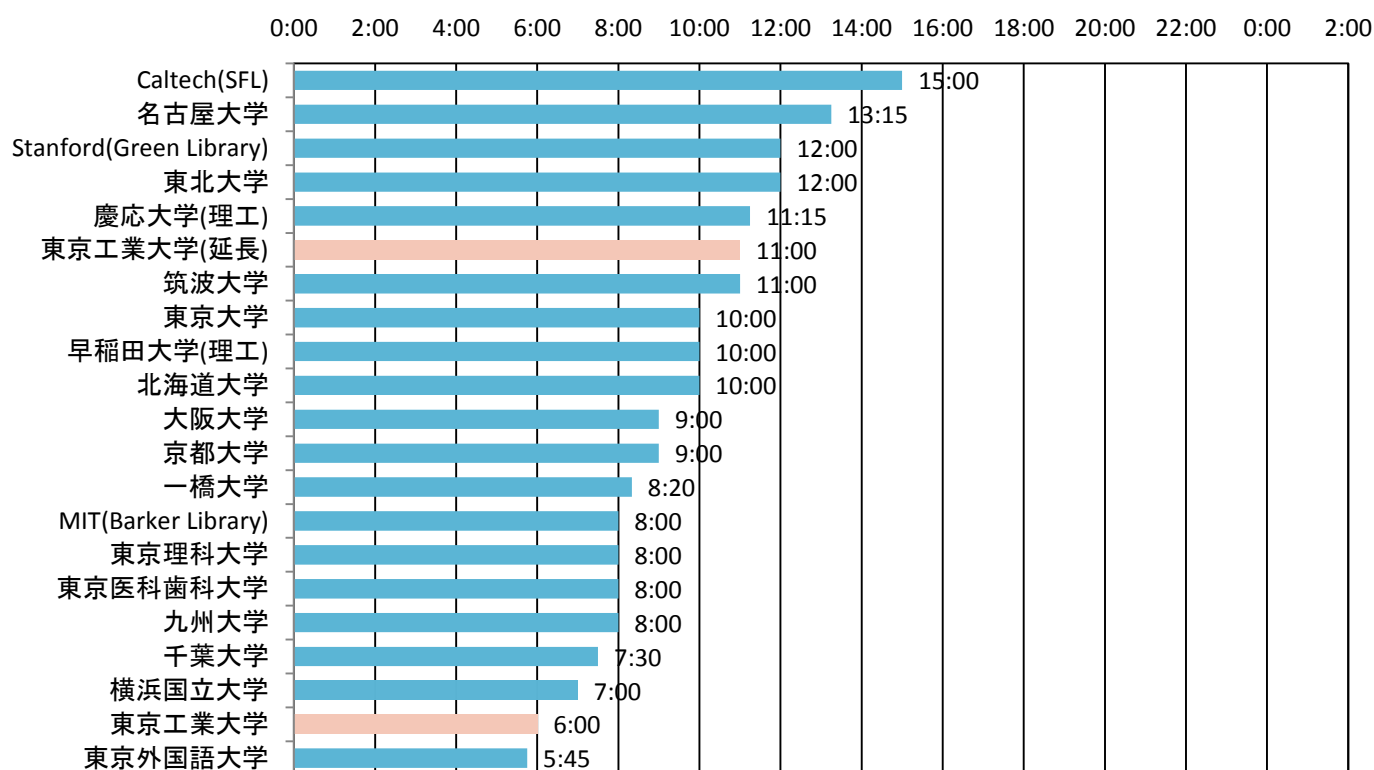


図 5. 2. 2 各大学図書館の開館時間(休日)

Q2. 開館時間が中途半端なので、早めることはできませんでしょうか。

A2. 開始時間を早めることについては、午前9時までの在館者状況を鑑み、現行の開館時間での運用を考えています。

Q3. 世界トップ10の大学を目指すのに、他大に比べて開館時間が短いことをどう考えていますか。

A3. 他大学においては、それぞれの大学の事情に鑑み時間設定されているのかと存じます(同一キャンパス内に中央図書館と各学部・分野の図書館室の存在等。海外の場合はキャンパス内でタウン形成され、公共機関での通学が発生しない等)。本学の場合、他大学と比較すると確かに短い点は否めませんが、どのような開館時間設定が適切か検討しています。後述の平成25年度の試行及び平成26年度の試行も、大学全体の限られた予算の中で実施しています。平成27年度も試行を実施予定です。

Q4. 平成25年度10月より行われた、土日祝日の延長開館(3時間延長:17:00閉館から20:00閉館に)の試行の結果はどうなりましたか。

A4. 入館者数の増加につながり、17:00以降の在館者数を見る限り一定の利用がございましたが、試験期間前1か月の延長時間帯の在館者が多いこともあり、今年度は1月の延長開館を実施しました。快適な学習・調査環境の提供を担う図書館としてはできる限り開館時間を増加する方向で検討しています。なお、延長開館しても時間帯により在館者が二桁程度(学習棟は一桁)という状況があります。図書館としても沢山の学生に使っていただくことを願っています。

5. 施設関連

Q5. 地上自習スペース(通称:チーズケーキ)だけでも延長することは構造上可能でしょうか。

A5. 管理上可能にするために下記の課題 があり、すぐには対応できません。

1. 閉館時の消灯
2. 緊急時の臨時放送
3. 開館時の空調
4. 閉館時の施錠
5. 閉館時の利用者への退出要請 など

また、図書館に寄せられている開館時間延長の要望には「資料を利用できる機会の拡大」もあり、必ずしも自習スペースの確保だけが利用者の要望である、とは捉えていません。現実には夜間のチーズケーキ利用者は必ずしも多くはありません。

以前の調査との比較

開館時間の延長に関する要望が 2010 年は 63 件、2012 年は 65 件と今回変化はありませんでした。2013 年度 10 月より、土日祝日の延長開館(3 時間延長:17:00 閉館から 20:00 閉館に)の試行が行われました。本年度は試行ではなくなるように、予算要求がされています。しかし、需要なども考慮すると実際に実施されるかどうかは未定とのことです。

提言

三島学長の掲げる、「東工大を世界トップ 10 のリサーチユニバーシティー」にするためには、学習施設も他大学に比べて充実しているべきと考えます。開館時間が他大学に比べて短い現状を踏まえて、平日・休日ともに図書館の開館時間を延長することを提言します。より具体的には、クォーター制になるに連れて、中間・期末試験が 2 倍に増えると考えられるため、クォーター制の中間・期末の時期(中間期末試験の 10 日前ほど)に 8:45~23:00 に開館するよう、提言します。

学生の意見

冷暖房の調整に関する意見が 71 件寄せられました。

- 冷暖房の調節ができてない。
- 地下図書館は暑く、地上自習スペースはかなり寒いという状況が頻繁に見られた。
- 空調が効きすぎなときと、効かなすぎのときがあります。
- 地下と地上で温度を変えて利用者毎に分かれられるようにしてほしい。

現状分析

情報図書館課の方々とのキャンパスミーティングで伺ったことをまとめます。

Q1. どこが暑いか寒いか、図書館職員は把握していますか。

A1. 地上階の階段付近が一番暑いが、体感温度には個人差があります。空調システムのセンサーで見ることができます。

Q2. 温度計を増やすことはできるのか？

A2. 可能ですが、設置にはコンクリートに打ち付ける必要があるので簡単に増やせるわけではありません。

2012 年度のキャンパスミーティングで温度のムラの改善をお願いしたところ、「館内は設計上空気が循環するつくりになっており、個人からの要求も受け付けますが、館内全体の管理になっているため困難です。」とのことでした。そこで、以下の質問をしました。

Q3. 回路を変えて、温度管理を館内全館から各階にすることはできないでしょうか。

A3. 各階ごとの温度管理は可能ですが、特に 2,3 階の室温は外気温に左右されやすいため、自動での管理は難しいです。温度計をこまめにチェックしたり現地に行くなどして調節はしています。

Q4. 断熱フィルムや扇風機・ストーブなどによる細かい温度調節はできないでしょうか。

A4. 地上階の窓ガラスなど断熱効果もあるもので、温度調整も考えて設計されています。2014 年夏に、扇風機を導入する試行をしています。

以前の調査との比較

2012 年度調査同様、冷暖房に対する不満が多数寄せられました。自由記述において 71 件冷暖房に関する不満が寄せられたので、実際には、その何倍もの学生が不満を感じていると考えられます。

提言

図書館内の温度は学習に直接影響します。しかし、全館共通の温度管理システムでは、館内にいるすべての人が満足する温度に調節することは難しいという現状です。そこで、断熱フィルムや扇風機・ストーブなどにより各階ごとの細かい温度調節をするなど、温度調整に対策を施すことを提言します。

学生の意見

蔵書に関する意見が 84 件寄せられました。

- 人文系、経営、文学、心理学、教育、教養書、新書など、理工系以外の蔵書数が少ない。(同意見 24 件)
- 小説を増やして。(同意見 14 件)
- 専門書が古いものばかりであるのを改善してほしい。(同意見 11 件)
- 蔵書を増やしてほしい。(同意見 11 件)
- 電子ジャーナルを広げて。(同意見 10 件)
- 英文の本が少ない。(同意見 6 件)
- 新分野の本が足りない。(同意見 4 件)
- 教科書を複数置いて。(同意見 2 件)
- 新聞データベースを朝日以外も置いてほしい。(同意見 2 件)

現状分析

図 5.2.3 と図 5.2.4 は、図書館に充実してほしい資料について調査した結果をグラフ化したものです。専門書、参考書、一般教養書の充実を望む声が多いです。自由記述では、人文系や小説などの理工系以外の蔵書の拡充を望む声が多いです。大学院生は、学部生に比べてデータベース、電子ブック、電子ジャーナルの充実を望む声が多いです。

附属図書館に充実してほしい資料(3つ複数選択可)

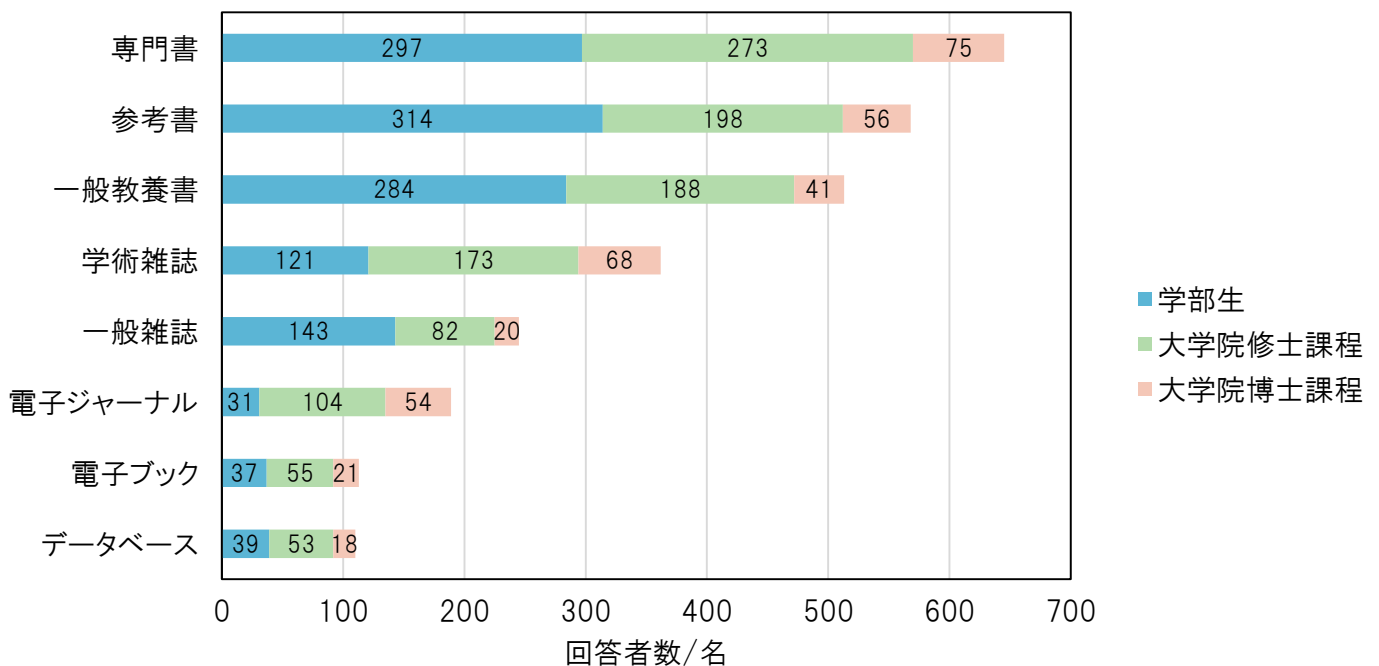


図 5.2.3 附属図書館に充実してほしい資料

附属図書館に充実してほしい資料(3つ複数選択可)

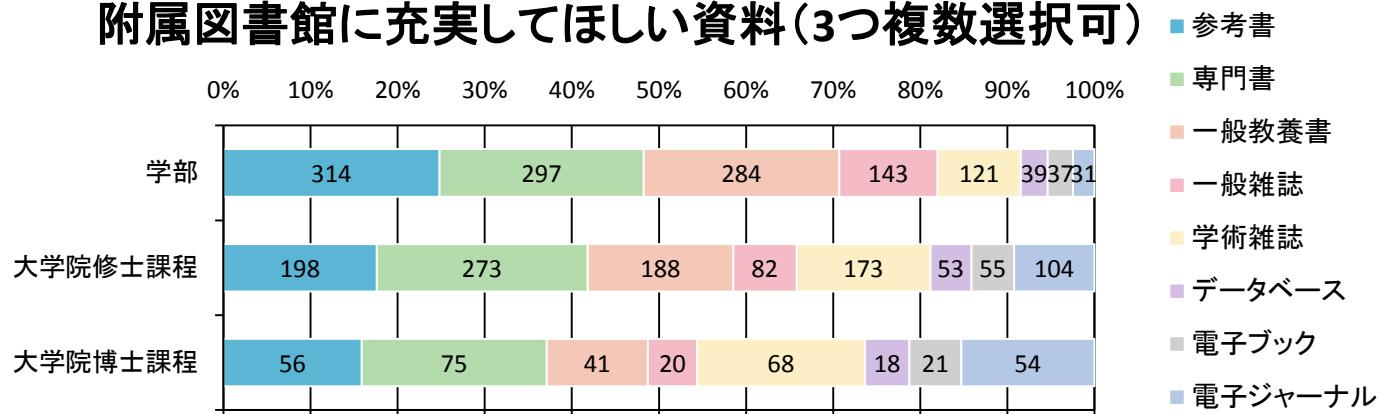


図 5. 2. 4 附属図書館に充実してほしい資料

図書館のキャンパスミーティングで伺ったことをまとめます。

Q1. 図書館の年間の財源、使い方について教えてください。

A1. 大雑把には資料費と維持費で年間 6 億円近くとなります。詳しく見ていくと、図書費は和洋の区別なく合計で 3000 万円です。雑誌費は、和雑誌 700 万円、洋雑誌 5 億 4000 万円となります。雑誌(電子ジャーナル)だけで、5 億円以上使われています。また、今年度は臨時として、リベラルアーツ図書や留学生用図書として約 1,500 万円ほどの財源がありました。電子ジャーナル等の資料費が増えた場合は、各部局(先生方の研究費)に負担を負担をお願いします。

理工系以外の本が少ないという意見が多かったので、蔵書の割合と年間の受入数について伺いました。

Q2. どういった本を購入していますか。理工系と人文系の蔵書の割合はどれくらいでしょうか。

A2. 蔵書の分類別統計は通常出しておりませんが、別途同類の問い合わせに伴い 2011 年度についてだした数値を掲載いたします。(下に頂いた数値をもとにしたグラフがあります。)新書・文庫のコーナーなどを除く「一般開架」エリアの図書について試算したものになっています。図書に限定すれば、これら一般開架に配架する図書以外に、同じ B1F にエリア別に

- 「東工大卒業生の本」文庫
- 「東工大先生の本」文庫
- 語学資料
- 文庫、新書(岩波文庫、岩波新書等)

があります。また、ここ数年洋書の専門書を中心に、冊子から電子へのシフトを行い、電子書籍(Eブック)の拡充にも着手しております(Elsevier, Wiley, Cambridge University Press などの専門書、レファレンス資料など)。また、本年度はリベラルアーツセンターの協力も仰ぎつつ、人文社会系を中心とした定番の教養書を集中して整備し、B1F に「リベラルアーツ資料」エリアを開設予定です。

図 5. 2. 5 は 2011 年度の蔵書数、図 5. 2. 6 は 2011 年度の受入数について分類別の割合をグラフ化したものです。すずかけ台の附属図書館は理工系以外の蔵書が少なく感じられますが、大岡山の附属図書館は理工系以外の蔵書が 4 割以上を占め、5 割以上受け入れています。本大学が理工系単科大学であることから、理工系以外の蔵書の割合は適切であると思われます。

5. 施設関連

分野ごとの割合・蔵書数(キャンパス別)

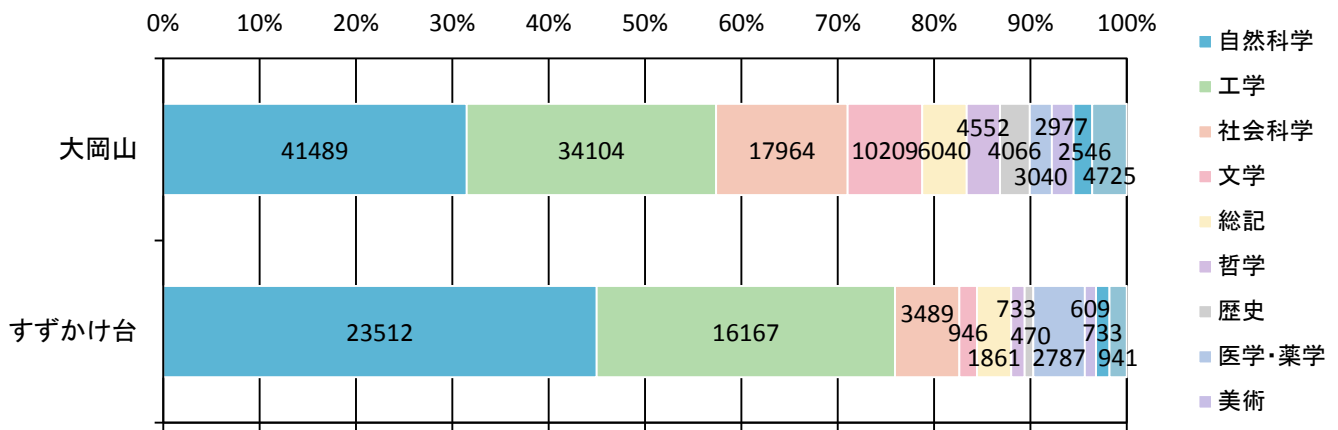


図 5. 2. 5 分野ごとの割合・蔵書数(新書・文庫のコーナーを除く「一般開架」エリアの 2011 年度時点の蔵書数)

分野ごとの割合・受入数(キャンパス別)

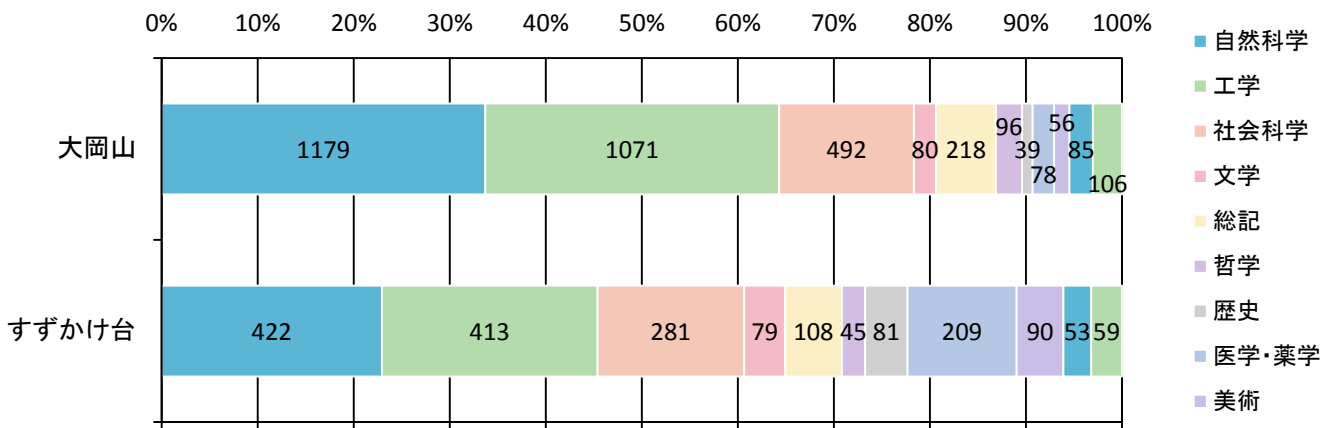


図 5. 2. 6 分野ごとの割合・受入数(新書・文庫のコーナーを除く「一般開架」エリアの 2011 年度の受入数)

Q3. 現在の本の購入方法を具体的に教えてください。

A3. リクエスト、教員選書(授業関連図書、学生用図書)、館内選書がございます。また、資料の寄贈については内外問わず受け付けています。

Q4. 購入する本の選定基準を教えてください。

A4. およそ以下の通りになります。

図書館における資料は、学生の教育内容及びカリキュラム等との関連を考慮して次の目標のもとに選定を行う。

- i. 本学の授業科目がある学問分野については、授業との連携をとりつつ、教育効果を最大限に高めることを目標として、その分野の基礎的及び専門的知識を修得するために必要な資料を備える。
- ii. 本学に授業科目がない学問分野については、基礎的資料を精選して提供する。
- iii. 一般教養の修得及び人格形成に必要な基礎的資料を精選して提供する。

このような趣旨のもとに、図書館の蔵書として長期にわたり利用されるものを収集しております。また、リクエストいただく図書については以下のような資料は対象としていません。

①児童書、コミック本②趣味・実用書③娯楽的図書④専ら特定の団体あるいは個人の宣伝等を目的とするもの⑤価格が低廉で個人で購入するのが適当と思われるもの⑥狭い主題の特殊なもの⑦図書館の図書費購入で対応できない高価なもの
理工系単科大学であるが故に、理工系分野の学習書・専門書を優先して収集しているため、一般書はどうしても少ない量になってしまいます。

Q5. 学生からのリクエストにどれほど対応していますか。

A5. 平成 26 年度中の受付件数は 422 件、13 件は謝絶(所蔵済み、利用可能な電子コンテンツがある、価格が低廉、趣味・実用書等)しています。平成 25 年度中のリクエスト受入数は 463 冊(図書受入数(購入数)6,534 冊中)です。

以上より、ほとんどの場合のリクエストは受け入れられています。

Q6. 電子ジャーナルの選定基準・利用数・専攻別データを教えてください。

A6. 電子ジャーナル等、外国雑誌の選定においては図書館委員会にて決定しております(ただし、外国雑誌センター館タイトルは除く)。現在、電子ジャーナル等の電子資料の整備については図書館委員会の下に設置された電子ジャーナル等専門委員会にて検討をしております。利用数等について専攻別データは持ち合わせておりません(出版社から提供される利用数は COUNTER という基準に準拠したものであり、その数値は IP アドレス等のアクセス元を特定する情報まで含んでおりません)。研究科ごとの意見も聞きながら、利用も多く分野の偏りのない(人文社会系もバランスよく含めた)コレクション構成を維持するようにしています。

Q7. 本の人気等により本の数を変えるなど対応していますか。

A7. 授業関連図書など、受講対象者数や利用数の多い図書については複数冊おくことはあるが、公共図書館と役割が異なるので、利用されるものだけ単純に複数冊おくようなことはしていません。(ベストセラー本等)

Q8. 留学生にどれほど対応していますか。

A8. B1F に語学用図書コーナーを設けて語学学修資料、留学生用資料を約 1,300 冊配架しております。また、本年度は外国語研究教育センターの協力も仰ぎつつ、語学学修用、留学生用資料などを集中して受入し、B2F に「語学・留学用資料」のエリアを開設予定です。

以前の調査との比較

前回と大きな変化はなく、理工系蔵書の拡充を求める声が一番多く、次に文系蔵書を求める声が続きます

提言

図書館には今まで通り、研究支援のための学術雑誌を中心とした学術情報を優先して整備していく役割を担っていただくことをお願いします。

大学図書館には大学図書館の、公共図書館には公共図書館のそれぞれの役割があるため、ひとつの図書館で利用者全てのニーズをカバーするのは不可能であると考えられます。そのため、学生側には一般書、ベストセラー、小説等の本は最寄りの公共図書館も含め使い分けて活用していただくことを提言します。また、図書館はほとんどの場合でリクエストに対応しているので、必要な本は積極的にリクエストをすることを提言します。図書館には、一般書、ベストセラー等の図書があるということをより宣伝するようにお願いします。

学生の意見

- 返却ボックスをキャンパス内各地に設置してほしい。（同意見 2 件）
- 書籍を研究室まで配送してほしい。（同意見 3 件）

現状分析

図書館は、大岡山南地区や石川台地区、緑ヶ丘地区にある研究室から離れた場所にあるので、返却ボックスなどがあれば便利であるとの意見がでています。

図書館とのキャンパスミーティングで伺ったことをまとめます。

Q1. 学内便やポストでの返却は可能でしょうか。

A1. 学内便が一番簡単ですが、ヒューマンエラーが防ぎきれないです。返却日の処理が難しいです。田町では設置されていますが、窓口が開いている時間のみ対応可能です。ブックポストも 1 台 30~40 万円と高価です。石川台や緑ヶ丘に設置するにしても、管理してくれる事務室が見つかるかどうか不明です。回収の労力も大変です。

以前の調査との比較

2012 年にすずかけ台図書館の返却に関して、すずかけ門近くのポスト設置案が出ましたが、管理や実際の返却と返却処理がずれるなどの理由から難しいとのことでした。

提言

管理の問題や利用状況が分からないため、いきなり正式に導入することは難しいと思います。そこで、返却ボックスを石川台地区と緑ヶ丘地区に仮設置することによる試行を提言します。

学生の意見

電波に関する意見が合計 5 件寄せられました。

- 地下の電波がつながりにくい。

現状分析

図書館は厚いコンクリートの壁で作られ地下にあるため、一部窓の近くなどを除いて、携帯電話の電波が通りにくくなっています。しかし、震災で本に生き埋めにされた場合などに外部と連絡が取れない現状となっています。

図書館とのキャンパスミーティングで伺ったことをまとめます。

Q1. 緊急時の避難対応は、どのように行われているのでしょうか。

A1. 館内に複数職員が巡回し、利用者全員が避難することを確認します。夜間帯も同様です。

なお、大岡山の場合、必ずしも電話ができないわけではなく、館内に携帯電話の通話が可能なスペースを設けています(地下 2 階リフレッシュルーム)。

※携帯電話大手 3 社(NTT-docomo, au, Softbank) の電波状況:

地下 2 階洋雑誌のコーナーを除き、地下 1 階・地下 2 階は現在届いている(Foma, 3G で調査)

以前の調査との比較

2012 年も同様の意見が寄せられましたが、図書館は電話をする場所ではないので、現状を維持しているようです。

提言

現状では 3G が使えるとは言い切れない状況なので、再調査を提言します。さらに、震災に備えて、地下でも電波が届くようにするルーターを設置するなどして、電波状況の改善を提言します。

学生側には、図書館は電話をする場所ではないという認識を持ち、マナーを守って図書館を利用することを提言します。

5.3. 生協

5 施設

3 生協

提言 5-20

ヘルシーメニューの充実

学生の意見

- 野菜を増やしてください。
- 野菜を安く摂れるようにしてほしい。
- 塩分、脂肪分等が多いメニューばかりなのでそれらを控えたメニューを出して、それをアナウンスしてほしい。

(同意見 9 件)

現状分析

図 5.3.1 は、学生の食堂への要望を調査した結果です。メニューの価格や種類についての要望が多く、次いで健康志向やボリューム重視のメニューを求める声が多く挙がりました。メニューの価格や種類については後述し、ここでは 3, 4, 5 番目に多い意見に焦点を絞ります。食堂利用回数別に、学生の要望のあるメニューがどのような傾向になるのかを分析した結果、次ページの図 5.3.2 と図 5.3.3 のようになりました。

食堂のメニューへの要望

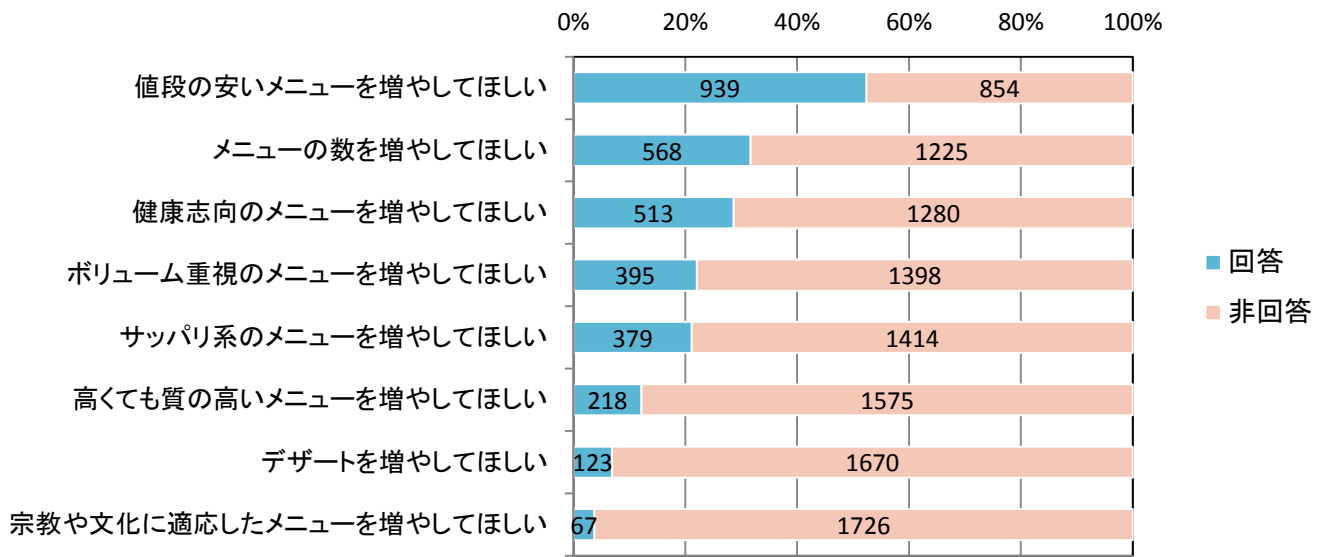


図 5.3.1 食堂のメニューへの要望

1週間の食堂利用回数×健康志向のメニューを増やしてほしい

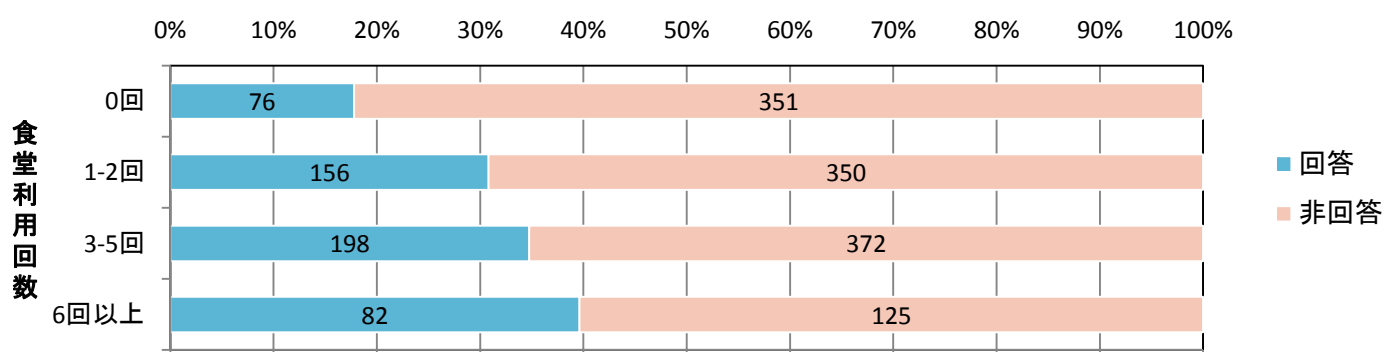


図 5. 3. 2 一週間の食堂利用回数別、健康志向のメニューの需要

食堂利用回数が多いほど、健康志向の傾向があり(図 5. 3. 2)、その一方、食堂利用回数が多いほど、ボリュームのあるメニューを重視しない傾向にあります(図 5. 3. 3)。これは、食堂のメニューが脂っぽいと感じる学生が多いためと考えられます。このため、健康志向とボリューム、どちらのメニューにも需要があるものの、利用回数の多い学生を優先すると、健康志向のメニューの方がより需要が高いと考えられます。食堂のメニュー数を増やしてほしいという意見も安価なメニューを望む意見に次いで多いため、既存のメニューに加えて新たな健康志向のメニューが求められていると言えます。

東工大生協本部の方々とのキャンパスミーティングで、これらのアンケート結果について伺ったことを掲載します。

Q1. 健康志向のメニュー、サッパリしたメニューの種類を増やすことはできますか。

A1. 現在はボリューム重視と健康重視メニューを重点的に提供しています。2、3年前から根菜、緑黄色野菜を180円の小皿で販売しています。1つのどんぶりに多くの野菜が含まれるようなメニューは値段が高くなってしまったため販売していません。1品あたりが安い副菜メニューとして販売することによって多くのニーズに対応できるようにしています。

Q2. 食堂のメニュー価格を下げることは可能ですか。

A2. 昨年度の生協経営は収支±0であり今後収益が減少するとの予想から、これ以上の値下げは困難な状況にあります。

Q3. 食堂のメニューの種類を増やすことは可能ですか。

A3. 東工大生協は他大学よりメニューの種類が多く努力していますが、これ以上増やすのは困難です。

1週間の食堂利用回数×ボリューム重視のメニューを増やしてほしい

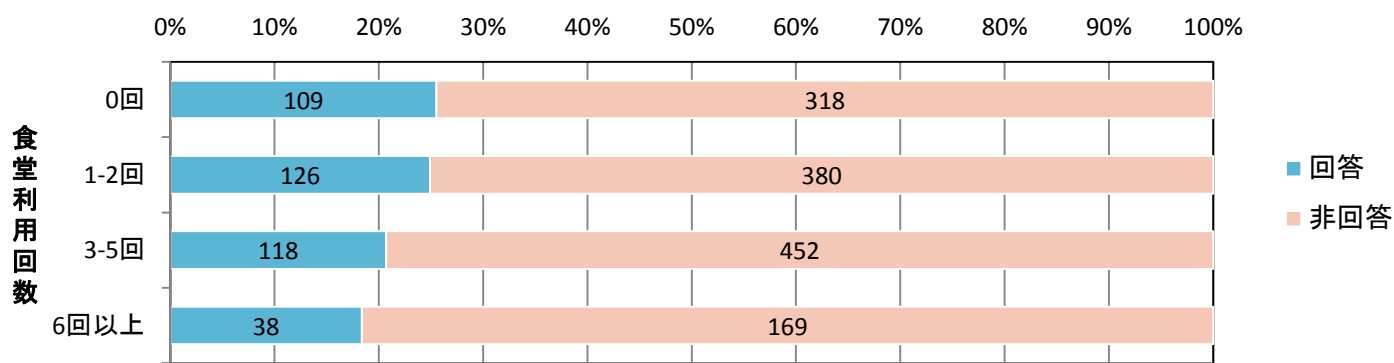


図 5. 3. 3 一週間の食堂利用回数別、ボリューム重視のメニューの需要

5. 施設関連

以前の調査との比較

図 5. 3. 4 と図 5. 3. 5 は健康重視、ボリューム重視メニューに対する年度ごとのアンケート結果をグラフにしたものです。メニューアンケート結果と同様、以前の調査においても、ボリューム重視メニューより健康志向メニューの需要の方が少々多い傾向にあります。

健康志向メニューを望む声は 2012 年の調査の 30%から 2014 年の 28.6%に減少しました(図 5. 3. 4)。一方、ボリューム重視のメニューを望む声も 2012 年の調査結果よりも減少しています(図 5. 3. 5)。生協の努力により、わずかではありますが改善されつつある状況だと判断できます。

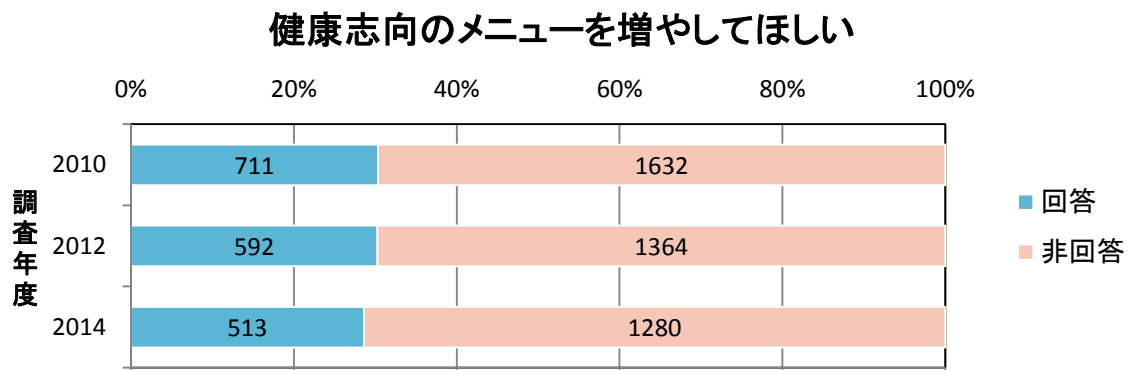


図 5. 3. 4 調査年度別健康志向のメニューの需要

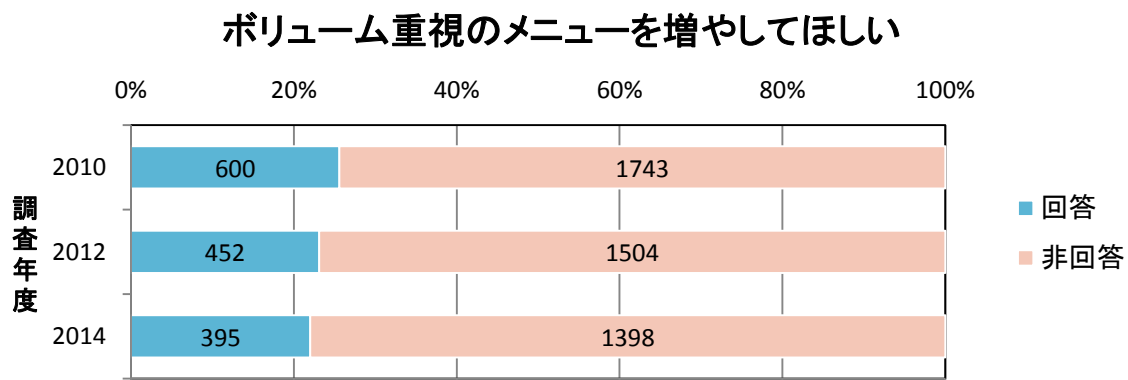


図 5. 3. 5 調査年度別ボリューム重視メニューの需要

提言

多くの学生が求めている安価なメニューの導入や健康志向の新たなメニューの導入は困難であると言えます。生協食堂では野菜が含まれるメニューは小皿で販売し、さまざまなニーズに対応できるようにしています。しかし、小皿メニューはショーケースに置かれる場合が多く、学生の目に入りづらい状況が続いています。学生がこれらのメニューをとりやすいようレジ周りのショーケースのレイアウトを見直すとともに、張り紙などを用いてこれらのメニューの情報を得られやすいようにすることを提言します。

学生の意見

アレルギーの表示に関する意見が2件ほど寄せられました。

- アレルギー成分の表示をしてほしい。
- 期間限定メニューでアレルギー情報がサイトにもないことがあるので改善してほしいです。

現状分析

平成24年度食品表示に関する試験検査「即時型食物アレルギーによる健康被害、及びアレルギー物質を含む食品に関する試験検査」(参考文献参照)によると、18歳以上で食物アレルギーを持つ人の割合は5.4%といわれています。現在、生協食堂では定番のメニューに関してはアレルギー表示もあり、生協のWebサイトにも掲載されていますが、期間限定メニューに関しては十分な表示が少なく対応が求められています。

※参考文献：http://www.cao.go.jp/consumer/history/02/kabusoshiki/syokuhinhyouji/doc/130530_shiryou4.pdf

東工大生協本部とのキャンパスミーティングで食物アレルギーに関する対応について伺ったことを掲載します。

Q1. すべてのメニューに対してアレルギーに関する細かい対応をすることはできますか。

A1. Webに掲載されていないメニューに対しても学生からの質問があればデータを確認し細かくアレルギー物質の有無を答えることは可能です。

Q2. すべてのメニューにアレルギー成分の表示をすることはできますか。

A2. 値札が小さいものは内容をわかりやすくするため書いていません。ポスターについてはアレルギー成分の表示に加え、留学生向けの英語の表記などが十分であるかについても3月にチェックする予定です。

以前の調査との比較

なし

提言

期間限定メニューに対しても定番メニューと同様にアレルギー情報が得られるよう提示することを提言します。

学生の意見

生協の弁当に対しては様々な意見が寄せられました。

- 野菜が足りない。 (同意見 7 件)
- 女子向けに少量のお弁当が欲しい。 (同意見 5 件)
- とにかく美味しくして欲しい。 (同意見 4 件)
- 揚げ物ばかりしかない。 (同意見 3 件)
- おかずだけの小さいパックがあるとありがたい。 (同意見 2 件)
- 保温をしっかりしてほしい。
- 大盛りがなくなってから買うのをやめた。
- 学食パスに対応してほしい。

現状分析

現在生協では食堂での食事の提供のほかに、大岡山南地区、石川台地区、緑ヶ丘地区、1食、2食の5か所で弁当の販売を行なっています。図 5.3.6 は弁当のメニューと食堂のメニューの質に対するアンケートの結果です。食堂に比べ弁当のメニューに関しては質の改善を求める声が多く挙がる結果となりました。図 5.3.7 は学生の弁当への要望を調査した結果です。食堂のメニューに対するアンケートで回答者が多かったメニュー数の充実を望む声は(図 5.3.5)、弁当に対しては少ない結果となりました。このため、弁当販売に関してはメニュー数の充実より弁当の内容と質の改善がより重要であると言えます。図 5.3.7 の弁当のメニューに対する要望のうち、より多くの学生が求めているものは、安価なメニュー、健康志向のメニュー、おかずとごはんが分かれたメニュー、となっています。なお、食堂のメニューに対するアンケート結果(図 5.3.5)に比べて、弁当のメニューに対するアンケート結果(図 5.3.7)は全体的に非回答者が多い結果となりましたが、この傾向は図 5.3.6 をはじめ弁当に関するアンケート全般に見られる傾向のため、弁当購入者が食堂利用者に比べて少ないことによると考えられます。

東工大生協とのキャンパスミーティングでこれらのアンケート結果について伺ったことを以下に掲載します。

Q1. 野菜を使った弁当メニューを導入することはできますか。

A1. お弁当に野菜入れにくい理由として、食中毒予防の点からカット野菜が入られないことにあります。キャベツのボイルなど火を通した炒め物は可能です。また、2食ではテイクアウトができるので、食堂の野菜メニューをテイクアウトも可能です。

食堂と弁当の質

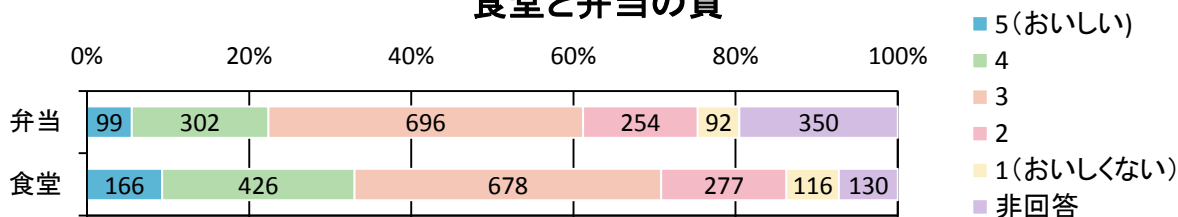


図 5.3.6 食堂と弁当の満足度の比較

弁当のメニューに対する要望

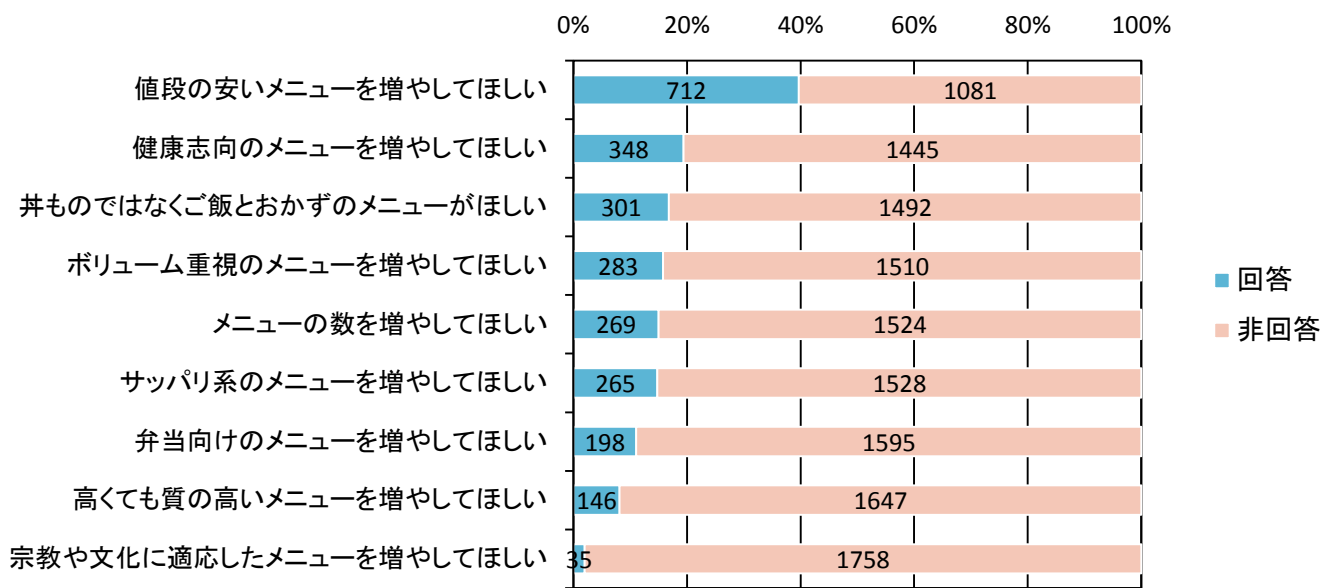


図 5. 3. 7 弁当のメニューに対する要望

Q2. 丼ものではなく、おかずとごはんが分かれた幕の内弁当を販売することはできないですか。

A2. 東工大生協では販売したことがないですが、ニーズも多いので検討します。

Q3. おかずやサラダを小さいパックに入れて販売することはできますか。

A3. 以前から検討しています。近く販売できるよう努力します。

Q4. お弁当を暖かいまま販売することは可能ですか。

A4. 保温されたまま販売することは難しいです。各販売所にレンジを置くことも考えてはいますが、電気についてなど大学との話し合いが必要です。

Q5. なぜ大盛り弁当は販売中止となったのですか。

A5. 以前は販売していましたが、売れ行きが不調だったため販売中止にしました。現在は大盛りを販売しない分、以前よりメニューの種類を増やして販売しています。

以前の調査との比較

なし

提言

弁当に向けた、冷めてもおいしいメニューや、食中毒のリスクが少ない加熱した野菜を用いた新たなメニューを開発することを提言します。また、おかずやサラダなどの小さなパックでの販売や、幕の内弁当の販売など、新しい形の弁当を販売することを提言します。

学生の意見

ハラルメニューに関する意見が 44 件寄せられました。

- more halal items please
- Want more variety in the halal menu
- want HALAL food as bento

現状分析

現在、生協食堂では週替わりで 2 品、5～6 種類のハラルメニューを販売していますが、ハラルに対応した弁当の販売は行っていません。図 5.3.8 は一週間に食堂を利用する回数を留学生と日本人学生で比較したものです。留学生は日本人学生に比べ食堂で食事をとる割合が高いことがわかります。すべての留学生がハラルメニューを求めているというわけではありませんが、食堂利用回数が多い留学生にとってハラルメニューの品揃えは重要です。また、ハラルメニューは学外ではほとんど販売されておらず、生協食堂での充実が望まれています。

東工大生協とのキャンパスミーティングでハラルメニューについて伺ったことを掲載します。

Q1. ハラルメニューの種類を充実させることはできますか。

A1. 11 月にハラルメニューの種類を増やしたので、しばらくは様子を見たいと思います。

Q2. ハラルメニューを弁当に導入することはできますか。

A2. 弁当は難しいですが、2 食でテイクアウトの対応をすることは可能です。

留学生 × 1週間の食堂利用回数

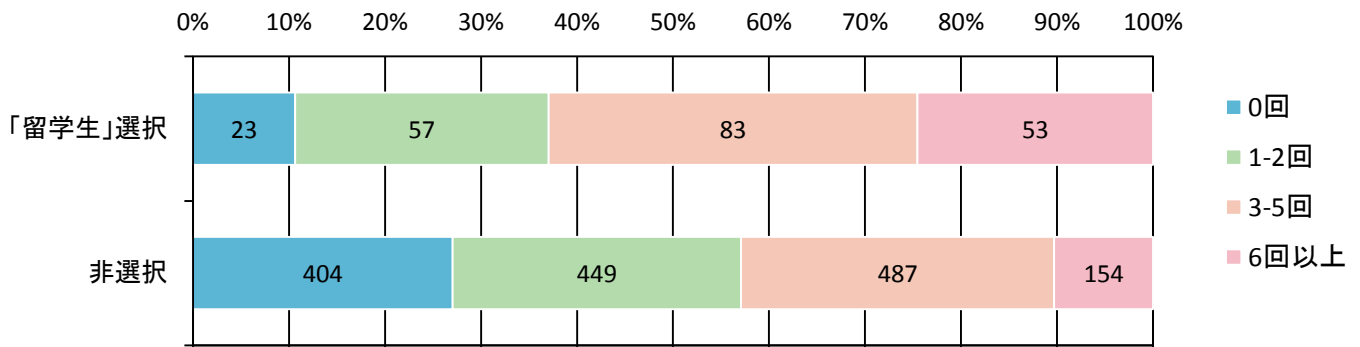


図 5.3.8 留学生と日本人学生の 1 週間に食堂を利用する回数の比較

以前の調査との比較

2012年に比べハラルメニューを導入している大学生協が増えており、ハラルメニューが徐々に日本の大学に浸透し始めています。図5.3.9は2012年&2014年の学勢調査でのハラルメニューの充実を求める留学生の割合をグラフにしたものです。2014年のデータについては2014年学勢調査後に食堂でのハラルメニューの補強が実施されたため、現在のサービスを正しく反映した結果ではありませんが、参考として掲載します。日本の大学で学ぶ留学生の人数は年々増加しており今後も増えていくだろうと予想されます。グローバルな大学を目指す東工大にハラルメニューのさらなる拡充は不可欠です。

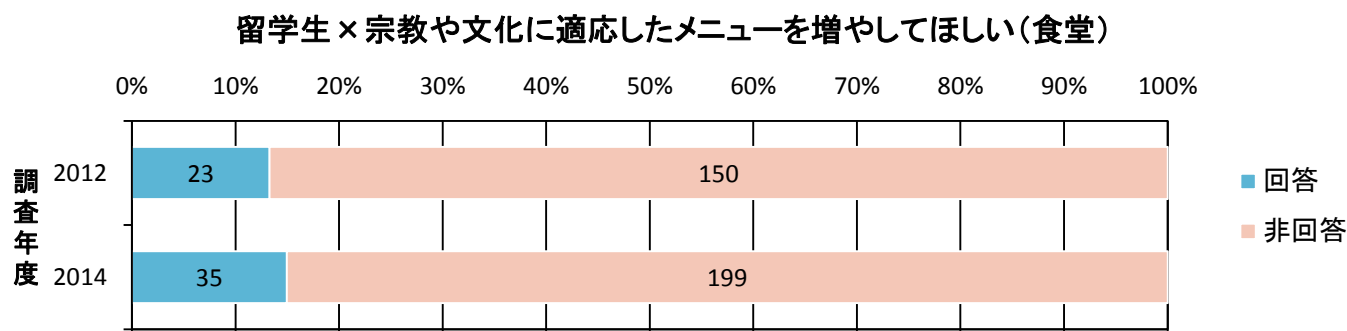


図 5. 3. 9 留学生×宗教や文化に適応した食堂メニューを増やしてほしい

提言

ハラルメニューの種類を充実させることを提言します。また、ハラルメニュー利用者を増やすことによって、ハラルメニューのコストや設備の面での障害を少しでも取り除く必要があります。そのため、食堂のメニューの1つとして食堂利用者全体がハラルメニューを気軽に購入できるような環境を作る工夫が必要です。

6. 調査結果分析

本章では、2014年10月1日から10月31日にかけて行われた学勢調査の分析結果を掲載します。

結果のグラフ・表中の数字は該当選択肢への回答者数です。

6.1. 生活基盤

(1) 片道の通学時間

学部生と大学院生(修士・博士・研究生を含む)の通学時間を比較すると、学部生の方が、通学時間が長い傾向にあることがわかった。

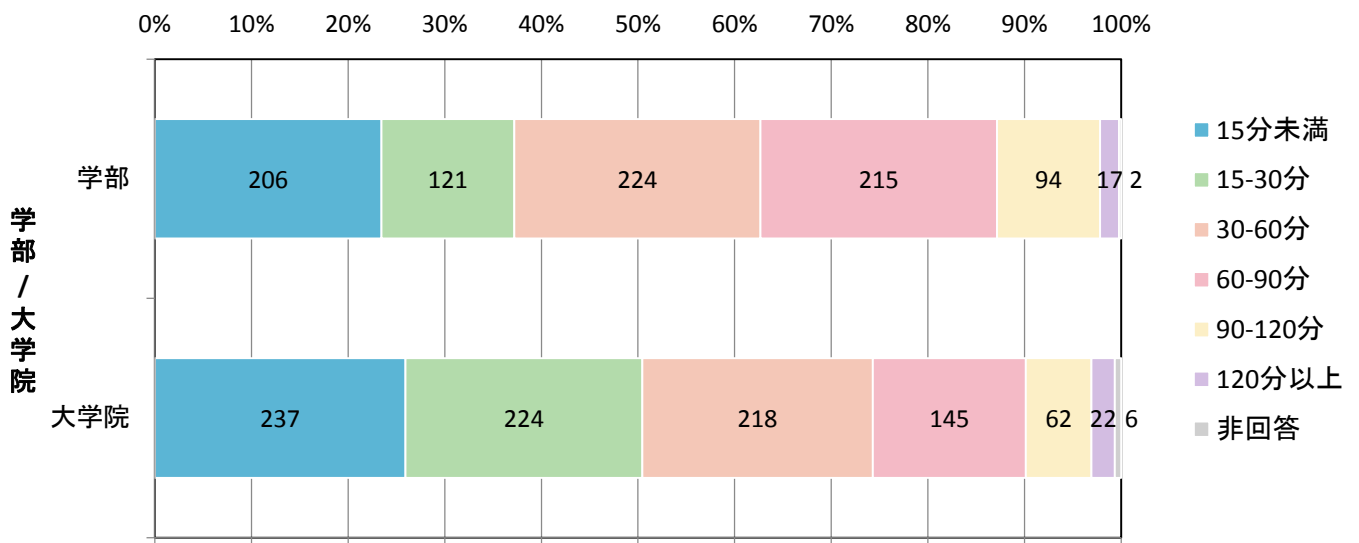


図 6. 1. 1 学部と大学院の片道の通学時間

大岡山とすずかけ台の学生の通学時間を比較すると、大岡山の学生の方が、通学時間が長い傾向にあることがわかった。

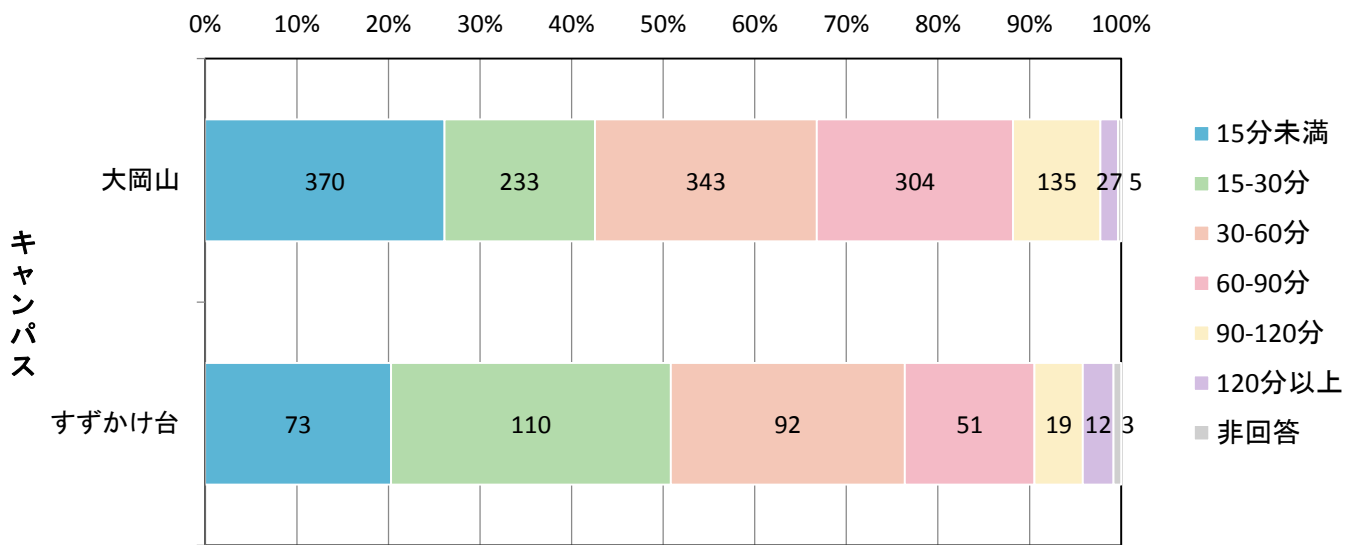


図 6. 1. 2 キャンパスごとの片道の通学時間

(2)主な通学手段

大岡山とすずかけ台の学生の通学手段を比較すると、大岡山の学生の方が自転車と公共交通機関による通学者の割合が高いことがわかった。

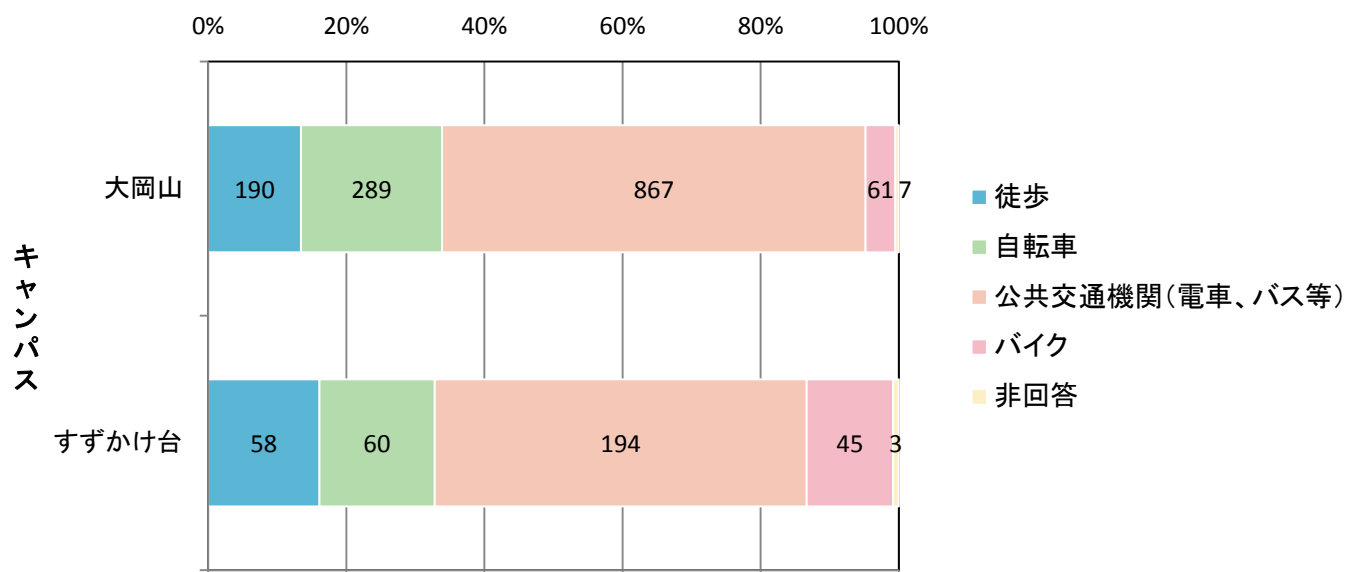


図 6. 1. 3 キャンパスごとの主な通学手段

(3)現在の住まい

大岡山とすずかけ台の学生の住まいを比較すると、大岡山の学生の方が自宅暮らしの割合が高い傾向にあることがわかった。

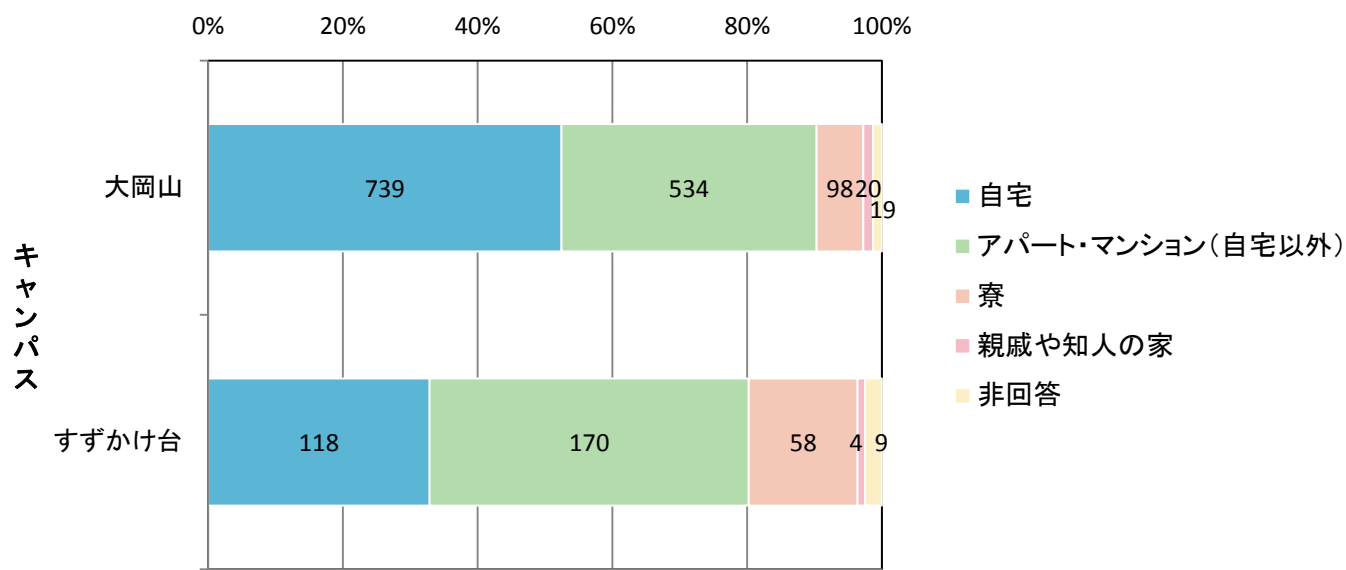


図 6. 1. 4 キャンパスごとの現在の住まい

6. 調査結果分析

(4)1 か月の家賃

大岡山とすずかけ台の学生の1か月の家賃を比較すると、すずかけ台の学生の方が、家賃が安い傾向にあることがわかった。

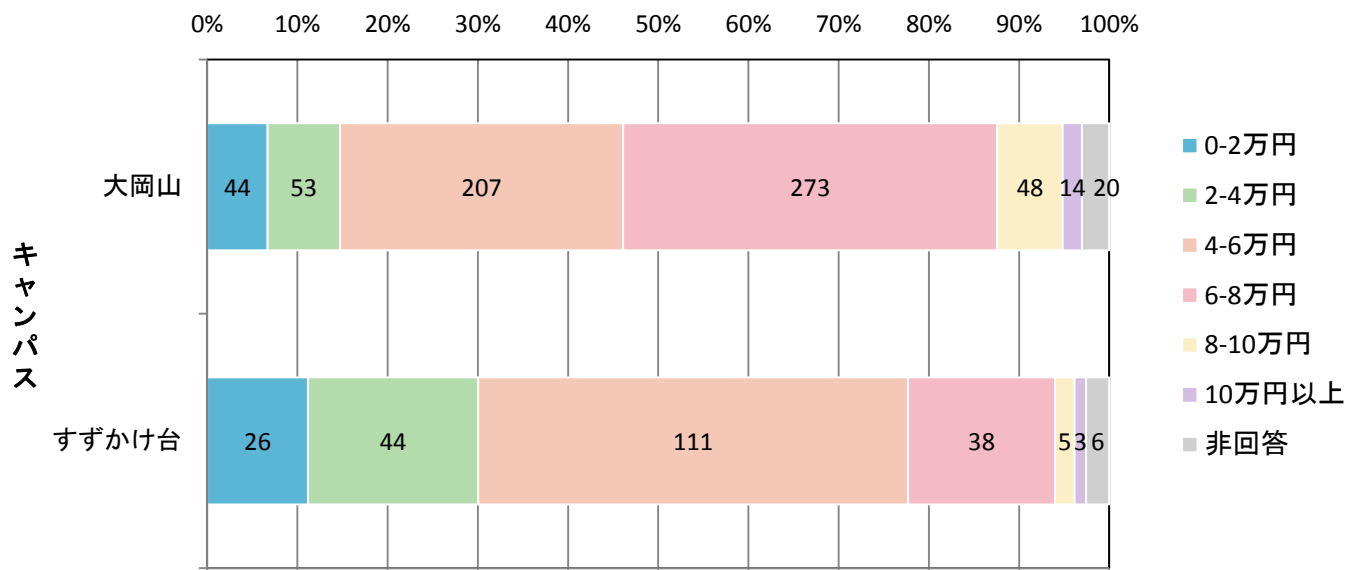


図 6. 1. 5 キャンパスごと1か月の家賃

(5)1 か月の仕送り額

大岡山とすずかけ台の学生の1か月の仕送り額(家賃を含む)を比較すると、キャンパスごとの差はほとんどないことがわかった。

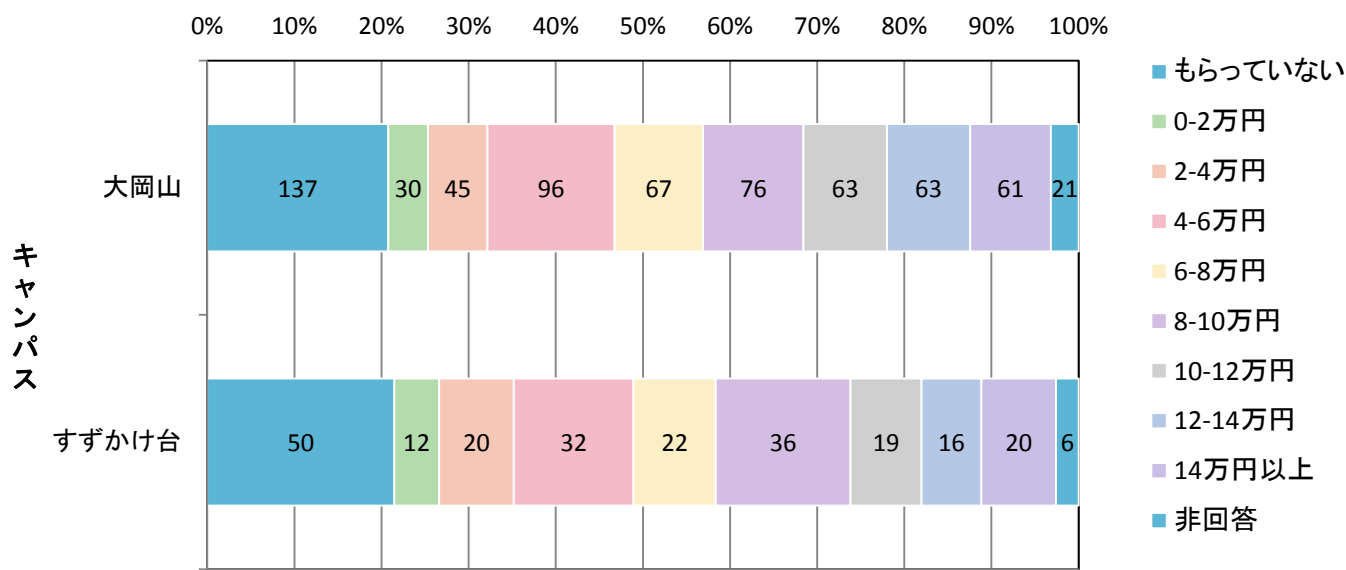


図 6. 1. 6 キャンパスごとの1か月の仕送り額

(6)大学に在るとき食事

大岡山とすずかけ台の学生の大学に在るとき食事と比較すると、大岡山に比べてすずかけ台の方が学食の利用率が高いことが分かった。

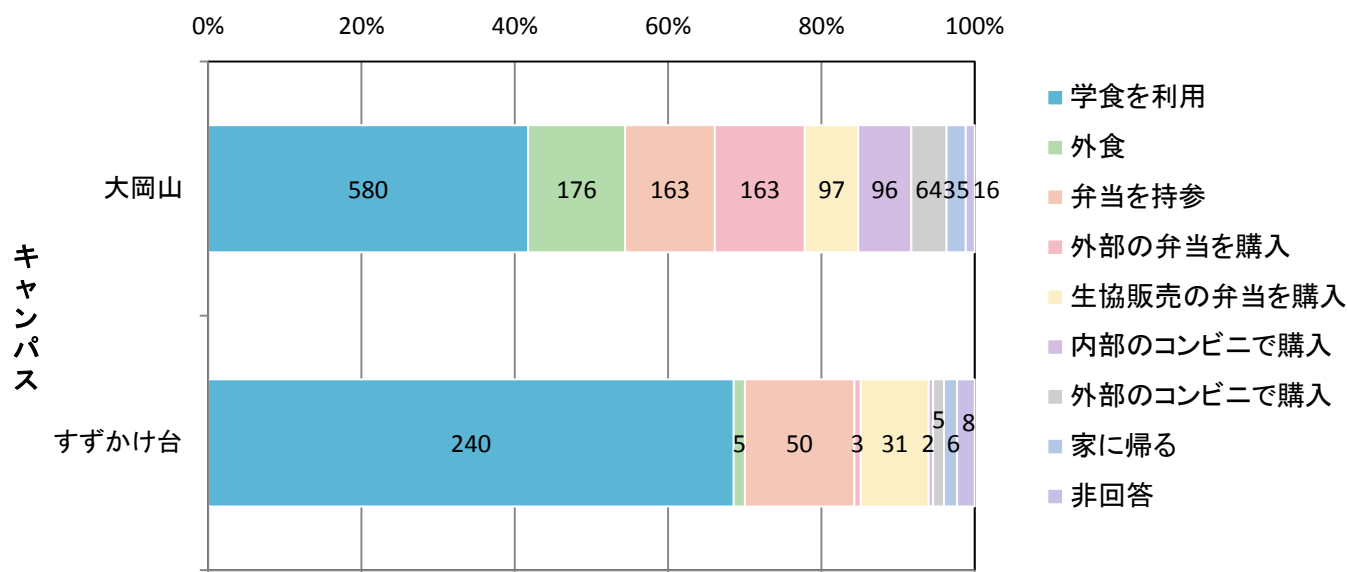


図 6. 1. 7 キャンパスごとの大学に在るとき食事

(7)自炊した食事の割合

大岡山とすずかけ台の学生の自炊した食事の割合を比較すると、大岡山は自炊しない学生の割合が高いことが分かった。一人暮らしの学生が少ないことが影響していると考えられる。

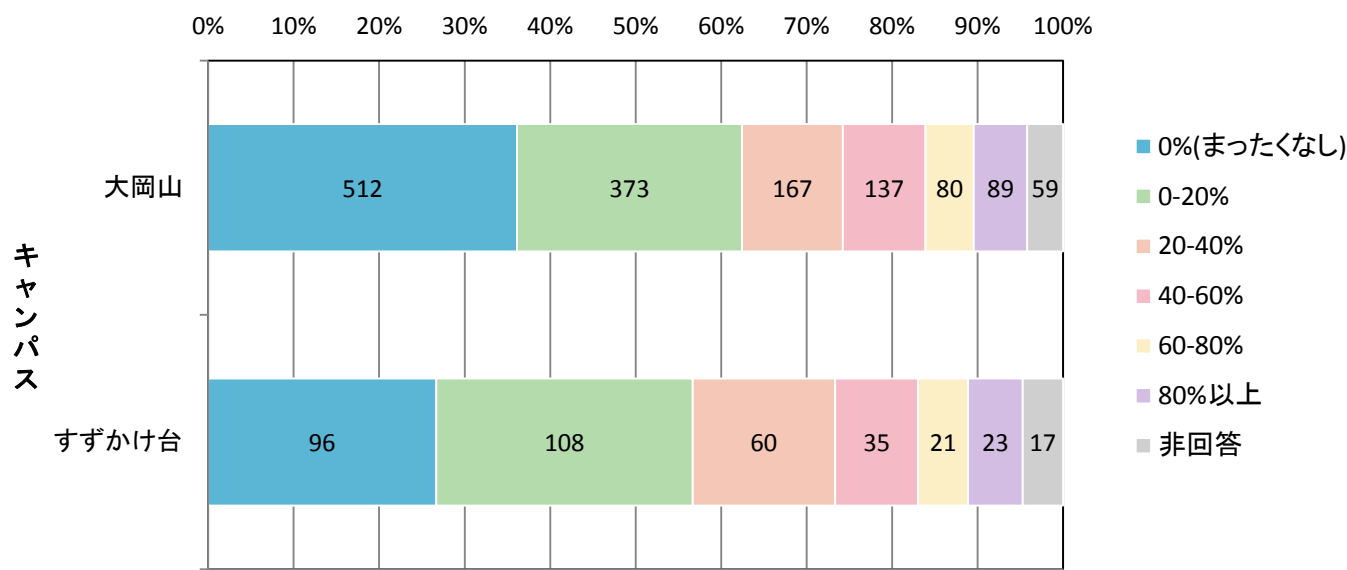


図 6. 1. 8 キャンパスごとの自炊した食事の割合

6. 調査結果分析

(8)寮・家庭で調理された食事の割合

大岡山とすずかけ台の学生の寮・家庭で調理された食事の割合を比較すると、大岡山はすずかけ台の学生に比べて調理された食事をとる割合が高いことが分かった。一人暮らしの学生が少ないことが影響していると考えられる。

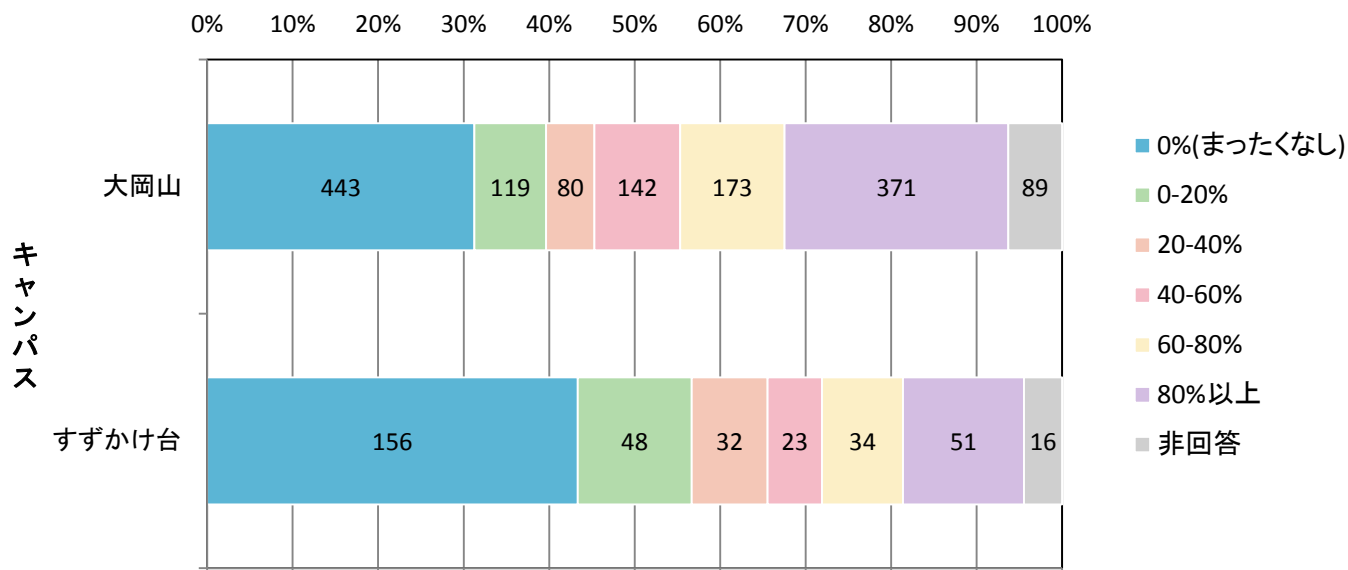


図 6. 1. 9 キャンパスごとの寮・家庭で調理された食事の割合

(9)平日の睡眠時間

大岡山とすずかけ台の学生の平日の睡眠時間を比較すると、ほとんど差が見られなかった。

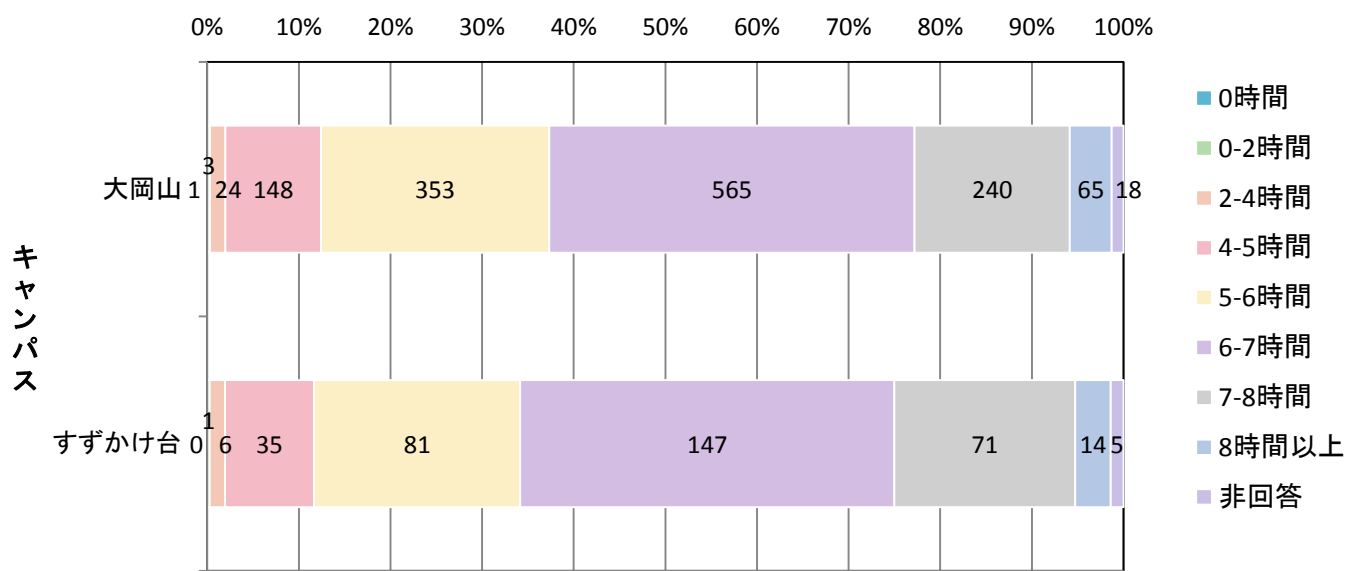


図 6. 1. 10 キャンパスごとの平日の睡眠時間

(10) 平日の勉強・研究時間

大岡山とすずかけ台の学生の平日の勉強・研究時間(大学にいる時間を含む・授業時間は含まない)を比較すると、大岡山に比べてすずかけ台の学生の方が、勉強時間が長い傾向にあることがわかった。すずかけ台は大学院生が多いことが影響していると考えられる。

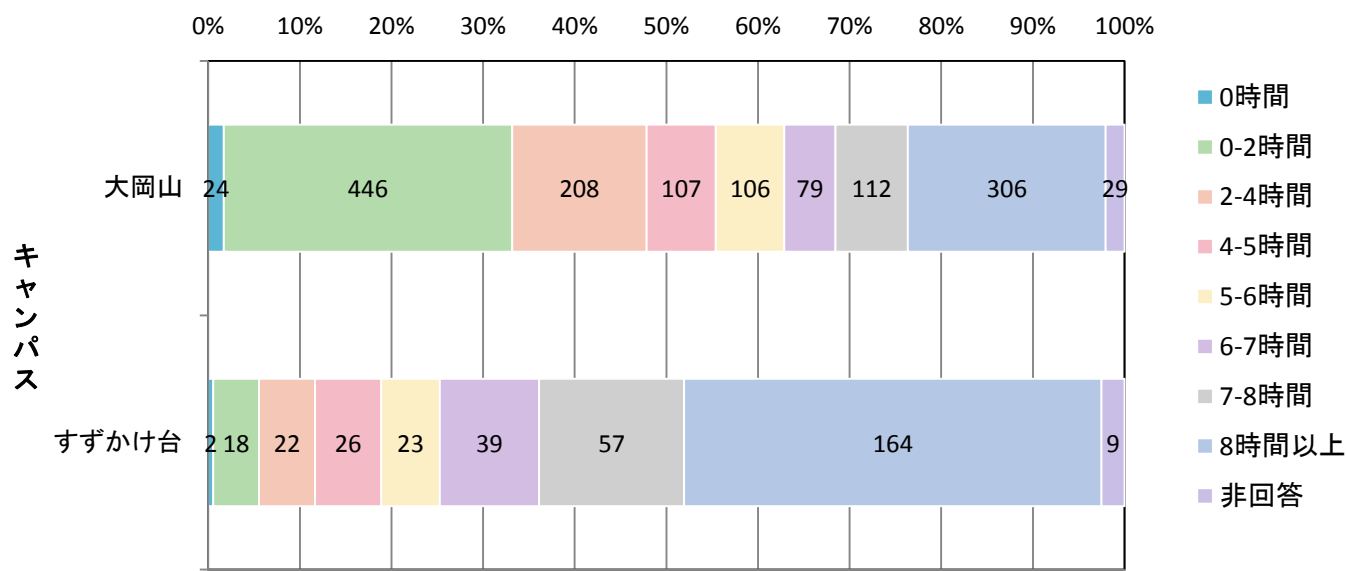


図 6. 1. 11 キャンパスごとの平日の勉強・研究時間

(11) 平日の娯楽時間

大岡山とすずかけ台の学生の平日の娯楽時間を比較すると、すずかけ台に比べて大岡山の学生の方が、娯楽時間が長い傾向にあることが分かった。

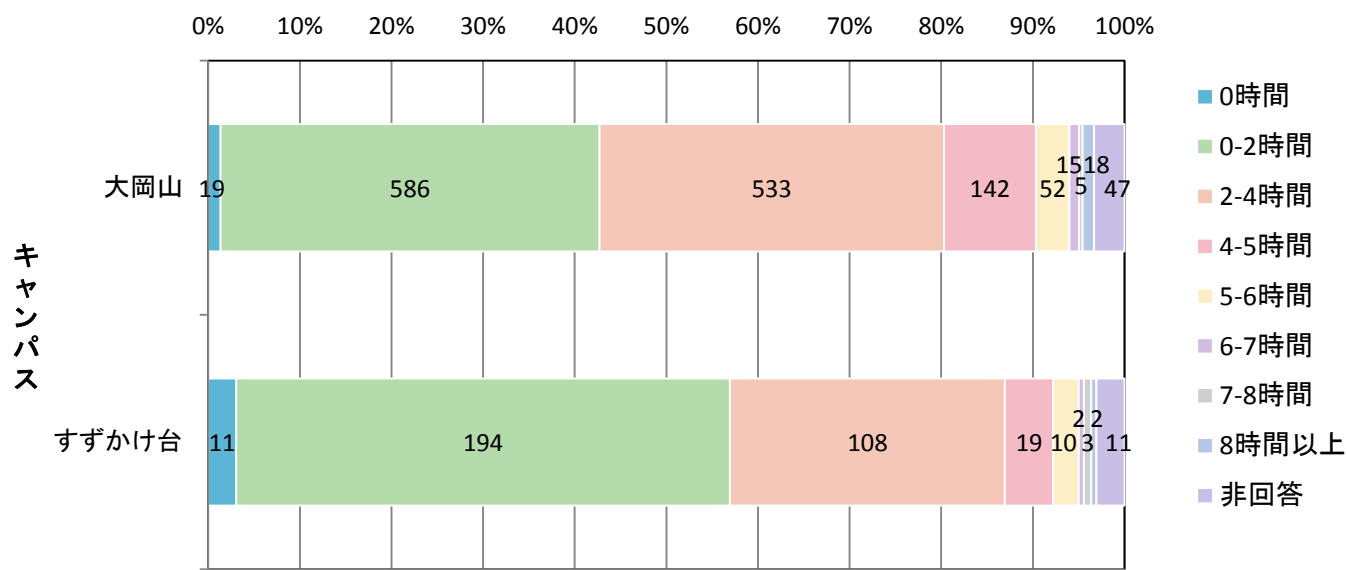


図 6. 1. 12 キャンパスごとの平日の娯楽時間

6. 調査結果分析

(12) 平日の仕事・アルバイト時間

大岡山とすずかけ台の学生の平日の仕事・アルバイト時間を比較すると、すずかけ台に比べて大岡山の学生の方が仕事・アルバイト時間が長い傾向にあることが分かった。

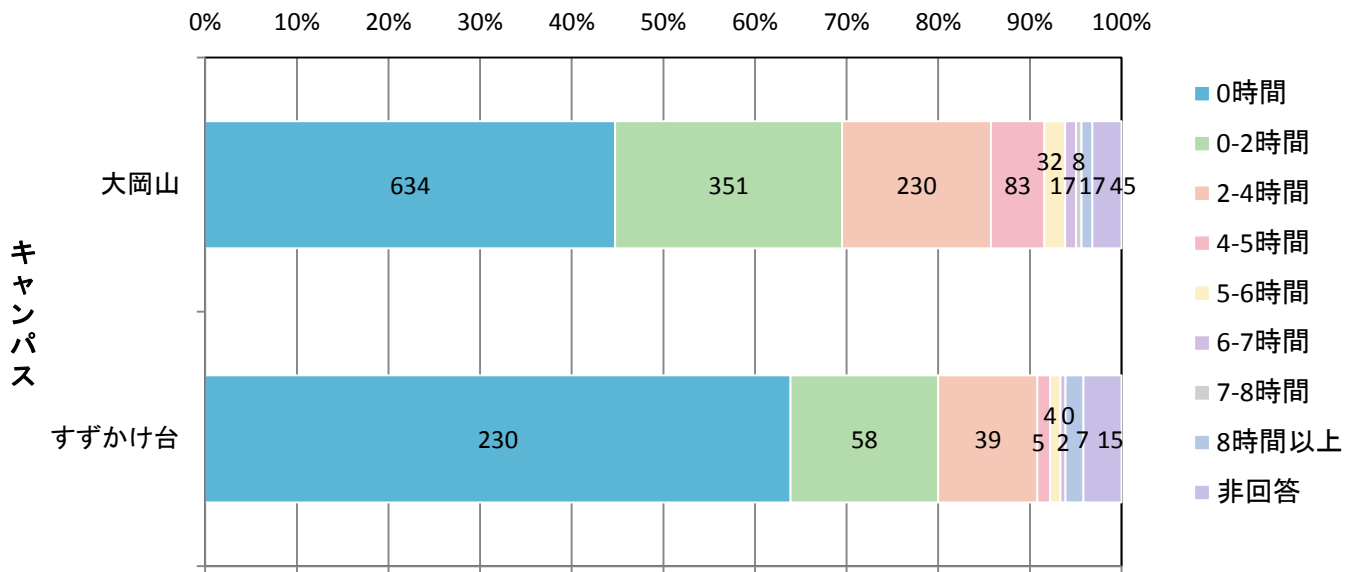


図 6. 1. 13 キャンパスごとの平日の仕事・アルバイト時間

(13) アルバイト状況

大岡山とすずかけ台の学生のアルバイトの状況を比較すると、すずかけ台に比べて大岡山の学生の方がアルバイトを通年で行っている学生が多いことがわかった。

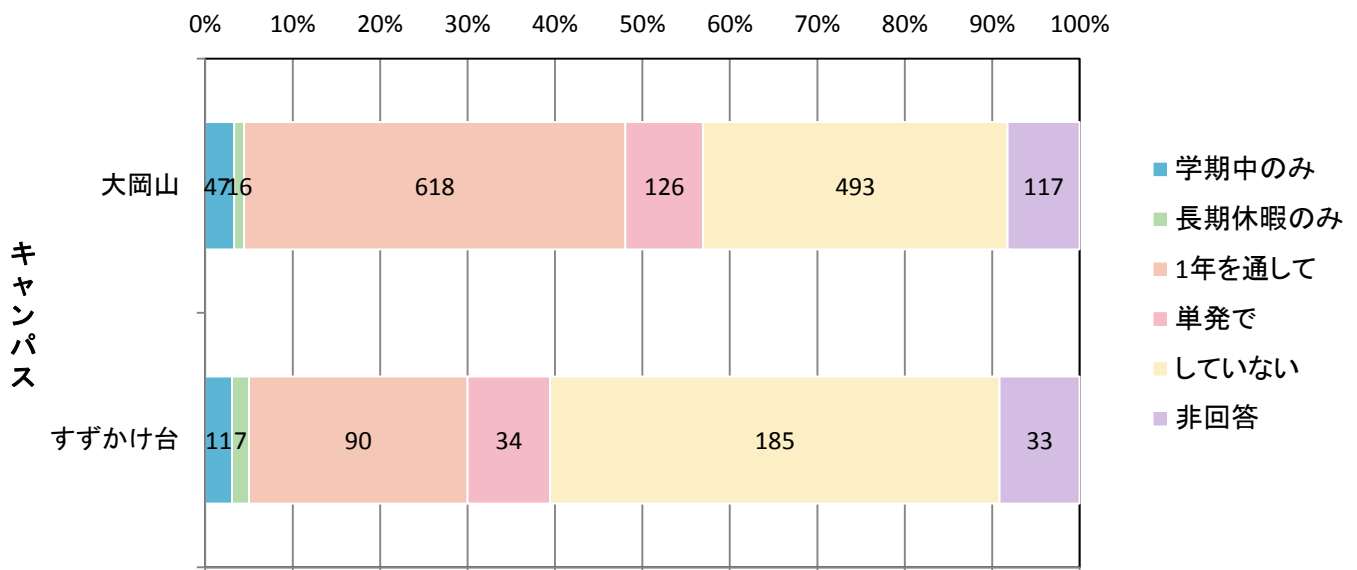


図 6. 1. 14 キャンパスごとのアルバイト状況

(14) アルバイトの内容

大岡山とすずかけ台の学生のアルバイトの内容を比較すると、大岡山は家庭教師・塾講師の割合が高く、すずかけ台はTA やRA を行っている学生が多い傾向にあることがわかった。

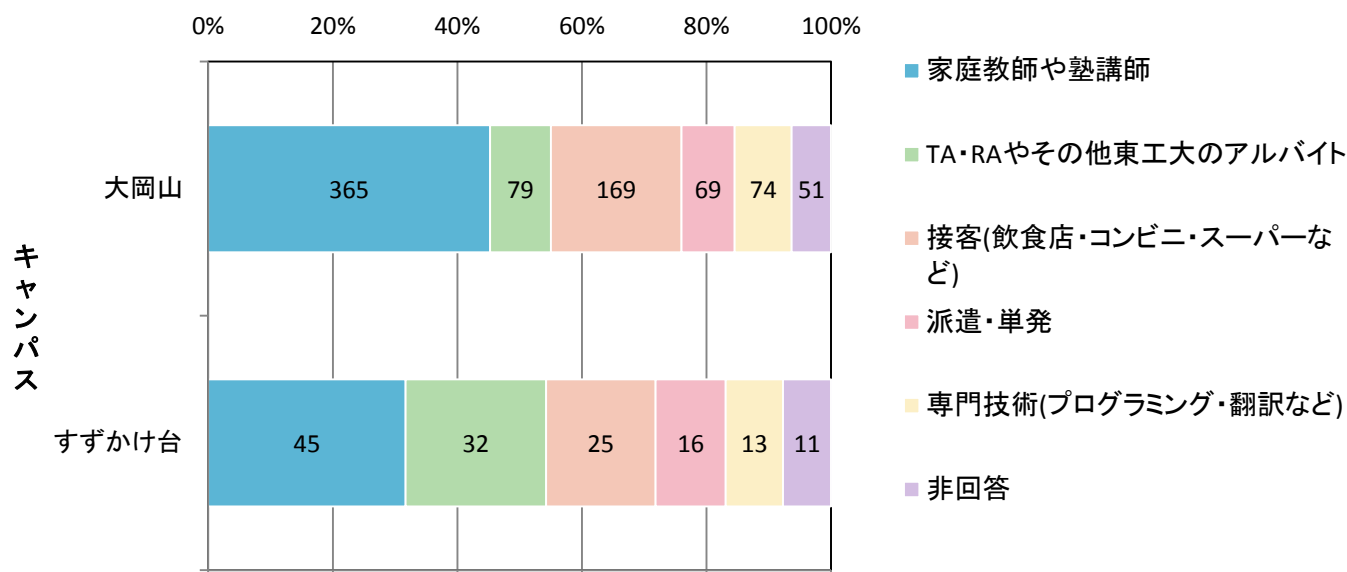


図 6. 1. 15 キャンパスごとのアルバイトの内容

(15) 1 週間のアルバイトの日数

大岡山とすずかけ台の学生の 1 週間のアルバイトの日数を比較すると、大岡山の学生はアルバイトの日数がすずかけ台の学生よりも多いことがわかった。

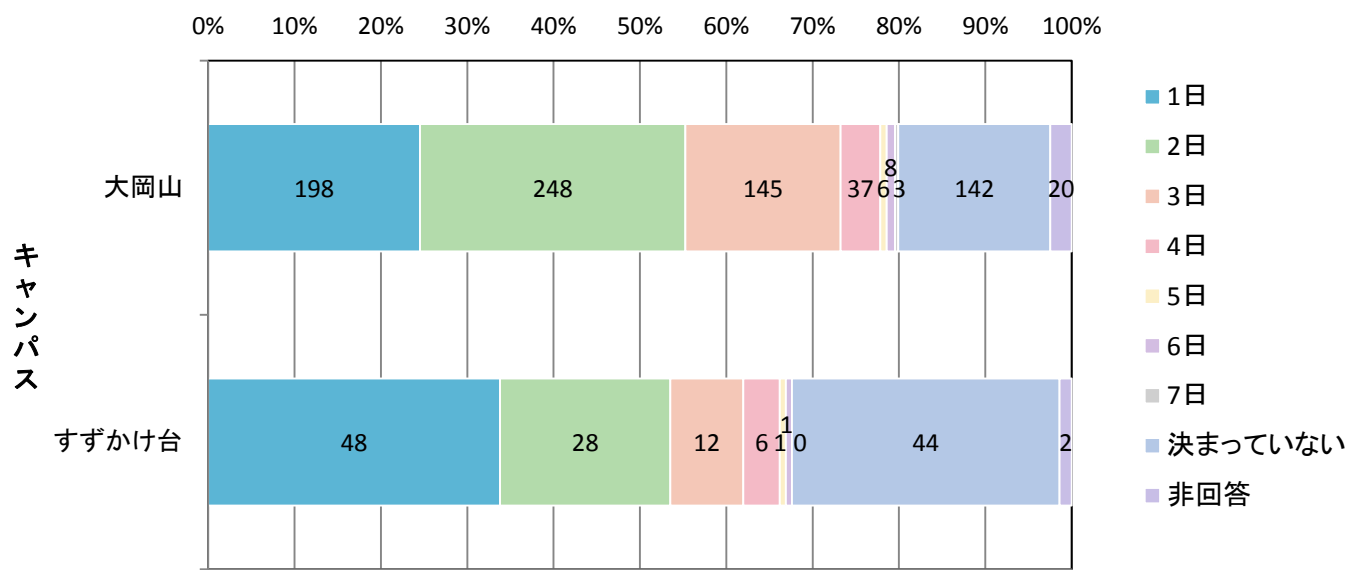


図 6. 1. 16 キャンパスごとの 1 週間のアルバイトの日数

6. 調査結果分析

(16) アルバイトの時間帯

大岡山とすずかけ台の学生のアルバイトの時間帯を比較すると、大岡山の学生は夕方から夜にかけての割合が高く、一方ですずかけ台の学生は昼間や夕方から夜、一日中の割合が高いことがわかった。

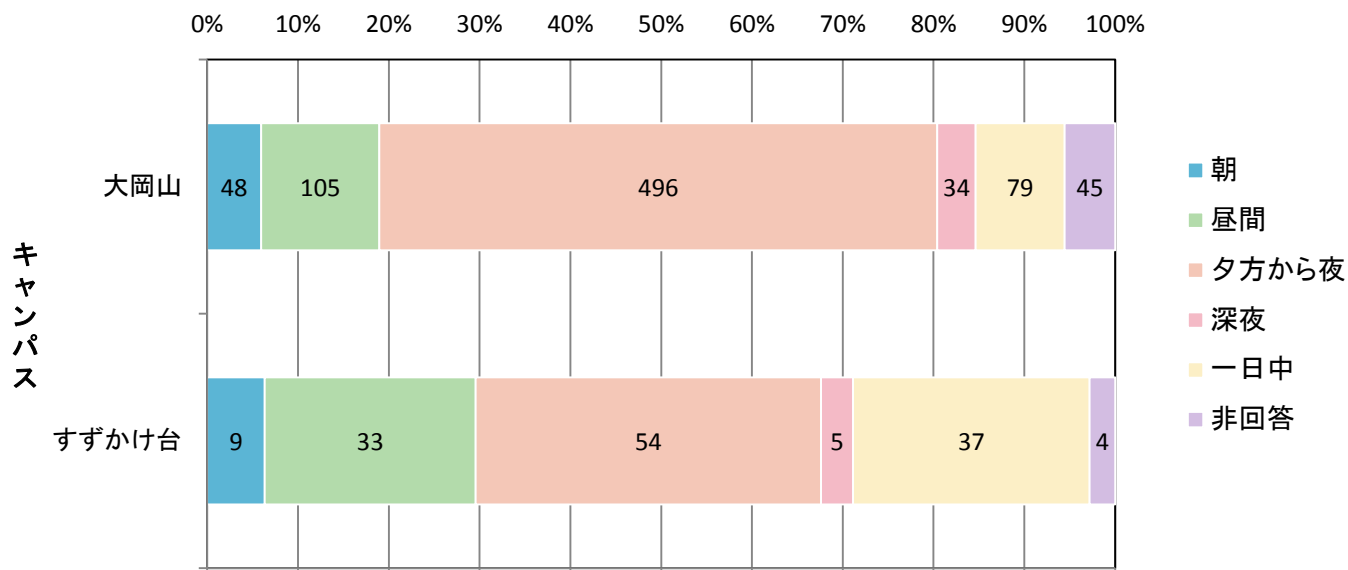


図 6. 1. 17 キャンパスごとのアルバイトの時間帯

(17) アルバイトの月収

大岡山とすずかけ台の学生のアルバイトの月収を比較すると、大岡山の学生の方が高い傾向にあることがわかった。

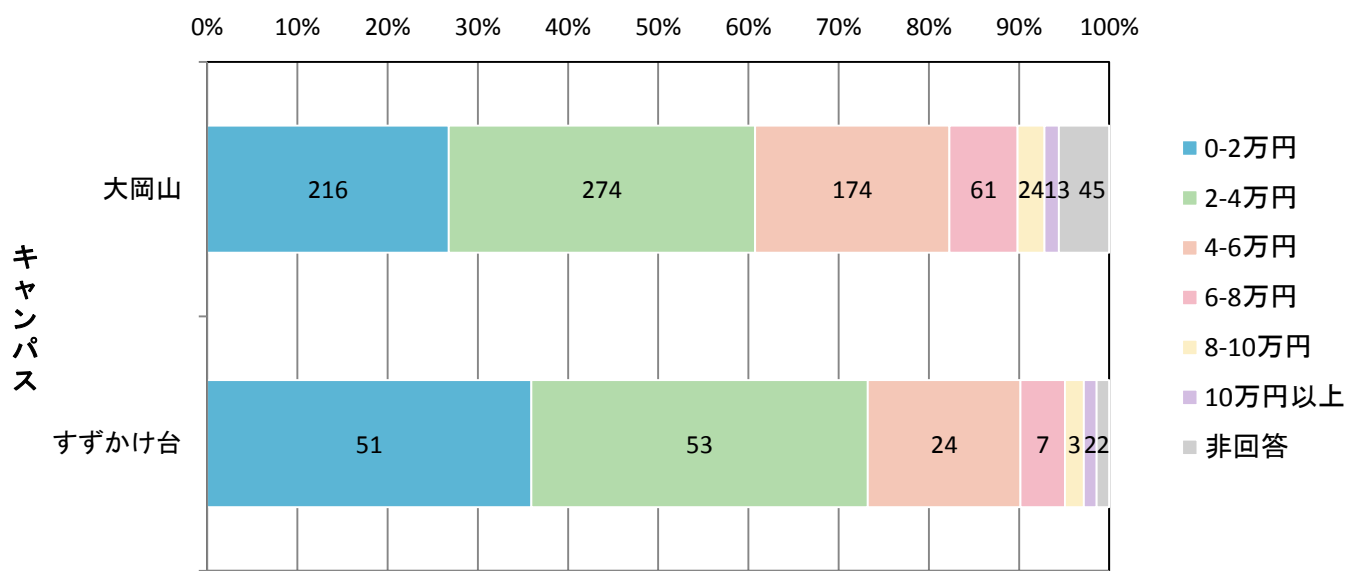


図 6. 1. 18 キャンパスごとのアルバイトの月収

(18)アルバイトの目的

大岡山とすずかけ台の学生のアルバイトの目的を比較すると、大岡山の学生の方が時間的なゆとりを持ちながらアルバイトをしている傾向にあることがわかった。

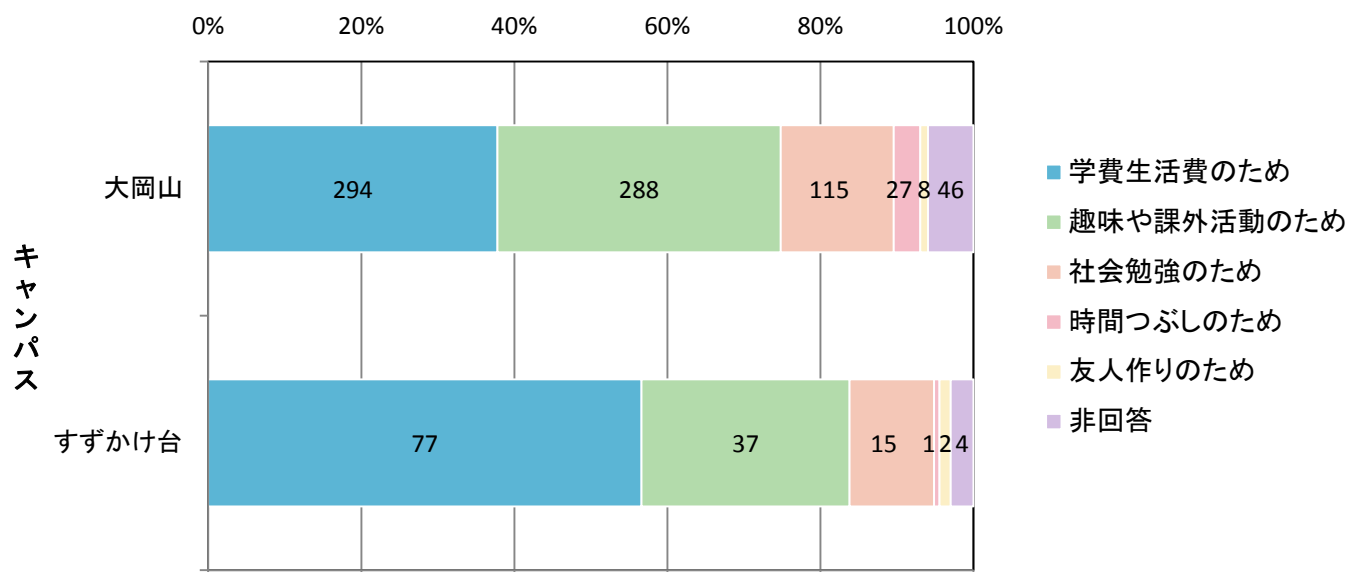


図 6. 1. 19 キャンパスごとのアルバイトの目的

6.2. 学習状況

(1) 東工大生としてのプライド

学部生と大学院生(修士・博士・研究生を含む)を比較すると、大学院生の方がより東工大生としてのプライドを持っている傾向にあることがわかった。

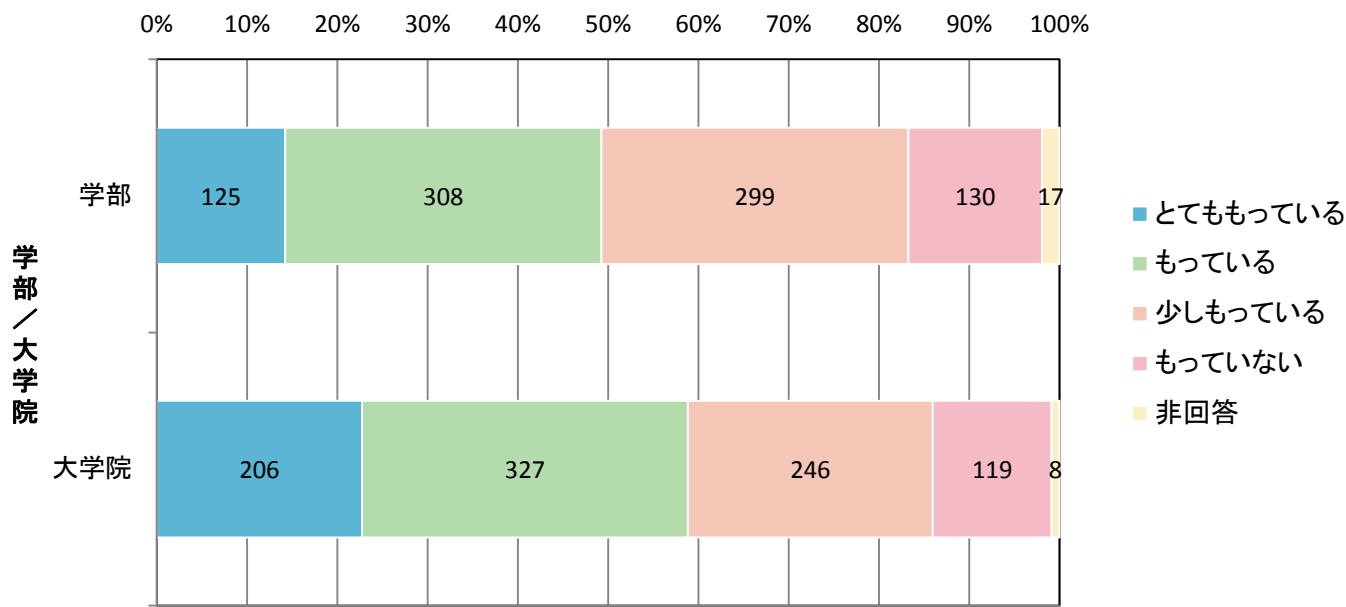


図 6. 2. 1 東工大生としてのプライド

日本人学生と留学生を比較すると、留学生の方がより東工大としてプライドを持っていることがわかった。

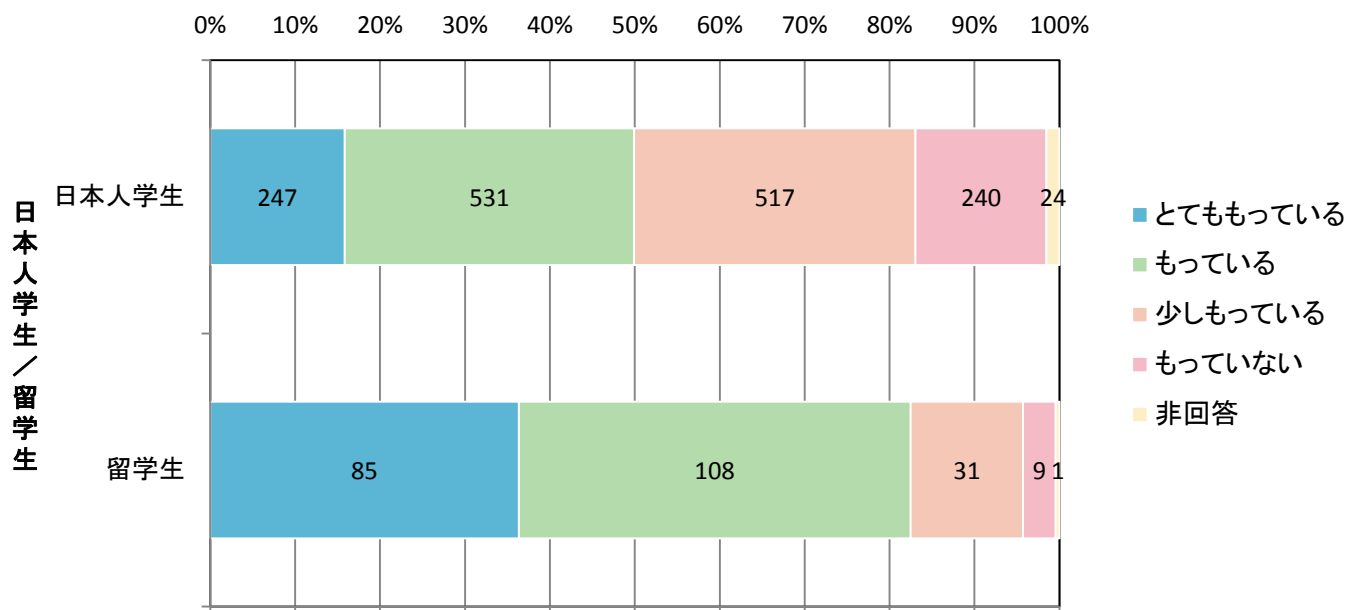


図 6. 2. 2 東工大生としてのプライド

(2) 東工大が進むべき方向性

学部生と大学院生(修士・博士・研究生を含む)を比較すると、大学院生の方が学部生よりも理工系全域の見地を持った人材を育成する大学に進むべきだと思っている人の割合が高い傾向にあることがわかった。

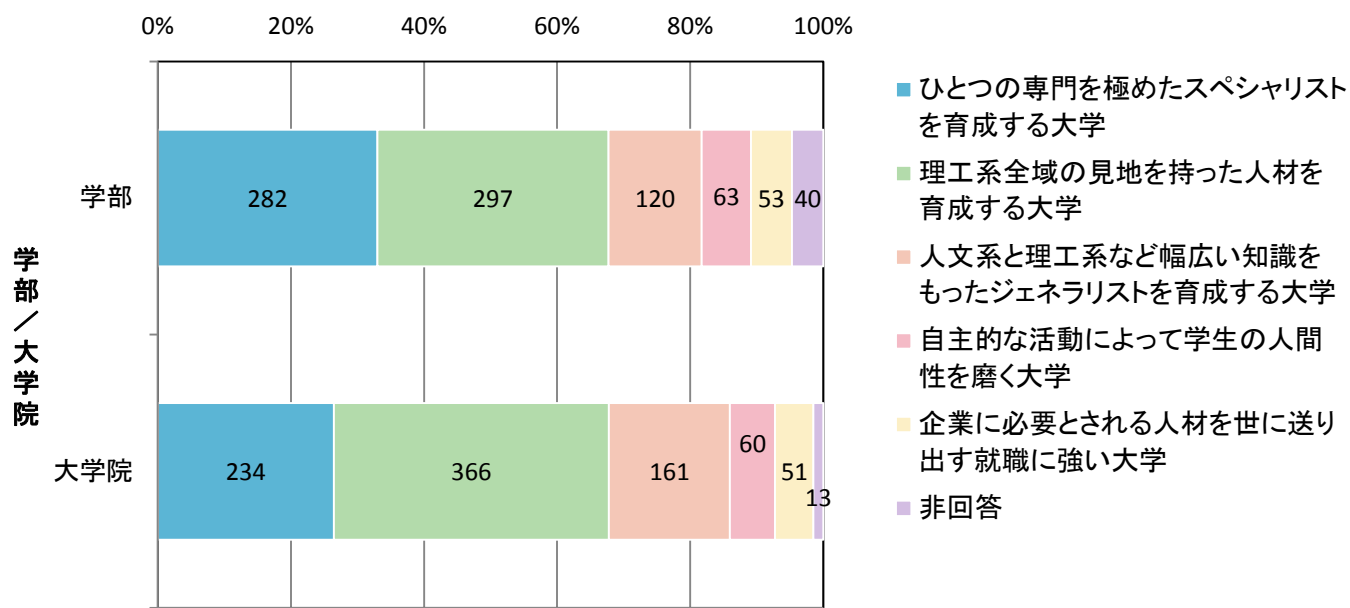


図 6. 2. 3 東工大が進むべき方向性

(3) 国際社会において先導的役割

学部生と大学院生(修士・博士・研究生を含む)を比較すると、大学院生の方が東工大の学生および卒業生が国際社会において先導的役割を担っていると思う人の割合が高いことがわかった。

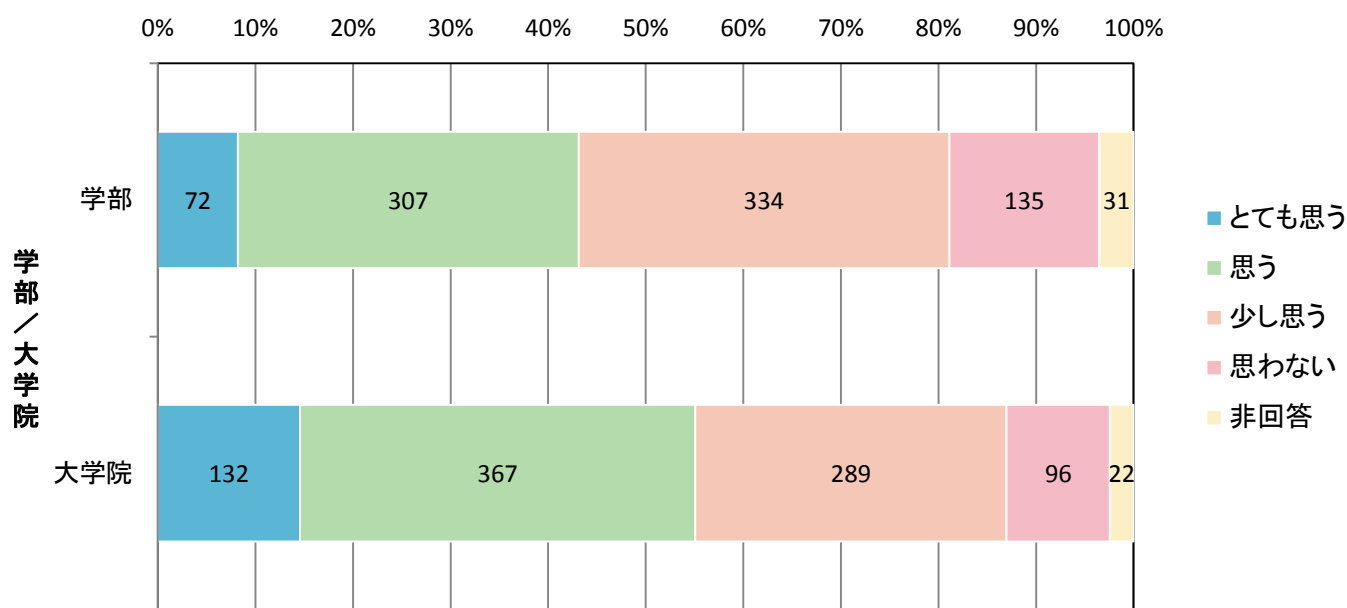


図 6. 2. 4 国際社会において先導的役割

6. 調査結果分析

日本人学生と留学生を比較すると、留学生の方が東工大の学生および卒業生が国際社会において先導的役割を担っていると思う人の割合が高いことがわかった。

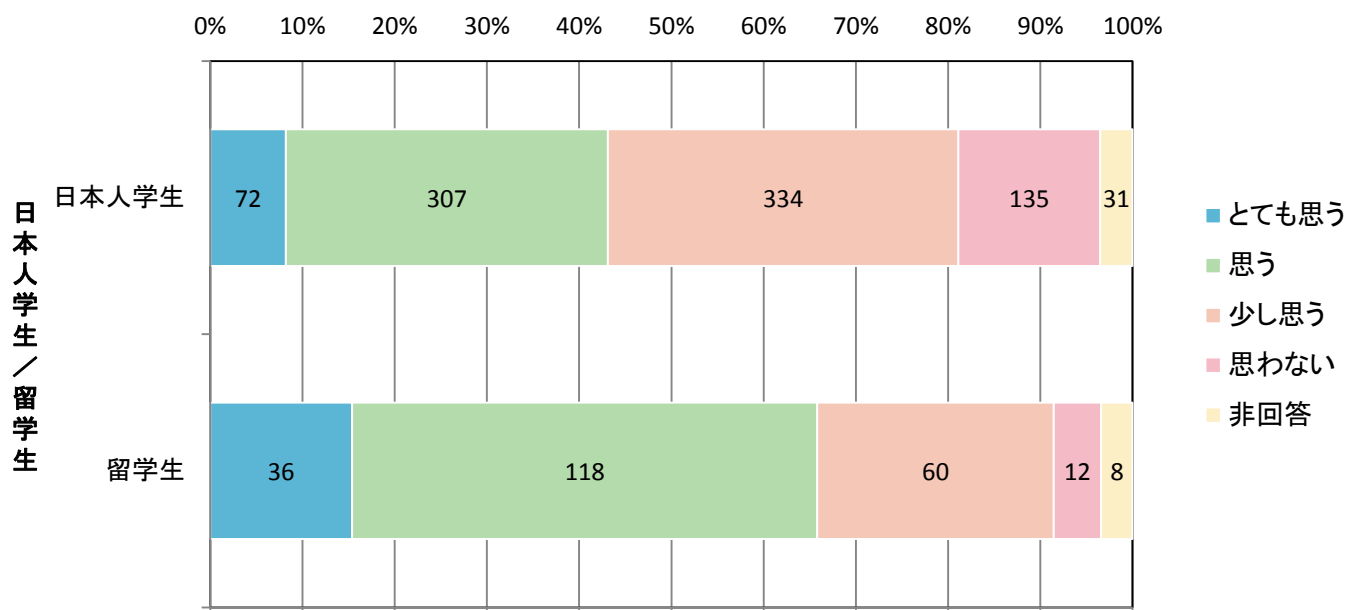


図 6. 2. 5 国際社会において先導的役割

(4) 本学で学ぶべき(やりたい)目標

学部生と大学院生(修士・博士・研究生を含む)を比較すると、大学院生の方がより東工大で学ぶべき目標が明確であるということがわかった。

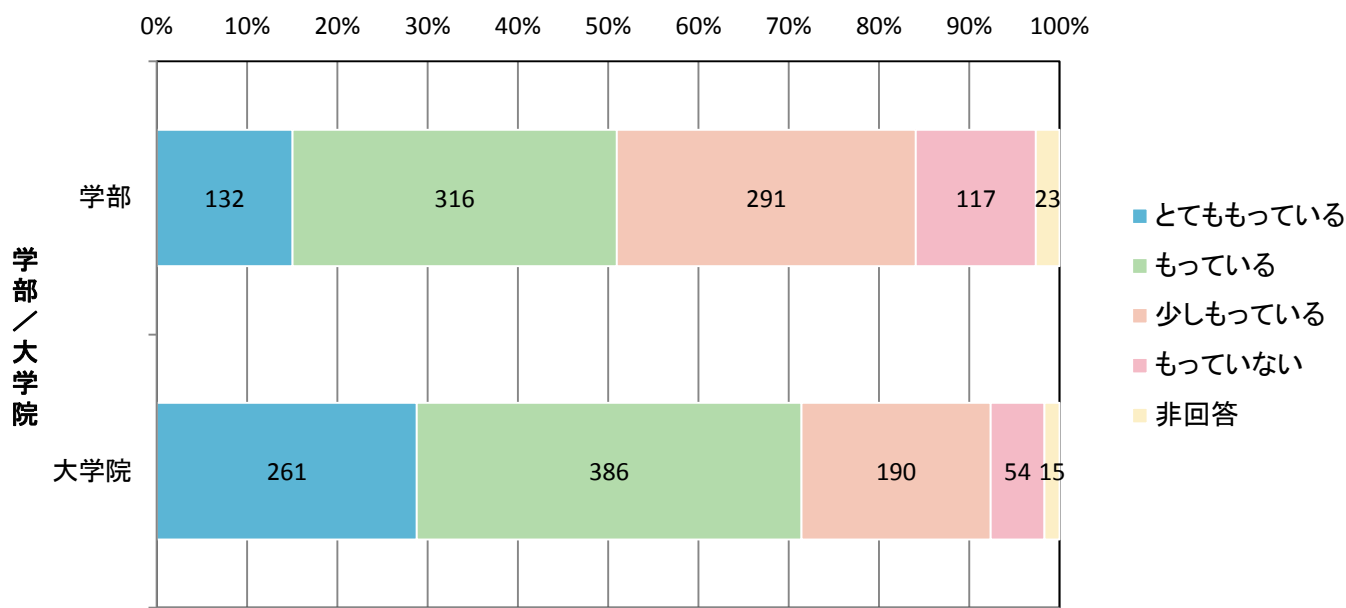


図 6. 2. 6 本学で学ぶべき(やりたい)目標

(5) 類、研究科、専攻等への満足度

学部生と大学院生(修士・博士・研究生を含む)の類、研究科、専攻等への満足度を比較すると、大きな差は見られなかった。

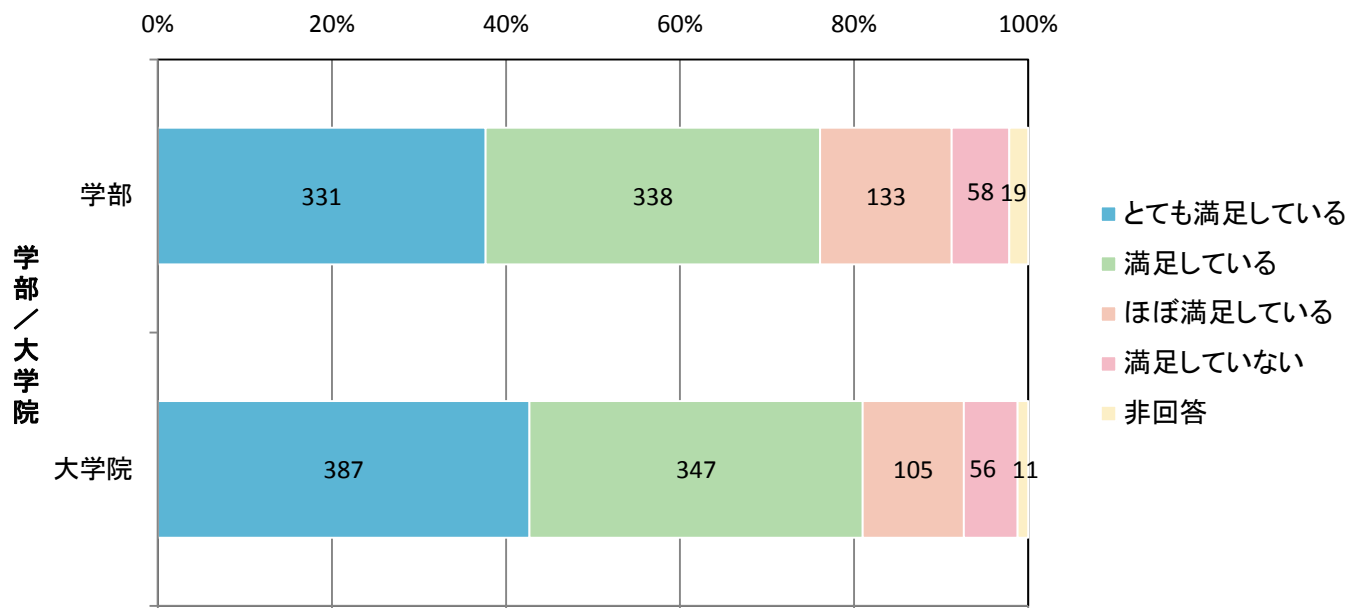


図 6. 2. 7 類、研究科、専攻等への満足度

(6) 本学入学後の留学経験

学部生と大学院生(修士・博士・研究生を含む)の留学経験を比較すると、大学院生の方が留学経験者の割合が高いということがわかった。

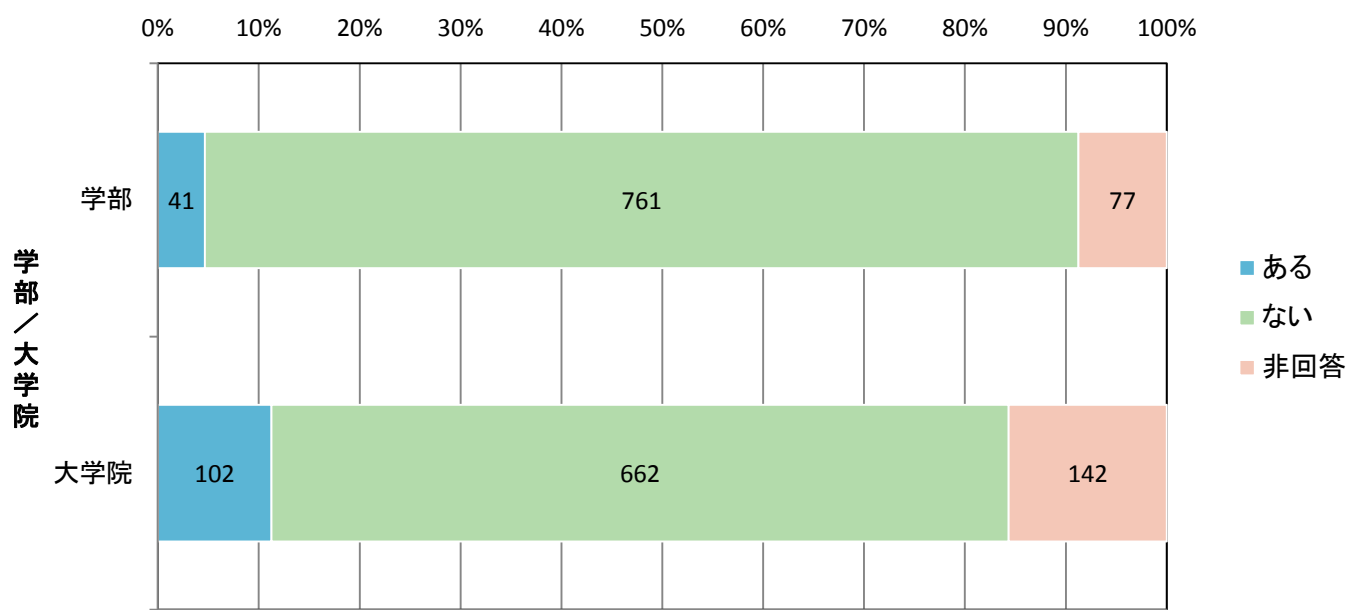


図 6. 2. 8 本学入学後の留学経験

6. 調査結果分析

(7) 留学への意欲

学勢調査 2012と2014の結果から東工大学生の留学への意欲を比較すると、留学したいと思っている学生が増加していることがわかった。

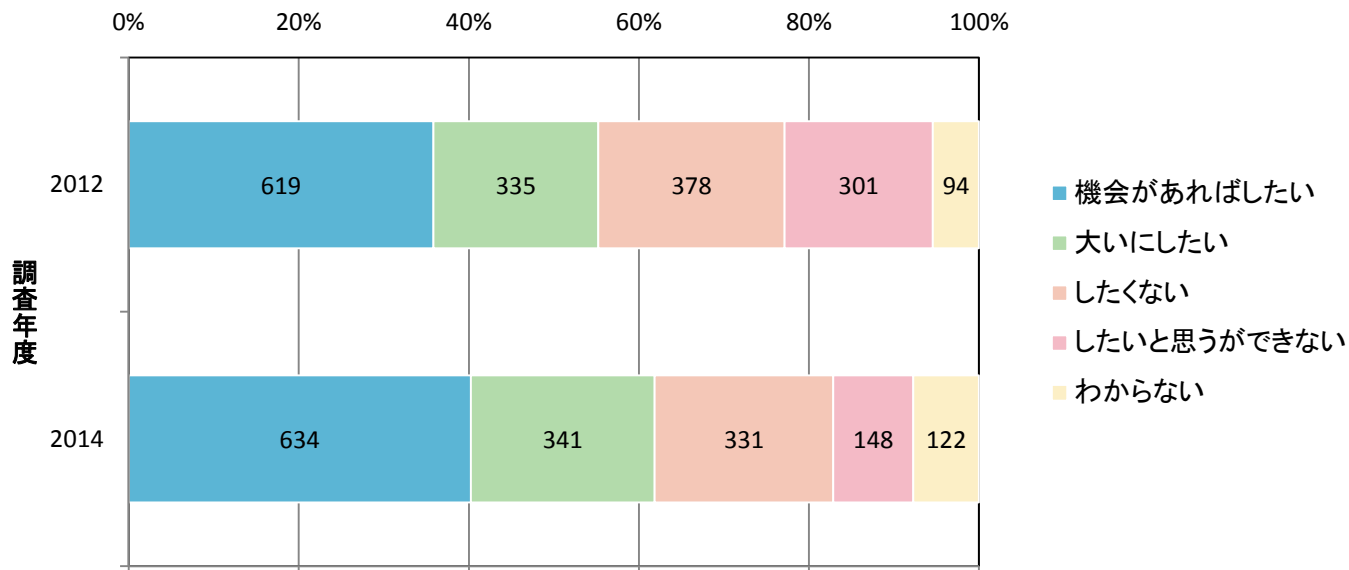


図 6. 2. 9 留学をしたいと思うか

(8) 大岡山-すすかけ台間の移動頻度

学部生と大学院生(修士・博士・研究生を含む)の大岡山キャンパスとすすかけ台キャンパス間の週間移動頻度を比較すると、大学院生の方が、移動頻度が高いことがわかった。

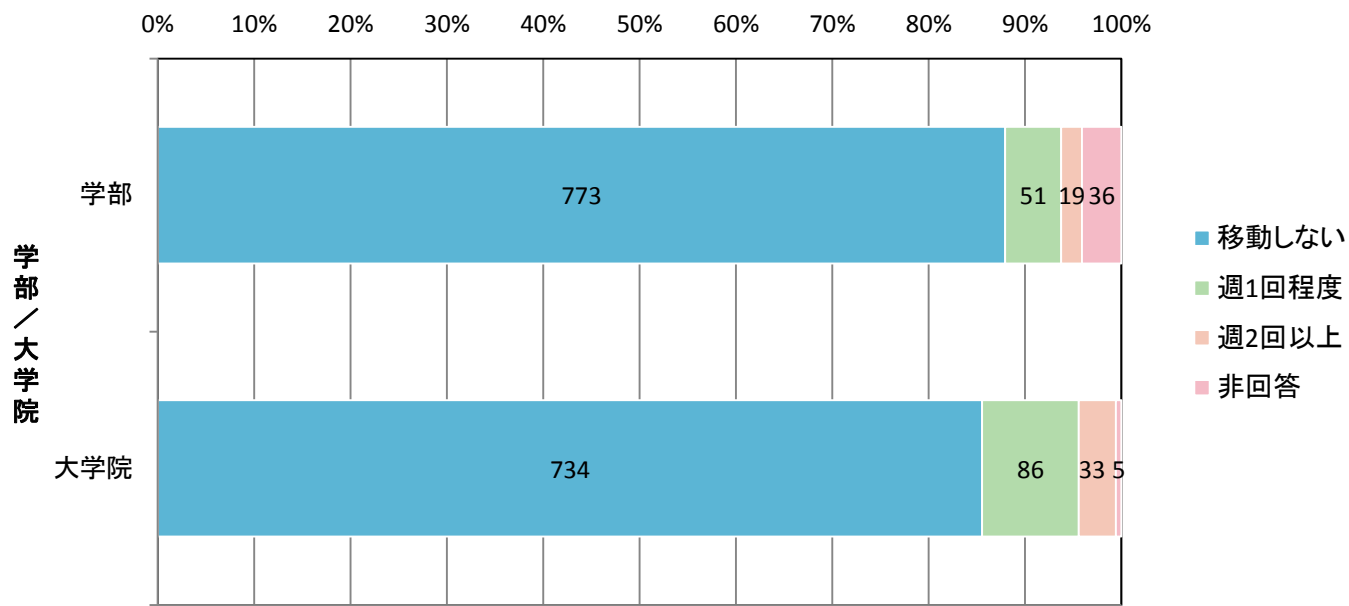


図 6. 2. 10 大岡山-すすかけ台間の移動頻度

各キャンパス、地区の学生の大岡山キャンパスとすずかけ台キャンパス間の週間移動頻度を比較すると、主な活動場所がすずかけ台キャンパスと緑ヶ丘地区の学生の方が、移動頻度が高いことがわかった。

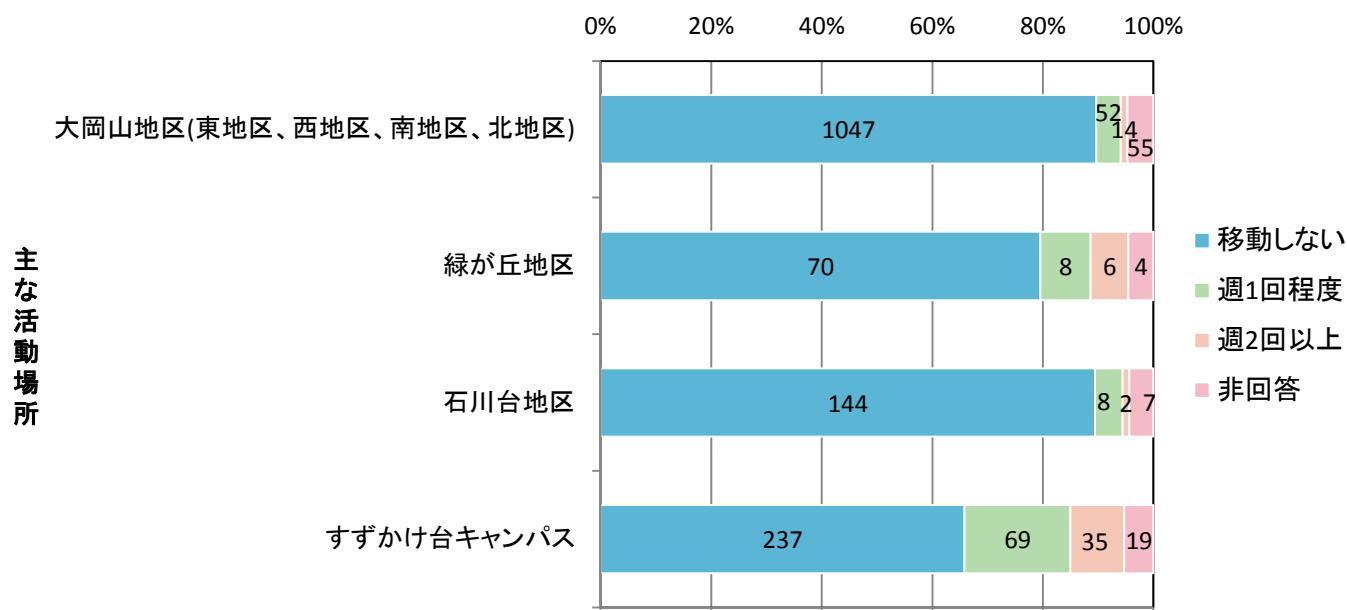


図 6. 2. 11 大岡山-すずかけ台間の移動頻度

(9) 附属図書館(オンラインサービスを含む)の利用頻度

各キャンパス、地区の学生の図書館の利用頻度を比較すると、すずかけ台キャンパスの図書館の利用率は大岡山キャンパスより低いことがわかった。大岡山キャンパスでは、大岡山地区と石川台地区の学生の方がより図書館を利用していた。

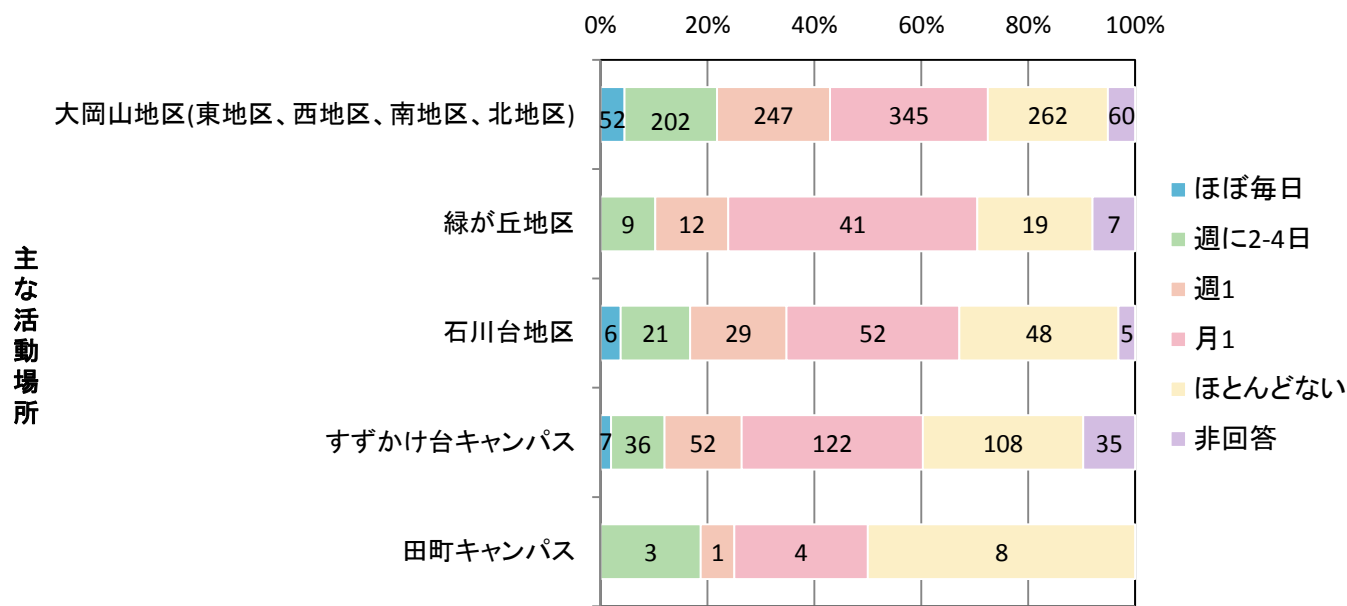


図 6. 2. 12 図書館の利用頻度

6. 調査結果分析

(10) 附属図書館の利用の主なもの

大岡山キャンパスとすずかけ台キャンパスの学生が利用している図書館サービスを比較すると、大岡山キャンパスの図書館の方が学習スペースの利用率がすずかけ台キャンパス図書館よりも高い傾向にあることがわかった。

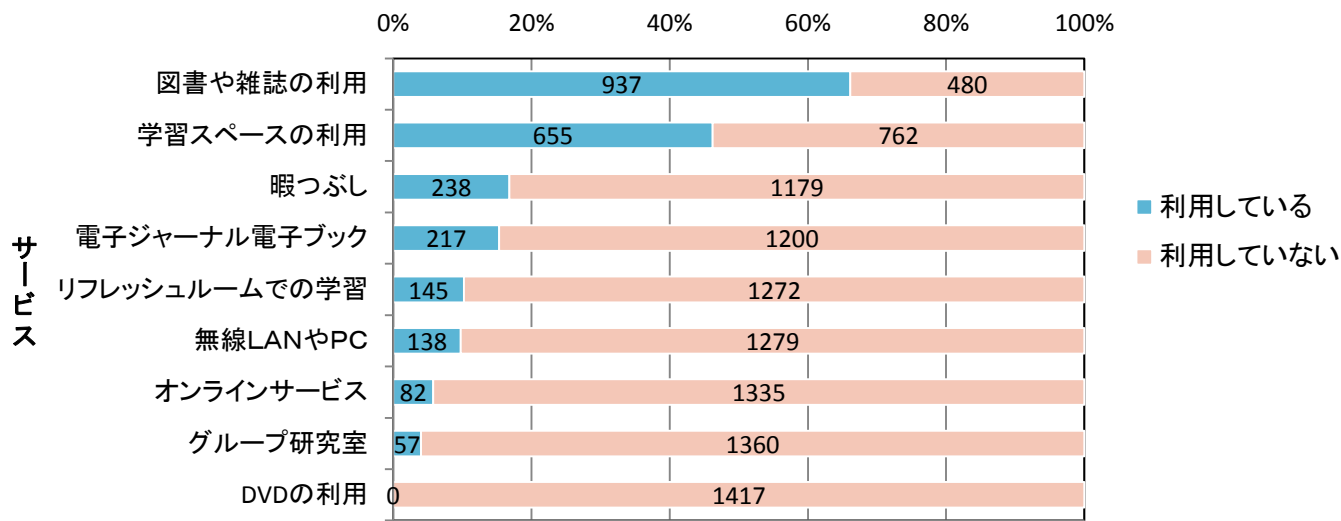


図 6. 2. 13 附属図書館の利用の主なもの(大岡山キャンパス)

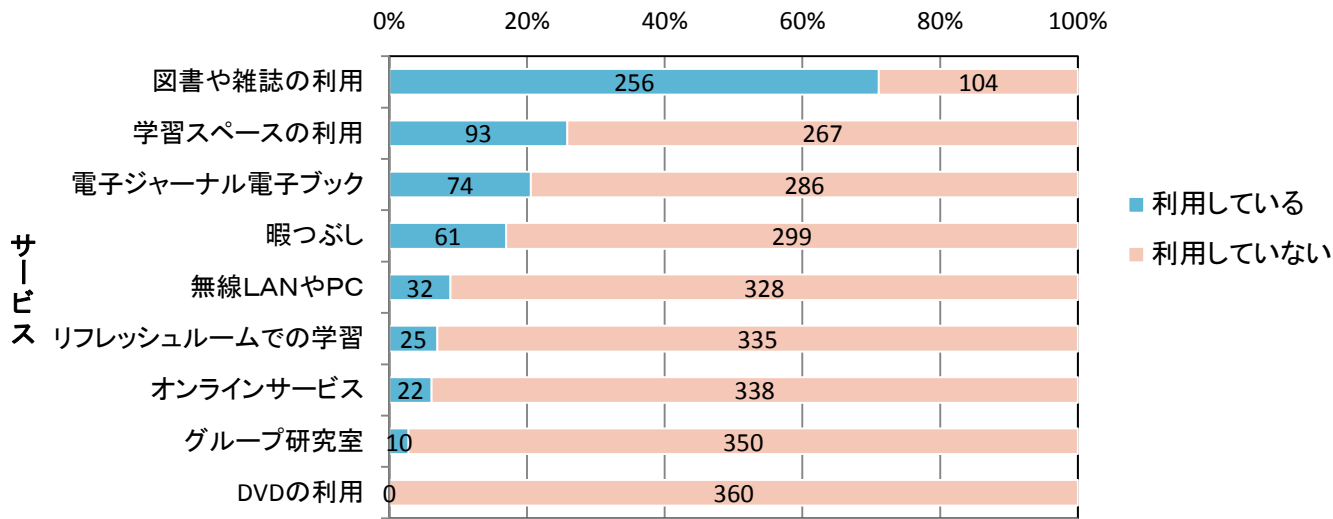


図 6. 2. 14 附属図書館の利用の主なもの(すずかけ台キャンパス)

(11) 附属図書館に充実させてほしい資料

大岡山キャンパスとすずかけ台キャンパスの学生が附属図書館に充実させてほしい資料を比較すると、すずかけ台キャンパスの学生の方がより専門書、学術雑誌と電子ジャーナルの充実を望んでいることがわかった。

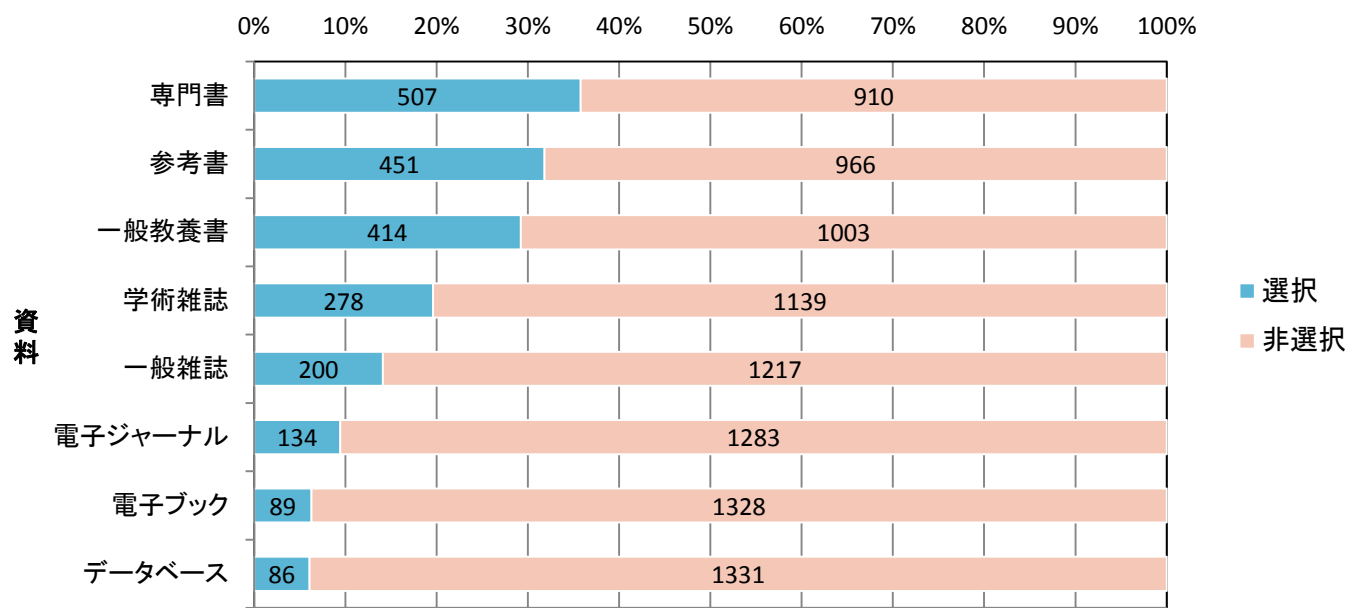


図 6. 2. 15 附属図書館に充実させてほしい資料(大岡山キャンパス)

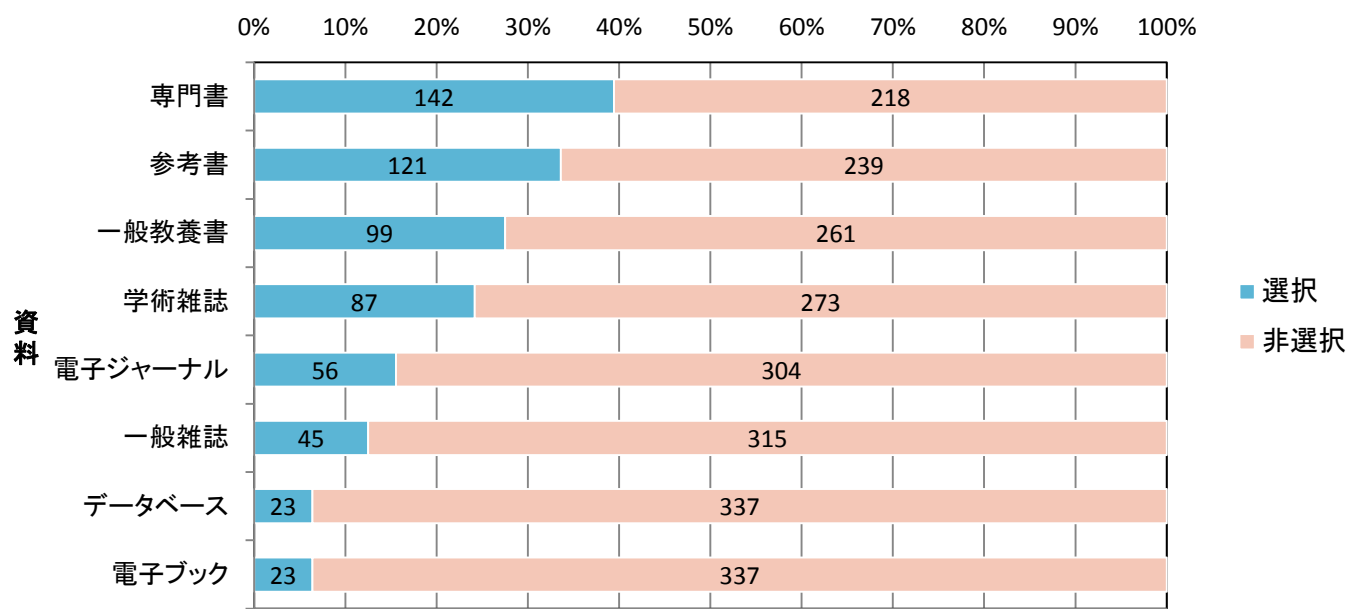


図 6. 2. 16 附属図書館に充実させてほしい資料(すずかけ台キャンパス)

6. 調査結果分析

(12) 知っている東工大のプログラム

学部生と大学院生が知っている東工大プログラムを比較すると、学部生の方が四大学連合複合領域コースとグローバル理工人育成コースを知っているが、それら以外のプログラムに関しては大学院生の方がより知っていることがわかった。

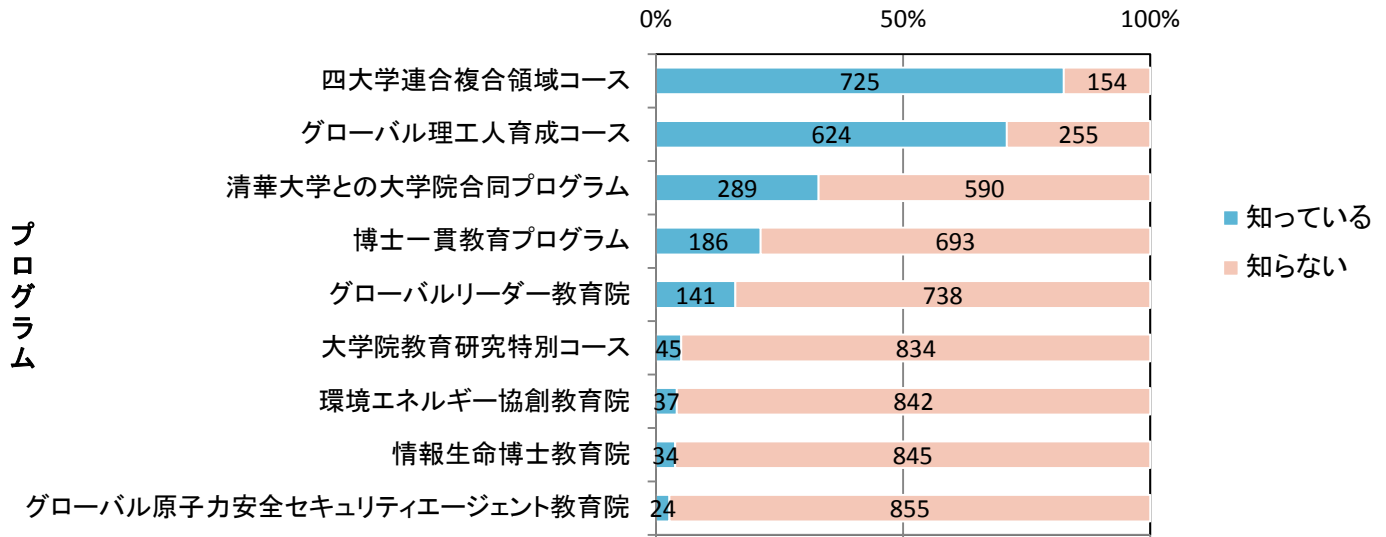


図 6. 2. 17 知っている東工大のプログラム(学部)

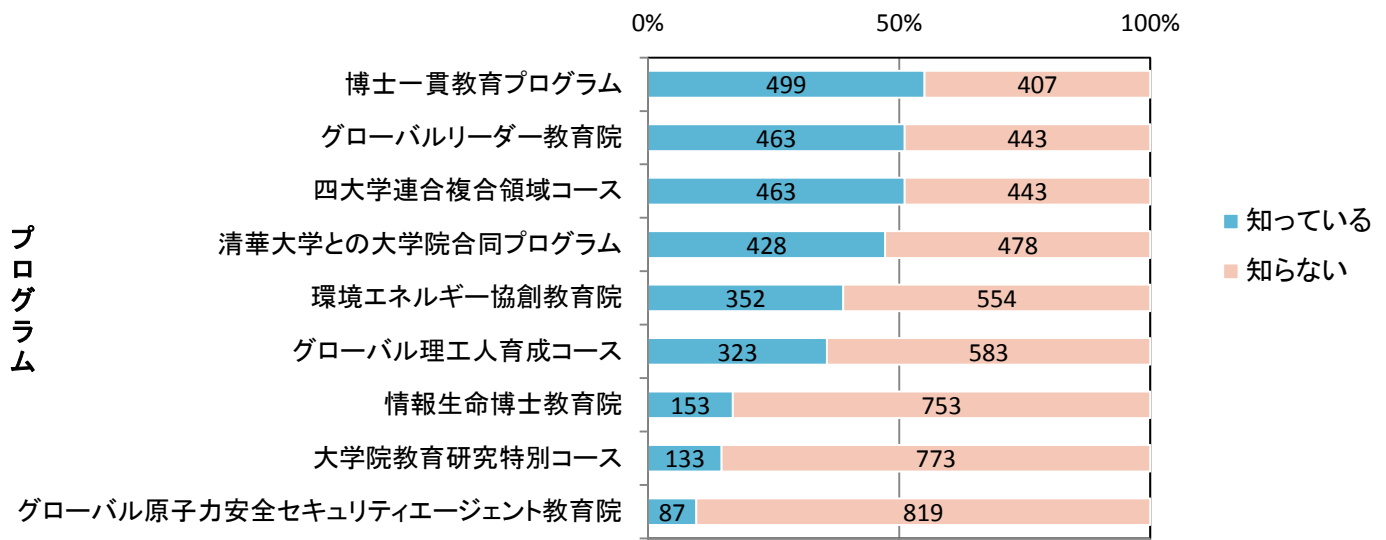


図 6. 2. 18 知っている東工大のプログラム(大学院)

日本人学生と留学生の知っている東工大のプログラムを比較すると、四大学連合複合領域コース、グローバル理工人育成コースと清華大学との大学院合同プログラムを留学生より日本人学生の方が知っていることがわかった。

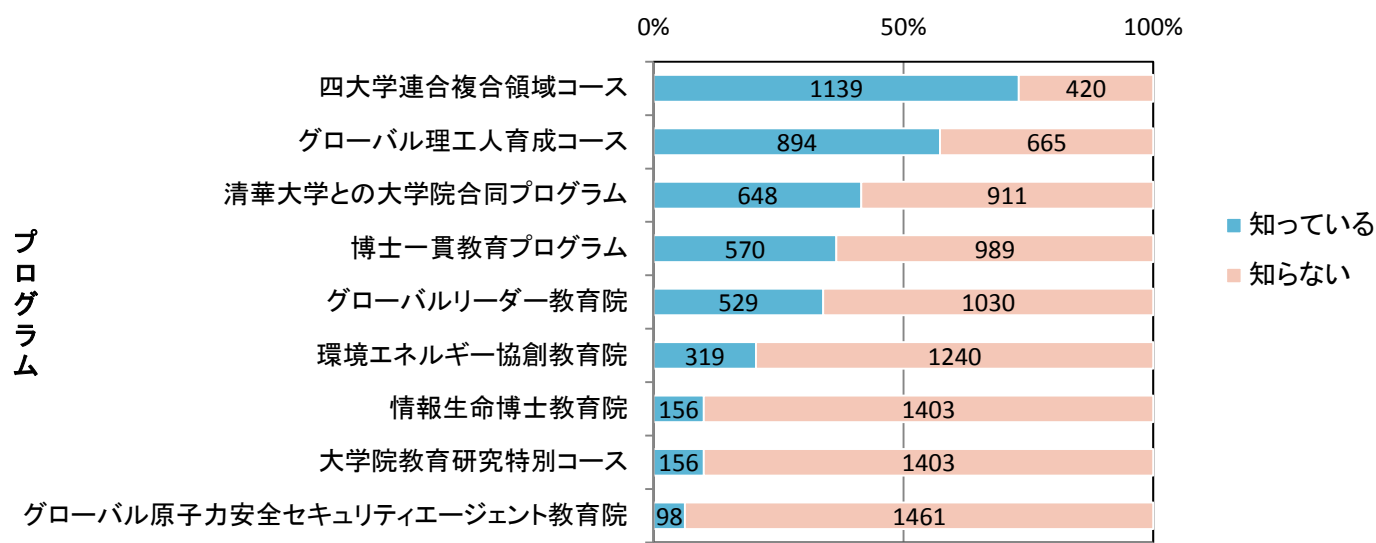


図 6. 2. 19 知っている東工大のプログラム(日本人学生)

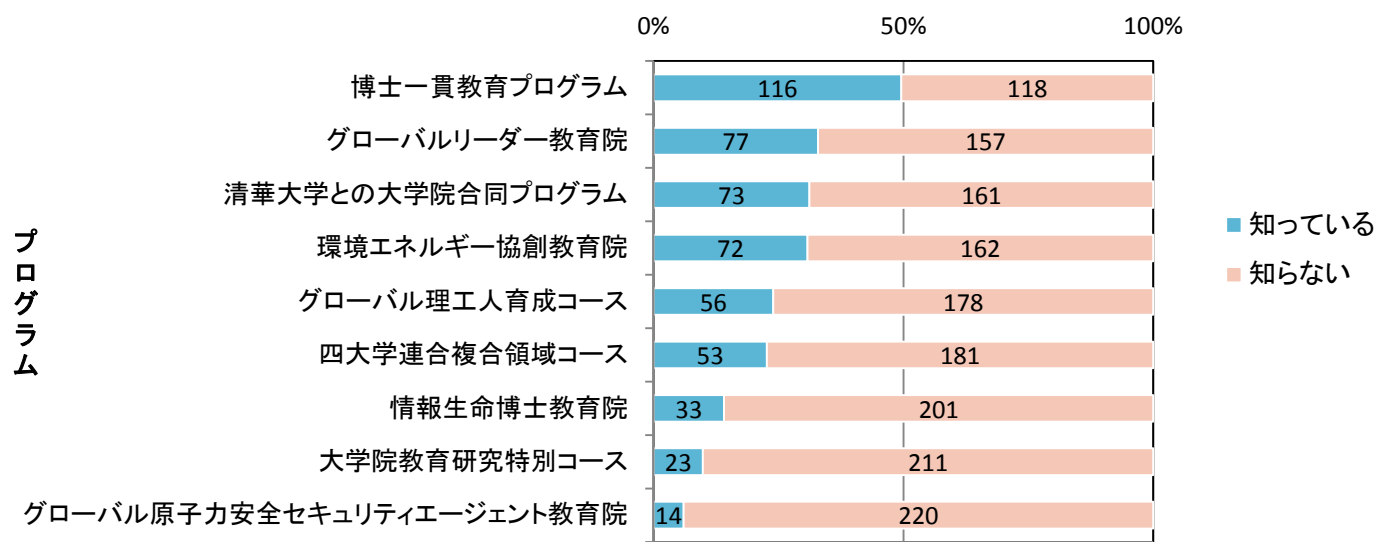


図 6. 2. 20 知っている東工大のプログラム(留学生)

6. 調査結果分析

(13) 参加してみたい東工大のプログラム

学部生と大学院生の参加してみたいプログラムを比較すると学部生は四大学連合複合領域コースとグローバル理工人育成コースに興味をもっていることがわかった。一方、大学院生は、グローバルリーダー教育院に参加してみたい人が一番多いことがわかった。

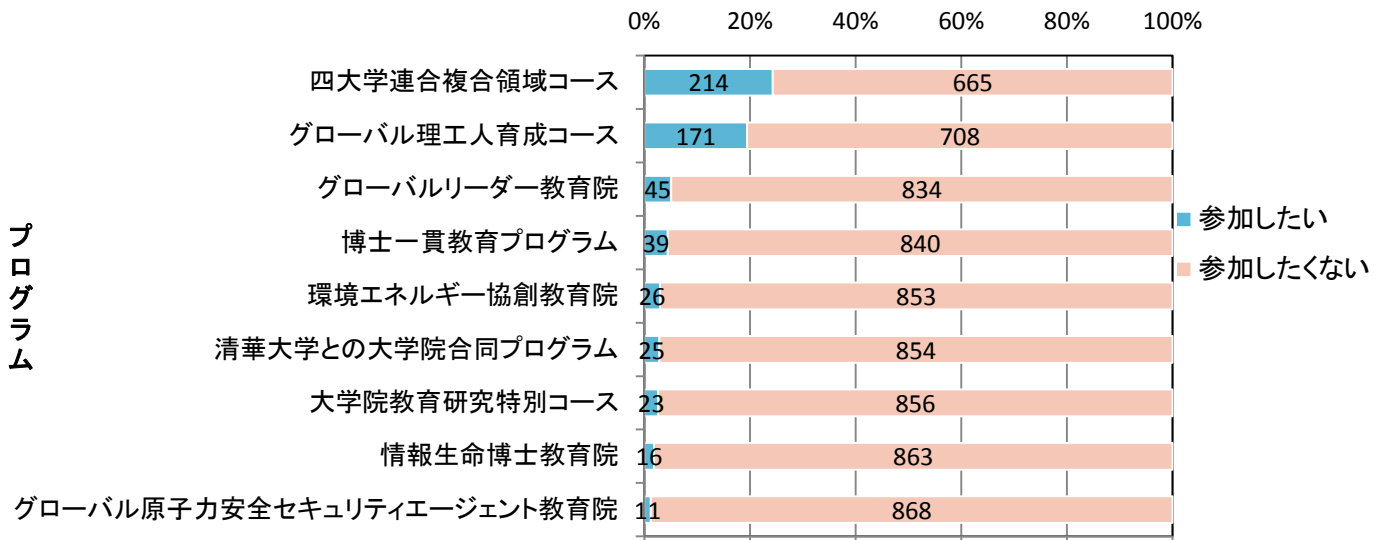


図 6. 2. 21 参加してみたいプログラム(学部生)

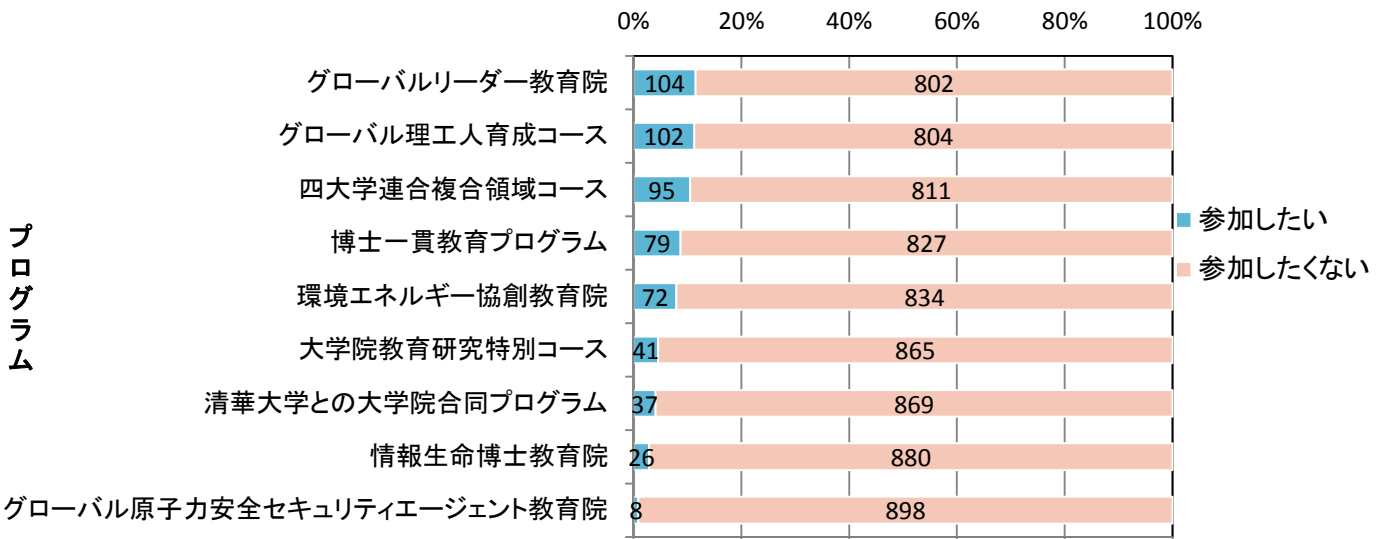


図 6. 2. 22 参加してみたいプログラム(大学院生)

日本人学生と留学生の参加してみたいプログラムを比較すると、全体的に留学生の方が東工大のプログラムに興味を持っていることがわかった。日本人学生は留学生より四大学連合複合領域コースとグローバル理工人育成コースに興味を持っていることがわかった。

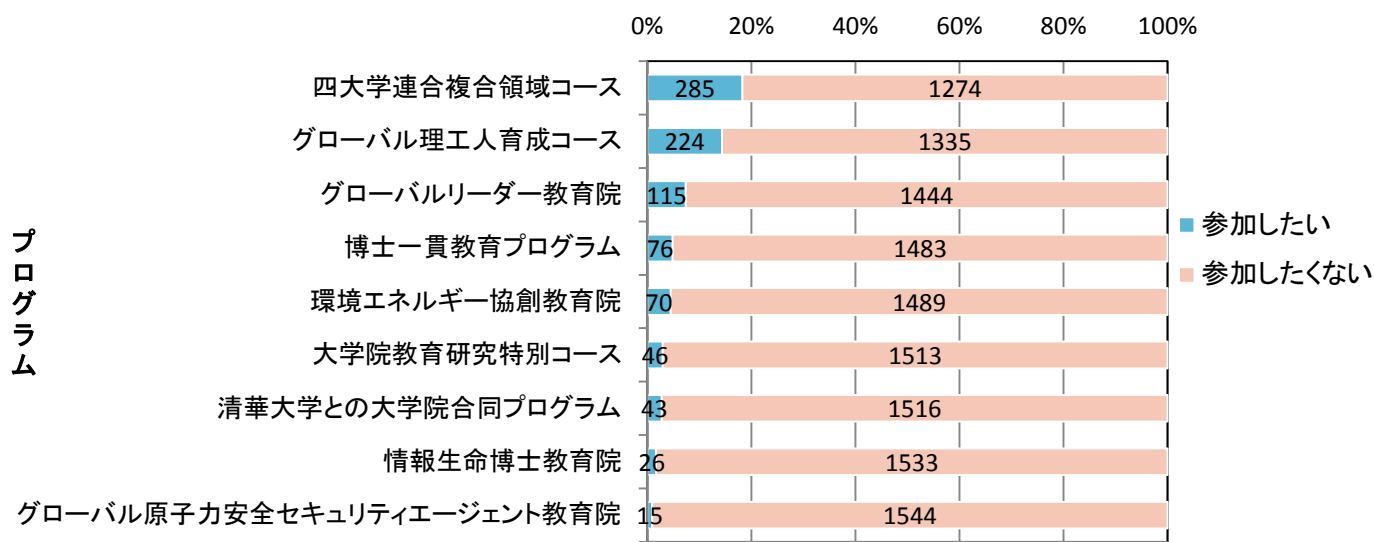


図 6. 2. 23 参加してみたい東工大プログラム(日本人学生)

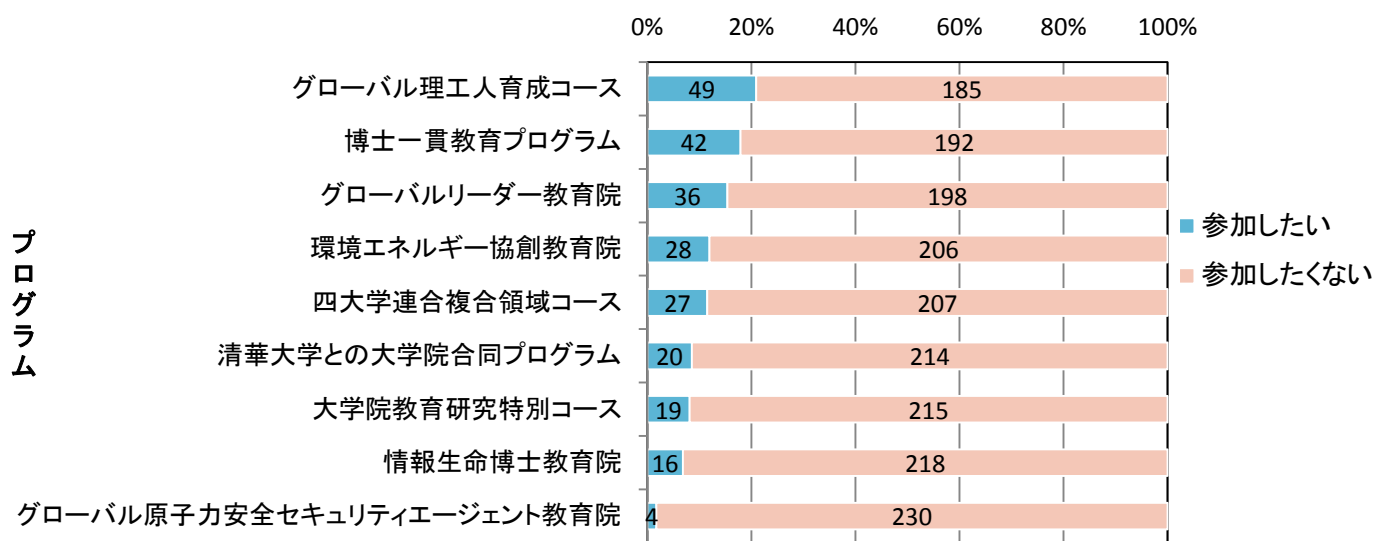


図 6. 2. 24 参加してみたい東工大プログラム(留学生)

6. 調査結果分析

6.3. キャンパスライフ

(1) 食堂の質

大岡山とすずかけ台の学生の食堂の質について質問の結果を比較すると、キャンパスごとの差はほとんどないことがわかった。

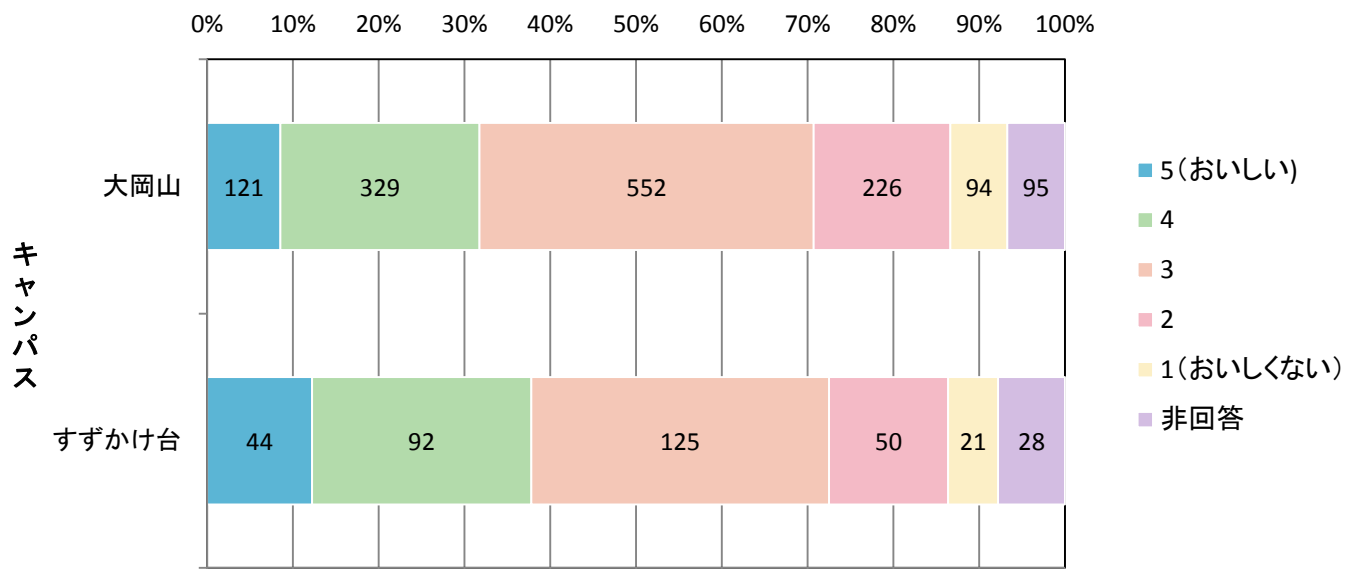


図 6. 3. 1 キャンパスごとの学食の質

(2) 分煙

大岡山とすずかけ台の分煙の十分さを比較すると、大岡山キャンパスの方が分煙が不十分であることがわかった。

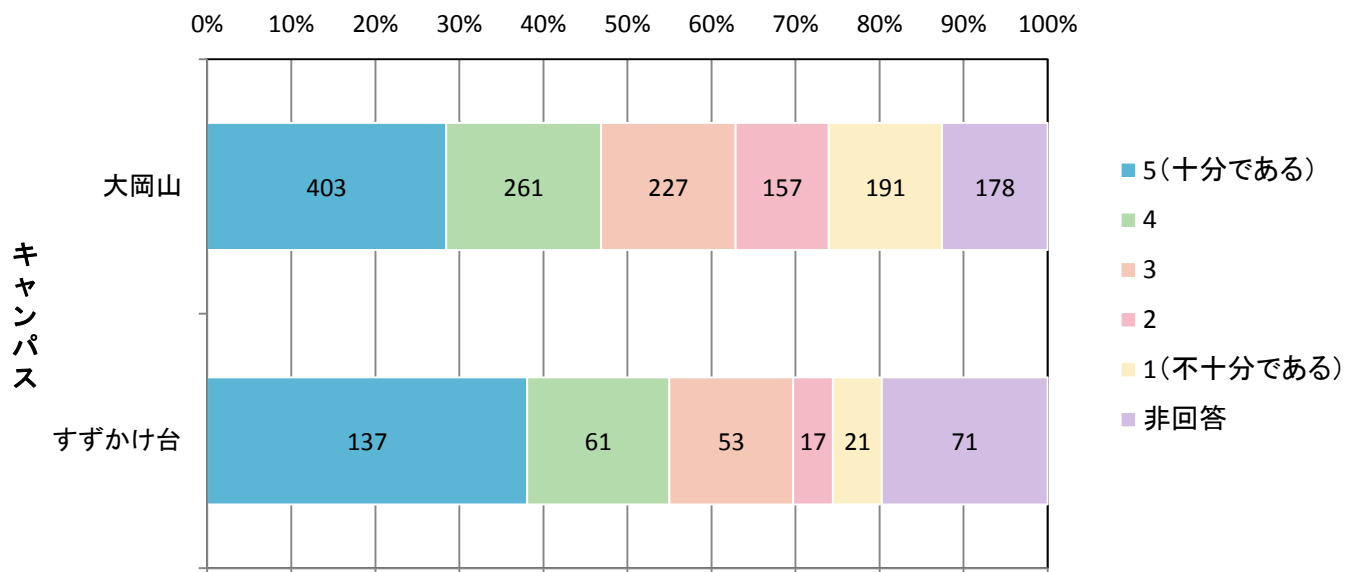


図 6. 3. 2 キャンパスごとの分煙

(3)駐輪場所

大岡山とすずかけ台の駐輪スペースを比較すると、キャンパスごとの差はほとんどないことがわかった。

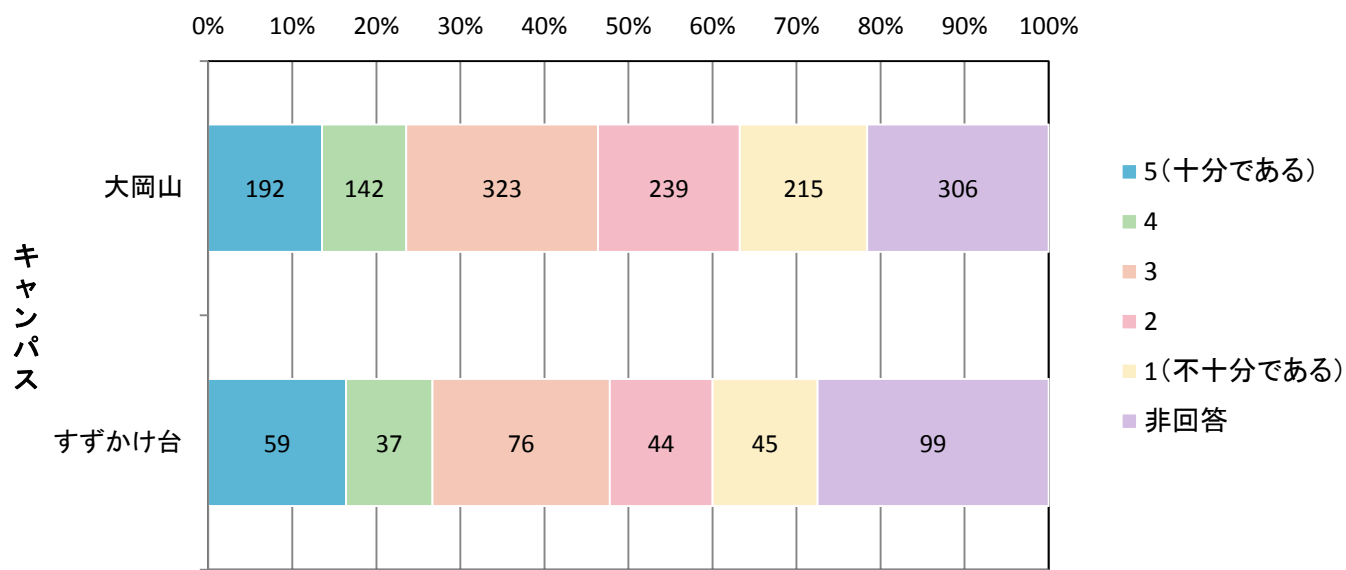


図 6. 3. 3 キャンパスごとの駐輪スペース

(4)教員

大岡山とすずかけ台の教員の対応への評価を比較すると、すずかけ台の方が教員の対応が適切であると学生が感じていることがわかった。

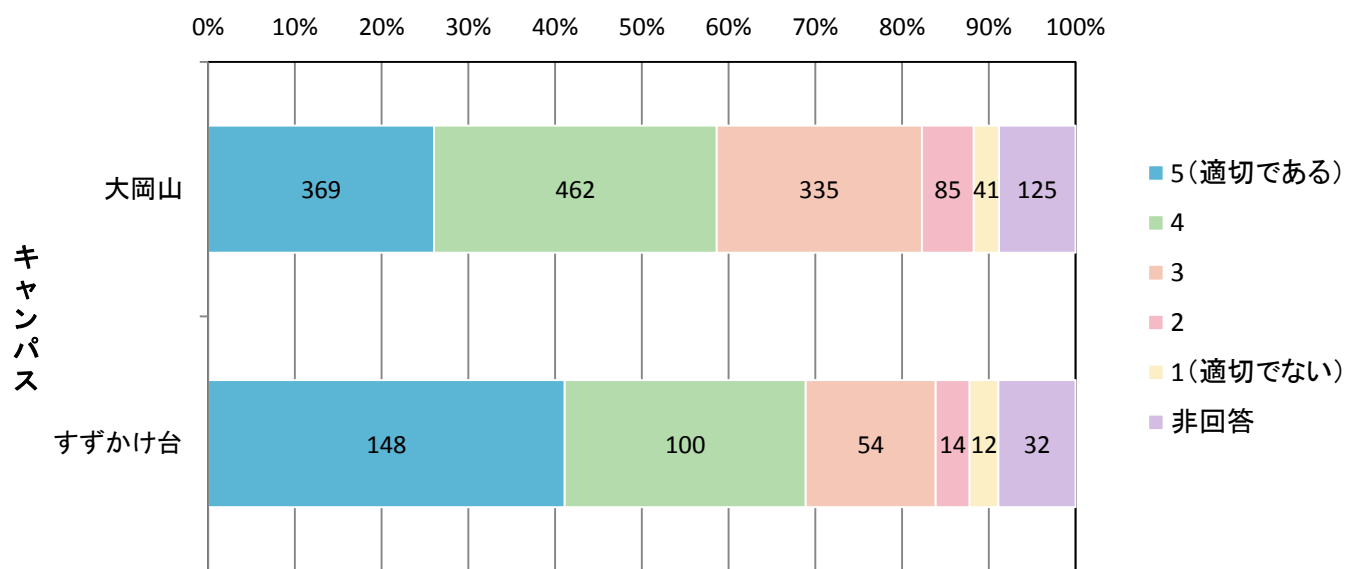


図 6. 3. 4 キャンパスごとの教員の対応の適切さ

6. 調査結果分析

(5)事務職員

大岡山とすずかけ台の事務職員の対応への評価を比較すると、すずかけ台の方が事務職員の対応が適切であると学生が感じていることがわかった。

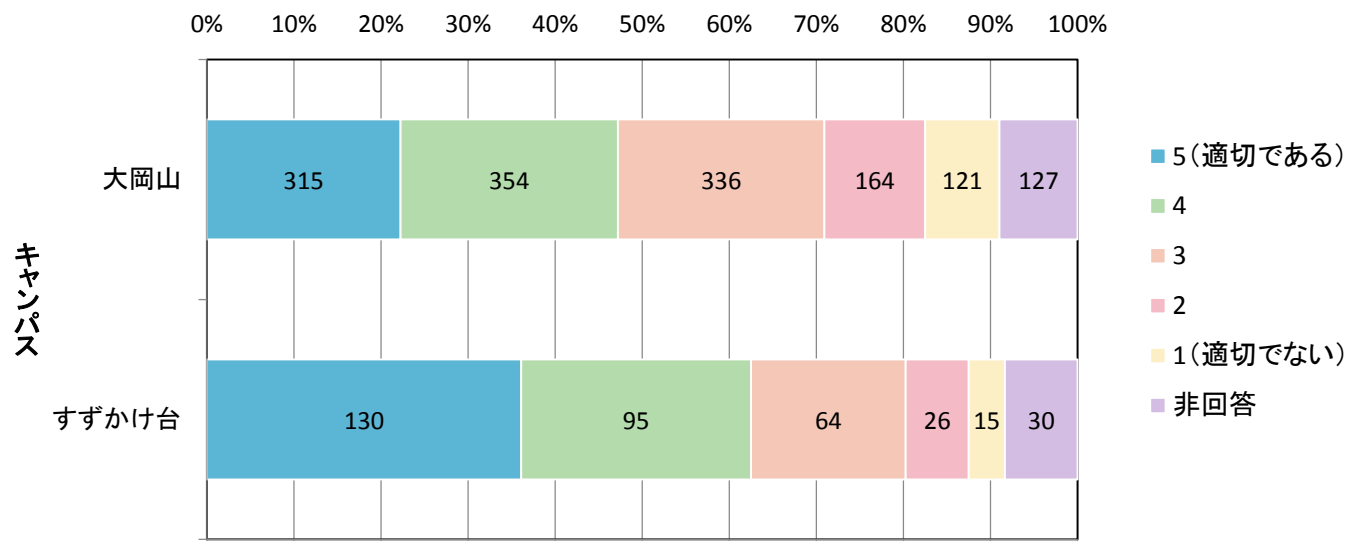


図 6. 3. 5 キャンパスごとの事務職員の対応の適切さ

7. 調査資料集

本章では、2014年10月1日から10月31日にかけて行われた学勢調査アンケートの結果を掲載します。

集計対象は自由記述回答の設問以外全てです。集計結果のグラフ・表中の数字は該当選択肢への回答者数です。尚、今回の調査の総回答者数は1793人です。一部の設問は表記の都合上、実際の設問とは異なっていますが、内容に違いはありません。

7.1. 基本情報

(0)回答日(システムの都合上11月1日分を含む)

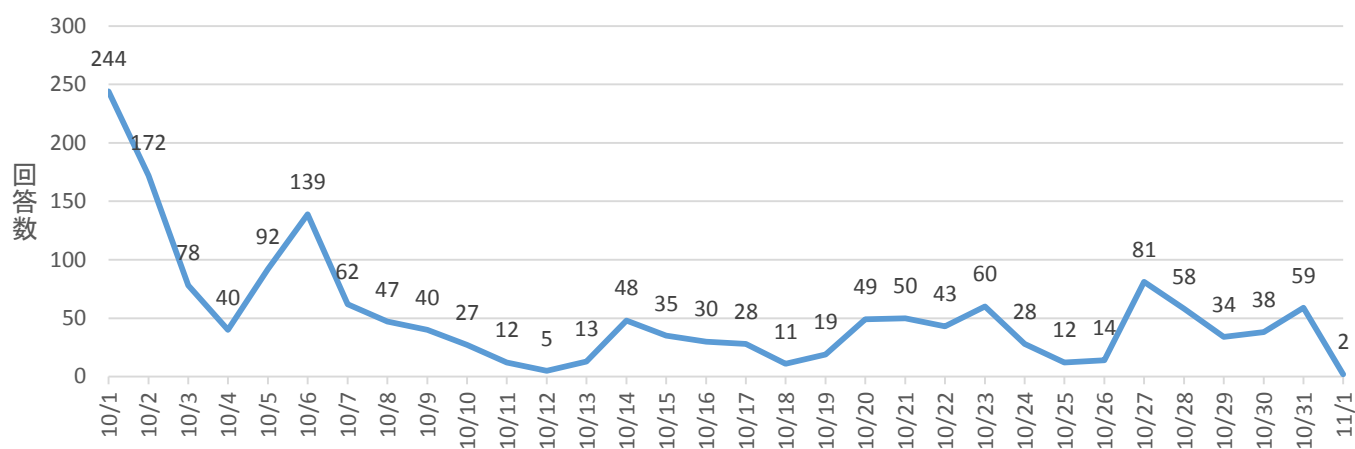


図 7.1.1 回答数

(1)回答場所

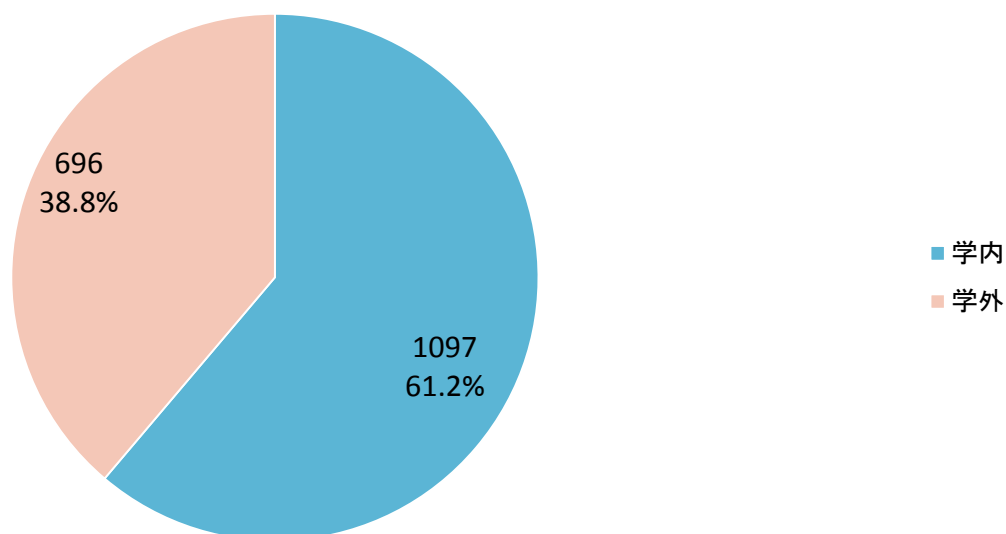


図 7.1.2 回答場所

7. 調査資料集

(2)所属課程

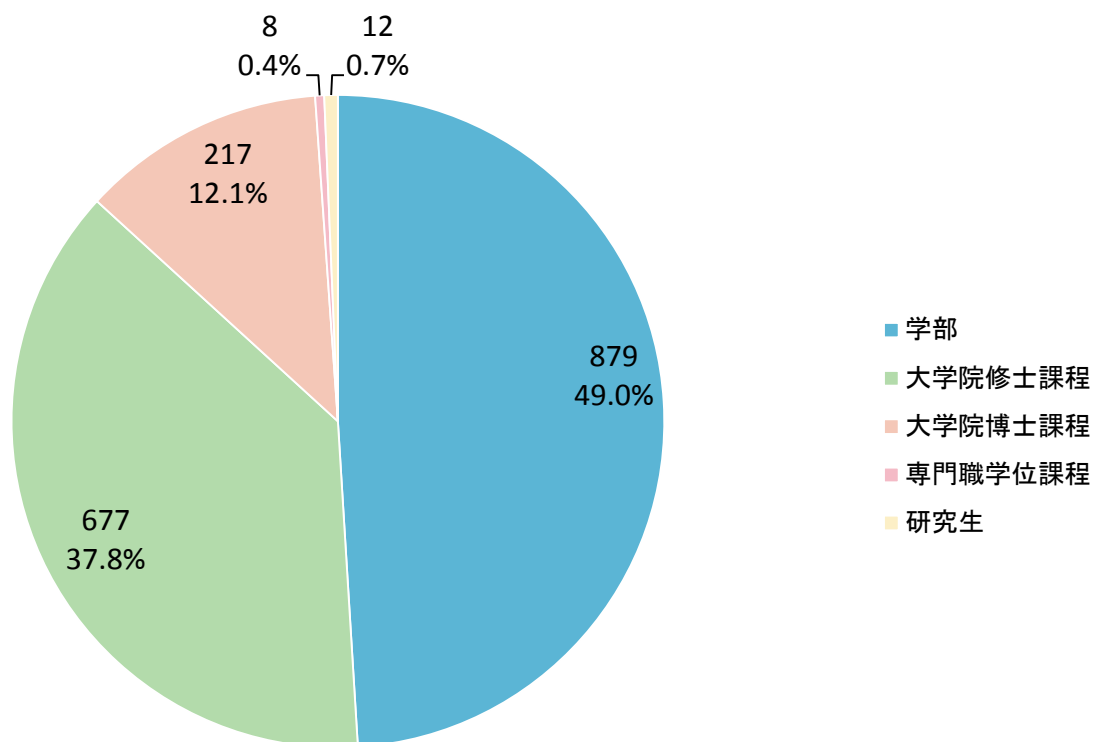


図 7. 1. 3 所属課程

(3)現課程への入学年

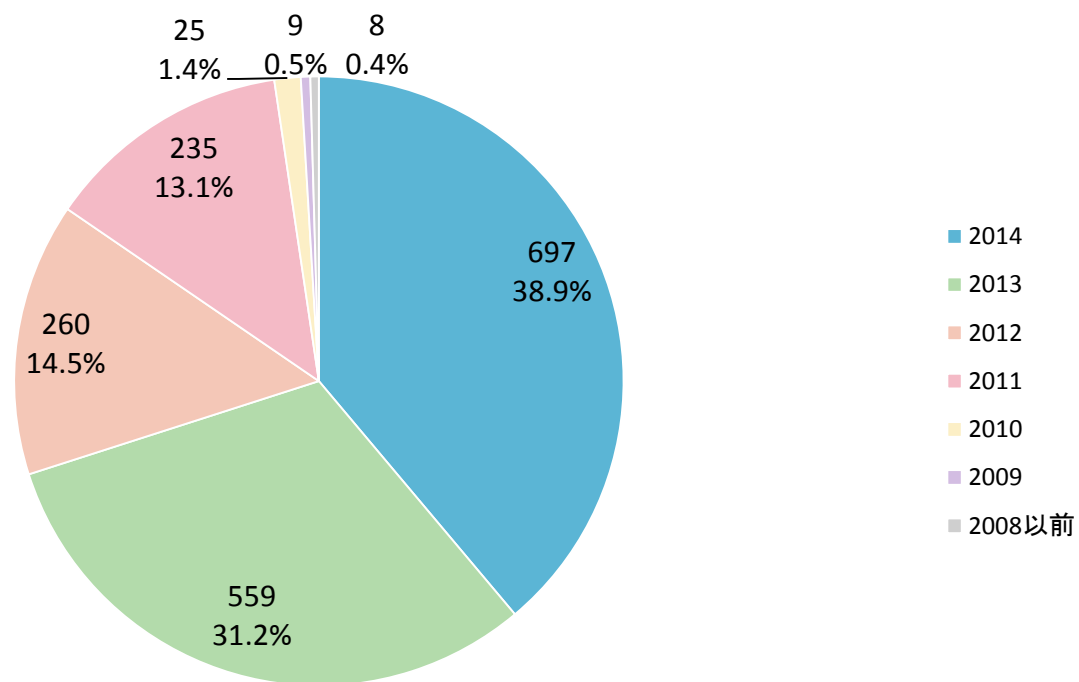


図 7. 1. 4 入学年度

(4)高専や他大学への在籍

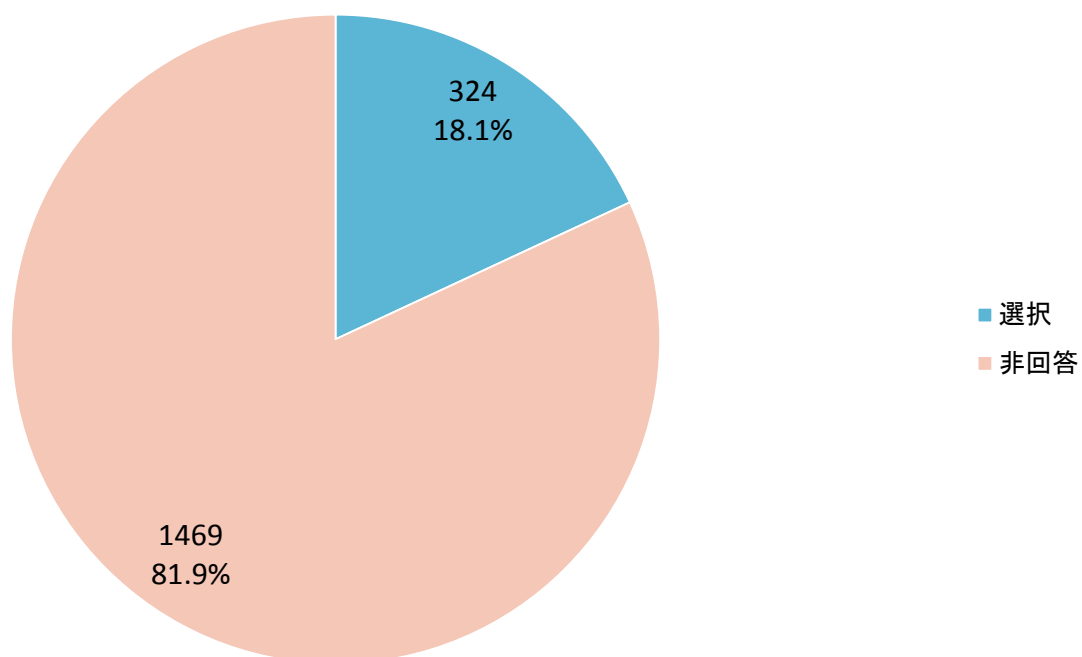


図 7. 1. 5 高専や他大学への在籍

(5)留学生

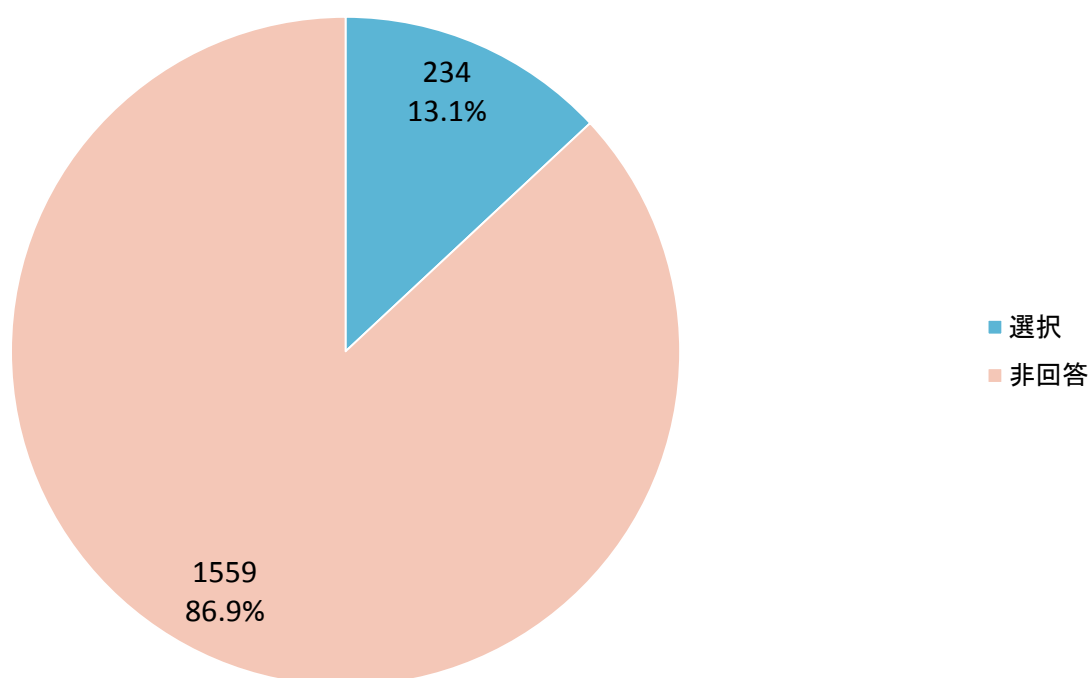


図 7. 1. 6 留学生

7. 調査資料集

(6)性別

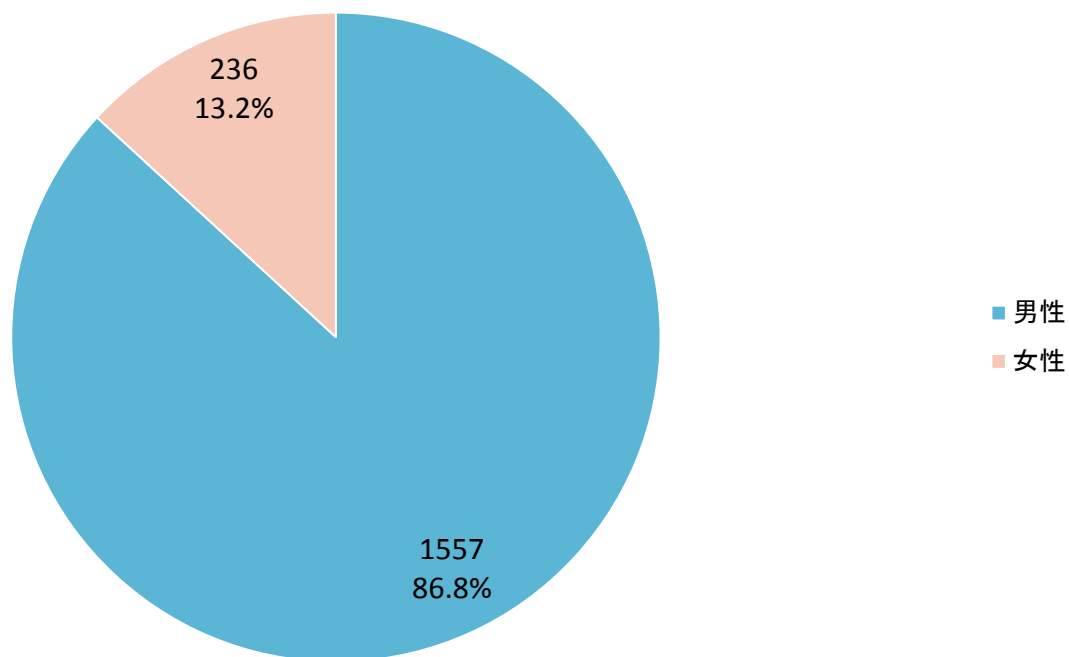


図 7. 1. 7 性別

(7-1)所属(類、学科または専攻)

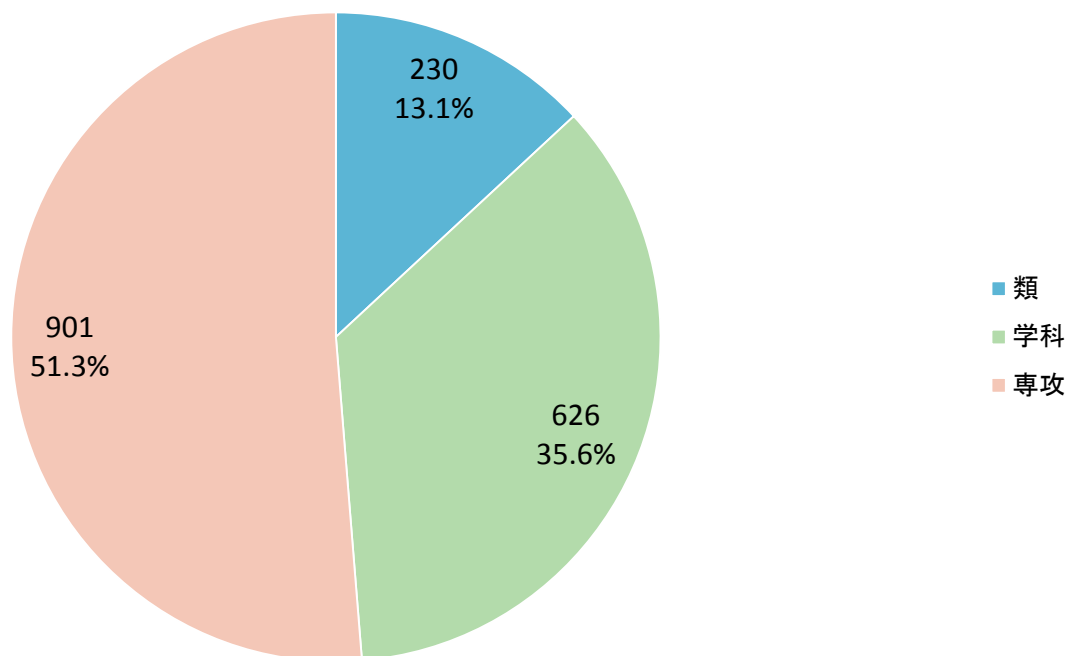


図 7. 1. 8 所属(類、学科または専攻)

(7-2)所属類

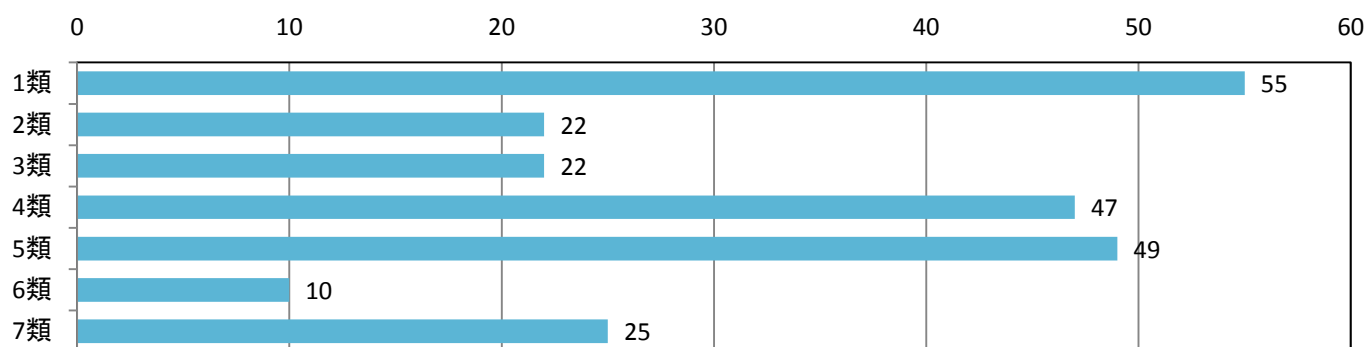


図 7. 1. 9 所属類(計 230)

(7-3)所属科

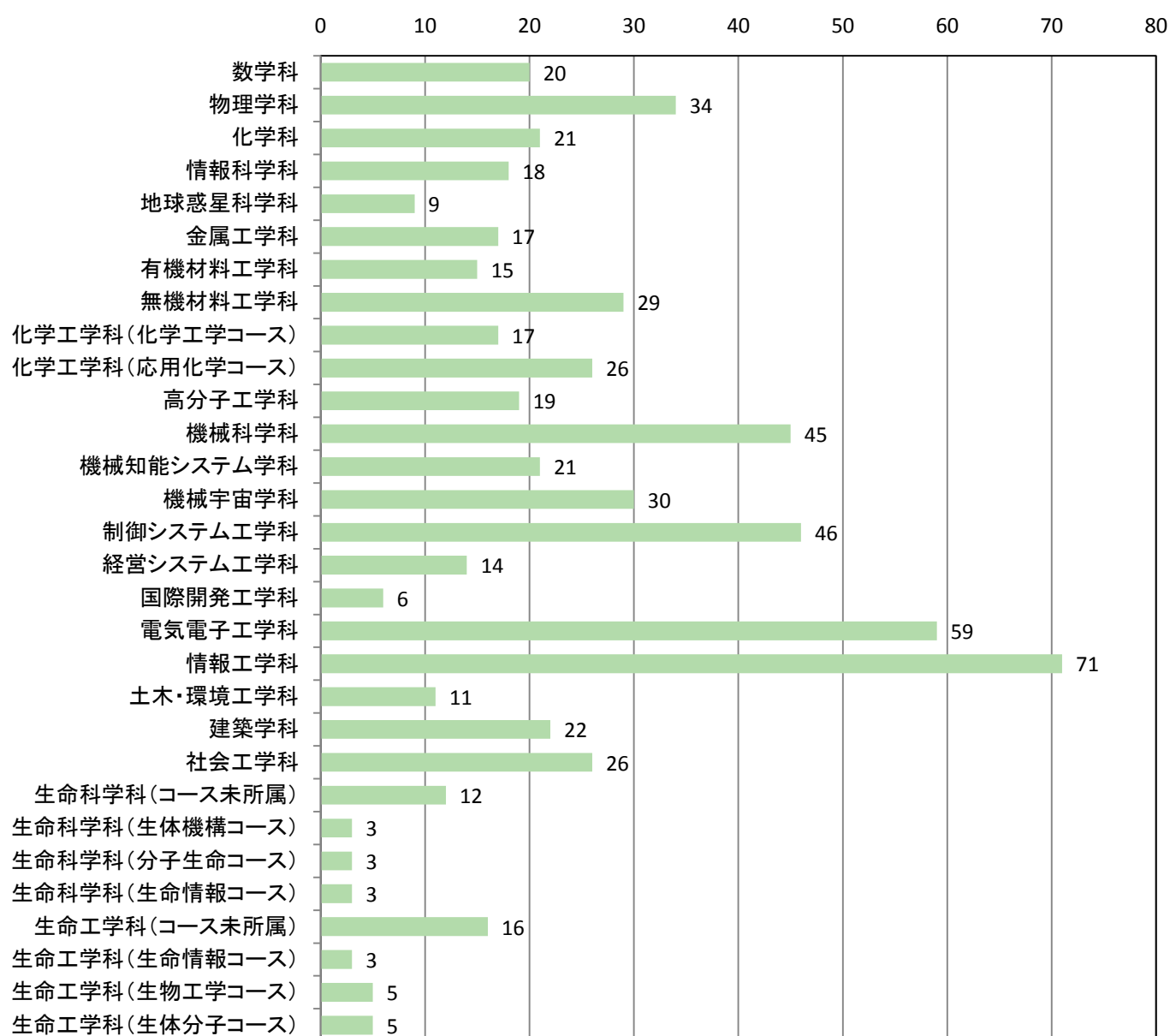


図 7. 1. 10 所属学科(計 626)

7. 調査資料集

(7-4)所属専攻

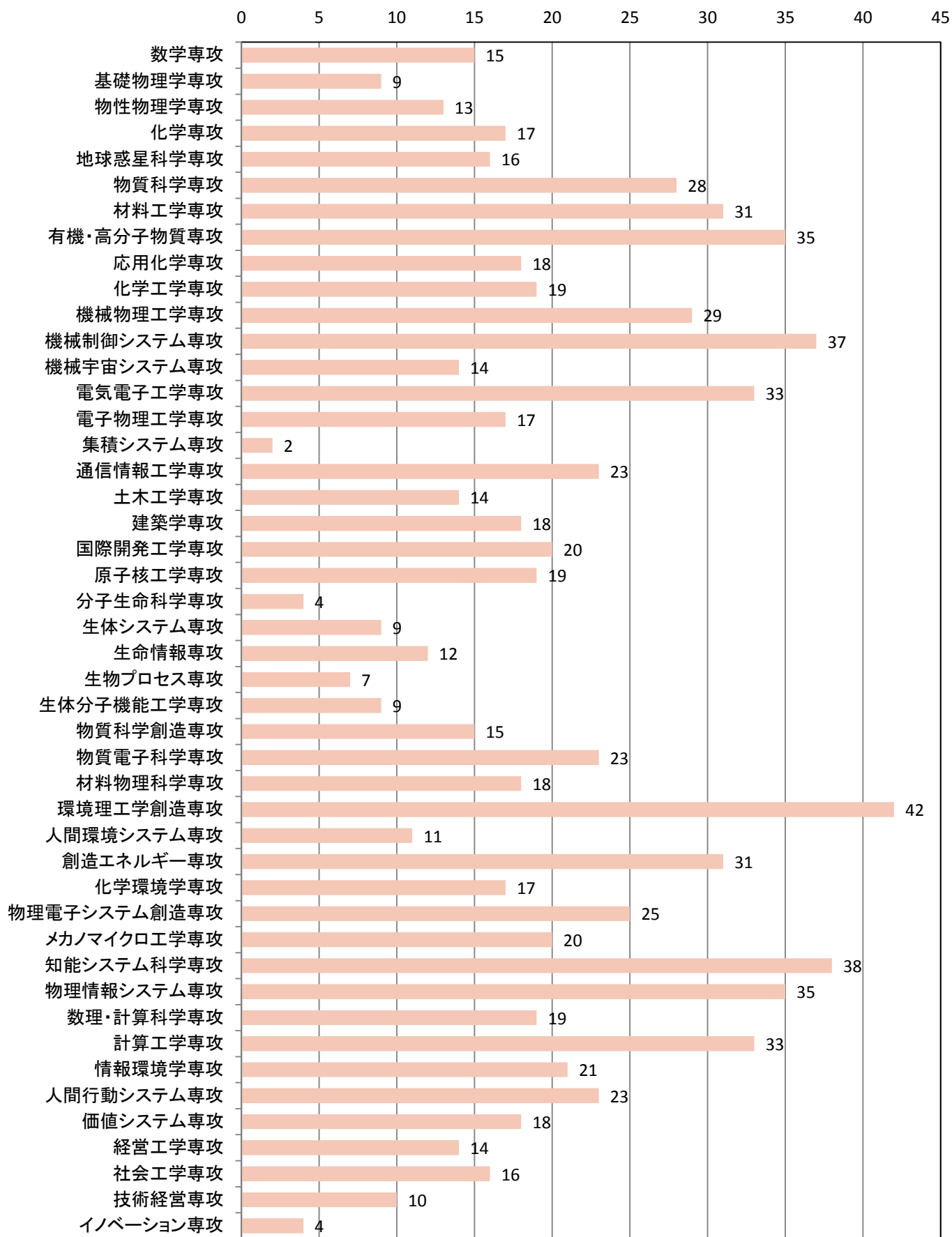


図 7. 1. 11 所属専攻(計 901)

7.2. 生活基盤

(1)片道の通学時間はどのくらいですか。

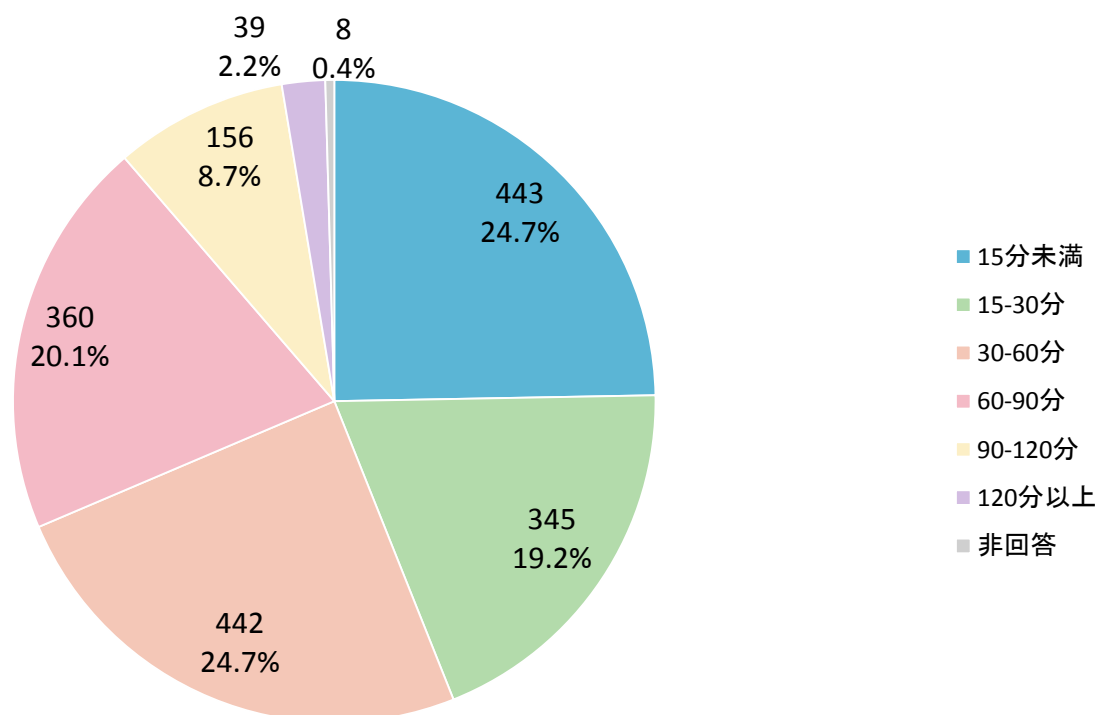


図 7. 2. 1 片道の通学時間

(2)主な通学手段は何ですか。

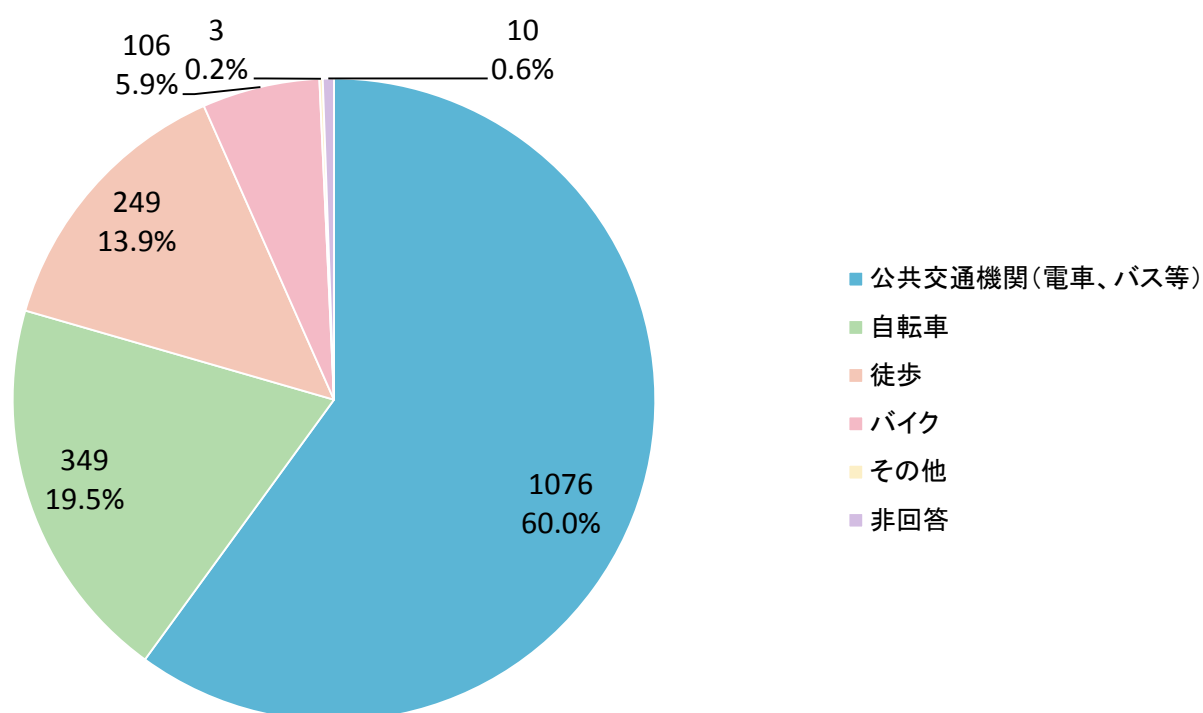


図 7. 2. 2 主な通学手段

7. 調査資料集

住まいについてお聞きします。

(3)現在の住まいは以下のどれにあたりますか。

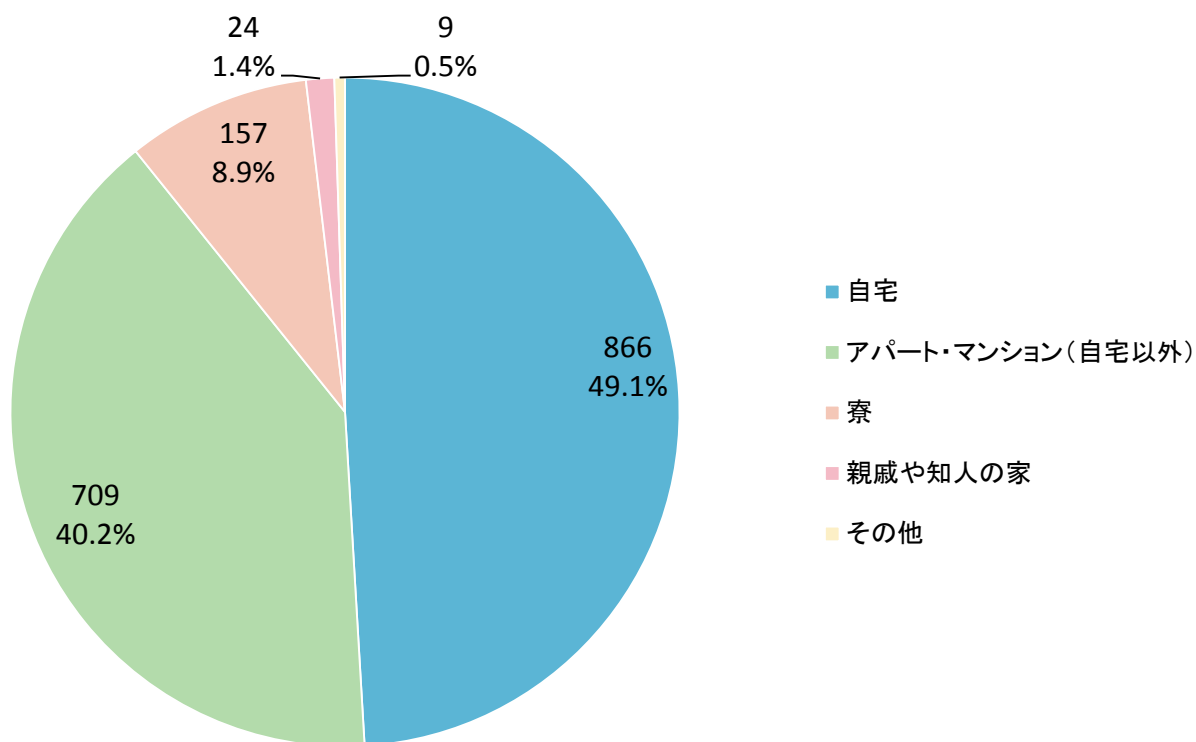


図 7. 2. 3 現在の住まい

(4) (3)で自宅以外と回答した方にお尋ねします。一か月の家賃はどのくらいですか。

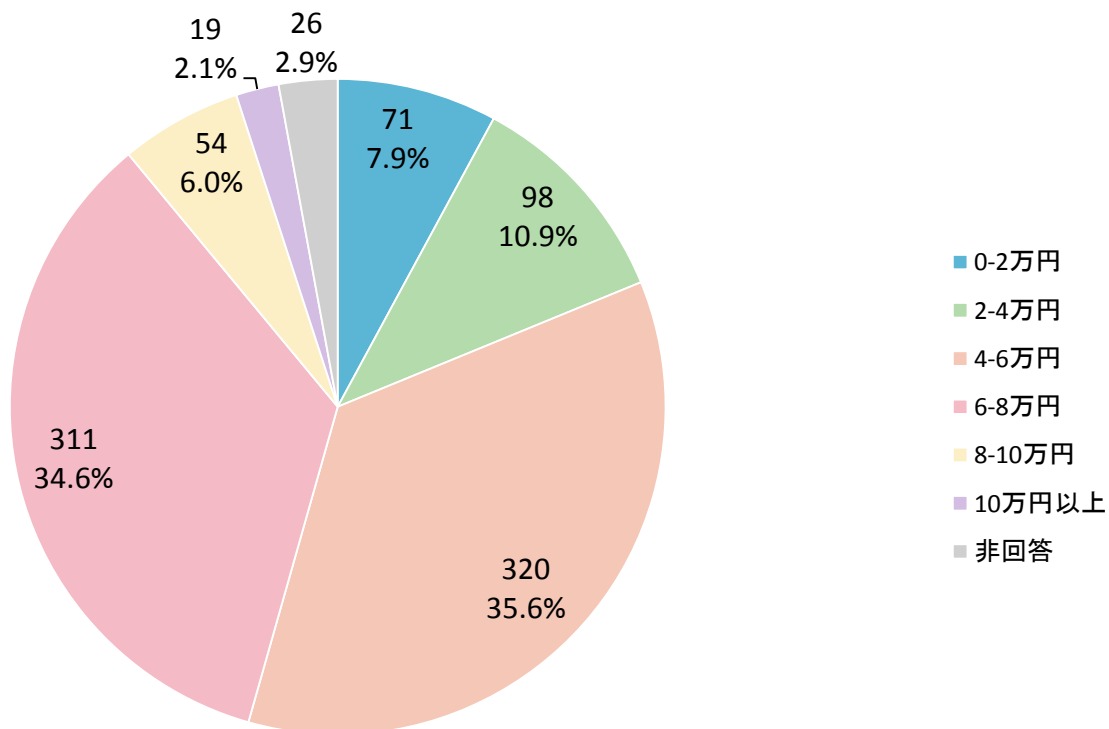


図 7. 2. 4 1ヶ月の家賃

(5)(3)で自宅以外と回答した方にお尋ねします。一か月の仕送り額(家賃を含む)はどのくらいですか。

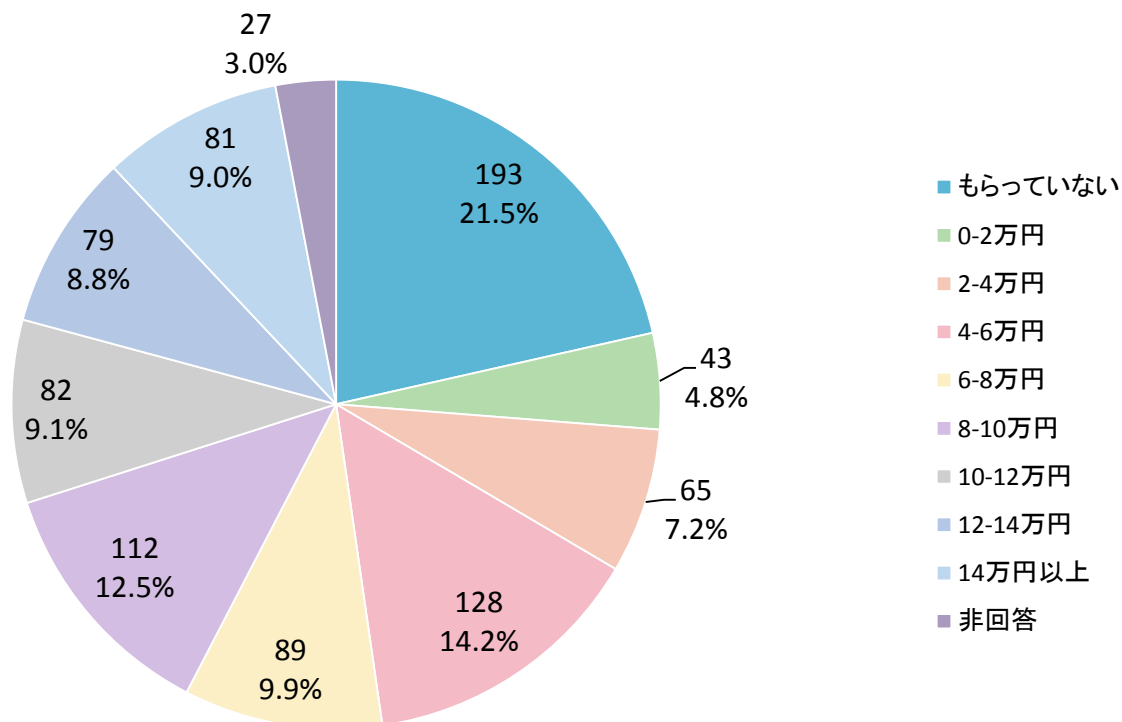


図 7. 2. 5 1ヶ月の仕送り額

(6)大学にいる際は主にどうやって食事をとりますか。

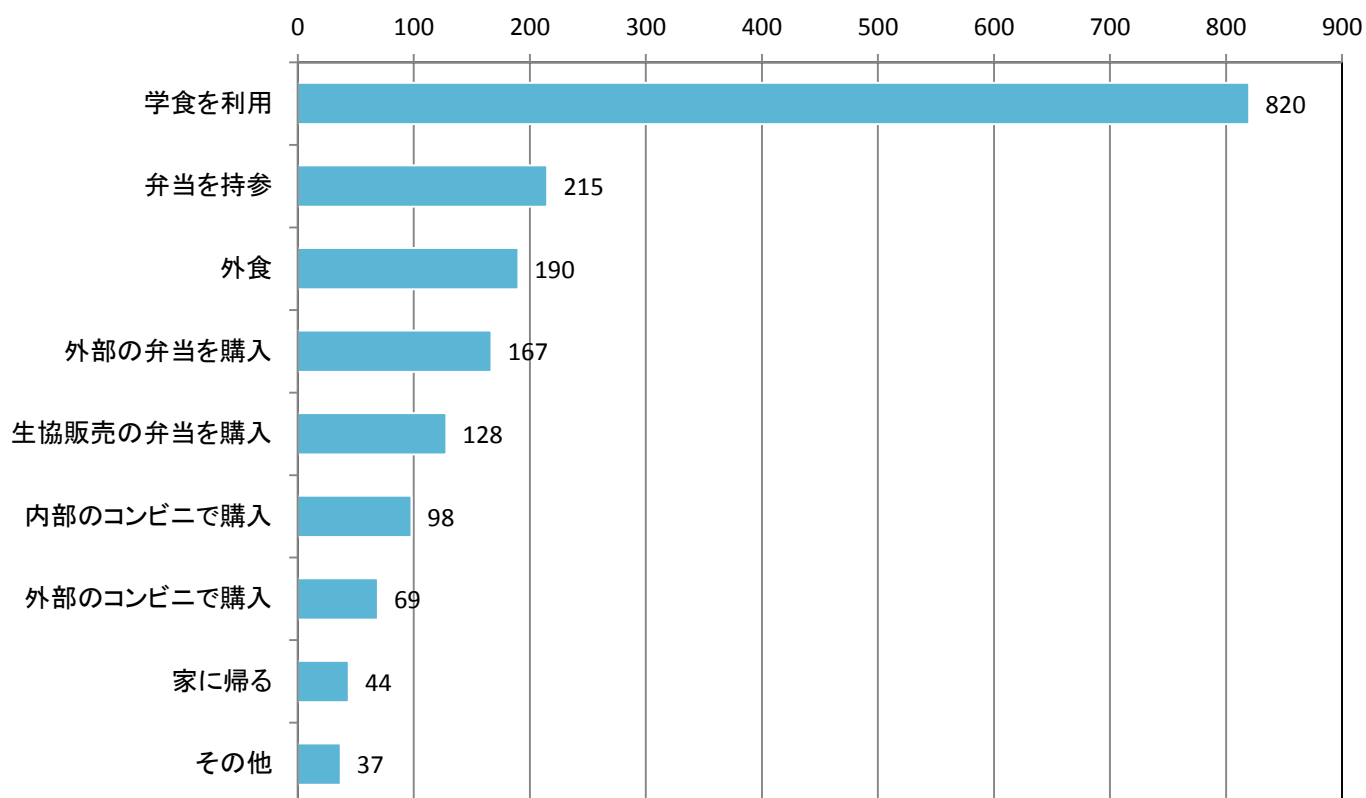


図 7. 2. 6 大学にいるときの食事

7. 調査資料集

(5)(3)で自宅以外と回答した方にお尋ねします。一か月の仕送り額(家賃を含む)はどのくらいですか。

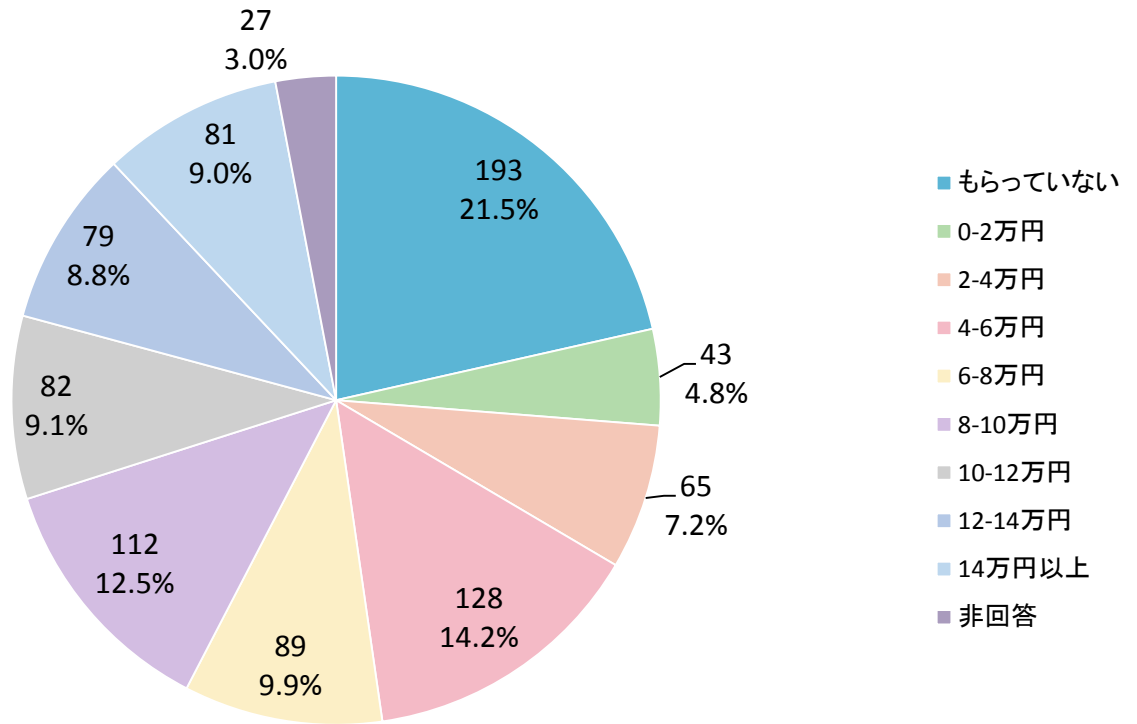


図 7. 2. 5 1ヶ月の仕送り額

(6)大学にいる際は主にどうやって食事をとりますか。

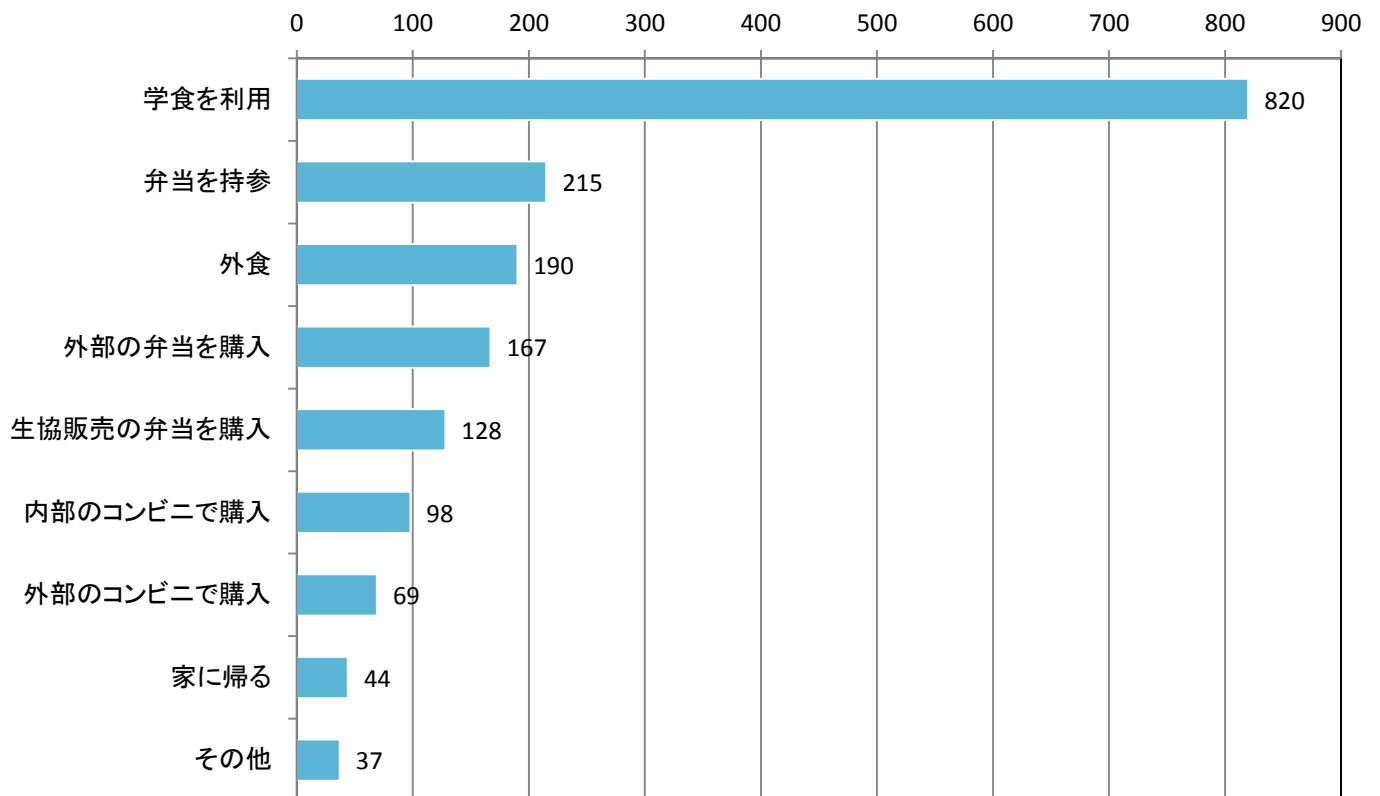


図 7. 2. 6 大学にいるときの食事

(7) 普段、自炊、もしくは家庭や寮で調理された食事をどのくらいとっていますか。

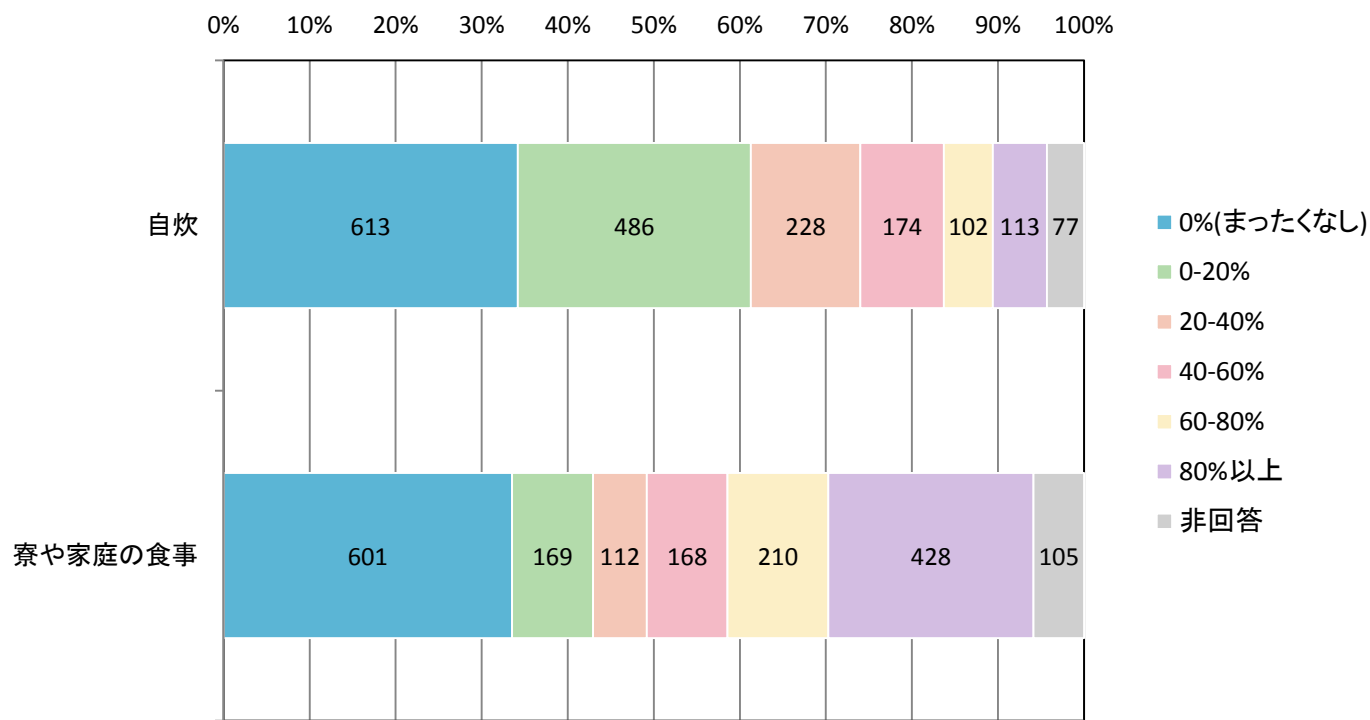


図 7. 2. 7 自炊、寮・家庭の食事の頻度

(8) 平日の平均的な時間の使い方を教えてください。

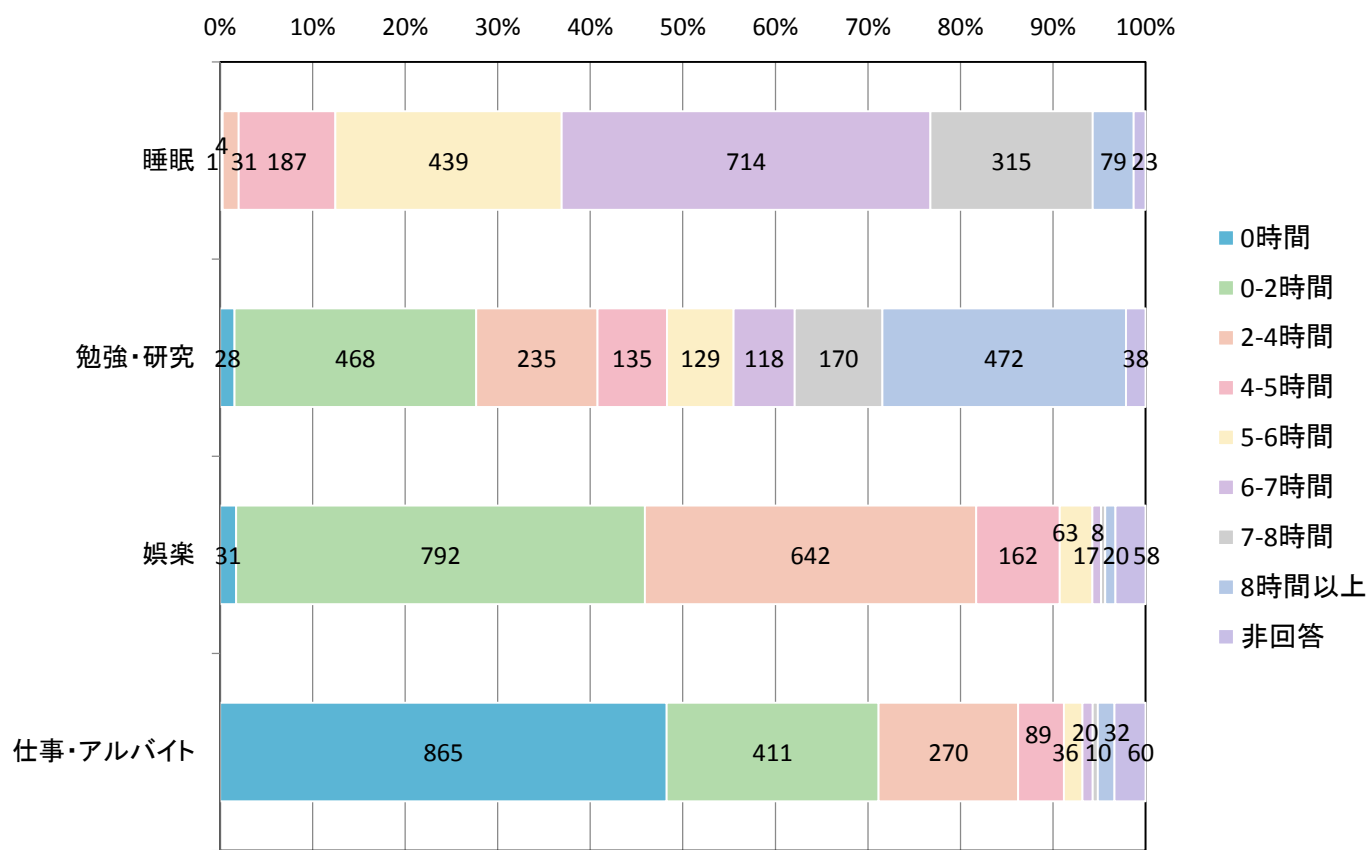


図 7. 2. 8 平日の平均的な時間の使い方

7. 調査資料集

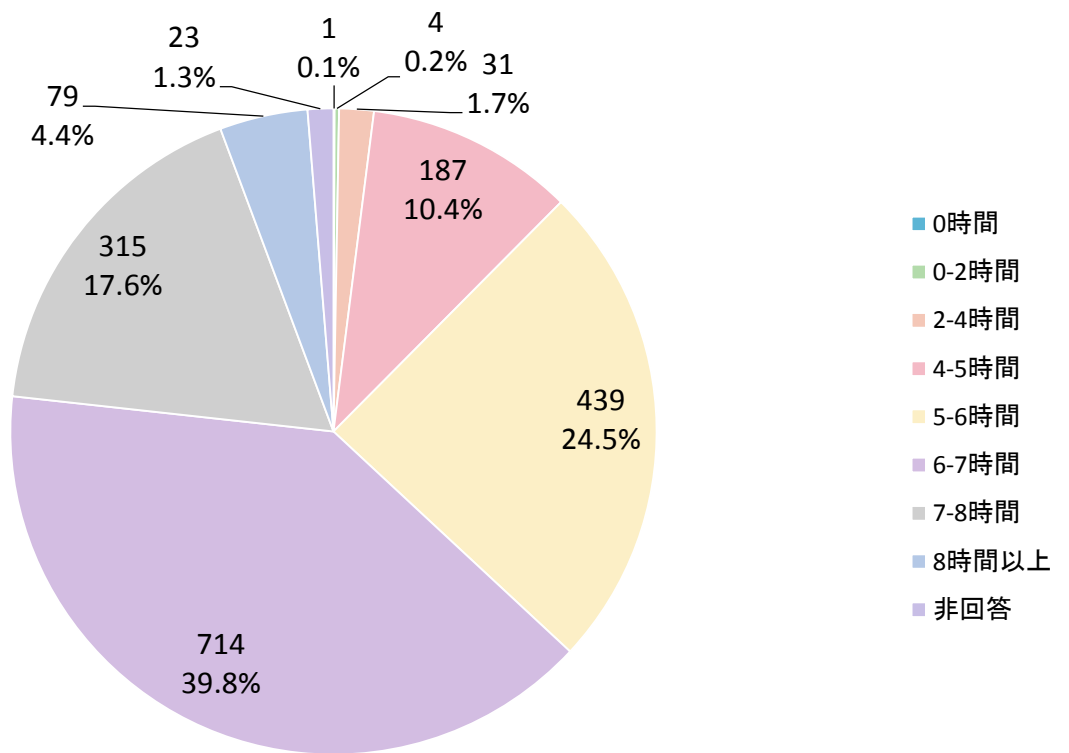


図 7. 2. 9 睡眠時間

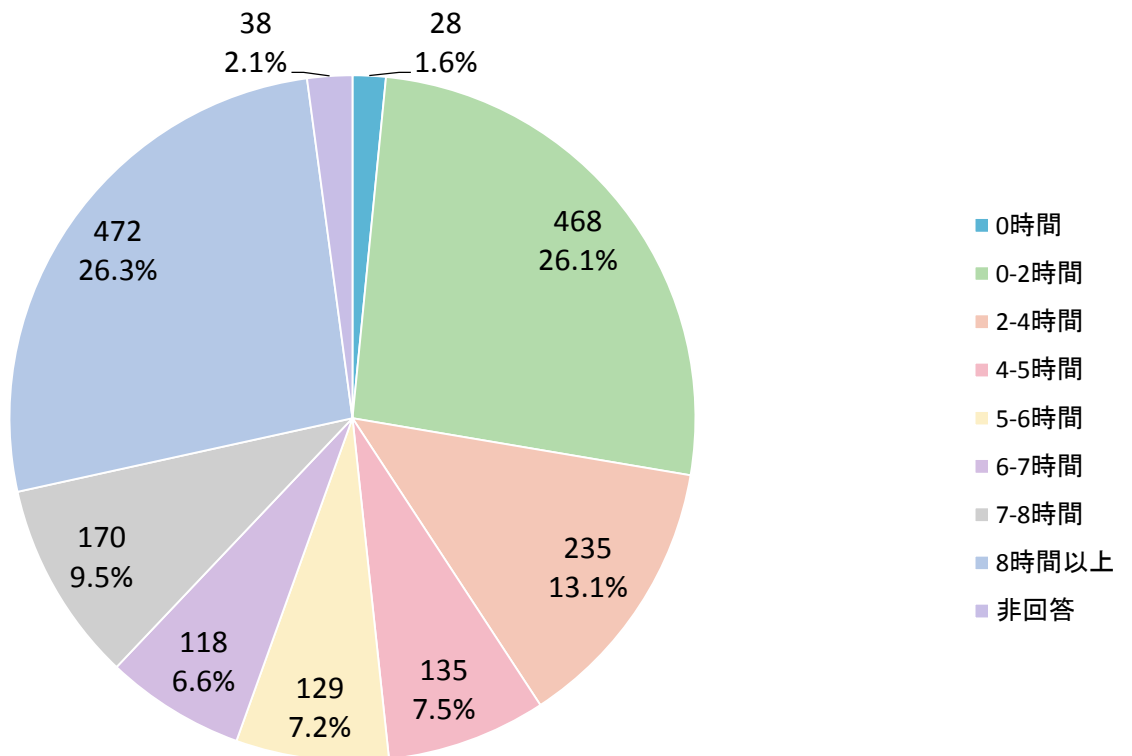


図 7. 2. 10 勉強・研究時間

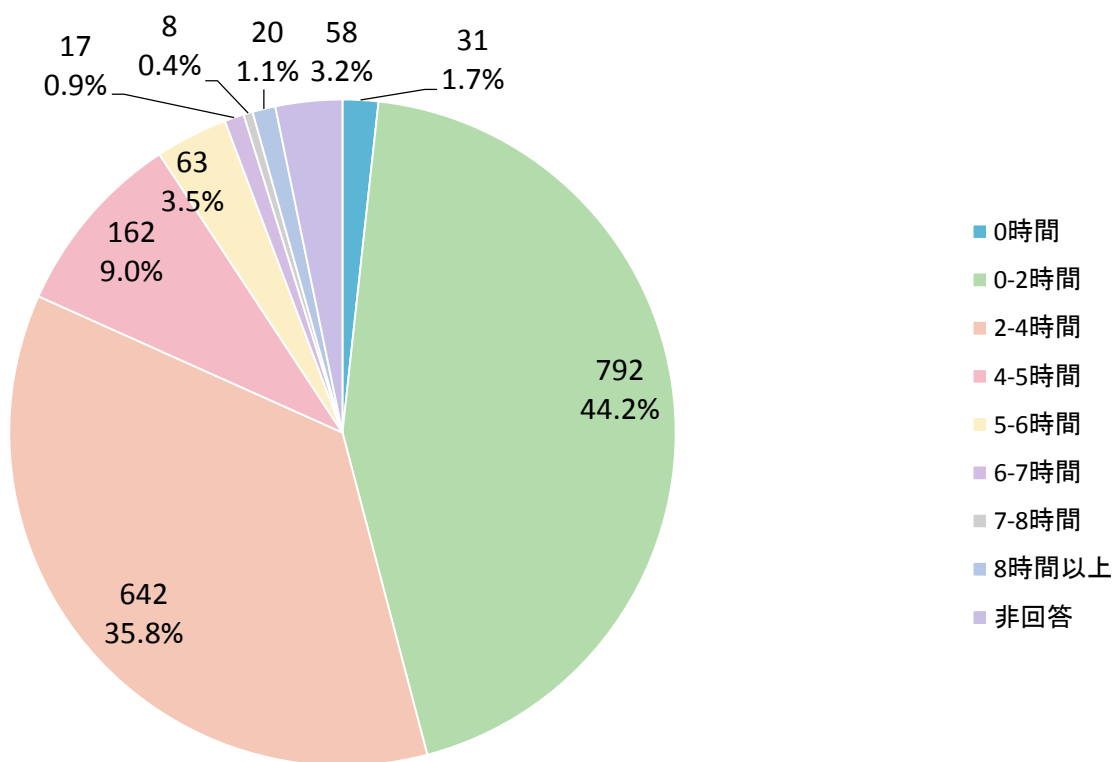


図 7. 2. 11 娯楽時間

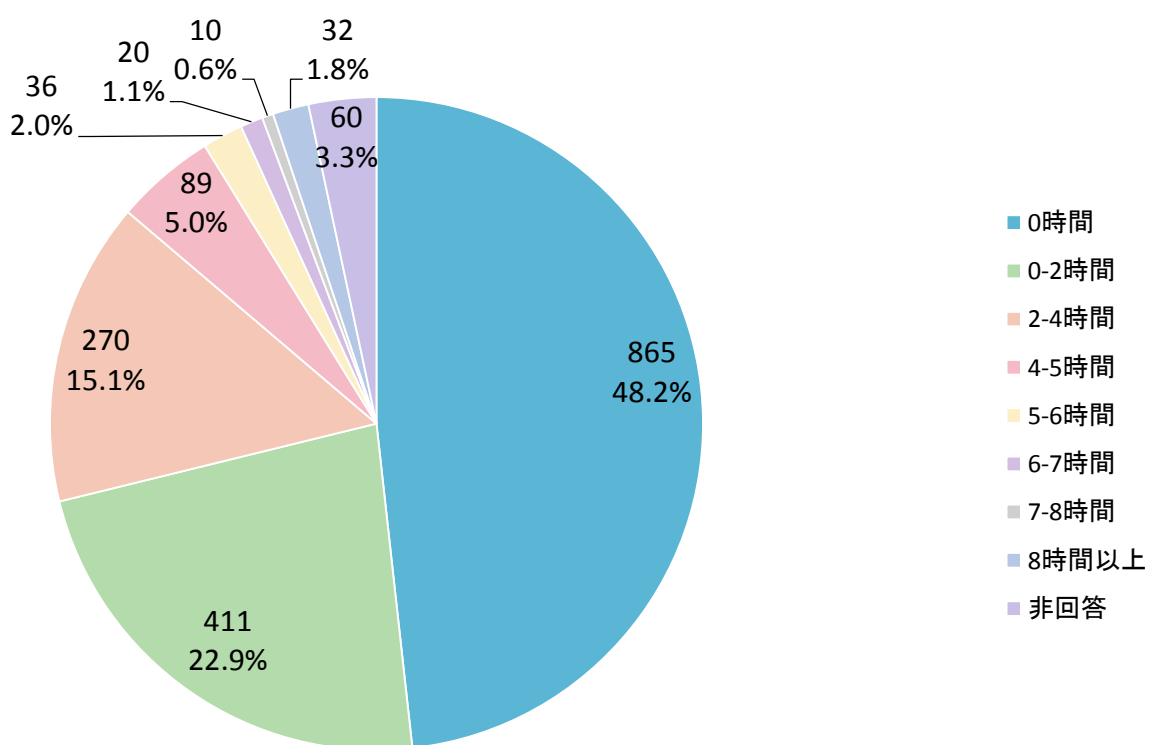


図 7. 2. 12 仕事・アルバイト時間

7. 調査資料集

アルバイトについてお聞きます。

(9)アルバイトをしていますか。

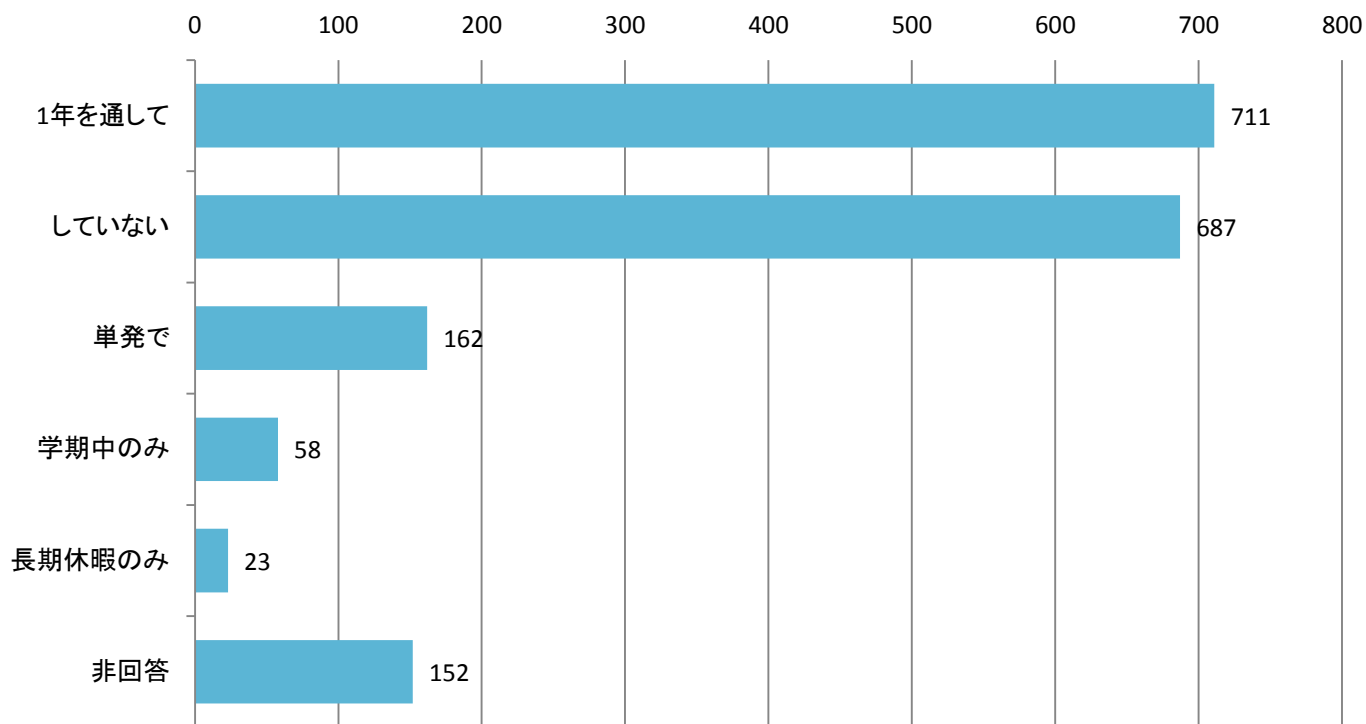


図 7. 2. 13 アルバイトをしているか

(10)(9)でアルバイトをしていると回答した方にお尋ねします。

(10-1)アルバイトの内容を教えてください。

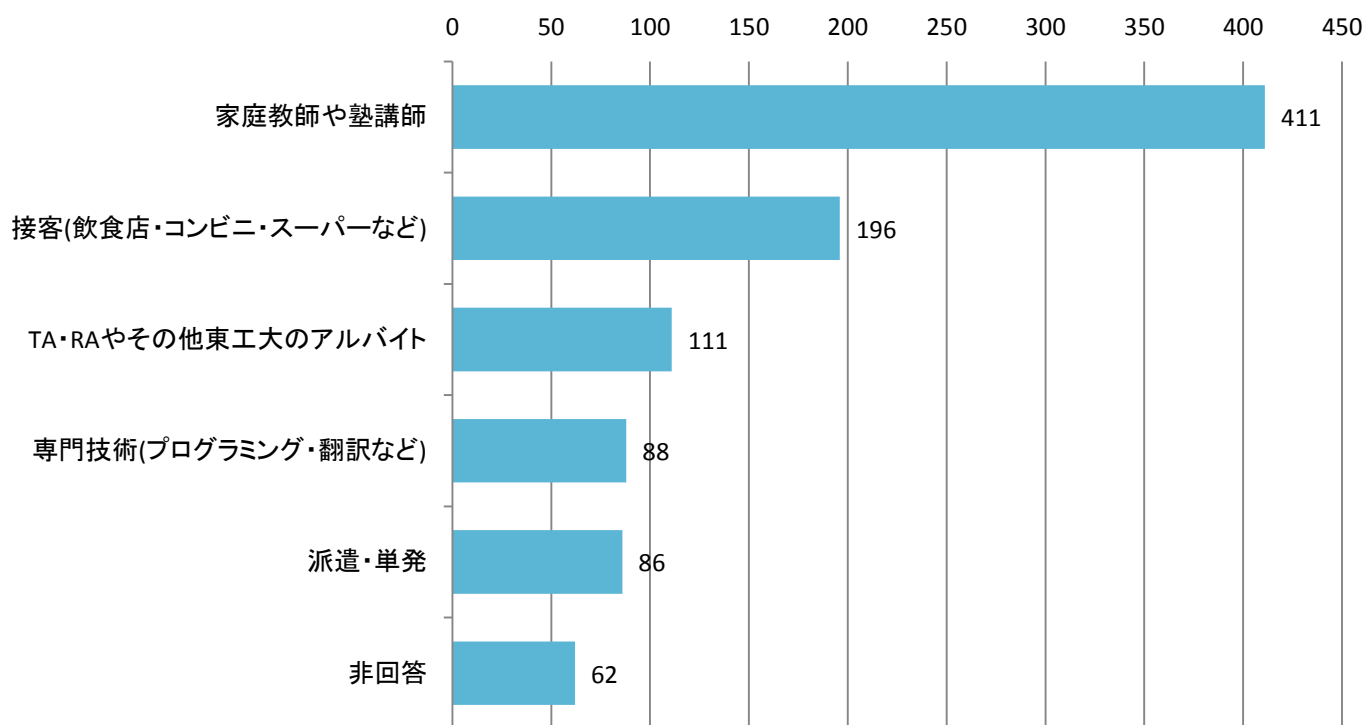


図 7. 2. 14 アルバイトの内容

(10-2)1 週間のアルバイトの日数を教えてください。

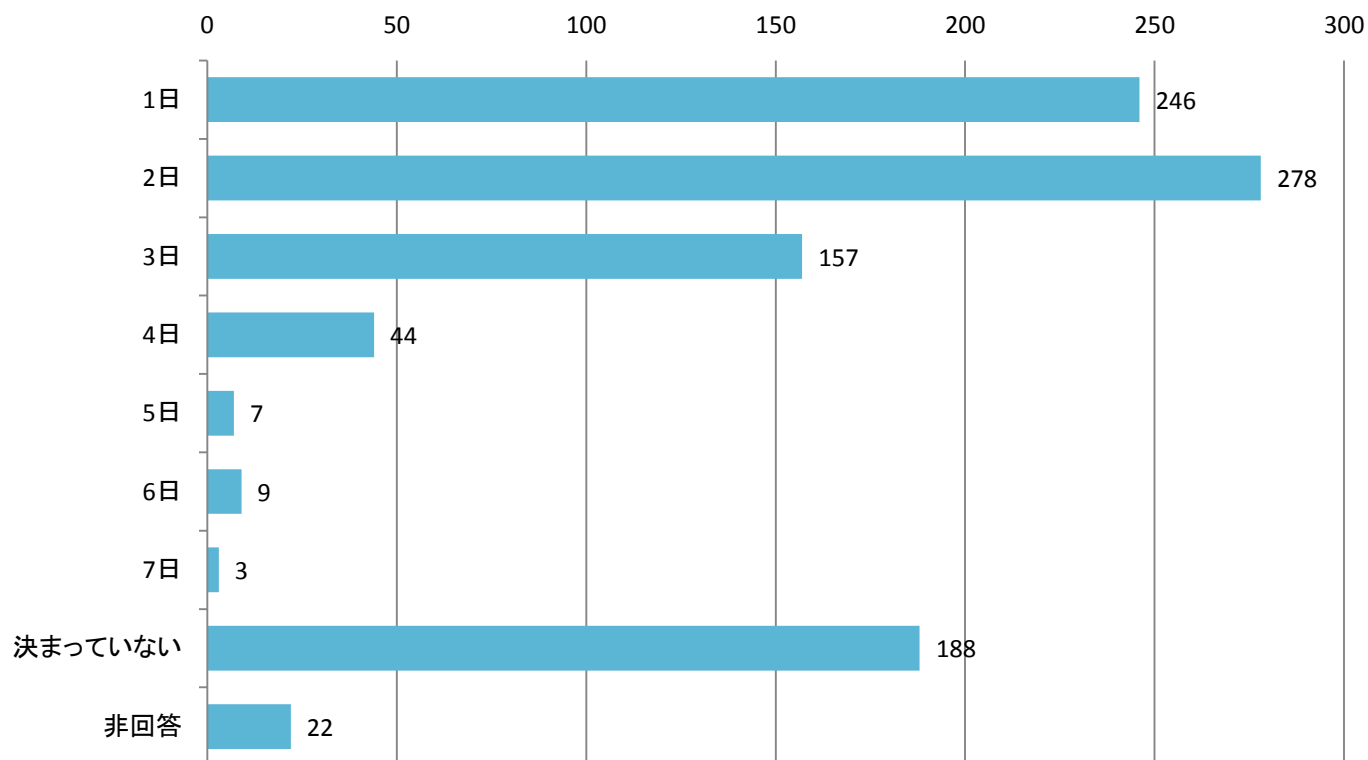


図 7. 2. 15 1 週間のアルバイト日数

(10-3)アルバイトの時間帯を教えてください。

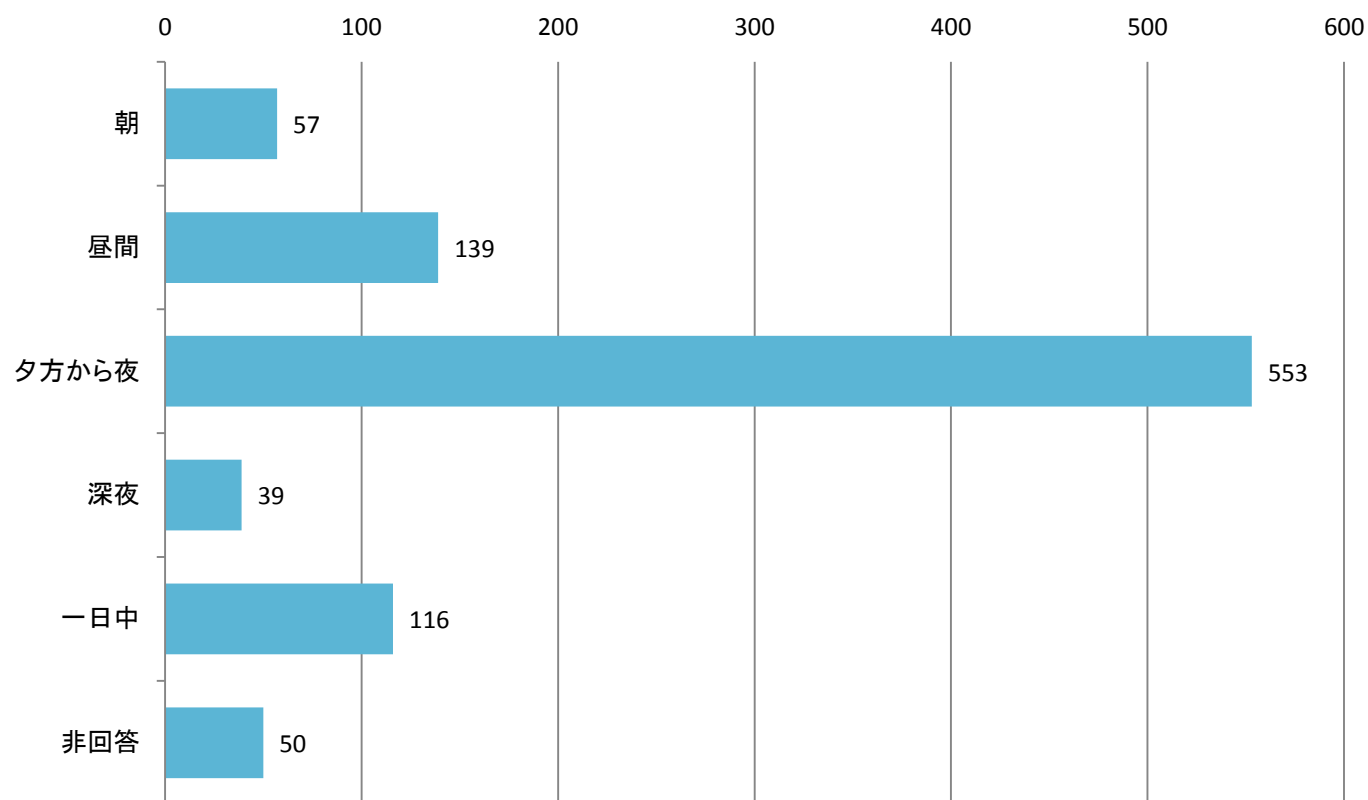


図 7. 2. 16 アルバイトの時間帯

7. 調査資料集

(10-4)アルバイトの月収を教えてください。

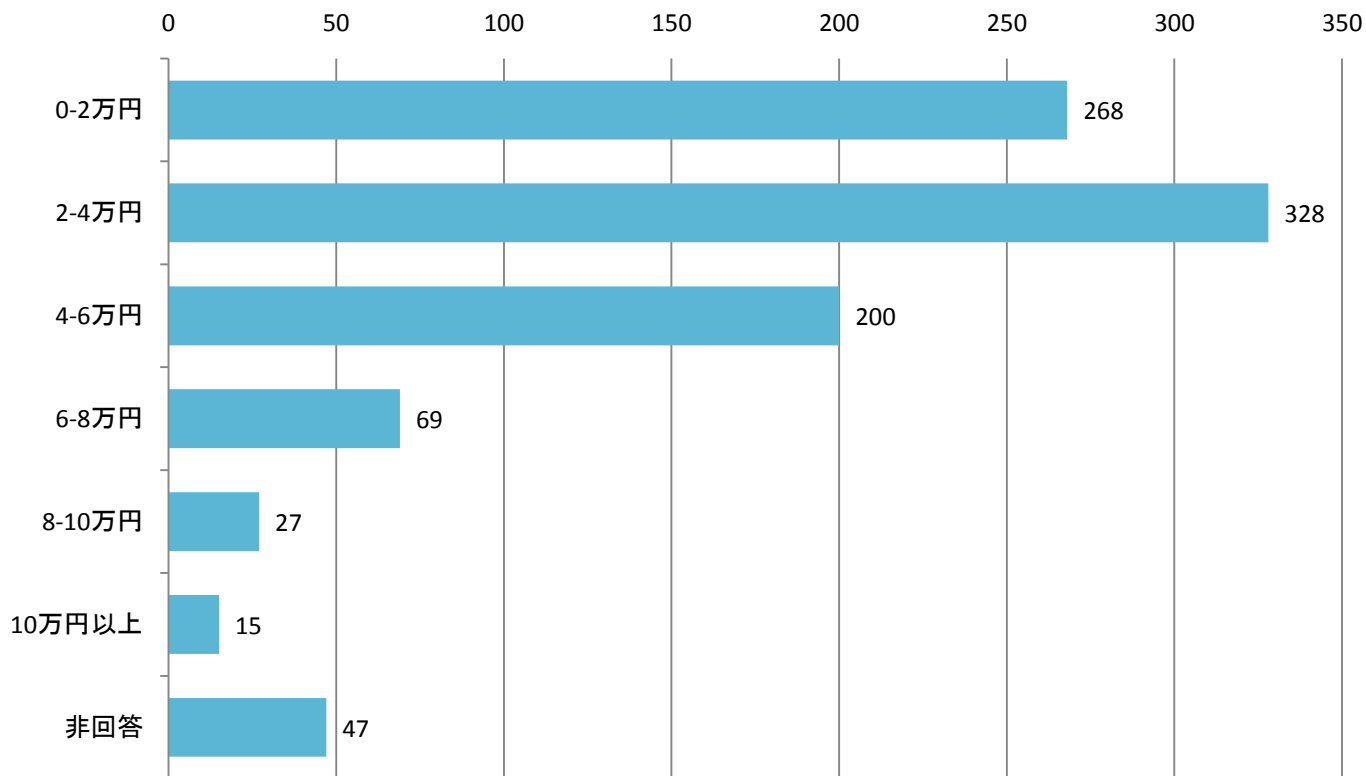


図 7. 2. 17 アルバイトの月収

(10-5)アルバイトの目的を教えてください。

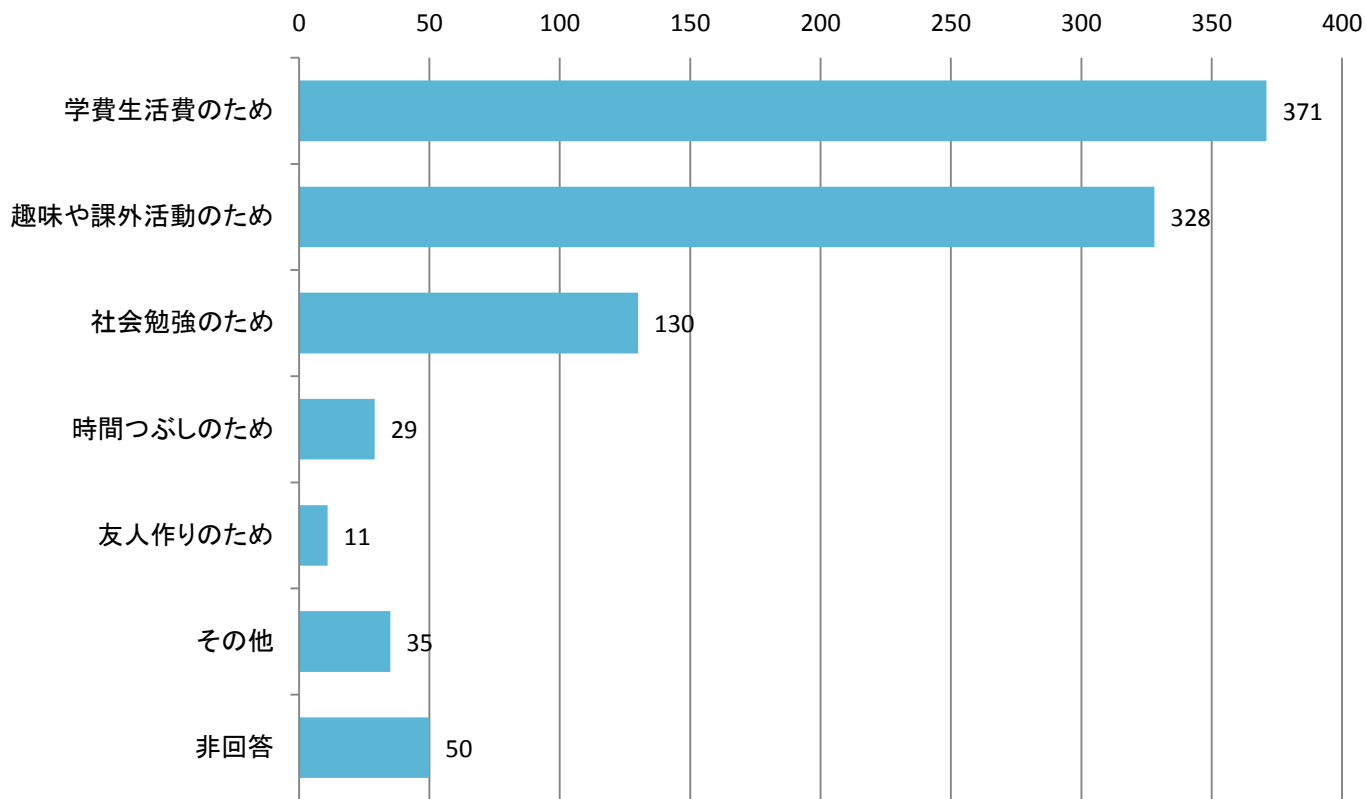


図 7. 2. 18 アルバイトの目的

(11)サークル、同好会、ボランティアの「現在」および「過去」の活動経験を教えてください。(複数回答可)

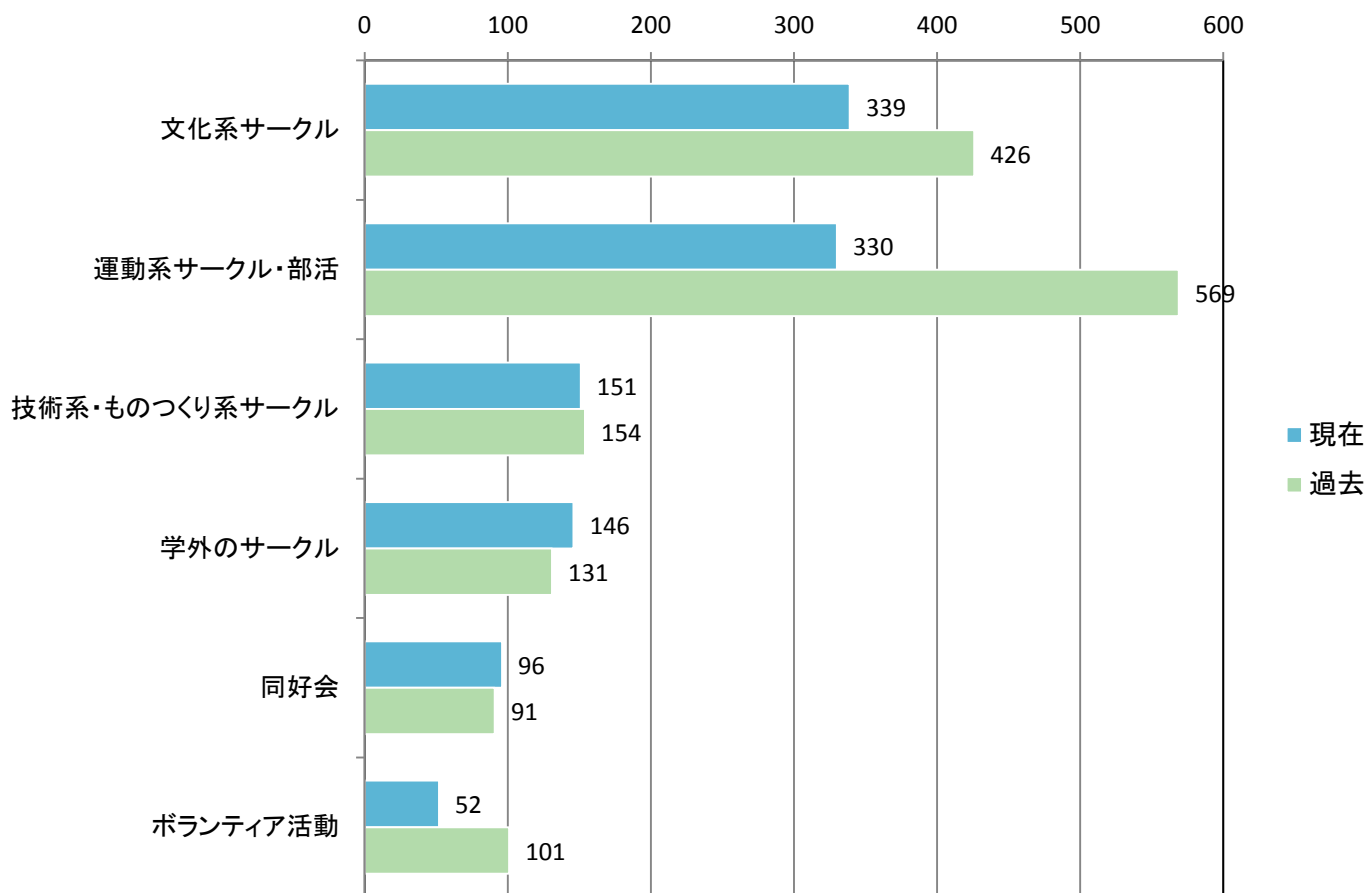


図 7. 2. 19 サークル等の活動経験

7.3. 学習状況

(1)東工大生としてプライドをもちますか。

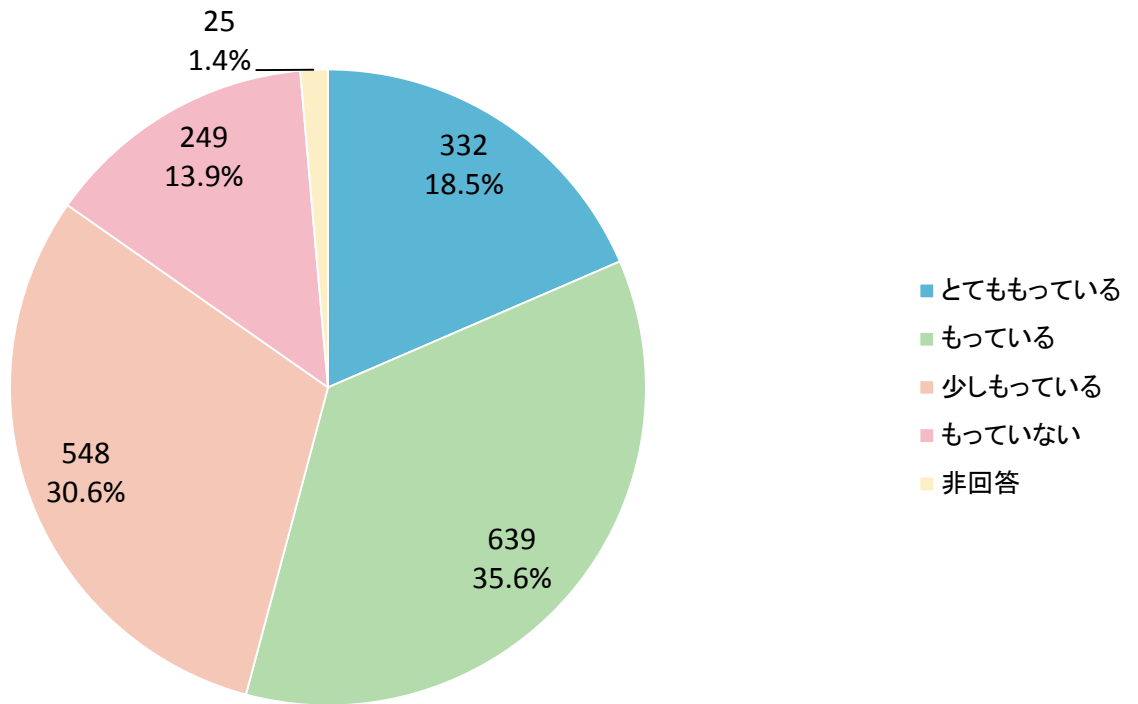


図 7. 3. 1 東工大生としてのプライド

(2)あなたが思う東工大が進むべき方向性を教えてください。

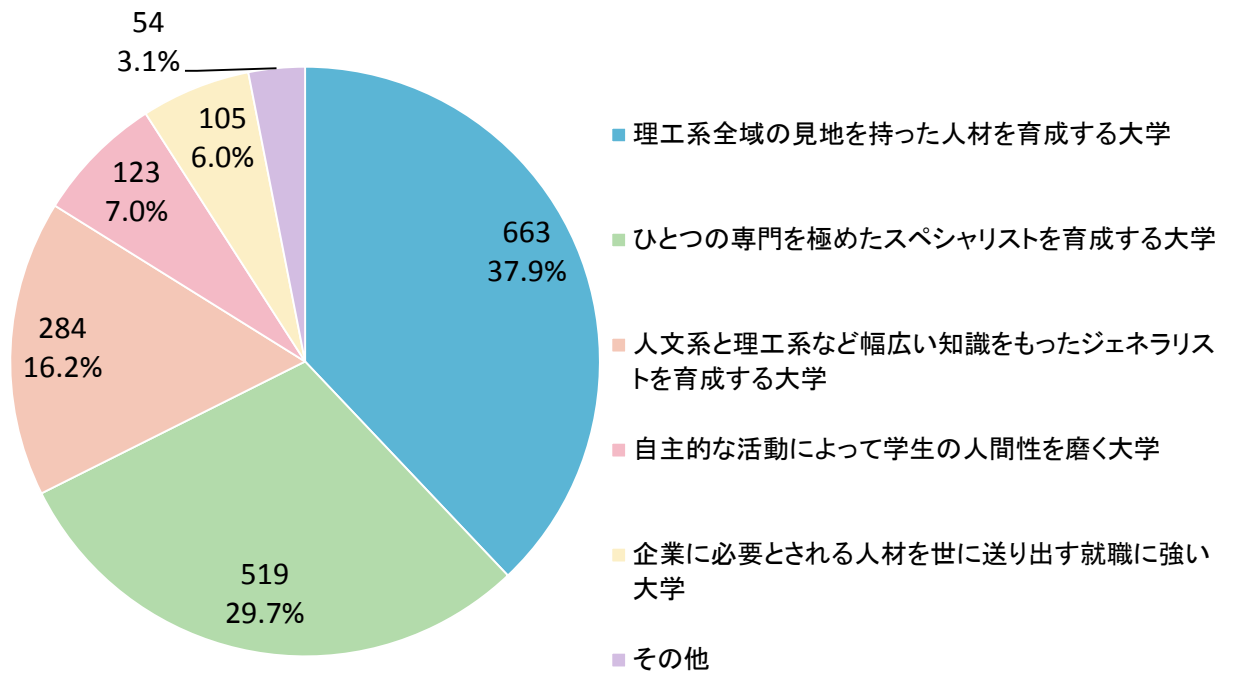


図 7. 3. 2 東工大が進むべき方向性

(3)東工大をよりよい大学にするために、何が必要だと思いますか。(複数回答可)

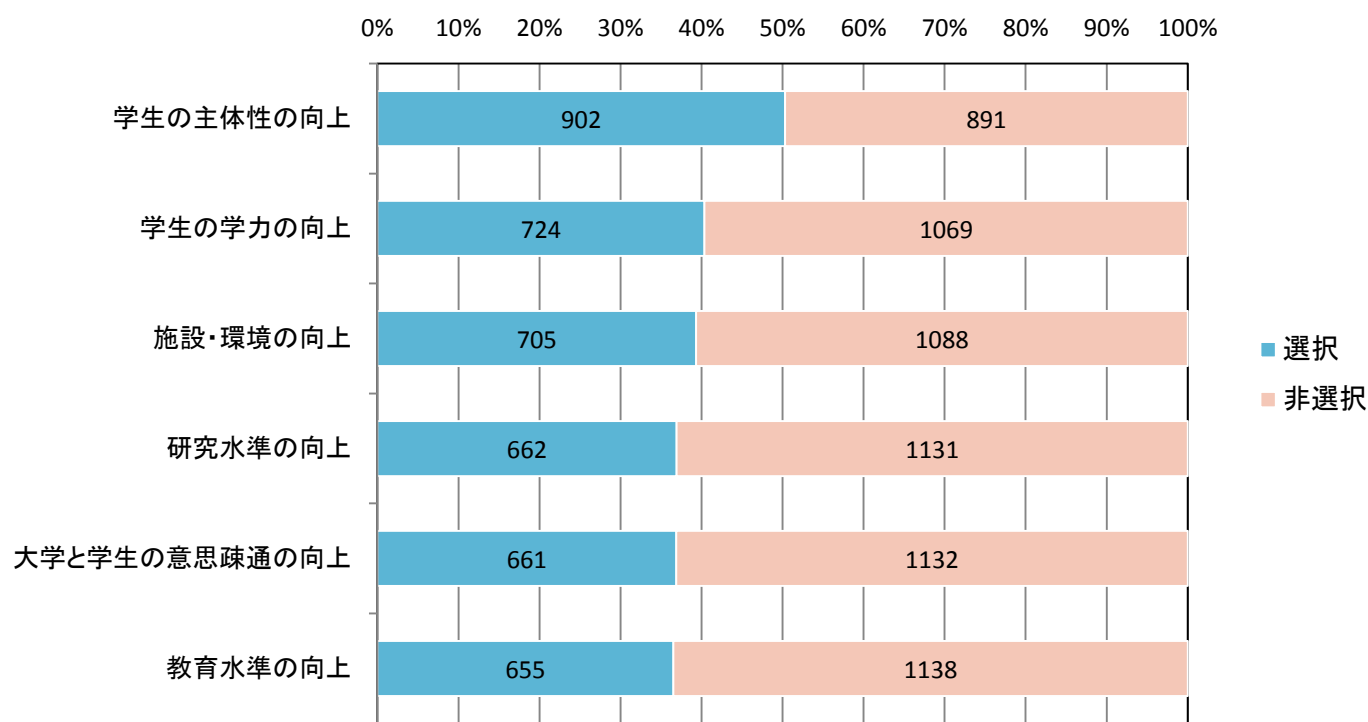


図 7. 3. 3 東工大をよりよい大学にするために必要なもの

(4)本学および本学卒業生は国際社会において先導的役割を担っていると思いますか。

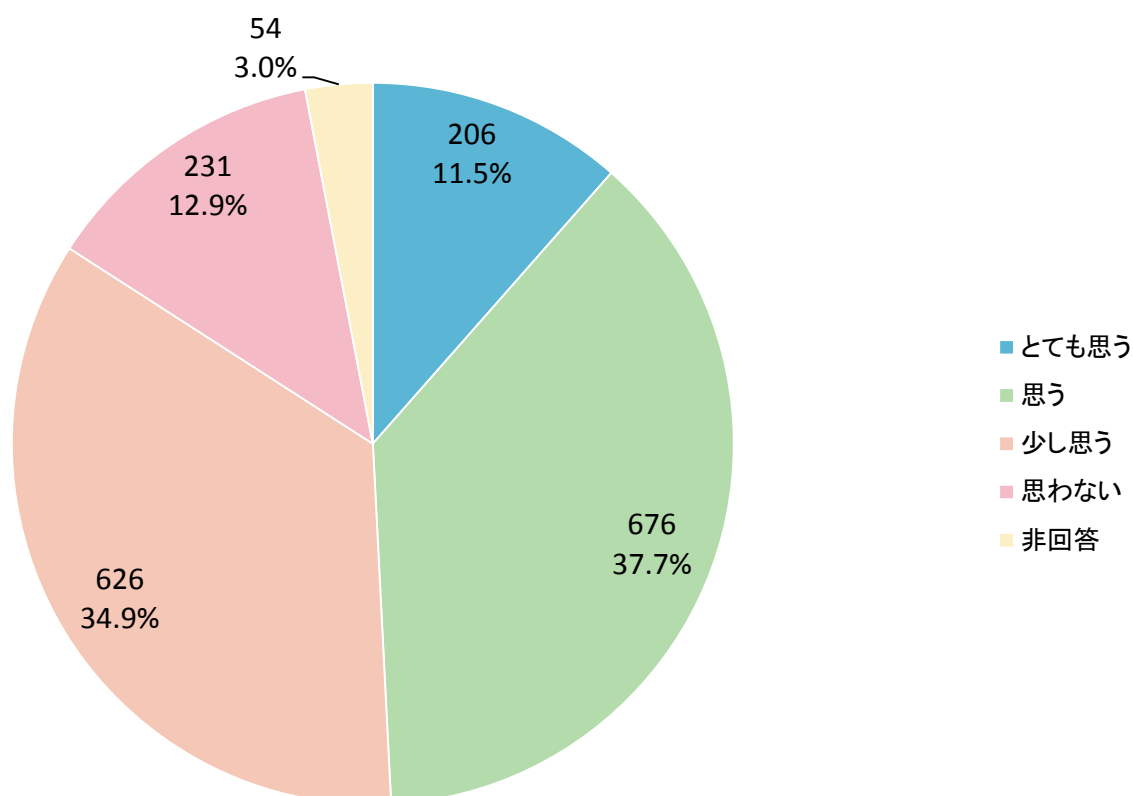


図 7. 3. 4 国際社会における先導的役割

7. 調査資料集

(5)本学で学ぶべき(やりたい)目標

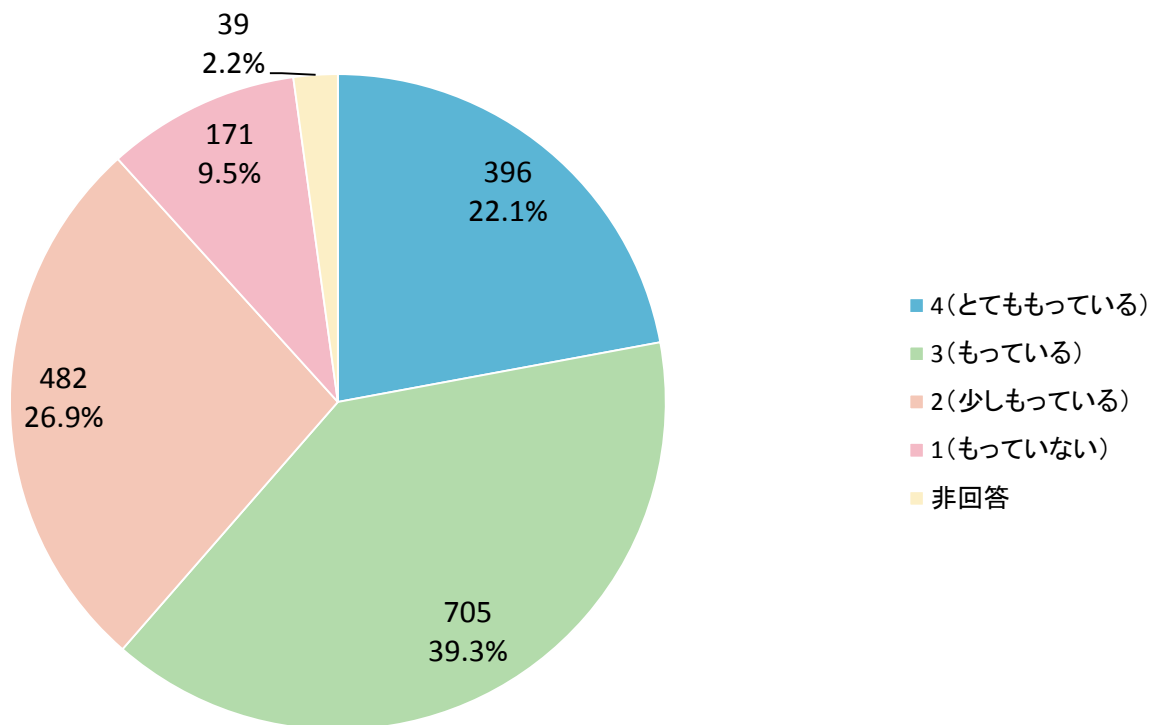


図 7. 3. 5 本学での目標

(6)入学の目的(複数回答可)

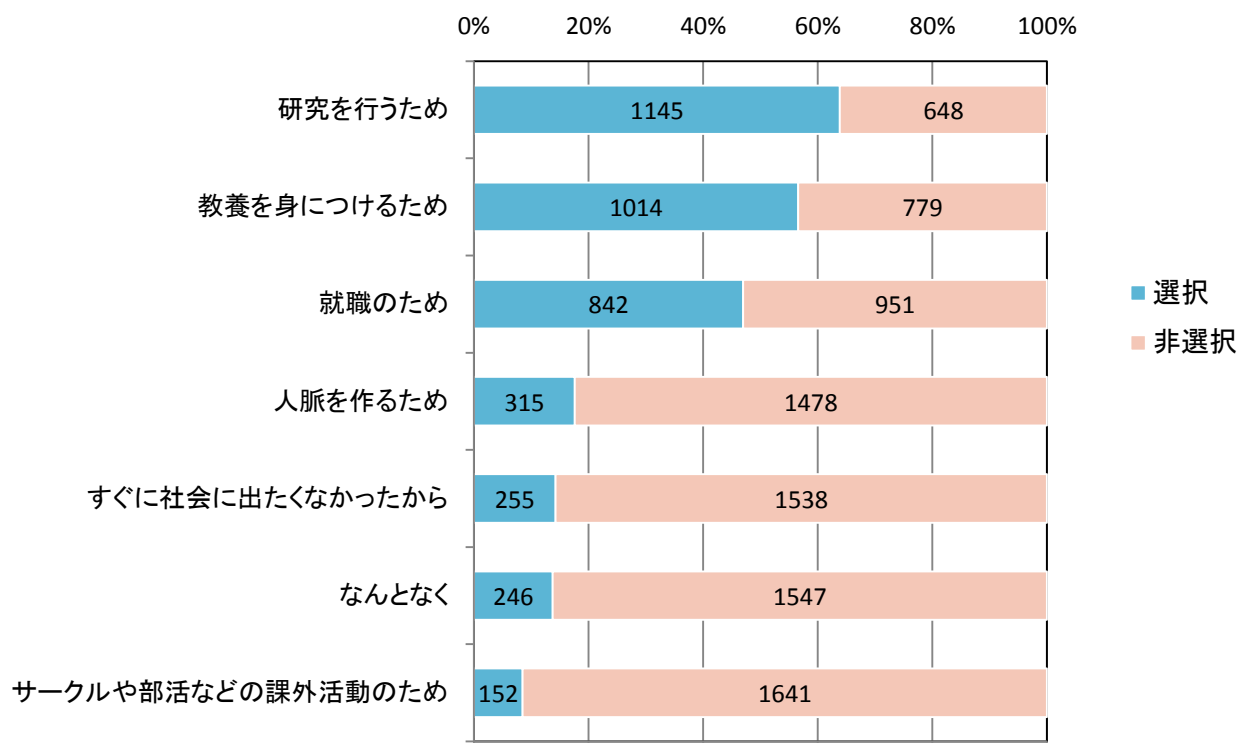


図 7. 3. 6 入学目的

(7)現在在籍している類、研究科、専攻等への満足度

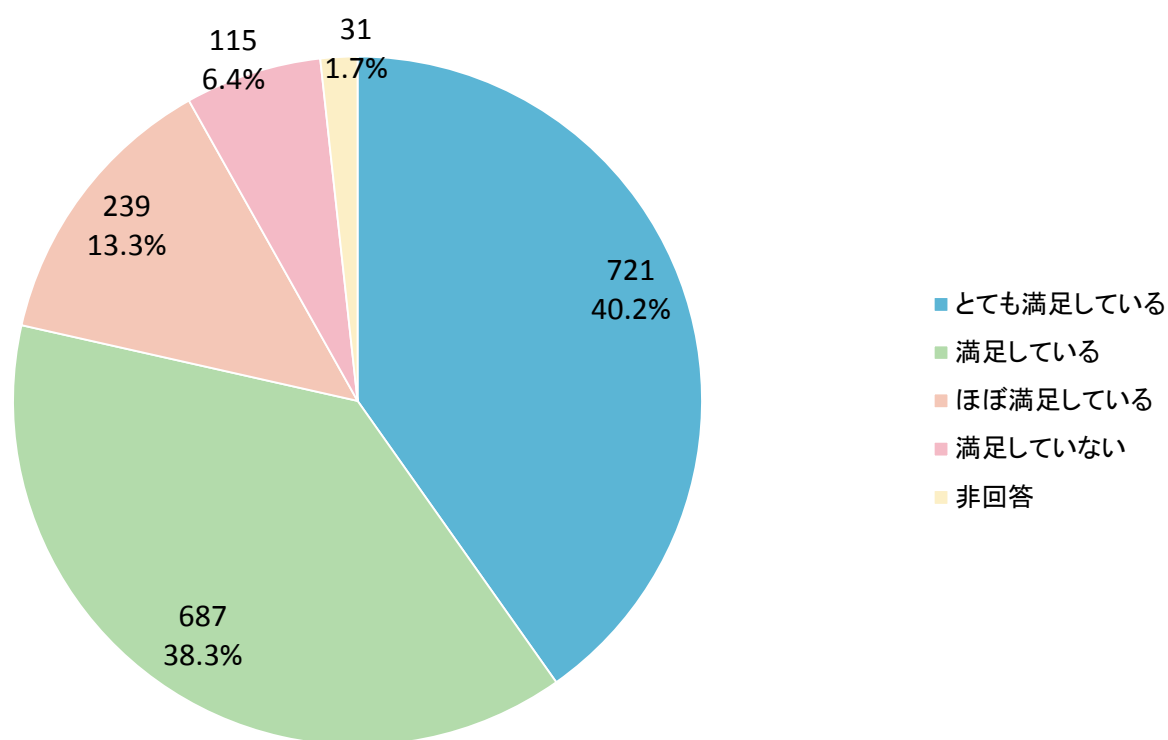


図 7. 3. 7 類、研究科、専攻等への満足度

(8)現在在籍している類、研究科、専攻等への不満(複数回答可)

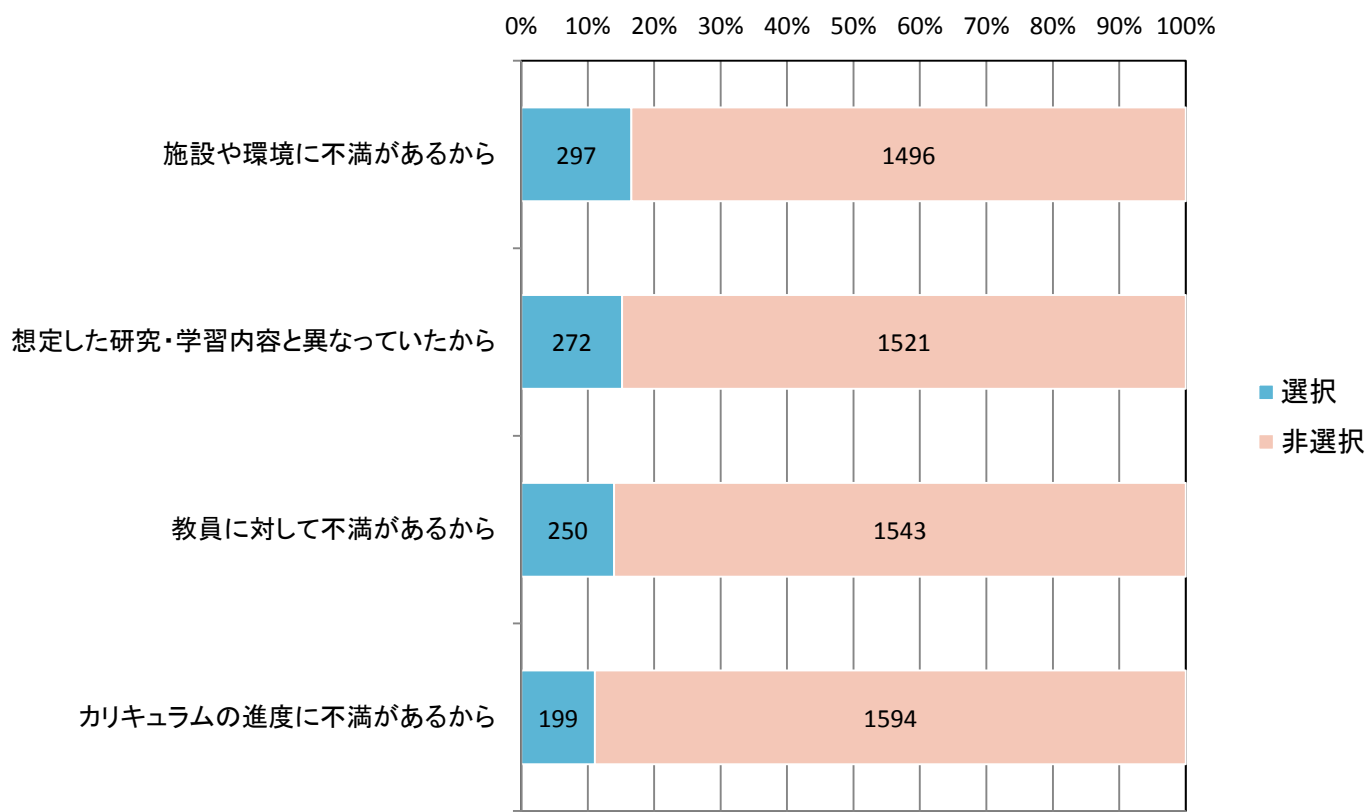


図 7. 3. 8 類、研究科、専攻等への不満

7. 調査資料集

(9)今年度の前期の授業の出席状況

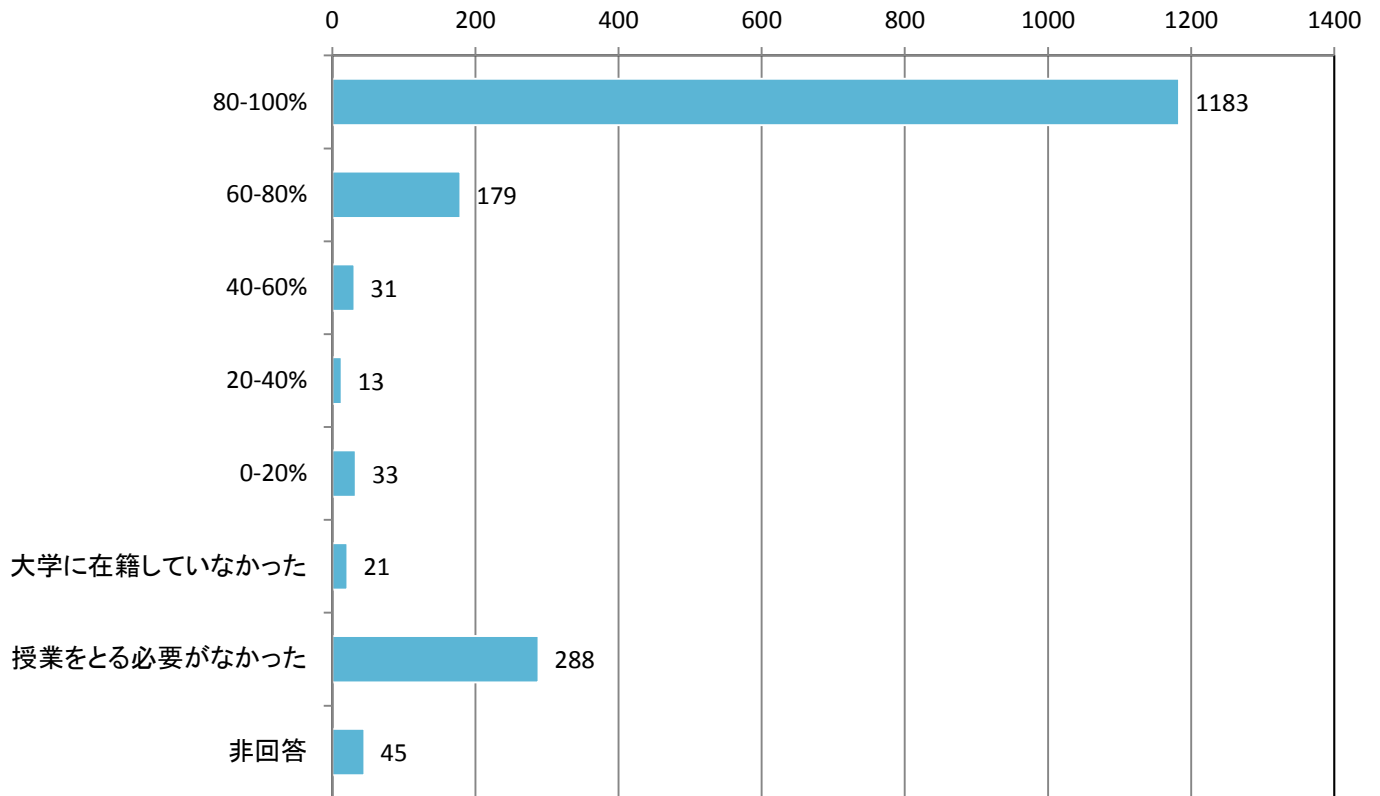


図 7. 3. 9 前期授業の出席状況

(10)履修申告をした授業に出ない主な理由（複数回答可）

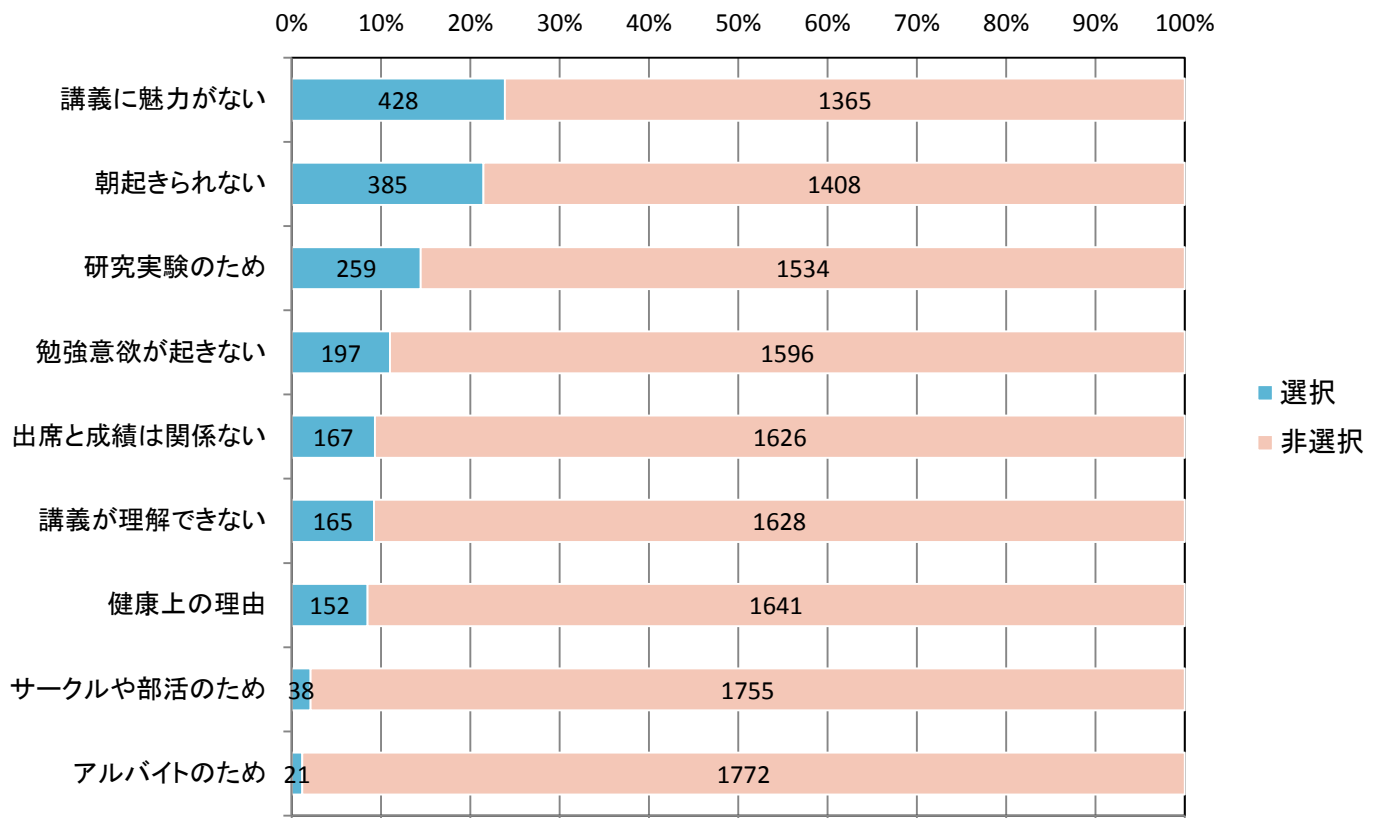


図 7. 3. 10 履修申告をした授業に出ない主な理由

(11)次の項目の中から学部1年次の学習意欲向上に有効と思われるもの（複数回答可）

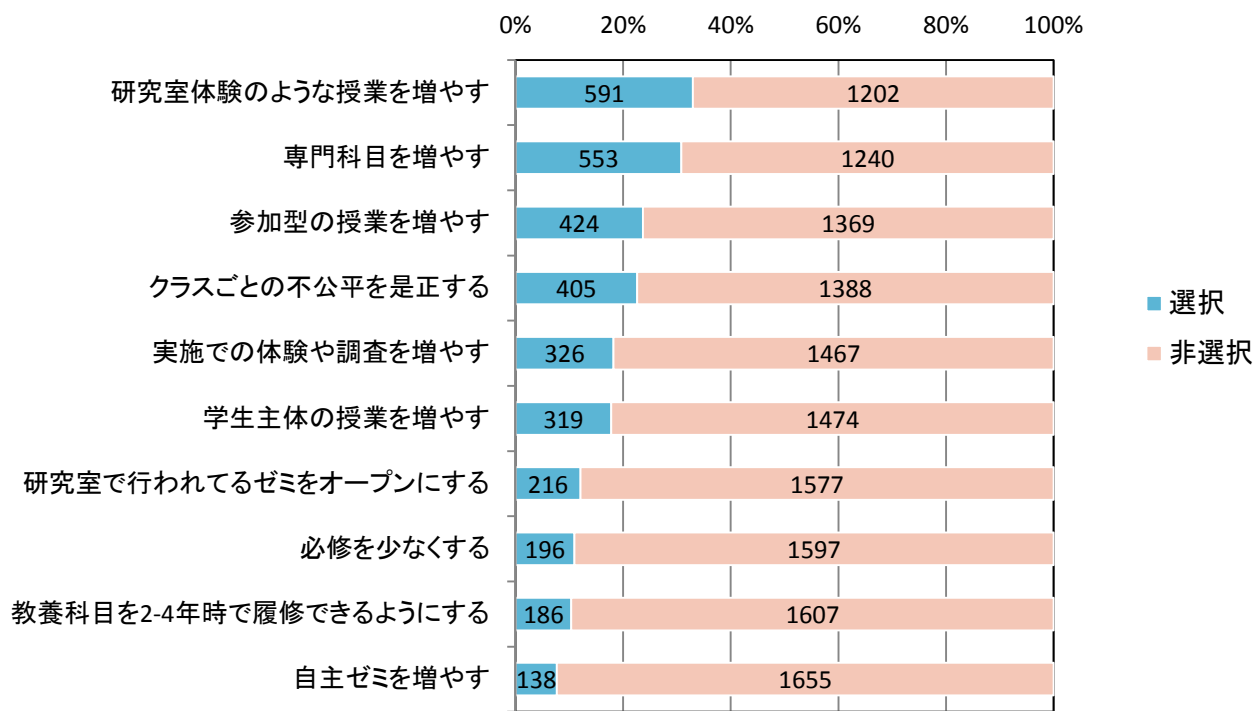


図 7. 3. 11 学部1年次の学習意欲向上に有効と思われるもの

(12)他学科や他大学(四大学連合など)の授業の履修状況

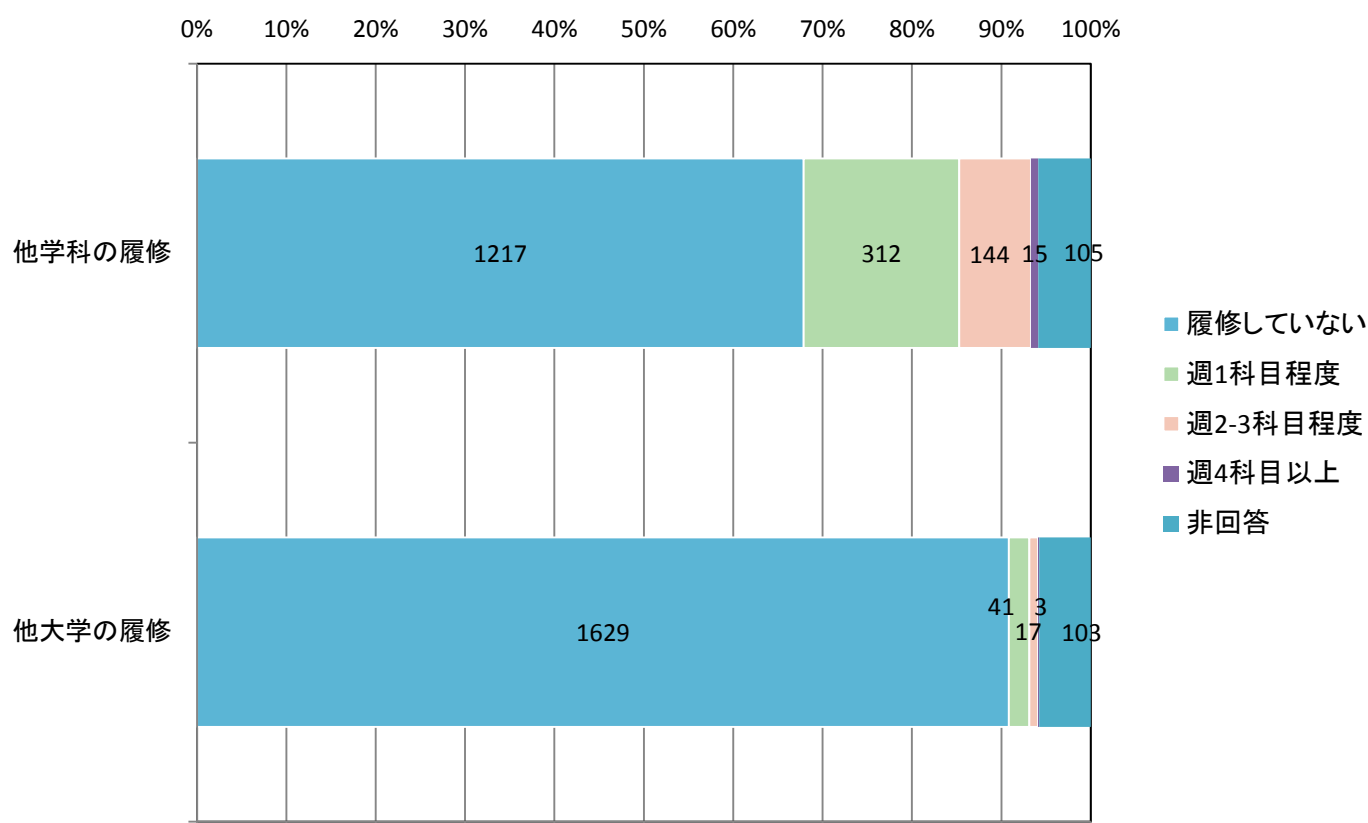


図 7. 3. 12 他学科や他大学の授業の履修状況

7. 調査資料集

(13)授業等で1日の間にキャンパス間を移動する程度

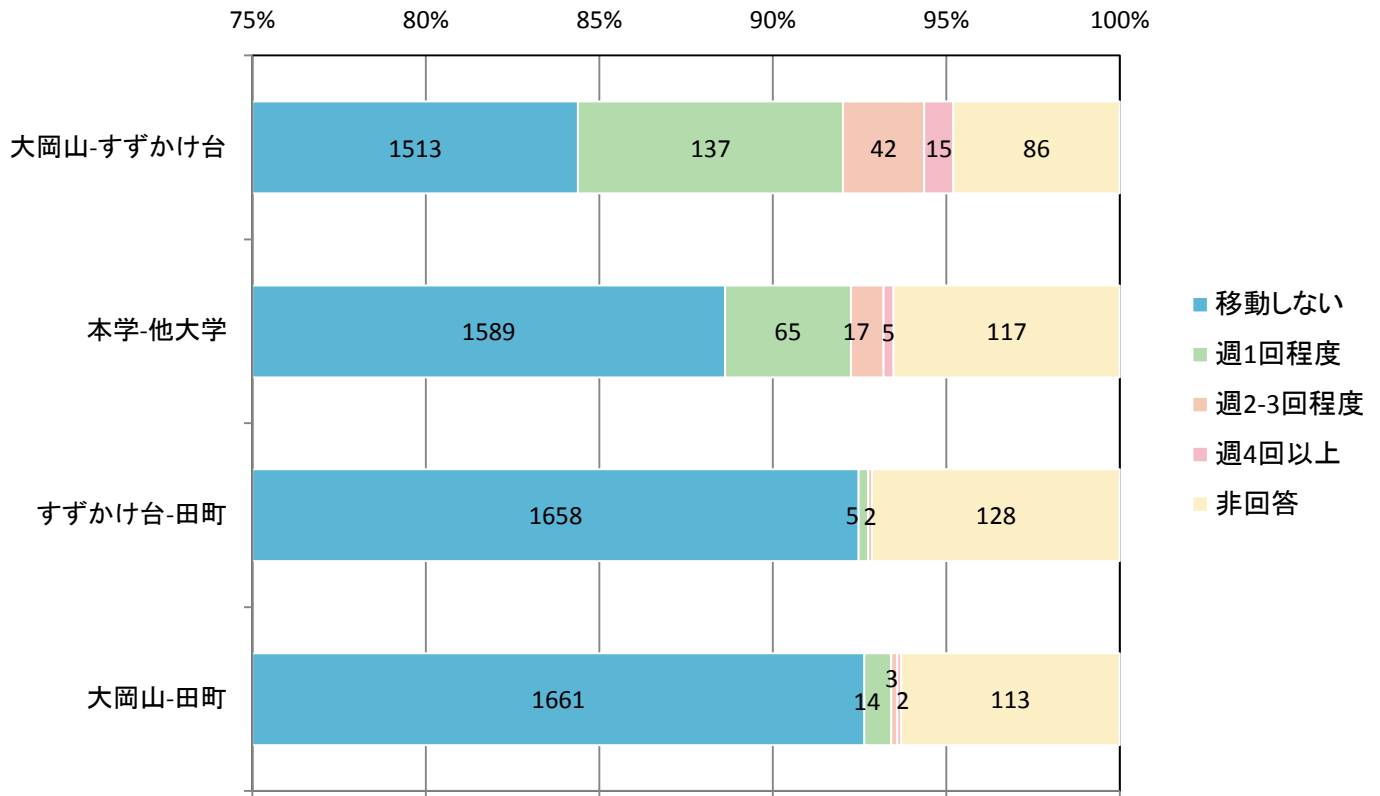


図 7. 3. 13 1日の間にキャンパス間を移動する頻度

(14)本学の授業・カリキュラムについての印象

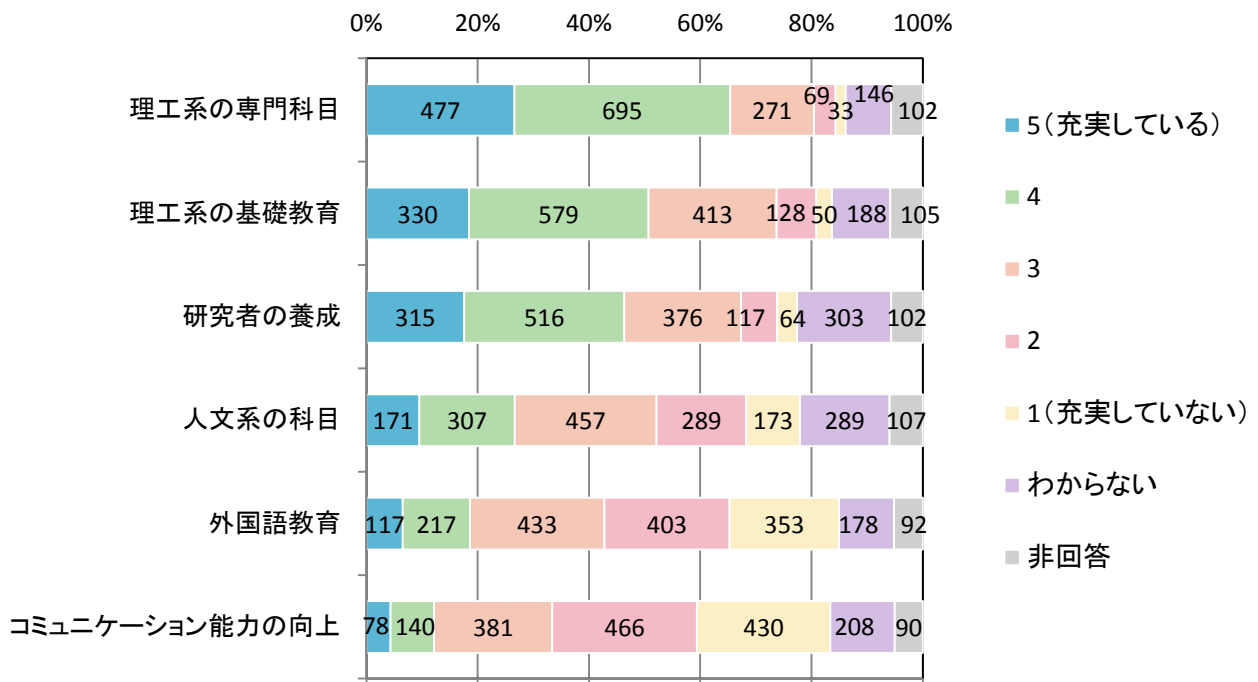


図 7. 3. 14 授業・カリキュラムについての印象

本学での進学についてお聞きます。

(15)博士/修士課程まで進学予定

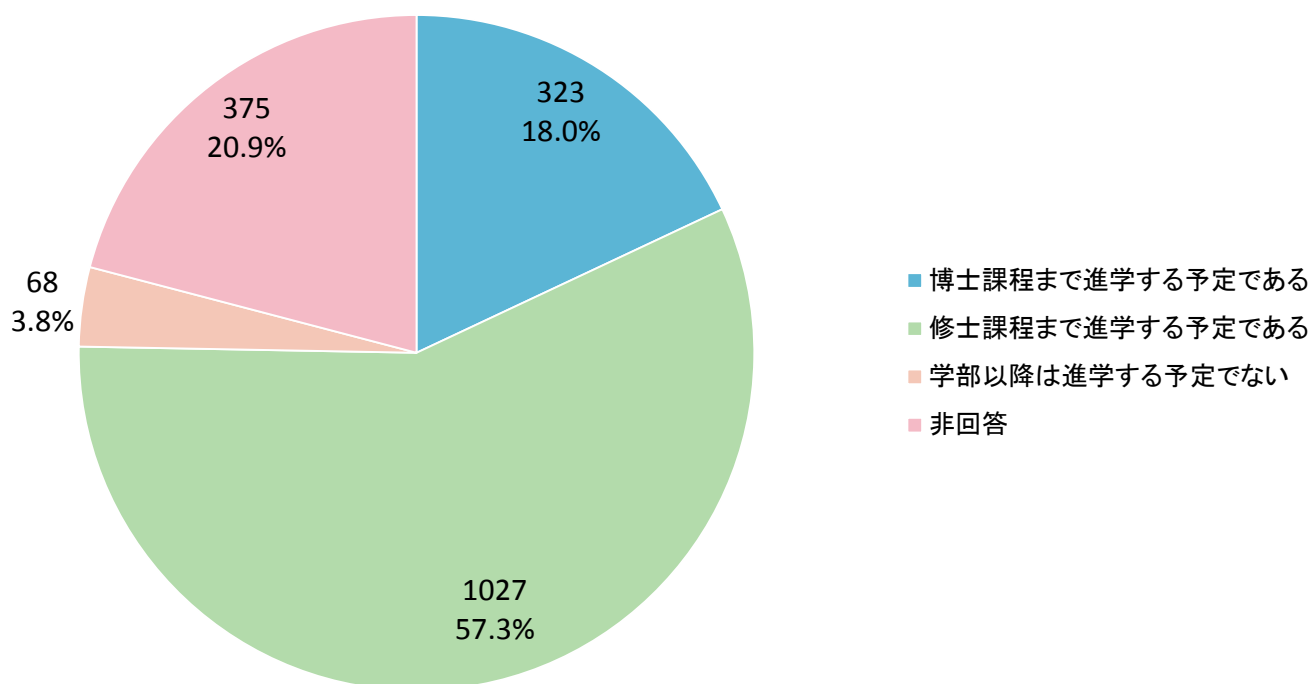


図 7.3.15 博士/修士課程への進学予定

(16)(15)で学部以降は進学する予定でない学生の理由(複数回答可)

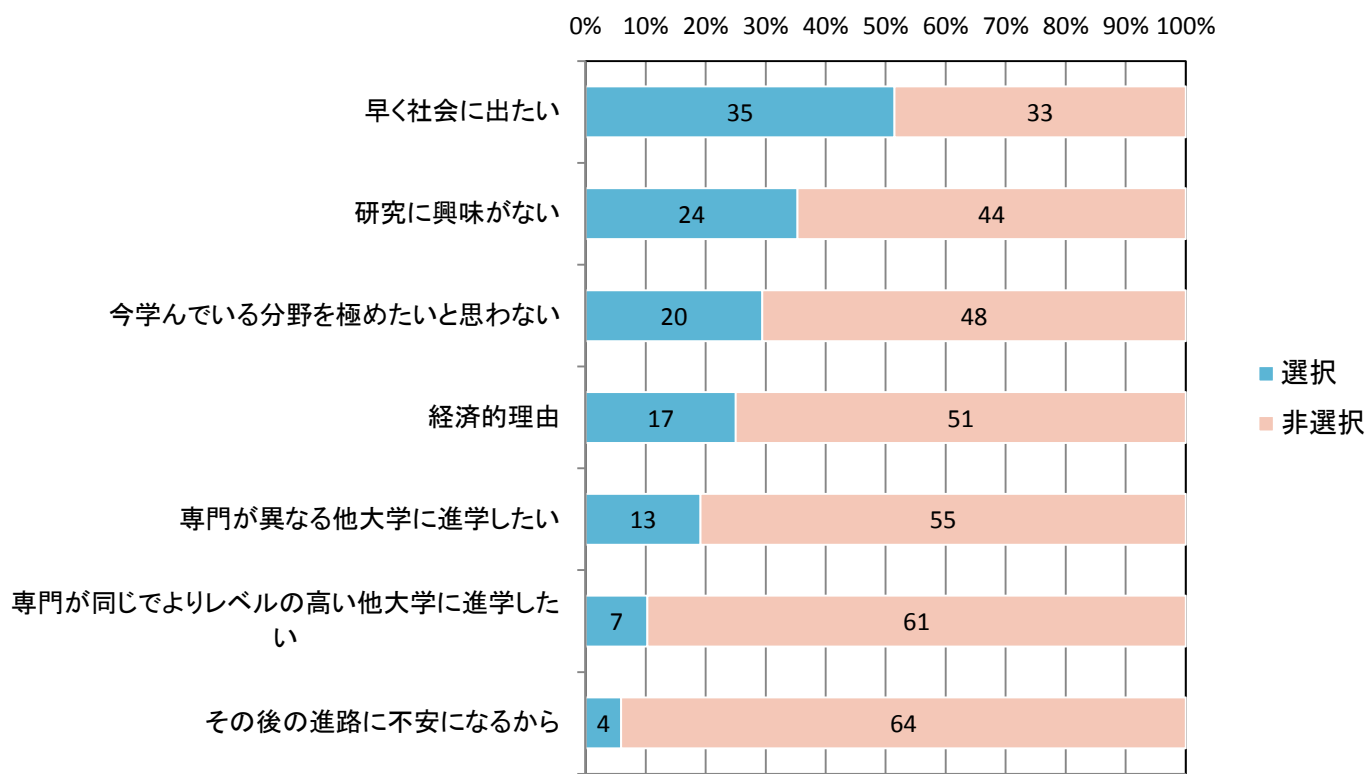


図 7.3.16 修士課程進学を選択しない理由

7. 調査資料集

(17)(15)で修士課程まで進学する予定の学生の博士課程へ進学しない理由(複数回答可)

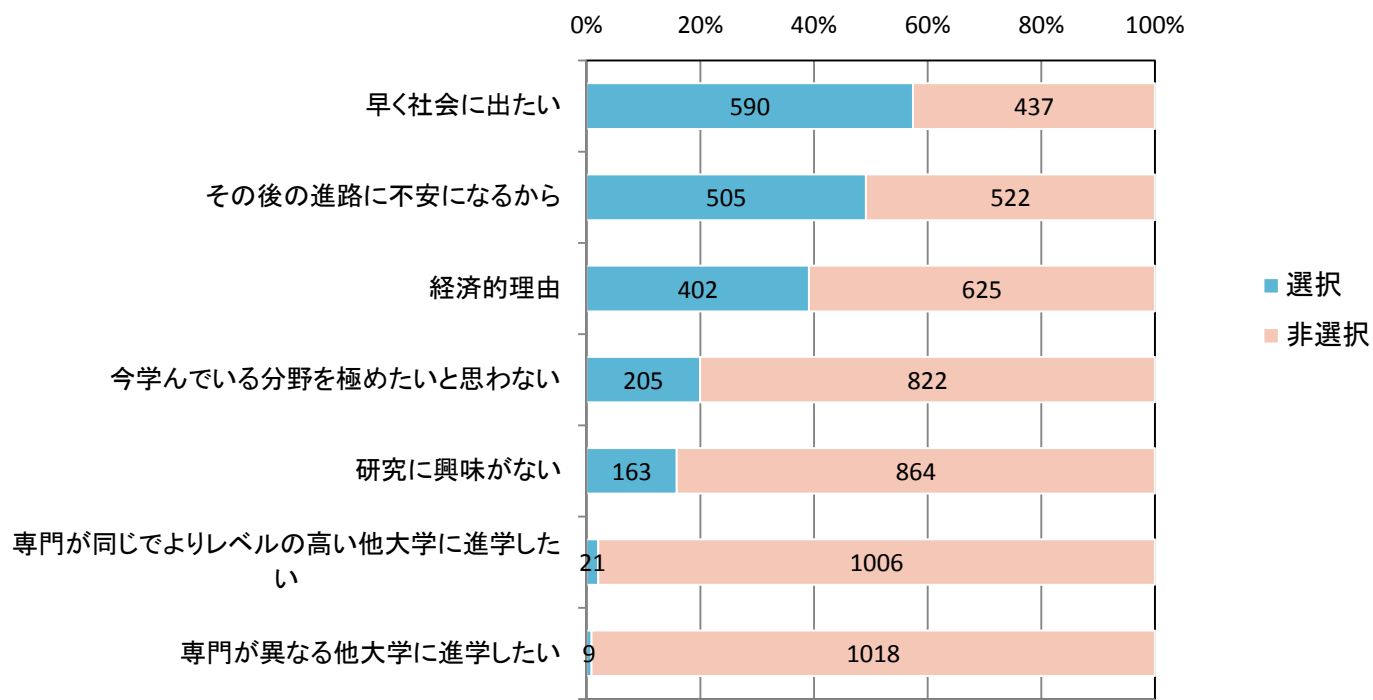


図 7. 3. 17 博士課程進学を選択しない理由

留学についてお聞きします。

(18)本学入学後に留学経験

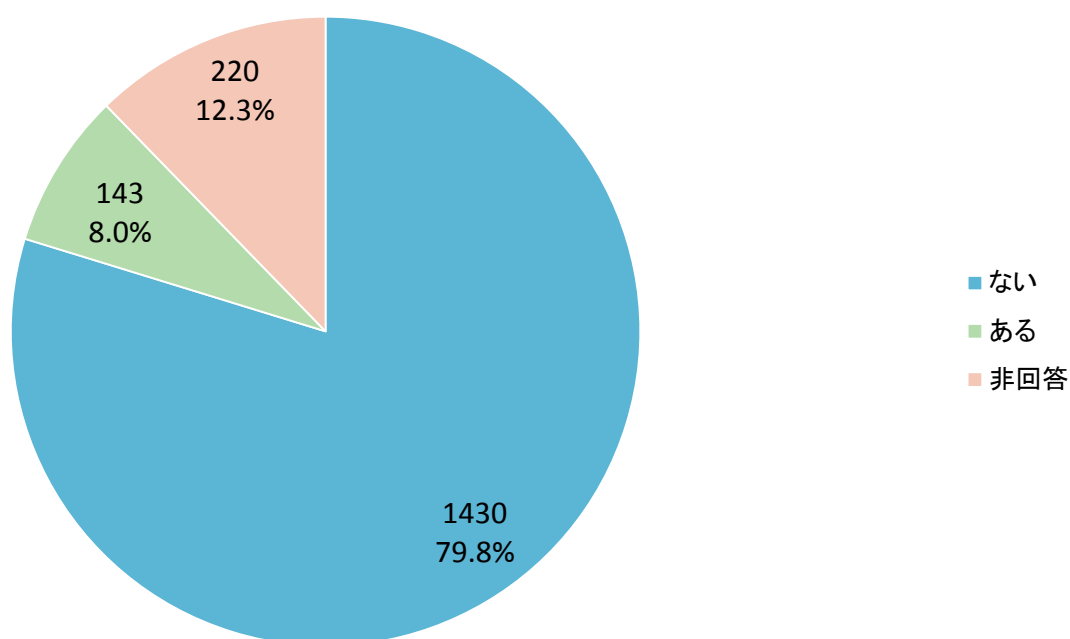


図 7.3.18 入学後の留学経験

(19)(18)で留学経験がある学生の留学時期

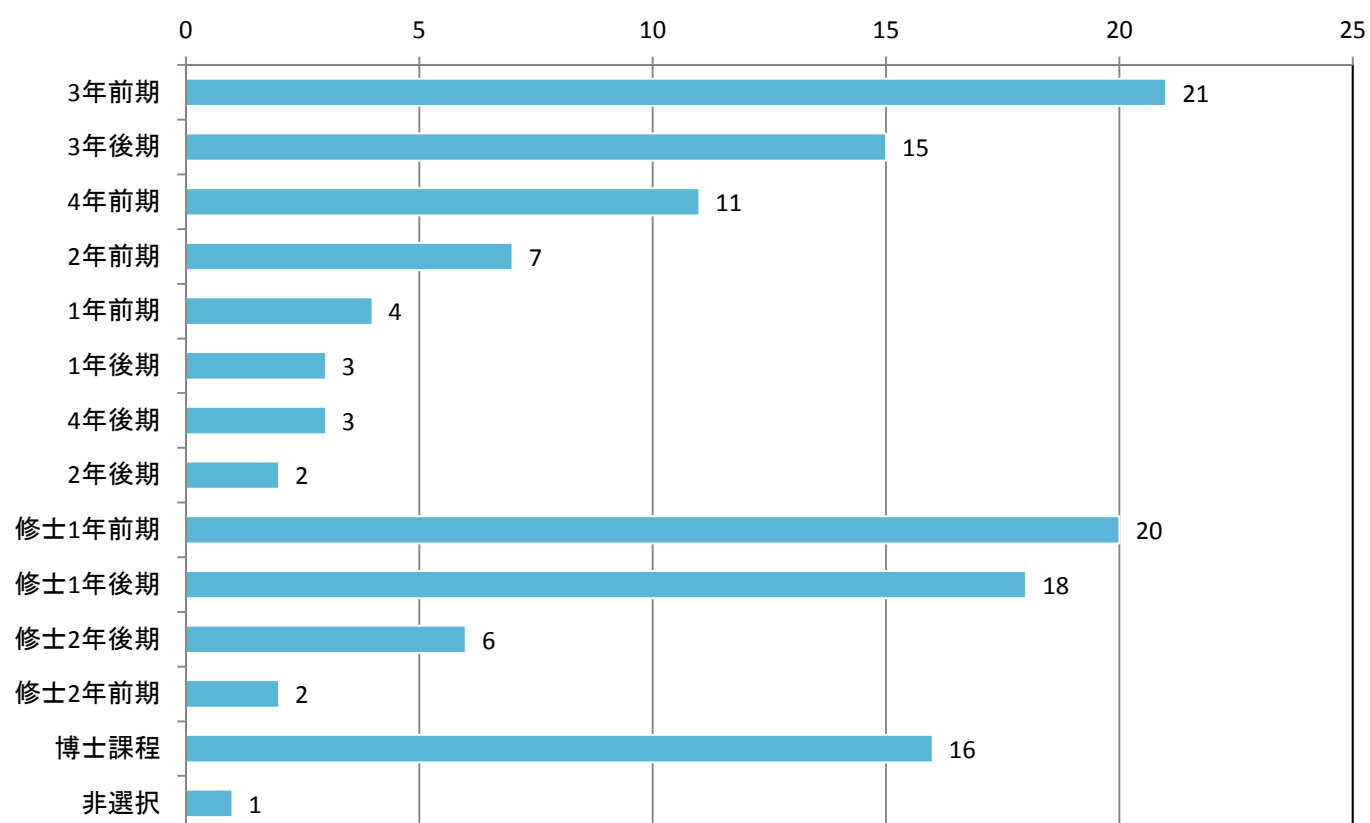


図 7.3.19 留学した時期

7. 調査資料集

(20)留学の希望

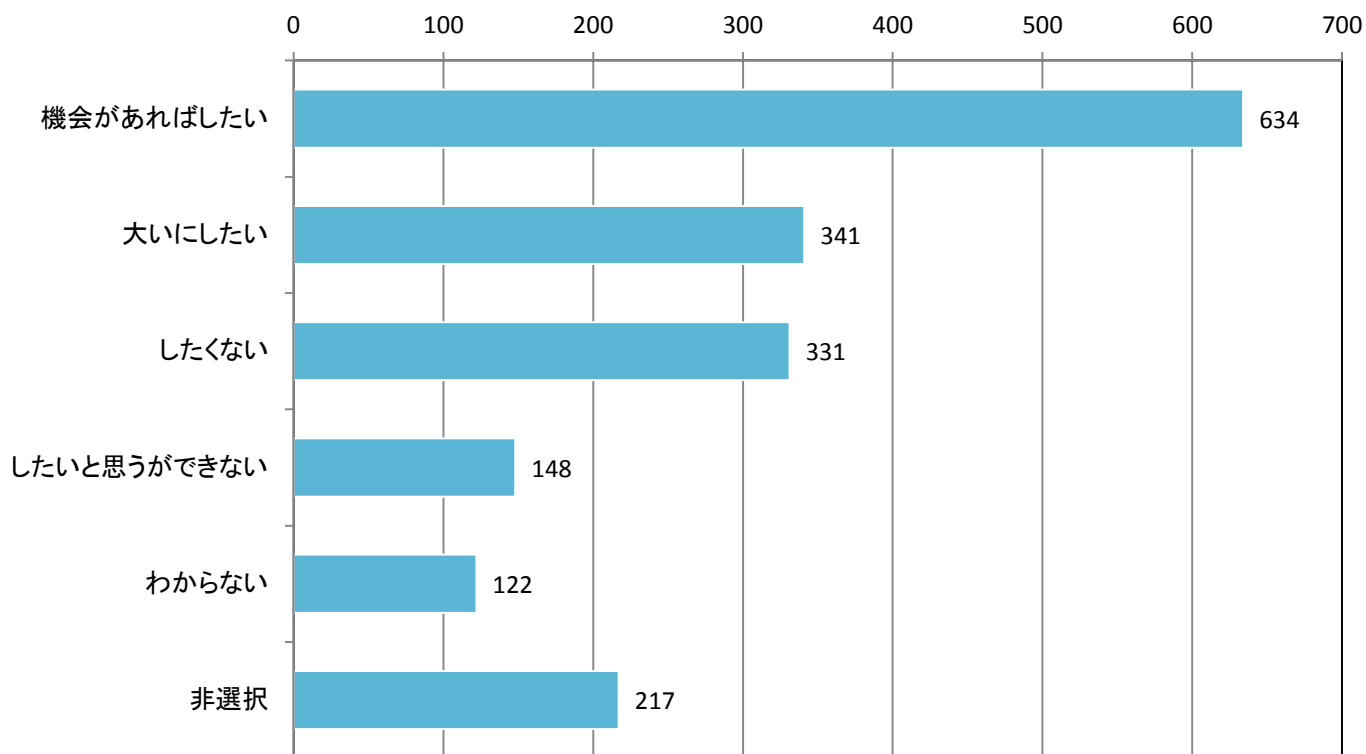


図 7. 3. 20 留学をしたいか

(21)(20)で留学をしたくない・したいと思うができないと回答した学生の理由(複数回答可)

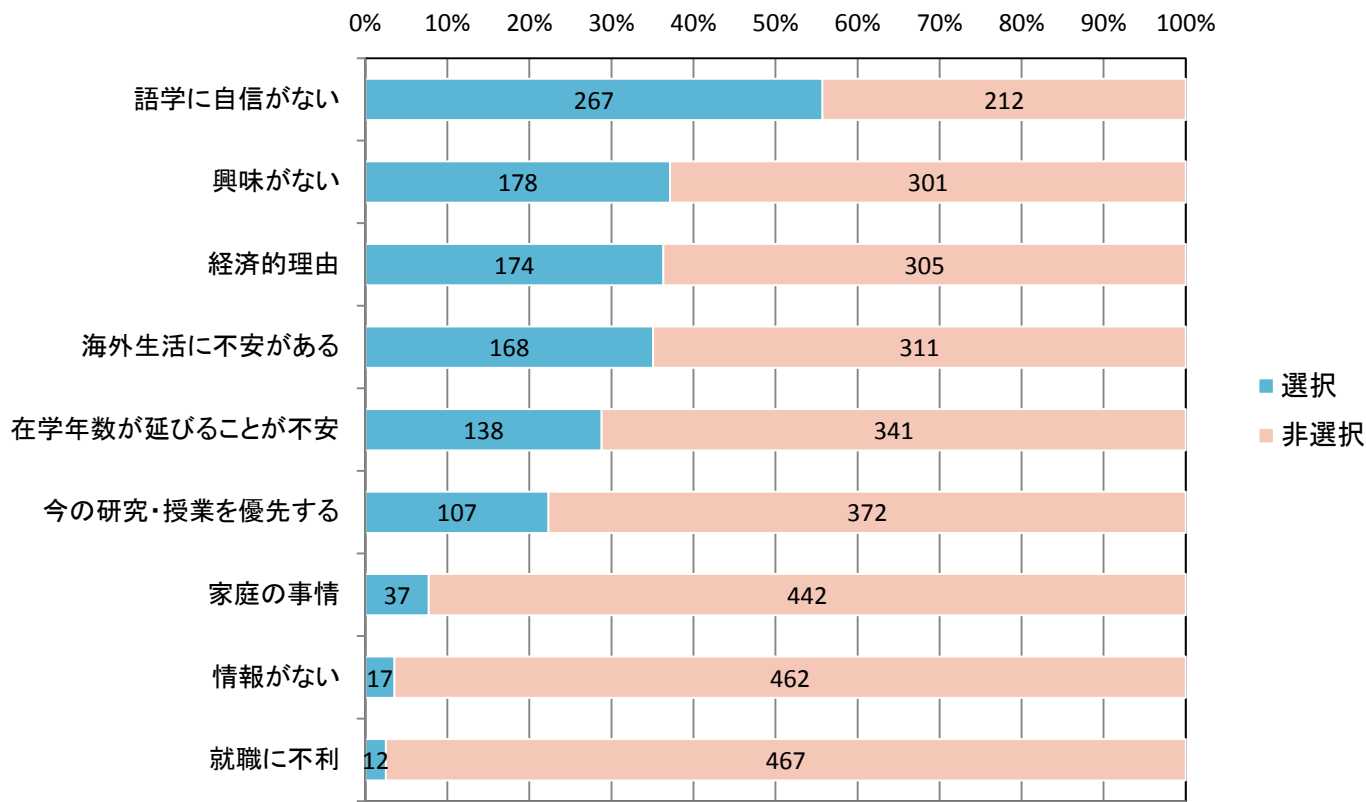


図 7. 3. 21 留学をしたくない・できない理由

(22)東工大のプログラムのうち知っているもの(複数回答可)

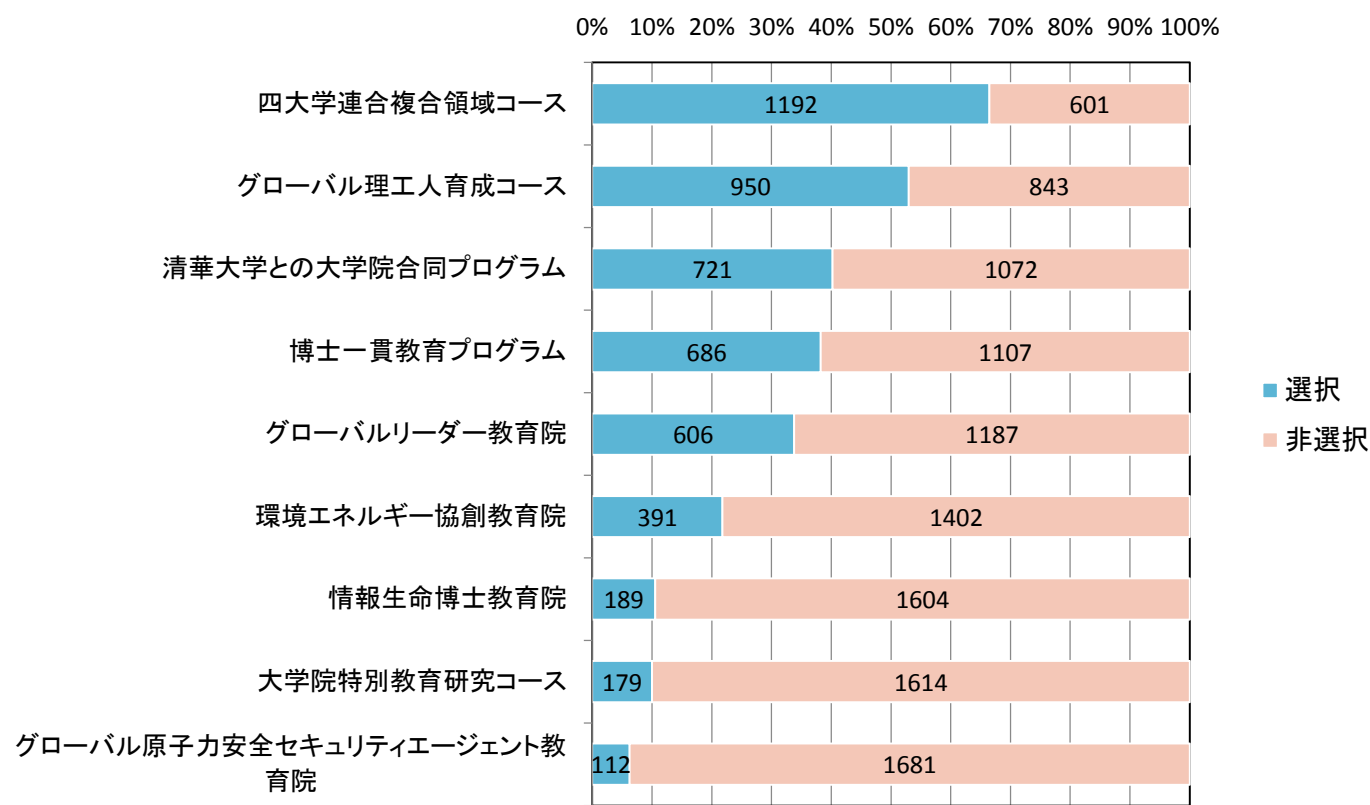


図 7. 3. 22 東工大のプログラムのうち知っているもの

(23)以下のプログラムのうち参加してみたいもの(複数回答可)

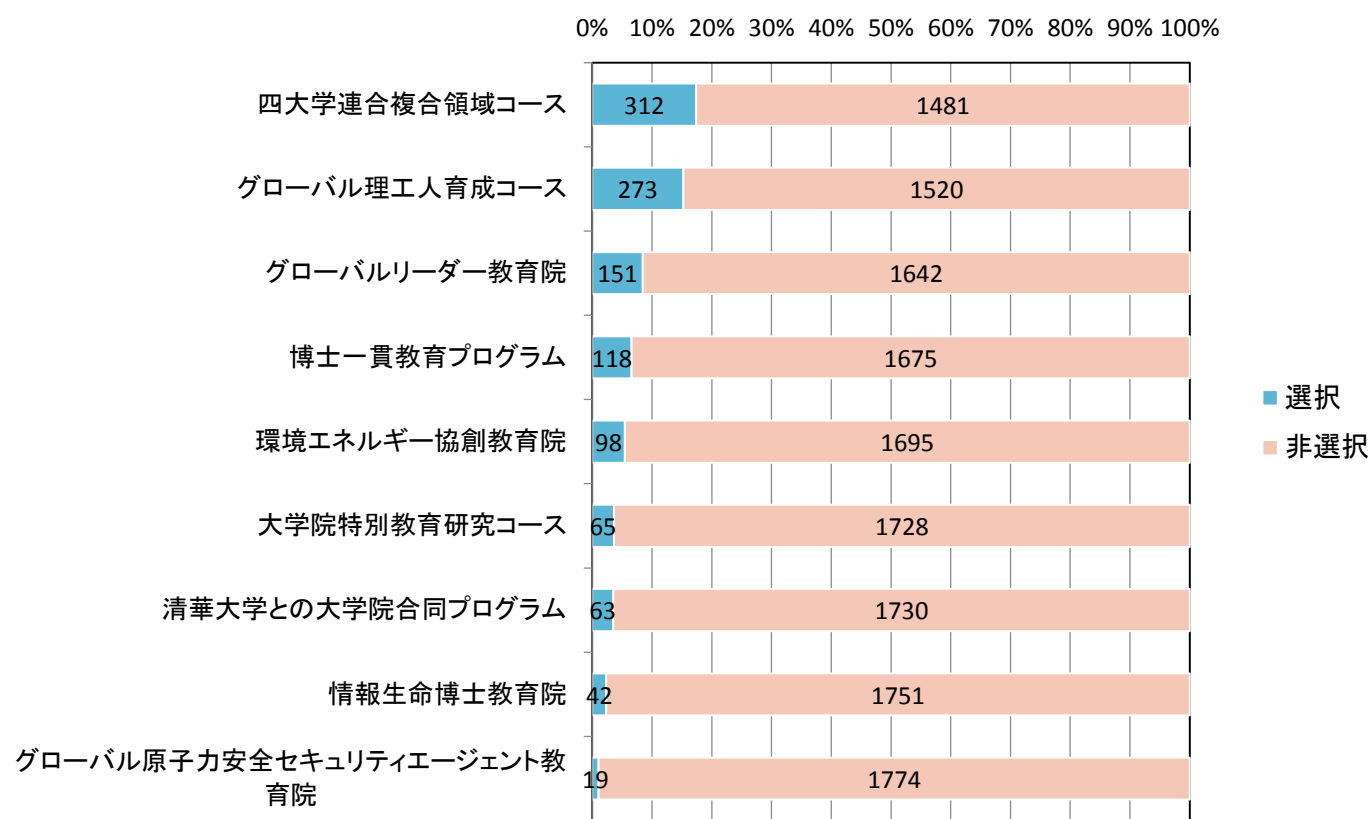


図 7. 3. 23 参加してみたい教育プログラム

7. 調査資料集

東工大ポータルについてお聞きします。

(24) 東工大ポータルにアクセスする際に使用する端末(複数回答可)

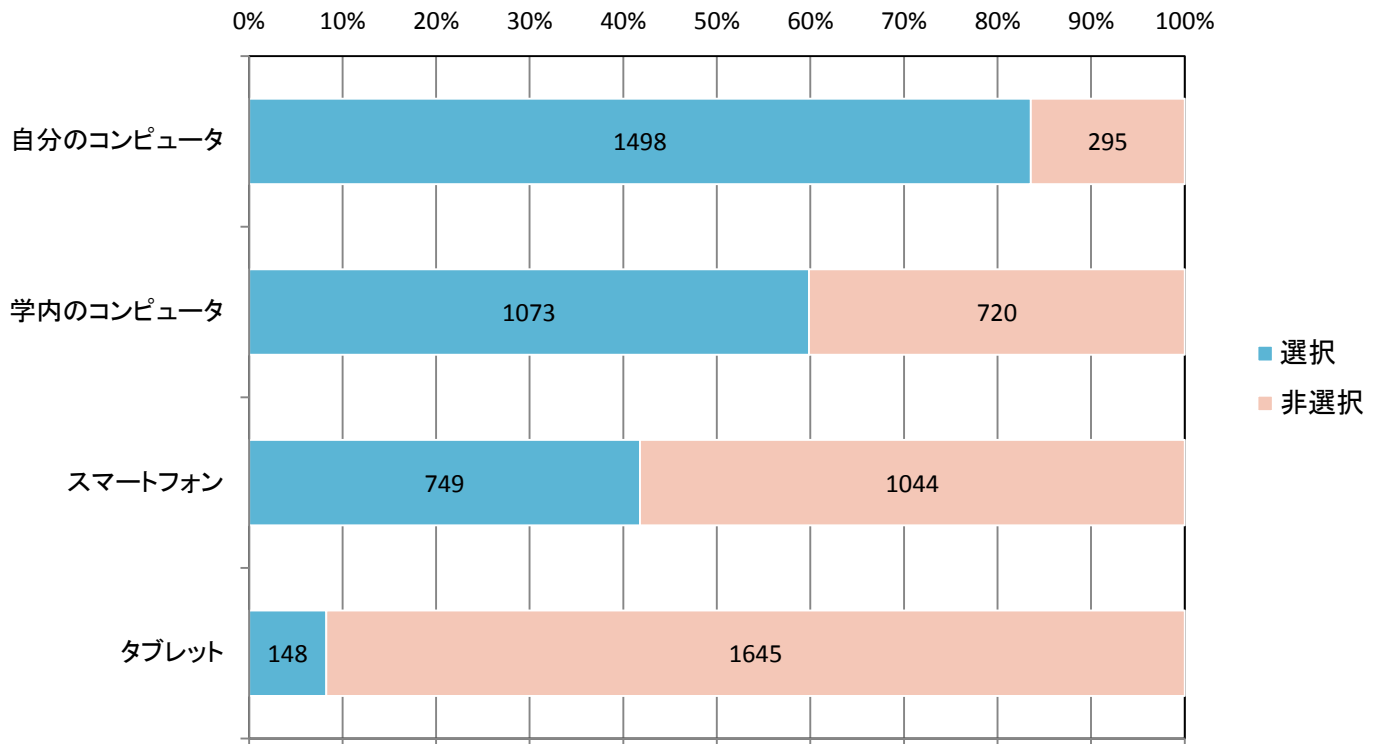


図 7. 3. 24 アクセスする際の使用端末

(25)SSL-VPN(学内ネットワークアクセス)を利用頻度

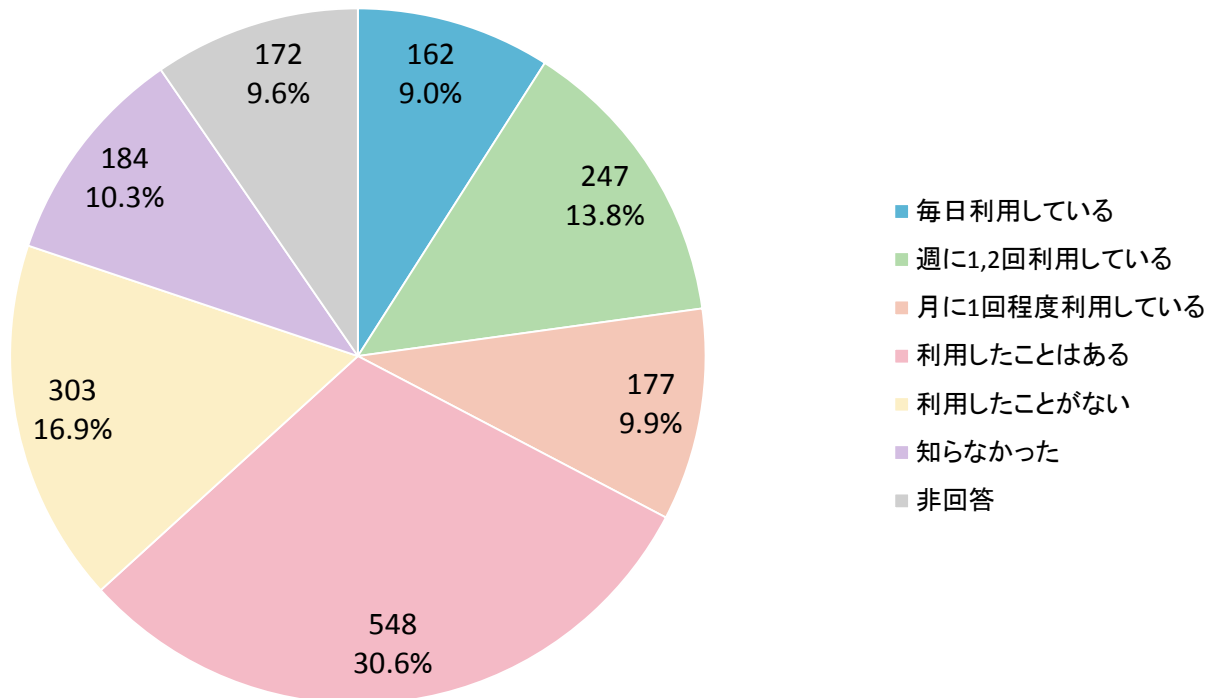


図 7. 3. 25 SSL-VPN(学内ネットワークアクセス)の利用頻度

東京工業大学附属図書館についてお聞きします。

(26)附属図書館(オンラインサービスを含む)の利用頻度

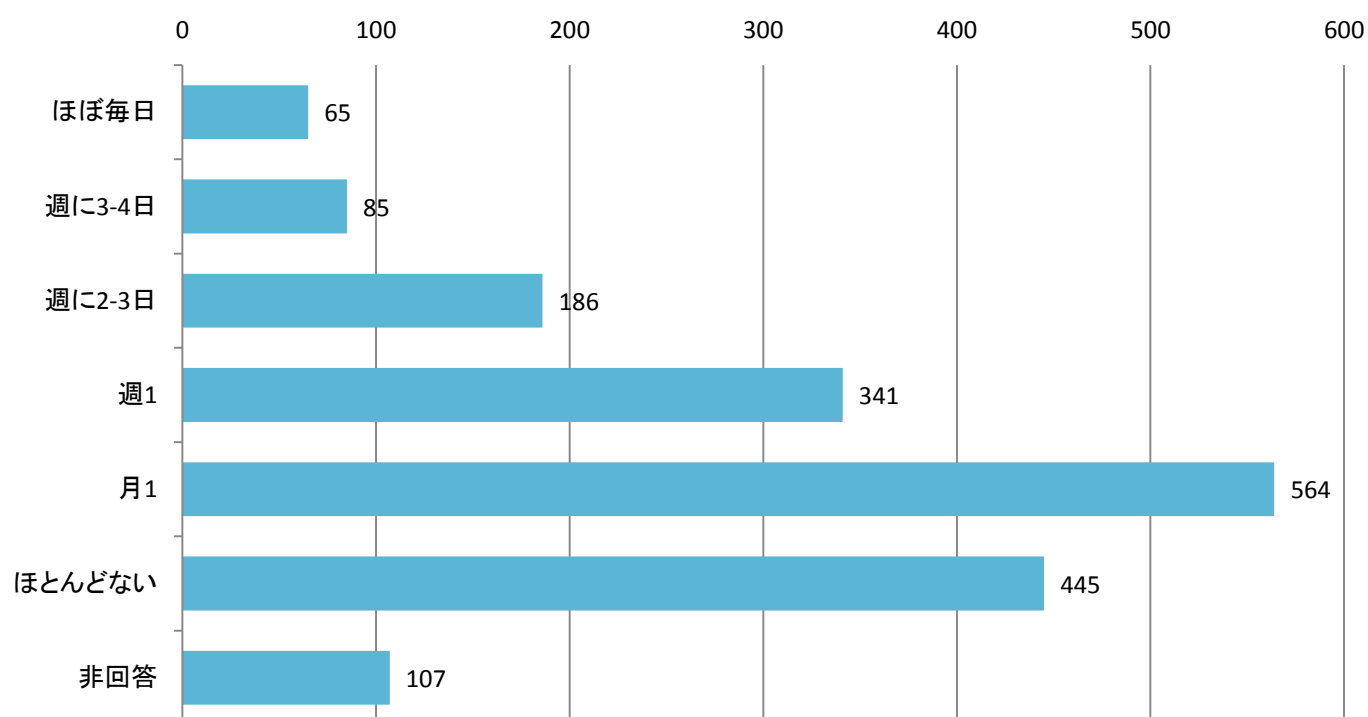


図 7.3.26 附属図書館の利用頻度

(27)附属図書館の利用目的(複数回答可)

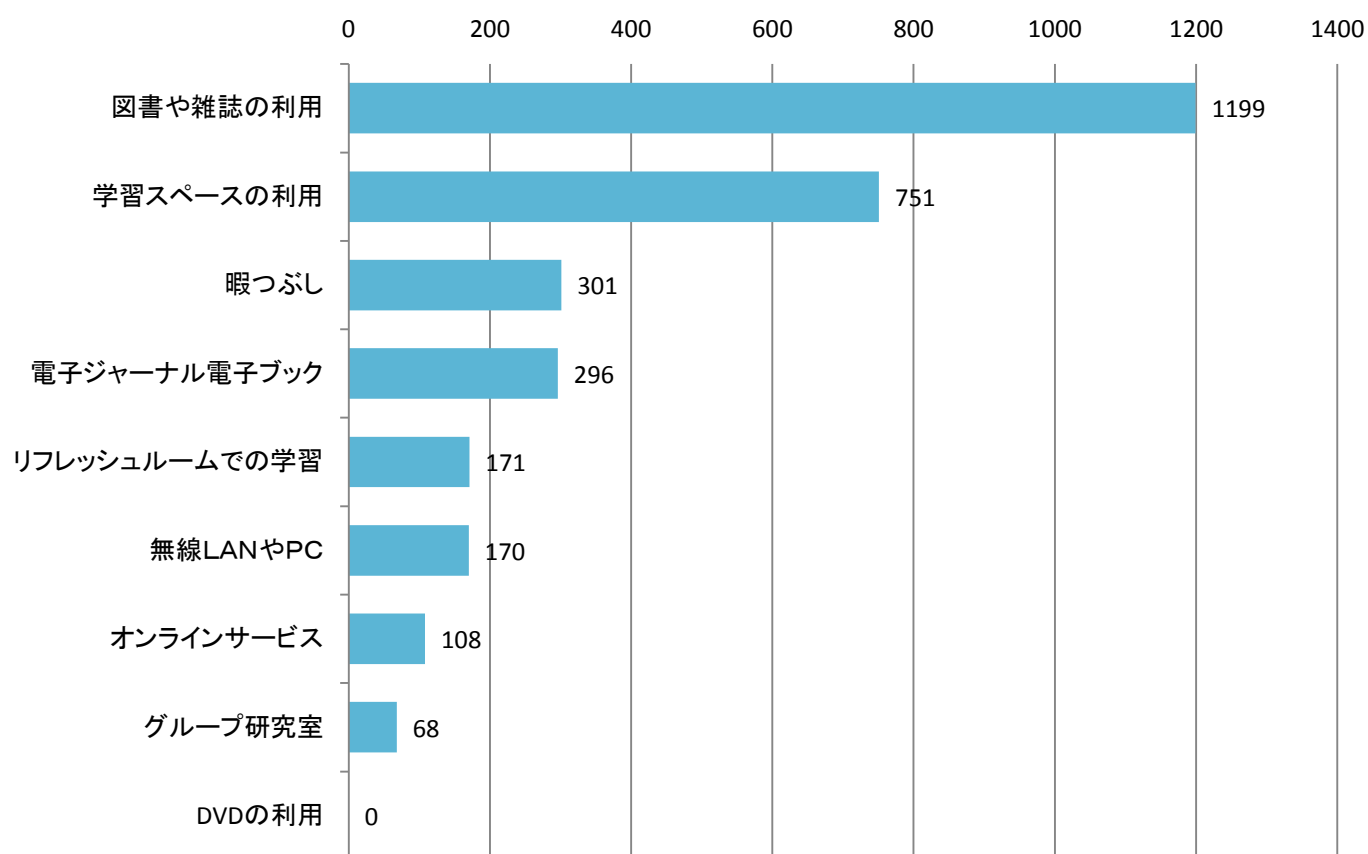


図 7.3.27 附属図書館の利用目的

7. 調査資料集

(28) 附属図書館に充実させてほしい資料(複数回答可)

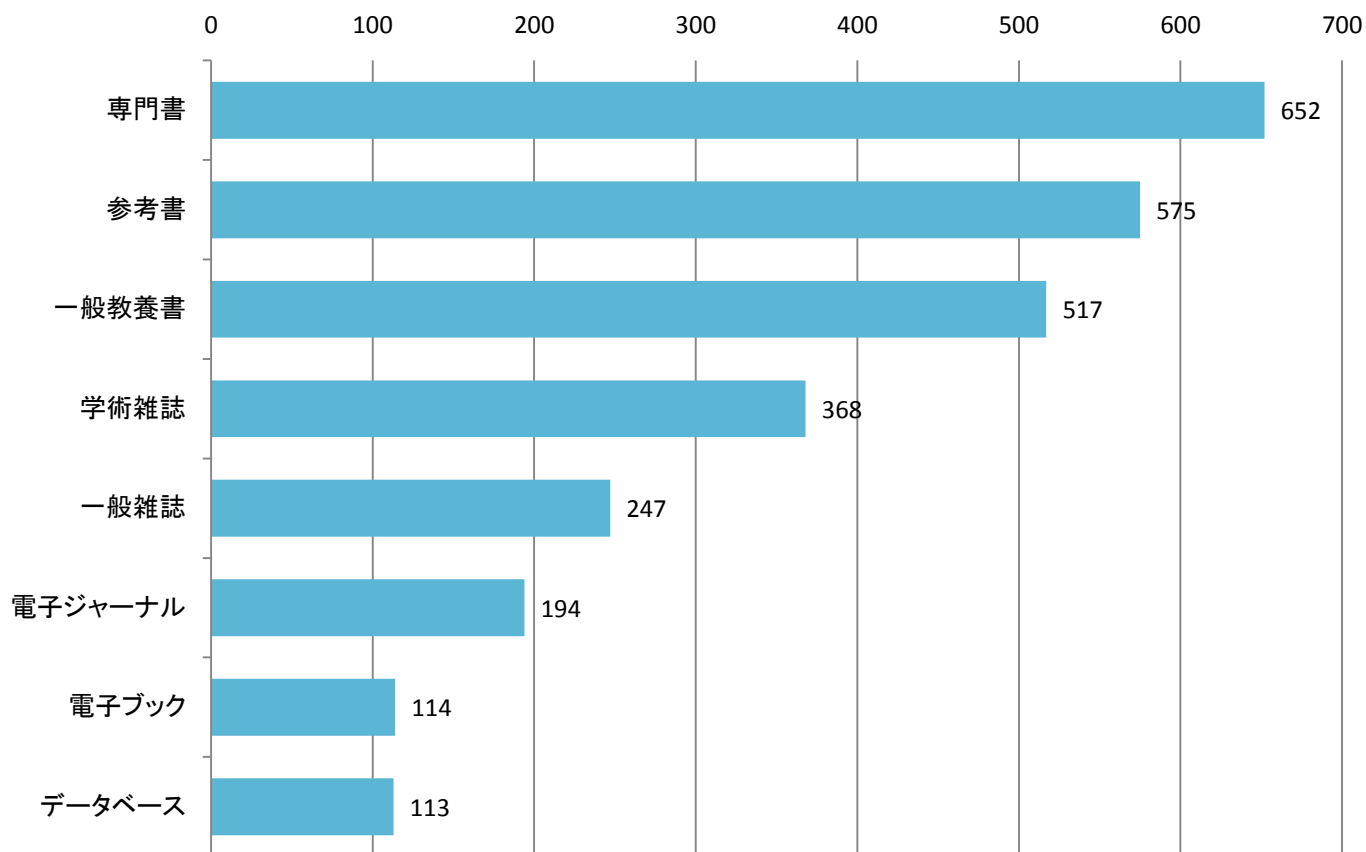


図 7. 3. 28 充実させてほしい資料

7.4. キャンパスライフ

(1)使用したことがある課外活動施設(複数回答可)

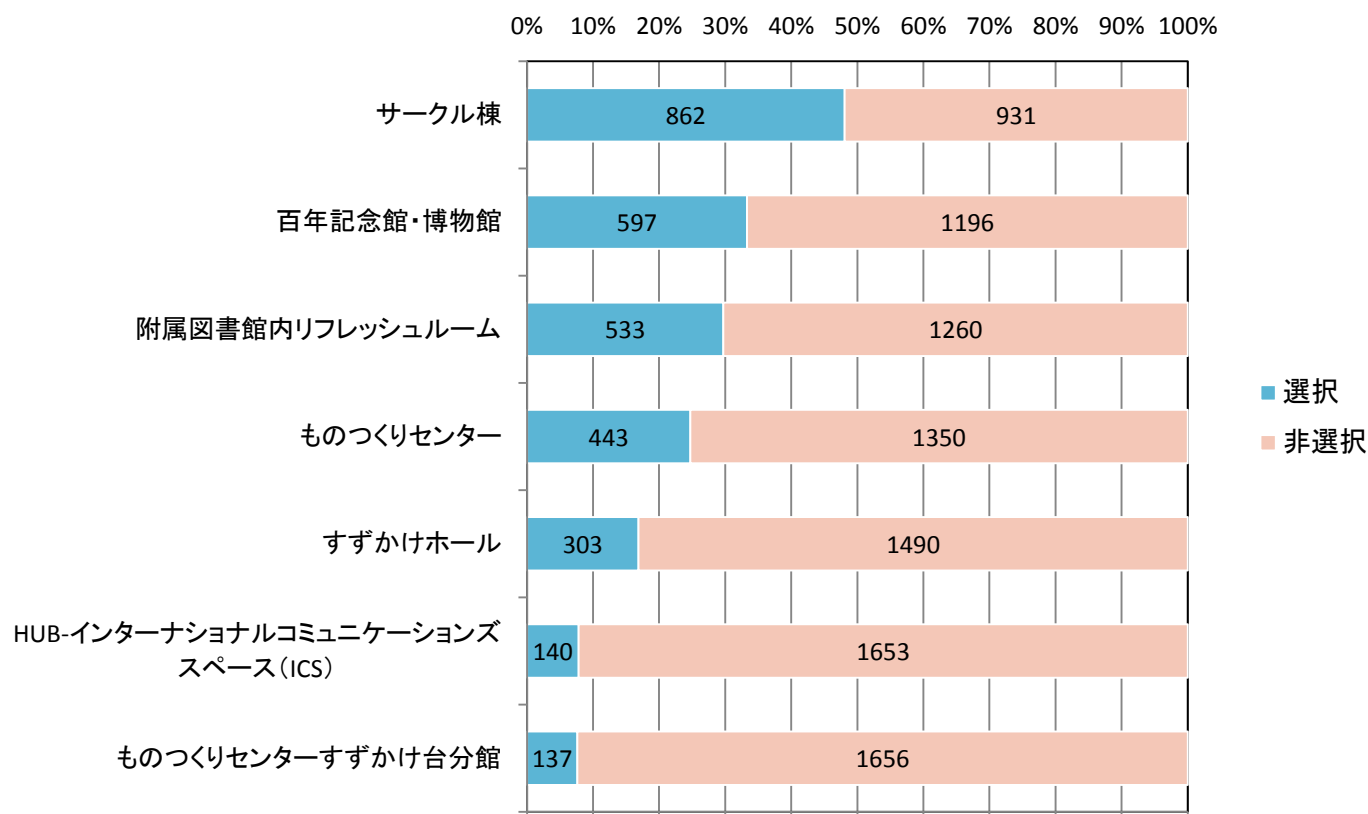


図 7. 4. 1 使用したことがある課外活動施設

(2)課外活動施設の充実度

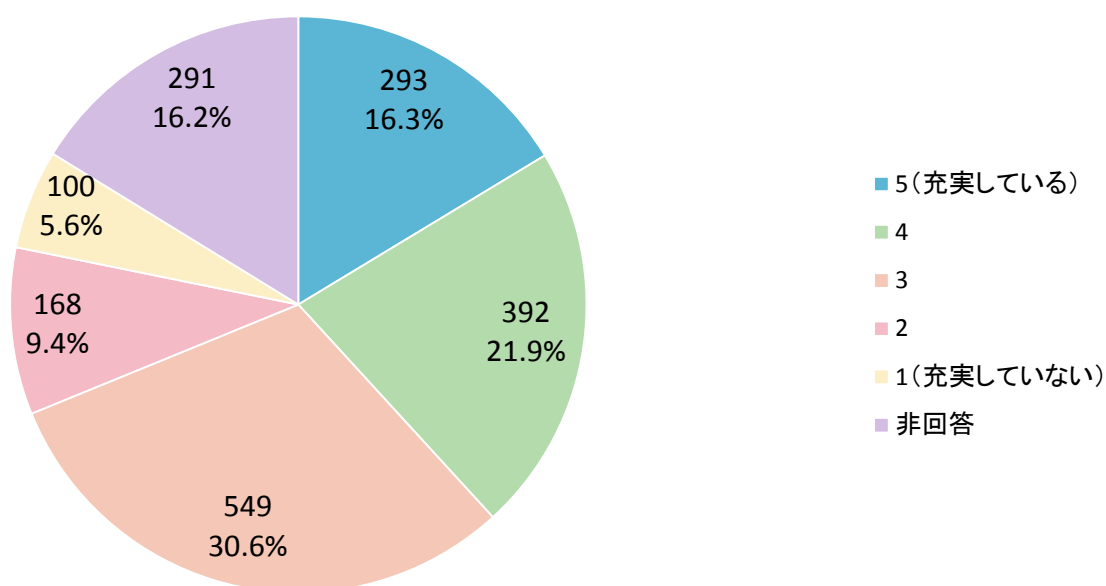


図 7. 4. 2 課外活動施設の充実度

7. 調査資料集

(3)使用したことのあるスポーツ設備(複数回答可)

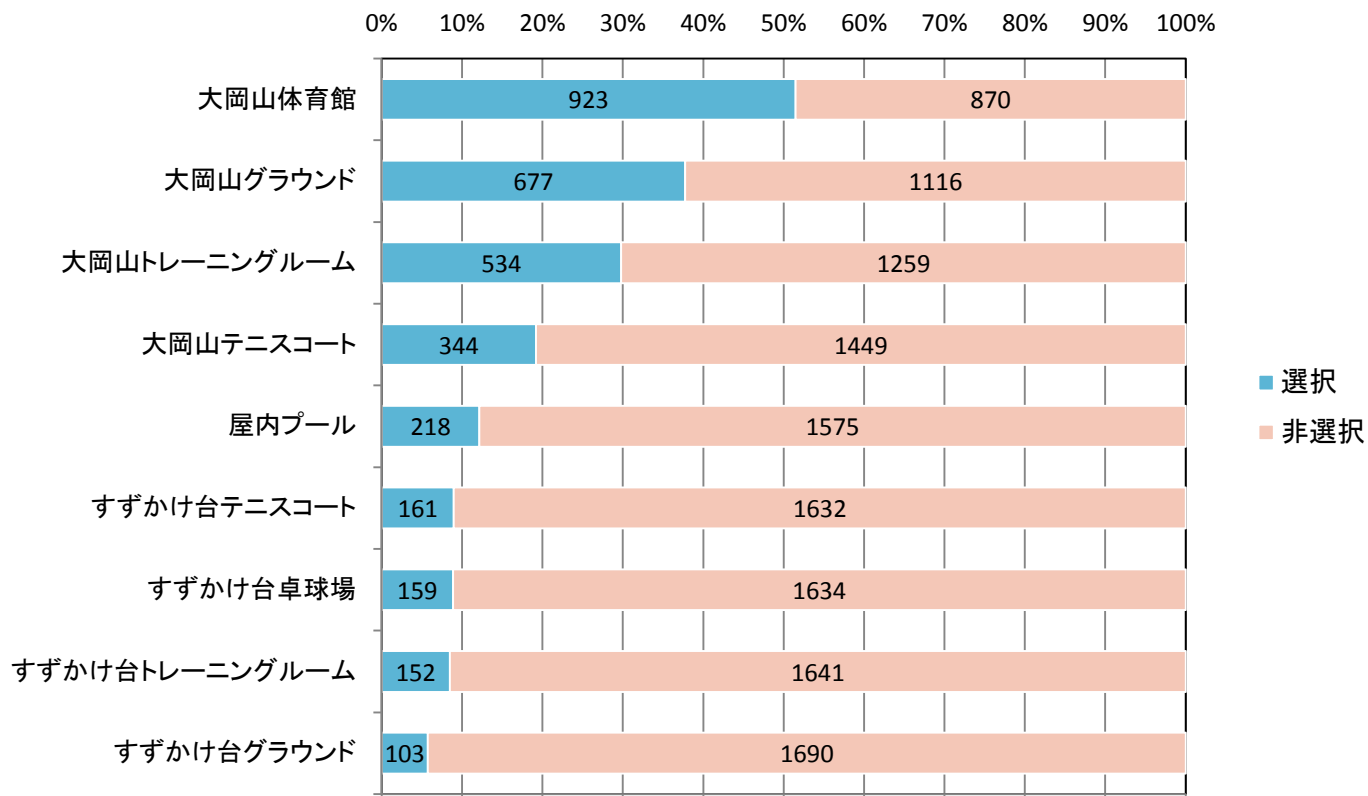


図 7. 4. 3 使用したことのあるスポーツ設備

(4)スポーツ施設の充実度

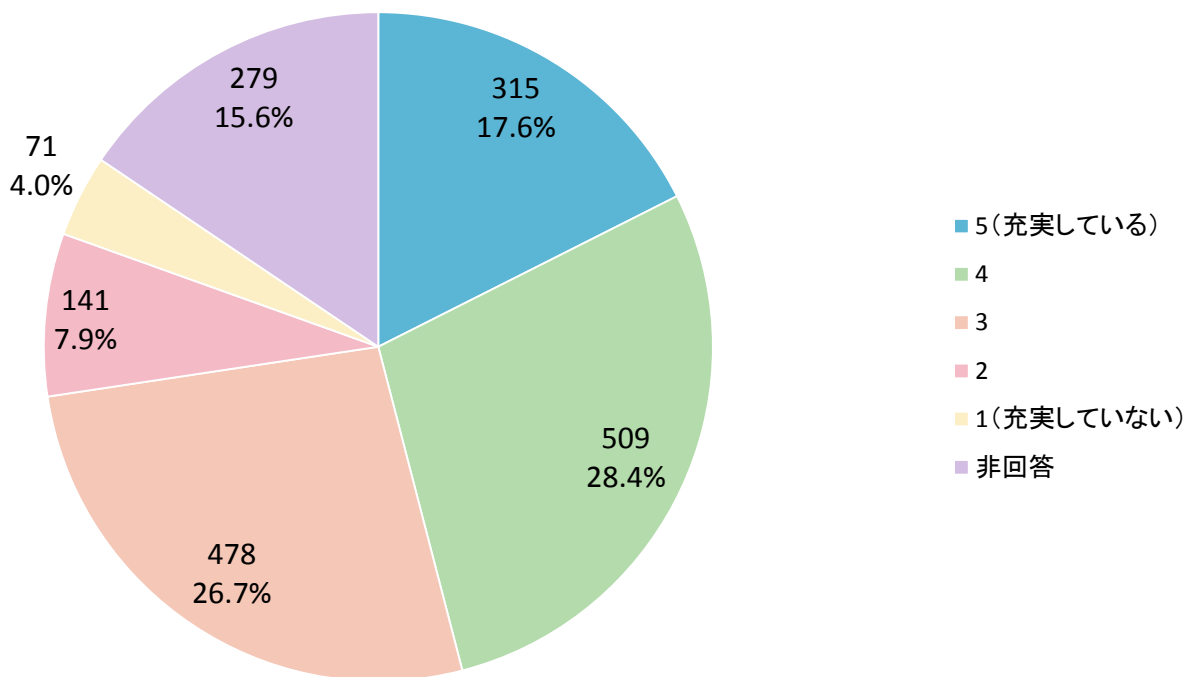


図 7. 4. 4 スポーツ施設の充実度

学内の食堂についてお聞きします。

(5)一週間の学内の食堂の利用頻度

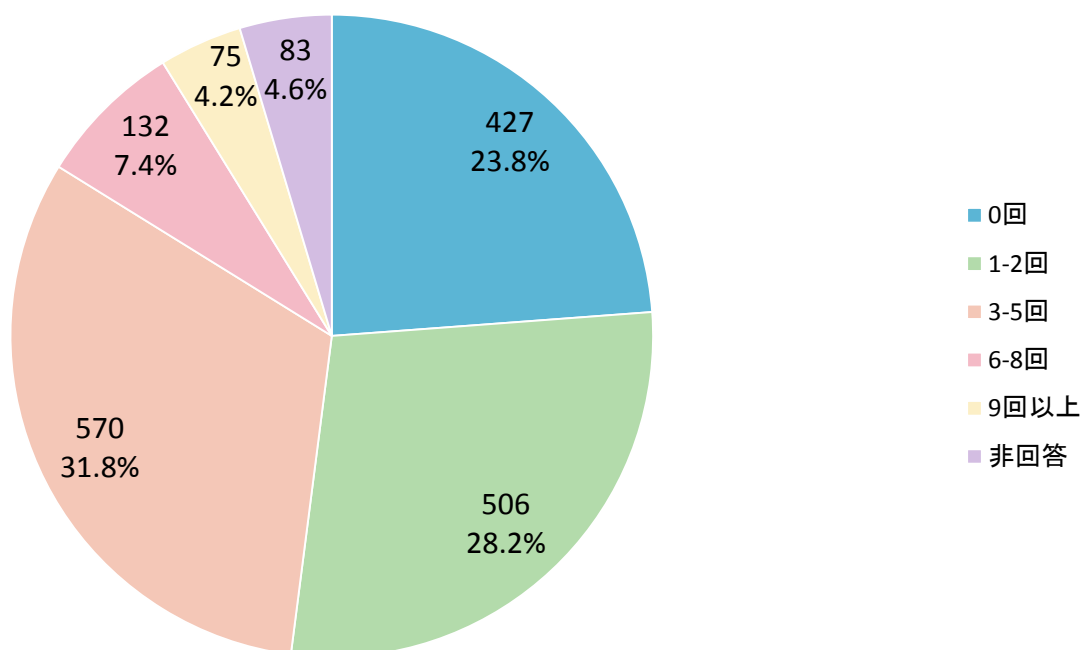


図 7. 4. 5 学内食堂の 1 週間の利用頻度

(6)学食の価格

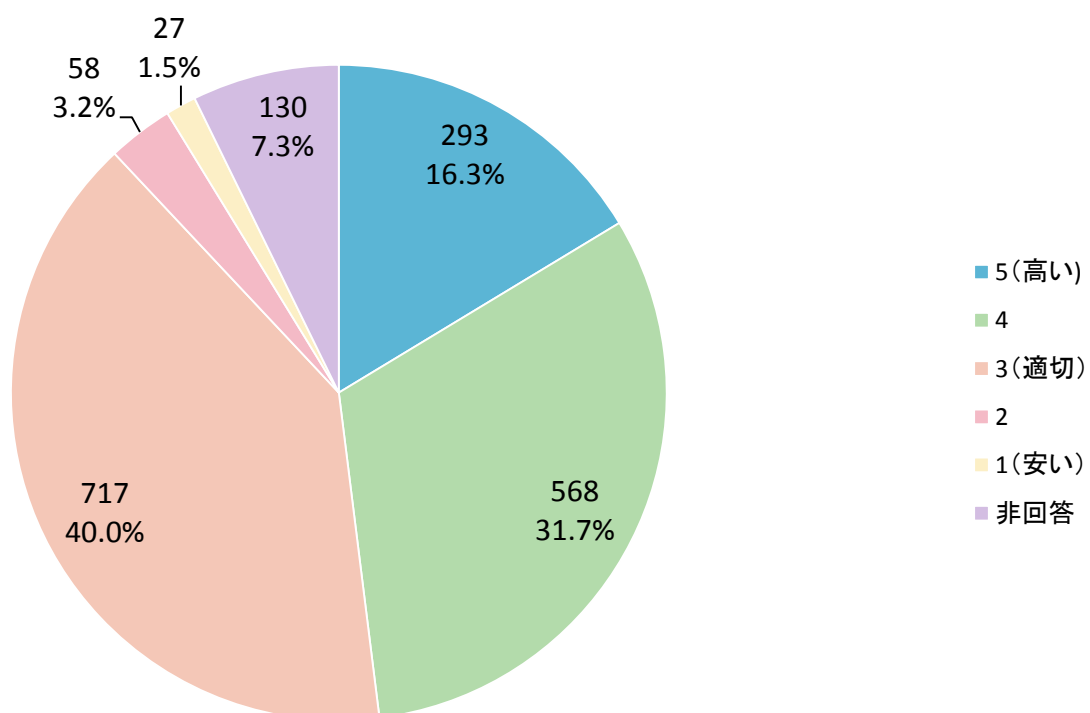


図 7. 4. 6 学内食堂の価格

7. 調査資料集

(7)学食のメニューの質

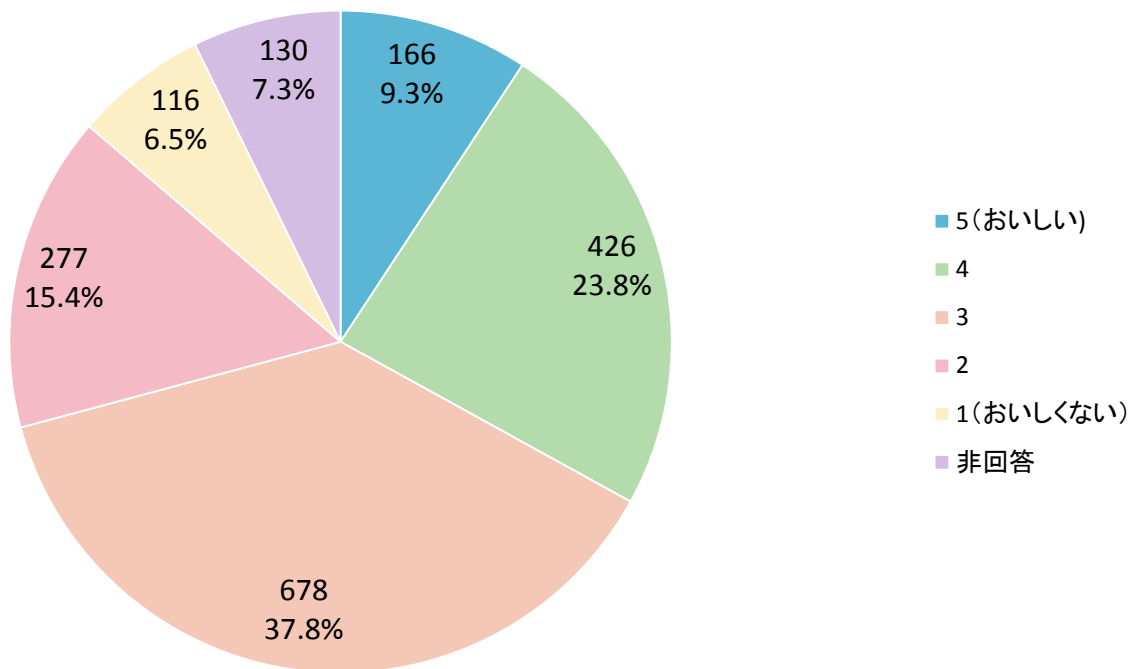


図 7. 4. 7 学内食堂のメニューの質

(8)メニューについてどう思いますか。該当するものにマークしてください。(複数選択可、最大 3 つまで)

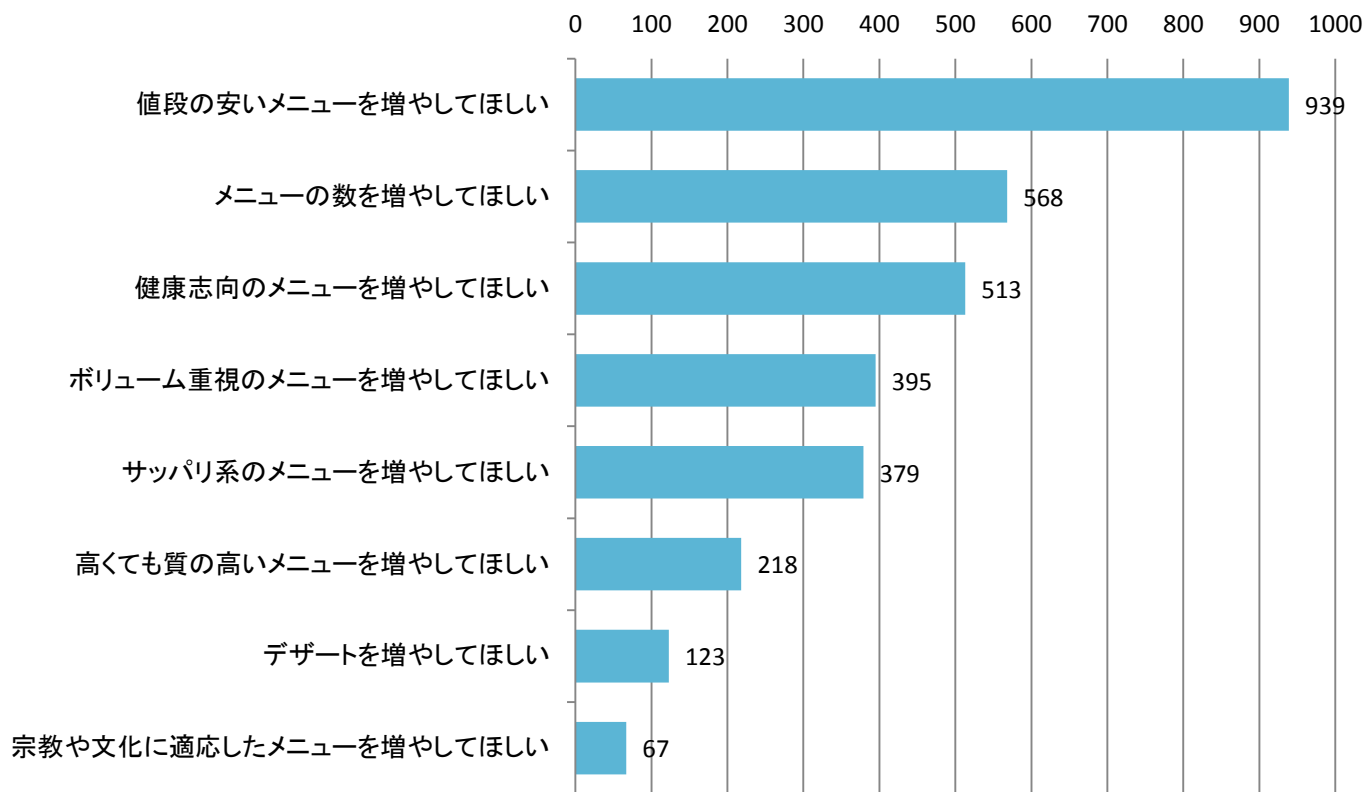


図 7. 4. 8 学内食堂のメニューについての要望

学内の弁当販売についてお聞きします。

(9)一週間の学内弁当販売の利用頻度

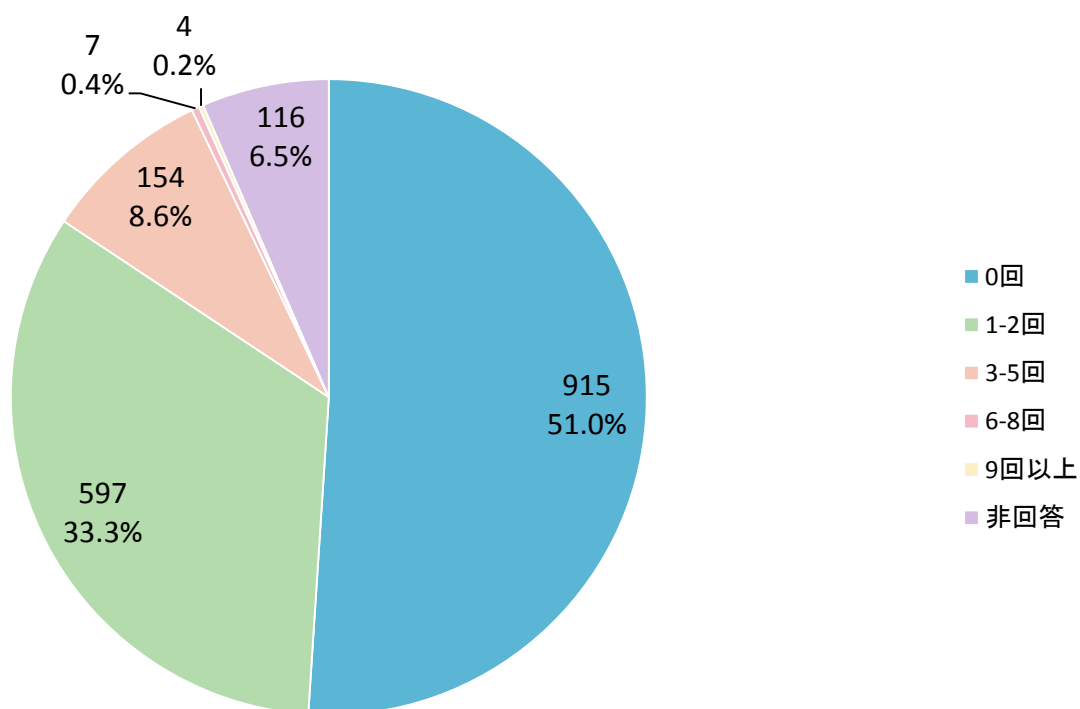


図 7. 4. 9 学内弁当販売の 1 週間の利用頻度

(10)学内弁当の価格

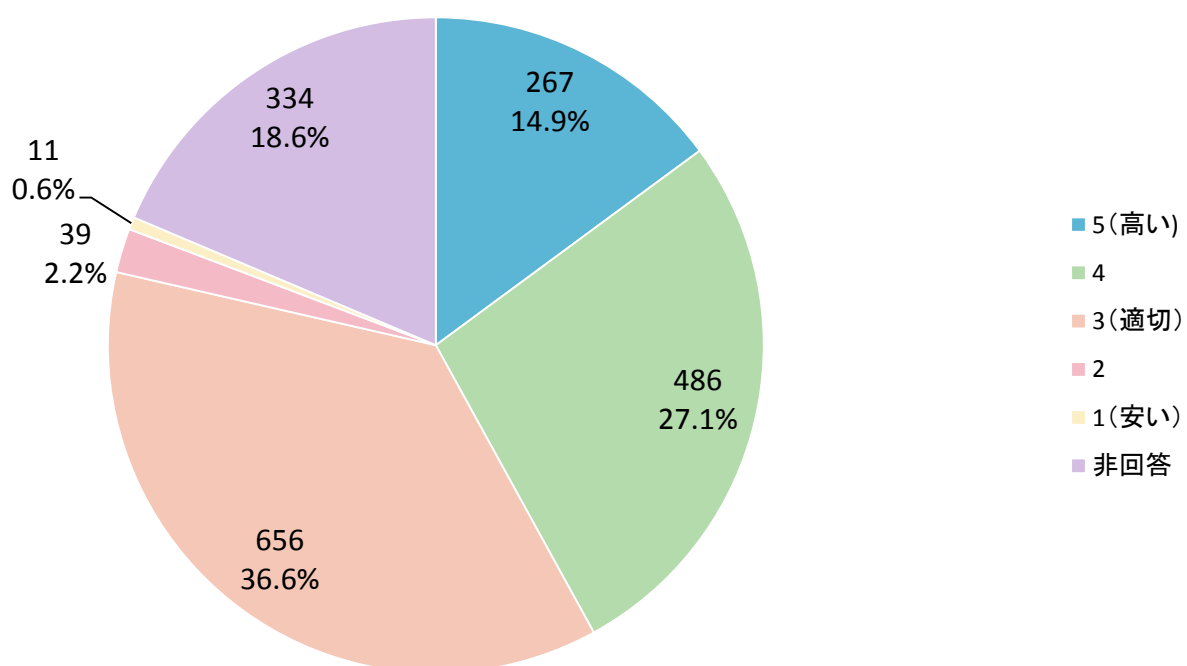


図 7. 4. 10 学内弁当の価格

7. 調査資料集

(11)学内弁当の質

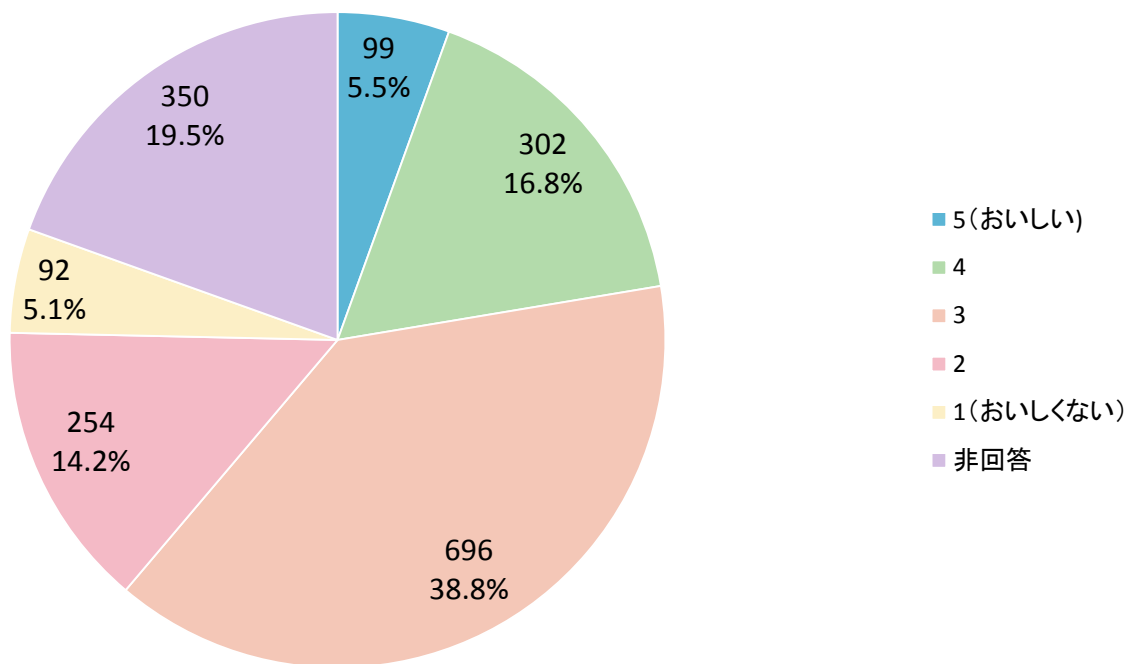


図 7. 4. 11 学内弁当の質について

(12)メニューについてどう思いますか。該当するものにマークしてください。(複数選択可、最大 3 つまで)

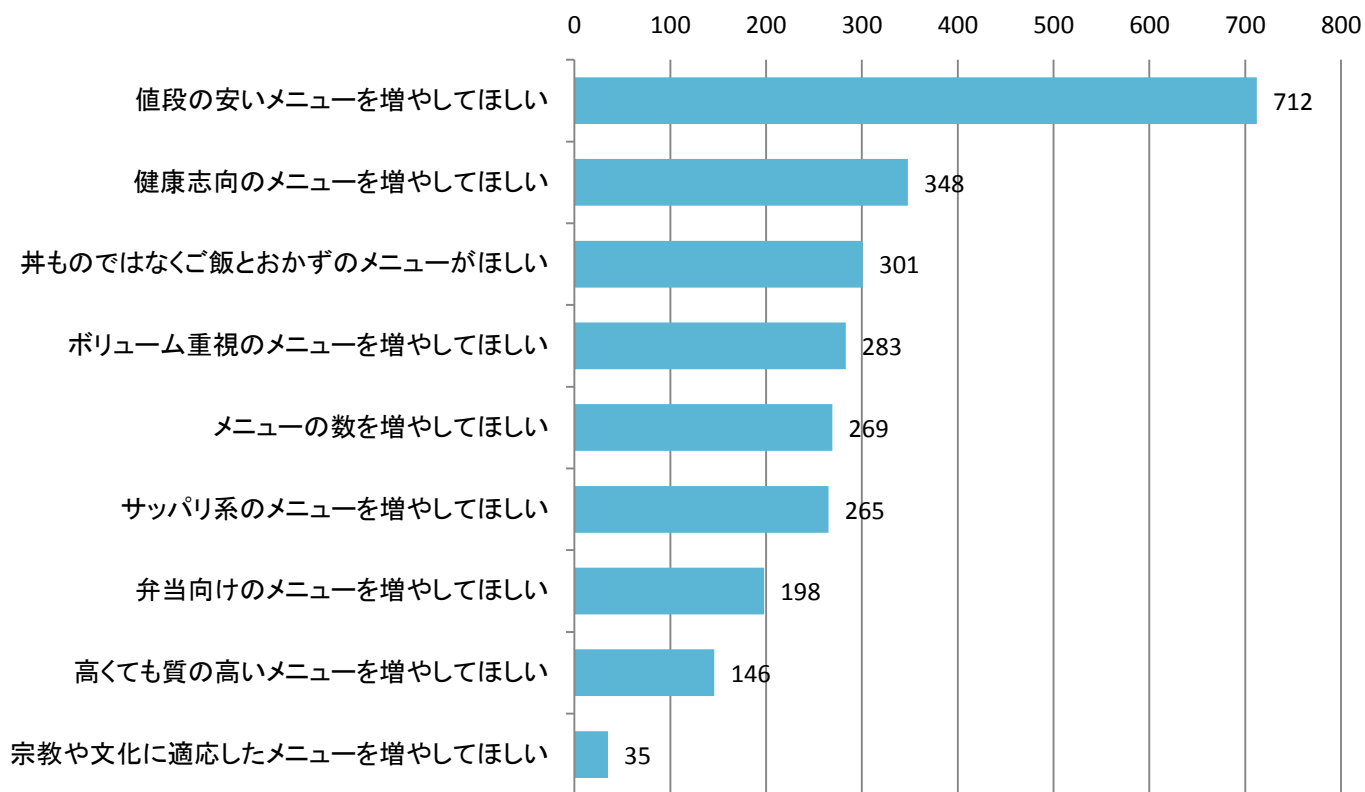


図 7. 4. 12 学内弁当のメニューについての要望

喫煙所についてお聞きします。

(13)学内の喫煙所の利用

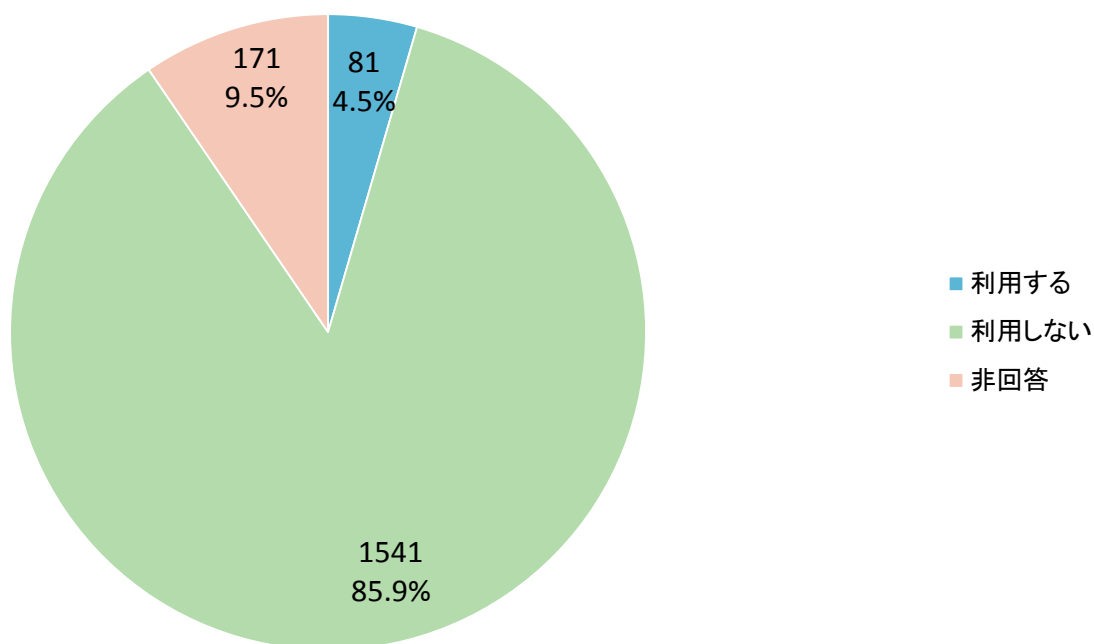


図 7. 4. 13 学内の喫煙所利用

(14)学内の分煙

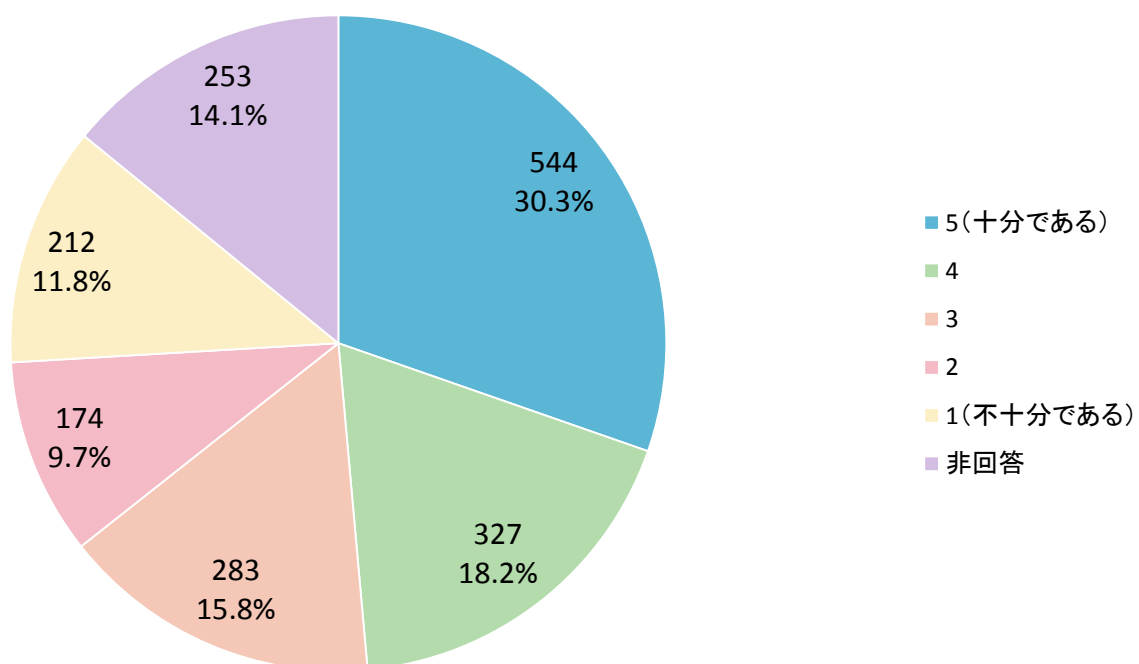


図 7. 4. 14 学内の分煙

7. 調査資料集

学内での自転車の利用についてお聞きます。

(15)学内で自転車の利用

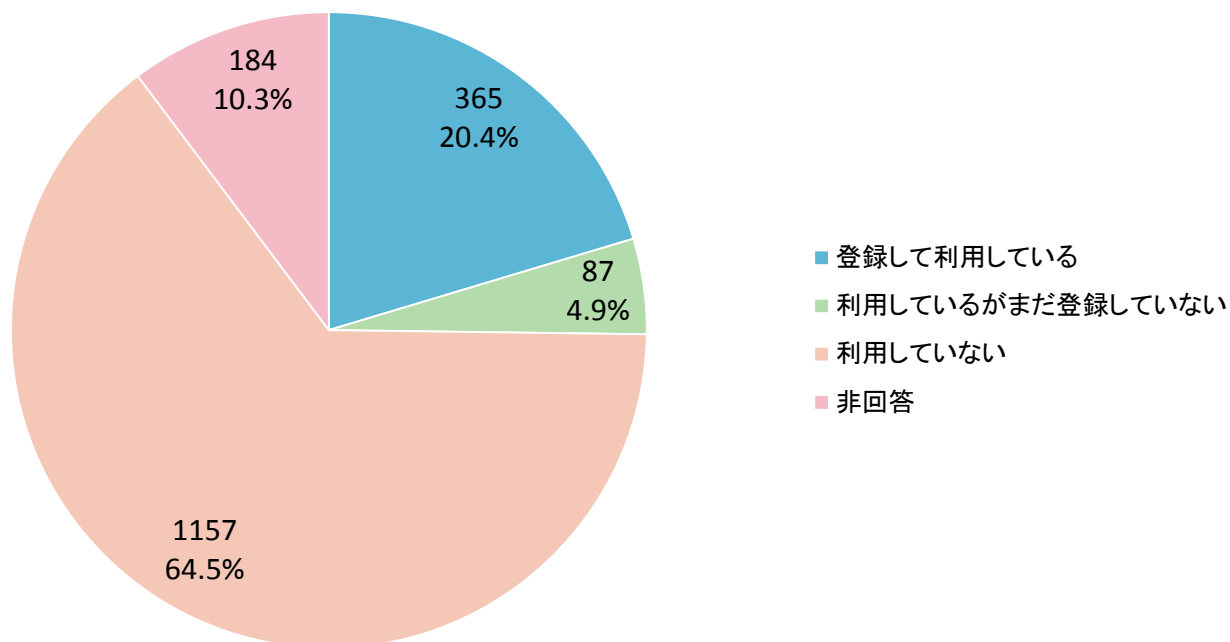


図 7. 4. 15 学内での自転車利用

(16)駐輪スペース

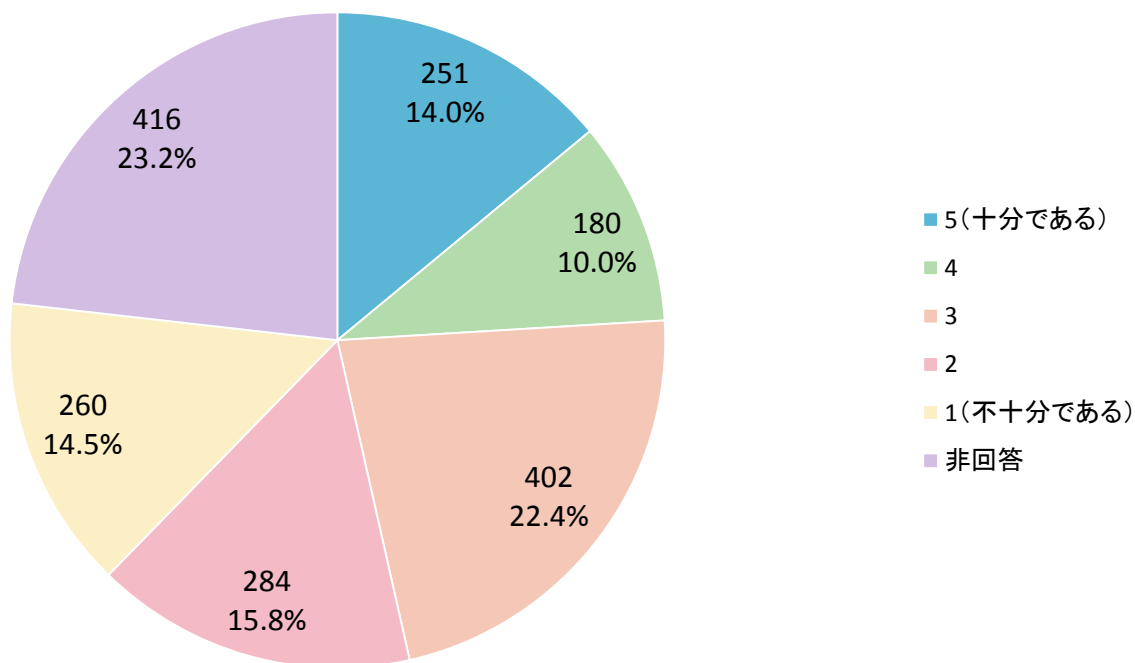


図 7. 4. 16 駐輪スペースの十分さ

その他の施設で充実を求めるものを教えてください。

(17) 充実してほしい施設(複数選択可)

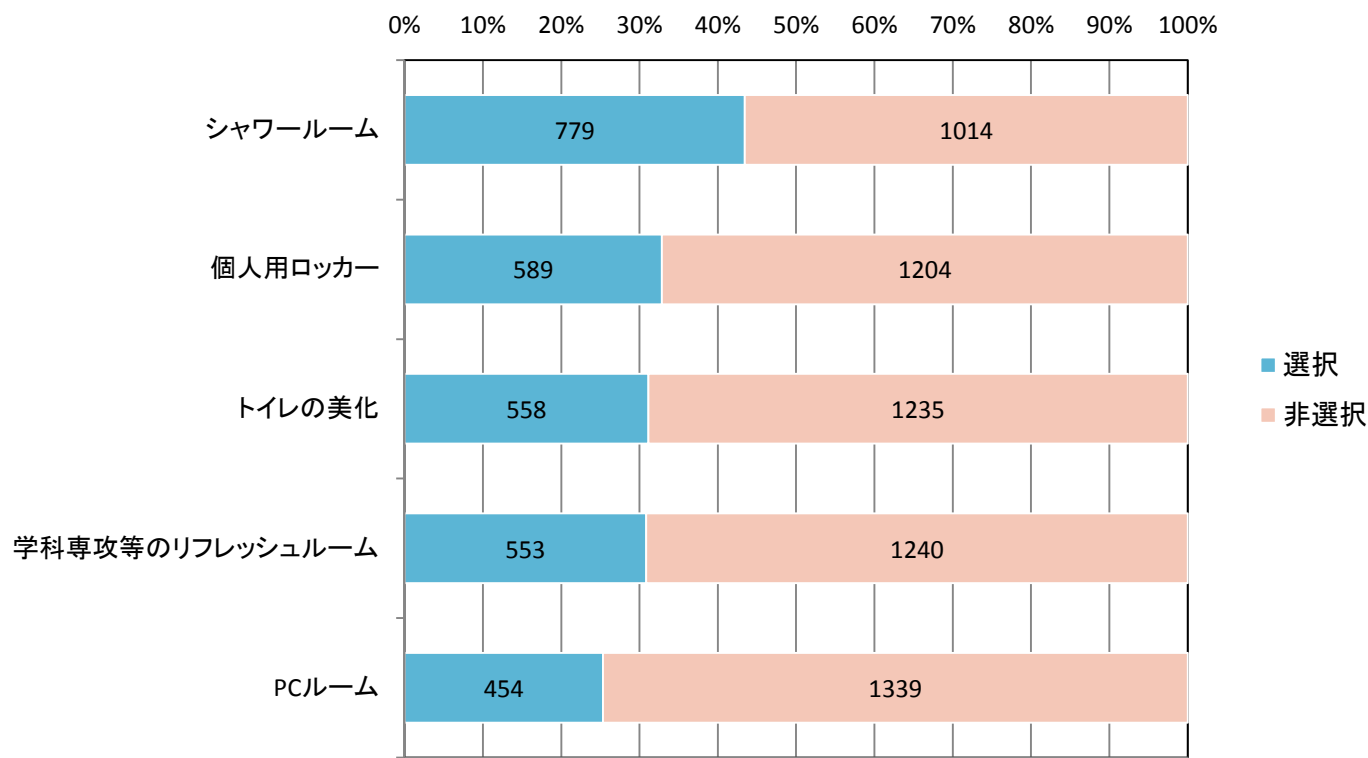


図 7. 4. 17 充実を求める施設

(18) 充実してほしい販売施設(複数選択可)

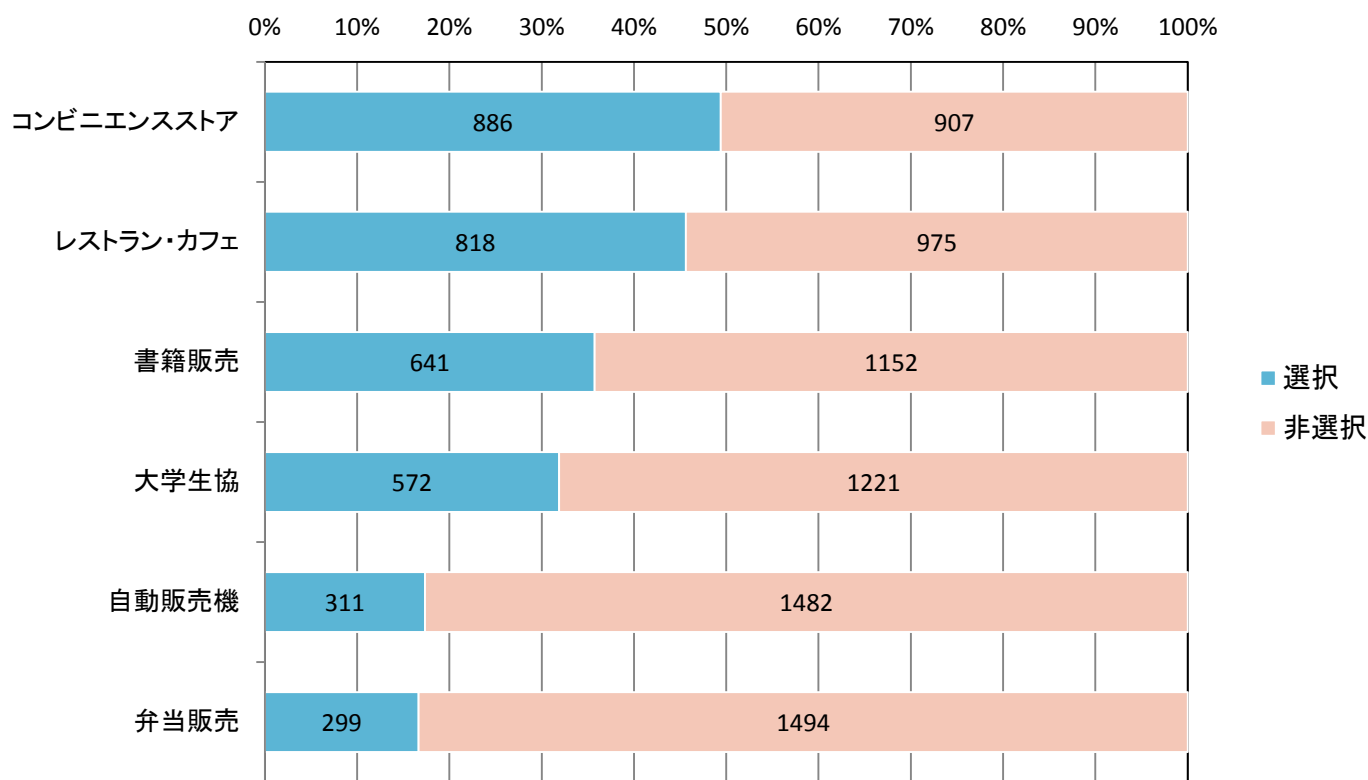


図 7. 4. 18 充実を求める販売施設など

7. 調査資料集

大学のサービスについてお聞きします。

(19) 授業や学内行事などの情報源(複数回答可)

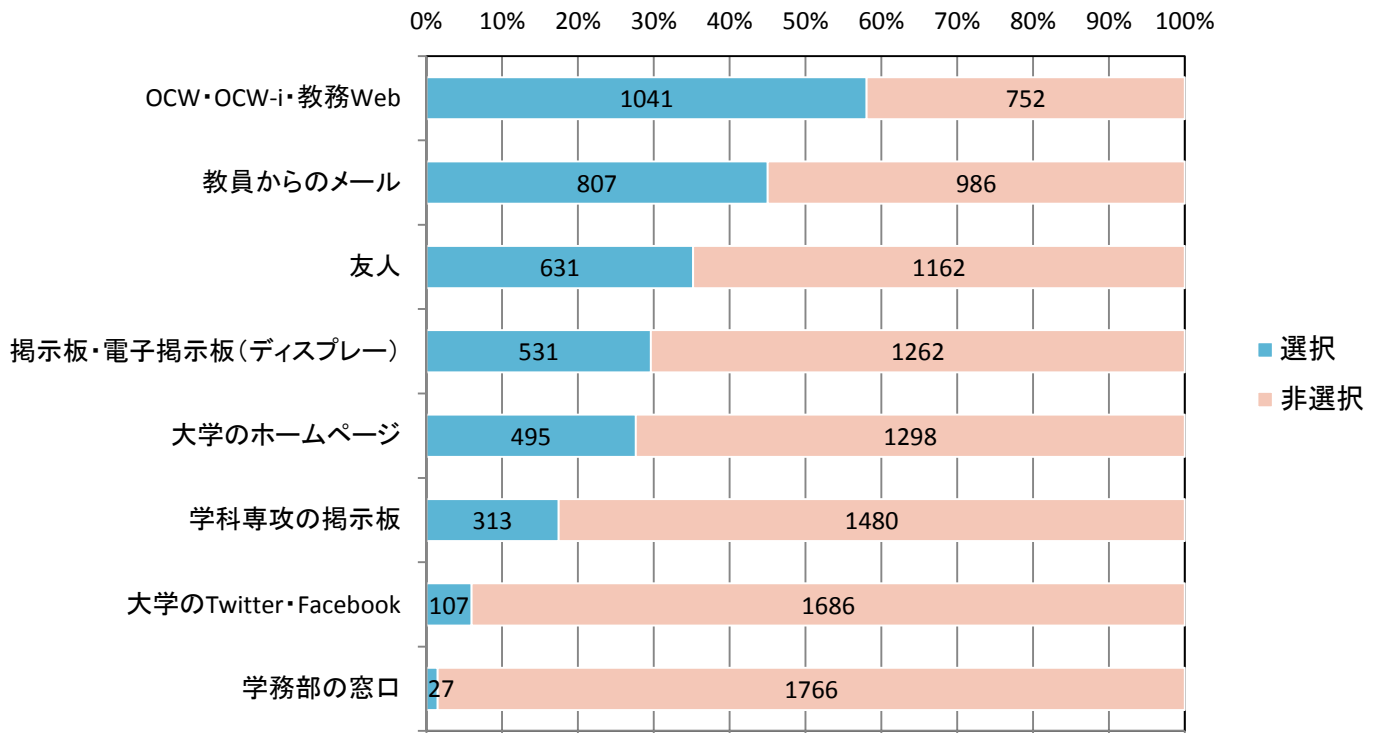


図 7. 4. 19 授業や学内行事などの主な情報源

(20) 実現・充実してほしい学生生活サービス(複数回答可)

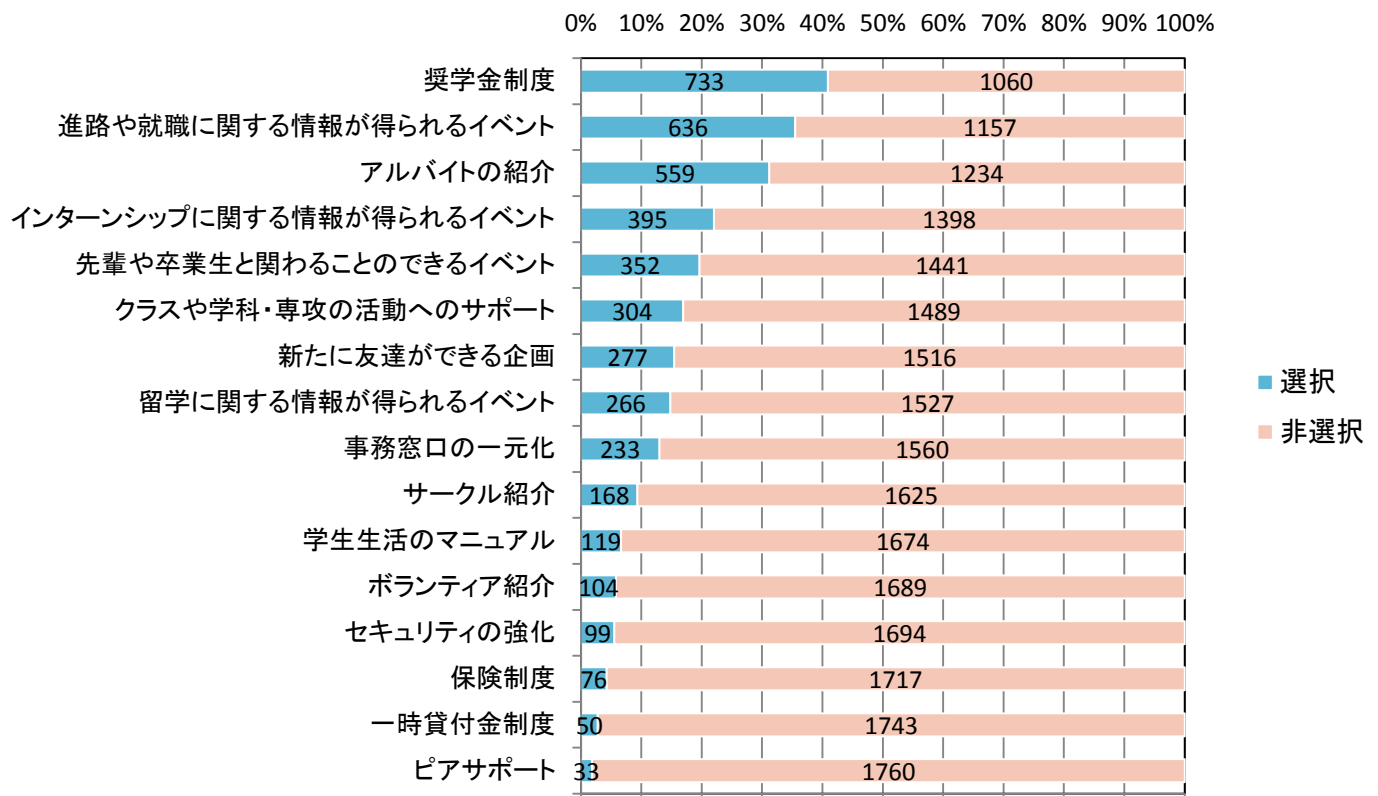


図 7. 4. 20 実現・充実してほしい学生生活サービス

学内の活動についてお聞きます。

(21)経験したことがある学内活動(複数回答可)

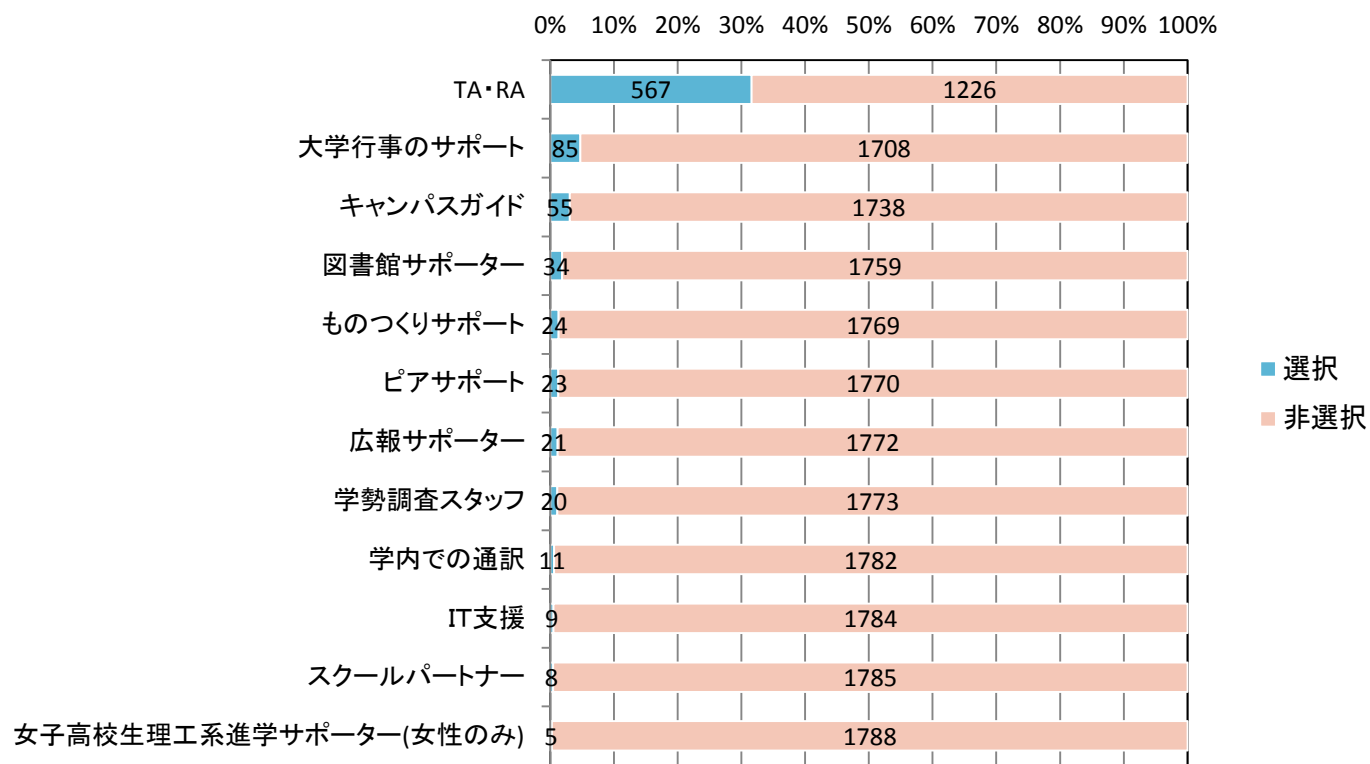


図 7. 4. 21 経験したことがある学内活動

(22)やってみたい学内活動(複数回答可)

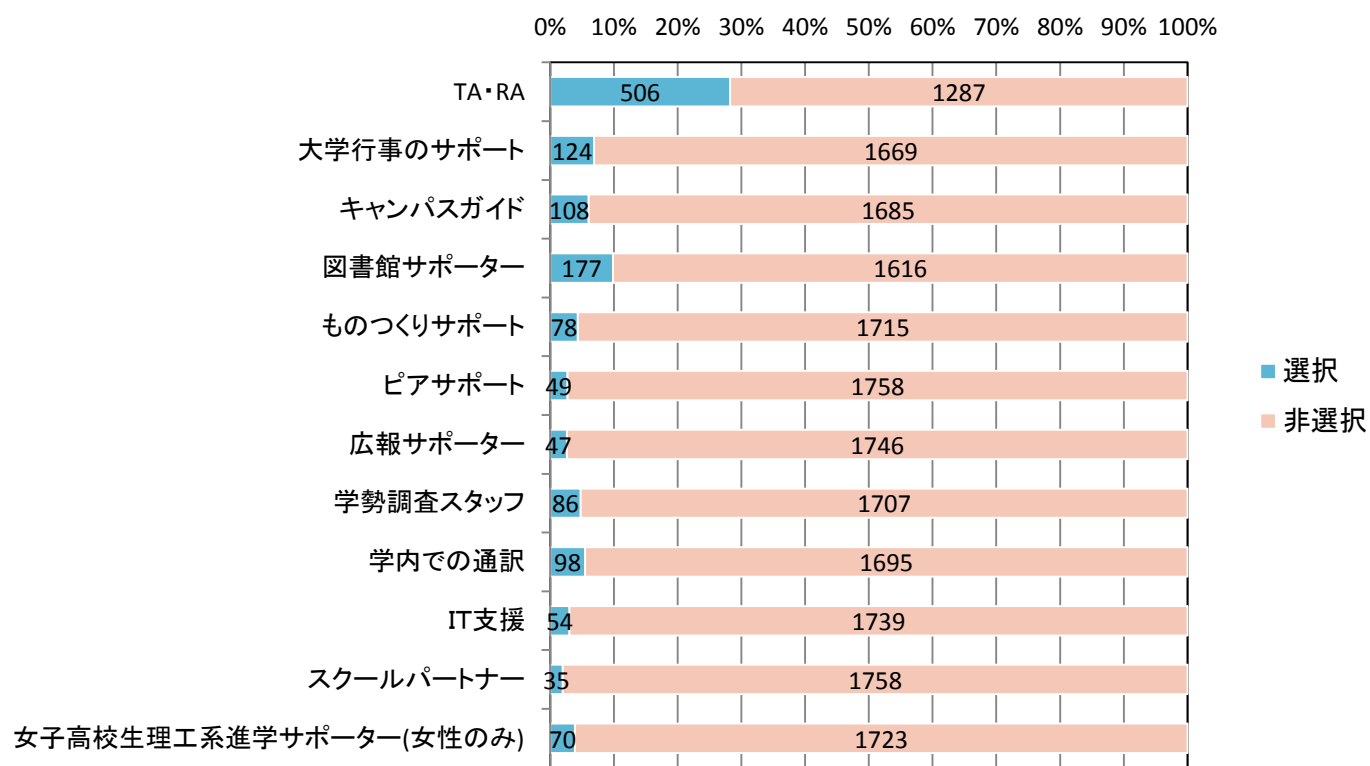


図 7. 4. 22 やってみたい学内活動

7. 調査資料集

教職員の学生への対応・サービスについてお聞きます。

(23)教員の対応

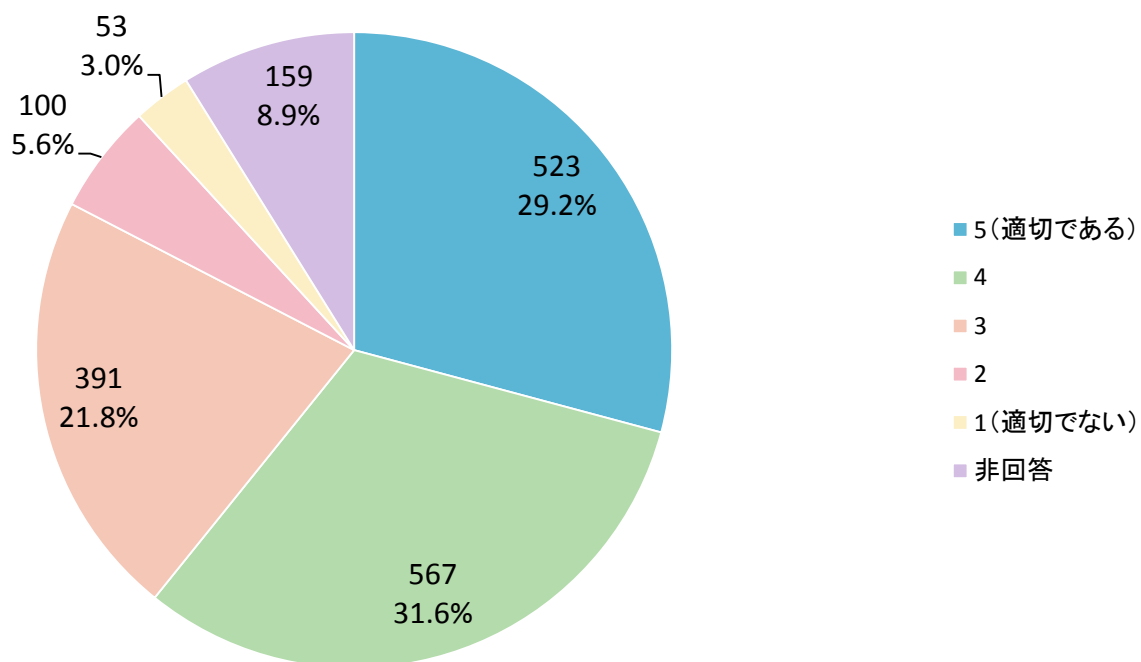


図 7. 4. 23 教員の対応

(24)事務職員の対応

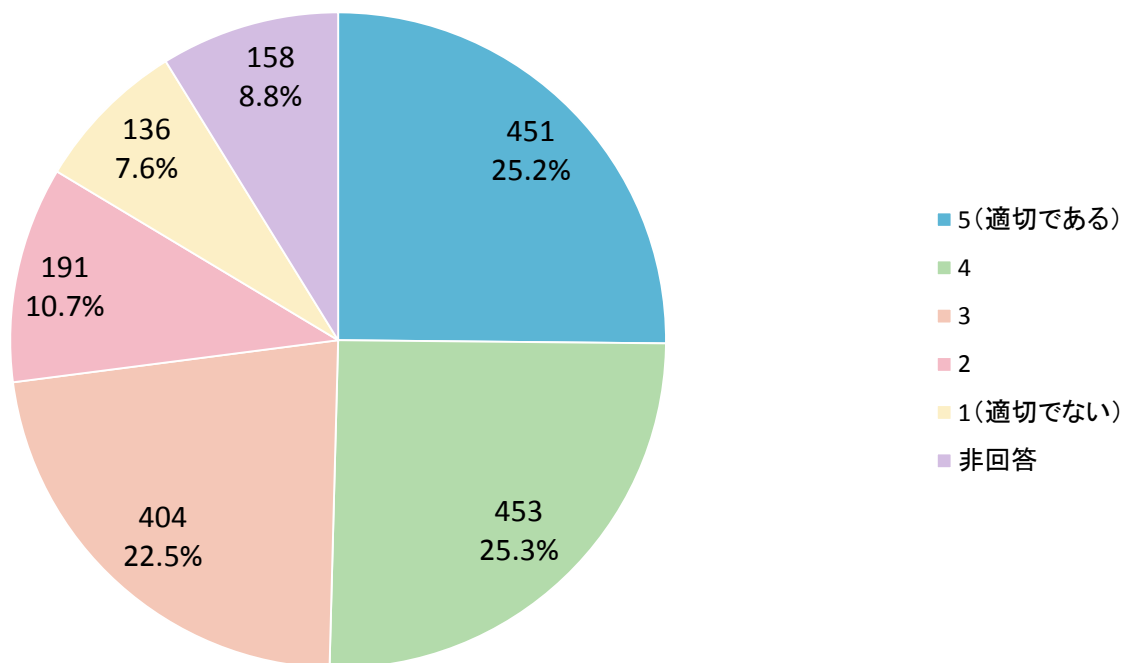


図 7. 4. 24 事務職員の対応

本学にある様々な相談窓口についてお聞きします。

(25)知っている相談窓口(複数回答可)

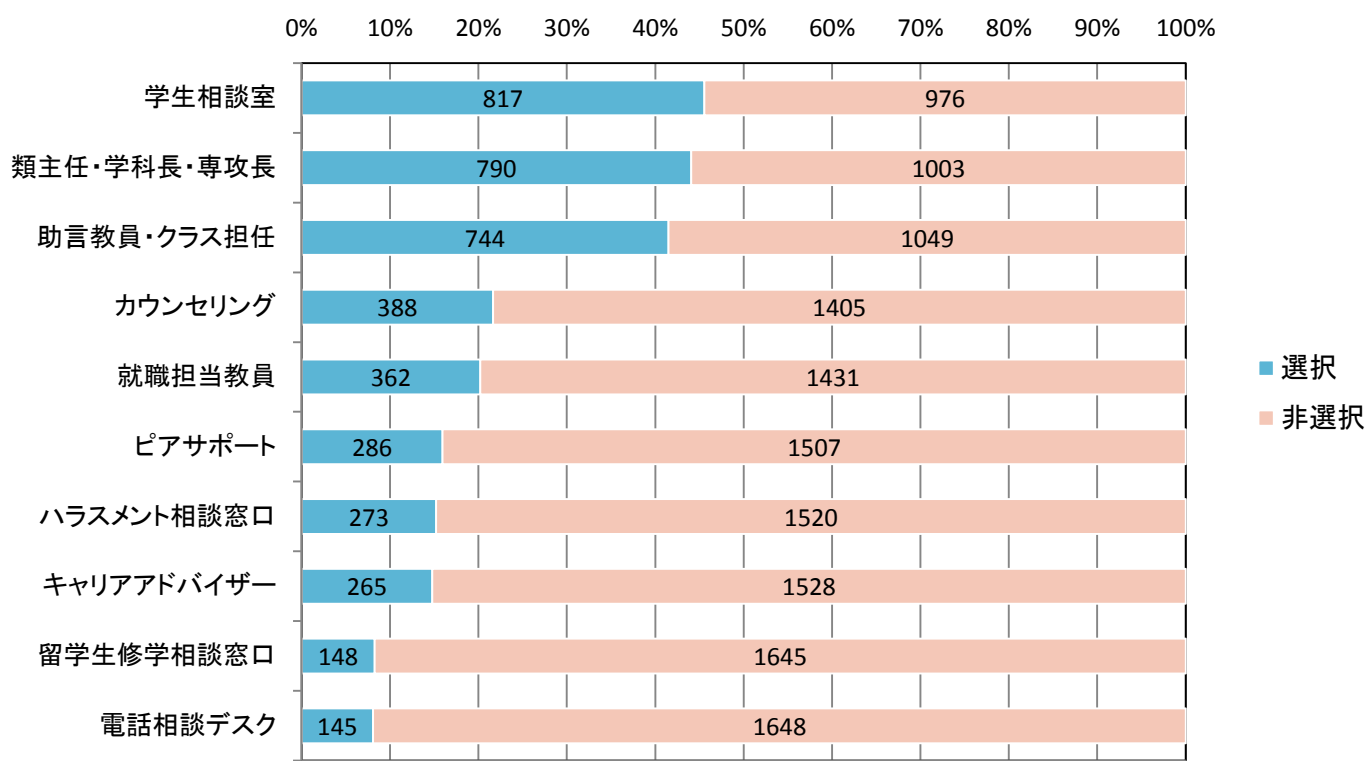


図 7. 4. 25 知っている相談窓口

(26)利用してみたい相談窓口(複数回答可)

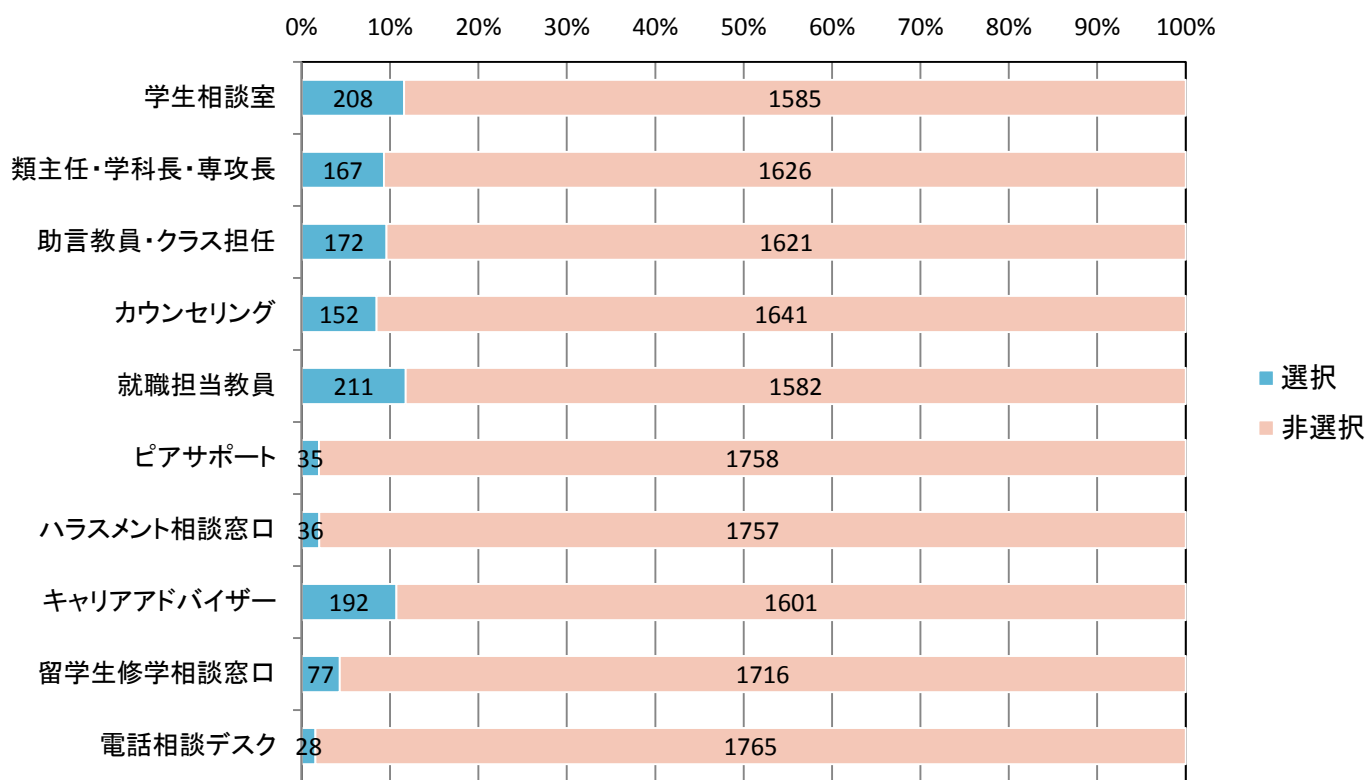


図 7. 4. 26 利用してみたい相談窓口

7. 調査資料集

ハラスメントについてお聞きします。

(27)学内でハラスメント(セクハラ,アルハラ,アカハラ,パワハラなど)を見聞きした体験

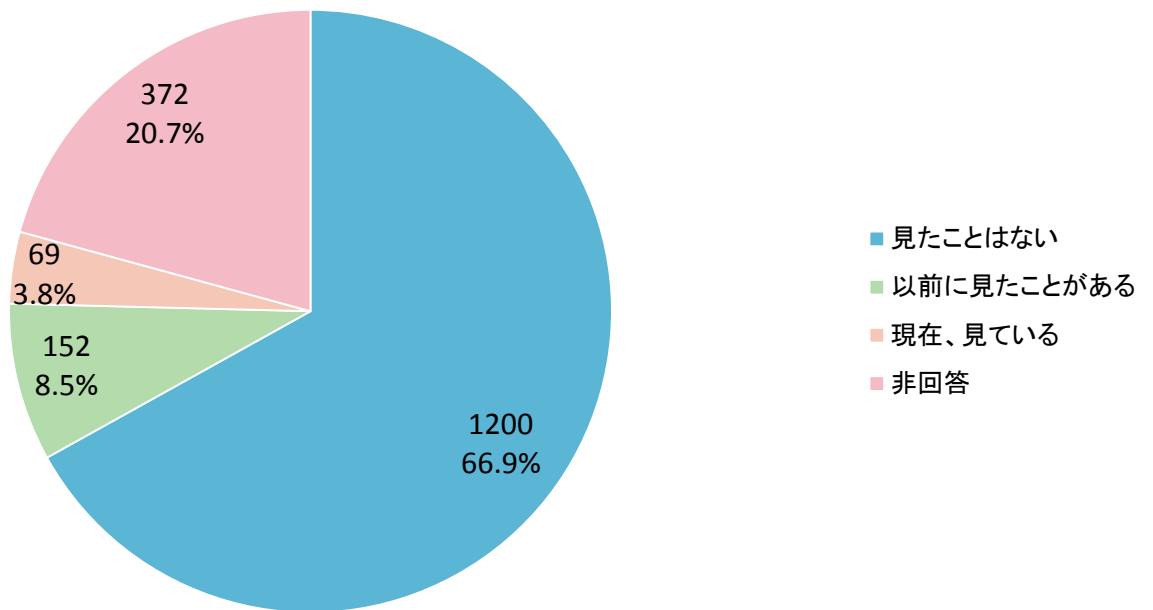


図 7. 4. 27 学内でのハラスメント

防災関連についてお聞きします。

(28)防災についてあてはまるもの(複数回答可)

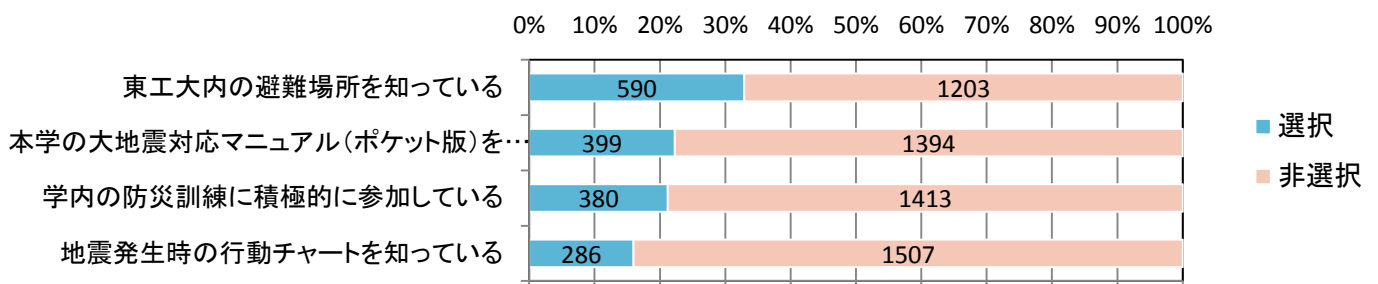


図 7. 4. 28 防災についてあてはまるもの

(29)今年の夏、節電対策として学内で行ったもの(複数回答可)

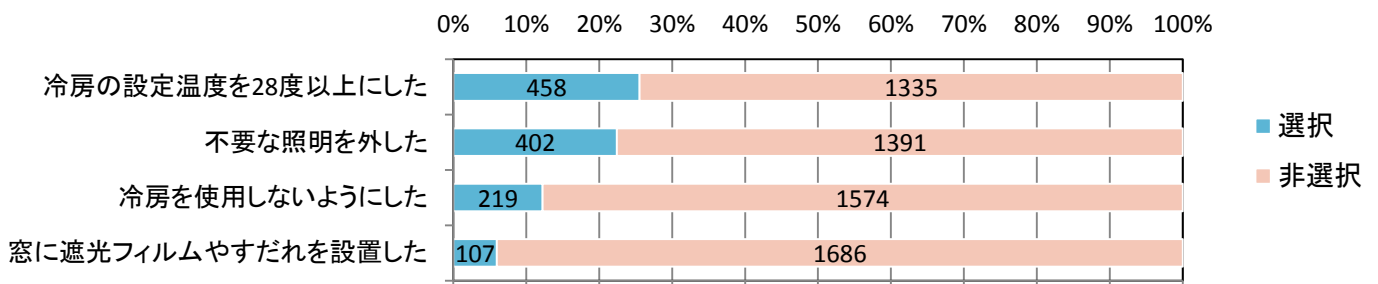


図 7. 4. 29 今年の夏、節電対策として学内で行ったもの

7.5. 設問一覧

○:ラジオボタン □:チェックボックス

【】:ドロップダウンリストの設問(◇は選択肢)

I. 基本情報(必須)

1 あなたはどこでこのアンケートに回答していますか。

○ 学内 ○ 学外

2 学部/大学院

○ 学部 ○ 大学院修士課程 ○ 大学院博士課程 ○ 専門職学位過程 ○ 研究生

3 現課程への入学年度

◇ 2014 ◇ 2013 ◇ 2012 ◇ 2011 ◇ 2010 ◇ 2009 ◇ 2008 以前

4 以下に該当する方はチェックを入れてください。(複数選択可)

□ 高専や他大学に在籍していた □ 留学生である

5 性別

○ 男性 ○ 女性

6 所属

○ 類 ○ 学科 ○ 専攻

【a 所属類】

◇ 1類 ◇ 2類 ◇ 3類 ◇ 4類 ◇ 5類 ◇ 6類 ◇ 7類

【b 所属学科】

<理学部>

◇ 数学科 ◇ 物理学科 ◇ 化学科 ◇ 情報科学科 ◇ 地球惑星科学科

<工学部>

◇ 金属工学科 ◇ 有機材料工学科 ◇ 無機材料工学科 ◇ 化学工学科(化学工学コース)

◇ 化学工学科(応用化学コース) ◇ 高分子工学科 ◇ 機械科学科 ◇ 機械知能システム学科

◇ 機械宇宙学科 ◇ 制御システム工学科 ◇ 経営システム工学科 ◇ 開発システム工学科

◇ 国際開発工学科 ◇ 電気電子工学科 ◇ 情報工学科 ◇ 土木工学科 ◇ 土木・環境工学科

◇ 建築学科 ◇ 社会工学科

<生命理工学部>

◇ 生命科学科(コース未所属) ◇ 生命科学科(生体機構コース) ◇ 生命科学科(分子生命コース)

◇ 生命科学科(生命情報コース) ◇ 生命工学科(コース未所属) ◇ 生命工学科(生命情報コース)

◇ 生命工学科(生物工学コース) ◇ 生命工学科(生体分子コース)

【c 所属専攻】

<理工学研究科>

7. 調査資料集

- ◇ 数学専攻 ◇ 基礎物理学専攻 ◇ 物性物理学専攻 ◇ 化学専攻 ◇ 地球惑星科学専攻
- ◇ 物質科学専攻 ◇ 材料工学専攻 ◇ 有機・高分子物質専攻 ◇ 応用化学専攻 ◇ 化学工学専攻
- ◇ 機械物理工学専攻 ◇ 機械制御システム専攻 ◇ 機械宇宙システム専攻 ◇ 電気電子工学専攻
- ◇ 電子物理工学専攻 ◇ 集積システム専攻 ◇ 通信情報工学専攻 ◇ 土木工学専攻 ◇ 建築学専攻
- ◇ 国際開発工学専攻 ◇ 原子核工学専攻

<生命理工学研究科>

- ◇ 分子生命科学専攻 ◇ 生体システム専攻 ◇ 生命情報専攻 ◇ 生物プロセス専攻
- ◇ 生体分子機能工学専攻

<総合理工学研究科>

- ◇ 物質科学創造専攻 ◇ 物質電子科学専攻 ◇ 材料物理科学専攻 ◇ 環境理工学創造専攻
- ◇ 人間環境システム専攻 ◇ 創造エネルギー専攻 ◇ 化学環境学専攻 ◇ 物理電子システム創造専攻
- ◇ メカノマイクロ工学専攻 ◇ 知能システム科学専攻 ◇ 物理情報システム専攻

<情報理工学研究科>

- ◇ 数理・計算科学専攻 ◇ 計算工学専攻 ◇ 情報環境学専攻

<社会理工学研究科>

- ◇ 人間行動システム専攻 ◇ 価値システム専攻 ◇ 経営工学専攻 ◇ 社会工学専攻

<イノベーションマネジメント研究科>

- ◇ 技術経営専攻 ◇ イノベーション専攻

7. キャンパス内の主な活動場所はどこですか。

- 大岡山地区(東地区,西地区,南地区,北地区) 緑が丘地区 石川台地区 すすかけ台キャンパス
- 田町キャンパス

8. 過去に実施した学勢調査に回答しましたか。

- 回答した 回答していない 憶えていない

【9. 学勢調査 2014 をどこで知りましたか。】

- ◇ 東工大メールニュース ◇ ホームページ ◇ 電子掲示板(ディスプレイ) ◇ 学内掲示板 ◇ ポスター
- ◇ 食堂のポップ ◇ SNS ◇ 知り合いに教えてもらった ◇ 学科や専攻からのメール ◇ その他<自由記述>

II. 生活

【1 片道の通学時間はどのくらいですか。】

- ◇ 15分未満 ◇ 15-30分 ◇ 30-60分 ◇ 60-90分 ◇ 90-120分 ◇ 120分以上

【2 主な通学手段は何ですか。】

- ◇ 徒歩 ◇ 自転車 ◇ 公共交通機関(電車,バス等) ◇ バイク ◇ その他<自由記述>

3 住まいについてお聞きします。

【a 現在の住まいは以下のどれにあたりますか。】

- ◇ 自宅 ◇ 親戚や知人の家 ◇ アパート・マンション(自宅以外) ◇ 寮 ◇ その他<自由記述>

【b (3)で自宅以外に回答した人 一か月の家賃はどのくらいですか。】

- ◇ 0-2万円 ◇ 2-4万円 ◇ 4-6万円 ◇ 6-8万円 ◇ 8-10万円 ◇ 10万円以上

【c (3)で自宅以外に回答した人 一か月の仕送り額(家賃を含む)はどのくらいですか。】

- ◇ もらっていない ◇ 0-2万円 ◇ 2-4万円 ◇ 4-6万円 ◇ 6-8万円 ◇ 8-10万円

- ◇ 10-12万円 ◇ 12-14万円 ◇ 14万円以上

【4 大学にいる際は主にどうやって食事をとりますか。】

- ◇ 弁当を持参 ◇ 学食を利用 ◇ 生協販売の弁当を購入 ◇ 外部の弁当を購入 ◇ 内部のコンビニで購入
◇ 外部のコンビニで購入 ◇ 外食 ◇ 家に帰る ◇ その他<自由記述>

5 普段、自炊、もしくは家庭や寮で調理された食事をどのくらいとっていますか。

【a 自炊】

- ◇ 0%(まったくなし) ◇ 0-20% ◇ 20-40% ◇ 40-60% ◇ 60-80% ◇ 80%以上

【b 寮や家庭の食事】

- ◇ 0%(まったくなし) ◇ 0-20% ◇ 20-40% ◇ 40-60% ◇ 60-80% ◇ 80%以上

6 平日の平均的な時間の使い方を教えてください。

【a 睡眠】

- ◇ 0時間 ◇ 0-2時間 ◇ 2-4時間 ◇ 4-5時間 ◇ 5-6時間 ◇ 6-7時間 ◇ 7-8時間 ◇ 8時間以上

【b 勉強・研究(大学にいる時間を含む, 授業時間は含まない)】

- ◇ 0時間 ◇ 0-2時間 ◇ 2-4時間 ◇ 4-5時間 ◇ 5-6時間 ◇ 6-7時間 ◇ 7-8時間 ◇ 8時間以上

【c 娯楽】

- ◇ 0時間 ◇ 0-2時間 ◇ 2-4時間 ◇ 4-5時間 ◇ 5-6時間 ◇ 6-7時間 ◇ 7-8時間 ◇ 8時間以上

【d 仕事・アルバイト】

- ◇ 0時間 ◇ 0-2時間 ◇ 2-4時間 ◇ 4-5時間 ◇ 5-6時間 ◇ 6-7時間 ◇ 7-8時間 ◇ 8時間以上

7 アルバイトについてお聞きします。

a アルバイトをしていますか。

- 学期中のみ ○ 長期休暇のみ ○ 1年を通して ○ 単発で ○ していない

b どのようなアルバイトをしていますか。

- 家庭教師や塾講師 ○ TA・RA やその他東工大のアルバイト ○ 接客(飲食店・コンビニ・スーパーなど)

7. 調査資料集

派遣・単発 専門技術(プログラミング・翻訳など)

【c 週のアルバイト日数】

1日 2日 3日 4日 5日 6日 7日 決まっていない

【d アルバイトの時間帯】

朝 昼間 夕方から夜 深夜 一日中

【e アルバイトの月収】

0-2万円 2-4万円 4-6万円 6-8万円 8-10万円 10万円以上

f アルバイトの目的

学費生活費のため 社会勉強のため 友人作りのため 時間つぶしのため

趣味や課外活動のため その他<自由記述>

8 サークル、同好会、ボランティアの「現在」および「過去」の活動経験をお教えてください。

a 現在活動している(複数選択可)

文化系サークル 運動系サークル・部活 技術系・ものづくり系サークル 同好会

学外のサークル ボランティア活動

b 過去に活動していた(複数選択可)

文化系サークル 運動系サークル・部活 技術系・ものづくり系サークル 同好会

学外のサークル ボランティア活動

Ⅲ.大学・学科・専攻

【1 東工大生としてプライドをもっていますか。】

◇ 4(とてももっている) ◇ 3(もっている) ◇ 2(少しもっている) ◇ 1(もっていない)

【2 あなたが思う東工大が進むべき方向性を教えてください。】

- ◇ ひとつの専門を極めたスペシャリストを育成する大学 ◇ 理工系全域の見地を持った人材を育成する大学
- ◇ 人文系と理工系など幅広い知識をもったジェネラリストを育成する大学
- ◇ 自主的な活動によって学生の人間性を磨く大学 ◇ 企業に必要とされる人材を世に送り出す就職に強い大学
- ◇ その他<自由記述>

3 東工大をよりよい大学にするために、何が必要だと思いますか。(3つまで選択可)

- 学生の学力の向上 学生の主体性の向上 研究水準の向上 教育水準の向上
- 施設・環境の向上 大学と学生の意思疎通の向上 その他<自由記述>

【4 本学および本学卒業生は国際社会において先導的役割を担っていると思いますか。】

◇ 4(とても思う) ◇ 3(思う) ◇ 2(少し思う) ◇ 1(思わない)

【5 本学で学ぶべき(やりたい)目標をはっきり持っていますか。】

◇ 4(とてももっている) ◇ 3(もっている) ◇ 2(少しもっている) ◇ 1(もっていない)

6 何を行うために大学へ入学しましたか。(3つまで選択可)

- 研究を行うため 教養を身につけるため 就職のため 人脈を作るため
- サークルや部活などの課外活動のため すぐに社会に出たくなかったから
- なんとなく その他<自由記述>

【7 現在在籍している類、研究科、専攻等に満足していますか。】

◇ 4(とても満足している) ◇ 3(満足している) ◇ 2(ほぼ満足している) ◇ 1(満足していない)

8 現在在籍している類、研究科、専攻等に不満がある場合、該当するものにマークしてください。(複数選択可)

- 想定した研究・学習内容と異なっていたから カリキュラムの進度に不満があるから
- 教員に対して不満があるから 施設や環境に不満があるから その他<自由記述>

9 大学や学科・専攻に意見がある場合は記入してください。

IV. 学習

【1 今年度の前期の授業の出席状況はどうでしたか。】

◇ 80-100% ◇ 60-80% ◇ 40-60% ◇ 20-40% ◇ 0-20%

◇ 大学に在籍していなかった ◇ 授業をとる必要がなかった

2 履修申告をした授業に出ない主な理由は何ですか。(3 つまで選択可)

- 講義に魅力がない 講義が理解できない 勉強意欲が起きない 健康上の理由
 朝起きられない 出席と成績は関係ない 研究実験のため サークルや部活のため
 アルバイトのため その他<自由記述>

3 次の項目の中から学部 1 年次の学習意欲向上に有効と思われるものにマークしてください。(3 つまで選択可)

- 学生主体の授業を増やす 専門科目を増やす 教養科目を 2-4 年時で履修できるようにする
 参加型の授業を増やす 研究室体験のような授業を増やす 実施での体験や調査を増やす
 必修を少なくする 自主ゼミを増やす 研究室で行われてるゼミをオープンにする
 クラスごとの不公平を是正する その他<自由記述>

4 他学科や他大学(四大学連合など)の授業の履修状況を教えてください。

【a 他学科の履修】

◇ 履修していない ◇ 週 1 科目程度 ◇ 週 2-3 科目程度 ◇ 週 4-5 科目程度 ◇ 週 6 科目以上

【b 他大学の履修】

◇ 履修していない ◇ 週 1 科目程度 ◇ 週 2-3 科目程度 ◇ 週 4-5 科目程度 ◇ 週 6 科目以上

5 授業等で 1 日の間にキャンパス間を移動することがどの程度ありますか。

【a 大岡山-すずかけ台】

◇ 移動しない ◇ 週 1 回程度 ◇ 週 2-3 回程度 ◇ 週 4-5 回程度 ◇ 週 6 回以上

【b 大岡山-田町】

◇ 移動しない ◇ 週 1 回程度 ◇ 週 2-3 回程度 ◇ 週 4-5 回程度 ◇ 週 6 回以上

【c すずかけ台-田町】

◇ 移動しない ◇ 週 1 回程度 ◇ 週 2-3 回程度 ◇ 週 4-5 回程度 ◇ 週 6 回以上

【d 本学-他大学】

◇ 移動しない ◇ 週 1 回程度 ◇ 週 2-3 回程度 ◇ 週 4-5 回程度 ◇ 週 6 回以上

6 本学の授業・カリキュラムについてどのような印象を持っていますか。

【a 理工系の基礎教育】

◇ 5(充実している) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない) ◇ わからない

【b 理工系の専門科目】

◇ 5(充実している) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない) ◇ わからない

【c 研究者の養成】

◇ 5(充実している) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない) ◇ わからない

【d 人文系の科目】

◇ 5(充実している) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない) ◇ わからない

【e 外国語教育】

◇ 5(充実している) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない) ◇ わからない

【f コミュニケーション能力の向上】

◇ 5(充実している) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない) ◇ わからない

7 本学のカリキュラムに追加してほしい科目がある場合は具体的にご記入してください。

8 本学の学習カリキュラムについて、ご意見がある場合は記入してください。

9 本学での進学についてお聞きます。

a 以下のうちあてはまるものにマークしてください。

博士課程まで進学する予定である 修士課程まで進学する予定である 学部以降は進学する予定でない

b 本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。(3 つまで選択可)

経済的理由 早く社会に出たい 今学んでいる分野を極めたいと思わない

専門が異なる他大学に進学したい 専門が同じでよりレベルの高い他大学に進学したい

研究に興味がない その後の進路に不安になるから その他<自由記述>

c 本学での博士課程進学を選択しないのはなぜですか。(3 つまで選択可)

経済的理由 早く社会に出たい 今学んでいる分野を極めたいと思わない

専門が異なる他大学に進学したい 専門が同じでよりレベルの高い他大学に進学したい

研究に興味がない その後の進路に不安になるから その他<自由記述>

10 留学についてお聞きます。

a 本学入学後に留学経験はありますか。

ある ない

【b 留学したのはどの時期ですか。】

◇ 1 年前期 ◇ 1 年後期 ◇ 2 年前期 ◇ 2 年後期 ◇ 3 年前期 ◇ 3 年後期 ◇ 4 年前期

◇ 4 年後期 ◇ 修士 1 年前期 ◇ 修士 1 年後期 ◇ 修士 2 年前期 ◇ 修士 2 年後期

◇ 博士課程 ◇ その他<自由記述>

c 留学をしたいと思いませんか。

大いにしたい したいと思うができない 機会があればしたい したくない わからない

d 留学をしたくない・できない理由を選択して下さい。(3 つまで選択可)

経済的理由 家庭の事情 語学に自信がない 今の研究・授業を優先する

在学年数が延びることが不安 海外生活に不安がある 就職に不利 興味がない

情報がない その他<自由記述>

11 大学で実施している教育プログラム等についてお答えください。

a 以下のプログラムのうち知っているものにマークしてください。(複数選択可)

四大学連合複合領域コース グローバル理工人育成コース 大学院特別教育研究コース

清華大学との大学院合同プログラム 博士一貫教育プログラム グローバルリーダー教育院

環境エネルギー協創教育院 情報生命博士教育院 グローバル原子力安全セキュリティエージェンツ教育院

7. 調査資料集

b 以下のプログラムのうち参加したいものにマークしてください。(複数選択可)

- 四大学連合複合領域コース グローバル理工人育成コース 大学院特別教育研究コース
 清華大学との大学院合同プログラム 博士一貫教育プログラム グローバルリーダー教育院
 環境エネルギー協創教育院 情報生命博士教育院 グローバル原子力安全セキュリティエージェント教育院

c 大学で実施しているプログラムについて意見がある場合は記入してください。

12. 東工大ポータルについてお聞きます。

a アクセスする際に使用する端末を選択してください。(複数選択可)

- スマートフォン タブレット 自分のコンピュータ 学内のコンピュータ

b SSL-VPN(学内ネットワークアクセス)を利用することがありますか。

毎日利用している 週に1,2回利用している 月に1回程度利用している

利用したことはある 利用したことがない 知らなかった

c 東工大ポータル(メール,教務 Web,OCW-iなど)に対して意見があればご記入ください。

13. 附属図書館についてお聞きます。

a 附属図書館(オンラインサービスを含む)をどの程度利用していますか。

ほぼ毎日 週に3-4日 週に2-3日 週1 月1 ほとんどない

b 附属図書館の利用の主なものにマークして下さい。(3つまで選択可)

- 図書や雑誌の利用 電子ジャーナル電子ブック オンラインサービス 無線LANやPC
 リフレッシュルームでの学習 グループ研究室 DVDの利用 学習スペースの利用
 暇つぶし その他<自由記述>

c 附属図書館に充実させてほしい資料はどのようなものですか。(3つまで選択可)

- 参考書 学術雑誌 専門書 一般教育書 一般雑誌 電子ブック
 電子ジャーナル データベース その他<自由記述>

d 附属図書館に対する要望を自由に記入してください。

14. 授業を受けにくい講義室がある場合、一番受けにくい講義室を教えてください。

15. 学内無線LAN(titech-pubnet)のつながりにくい場所や状況があれば教えてください。

V.施設

1 課外活動施設についてお聞きします。

a 課外活動施設で使用したことがあるものをお答えください。(複数選択可)

- サークル棟 すずかけホール ものづくりセンター ものづくりセンターすずかけ台分館
 百年記念館・博物館 HUB-インターナショナルコミュニケーションズスペース(ICS)
 附属図書館内リフレッシュルーム その他<自由記述>

【b 課外活動施設の充実度を教えてください。】

- ◇ 5(充実している) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない)

2 スポーツ設備についてお聞きします。

a スポーツ設備で使用したことがあるものをお答えください。(複数選択可)

- 大岡山テニスコート すずかけ台テニスコート 屋内プール 大岡山体育館
 大岡山トレーニングルーム すずかけ台トレーニングルーム 大岡山グラウンド
 すずかけ台グラウンド すずかけ台卓球場 その他<自由記述>

【b 上記ほか、スポーツ施設の充実度を教えてください。】

- ◇ 5(充実している) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない)

3 学内の食堂についてお聞きします。

【a 一週間のうち何食を学内の食堂でとりますか。】

- ◇ 0 ◇ 1-2回 ◇ 3-5回 ◇ 6-8回 ◇ 9回以上

【b 価格はいかがですか。】

- ◇ 5(高い) ◇ 4 ◇ 3(適切) ◇ 2 ◇ 1(安い)

【c 質はいかがですか。】

- ◇ 5(おいしい) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(おいしくない)

d メニューについてどう思いますか。該当するものにマークしてください。(3 つまで選択可)

- 値段の安いメニューを増やしてほしい 高くても質の高いメニューを増やしてほしい
 健康志向のメニューを増やしてほしい サツパリ系のメニューを増やしてほしい メニューの数を増やしてほしい
 デザートを増やしてほしい ポリューム重視のメニューを増やしてほしい
 宗教や文化に適應したメニューを増やしてほしい その他<自由記述>

4 学内の弁当販売についてお聞きします。

【a 一週間のうち何食を学内の弁当販売で購入しますか。】

- ◇ 0 ◇ 1-2回 ◇ 3-5回 ◇ 6-8回 ◇ 9回以上

【b 価格はいかがですか。】

- ◇ 5(高い) ◇ 4 ◇ 3(適切) ◇ 2 ◇ 1(安い)

【c 質はいかがですか。】

- ◇ 5(おいしい) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(おいしくない)

d メニューについてどう思いますか。該当するものにマークしてください。(3 つまで選択可)

7. 調査資料集

- 値段の安いメニューを増やしてほしい 高くても質の高いメニューを増やしてほしい
 健康志向のメニューを増やしてほしい サツパリ系のメニューを増やしてほしい
 丼ものではなくご飯とおかずのメニューがほしい メニューの数を増やしてほしい
 弁当向けのメニューを増やしてほしい ポリューム重視のメニューを増やしてほしい
 宗教や文化に適應したメニューを増やしてほしい その他<自由記述>

5 喫煙所についてお聞きます。

a 学内の喫煙所を利用しますか。

- はい いいえ

【b 学内の分煙は十分にできていると思いますか。】

- ◇ 5(十分である) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(不十分である)

6 学内での自転車の利用についてお聞きます。

a 学内で自転車を利用していますか。

- 登録して利用している 利用しているがまだ登録していない 利用していない

【b 駐輪スペースは十分であると思いますか。】

- ◇ 5(十分である) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(不十分である)

7 その他の施設で充実を求めるものを教えてください。

a 個別のスペース

- PC ルーム シャワールーム トイレの美化 個人用ロッカー
 学科専攻等のリフレッシュルーム その他<自由記述>

b 売店など

- コンビニエンスストア レストラン・カフェ 自動販売機 弁当販売
 大学生協 書籍販売 その他<自由記述>

8 学内の施設に関するご意見をご自由にお書きください。

VI. サービス

1 授業や学内行事などの情報について、主な情報源は何ですか。(3 つまで選択可)

- 掲示板・電子掲示板(ディスプレイ) 学科専攻の掲示板 OCW・OCW-i・教務 Web
 学務部の窓口 大学のホームページ 大学の Twitter・Facebook 教員からのメール
 友人 その他<自由記述>

2 学生生活サービスについてお聞きます。

- a 以下の学生生活サービスのうち、実現してほしいもの、いっそう充実してほしいものを最大 5 つまでマークしてください。(5 つまで選択可)

- 奨学金制度 一時貸付金制度 アルバイトの紹介 保険制度 ピアサポート
 クラスや学科・専攻の活動へのサポート 新たに友達ができる企画
 先輩や卒業生と関わることでできるイベント 進路や就職に関する情報が得られるイベント
 インターンシップに関する情報が得られるイベント 留学に関する情報が得られるイベント
 サークル紹介 学生生活のマニュアル ボランティア紹介 セキュリティの強化 事務窓口の一元化

- b 学生生活サービスについて意見があればお書きください。

3 学内の活動についてお聞きます。

- a 経験したことがあるものをマークしてください。(複数選択可)

- TA・RA ピアサポート キャンパスガイド 広報サポーター スクールパートナー ものづくりサポート
 図書館サポーター 学勢調査スタッフ 大学行事のサポート 学内での通訳 IT支援
 女子高校生理工学系進学サポーター(女性のみ) その他<自由記述>

- b やってみたいものをマークしてください。(複数選択可)

- TA・RA ピアサポート キャンパスガイド 広報サポーター スクールパートナー ものづくりサポート
 図書館サポーター 学勢調査スタッフ 大学行事のサポート 学内での通訳 IT支援
 女子高校生理工学系進学サポーター(女性のみ) その他<自由記述>

4 教職員の学生への対応・サービスについてお聞きます。

- 【a 教員の対応は適切ですか】

- ◇ 5(適切である) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(適切でない)

- 【b 事務職員の対応は適切ですか】

- ◇ 5(適切である) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(適切でない)

- c 教職員の対応に関して意見がありましたら記入してください。

5 本学にある様々な相談窓口についてお聞きます。

- a 以下のうち相談窓口として知っているものをマークしてください。(複数選択可)

- ピアサポート 助言教員・クラス担任 類主任・学科長・専攻長 就職担当教員
 留学生修学相談窓口 学生相談室 電話相談デスク ハラスメント相談窓口
 カウンセリング キャリアアドバイザー

- b 以下のうち利用してみたいものをマークしてください。(複数選択可)

7. 調査資料集

- ピアサポート 助言教員・クラス担任 類主任・学科長・専攻長 就職担当教員
 留学生修学相談窓口 学生相談室 電話相談デスク ハラスメント相談窓口
 カウンセリング キャリアアドバイザー

6. ハラスメントについてお聞きます。

- a 学内でハラスメント(セクハラ,アルハラ,アカハラ,パワハラなど)を見聞きしたことがありますか。
○ 以前に見たことがある ○ 現在も見ると ○ 見たことはない
b その時の対応についてご存知であれば教えてください。
c ハラスメント防止策について意見があれば記入してください。

7. 防災関連についてお聞きます。

- a 以下の項目であてはまるものにマークしてください。
 地震発生時の行動チャートを知っている 東工大内の避難場所を知っている
 本学の大地震対応マニュアル(ポケット版)を持っている 学内の防災訓練に積極的に参加している
b 防災に関して大学に求めることがあれば記入してください。

8. 今年の夏、節電対策として学内で行ったものがあればお選びください。(複数選択可)

- 冷房を使用しないようにした 冷房の設定温度を28度以上にした 不要な照明を外した
 窓に遮光フィルムやすだれを設置した その他<自由記述>

VII.最後に

- 1 本学に要望することがあればなんでも自由にご記入ください。
2 学勢調査は学生スタッフによって運営されています。今回の学勢調査に関する意見をお聞かせください。

7.6. Questions of Student Survey 2014 (English)

:radio button :check box
:drop down list (◇ is choices)

I .About yourself(Required)

1 Where are you taking this survey?

- In campus Out of campus

2 Undergraduate / graduate student

- Undergraduate student Graduate student in master's program
 Graduate student in doctoral program Graduate student in professional master's program
 Research student

[3 Enrollment year to the present program]

- ◇ 2014 ◇ 2013 ◇ 2012 ◇ 2011 ◇ 2010 ◇ 2009 ◇ before 2008

4 Please select as appropriate.

- Having attended other university or technical college Overseas student

5 Sex

- Male Female

6 Department

- Group Undergraduate department Graduate department

[a Group]

- ◇ Group 1 ◇ Group 2 ◇ Group 3 ◇ Group 4 ◇ Group 5 ◇ Group 6 ◇ Group 7

[b Department (Undergraduate)]

<Science>

- ◇ Mathematics ◇ Physics ◇ Chemistry ◇ Information Science ◇ Earth and Planetary Science

<Engineering>

- ◇ Metallurgical Engineering ◇ Organic and Polymeric Materials ◇ Inorganic Materials
 ◇ Chemical Engineering (Chemical Engineering Course)
 ◇ Chemical Engineering (Applied Chemistry Course) ◇ Polymer Chemistry
 ◇ Mechanical Engineering and Science ◇ Mechanical and Intelligent Systems Engineering
 ◇ Mechano-Aerospace Engineering ◇ Control and Systems Engineering
 ◇ Industrial and Systems Engineering ◇ International Development Engineering (Old curriculum))
 ◇ International Development Engineering ◇ Electrical and Electronic Engineering
 ◇ Computer Science ◇ Civil Engineering ◇ Civil and Environmental Engineering
 ◇ Architecture and Building Engineering ◇ Social Engineering

<Bioscience and Biotechnology>

- ◇ Bioscience (Not belonged to courses) ◇ Bioscience (Life Science Course)
 ◇ Bioscience (Biological Science Course) ◇ Bioscience (Biological Information Course)
 ◇ Biotechnology (Not belonged to courses) ◇ Biotechnology (Biological Information Course)
 ◇ Biotechnology (Bioengineering Course) ◇ Biotechnology (Biomolecular Engineering Course)

c Department (Graduate schools)

<Science and Engineering>

- ◇ Mathematics ◇ "Physics (Particle-, Nuclear- and Astro-Physics)"
 ◇ Physics (Condensed Matter Physics) ◇ Chemistry ◇ Earth and Planetary Science
 ◇ Chemistry and Material Science ◇ Metallurgy and Ceramics Science
 ◇ Organic and Polymeric Materials ◇ Applied Chemistry ◇ Chemical Engineering
 ◇ Mechanical Science and Engineering ◇ Mechanical and Control Engineering
 ◇ Mechanical and Aerospace Engineering ◇ Electrical and Electronic Engineering
 ◇ Physical Electronics ◇ Communications and Integrated Systems

7. 調査資料集

- ◇ Communications and Computer Engineering ◇ Civil Engineering
- ◇ Architecture and Building Engineering ◇ International Development Engineering
- ◇ Nuclear Engineering
- <Bioscience and Biotechnology>
- ◇ Life Science ◇ Biological Sciences ◇ Biological Information ◇ Bioengineering
- ◇ Biomolecular Engineering
- <Interdisciplinary Science and Engineering>
- ◇ Innovative and Engineered Materials ◇ Electronic Chemistry
- ◇ Materials Science and Engineering ◇ Environmental Science and Technology
- ◇ Built Environment ◇ Energy Science ◇ Environmental Chemistry and Engineering
- ◇ Electronics and Applied Physics ◇ Mechano-Micro Engineering
- ◇ Computational Intelligence and Systems Science ◇ Information Processing
- <Information Science and Technology>
- ◇ Mathematical and Computing Sciences ◇ Computer Science
- ◇ Mechanical and Environmental Informatics
- <Decision Science and Technology>
- ◇ Human System Science ◇ Value and Decision Science
- ◇ Industrial Engineering and Management ◇ Social Engineering
- <Innovation Management>
- ◇ Management of Technology ◇ Innovation

7 In which area of campus do you spend much time of yours?

- Ookayama area (North, South, East or West) Midorigaoka area Ishikawadai area
- Suzukakedai campus Tamachi campus

8 Have you ever taken the previous Student Survey?

- Yes No Don't remember

【9 How did you find out the Student Survey 2014?】

- ◇ Tokyo tech mailnews ◇ Tokyo tech web page ◇ Electronic bulletin board ◇ Bulletin board
- ◇ Poster ◇ Information on the tables in cafeteria ◇ Social network service
- ◇ From a friend or acquaintance ◇ Mailnews from the department etc. ◇ Others <free writing>

II. Your general life information**1 How long does your commuting to school take (one-way)?**

- Less than 15 minutes 15-30 minutes 30-60 minutes 60-90 minutes
 90-120 minutes More than 120 minutes

2 What is your means of transportation for commuting to campus?

- Walk Bicycle Public transportation (train, bus, etc.) Motorcycle Others <free writing>

3 Concerning housing, mark the response that applies to you.**[a Where do you currently live?]**

- At home(with my family) Living with relatives/acquaintances
 Renting an apartment or condominium In a dormitory Others <free writing>

[b How much is your monthly rent?]

- Less than 20,000 yen 20,000 - 40,000 yen 40,000 - 60,000 yen 60,000 - 80,000 yen
 80,000 - 100,000 yen More than 100,000 yen

[c How much is your monthly allowance, including rent, that you receive from your family?]

- None Less than 20,000 yen 20,000 - 40,000 yen 40,000 - 60,000 yen
 60,000 - 80,000 yen 80,000 - 100,000 yen 100,000 - 120,000 yen
 120,000 - 140,000 yen More than 140,000 yen

4 What do you usually eat in campus?

- Food brought from home Food at cafeteria Bento from cafeteria Bento from off-campus stores
 Food from the campus convenience store Food from the off-campus convenience stores
 Eat at off-campus restaurants Eat at home Others <free writing>

5 How often do you eat home-cooked meals(cooked by yourself or your family)?**[a Meals cooked by yourself]**

- 0%(None) 0-20% 20-40% 40-60% 60-80% more than 80%

[b Meals cooked by your family or dormitory staff]

- 0%(None) 0-20% 20-40% 40-60% 60-80% more than 80%

6 On average, how much time per weekday do you spend in the following?**[a Sleeping]**

- 0 hours 0-2 hours 2-4 hours 4-5 hours 5-6 hours 6-7 hours
 7-8 hours More than 8 hours

[b Studying or conducting research (including time spent on campus but excluding time spent on classes)]

- 0 hours 0-2 hours 2-4 hours 4-5 hours 5-6 hours 6-7 hours
 7-8 hours More than 8 hours

[c Leisure]

- 0 hours 0-2 hours 2-4 hours 4-5 hours 5-6 hours 6-7 hours
 7-8 hours More than 8 hours

[d Work or part-time job]

- 0 hours 0-2 hours 2-4 hours 4-5 hours 5-6 hours 6-7 hours
 7-8 hours More than 8 hours

7 Concerning your part-time job, mark the response that applies to you.**a Do you have a part-time job?**

- I work only during the school term. I only work during long vacations.
 I work all through the year. I work only sporadically. No

b What kind of your part-time job?

- Private teacher, cram-school teacher TA, RA, tutor, part-time work at Tokyo Tech
 Customer service (fast food, cafe, izakaya (pub), convenience store, sales, etc.) Temporary jobs
 Work involving specialized skills (programming, website creation, translation, interpretation, etc.)

7. 調査資料集

【c Number of days per week at work】

◇ 1 day ◇ 2 days ◇ 3 days ◇ 4 days ◇ 5 days ◇ 6 days ◇ 7 days ◇ Not fixed

【d Work period】

◇ Mornings ◇ Afternoons ◇ Evenings ◇ Late Night ◇ All day

【e Monthly wage】

◇ Less than 20,000 yen ◇ 20,000 - 40,000 yen ◇ 40,000 - 60,000 yen ◇ 60,000 - 80,000 yen
◇ 80,000 - 100,000 yen ◇ More than 100,000 yen

f Purpose of your part-timer work

To earn tuition and living expenses To experience To make friends
 To make the most of free time To earn money for hobbies and extracurricular activities
 Others <free writing>

8 Concerning your extracurricular activities, mark the response that applies to you.

a You are presently involved in: (Multiple choices are OK.)

Humanities-related Sports-related Tech-related Common-interest groups
 Outside Tokyo Tech Volunteering

b You are involved in in the past: (Multiple choices are OK.)

Humanities-related Sports-related Tech-related Common-interest groups
 Outside Tokyo Tech Volunteering

III. About your department**【1 Are you proud to be a Tokyo Tech student?】**

◇ 4(Yes, a lot)◇ 3(Yes) ◇ 2(Yes, a little) ◇ 1(Not at all)

2 What should Tokyo Tech be you think?

- Raising specialists for a particular field
- Raising persons with a wide sight of science and technology
- Raising generalists who know not only science and technology but also social science and humanities
- Nurturing sense of humanity through encouraging spontaneous activities
- Raising men of talent who are needed by companies Others <free writing>

3 What do you think is needed to improve Tokyo tech?

- Improving students' academic abilities Improving students' independence of mind
- Improving level of research Improving level of education
- Improving facilities and study environment
- Improving interaction between the university staff and students Others <free writing>

【4 Do you believe that this university and its alumni play a leading role in international society?】

◇ 4(Yes, a lot)◇ 3(Yes) ◇ 2(Yes, a little) ◇ 1(Not at all)

【5 Do you have a goal concerning your studies here?】

◇ 4(Yes, a lot)◇ 3(Yes) ◇ 2(Yes, a little) ◇ 1(Not at all)

6 What is your purpose of entering into Tokyo tech?

- To conduct research To broaden my education To get a job
- To create personal connections To be engaged in extracurricular activities
- Just because I didn't want to start working right away For no particular reason
- Others <free writing>

【7 Are you satisfied with the department you are in?】

◇ 4(Strongly satisfied) ◇ 3(Satisfied) ◇ 2(Almost Satisfied) ◇ 1(Dissatisfied)

8 Why are you dissatisfied with your group or department? (Multiple choices are OK.)

- Research/study is different from what I expected.
- I am dissatisfied with the progress of the curriculum by year.
- I am dissatisfied with the faculty members.
- I am dissatisfied with the facilities/environment. Others <free writing>

9 Freely describe your wishes regarding your department.

IV. About study and research

【1 How often did you attend classes the last semester?】

- ◇ 80-100% ◇ 60-80% ◇ 40-60% ◇ 20-40% ◇ 0-20% ◇ I was on leave
◇ I wasn't a student at Tokyo Tech (Admission in September, studying abroad etc.)

2 What is the main reason or reasons that you don't go to class you have registered?

- Lectures are not appealing. Lectures are not comprehensible. I didn't want to study.
 Health reasons The class is held too early in the morning. Attendance is not required.
 Due to my research and/or experiments Circle activities have higher priorities.
 Part-time jobs have higher priorities. Other <free writing>

3 Which of the followings do you think would help increase your motivation to study more in the freshman year?

- Increase student-oriented classes. Increase specialized subjects.
 Don't concentrate liberal arts courses in the freshman year but rather make it possible to take them in the second through fourth years.
 Increase interactive classes with debate and discussion.
 Increase classes with laboratory experiences.
 Increase classes with firsthand research activities and experiences. Reduce compulsory subjects.
 Increase student-initiated seminars. Offer seminars hosted by each laboratory to other students.
 Enhance fairness between classes Other <free writing>

4 Concerning taking classes of other departments or universities:

【a Classes of other department】

- ◇ Taking no class ◇ 1 class a week ◇ 2-3 class a week ◇ 4-5 class a week ◇ More than 6 class a week

【b Classes of other universities】

- ◇ Taking no class ◇ 1 class a week ◇ 2-3 class a week ◇ 4-5 class a week ◇ More than 6 class a week

5 How often do you travel between the campus in one day per week? (for class)

【a Ookayama-Suzukakedai】

- ◇ Not at all ◇ 1 day per week ◇ 2-3 days per week ◇ 4-5 days per week ◇ More than 6 days per week

【b Ookayama-Tamachi】

- ◇ Not at all ◇ 1 day per week ◇ 2-3 days per week ◇ 4-5 days per week ◇ More than 6 days per week

【c Suzukakedai-Tamachi】

- ◇ Not at all ◇ 1 day per week ◇ 2-3 days per week ◇ 4-5 days per week ◇ More than 6 days per week

【d Tokyo tech-Other universities】

- ◇ Not at all ◇ 1 day per week ◇ 2-3 days per week ◇ 4-5 days per week ◇ More than 6 days per week

6 What is your impression on the classes and the curricula of Tokyo Tech?

【a Basic education in science and technology】

- ◇ 5(Satisfactory) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(Unsatisfactory) ◇ I don't know.

【b Specialized subjects in science and technology】

- ◇ 5(Satisfactory) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(Unsatisfactory) ◇ I don't know.

【c Training in research】

- ◇ 5(Satisfactory) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(Unsatisfactory) ◇ I don't know.

【d Subjects in social science and humanities】

- ◇ 5(Satisfactory) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(Unsatisfactory) ◇ I don't know.

【e Education in foreign languages】

- ◇ 5(Satisfactory) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(Unsatisfactory) ◇ I don't know.

【f Improving communication skills】

◇ 5(Satisfactory) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(Unsatisfactory) ◇ I don't know.

7 If you want Tokyo Tech to provide a new specific subject, please describe concretely.

8 Describe your opinion about the curriculum (if you have any).

9 About proceeding to the graduate school.

a You are planning to:

- Go on to the doctoral program Go on to the master's program
 Not to go on to the graduate school

b Why don't you go on to the master's program?

- For a financial reasons I want to quickly enter the working world.
 I don't want to master the current field of study.
 I want to go to another university, where a different field is offered.
 I want to go to another university, where the same specialized field is offered but the level is higher.
 I've lost interest in research. I am concerned about the availability of career opportunities.
 Other <free writing>

c Why don't you go on to the doctoral program?

- For a financial reasons I want to quickly enter the working world.
 I don't want to master the current field of study.
 I want to go to another university, where a different field is offered.
 I want to go to another university, where the same specialized field is offered but the level is higher.
 I've lost interest in research. I am concerned about the availability of career opportunities.
 Other <free writing>

10 About studying abroad.

a Have you ever studied abroad after entering Tokyo Tech?

- Yes No

【b When did you study abroad?】

- ◇ First half of B1 ◇ Second half of B1 ◇ First half of B2 ◇ Second half of B2 ◇ First half of B3
 ◇ Second half of B3 ◇ First half of B4 ◇ Second half of B4 ◇ First half of M1 ◇ Second half of M1
 ◇ First half of M2 ◇ Second half of M2 ◇ Doctoral program ◇ Other <free writing>

c Would you like to study abroad?

- I'd like to. I'd like to, but cannot. If I had a chance. I don't want to. I don't know.

d Select the reason(s) why you don't want to study abroad.

- Financial difficulties. Family reasons. I'm not confident enough with my language ability.
 My priority is the current research or study. I do not want my school years to be extended.
 I am afraid of life in another country It may become a disadvantage when job searching.
 I'm not interested I'm not well-informed. Other <free writing>

11 Concerning educational programs Tokyo Tech offers.

a Which of following programs do you know?

- Confederation of the Four Universities the Special Composite Domain Course
 Global scientists and engineers course Graduate School Special Academic Course
 Tokyo Tech-Tsinghua University Joint Graduate Program Integrated Doctoral Education Program
 Academy for Global Leadership
 Academy for Co-creative Education of Environment and Energy Science
 Education Academy of Computational Life Science
 Academy for Global Nuclear Safety and Security Agent

b Do you want join:

- Confederation of the Four Universities the Special Composite Domain Course
 Global scientists and engineers course Graduate School Special Academic Course
 Tokyo Tech-Tsinghua University Joint Graduate Program Integrated Doctoral Education Program
 Academy for Global Leadership

7. 調査資料集

- Academy for Co-creative Education of Environment and Energy Science
- Education Academy of Computational Life Science
- Academy for Global Nuclear Safety and Security Agent

c Freely describe your opinions regarding the educational programs.

12 About the Tokyo Tech Portal

a You access the Tokyo Tech Portal via:

- Smartphone such as iPhone, Android phone
- Tablet
- Own computer
- Computer on campus

b Do you use SSL-VPN?

- Almost everyday
- Once or twice a week
- Once a month
- I have used it before but not regularly
- I have never used
- I don't know about it

c Freely describe your wishes regarding the Tokyo Tech Portal.

13 About library.

a How frequently do you access the library (including the online services)?

- Almost everyday
- 3-4 days per week
- 2-3 days per week
- Once a week
- Once a month
- Almost never

b Which of the following activities do you use the library for?

- Read books or journals
- Read electronic books or journals
- Use online services
- Use wireless LAN
- Use the refresh room
- Use the group room
- Use DVD
- Use the Studying space
- Kill time
- Other <free writing>

c What kind of reference materials do you wish to see more in the library?

- Textbooks and references for studies
- Academic journals
- Specialized books
- General books
- General magazines
- Electronic books
- Electronic journals
- Database
- Other <free writing>

d Freely describe your wishes regarding the libraries.

14 If there is a classroom you find inappropriate for class, let us know.

15 If there is a place or situation where no good access to titech-pubnet is available, let us know.

V. About the facilities**1 About the facilities for extracurricular activities.**

a Please indicate the facilities for extracurricular activities you have ever used.

- Club building Suzukake Holl Collaboration Center for Design and Manufacturing
 Collaboration Center for Design and Manufacturing at Suzukakedai Tokyo Tech museum
 HUB-ICS Refresh room in library Other <free writing>

【b Are the facilities for extracurricular activities well-equipped?】

- ◇ 5(Yes) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(No)

2 About sports facilities.

a Please indicate the facilities for sports you have ever used.

- Tennis court at Ookayama Tennis court at Suzukakedai Swimming pool Gym
 Training room at Ookayama Training room at Suzukakedai Sport ground at Ookayama
 Sport ground at Suzukakedai Table tennis facilities at Suzukakedai Other <free writing>

【b Are the sports facilities well-equipped?】

- ◇ 5(Yes) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(No)

3 About cafeterias.

【a How often do you eat at the campus cafeteria(s) per week?】

- ◇ 0 times ◇ 1-2 times ◇ 3-5 times ◇ 6-8 times ◇ More than 9 times

【b How about the price?】

- ◇ 5(Expensive) ◇ 4 ◇ 3(Appropriate) ◇ 2 ◇ 1(Cheep)

【c How is the quality of the foods?】

- ◇ 5(Delicious) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(Not delicious)

d What do you think of their menus?

- Want more inexpensive items. Want more tasty items even at higher prices.
 Want more healthy items. Want more non-fatty and non-heavy items.
 Want a wider variety. Want more deserts and sweets. Want to more hearty meals.
 Want more meals appropriate for specific religion or culture. Other <free writing>

4 About bento shop in campus.

【a How often do you buy bento in campus per week?】

- ◇ 0 times ◇ 1-2 times ◇ 3-5 times ◇ 6-8 times ◇ More than 9 times

【b How about the price?】

- ◇ 5(Expensive) ◇ 4 ◇ 3(Appropriate) ◇ 2 ◇ 1(Cheep)

【c How is the quality of the foods?】

- ◇ 5(Delicious) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(Not delicious)

d What do you think of their menus?(Three or less choices are OK.)

- Want more inexpensive items. Want more tasty items even at higher prices.
 Want more healthy items. Want more non-fatty and non-heavy items. Want a wider variety.
 Want more deserts and sweets. Want more meals appropriate for bento. Want more hearty meals.
 Want more meals appropriate for specific religion or culture. Other <free writing>

5 About the smoking area.

a Do you use the smoking areas on campus?

- Yes No

【b Are the areas for smokers and non-smokers appropriately separated in campus?】

- ◇ 5(appropriate) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(Not appropriate)

6 About using of bicycle.

a Do you ride a bicycle in campus?

- Yes, and my bicycle has been registered. Yes, but my bicycle is unregistered. No

7. 調査資料集

【b Is the bicycle parking lot large enough?】

◇ 5(Enough) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(Not enough)

7 Please indicate the facilities you want to be improved.

a Facilities to be improved

PC rooms Shower rooms Clearness of rest rooms Personal lockers Refresh rooms

Other <free writing>

b Stores

Convenience stores Restaurant or cafeterias Vending machines Bento shops Coop

Book stores Other <free writing>

8 If you have any opinion about facilities in campus, let us know.

VI. About services**1 What are your main sources of information regarding classes and other university-related events?**

- Bulletin boards, and electronic bulletin boards, for students Departmental billboards
 OCW·OCW-i·Web system Student Service Department counter Tokyo Tech Website
 Tokyo Tech Twitter or Facebook E-mail from teachers Friends Other <free writing>

2 About services for student life

a Indicate the services you want the university to provide or improve (select up to five)

- Scholarships Emergency loan system Part-time job postings Insurance system
 Peer support system Support from the departmental for class or other activities
 Social events to meet new friends Social events to meet elder students and alumni
 Events to get job and study information Events to get information regarding internships
 Events to get information regarding study-abroad programs Club fairs Manual on campus life
 Volunteer fairs Improving security Central administration office

b If you have any opinion about student life services, let us know.

3 About activities in the campus.

a You have experienced before:

- TA·RA Peer support Campus guide PR support School partner
 Production(Monotsukuri) Support Librarian's support Student Survey staff
 Assistance for university events Interpretation in campus IT support
 Supporters for high school girls who go on to science or engineering(Only female students)
 Other <free writing>

b Indicate the activities you are interested in.

- TA·RA Peer support Campus guide PR support School partner
 Production(Monotsukuri) Support Librarian's support Student Survey staff
 Assistance for university events Interpretation in campus IT support
 Supporters for high school girls who go on to science or engineering(Only female students)
 Other <free writing>

4 About services provided to students by teachers and administrators.

【a Do teachers treat students appropriately?】

- ◇ 5(I think so) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1 (I don't think so)

【b Do the administrative staff treat students appropriately?】

- ◇ 5(I think so) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1 (I don't think so)

c Describe your opinions about services provided to students by teachers and administrators.

5 About consulting service counters Tokyo Tech provides.

a Do you know any of the following consulting service counters?

- Peer Support Faculty advisors, class manager Group head, department head
 Teachers in charge of career consultancy Faculty advisors for international students
 Student guidance Telephone desk Harassment counseling
 Health counseling Career advisors

b Indicate the services you try to use

- Peer Support Faculty advisors, class manager Group head, department head
 Teachers in charge of career consultancy Faculty advisors for international students
 Student guidance Telephone desk Harassment counseling
 Health counseling Career advisors

6 About harassment in campus.

a Have you ever witnessed harassment (including sexual, alcohol, academic, power harassment)?

- Yes I have ○ Yes I am currently witnessing one ○ No

b If you know how the case was dealt with, let us know.

7. 調査資料集

c If you have any suggestion to prevent harassment, let us know.

7 Concerning emergency.

a Select as many as you want:

- I am familiar with the evacuation flowchart.
- I am familiar with the designated evacuation sites in campus.
- I have the Earthquake Response Manual (digest version).
- I participate in the annual emergency drill.

b If you have any request concerning protection against disasters, let us know.

8 Did you take any measures for energy saving this summer?

- I didn't use the air conditioner unless it was too hot. I pre-set the air conditioner to 28°C or above.
- I turned off unnecessary lights. I installed shading films, blinds or screens to the windows.
- Other <free writing>

VII. Lastly

1 Please describe any request to Tokyo Tech.

2 Student Survey 2014 is managed by the Student Staff. Please give us any comments regarding this survey.

8. 自由記述一覧

8.1. 学習関連項目

III2. あなたが思う東工大が進むべき方向性を教えてください。(その他自由記述)

- i. 学生が自由に自身の進む方向性を選択でき、幅広いタイプの人材を育てる大学 (同意見数 8 件)
 - ▶ この設問の選択肢に存在するすべてのタイプの人材を輩出できる大学。
 - ▶ ひとつの分野を極めるか多分野の見地を持ちたいと思うかは個人の感性の問題なので、どちらにも進める大学であればよいと思います。
- ii. 専門分野についてはスペシャリストであり、専門外にも幅広い知識を持つ人材を育てる大学 (同意見数 7 件)
 - ▶ 専門のスペシャリストであるが文理で広い見地を持った人間を世に出す大学。
 - ▶ 広範な知識を持ち、かつ最低一分野の高い専門性を持つ人材を育てる大学。
- iii. 高い専門知識を持ち、社会の動向を把握できるような人材を育てる大学 (同意見数 3 件)
- iv. 高い専門知識を持ち、人に教える能力やコミュニケーション能力も備えた人材を育てる大学 (同意見数 3 件)

III6. 東工大をよりよい大学にするために、何が必要だと思いますか。(その他自由記述)

- i. 女子学生の増加 (同意見数 15 件)
 - ▶ 男女比率の均衡化
 - ▶ 女子が増えるようにしてほしいです。
- ii. 学生間の交流 (同意見数 7 件)
 - ▶ 学生間の繋がりをもっと密にする。
 - ▶ activities between students from different department
- iii. 教員の事務作業の軽減 (同意見数 5 件)
 - ▶ 教授陣の事務作業負担の低減。先生はもちろん学生のために時間を作って下さいますが、こちらが見ていて気を使ってしまいたくなる程です。
- iv. 教員の意識改革 (同意見数 4 件)
 - ▶ 先生の意識の向上(幅広い考えを持った先生の育成)
 - ▶ 先生方の自分の教育に対する態度の向上
- v. 知名度の向上 (同意見数 4 件)
- vi. 教員と学生間のコミュニケーション (同意見数 3 件)

8. 自由記述一覧

Ⅲ6. 何を行うために大学へ入学しましたか。(その他自由記述)

- i. やりたいことや目標を見つけるため (同意見数 6 件)
 - ▶ 目標を見つけるため
 - ▶ 自分には何が向いているか考えるため
- ii. 研究能力を身につけるため (同意見数 4 件)
 - ▶ 研究者として必要な知識・技術を身につけるため
 - ▶ 研究を遂行する能力を向上させるため
- iii. 専門知識を身につけるため (同意見数 3 件)

Ⅲ8. 現在在籍している類、研究科、専攻等に不満がある場合、該当するものにマークしてください。(その他自由記述)

- i. 所属先が自分には合わなかった・興味が変わった。 (同意見数 13 件)
 - ▶ 類の学習内容をよく知らずに選んでしまい、後悔しています。
 - ▶ 研究をしているうちに別の専攻に興味が出ました。
- ii. 生活が忙しすぎる。 (同意見数 7 件)
 - ▶ 趣味や娯楽の時間をうまくつくれません。
 - ▶ 忙しすぎます。受けたい授業が受けられません。
- iii. 所属先の事務手続き・連絡が不十分である。 (同意見数 6 件)
 - ▶ 学位取得の具体的な手続きに関する説明を早い段階から徹底してほしいです。
 - ▶ 他専攻研究室であるからか、連絡が雑なところ。専攻内での風習・伝統などの共有ができていません。
- iv. 学習内容が実践的でない。 (同意見数 5 件)
 - ▶ 自由に実験器具が使えるような環境がほしいのです。(有機実験とか)
 - ▶ 実際に電子回路を授業で扱える時間が短すぎます。
- v. 態度の悪い学生がいる (同意見数 5 件)
 - ▶ 在籍している学科の他のメンバーが授業中も騒がしくストレスが溜まります。
- vi. 就職支援が不足している (同意見数 4 件)
 - ▶ 就活支援が徹底していません。
 - ▶ 就活に関する情報が十分入らないから。
- vii. 自分の希望と異なる場所へ所属してしまった (同意見数 4 件)
 - ▶ 行きたかった類ではなく、転類もできなかったから。
 - ▶ 他の専攻の研究室をもともと希望していたため。
- viii. 研究室の拘束時間が長い。 (同意見数 3 件)
- ix. 外部との交流が不十分である。 (同意見数 3 件)
- x. カリキュラムの自由度が低い。 (同意見数 3 件)

III9. 大学や学科・専攻に意見がある場合は記入してください。(その他自由記述)

- i. 学生間の繋がりをもっと増やしてほしい。(同意見数 9 件)
- ▶ The department does not have activities to connect students from different labs. We hardly know others even in a same floor.
 - ▶ (専攻に対して)研究室間での研究交流が少なく、それが研究や指導の非効率を生み出しているように思います。
 - ▶ 専門の異なる人と協力して課題に取り組む体制を類や学科の頃から身につけられるカリキュラムの導入を求めます。
- ii. 南 5 号館の講義室が狭い。(同意見数 7 件)
- ▶ 制御システム工学科は主に南 5 で授業を受けますが、受講人数に対して教室が明らかに狭いです。
 - ▶ 南5号館の教室が非常にせまくて授業を受け辛い上、構造上、後ろの席から前の黒板がかなり見にくいです。
- iii. 学科・教員からのメールに英語も載せてほしい。(同意見数 6 件)
- ▶ More emails should be written in both English and Japanese for improved communication in the department. This will dramatically help foreign students and also Japanese students alike.
 - ▶ The information from department should attach English translation so it can accommodate International Students.
- iv. 学生の学習サポートの充実 (同意見数 6 件)
- ▶ 授業についていけなくなることもしばしばなのでもっと学習面で気軽に利用できるようなサポートが欲しいです。1年の時は1年生のための数学相談室を利用する事でなんとか理解を進める事ができましたが、現在はそのような気軽に、毎日設置されているような環境がないので困っています。
- v. 24 時間利用可能な学習スペースが欲しい (同意見数 4 件)
- ▶ 図書館を 24 時間開けてほしいです。
 - ▶ 学部生の勉強のために 24 時間開いている自習室を作るべきです。
- vi. 教科書などを保管できるロッカーがほしい (同意見数 4 件)
- ▶ 白衣及び教科書を入れるためのロッカーが欲しいです。体積を取るのを持ってくるのに一苦労します。

IV2. 履修申告をした授業に出ない主な理由は何ですか。(その他自由記述)

- i. 就職活動のため。(同意見数 12 件)
- ii. 学会のため。(同意見数 7 件)
- iii. 内容が安易なため。(同意見数 4 件)
- ▶ 簡単すぎて行く必要がありません。
 - ▶ 教科書読めば分かるからです。
 - ▶ 元から授業内容を理解しているから出る必要がありません。
- iv. 社会人のため (同意見数 3 件)

8. 自由記述一覧

IV3. 次の項目の中から学部 1 年次の学習意欲向上に有効と思われるものにマークしてください。(その他自由記述)

- i. 単位取得条件を厳しくする (同意見数 8 件)
 - ▶ 厳しくする、勉強しないと単位を取れなくする。
 - ▶ 単位認定の基準が甘い授業がとても多いので、勉強しなくても単位や点数をとることができる現状が問題だと思われれます。具体的には過去問をそのまま出題している科目や、中には出席するだけや先輩などにもらったレポートを書き直して提出するだけで高得点が取れる授業があります。
 - ▶ 追試をなくす(真面目に勉強しないと単位が取れないような体制を作る)
- ii. 単位の取得を容易にする (同意見数 3 件)
 - ▶ 単位の取得を容易な授業にする。
 - ▶ 授業を増やして、単位をあまめにする。
 - ▶ 大学 1 年次であるからこそ少し甘いくらいで演習を作成することで「わからない」「面倒くさい」という理由での学習意欲低下は防げると考えられる。
- iii. 課題を増やす。 (同意見数 3 件)
- iv. 演習の機会を増やす。 (同意見数 5 件)
- v. 必修を増やす (同意見数 3 件)
- vi. 他学科・専攻の科目を受講しやすくする (同意見数 3 件)
 - ▶ 他専攻の科目を受講できるよう、卒業要件から自専攻の割合を少なくする。
 - ▶ 何年からでも他の専門科目も取れる状態
 - ▶ 学科所属の自由度を上げる(1 年時に他学科の教養科目を取り、興味を持ったとしても、移るのが難しいのでは意味がない)。
- vii. 英語で開講される講義を増やす。 (同意見数 4 件)
 - ▶ Increase the number of courses in English.
 - ▶ More English classes.
 - ▶ english classes with guest lecturers.

IV7. 本学のカリキュラムに追加してほしい科目がある場合は具体的にご記入してください。(自由記述)

- i. 芸術 (同意見数 5 件)
 - ▶ 文系の科目に芸術・音楽系を増やしてほしいです(文明科目等以外にも)。
 - ▶ 芸術科目(音楽・書道・美術など)
 - ▶ デッサンや色彩の能力を鍛えるような授業がほしいです。そのようなところでどうしても芸術系大学に勝てなくなってしまう。
- ii. 英語での物理・化学 (同意見数 4 件)
 - ▶ アメリカ、ドイツなどの海外における高校英語、数学、物理などの授業を開講して欲しいです。実際に、海外の高校の先生を連れてきていただけないでしょうか。
 - ▶ 英語での物理や化学の講義であればなんでも良いです。
 - ▶ Solid state physics in English
- iii. ビジネス系の授業 (同意見数 6 件)
 - ▶ ビジネスマインドを醸成する科目

- ▶ 起業に関する科目
 - ▶ 企業とのインターン
- iv. 第二外国語の充実 (意見数 計 20 件)
- ▶ 第二外国語科目の種類を増やしてほしいです (同意見数 5 件)
 - ▶ スペイン語 (同意見数 11 件)
 - ▶ 韓国語 (同意見数 4 件)
- v. 経済学 (同意見数 9 件)
- ▶ 束論, 圏論, 位相数学を用いた経済学
 - ▶ 政治経済学(数理政治学)、公共経済学
 - ▶ 経済学、経営学など
- vi. 心理学 (同意見数 3 件)
- ▶ 心理学、メンタルを強化する科目
 - ▶ 心理学及び経済学及び世界史
 - ▶ 文系科目としての、心理学の復活。および理論言語学(2013 後期)の畠山教授の理論言語学の復活。
- vii. 特許・知的財産権に関する講義 (同意見数 3 件)
- ▶ 特許権にかかわる講義の充実
 - ▶ 知的財産や特許に関する科目を全学必修、もしくは各キャンパスで受講できるようにしてほしいです。
 - ▶ 知的財産
- viii. 歴史 (同意件数 計 8 件)
- ▶ 歴史(同意見数 3件)
 - ▶ 日本史(同意見数 2 件)
 - ▶ 世界史(同意見数 2 件)
 - ▶ 西洋史
- ix. 政治についての講義 (同意見数 3 件)
- ▶ 日本のこと(歴史や政治など)を知る授業とそれを議論する機会
 - ▶ 社会人として常識とされる程度に政治・歴史を理解するための基礎知識を学ぶ科目
 - ▶ History of Technology, Politics of Japan, Economy of Japan.
- x. 基礎的なプログラミングの講義 (同意見数 4 件)
- ▶ 専門科目とその解析に要するプログラミング等の基礎科目
 - ▶ 素人でも継続して授業を受け続ければ、きちんとしたプログラミングや電子工作など技術を身につけられるような授業。
 - ▶ UNIX 入門、TeX で美しい文書を作成する、GitHub 等のコーディング関連のツールの講習
- xi. 宗教学 (同意見数 4 件)
- ▶ 宗教の授業。特に日本文化に大きな影響を与えた儒教、仏教、神道の授業。
 - ▶ 宗教学
 - ▶ Study of Religion.

8. 自由記述一覧

IV8. 本学の学習カリキュラムについて、ご意見がある場合は記入してください。(自由記述)

- i. 必修による制限の緩和 (同意見数 14 件)
- ▶ 必修の縛りが大きすぎる気がします。もっと他学部や他学科・他専攻の授業を自由に取れるようにしていただきたいです。
 - ▶ 学科ごとの選択必修がほぼ必修のようになっていることから他学科の授業がなかなかとりにくい状況であるので学科の卒業要件に他学科科目を入れられるようにしてほしいです。
 - ▶ 複合領域や他大学との単位互換を積極的に勧めながら、時間割がそれに適していないので、利用しづらいです。
- ii. 英語の授業数の増加 (同意見数 7 件)
- ▶ 英語は最低週 2 回行うべきです。世界に飛び出す英語力は現状のままでは到底身につけません。
 - ▶ 英語については必修を増やす、学部 3 年前期の英語 5 だけではなく毎回 TOEIC などの外部試験で成績評価する、単位認定の基準点を上げるといった形で強制的に学ばざるを得ない状況に学生を追い込んでも構わないと考えます。
 - ▶ 英語の授業が圧倒的に足りないと思います。海外で活躍できる人材を育成するならば、より時間を割くべきです。
- iii. 講義の英語化 (同意見数 6 件)
- ▶ 英語開講科目の増加を希望します。大学院で日本語開講科目は不要です。
 - ▶ 英語の本で授業が行われて欲しいです。MIT と CALTECH を目指している東工大がグローバル化を目標としているところで、授業で英語を一切使っていないことはそれに矛盾していると思います。
 - ▶ Better to conduct all classes in English. It will be a good opportunity for Japanese student rather than international students to interact with the world. If you do not conduct classes in English, Japanese students never be able to improve themselves to global level.
- iv. 講義の日本語化 (同意見数 3 件)
- ▶ 専攻の講義(とくに専門科目)を無理に英語化する必要はないと思います。こちらとしてよくわからないことや初見のものを英語で説明されたってこちらはわかりません。
 - ▶ 英語教育が十分になされていないのに大学院の授業をすべて英語で行なうのは学生の負担が大きすぎると思います。
 - ▶ Most of the lectures given in English are not as good as those in Japanese.
- v. 文系の必要単位数の減少 (同意見数 6 件)
- ▶ 文系を 18 単位取らなければ卒業出来ないシステムは負担が大きいです。
 - ▶ 文系科目の必要単位が多いです。
 - ▶ 卒業に必要な文系科目が多すぎます。

8.2. サービス関連項目

IV9(b). 本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。(その他自由記述)

- i. 他大の研究室に所属するため。 (同意見数 4 件)
- ▶ 進学したい研究室があり、東工大からは所属できないため。
 - ▶ 他大に進学するため。
 - ▶ 他大学院で興味のある分野の研究が行われている。

IV9(c). 本学での博士課程進学を選択しないのはなぜですか。(その他自由記述)

- i. 就職で不利になるため。 (同意見数 8 件)
- ▶ 就職が悪いため、博士課程がつからそうです。
 - ▶ 大学院からの就職が困難であるためです。
 - ▶ 博士課程まで進むとむしろ就職に不利と聞いたことがあるからです。
- ii. 自信がないため。 (同意見数 9 件)
- ▶ 博士課程に進んで、やっていけるほどの自信がないです。
 - ▶ 博士課程でやっていける気がしないです。
 - ▶ 成功できる自信がないです。
- iii. 一度社会に出てみたいため。 (同意見数 3 件)
- ▶ 本当に役に立つ研究がなんであるかは、一度社会に出なければわからないと思いました。ただだと博士まで進んでも社会貢献できないと思いました。
 - ▶ 一度社会に出てから博士を考えたいです。
 - ▶ 一度社会にでたいためです。
- iv. 留学を考えているため。 (同意見数 3 件)
- ▶ 留学を考えているからです。
 - ▶ 海外留学したいです。

IV10(d). 留学をしたくない・できない理由を選択して下さい。(その他自由記述)

- i. 部活動など課外活動を優先するため。 (同意見数 3 件)
- ▶ 部活動など課外活動を優先します。
 - ▶ サークル活動が充実しすぎているためです。
 - ▶ 部活動。
- ii. 必要性を感じないため。 (同意件数 4 件)
- ▶ 留学するメリットが曖昧なまま留学の文字が独り歩きしているように感じます。つまり中身がないです。
 - ▶ 必要性を感じません。国内でできることをまずはしたいです。
 - ▶ 語学留学を除き、学部生のうちに理工系科目を学ぶためにわざわざ海外に留学する意義を全く感じません。

IV11(c). 大学で実施しているプログラムについて意見がある場合は記入してください。(自由記述)

- i. プログラムがよく分からない。 (同意見数 8 件)
- ▶ よく分からないプログラムが多いです。

8. 自由記述一覧

- ▶ プログラムのメリットがわかりづらいです。
- ▶ 情報がなさすぎです。もっと周知させるべきです。

ii. 学生の負担が大きい。 (同意見数 11 件)

- ▶ 私の後輩がグローバルリーダー教育院に在籍していますが、研究をする時間がまったくとれていません。本当ならじっくり基礎学力を養う時期であるべき長期休暇中にも海外に行ってしまうています(しかも2回も)。本業であるべき研究を割くべきほどのカリキュラムがあるなら、学科と研究室を立ち上げて取り組んでほしいです。
- ▶ 研究との両立が難しい。学生の負担が大きい。(特にキャンパスがすすかけ台の場合)
- ▶ 博士学生に、企業でのキャリアを育てるためのプログラムを押し付けるのはよくないと思います(アカデミックキャリアを積みたい人も多いので)。研究の時間が減り、何の役にも立っていません。

iii. 研究の推進 (同意見数 3 件)

- ▶ 研究を重視したコースを充実させてほしいです。
- ▶ 研究を強く推進して欲しいです。
- ▶ 本当に大学の評価を高めるのであれば、例えば京都大学のIPSのように、突き抜けた研究成果で一点突破すべきだと思います。

iv. 修士学生向けの教育プログラム (同意見数 3 件)

- ▶ 修士学生向けのプログラムもほしいです。
- ▶ どれも博士課程向けのプログラムばかりで、修士の学生が参加できるプログラムが少ないです。
- ▶ 博士進学者ばかりではなく、学部や修士を対象とプログラムがたくさんあるべきだと思います。

v. 四大学連合の距離・時間的制約 (同意見数 10 件)

- ▶ 四大学連合複合コースをとっているが、カリキュラムが厳しすぎて東京外国語大学へ行ける時間が全くないです。
- ▶ 以前四大学連合コースに所属していたが、本学の授業(主に必修)と重なることが多く、結局履修し終えませんでした。より積極的に参加しやすい制度になることを願います。
- ▶ 四大学連合は東工大で他学科科目が取りにくいような現状を改善しない限りはみながほぼ同じ科目を取って修了するような状況は変わらないと思います。

vi. グローバル理工人育成コースの意義 (同意見数 9 件)

- ▶ グローバル理工人がなんなのかよく分かりません。
- ▶ 「グローバル化/グローバルな人間」が何なのか分かりません。とりあえず日本でないことに価値があるのでしょうか？
- ▶ グローバル理工人入門の授業が何を目的としているのかわかりません。

VII.1. 本学に要望することがあればなんでも自由にご記入ください。(自由記述)

i. 講義の日本語化 (同意見数 3 件)

- ▶ 日本語で理解できないことが英語で理解できるわけがありません。そもそも日本という国は高等教育を母国語で行える数少ない国なのであるからそのアドバンテージを生かすことをまずは考えるべきです。
- ▶ 特に大学院の改革についてですが、専門科目の内容はまず日本語でできるべきです。英語で授業などしないで日本語で教育するべきです。東工大は日本の大学です。日本語で講義するべきです。
- ▶ 英語の拙い教員に英語で講義をさせるのはやめてほしいです。

ii. 学院制度の再検討 (同意見数 4 件)

- ▶ 大学院生の学力低下に繋がるため、大学院入試の撤廃はやめるべきです。学院設置の必要性も効果も感じません。▶ 現学長が掲げている東工大の新教育方針を撤廃し、2016 年度からも従来のシステムでの教育を行うことを強く要望します。
- ▶ 修士を 6 年未満で取れるようにする制度に変えてしまうと、研究室に所属する期間が短くなり、研究者の育たない大学になってしまうと思うので、焦らずにもう少しゆとりのあるカリキュラムで良いのではないかと思います。

8.3. 施設関連項目

V7(a). 充実してほしい施設（その他自由記述）

- i. フリースペースを充実してほしい。 (同意見数 20 件)
 - ▶ 他学科, 他専攻の友人と気軽話せるリフレッシュルームを開設してほしいです。
 - ▶ 会議など開ける広いフリースペース。
 - ▶ 学生が自由に話し合いできる場所。
- ii. 仮眠室を設置してほしい。 (同意見数 11 件)
 - ▶ 休憩室(仮眠がとれるような)。
 - ▶ 仮眠スペース
- iii. 礼拝室を設置してほしい。 (同意見数 10 件)
 - ▶ Prayer room for muslim students.
 - ▶ mosque in the campus.
 - ▶ Prayer room.
- iv. 部室棟・サークル棟を充実してほしい。 (同意見数 9 件)
 - ▶ 部室の拡張、広い課外活動用教室
 - ▶ サークル棟が少ないです。特に200人を超える部員がいて、その特性から大型の工作機械を部室においているロボット技術研究会は部室が狭すぎます。
 - ▶ サークル棟
- v. 駐輪スペースを充実してほしい。 (同意見数 6 件)
 - ▶ 本館南のスペースは現在柵で囲まれて完全なデッドスペースとなっています。駐輪場として整備すべきだと思います。
 - ▶ 屋根のある駐輪場が少ないと思う。
 - ▶ サークル棟駐輪場
- vi. 喫煙所を充実してほしい。 (同意見数 16 件)
 - ▶ smoking area, bench is needed.
 - ▶ praying room.
 - ▶ 喫煙ルーム
- vii. テニスコートを充実してほしい。 (同意見数 6 件)
 - ▶ テニスコートはあるのですが、利用できる機会がほとんどないのでもっと利用できるようにしてほしいです。
 - ▶ 学生が利用できるテニスコート
 - ▶ 大岡山テニスコート(北地区)の改修
- viii. 学習スペースを充実してほしい。 (同意見数 6 件)
 - ▶ 図書館の閉館後も長時間利用できるような学習スペースがほしいです。
 - ▶ 24 時間利用可能な学習スペース。
 - ▶ 友達と話し合いながら勉強するようなスペース
- ix. ものづくり教育研究支援センターを充実してほしい (同意見数 5 件)
 - ▶ ものづくり教育研究支援センター
- x. トレーニングルームを充実してほしい (同意見数 4 件)
 - ▶ 体育館の更衣室を広くしてほしいです。授業前後は芋洗い状態となっています。

8. 自由記述一覧

- ▶ トレーニングルームの機器を増やしてほしいです。
- xi. 宿泊施設を充実してほしい (同意見数 4 件)
 - ▶ 研究室在籍者の宿泊スペースを設置してほしいです。
 - ▶ 低価格、もしくは無料の宿泊施設。あるいは、仮眠室。
- xii. トイレを設備してほしい (同意見数 4 件)
 - ▶ 本館のトイレが汚いです。
 - ▶ サークル棟のトイレにトイレトーパーがないです。
 - ▶ 石川台 6 号館や 1 号館など古い建物のトイレをリフォームして欲しいです。
- xiii. 浴場・シャワー室を充実してほしい。 (同意見数 3 件)
 - ▶ shower room at gym with door or curtain to close.
 - ▶ 浴槽のある浴場
- xiv. すずかけ台キャンパスにプールを設置してほしい。 (同意見数 3 件)
 - ▶ すずかけ台にプールが欲しい。

V7(b). 売店など (その他自由記述)

- i. カフェ・coffee shop を充実させてほしい (同意見数 6 件)
 - ▶ 外部空間に面した簡単な売店やカフェ(外部空間と一体整備しなければ不要)
 - ▶ Coffee Shop
 - ▶ 紅茶や珈琲を提供するともっと落ち着いて相談できそうに思います。

VII1. 本学に要望することがあればなんでも自由にご記入ください。(自由記述)

- i. 礼拝室を設置してほしい。 (同意見数 28 件)
 - ▶ An appropriate prayer room for tokodai's muslim student.
 - ▶ I hope titech will open a mosque so that many moslem can pray more comfortably.
- ii. フリースペース・リフレッシュルームを開放・増設してほしい (同意見数 16 件)
 - ▶ 大学全体として部屋が不足しているのは知っていますが、やはり空いている講義室以外に気軽に利用できるフリースペースがほしいです。
 - ▶ 本館などのリフレッシュルームは 17 時までしか使えず、8 時限目の授業が終わった後ではほとんど利用できず困っています。警備上の都合もあると思いますが、よろしくお願いします。
 - ▶ Please add refreshment room in Main Bulding 3rd floor.
- iii. 飲食店を誘致してほしい (同意見数 16 件)
 - ▶ 学内の売店を増やしてほしいです。セブンイレブンだけだと飽きてしまいます。
 - ▶ 南地区に牛丼屋とスタバをいれてほしいです。
 - ▶ コンビニを1食の近くにも設置してほしいです。
- iv. 寮について改善してほしい (同意見数 9 件)
 - ▶ 安価な学生寮を増やしてほしいです。
 - ▶ 4年制の寮を作って欲しいです。
 - ▶ 国内の地方出身学生向けの寮を大学近くに建ててほしいです。
- v. 駐輪場の改善 (同意見数 7 件)
 - ▶ 自転車置き場の充実
 - ▶ 屋根のある駐輪場をもっと増やしてほしいです。

- ▶ サークル棟前に駐輪場がほしいです。
- vi. すすかけ台の食事情の改善 (同意見数 6 件)
 - ▶ すすかけ台キャンパス内に一般のコンビニ(大岡山のようにセブン)や外部からの弁当販売を許可してほしいです。休日学校に来ると食べ物がありません。
 - ▶ すすかけ台キャンパスに飲食店を増やして欲しいです。
 - ▶ すすかけ台キャンパスの食糧事情の改善をお願いします。研究のモチベーションに大きく影響を及ぼします。
- vii. ゴミの散乱について (同意見数 5 件)
 - ▶ セブンイレブンの裏のゴミ箱(南 2 号階入り口)付近によくゴミが散乱していて非常に不快です。ゴミ箱のキャパを増やすか、もう撤去してしましてほしいです。
 - ▶ グラウンド横のサークル棟の入り口にごみが散らばっていることがしばしばあるのでどうかしてほしい。
 - ▶ セブンイレブン横喫煙所付近のゴミ箱のごみが散乱していることがあるので何とかしてほしい。
- viii. シャワールームの増設・開放 (同意見数 4 件)
 - ▶ シャワールームの増設
 - ▶ 一食上のサークル等にシャワールームを設けていただきたいです。
 - ▶ 学生が自由に利用できるシャワールーム
- ix. 体育館を利用しやすくしてほしい (同意見数 4 件)
 - ▶ 体育館施設全般の充実化
 - ▶ It would be nice to prolong the work time of training rooms as much as possible.
 - ▶ easiness to access the gym for international students.
- x. 禁煙化を進めてほしい。 (同意見数 23 件)
 - ▶ 学内を全面禁煙にしてください。(中略)どうしても喫煙したい人がたくさんいるなら、誰も近づかないような場所に、強力な空気清浄機を設置した密室の喫煙所を作って下さい。それが予算的に無理ならば、全面禁煙にしてください。
 - ▶ 全面禁煙化。
 - ▶ 喫煙所は隔離して欲しいです。
- xi. 南 2 号館付近の出入り口の対応の改善 (同意見数 4 件)
 - ▶ 東側の門のところが通過できなくて不便。
 - ▶ 大岡山キャンパス東側の小門が、近隣住人のためだけに解放されているという状態は根拠として不可解であり、完全封鎖、又は完全開放し、費用の掛かる警備員の配置を無くすべきと考えます。
 - ▶ 近隣住民用通路が通れないのが不便。
- xii. セブンイレブンの営業時間の拡大 (同意見数 4 件)
 - ▶ 7-11 の営業時間が短すぎると感じます。
 - ▶ 夏季休業期間中(9 月)でも研究室にいる人のために学内のセブンイレブンを営業してほしいです。
 - ▶ 学内セブンイレブンの営業時間が極めて短いです。休業が多い。利用したい時期、時間帯に営業していません。学生のニーズに応えていないと思います。
- xiii. サークル棟を増設してほしい。 (同意見数 4 件)
 - ▶ 空いている土地にサークル棟を増やして欲しいです。
 - ▶ サークル棟にあいている部室がないと聞くと、調査をしてちゃんとした活動をしていないサークルは部室を没収して必要としているところに渡すべきだと思います。新たなサークルを作るのに色々な条件があるのなら、古いサークルも審査を受けるべきだと思います。一度公認になったら終わりというのではいつまでたっても部屋が空くはずがありません。
 - ▶ サークル棟4の改良をしてほしいです。
- xiv. ものづくりセンターの利用状況の改善 (同意見数 4 件)

8. 自由記述一覧

- ▶ ものづくりセンターの深夜利用
- ▶ ものづくりセンターの利用できる時間を延ばしてほしいです。土日でも利用したいです。
- ▶ ものづくり教育研究支援センターは技術系サークルが毎日利用するだけでなく、研究室所属の学生等が多数利用しています。夏休みは、利用者が多すぎて、作業台が足りない状況になる日もありました。日本一の工業大学として、学生の主体的なものづくり活動が満足に行われるように配慮してください。

xv. 楽器の音がうるさい (同意見数 3 件)

- ▶ 西 9 号館付近で活動している音楽系団体の練習音がうるさく研究活動に集中できないので、なんとかして欲しいです。
- ▶ 70 周年記念講堂横の音楽サークル(JAZZ, オケ)がうるさすぎて、夕方以降ヘッドホンをしないと集中出来ません。

xvi. 書籍の充実 (同意見数 3 件)

- ▶ 東工大内に大きな本屋をつくってほしいです。
- ▶ 大岡山には書店がないのですがどう考えても本学の学生は書店を他の人より利用すると思われるので学内に書店をいれることを検討すべきだと思います。
- ▶ 書籍売場を充実させて欲しいです。

xvii. 仮眠室の設置 (同意見数 3 件)

- ▶ 仮眠ができるスペースがほしいです。
- ▶ 24 時間利用可能な仮眠室があればぜひ利用したいと思います。
- ▶ 学生が自由に利用できる仮眠室

xviii. 近隣住民について (同意見数 3 件)

- ▶ 学外の間がグラウンドに立ち入り遊んでいて、それによりサークルの円滑な活動が妨げられているので、学外の間がグラウンドには入れないようにしてほしいです。
- ▶ お昼時(11:30-13:30)の学外の間、特に近隣住民の食堂・セブンイレブンの利用を制限してほしいです。
- ▶ 本学学生ではない人のグラウンド使用を取り締まってほしいです。

xix. 大学の開放時間延長 (同意見数 3 件)

- ▶ もっと長い時間大学を開放して欲しいです。
- ▶ 本館の夜間の施錠時刻を遅らせてほしいです。
- ▶ さまざまな施設の利用時間が短いので夜9時まで延ばしてほしいです。

xx. 講義室の開放 (同意見数 3 件)

- ▶ 講義室を開放して欲しいですよろしくお願いします。
- ▶ 休日にサークルが使える教室を増やしてほしいです。
- ▶ 休日のサークルの教室利用を拡大してほしいです。現状は少なすぎます。

IV15. 学内無線 LAN(titech-pubnet)のつながりにくい場所や状況があれば教えてください。(自由記述)

i. 石川台 6 号館(特に 5 階) (同意見数 8 件)

- ▶ 石川台 6 号館は全体的に titech-pubnet がつながりにくく、310 は全くつながりません。つながっているときは速いと思うのですが、前ぶれなく突然切れる事があるのでちょっと不便です。あと、石川台 6 号館 3F の共有ゼミ室?(304?)でつながりにくいです。

ii. 本館 (同意見数 43 件)

- ▶ 学食ではほぼつながりません。
- ▶ 本館の南地区側がつながりにくいです。
- ▶ 本館地下、西の建物の一階

- iii. 西 3 号館 (同意見数 14 件)
 - ▶ 西 2, 3号館の二階より下。外に出れば繋がる。
 - ▶ 西 2, 3 号館の上の方の教室、4 階より上に行くと電波が届かない。
- iv. 南 5 号館 (同意見数 23 件)
 - ▶ 南 5 号館のリフレッシュルームでは、titech-pubnet が全くつながりません。
 - ▶ 南講義棟 南 5 号館の学生室 また南 5 号館全域がケータイの電波が入りにくいです。
- v. 南 1 号館 (同意見数 8 件)
- vi. サークル棟 (同意見数 18 件)
 - ▶ サークル棟 4 の 3 階がつながっても速度がでない、どこかの部活が回線を独占しているのではないですか？
 - ▶ サークル棟4は常日頃、つながることにはつながるが切れやすく、また電波状況もよくないです。
 - ▶ サークル棟3内部
- vii. ものづくりセンター (同意見数 5 件)
- viii. 南 8 号館 (同意見数 17 件)
- ix. 南 3 号館 (同意見数 25 件)
 - ▶ 南 3 号館リフレッシュルームからは非常に繋がりにくい。
 - ▶ 南 3 号館全般がつながりにくいです。Windows8 や Chrome iPad では接続不可能です。
- x. 西 8 号館 (同意見数 9 件)
 - ▶ 西八号館のグラウンド側
 - ▶ 西8号館3階の講義室は無線 LAN の設備はあるが、授業の内容上多くの学生が一度に使用するため、接続が不安定になってしまいます。
- xi. 西 2 号館 (同意見数 10 件)
 - ▶ 英語をやっているラボ 3, 4 では無線LANが通じません。
 - ▶ 西 2, 3 号館の上の方の教室、4 階より上に行くと電波が届かないです。
 - ▶ 大岡山西二号館地下
- xii. 西 9 号館 (同意見数 7 件)
 - ▶ 2013 年に試した限りでは、西 9 号館の上の階は繋がりにくいです。
 - ▶ W9-202 で、通信が途切れることが多々あります。 広範囲で使いたいです。
- xiii. すずかけ台 J2 棟 (同意見数 13 件)
 - ▶ J2・3 棟の高層階では接続できないので、ラウンジではネットワークが使えません。
- xiv. すずかけ台 G1 棟 (同意見数 10 件)
 - ▶ G1 棟の一階、教室使用中にフリースペースで使用すると、遅いです。
- xv. 機械宇宙学科の建物 (同意見数 5 件)
 - ▶ 石川台 1 号館 5 階機械宇宙学科学生室 常時繋がりにくいです。
- xvi. 緑が丘 1 号館 (同意見数 6 件)
 - ▶ 緑が丘 1 号館 4 階が極めてつながりにくいです。改善してほしいです。
- xvii. 図書館 (同意見数 10 件)
 - ▶ チーズケーキの中がややつながりにくい。
 - ▶ 図書館(特に地下)

8. 自由記述一覧

- xviii. すずかけJ1 (同意見数 5 件)
▶ J1 棟の高層階ではつながりません。
- xix. すずかけ台G3 (同意見数 6 件)
▶ すずかけ台 G 地区
▶ G3 棟の 1 階(教室・ラウンジ含め)
- xx. プロキシ設定(LINE) (同意見数 16 件)
▶ 学内無線 LAN から Rレポジトリーである CRAN からパッケージをインストールするためのプロクシー等の設定方法がいまだによく分からず困っています。
▶ proxy の設定をしても, LAN 接続後スムーズにログイン画面に移行しないことがあります。
- xxi. 遅い (同意見数 8 件)
▶ つながりますが速度が非常に遅くほとんど使えないです。
▶ i Pad mini では繋がるスピードが非常に遅いか繋がらないです。
▶ 繋がっても遅すぎますので、携帯の方が早いです。
- xxii. つながりにくい(特にスマホ、特定のばパソコン、mac) (同意見数 36 件)
▶ iPhone で繋ごうとするとうまくいきません。
▶ I have had my access cancelled automatically for no reason and cannot reconnect. Also have lots of friends in the same situation. The system should be reviewed.
▶ ほとんどの状況で、スマホで心地よくつながったことがないです。
- xxiii. 使い方がわからない (同意見数 7 件)
▶ 基本的に設定が分かりにくく、繋ぐことが出来ません。
▶ Need user manual to use the portal in English. Easy access to internet after successfully connected to titech-pubnet (wifi) by redirection to login page.

V1(a). 課外活動施設で使用したことがあるものをお答えください。(その他自由記述)

- i. 西 9 号館 1 階の音楽練習室 (同意見数 4 件)
- ii. 講堂 (同意見数 6 件)

V2(a). スポーツ設備で使用したことがあるものをお答えください。(その他自由記述)

- i. 大岡山弓道場 (同意見数 4 件)

V8. 学内の施設に関するの意見をご自由にお書きください。(自由記述)

- i. 食堂が高い (同意見数 8 件)
▶ 学食に 500 円以下でお腹が膨れるメニューを増やして欲しいです。
▶ 学食は、一般的な値段と量だが、学食としては高いです。日大船橋キャンパスは全ての定食が 400 円で量も多くかなり充実していました。また、営業時間を早朝から開始して、朝食の提供もして欲しいです(できれば 100 円朝定食)
▶ すずかけ台内、シダックスの料理やお酒の価格を下げてください。
- ii. 食堂の席少ない、混雑 (同意見数 15 件)

- ▶ 食堂内の席を増やしてほしいです。
 - ▶ I think that the cafeterias are too small or less compared with the number of student.
 - ▶ It needs more refresh rooms and larger cafeteria.
- iii. 土日祝日に食堂あけてほしい・営業時間の拡大 (同意見数 5 件)
- ▶ 土日祝日に学食を開いて欲しいです。
 - ▶ また、第一食堂の営業時間を長くしてほしいです。
 - ▶ 学食を朝食が食べられるように 7 時ごろから開けてほしいです。
- iv. 生協の分店を作ってほしい・拡大・大学生協を充実してほしい(総合大学的な感じに) (同意見数 14 件)
- ▶ 緑が丘に建築の模型材料中心の店舗を置いてほしいです。雨に弱いものが多く、現在困っています。製図道具・模型材料の品揃えもイマイチです。
 - ▶ 緑が丘の学内にコンビニや画材を販売してくれる生協等を設置して欲しいです。
 - ▶ 大岡山地区以外にも学食などの生協の施設が欲しい。
- v. 5. セブンイレブン休みの日が多い (同意見数 19 件)
- ▶ 営業形態に関して利害関係が絡みすぎていて必要時に開店していません。
 - ▶ 夏休み(8 月下旬)期間、セブンイレブンが開いていないのは研究生活で不便でした。
- vi. トレーニングセンター狭い。運動施設の拡張(グラウンドナイター使用も含む)。トレーニングルームの器具の修理。(同意見数 12 件)
- ▶ トレーニングルームと学内プールの利用時間拡張。土曜日の混雑がすごいため。
 - ▶ トレーニングルームの充実(壊れた時などなかなか直らないのが不満)
 - ▶ グラウンドにナイター施設を作ってほしいです。
- vii. 食事場所の増加(フードコート、カフェ、生協に限らず) (同意見数 20 件)
- ▶ 大学周辺に食事を取れる場所がほぼ無いので、何でもいいので、増やしてほしいです。
 - ▶ 大阪大学のように学食に大阪王将があるといったように複数の企業を入れて欲しいです。
 - ▶ カフェを増やして欲しいです。エクセルシオールか学食しか学内に無いです。
- viii. 南・石川台地区(大岡山地区以外)に食堂 (同意見数 25 件)
- ▶ 緑が丘地区から学食が遠いので、コンビニやレストランなどを設置してほしいです。
 - ▶ 石川台地区にいる人はわざわざ大岡山地区へと行くのが遠く、生協、学食などを利用しにくいです。石川台地区にも生協、コンビニ、学食などをつくってほしいです。
- ix. 本屋(書籍の増加)。 (同意見数 22 件)
- ▶ 東大書籍部のような規模の大きい書店が欲しいです。
 - ▶ 書籍の圧倒的少なさは大学としてもよろしくないと思います。とくに大岡山近辺に大型の書店もなく、専門書、洋書も手に入れづらいです。
 - ▶ 本屋を充実させてほしい。近場に大きな本屋もないため、学内に大きな本屋がほしいです。
- x. リフレッシュルーム&自習室(特に 24 時間使える場所)講義室の利用。(同意見数 31 件)
- ▶ 活動や話しながら作業したいときに使えるスペースが西 9 号館の渡り廊下くらいしか使えるところがなくて不満です。もっとこういった自由スペースを作ってほしいです。
 - ▶ リフレッシュルームを含め、学生の活動場所を各地区に設置してほしいです。
 - ▶ 非公認サークルでも活動できる場所がほしいです。(講義室を予約して使うことができないので外部の有料施設を使っています。)
- xi. ロッカー(1 年生にも、使える時間の拡張)。 (同意見数 6 件)
- ▶ ロッカーの使用時間帯の制約が大きすぎるのでその時間の幅を増やしてほしいです。
 - ▶ ロッカーが欲しい。学科に所属してない一年生にも個人用ロッカーを用意して欲しいです

8. 自由記述一覧

- ▶ 学科によって個人ロッカーがあるのは不平等だから全学生に設置して欲しいです。
- xii. 自転車置き場(場所も含めて)増加、駐輪マナーの改善 (同意見数 27 件)
 - ▶ 講義棟・研究棟に、講義室の数や研究室の数に応じて駐輪場を作って欲しいです。
 - ▶ 駐輪したいところに駐輪場がないことが問題なんだと思います。
 - ▶ G1 棟横の駐輪スペースに自転車が収容しきれず、入口周辺に駐輪しているために通行の邪魔となっています。付近の駐輪スペース拡張等の対策を行った後、通行の邪魔にならないよう周知するか撤去などの対策を講じてほしいです。
- xiii. 大岡山のテニスコートを使えるようにしてほしい (同意見数 5 件)
 - ▶ 大岡山のテニスコートの開放期間を夏休み以外の休暇期間にも作ってほしいです。
 - ▶ テニスコートをもっと一般開放してほしいです。
 - ▶ テニス部と体育でしか使用できなく、よく空いているので、一般開放をしてほしいです。
- xiv. すずかけ台にプールがほしい (同意見数 5 件)
 - ▶ すずかけ台にもプールがほしいです。
- xv. 体育館が足りない。 (同意見数 11 件)
 - ▶ 現在の体育館をいくつかのサークルで取り合う状態なのがおかしいと思います
 - ▶ すずかけ台キャンパス内に体育館がありません。ジムなどのトレーニング施設と体育館での運動は似て非なるものだと思います。
 - ▶ 大岡山体育館の部活・サークル以外の活動利用枠を確保してほしい。(特に土日)
- xvi. 駐輪場に雨よけをつけてほしい (同意見数 8 件)
 - ▶ 駐輪スペースに雨よけをつけてほしいです。
 - ▶ 駐輪場名乗るなら屋根つけるとか、スタンドなくても止められるようにするなどしてほしいです。現状は空いたスペースを適当に駐輪場に指定しているだけだと思います。
 - ▶ ウッドデッキ横の駐輪場に屋根を付けてほしい。秋に銀杏が落ちてきて困ります。
- xvii. サークル棟のトイレ(汚い、ティッシュない、壊れたまま) (同意見数 10 件)
 - ▶ サークル棟 4 の 1Fにあるトイレが清掃されていなかったりトイレトペーパーが補充されない状況があります。月曜日にゴミの収集がないため学内のゴミ箱が溢れています。
 - ▶ サークル棟の一部のトイレに 使用できない個室があり、長い間放置されています。
- xviii. セブンの品ぞろえが悪い (同意見数 6 件)
 - ▶ 昼過ぎに行くとコンビニの商品が売り切れていて食べるものがない状況が多いです。セブンイレブンにお昼を過ぎてからの仕入れをしてほしいです。お昼すぎには食べ物ほぼなく、夜には何もなくなっています。
 - ▶ コンビニが、金曜日や長期休暇前に、品ぞろえが悪くなるのが、大変不満です。
- xix. すずかけ台の食事レパートリー(売店、お店) (同意見数 15 件)
 - ▶ 平日夜 9 時以降や、土日の日中にすずかけ台キャンパスにいと何も食べ物が手に入らないので、なんでも良いから食べられるものを売ってほしいです
 - ▶ すずかけ台キャンパスの食事の幅を広げてほしいです。 G エリアにもなにか軽食を。
 - ▶ なんでもいいのですずずかけ台での食事の選択肢が増えてほしいです。
- xx. すずかけ台のテニスコート使用について (同意見数 6 件)
 - ▶ すずかけのテニスコートのナイターを以前のように使わせてほしいです。(ルールを作って、予約制で) すずかけ台の蜂対策は早くしてほしいです。(使えない期間が長いと、勝手に使ったりして違反する人も増えると思います。)
 - ▶ 年々学部生に厳しくなっています。照明も昔は使っていたのに現在では学部生のみでは使えなくなっています。大岡山に至っては、サークル所属の人では借りられません。

▶ すずかけ台キャンパスのテニスコートをナイターや土日祝日に学部生でも借りられるようにしてほしいです。

xxi. サークル棟と人数(活動)比率の不一致 (同意見数 6 件)

- ▶ 部員の人数、その部活の活動実績・活動実態、その部活の部室の利用頻度もろもろを考慮して部室が割り当てられてないせいでものすごく不自由です
- ▶ 講堂横のサークル棟1階(ロスガラ, ジャズ研など4団体)と2階(管弦)で、一団体あたりの占有面積に差があります。

xxii. お祈りする部屋、モスク (同意見 20 件)

- ▶ J2・J3 合同棟の 20 階(最上階)の共用スペースがムスリムに占拠され溜まり場のようになりつつあります。礼拝を行うのであれば空き教室を礼拝室として割り当てるなど、ムスリム以外の迷惑にならないようにしていただきたいです。
- ▶ I really hope that Tokyo Tech can give spaces for muslims to pray.
- ▶ イスラム宗教の東工大生がたくさんいますので(100 人以上)、礼拝室を作っていただけませんか？

xxiii. 本館のトイレをきれいにしてほしい (同意見 7 件)

- ▶ 本館の一部のトイレを綺麗にして欲しいです。
- ▶ 本館の南側にトイレを設置して欲しいです。 本館 3F のトイレを早く直して欲しいです。

xxiv. シャワールームを作してほしい。 (同意見 12 件)

- ▶ 新しい棟にだけシャワー室があるのは不公平だと思います。
- ▶ 24 時間使えるシャワー室はあってほしいです。
- ▶ 西 8 にシャワールームを作してほしい。

IV13(b). 附属図書館の利用の主なものにマークして下さい。(その他自由記述)

i. 新聞 (同意見数 5 件)

ii. トイレ (同意見数 5 件)

IV13(c). 附属図書館に充実させてほしい資料はどのようなものですか。(その他自由記述)

i. 小説、文学 (同意見数 31 件)

- ▶ 小説等息抜きできる本
- ▶ 小説とか歴史関係の本を充実させてほしい

ii. 英語で書かれた本 (同意見数 7 件)

- ▶ English-written textbooks
- ▶ English newspapers.

iii. 語学関係 (同意見数 5 件)

- ▶ Japanese language learning book (more advanced level not the basic ones) for international students.
- ▶ 語学系問題集

8. 自由記述一覧

IV3(d). 附属図書館に対する要望を自由に記入してください。(自由記述)

- i. 空調 (同意見数 71 件)
- ▶ いつ行ってもあついので空調の管理をどうにかしてほしいです。図書館にも直接問い合わせたのですが、かわらなかつたのでこの機会にどうにか対応して頂きたいです。また、二階と三階は寒いことが多いです。
 - ▶ 夏季、図書スペースは非常に暑く、学習スペースは冷房が効き過ぎて寒いです。
 - ▶ 空調がおかしいです。夏は、外の階段と地下一階入口の間のスペースは非常に涼しいのに、館内に入ると蒸し暑いです。学習スペース(2, 3 階)は冷房が効きすぎて寒いです。
- ii. 開館時間延長 (同意見数 62 件)
- ▶ 海外の大学では、図書室等の学習スペースが 24 時間開館の場合が多いと聞きます。本学の図書館は開くのも閉まるのも早すぎます。朝 9 時から午後 4 時までは、大概授業があるため、利用できません。午後 4 時以降は、勉強する空間が必要となりますが、9 時までしかあいてないなら、学科の教室で遅くまで勉強する人が多いと思います。開館時間の延長、もしくは 24 時間開館が実現できれば、学習環境が非常に良くなると思います。
 - ▶ テスト前ではない普通のときの閉館時間が遅いです。普段から 24 時間閉館などにしてもいいと思います。学部生のときに普段からレポートなどが多かつたり、夕方はバイトなどで夜しか勉強できないといったときに図書館の閉館が早くて不便でした。
 - ▶ 現在休日の開館時間は 17 時であるが、これはいくら何でも早すぎるだろう。(私の知っている中規模の市民図書館でもこんなに早く閉館はしないです。)去年あたりに休日でも 20 時まで開館していた時期がありましたが、高い学費を支払っている身としてはこれくらい頑張りたいと思います。
- iii. 蔵書 (同意見数 60 件)
- ▶ 蔵書の充実(サイエンティフィックなものに限らない。)購読雑誌の種類の充実(結構、重要なジャーナルで読めないのがあるのは勘弁してほしいです。東工大は生命科学系をないがしろにしすぎです。)
 - ▶ 古い本が多すぎて図書館全体がカビ臭いです。長時間居ると気分が悪くなります。古い本はスキャンして電子化した上で処分して欲しいです。すでにポロボロで読めないような本も棚に置いてあります。古い本のカビは新品の本にうつるので、全体の本の品質を劣化させています。どうにかして下さい。
 - ▶ 出版年の新しい本がまったく充実していません。新しい領域での参考書が少ないです。専門的な参考書が少ないです。(広域な導入書が多い) ずずかけと大岡山との蔵書の差が大きいです。
- iv. 電波 (同意見数 5 件)
- ▶ 図書館内はスマートフォンの電波が非常に弱く、PC を持参していないとき、或いは本を探しているときに、学習のときにインターネットでの簡易的な検索が全くできなくて困ります。Titech-pubnet もあるが通信速度も遅く電波も強くなく、また接続できるサイトにも制限があるため、一般のキャリア(docomo, au, softbank)の 3G 及び 4GLTE の回線をもっと繋がりやすくしてほしいです。
- v. 飲食について (同意見数 5 件)
- ▶ 図書館員はカウンターで突っ立っていないで、私語飲食防止のために巡回し、静かな環境づくりに努めてほしいです。またチーズケーキに関しては、私語可なのか不可なのか明記した掲示を作してほしいです。
 - ▶ 館内飲食禁止は大いに構わないが、飲料水の提供装置ぐらいはトイレの近くに欲しいです。
 - ▶ 2階や3階の図書のないスペースに、飲み物が可能な勉強スペースが欲しいです。
- vi. 貸出について (同意見数 13 件)
- ▶ 石川台の研究室に所属しているが、図書館まで遠く、返却や延長に行くのが面倒です。延長は web から何回でも可能にしてほしいです。返却は各地区に返却ポストを設置してほしいです。
 - ▶ 夏休み期間中は 9 月いっぱいまで貸し出し期間を延長しているが、研究室は 8 月・9 月もあるので、そのとき借りたくなった図書の返却を 10 月まで待たなければならず困りました。
 - ▶ キャンパスが広く持ち運びも大変なので、学内便で来てくれたら・・・と思うことはあります。また、棟ごとに自由に本が持ち出せる図書室みたいなものがあればな・・・と思うこともあります。

- vii. 設備 (同意見数 3 件)
- ▶ 一時的でいいので荷物を保管できる場所、ロッカーのようなものでもいいので、が欲しいです。
 - ▶ 消しカスなどを捨てられるようにゴミ箱を学習スペースに設置してほしいです。
- viii. 照明 (同意見数 5 件)
- ▶ 手元の照明が暗いです。また全体の照明もある時間にならないとつかない照明があり不便です。
 - ▶ あと夕方になると二階と三階では照明がつくが、自分の影が机に映ってかえって見にくくなるのでやめてほしいです。
 - ▶ 全体的に暗いです。また、天井に設置されている照明の位置が悪く、手の影が邪魔になります。
- ix. コピー機 (同意見数 3 件)
- ▶ コピー機を設置してほしいとの意見をよく聞きます。
- x. PC (同意見数 3 件)
- ▶ 学習スペースの PC でも印刷ができると助かります。
 - ▶ PC の台数を増やしてほしいです。地下のスペースにも置いてほしいです。
- xi. すずかけ台 (同意見数 3 件)
- ▶ すずかけ台図書館の場所が遠いです。返却ポストをラウンジ等においてほしいです。
 - ▶ すずかけ台の図書館は大岡山に比べて自主学習が非常にしにくい環境となっています。
 - ▶ Improvement of library on Suzukakedai campus.
- xii. 自習スペース (同意見数 5 件)
- ▶ 学習スペースの席を間仕切りして欲しいです。席の数を増やして欲しいです。
 - ▶ 自習室の席で、他の学生との距離が近いので、仕切りか何かを設けるといいと思います。
 - ▶ 出来れば簡易な仕切りのある自習スペースが欲しいです。
- xiii. いす (同意見数 4 件)
- ▶ Chairs' legs are very noisy when they are dragged in and out.
 - ▶ 椅子が硬いです
 - ▶ 座面がやわらかい椅子を増やしてほしいです。
- xiv. 構造 (同意見数 6 件)
- ▶ デザインを重視しすぎて所々問題がありそうな建造物だな、というのが第一印象です。例えば、二、三階の自習室では柱が邪魔でブラインドが下がらない窓があるけど、太陽が射してるとまぶしくて勉強できないから使用されない席ができています。
 - ▶ 図書館横の階段を上ったところから蔵前会館まで続く陸橋が作られる予定らしいが、今その計画はどうなっているのでしょうか。作るなら作って欲しいです。また、旧図書館跡地は今後どのように利用されるのでしょうか。
 - ▶ もっと素直な力学的構造でよかったのではないのでしょうか。
- xv. 駐輪場 (同意見数 3 件)
- ▶ すぐとなりに自転車置場を設置してほしいです。
 - ▶ 図書館近くに駐輪場がほしいです。
 - ▶ 駐輪場があると便利です。
- xvi. 卒業生 (同意見数 3 件)
- ▶ 本学の卒業生にも、毎回の申請書なしに入館できる入館パスを作ってほしいです。仕事先の図書室にない本もあると思うので。
 - ▶ 卒業生にも図書館を開放して欲しいです

8. 自由記述一覧

- xvii. アナウンス (同意見数 3 件)
- ▶ 閉館のアナウンスが唐突に流れてドキッとするので間にワンクッションおいてほしいです。
 - ▶ Whenever there is an announcement in library, it is made in both Japanese and English. However, the Japanese announcement is more detailed compared to the English one. Both the announcements should have the same content.
- xviii. 手続き (同意見数 3 件)
- ▶ 学術文献, 学術雑誌の充実および手続き書類の簡略化(手書きではなくデータ入力可能な手続き書類を作成して欲しいです)
 - ▶ 大学院生は研究が主な目的なので、外部の書籍コピーは自己負担・教員負担のままでは面倒くさいと思って利用しない可能性が高いのです。他大学のように、修士課程以上の学生雅楽外の書籍コピーを依頼する場合、その費用は大学が負担してくれると非常にありがたいと思います。
 - ▶ 貸出履歴をオンラインで過去 1 年分しか見られなかったので、入学以来の全ての履歴を閲覧できるようにしていただきたいです。
- xix. 検索 (同意見数 3 件)
- ▶ 検索した本を探そうにも、範囲が広すぎて見つけるのに非常に時間がかかります。もっと細かく分類し範囲をせばめるか、同じキャンパスでも予約して探してもらえるようにしてほしいです。あと、洋書と和書を混合すると、なおさら見つけにくいです。
 - ▶ I am not much aware about the online services provided by the library.
 - ▶ 書籍情報(問い合わせに満足するような本がそもそも存在するかなど)を十分に検索できないので、館内のパソコンで Amazon にもアクセスできるようにしてほしいです。
- xx. サービス (同意見数 3 件)
- ▶ Access online journal while your home is absolutely cool! my husband from Tsukuba University somehow feel jealous about it. :)
 - ▶ 推薦図書紹介を、一般教養書だけでなく専門書などにも広げてほしいです。
 - ▶ サークルのラッパがうるさすぎて自習に利用できない。学校全体として改善に取り組んで欲しいです。

V3(d). (食堂の)メニューについてどう思いますか。該当するものにマークしてください。(その他自由記述)

- i. どんぶり、ご飯のサイズについて (同意見 5 件)
- ▶ サイズが選べない丼がありますが、選べるようにしてほしいです。
 - ▶ 少ない量のを充実してほしいです。
 - ▶ ライスの量を多くしてほしいです。
- ii. メニューの味について (同意見 4 件)
- ▶ どのメニューも基本的に味が濃いと思います。
 - ▶ 塩分控えめのメニューが欲しいです。
- iii. 各メニューについて
- ▶ タコライス定番メニューにしてほしいです。 (同意見 3 件)
 - ▶ 魚を使ったメニューがほしいです。 (同意見 3 件)
 - ▶ 韓国料理をもっと辛くしてほしいです。 (同意見 2 件)
 - ▶ 和食メニューを増やしてほしいです。 (同意見 2 件)

V4(d). (弁当の)メニューについてどう思いますか。該当するものにマークしてください。(その他自由記述)

- i. 限定メニューについて (同意見 2 件)
- ▶ 季節のメニューがあつたらいいです。
 - ▶ いつも同じようなものが並んでいるので週替わりの弁当がほしいです。

謝辞

本提言書作成に際して、下記の方々および、学勢調査に回答していただいた 1793 名の本学学生に、厚くお礼申し上げます。

学長 三島 良直 先生

教育運営担当副学長 水本 哲弥 先生

外国語研究教育センター 御中

学務部 学生支援課 御中

学務部 教務課 御中

学務部 教育改革事務室 御中

研究推進部 情報図書館課 御中

研究推進部 情報基盤課 御中

国際部 留学生交流課 御中

財務部 主計課 御中

すずかけ台地区事務部 学部課 御中

総務部 広報・社会連携課 御中

総務部 人事課 御中

総務部 総務課 御中

東京工業大学生協本部 御中

学勢調査 2014 スタッフ

代表	工学部	無機材料工学科	学部3年 望月 泰英
----	-----	---------	------------

顧問総括	理学部	化学科	学部4年 金江 相来
------	-----	-----	------------

学習班

班長	工学部	機械知能システム学科	学部2年 シン ドン Chol
----	-----	------------	-----------------

班員	工学部	機械科学科	学部4年 永田 彩乃
----	-----	-------	------------

班員	工学部	社会工学科	学部3年 磯部 宇彰
----	-----	-------	------------

班員	工学部	経営システム工学科	学部3年 イ ソンフン
----	-----	-----------	-------------

顧問	理工学研究科	機械宇宙システム専攻	修士2年 松井 孝太郎
----	--------	------------	-------------

サービス班

班長	工学部	電気電子工学科	学部3年 飯塚 健太
----	-----	---------	------------

班員	理工学研究科	物性物理学専攻	修士2年 岡本 明大
----	--------	---------	------------

班員	1類		学部1年 児島 佑樹
----	----	--	------------

顧問	総合理工学研究科	知能システム科学専攻	修士1年 中嶋 涉
----	----------	------------	-----------

施設班

班 長	工学部	高分子工学科	学部 2 年 栗林 純平
班 員	理学部	物理学科	学部 3 年 奥山 裕磨
班 員	7 類		学部 1 年 紺野 隆志
顧 問	理工学研究科	地球惑星科学専攻	修士 1 年 鏡味 沙耶

データ班

班 長	工学部	情報工学科	学部 4 年 植田 聖司
班 員	総合理工学研究科	環境理工学創造専攻	修士 1 年 曾 妍
班 員	工学部	情報工学科	学部 3 年 中野 真明貴

デザイン班

班 員	工学部	機械科学科	学部 4 年 永田 彩乃
班 員	工学部	機械科学科	学部 3 年 ガーワル ロビン

学勢調査 2014 WG 教職員スタッフ

理工学研究科	機械物理工学専攻	教授	岩附 信行 (主査)
総合理工学研究科	創造エネルギー専攻	教授	岡村 哲至
保健管理センター		教授	齊藤 憲司
理工学研究科	材料工学専攻	教授	篠崎 和夫
社会理工学研究科	人間行動システム専攻	教授	西原 明法
総合理工学研究科	創造エネルギー専攻	准教授	長谷川 純
学生支援センター		特任准教授	山田 恵美子
学生支援課		課長	青木 彰
学生支援課	支援企画グループ	グループ長	松永 修
学生支援課	支援企画グループ		妹尾 雅俊
自律支援部門室		事務	小森 友紀子



東京工業大学
学勢調査 2014 提言書

2015 年 3 月
学勢調査スタッフ一同